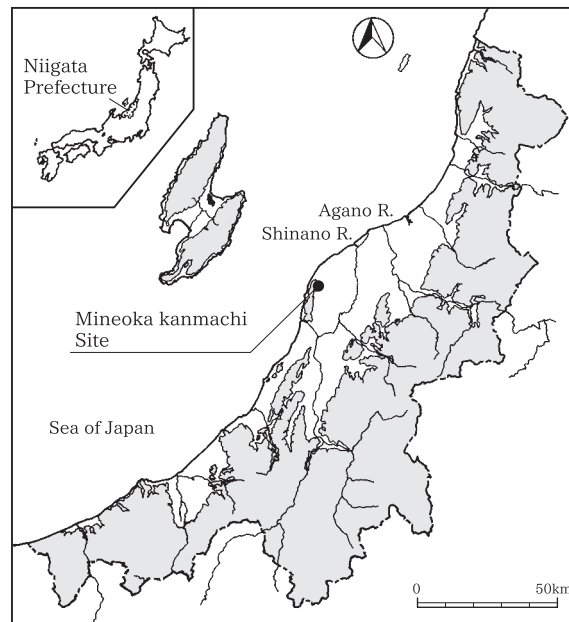


みね おか かん まち
峰岡上町遺跡 第3次調査

— 国道460号線改良工事に伴う峰岡上町遺跡第3次発掘調査報告書 —



2015

新潟市教育委員会

例 言

- 1 本書は新潟市西蒲区^{にしかんく みねおか}峰岡に所在する^{みねおかかんまち}峰岡上町遺跡第3次発掘調査の記録である。
- 2 調査は国道460号線改良工事に伴うもので、新潟市土木部西部土木事務所の依頼に基づき行った。
- 3 調査は新潟市教育委員会が主体となり、新潟市文化スポーツ部文化財センターが補助執行した。
- 4 平成25年度に発掘調査・整理作業、平成26年度・27年度に整理作業・報告書作成を行った。発掘調査と整理作業の体制は、第Ⅲ章のとおりである。
- 5 出土遺物および、発掘調査・整理作業にかかる記録類は、一括して新潟市文化財センターが保管している。
- 6 本書の作成は、前山精明（新潟市文化財センター）が担当した。
- 7 自然科学分析はパリノ・サーヴェイ株式会社に分析・執筆を委託した。
- 8 本書の執筆は、第Ⅵ章2～5節がパリノ・サーヴェイ株式会社、これ以外が前山である。
- 9 Ⅵ章2～5節は前山が編集した。
- 10 遺物の実測は、五十嵐勝志・内藤正義（新潟市文化財センター臨時職員）の協力を得て前山が行った。
- 11 写真撮影は、五十嵐勝志・内藤正義（新潟市文化財センター臨時職員）の協力を得て前山が行った。
- 12 陶磁器類の実測図版のうち、染付の作画については、主として撮影写真をもとに有限会社不二出版が作成した
- 13 縄文・弥生時代の遺物、土製品・石製品・金属製品・木製品のトレースは前山が行った。
- 14 土器の胎土に含まれる赤色含有物について、三ツ井朋子氏からご教示いただいた。
- 15 古代土器について、春日真実氏・笹沢正史氏からご教示いただいた。
- 16 近世陶磁器について、大橋康二・渡邊ますみ・安藤正美・竹部佑介・能芝勉氏から御教示いただいた。
- 17 涼炉とその関連遺物について中尾宗禮氏から御教示いただいた。
- 18 近世三根山藩関連記録遺物について、亀井巧氏から御教示いただいた。
- 19 煙管の位置づけにあたり、斎藤優介氏から御教示いただいた。
- 20 調査から本書作成までの間に、下記の方々と機関から御教示、御協力を賜った。ここに記して厚くお礼申し上げます。
相沢 央・相羽重徳・穴沢義光・安藤正美・伊藤秀和・大橋康二・春日真実・亀井 功・斎藤優介・笹沢正史・
佐藤洋一郎・竹部佑介・辻本崇夫・寺崎裕助・鶴巻康志・土橋由理子・能芝 勉・藤巻正信・細井佳弘・槇田善衛・
三ツ井朋子・渡邊ますみ・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団・福井自治会・巻郷土資料館・峰岡自治会
(所属・敬称略、五十音順)

凡 例

- 1 本書は本文・別表と巻末図版（図面図版・写真図版）からなる。
- 2 本書で示す方位はすべて真北である。
- 3 掲載図面のうち、既存の地形図等を使用した場合は図面の作成者・作成年を示した。
- 4 本書で示す層序柱状図は、壁面全域で図化した 20 分の 1 層序図をもとに作成した。
- 5 重複した畝状遺構の平面図については、遺構探査時に便宜的に印した図化ラインをそのまま提示した。前後関係を表すものではない。
- 6 畝状遺構の番号は、平面図の検討をつうじ把握できた畠を単位とし、西から順に通し番号を付した。
- 7 畝状遺構以外については、発掘調査時に付した遺構番号を使用し、種別の番号化は行わなかった。
- 8 土層および遺物の土色は『新版 標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局 1976）を用いて、その記号を掲載した。色調が場所によって異なる場合は、中心となる 2 色のみを示した。
- 9 陶磁器類の色調については、破面または無釉面のあり方に基づく。

目 次

第I章 序 章

第1節 遺跡概観	1
第2節 発掘調査に至る経緯	1

第II章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境	2
A 弥彦・角田山塊	2
B 新潟砂丘	2
C 沖積低地	5
第2節 周辺の遺跡	5
A 縄文時代	5
B 弥生・古墳時代	6
C 古 代	9
第3節 近世三根山藩と松郷屋焼	12

第III章 調査の概要

第1節 試掘・確認調査	15
A 第1次調査	15
B 第2次調査	15
第2節 発掘調査(第3次調査)	15
A 調査方法	15
B 調査経過	18
C 調査体制	20
第3節 整理作業	20
A 整理方法	20
B 整理経過	21
C 整理体制	21

第IV章 遺 跡

第1節 概 要	22
第2節 微地形と層序	22
A 1 区	22
B 2 区	23
第3節 遺 構	26
A 概 要	26
B 遺構の区分	26
C 遺構各説	28

第V章 遺 物

第1節 概 要	47
第2節 縄文・弥生時代の遺物	47
A 縄文土器	47
B 石 器	48
第3節 古代の遺物	49
A 土 器	49
B 土 製 品	60
C 石 製 品	60
D 鍛冶関連遺物	61
E 搬 入 礫	61
F 植物遺体	62
第4節 近世以降の遺物	62
A 陶磁器類	62
B 土 製 品	66
C 石 製 品	67
D 金属製品	68
E 木 製 品	68

第VI章 自然科学分析

第1節 概 要	69
第2節 年代測定	70
第3節 古環境復元	72
第4節 炭化材の樹種同定	83
第5節 畠土壌の植物珪酸体分析	85

第VII章 総 括

第1節 丘陵上の古代遺跡	87
第2節 古代の畠跡	89
第3節 古代の樹木利用	92
第4節 胎土からみた古代の土器と土製品	94
第5節 近世三根山藩の考古学資料	99

引用参考文献	101
--------------	-----

別 表	103
-----------	-----

報告書抄録・奥付	巻末
----------------	----

挿図目次

第 1 図	峰岡上町遺跡周辺の地形	3	第 19 図	暦年校正曲線図	71
第 2 図	角田山東麓丘陵の地形	4	第 20 図	珪藻化石・植物珪酸体顕微鏡写真	74
第 3 図	遺跡数と立地の変遷	6	第 21 図	主要珪藻化石群集の層位分布	75
第 4 図	縄文時代遺跡の分布	7	第 22 図	花粉化石群集の層位分布	76
第 5 図	弥生・古墳時代遺跡の分布	8	第 23 図	花粉化石顕微鏡写真	77
第 6 図	古代遺跡の分布	11	第 24 図	2 区IV層の植物珪酸体出現率	77
第 7 図	近世三根山藩と松郷屋焼	13	第 25 図	種実遺体顕微鏡写真	79
第 8 図	試掘・確認調査地	16	第 26 図	種実遺体群集の変遷	80
第 9 図	第 3 次調査風景	19	第 27 図	炭化材顕微鏡写真	84
第 10 図	層位別にみた 2 区の主要土器	25	第 28 図	1 区畠跡の植物珪酸体含量	86
第 11 図	ピットの区分	27	第 29 図	峰岡上町遺跡と周辺遺跡の土器組成	88
第 12 図	土坑の区分	27	第 30 図	掘立柱建物・焼土坑(斜線)と畠跡の分布	90
第 13 図	畝状遺構の区分	27	第 31 図	越後平野南部における古代遺跡の利用樹木	93
第 14 図	ピットのサイズ分布	30	第 32 図	土師器・須恵器の胎土構成	95
第 15 図	畝状遺構における条の長さ	36	第 33 図	越後平野周辺における川砂の砂粒構成	96
第 16 図	古代土器分類図	50	第 34 図	土器顕微鏡写真	97
第 17 図	古代の炭化物	62	第 35 図	須恵器の産地別構成	98
第 18 図	分析試料の採取地	69	第 36 図	近世三根山藩と記銘陶磁器	100

表目次

第 1 表	縄文時代遺跡一覧	6	第 7 表	花粉分析結果	76
第 2 表	弥生・古墳時代遺跡一覧	9	第 8 表	2 区IV層の植物珪酸体含量	77
第 3 表	古代遺跡一覧	10	第 9 表	種実同定結果	78
第 4 表	放射性炭素年代測定結果	71	第 10 表	主な種実遺体の計測値	79
第 5 表	珪藻分析結果表(1)	73	第 11 表	樹種同定結果	84
第 6 表	珪藻分析結果表(2)	74	第 12 表	1 区畠跡の植物珪酸体含量	86

別表目次

別表 1	縄文時代の遺構計測表	103	別表 10	縄文土器観察表	113
別表 2	古代の掘立柱建物計測表	103	別表 11	縄文・弥生時代石器観察表	113
別表 3	古代のピット計測表	104	別表 12	古代土器観察表	113
別表 4	古代の土坑計測表	110	別表 13	古代の土製品・石製品・鍛冶関連遺物観察表	119
別表 5	古代の焼土坑計測表	110	別表 14	近世陶磁器観察表	119
別表 6	古代の焼土廃棄遺構計測表	111	別表 15	近世～近代の土製品・石製品・金属製品 観察表	121
別表 7	古代の性格不明遺構計測表	111	別表 16	近世木製品観察表	121
別表 8	古代の畠跡計測表	111			
別表 9	近世遺構計測表	112			

図版目次

図版 1	遺跡位置図(1/20,000)	図版 6	1 区遺構全体図
図版 2	グリッド設定図(1/2,500)	図版 7	1a 区の遺構
図版 3	1 区の地形区分と層序柱状図	図版 8	1a 区・1b 区の遺構
図版 4	1 区南壁層序図	図版 9	1b 区・1c 区西部の遺構
図版 5	2 区平面・層序図	図版 10	1c 区中央部の遺構

- 図版 11 1c 区東部の遺構
 図版 12 1c 区北部の遺構
 図版 13 1c 区南部の遺構
 図版 14 縄文時代の遺構と古代の掘立柱建物・ピット 1 類の分布
 図版 15 古代のピット 2 類・焼土坑・焼土廃棄遺構・土坑の分布
 図版 16 1c 区東部Ⅱ層内の古代遺構 (1)
 図版 17 1c 区東部Ⅱ層内の古代遺構 (2)
 図版 18 掘立柱建物 SB516 (1)
 図版 19 掘立柱建物 SB516 (2)
 図版 20 掘立柱建物 SB621 (1)
 図版 21 掘立柱建物 SB621 (2)
 図版 22 掘立柱建物 SB622
 図版 23 1a 区・1b 区のピット
 図版 24 1c 区のピット (1)
 図版 25 1c 区のピット (2)
 図版 26 1c 区の土坑
 図版 27 焼土坑 (1)
 図版 28 焼土坑 (2)・焼土廃棄遺構
 図版 29 1c 区の性格不明遺構
 図版 30 畝状遺構全体図
 図版 31 畝状遺構区分図
 図版 32 畝状遺構と現代の畠断面
 図版 33 畝状遺構 A～C 群
 図版 34 1b 区・1c 区の畝状遺構
 図版 35 畝状遺構 D 群・E 群
 図版 36 1c 区の畝状遺構
 図版 37 畝状遺構 E 群・F 群
 図版 38 畝状遺構 F 群・G 群
 図版 39 畝状遺構 H 群
 図版 40 畝状遺構と掘立柱建物
 図版 41 近世の遺構 (1)
 図版 42 近世の遺構 (2)
 図版 43 縄文・弥生時代遺物の分布
 図版 44 縄文土器と縄文・弥生時代の石器
 図版 45 古代遺物の分布 (1)
 図版 46 古代遺物の分布 (2)
 図版 47 古代遺物の分布 (3)
 図版 48 遺構内出土の古代土器 (1)
 図版 49 遺構内出土の古代土器 (2)
 図版 50 I b 区の土器集中
 図版 51 土器集中と周辺出土の土師器・黒色土器
 図版 52 遺構外出土の土師器・黒色土器
 図版 53 遺構外出土の須恵器 (1)
 図版 54 遺構外出土の須恵器 (2)
 図版 55 遺構外出土の須恵器 (3)
 図版 56 古代の土製品・石製品・鍛冶関連遺物
 図版 57 近世陶磁器と窯跡関連資料の分布
 図版 58 近世陶磁器の遺構間接合例と補修資料
 図版 59 SE1 出土の近世陶磁器
 図版 60 SX3 出土の近世陶磁器
 図版 61 SX6・SX290 出土の近世陶磁器
 図版 62 盛土遺構と遺構外出土の近世～近代陶磁器
 図版 63 近世～近代の土製品・石製品・金属製品
 図版 64 SE1 出土の木製品

写真図版目次

- 写真図版 1 上空から見た峰岡丘陵と峰岡上町遺跡
 写真図版 2 上空から見た発掘調査地
 写真図版 3 発掘調査地全景
 写真図版 4 1 区南壁の層序
 写真図版 5 2 区の層序
 写真図版 6 1 区の遺構
 写真図版 7 掘立柱建物 SB516
 写真図版 8 掘立柱建物 SB621
 写真図版 9 掘立柱建物 SB622
 写真図版 10 1c 区のピット 1 類
 写真図版 11 1c 区の土坑
 写真図版 12 焼土坑 FP2・FP9
 写真図版 13 焼土坑 FP333・FP365
 写真図版 14 焼土坑 FP376・FP261
 写真図版 15 焼土廃棄遺構
 写真図版 16 性格不明遺構
 写真図版 17 1 区における古代遺物の出土状況
 写真図版 18 畝状遺構全体写真
 写真図版 19 上空から見た畝状遺構
 写真図版 20 畝状遺構の近景と断面
 写真図版 21 1 区の近世遺構
 写真図版 22 1 区出土の縄文土器と縄文・弥生時代の石器
 写真図版 23 1 区遺構内出土の古代土器 (1)
 写真図版 24 1 区遺構内出土の古代土器 (2)
 写真図版 25 1 区土器集中出土の古代土器
 写真図版 26 1 区遺構外出土の古代土器 (1)
 写真図版 27 1 区遺構外出土の古代土器 (2)
 写真図版 28 1 区遺構外出土の古代土器 (3)
 写真図版 29 1 区遺構外出土の古代土器 (4)
 写真図版 30 土師器・須恵器・土製品の胎土
 写真図版 31 1 区出土の古代遺物
 写真図版 32 1 区 SE1 出土の近世陶磁器
 写真図版 33 1 区 SE1・SX3 出土の近世陶磁器
 写真図版 34 1 区 SX3 出土の近世陶磁器
 写真図版 35 1 区 SE1・SX6・SX290 出土の近世陶磁器
 写真図版 36 1 区 SX6・SX290・盛土遺構出土の近世陶磁器
 写真図版 37 1 区遺構外出土の近世～近代陶磁器
 写真図版 38 1 区・2012 年調査地出土の近世～近代遺物
 写真図版 39 1 区 SE1 出土の木製品

第 I 章 序 章

第 1 節 遺 跡 概 観

新潟市の南西部、角田山の東南麓に位置する峰岡丘陵の一角に峰岡上町遺跡はある。角田山周辺における遺跡調査は上原甲子郎による 1940 年代のフィールドワークによって本格化した。その成果は「弥彦角田山周辺古文化遺跡概観」と題される報文に示され〔上原 1956〕、現在知られる主要遺跡を網羅する内容となっている。しかし本遺跡の存在は示されていない。新潟県教育委員会が 1978 年に実施した西蒲原郡内遺跡分布調査においても本遺跡の確認に至らなかった。

峰岡上町遺跡は国道 460 号線建設予定地で行われた 2007 年の試掘調査で発見された。峰岡丘陵は近世三根山藩が置かれた地であり、文久年間（1860 年代）に大規模な削平が行われた〔佐藤ほか 1973〕。丘陵部の大半は現在宅地と山林に覆われており、こうした諸条件が遺跡発見の遅れにつながった要因と言える。

本遺跡は、巻ゴルフ場に面した丘陵上とこれに接した低地に立地する。角田山東南麓の低丘陵地帯ではその後も大規模な地形改変が進み、明治 33 年～34 年に行われた峰岡丘陵南端での微高地削平、昭和 33 年のゴルフ場建設によって多くの遺跡が主要部分を失った。当時の状況を示す記録は残っておらず、僅かな遺物が現存するのみである。遺跡が位置する峰岡丘陵南部やこれに隣接する現ゴルフ場には、縄文時代草創期の神子柴型石斧や縄文時代後期の土器が採集された御手洗山遺跡〔広井ほか 1990〕と昭和 34～35 年の耕地整理に際し飛鳥～奈良時代の遺物が丘陵下の低地から出土したヤチ遺跡〔山口 1994〕があり、両者との関連性が想定できる状況にあった。

第 2 節 発掘調査に至る経緯

角田山西麓の角海浜地内で東北電力巻原子力発電所の建設計画が 1974 年に公表された。それに伴う道路整備として、峰岡地内南部から福井地内に通じる県道バイパスの建設計画が 1980 年に入り具体化した。これをうけて巻町教育委員会は、峰岡・福井地区の南部に広がる水田地帯全域を対象とした遺跡分布調査を 1982 年 11 月から翌年 3 月にかけて行い、広範囲にわたる遺物の分布状況を把握した〔前山・山口 1986〕。この調査でえられた知見は、1983 年の新谷遺跡〔前山 1994〕、1986 年の豊原遺跡〔小野・前山ほか 1987〕、1991 年・1994 年の御井戸 A 遺跡〔前山 1996b〕、1997 年の御井戸 B 遺跡〔前山・相田 2004〕の発掘調査につながり、区域内に縄文時代前期から古墳時代前期に至る重要遺跡が密集することを明らかにした。その後計画道路は国道 460 号線に変更された。道路予定地は豊原遺跡や御井戸 A・B 遺跡を縦断するルートにあたるとともに、蛭が生息する矢垂川も範囲に含まれることから建設計画の見直しが行われ、舟戸地内から峰岡地内北部に通じる現行の路線が決定された。

2005 年の市町村合併により、埋蔵文化財行政は新潟市に移管され、新たな体制のもとで新ルート内における遺跡調査が行われることになる。この時点において区域内に分布する遺跡は 3 箇所を数える。いずれも実態が不明なことから、舟戸地内から福井地内に至る全長 1.4km の間を対象とした試掘・確認調査を 2007 年 3 月から 4 月にかけて新潟市歴史文化課が実施した。調査によって遺物の存在が確認された地点は 19 箇所へのぼる。このうち峰岡丘陵の北端斜面と直下の水田については新発見の遺跡であることから峰岡上町遺跡と命名され、発掘調査が必要であると判断された。その後の協議に基づき 2013 年 3 月 5 日付で新潟市西部地域土木事務所建設課から本発掘調査依頼書が提出され、2007 年の確認調査によって古代遺跡の存在が明らかになった丘陵斜面と縄文時代遺物が出土した遺跡東部の低地で本調査を行うこととなった。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

越後平野の西縁に日本海に沿って連なる「角田・弥彦山塊」の北端「角田山」の東南麓に峰岡上町遺跡はある。角田山麓の年平均気温は13.3度、暖かさの指数W100度で、現在の潜在植生は冷温帯落葉広葉樹林帯と常緑広葉樹林帯の推移帯にあたる〔長島ほか1976〕。新潟県の中央に位置する角田山の周辺は小雪地帯として知られ、最大積雪量が1mを越える年は稀である。角田山の西南麓は、冬季の季節風が角田山の峰によって遮られる。一年をつうじて沢水が絶えることがなく、良好な居住環境を備えている。

第1図に弥彦・角田山塊を含む東西21km・南北31km範囲における地形を示す。この区域内に展開する地形は、山地・沖積低地・砂丘に大別でき、変化に富んだ環境からなる点に大きな特徴がある。

A 弥彦・角田山塊

第1図のエリア内には、「弥彦・角田山塊」とその南部に続く「西山丘陵」、弥彦山の東方に並走する「矢作丘陵」が含まれる。弥彦・角田山塊は、角田山(481m)・多宝山(633m)・弥彦山(634m)・国上山(313m)を主峰とし、その全長は南北16kmあまりにおよぶ。南部に続く西山丘陵とは人工河川の「大河津分水」によって分断されているが、明治3(1870)年に始まる分水路の掘削以前に「師走川」・「早向川」と呼ばれる小河川が流れ、西山丘陵との境界を示す有意なラインとなっていた〔前山1997〕。

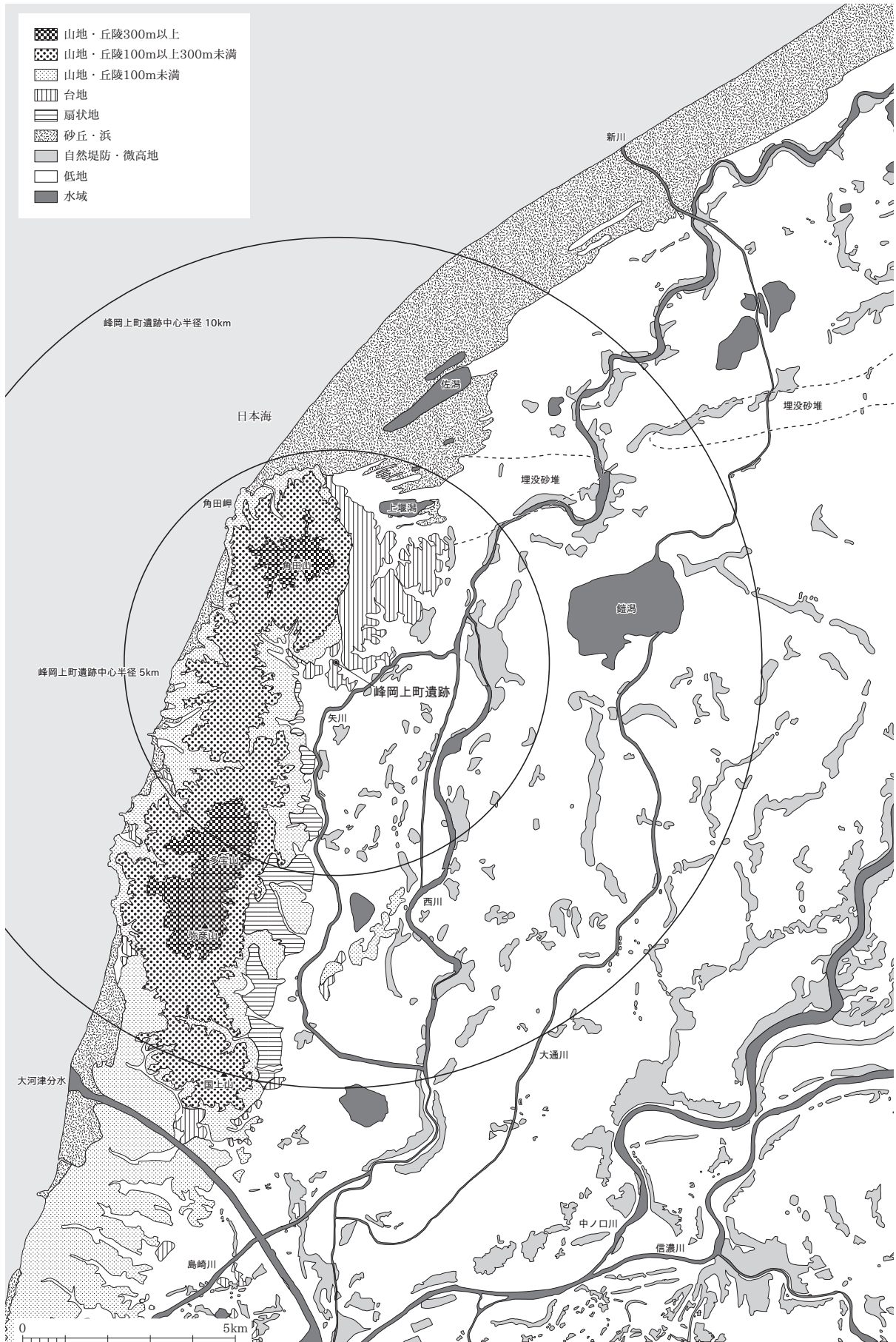
弥彦・角田山塊の地形は、日本海に面した西斜面と越後平野に面した東斜面で様相を異にする。西斜面は急傾斜をなして日本海へと下降し、角田岬から長岡市野積地内までの間に岩礁海岸を形成させる。この区域内には、開析谷を埋積した小規模な平地が点在する。一方、越後平野に面した東斜面はなだらかな山裾地形が展開するが、角田山麓と国上山麓では海拔50m以下の低丘陵地帯が広がり、その中間にあたる西蒲区福井地内から弥彦村麓地内までの間には扇状地が連続的に形成される。

角田山の東麓部には、海拔40m台から10m台の低丘陵が南北4km・東西1.5kmにわたって展開する。この丘陵は北から南へ向かって海拔が順次低下し、仁箇地内の北部丘陵では40m台、竹野町地内の中央北部丘陵では30m～40m台、下木島付近の中央南部丘陵では10m～20m台、南端の峰岡丘陵では12mを最高部とする(第2図)。各丘陵の末端は急傾斜をもって沖積地に接する。これに隣接する沖積地には後背低地が形成され、土地改良以前は地盤が軟弱な「深田」が広がっていた。

B 新潟砂丘

角田山の北東麓から新潟市西区や江南区亀田方面に向かって新潟砂丘が連なる。砂丘は列をなして並走し、形成順に新砂丘Ⅰ～Ⅲに大別される。

新砂丘Ⅰは縄文時代に形成され、角田山北東麓の布目地内から佐潟までの2.5kmあまりの間に広がる。本砂丘列は新潟市江南区の「亀田砂丘」と一連の地形をなしていたが、弥彦・角田山塊の東麓に走る大規模な断層によってこれ以東が沖積低地下に沈下する。埋没砂丘のあり方はボーリング調査をつうじ大要が把握されているが〔卜部・高濱2002〕、西区の沖積低地下で発見された四十石遺跡〔渡邊2012〕は、埋没実態を示す重要な情報をもたらした。新砂丘Ⅱは佐潟以北に分布する。主として古代の遺跡が分布するが、佐潟北岸の病院横遺跡で縄文時代後期中葉の土器が採集されており、形成時期が縄文時代まで遡る可能性を示唆する。新砂丘Ⅲは新砂丘Ⅱと重



第1図 峰岡上町遺跡周辺の地形

国土地理院発行『2万5千分の1土地条件図 内野・弥彦・三条』をもとに作成

なる部分が多く、中世以降の遺跡が分布する。

日本海に接する海浜地帯では、弥生時代後期から中世に至る遺物が海蝕崖の砂層下部などから出土している。新砂丘Ⅱ・Ⅲに対応する堆積層で、角田山西麓のうぶすめ遺跡では海拔 1m 前後のシルト層に古墳時代中期の遺物包含層が形成される〔相田 2010〕。この遺跡では三層にわたる砂礫層が海蝕崖の下部に堆積しており、最大 5m におよぶ津波痕跡と推定されている。

C 沖積低地

現在越後平野が広がる沖積地は、軟弱な地盤によって地形を大きく変化させている。西蒲原郡域北部における沖積地下の古地形調査によれば、縄文時代中期ころの信濃川の河口は、西蒲区曾根付近に位置していたと推定されている〔卜部・高濱 2002〕。新潟砂丘は日本海の海水を遮断するバリアーとして機能し、現在の越後平野に広大な淡水域を形成させた。角田山北東麓の沖積低地で行った古環境調査でも縄文時代前期の層準に海水の流入は確認されなかった〔市原ほか 1984〕。角田山東南麓の干納遺跡（縄文時代前期後葉）・豊原遺跡（縄文時代前期後葉～中期初頭）・北東麓の大沢遺跡 A 地区（縄文時代中期前葉）から出土した食料残渣の内容も上記の状況と調和的である〔前山 2005〕。

古代に入り遺跡分布の中心は沖積地に移る。大半の遺跡は現在の自然堤防と重複しておらず、沈下に伴う地形変化を物語る。旧鎧潟の湖底下 4m からボーリング調査で確認された土壌化層は、飛鳥時代の大島橋遺跡の沈下を裏づける資料であり〔卜部・高濱 2002〕、沖積地の深層に埋没する古代の遺跡が今後さらに発見されることを予想させる。古代集落をとりまく植生環境については、西蒲区林付遺跡〔早田 2012〕や燕市江添 C 遺跡〔パリオ・サーヴェイ株式会社 2000〕の平安時代層からハンノキを主とした花粉が検出されている。林付遺跡では平安時代の集落に洪水層が介在しており〔相田 2012〕、低湿かつ不安定な環境に置かれていたことがうかがえる。

第 2 節 周辺の遺跡

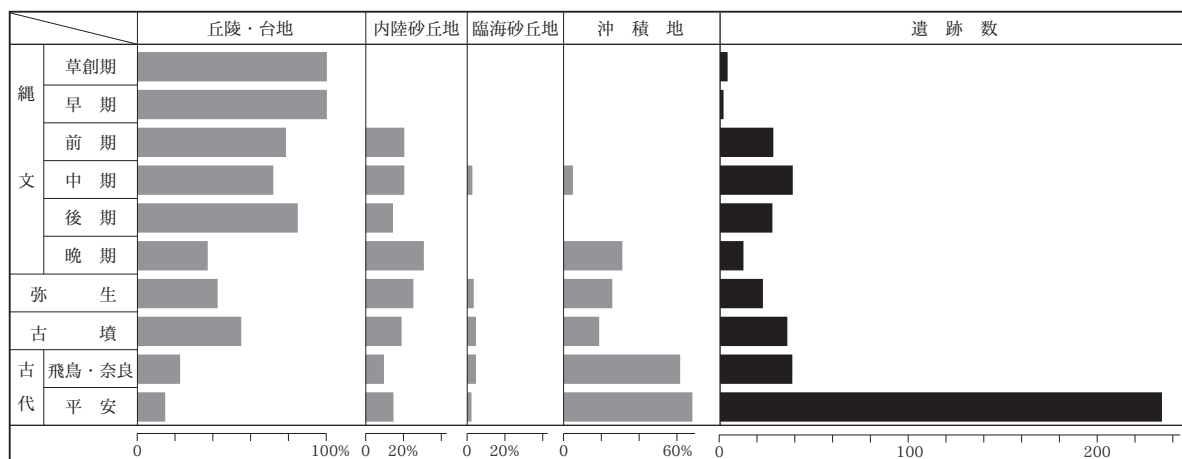
峰岡上町遺跡で行った本次調査では、縄文時代前期～後期・弥生時代・古墳時代中期・奈良・平安時代の遺物が出土し、この期間における断続的な利用が明らかになった。本節では、本遺跡を含む東西 31km・南北 21km の範囲における各時代の遺跡について、遺跡動態と生業を中心とした観点から概観する。地形区分ごとに見た遺跡数と占有率の変遷は第 3 図のとおりである。

A 縄文時代

土器に基づき所属時期が明らかな縄文時代遺跡の分布を第 4 図に示す。エリア内には早期から晩期に至る 71 箇所が分布する。このほか角田山麓の 4 遺跡、国上山麓の 1 遺跡から草創期の石器が出土している。大別時期に基づく遺跡数は、早期 1・前期 29・中期 40・後期 28・晩期 18 である。全県的に見た場合、早期の遺跡が乏しく、前期の遺跡が多い傾向にある。信濃川の中流域に比べ、中期遺跡への集中度が低いことも特徴と言える。

このエリアにおける定住集落の成立は、前期前葉に求められる。角田山東南麓の新谷遺跡 (No.47) と北東麓の布目遺跡 (No.16) はこの段階の代表的な遺跡である〔前山 1994、小熊・小野 1994〕。縄文時代早期から晩期遺跡の立地別の内訳は、丘陵（台地）68%・内陸砂丘 24%・臨海砂丘 1%・沖積地 7% で、丘陵部の遺跡では角田山東麓に 65% が集中する。

角田山東麓の遺跡は、前期の段階で丘陵裾部に集中し、磨石・敲石類と礫石錘が多用される。東南麓に位置する干納遺跡 (No.48) では動・植物遺体が良好な状態で保存されており、通年的な居住を示す多彩な内容の食料残渣が出土している〔前山 2005〕。前期終末になると台地上の遺跡が現われ、居住域は拡大する。角田山麓では、この時期を境に石鏃が増加する。豊原遺跡 (No.41) の一角から出土したニホンジカは、当時の狩猟活動のあり



第3図 遺跡数と立地の変遷

第1表 縄文時代遺跡一覧

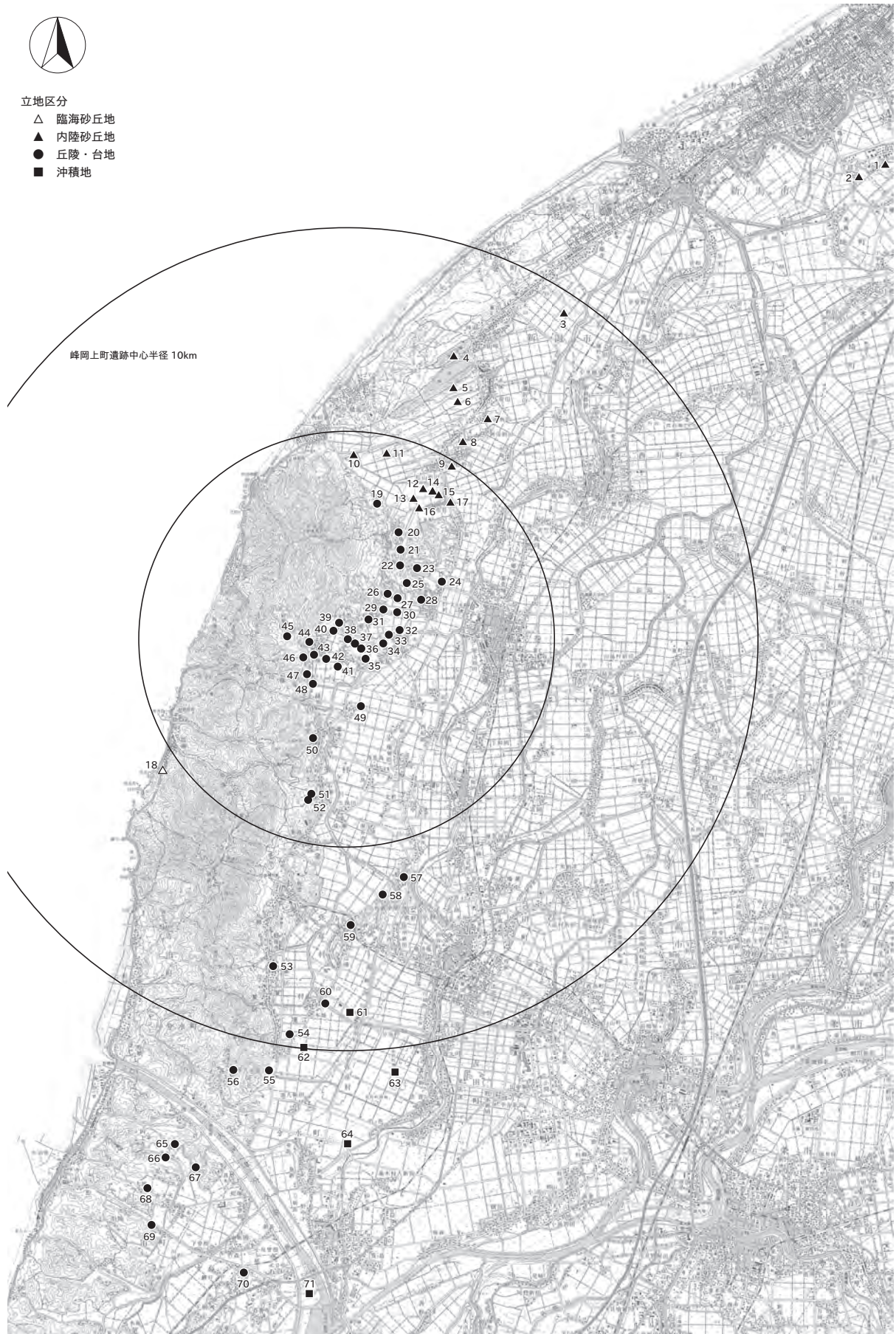
No.	遺跡名	立地	時期	No.	遺跡名	立地	時期	No.	遺跡名	立地	時期	No.	遺跡名	立地	時期
1	的場	内陸砂丘	晩	19	大沢	丘陵	前・中・後	37	御手洗山	丘陵	後	55	有馬崎	丘陵	前・中
2	緒立	内陸砂丘	晩	20	前表	丘陵	前・中	38	峰岡上町	丘陵	前・中・後	56	朝日山展望台	丘陵	中
3	四十石	内陸砂丘	後	21	久保	丘陵	中	39	片平	丘陵	後	57	鮎穴	丘陵	中
4	病院脇	内陸砂丘	後	22	北赤坂	丘陵	中	40	桜本	丘陵	後	58	夷塚	丘陵	後
5	北浦原A	内陸砂丘	中	23	下田	丘陵	前・後	41	豊原	丘陵	早・前・中	59	金堀沢	丘陵	中
6	南浦原A	内陸砂丘	中	24	下田東	丘陵	前	42	御井戸B	丘陵	前・中・後	60	樋筒	丘陵	前・中
7	山田屋敷	内陸砂丘	中	25	上ノ原	丘陵	後・晩	43	御井戸A	丘陵	前・中・後・晩	61	浦田	沖積地	晩
8	下稲場	内陸砂丘	前・中	26	中田割	丘陵	前・中・後	44	堂ノ腰	丘陵	中	62	辰ノ口	沖積地	中・晩
9	坊主田	内陸砂丘	晩	27	南赤坂	丘陵	前・中・後	45	大平	丘陵	後	63	佐善	沖積地	晩
10	定口	内陸砂丘	中	28	菖蒲	丘陵	前	46	山谷	丘陵	中	64	中ノ島	沖積地	中
11	イタチバラ	内陸砂丘	中	29	峰岡城山	丘陵	前・中	47	新谷	丘陵	前・中・後	65	宝崎	丘陵	中・後
12	上堰潟湖底	内陸砂丘	後	30	下城	丘陵	後	48	干納	丘陵	前・晩	66	京ヶ入	丘陵	後・晩
13	上堰潟B	内陸砂丘	前	31	松郷屋	丘陵	中・後	49	離山	丘陵	前	67	幕島	丘陵	後・晩
14	向上堰	内陸砂丘	前・晩	32	天神	丘陵	前	50	岩室神明社	丘陵	後	68	向屋敷	丘陵	中
15	タテ	内陸砂丘	前	33	重稲場	丘陵	前	51	青竜寺	丘陵	前・中・後	69	法崎	丘陵	中・晩
16	布目	内陸砂丘	前・中	34	上田	丘陵	前・後	52	八田ヶ入	丘陵	後	70	横滝山	丘陵	前・中・晩
17	さかしの	内陸砂丘	前・中・後	35	山ノ上	丘陵	前・後	53	猫ヶ沢	丘陵	中	71	五千石	沖積地	晩
18	高屋	臨海砂丘	中	36	戸ノ下田	丘陵	後	54	一本杉	丘陵	中・後				

方を伝える資料である〔小池・松井・小野 1991〕。集落立地の多様化は中期中葉に本格化し、後期後葉まで受けつがれる。晩期になると丘陵上の遺跡は激減する。これによって砂丘地や沖積地との分布格差は薄れるが、角田山東南麓には中核集落と位置付けられる御井戸 A 遺跡 (No.43) が存在する。御井戸遺跡で確認された植物性の食料残渣は主食料 (トチ)・代替食料 (ドングリ)・補助食料 (クルマシ・クリ・ヒシ) からなる。動物遺体では、シカ・イノシシや多種にわたる魚類も出土し、弥生時代到来直前の安定的な食料事情を伝えている〔前山 1996a〕。角田山東南麓の縄文時代遺跡では、クジラや海産魚類が確認されており、直線距離で 3km たらずに位置する角海浜などに当時の漁撈キャンプが存在する可能性がある。

B 弥生・古墳時代

縄文時代晩期に生じた遺跡数の減少は弥生時代になっても受けつがれ、エリア内に分布する弥生時代遺跡の総数は 22 箇所にとどまる。本時代の遺跡は縄文時代のあり方と類似し、丘陵部と砂丘を中心に分布する。しかし、丘陵部への集中化は顕著でなく、主要遺跡が各地に分散するようになる。丘陵上では角田山東南麓の御井戸 A・B 遺跡 (No.20・21) と北東麓の台地上に立地する大沢遺跡 (No.13)、砂丘では緒立遺跡 (No.2)・四十石遺跡 (No.5)・六地山遺跡 (No.4)、沖積地では五千石遺跡 (No.46) が主要な遺跡である。遺跡の実態は明らかでないが、本遺跡の西約 4km の海岸部には、穴口遺跡 (No.11) が所在する。

古墳時代に入り遺跡数は増加に転じる。遺跡立地の中心は依然として丘陵地帯にあり、角田山東南麓の御井戸 B 遺跡が代表的な集落である。主要な集落遺跡を立地別に見ると、丘陵地帯では御井戸 B 遺跡と南赤坂遺跡



第4図 縄文時代遺跡の分布



第5図 弥生・古墳時代遺跡の分布

第2表 弥生・古墳時代遺跡一覧

No.	遺跡名	立地	時代	No.	遺跡名	立地	時代	No.	遺跡名	立地	時代	No.	遺跡名	立地	時代
1	的場	内陸砂丘	古墳	13	大沢	丘陵	弥生	25	観音山古墳	丘陵	古墳	37	舞台島	丘陵	弥生
2	緒立	内陸砂丘	弥生・古墳	14	菖蒲塚古墳	丘陵	古墳	26	高見高島	丘陵	古墳	38	横滝山	丘陵	弥生・古墳
3	緒立八幡宮古墳	内陸砂丘	古墳	15	隼人塚古墳	丘陵	古墳	27	青龍寺	丘陵	弥生	39	兵蔵	沖積地	弥生
4	六地山	内陸砂丘	弥生	16	越王	丘陵	古墳	28	有馬崎	丘陵	古墳	40	鳥灘瀬	沖積地	古墳
5	四十石	内陸砂丘	弥生・古墳	17	南赤坂	丘陵	古墳	29	竹ヶ花	丘陵	弥生	41	蒲田	沖積地	古墳
6	大敷	内陸砂丘	古墳	18	天神	丘陵	古墳	30	夕暮れの丘	丘陵	古墳	42	高畑	沖積地	古墳
7	下稲場	内陸砂丘	弥生・古墳	19	峰岡上町	丘陵	古墳	31	鮎穴古墳	丘陵	古墳	43	伝法木	沖積地	古墳
8	古圃	内陸砂丘	古墳	20	御井戸B	丘陵	弥生・古墳	32	蛇塚古墳	丘陵	古墳	44	上町	沖積地	古墳
9	タテ	内陸砂丘	弥生	21	御井戸A	丘陵	弥生・古墳	33	夷塚古墳	丘陵	古墳	45	浦田	沖積地	弥生・古墳
10	さかしの	内陸砂丘	弥生	22	山谷	丘陵	弥生	34	稲場塚古墳	丘陵	古墳	46	五千石	沖積地	弥生・古墳
11	穴口	臨海砂丘	弥生・古墳	23	山谷古墳	丘陵	古墳	35	十三宝古墳	丘陵	古墳	47	諏訪田	沖積地	弥生
12	うぶすめ	臨海砂丘	古墳	24	新谷	丘陵	弥生・古墳	36	宝崎	丘陵	弥生・古墳	48	古屋敷	沖積地	弥生

(No.17)、砂丘地では緒立遺跡と四十石遺跡、沖積地では蒲田遺跡 (No.41) があげられる。各遺跡は、いずれも前期に属す集落跡である。このほか、海岸地帯では、うぶすめ遺跡で古墳時代中期の土器が採集されている。この時代には、矢作丘陵に稲場塚古墳 (No.34)、角田山麓に山谷古墳 (No.23)・菖蒲塚古墳 (No.14)・隼人塚古墳 (No.15)・観音山古墳 (No.25)、砂丘地に緒立八幡宮古墳 (No.3) が造営され、越後平野周辺における前期古墳の中核的な地域をなしている。菖蒲塚古墳に近い^{こしわ}越王遺跡 (No.16) では緑色凝灰岩を石材とした管玉が製作され、これに隣接した南赤坂遺跡からは、北方民との接触を示す土器や石器が出土した。

弥生・古墳の両時代の遺跡では、粉痕を認める土器が散見できる。しかし、生業活動を具体的に示す資料は限られており、御井戸 B 遺跡 (No.20) の古墳時代前期地区からサケの椎骨〔前山・相田 2004〕、同時期の南赤坂遺跡でヒシの実と小規模な畝状遺構が確認されている〔前山・相田 2002〕のみである。御井戸 A 遺跡 (No.21) の古墳時代層準から出土したトチの実には利用の形跡がなく、食料資源としての機能が失われたことも考えられる〔前山・相田 2003〕。

C 古 代

古代の遺跡は 272 箇所を数える。遺跡数を時代順にみると、飛鳥時代 9 箇所、奈良時代 37 箇所、平安時代 234 箇所となり、平安時代における遺跡数の増加は目覚ましいものがある。古代の遺跡はエリア内のいたるところに分布する点の特徴で、遺跡立地にみられる多様なあり方を地形区別に概観する。

丘陵地帯 縄文時代以来主要な居住空間として機能してきた丘陵部には、この時代になっても多数の遺跡が分布し、現時点で確認できる遺跡は 57 箇所へのぼる。率の上では 21% に低下するが、沖積遺跡の爆発的な増加に伴う見かけ上の減少と考えるべきである。古代における丘陵上の遺跡は、集落跡に加え、製鉄遺跡・須恵器の窯跡・木炭窯や寺院跡・経塚がある。

集落跡の可能性が高い遺跡としては、2003 年の確認調査で円面硯が出土した御井戸 B 遺跡 (No.62) があげられる。峰岡丘陵では、飛鳥～奈良時代の土器が採集されたヤチ遺跡 (No.57) があり、本遺跡との関連性が想定できる。角田山東麓中央付近の丘上に立地する南赤坂遺跡 (No.50) では、炉をもたない小規模な竪穴住居とともに煮炊具主体の土器が出土した。特定の作業空間として一時的に利用した居住地と考えられる〔前山・相田 2002〕。

須恵器の窯跡としては、^{おもいなぼ}重稲場窯跡 (No.55) が知られる。1964 年前後の土砂採取によって遺跡は全壊したが、複数の窯跡が存在したもようで、無台杯・有台杯・長頸壺・横瓶・甕とともに窯壁が採集されている〔山口 1994b〕。仁箇地内では 1970 年代の柿畑造成時に前平野窯跡 (No.47) が発見され、有台杯が溶着した大甕破片が現存している〔山口 1994c〕。前者は 8 世紀半ばから 8 世紀後半～9 世紀初頭、後者は 9 世紀初頭の窯跡である。

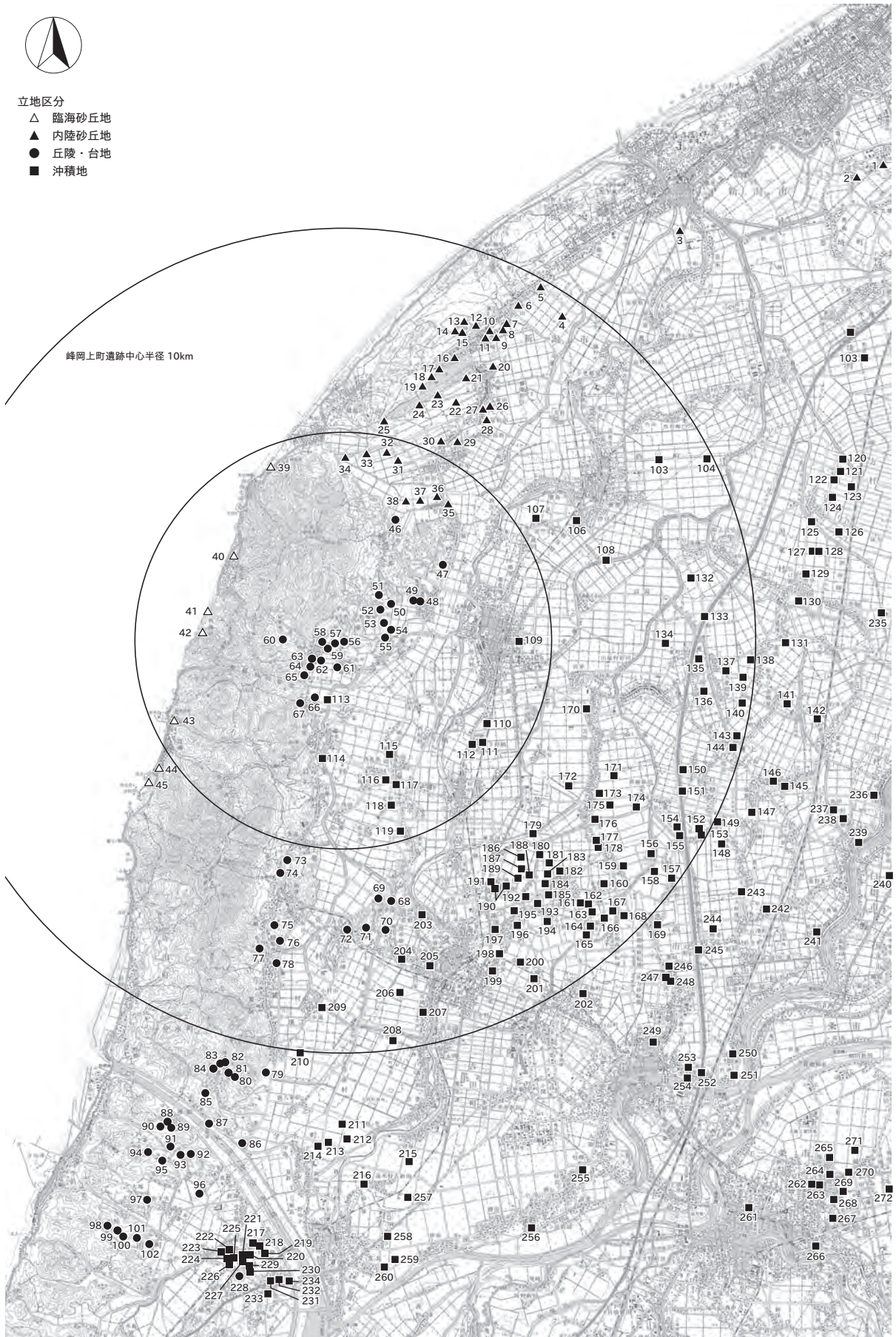
製鉄遺跡は、南赤坂遺跡に隣接する伏部道下遺跡 (No.51) で 11 世紀代とみられる炉壁が採集されている。その至近距離に位置する峰岡城山遺跡 (No.52) では、炭窯とみられる焼土坑が 10 基確認された〔立木 2013〕。

砂丘地 新砂丘 I・II に立地する古代遺跡は 38 箇所を数える。主要な遺跡としては、西区の的場遺跡 (No.1)・

第2節 周辺の遺跡

第3表 古代遺跡一覧

No.	遺跡名	立地	時代	No.	遺跡名	立地	時代	No.	遺跡名	立地	時代	No.	遺跡名	立地	時代
1	的場	内陸砂丘	奈良・平安	69	夷塚B	丘陵	平安	137	林付	沖積地	平安	205	中築地弥彦	沖積地	平安
2	緒立	内陸砂丘	奈良・平安	70	柿の浦	丘陵	平安	138	浦A	沖積地	平安	206	清右工門新田	沖積地	古代
3	六地山	内陸砂丘	古代	71	中山	丘陵	古代	139	浦B	沖積地	平安	207	大戸	沖積地	古代
4	四石	内陸砂丘	奈良・平安	72	金堀沢	丘陵	古代	140	道上荒田	沖積地	平安	208	中入溝	沖積地	平安
5	茨曾根	内陸砂丘	平安	73	上段	丘陵	平安	141	下新田	沖積地	飛鳥～平安	209	樋筒	沖積地	古代
6	木山	内陸砂丘	平安	74	登生寺	丘陵	古代	142	六枚田	沖積地	平安	210	辰ノ口	沖積地	平安
7	ヤマサキ	内陸砂丘	古代	75	御天山	丘陵	古代	143	仲歩切	沖積地	古代	211	新堀新田	沖積地	平安
8	茶畑	内陸砂丘	平安	76	川向	丘陵	平安	144	万坊江	沖積地	平安	212	中島	沖積地	平安
9	前田	内陸砂丘	平安	77	道下	丘陵	古代	145	河門八幡	沖積地	古代	213	下表	沖積地	平安
10	屋敷添	内陸砂丘	平安	78	桜井神社	丘陵	古代	146	長善寺	沖積地	平安	214	堂の前	沖積地	平安
11	屋敷浦	内陸砂丘	古代	79	有馬崎	丘陵	平安	147	上向	沖積地	平安	215	大坪	沖積地	平安
12	ツル子A	内陸砂丘	平安	80	朝日山展望台	丘陵	奈良	148	姥島	沖積地	平安	216	高畑	沖積地	飛鳥
13	吹荒地	内陸砂丘	平安	81	ゼンガンドウ	丘陵	飛鳥・奈良	149	羽黒西	沖積地	平安	217	尻地	沖積地	奈良・平安
14	荒所B	内陸砂丘	平安	82	国上山境内	丘陵	奈良	150	高六	沖積地	平安	218	地藏ノ木	沖積地	奈良・平安
15	赤塚神明社	内陸砂丘	平安	83	香見山	丘陵	奈良	151	茶院A	沖積地	平安	219	草薙	沖積地	奈良・平安
16	病院脇	内陸砂丘	平安	84	宝珠院経跡	丘陵	奈良	152	浦田乙	沖積地	平安	220	おくら	沖積地	平安
17	上谷地B	内陸砂丘	平安	85	居下	丘陵	平安	153	長所天神	沖積地	平安	221	下向	沖積地	平安
18	上谷地A	内陸砂丘	平安	86	竹が花	丘陵	平安	154	浦田川東	沖積地	平安	222	井の脇	沖積地	平安
19	沼	内陸砂丘	平安	87	石港	丘陵	平安	155	居畑	沖積地	平安	223	竹森池田	沖積地	平安
20	大藪	内陸砂丘	奈良・平安	88	カノ尾北	丘陵	古代	156	香語田	沖積地	平安	224	竹森上向	沖積地	平安
21	北浦原B	内陸砂丘	平安	89	カノ尾南	丘陵	古代	157	桑橋	沖積地	平安	225	中向	沖積地	平安
22	南浦原	内陸砂丘	平安	90	天王	丘陵	古代	158	上徳	沖積地	平安	226	島原田	沖積地	奈良・平安
23	北浦原A	内陸砂丘	平安	91	宝崎	丘陵	古代	159	川上	沖積地	古代	227	かんろくろ	沖積地	奈良・平安
24	原付	内陸砂丘	平安	92	長者塚	丘陵	古代	160	稲場	沖積地	平安	228	横滝山	丘陵	飛鳥～平安
25	清水上	内陸砂丘	平安	93	穴ノ入	丘陵	古代	161	花立	沖積地	奈良	229	諏訪田(寺泊)	沖積地	平安
26	坂田	内陸砂丘	平安	94	丸田	丘陵	平安	162	小諏訪前	沖積地	飛鳥～平安	230	京田	沖積地	平安
27	大原	内陸砂丘	平安	95	京ヶ入	丘陵	平安	163	小諏訪前B	沖積地	平安	231	太屋敷	沖積地	奈良・平安
28	山田屋敷	内陸砂丘	平安	96	当新田山下	丘陵	平安	164	夷塚A	沖積地	平安	232	日光畑	沖積地	奈良・平安
29	下稲場	内陸砂丘	平安	97	弁才天窟跡	丘陵	古代	165	鏡淵	沖積地	平安	233	午新田	沖積地	奈良・平安
30	代官屋敷	内陸砂丘	平安	98	金八	丘陵	平安	166	夷塚E	沖積地	古代	234	山屋敷	沖積地	平安
31	権作	内陸砂丘	平安	99	金八雨乞山	丘陵	平安	167	大橋	沖積地	飛鳥～平安	235	千日	沖積地	古代
32	イタチバラ	内陸砂丘	平安	100	長八	丘陵	平安	168	三角田	沖積地	飛鳥・奈良	236	早稲田	沖積地	平安
33	長道	内陸砂丘	平安	101	弥助	丘陵	平安	169	長渡	沖積地	平安	237	島田	沖積地	平安
34	定口	内陸砂丘	平安	102	新田	丘陵	平安	170	高畑	沖積地	平安	238	梅田	沖積地	平安
35	さかしの	内陸砂丘	平安	103	釈迦堂	沖積地	平安	171	助次郎	沖積地	奈良・平安	239	水戸下	沖積地	奈良・平安
36	タテ	内陸砂丘	平安	104	三町歩	沖積地	平安	172	地藏腰	沖積地	平安	240	拾参番割	沖積地	平安
37	上堰B	内陸砂丘	平安	105	中才	沖積地	平安	173	穢地	沖積地	平安	241	濁浦新	沖積地	平安
38	上堰A	内陸砂丘	平安	106	浦田	沖積地	奈良・平安	174	西横	沖積地	古代	242	境浦	沖積地	平安
39	銭原	臨海砂丘	奈良・平安	107	漕上り	沖積地	平安	175	川上B	沖積地	平安	243	見対	沖積地	平安
40	五ヶ浜	臨海砂丘	平安	108	大島橋	沖積地	飛鳥	176	川上A	沖積地	平安	244	諏訪ノ木	沖積地	平安
41	うぶすめ	臨海砂丘	平安	109	新道	沖積地	奈良	177	野神屋敷	沖積地	平安	245	ヤケ屋敷	沖積地	平安
42	坊の入	臨海砂丘	奈良	110	味方曾根下	沖積地	平安	178	中組	沖積地	平安	246	斉藤屋敷	沖積地	平安
43	本村	臨海砂丘	平安	111	おおよさま屋敷	沖積地	平安	179	荒田	沖積地	平安	247	松橋	沖積地	平安
44	高屋	臨海砂丘	平安	112	住吉神社脇	沖積地	平安	180	五人割	沖積地	平安	248	万福寺	沖積地	平安
45	番羽入	臨海砂丘	古代	113	高島	沖積地	古代	181	江添C	沖積地	平安	249	藤ノ曲	沖積地	平安
46	赤坂	丘陵	平安	114	寛越	沖積地	平安	182	十二田	沖積地	平安	250	外畑	沖積地	平安
47	前平野窟跡	丘陵	平安	115	岩室曾根	沖積地	平安	183	江添D	沖積地	平安	251	下屋敷	沖積地	平安
48	菖蒲塚古墳経塚	丘陵	平安	116	長島天神	沖積地	平安	184	江添E	沖積地	平安	252	小高	沖積地	平安
49	越王	丘陵	平安	117	狐塚	沖積地	平安	185	北小脇	沖積地	平安	253	六兵衛	沖積地	平安
50	南赤坂	丘陵	奈良・平安	118	大縄	沖積地	平安	186	七嶋	沖積地	平安	254	前畑	沖積地	平安
51	伏部道下	丘陵	平安	119	郷屋	沖積地	平安	187	堅割	沖積地	平安	255	杉柳	沖積地	平安
52	峰岡城山	丘陵	平安	120	五之上曾根下	沖積地	平安	188	小川	沖積地	平安	256	大張	沖積地	平安
53	上城跡	丘陵	古代	121	味方曾根下	沖積地	平安	189	三ノ口	沖積地	平安	257	高木	沖積地	平安
54	天神	丘陵	平安	122	ブギリ	沖積地	平安	190	鴻ノ巣大坪	沖積地	平安	258	中曾根	沖積地	古代
55	重稲場窟跡	丘陵	奈良・平安	123	弥左工門	沖積地	平安	191	西ノ神	沖積地	平安	259	伝法木	沖積地	平安
56	峰岡上町	丘陵	奈良・平安	124	土手内	沖積地	奈良・平安	192	江添F	沖積地	平安	260	上町	沖積地	平安
57	ヤチ	丘陵	飛鳥・奈良	125	樋切	沖積地	奈良・平安	193	新保A	沖積地	平安	261	善性寺	沖積地	平安
58	舟山神社B	丘陵	平安	126	骨田	沖積地	平安	194	大保	沖積地	平安	262	嘉坪川	沖積地	平安
59	番場西	丘陵	古代	127	与平湯	沖積地	平安	195	新保境	沖積地	平安	263	塚野目	沖積地	平安
60	大平	丘陵	平安	128	六十歩下	沖積地	平安	196	松田	沖積地	平安	264	白山神社	沖積地	奈良・平安
61	豊原	丘陵	平安	129	三條田	沖積地	平安	197	谷内A	沖積地	平安	265	正通寺裏	沖積地	古代
62	御井戸B	丘陵	古代	130	西前田	沖積地	平安	198	野沖田	沖積地	平安	266	下坂井	沖積地	平安
63	御井戸A	丘陵	古代	131	本田	沖積地	平安	199	前畑	沖積地	平安	267	大立	沖積地	平安
64	七十刈	丘陵	平安	132	四ツ割	沖積地	平安	200	仲沖	沖積地	平安	268	諏訪田(三条)	沖積地	平安
65	新谷	丘陵	平安	133	沼下	沖積地	平安	201	野沖	沖積地	平安	269	清願寺	沖積地	古代
66	桜田	丘陵	平安	134	島灘瀬	沖積地	平安	202	花見	沖積地	平安	270	大宮	沖積地	奈良・平安
67	猿田今山宮	丘陵	平安	135	家掛	沖積地	古代	203	平野	沖積地	平安	271	薬師寺	沖積地	古代
67	田中新田	丘陵	平安	136	堤	沖積地	平安	204	矢作	沖積地	平安	272	西沼赤作	沖積地	古代



第 6 図 古代遺跡の分布

緒立遺跡 (No.2)・四十石遺跡 (No.4)・大藪遺跡 (No.20)、西蒲区の下稲場遺跡 (No.29) があげられる。

的場遺跡と緒立遺跡は、信濃川の旧河口付近に位置する奈良・平安時代の集落である。中でも前者は、鮭木簡や大量の漁具とともに海産魚類が出土し、漁業に関連した官衛施設と位置づけられている〔藤塚 1993〕。両遺跡の南西 4km ほどに位置する四十石遺跡では、総柱建物を含む居住施設とともに帯留金具や「津」と記された墨書土器が出土し、内水面交通の要所として機能した集落跡とみられる〔渡邊 2012〕。遺構内から多量に検出された種実の中にはヒシの実が含まれ、淡水域での水辺資源の利用を物語る。

角田山北麓の砂丘地帯では、佐潟北岸に位置する平安時代の大藪遺跡から、内陸部としては稀な製塩遺構が確認された〔新潟市 1994〕。その南方 1km に位置する下稲場遺跡では、平安時代を中心とした多量の土器とともに円面硯が採集されている。採集資料の中には、的場・緒立・四十石遺跡と同様の大形有溝石錘も含まれ〔小野・山口 1994〕、四十石遺跡と類似した性格をもった拠点集の可能性がある。

臨海砂丘地 角田山西麓の臨海地帯には、奈良・平安時代の遺跡が 7 箇所存在する。角田岬の直下に位置する銭原遺跡 (No.39) では、奈良・平安時代の土器が採集されている〔山口 1994c〕。海辺の遺跡としては最大規模をもち、日本海沿岸部での諸活動に関わる拠点として機能した可能性もある。角田岬の南方 2km に位置するうぶすめ遺跡 (No.41) では、海蝕崖の下部に堆積するシルト層から平安時代の製塩土器が採集されている〔相田 2010〕。隣接する沙山遺跡では 15 世紀代の遺物包含層から 200 点あまりの鉄製釣針や多種にわたる魚骨が出土しており〔前山・山口 1994〕、今後の調査をつうじ古代の漁撈関連遺跡が海浜地帯から発見されることも予想される。

沖積地 現在の越後平野内に分布する古代遺跡は 169 箇所を数え、その割合は本エリアでの 62% にのぼる。旧西蒲原郡域には、越後平野の周辺において確認例が乏しい飛鳥時代～奈良時代前半の遺跡が数多く分布する。鎧潟の湖底から発見された大島橋遺跡 (No.108) や 11 棟の掘立柱建物を伴う三角田遺跡 (No.168) が代表例となる〔山口 1984、松島 2001〕。この段階の遺跡では竪穴住居のカマドの芯材として円筒形土製品や板状土製品を用いるケースが多く、類似製品が使用される高田平野周辺との密接な関係が想定されている〔春日 2014〕。

古代遺跡における遺跡数の変遷を検討した春日真実は、8 世紀後葉の佐潟周辺や旧西蒲原郡域の沖積地で遺跡数が低下する現象と的場・緒立遺跡の形成過程に見られる関連性に着目し、前者から後者への移住が行われた可能性を指摘している〔春日 2014〕。

生業関連遺構としては、下新田遺跡 (No.141) と江添 C 遺跡 (No.181) で水田・畠跡が確認されている。前者では、水田と畠が分布域を異にしながら広範な広がりを見せる〔龍田 2014〕。後者では 6 グループからなる畝状遺構が 5 棟の掘立柱建物と同一方位をとりながら隣接して分布し、集落と耕地の関係を知ることができる良好な事例となっている〔布施ほか 2000〕。同遺跡から出土したウマ (齒) は、越後平野周辺の古代遺跡では数少ない動物遺体となる。

林付遺跡 (No.137) では、平安時代の集落が洪水層をはさんで二面にわたり形成されていた。沖積地に立地する集落が置かれた不安定な環境条件を明示するものである。上面からは大形掘立柱建物とともに石帯や権状錘が出土しており、官的性格をもった集落とみられる。動物遺体は出土していないが、細型を中心とした管状土錘が 20 点ほど出土しており〔相田 2012〕、淡水魚漁に一定の基盤を置いた沖積地での生業をうかがわせる。

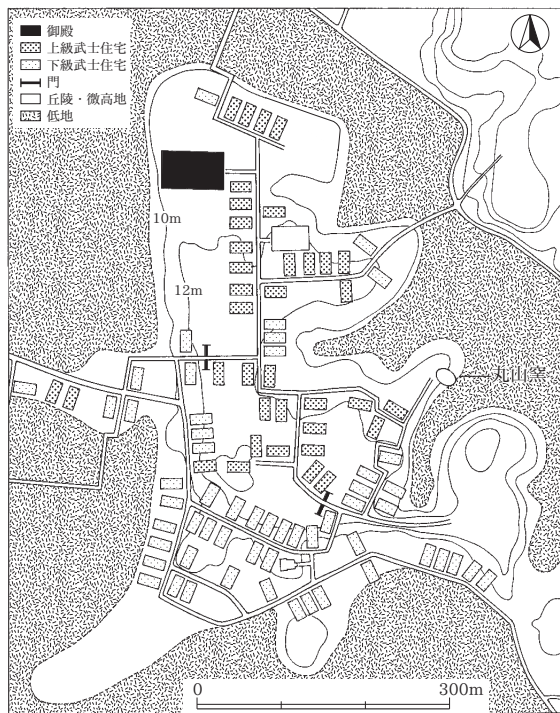
第3節 近世三根山藩と松郷屋焼

本次調査では、1 区西部から近世陶磁器類が多数出土した。調査地に隣接する近世三根山藩に関連した遺物と考えられることから、その歴史的経緯を概観する。

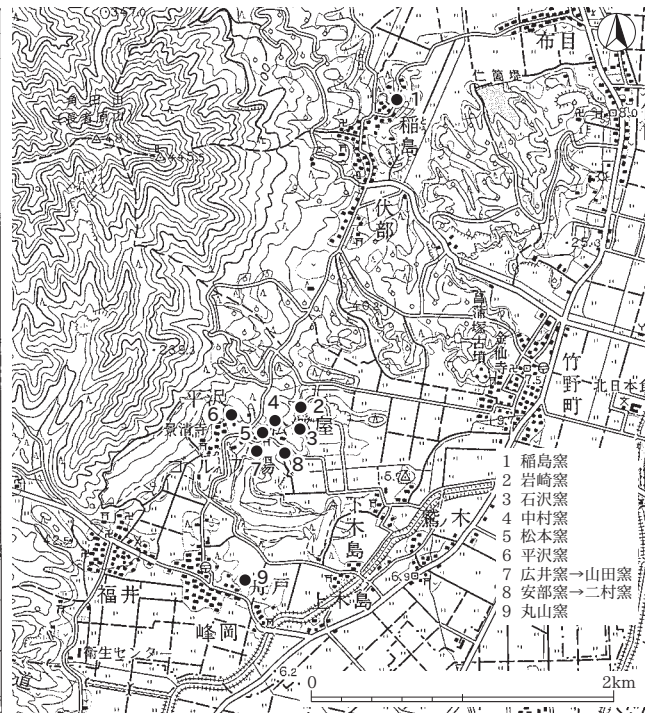
三根山藩は、寛永 11 (1634) 年、長岡藩初代藩主牧野忠成が四男定成に 6,000 石の地と副領 5,000 石を分け与えたことに始まる。三根山は現在の峰岡を指す。領有地は 17 村からなり、第 7 図に示すように峰岡中心半径



三根山藩領有図 (明治44年測図大正3年大日本帝國陸地測量部発行「弥彦」1/50,000を使用)



幕末峰岡の空間利用状況



松郷屋焼窯跡の分布

第7図 近世三根山藩と松郷屋焼

8km 圏内に含まれる。分知当時三根山は山林であったが、ここに陣屋と家臣の住居が置かれ、領内統治の最小限度の構えをもたせたようである。領主は代々江戸詰めであった。

領内 17 村は、西川・矢川の流域と角田山東麓の丘陵地帯や海浜にある。最大の村は、石高全体の 1 割ほどを占める上和納村であった。同村における納米高は、元禄初期（1680 年代）、享保期（1710 年～1730 年代）、幕末安政期（1850 年代）で著しい変動が見られ、これから推して享保期には藩財政が窮迫に陥つたとみられる。こうした中で対処法は、年貢の増徴と質素節約の令であったが、領有範囲の制約から生産量の増大は期待できず、富豪からの借金と臨時賦課によって窮地をしのいだようである。天保 9（1838）年以後は、越後随一の富豪として知られる北蒲原市嶋家に財政支援を求め、同家による「台所預り」体制によって藩財政が維持された。

文久 3（1863）年、忠泰の代に至り幕府から 11,000 石の高直りが認められ、三根山藩は成立する。藩への昇格に伴い大規模な整地が行われ、藩主御殿の造成や町の整備がはかられた。第 7 図左下は当時の状況である。町は北部の上町と南部の下町に二分される。家臣団は 160 名ほどからなり、上級武士は上町、下級武士は下町に住まいした。藩の中核部は西門と東門で遮られ、一般農民は門内通行が許されなかった。御殿や庁舎の詳細は不明であるが、丘陵下の北と西に濠がめぐり、御手洗川に注いでいた。御殿の建設は文久 2（1862）年に始まり、翌 3 年 1 月に建前が行われた。同年 4 月には、領主の家妻が江戸から下向している。

慶応 3（1867）年、越後は情勢不穏になり、同年 3 月牧野忠泰は領内の指揮をとるため三根山に帰任する。歴代領主として初めての三根山入りである。おりしもこのころ戊辰戦争が始まり、三根山藩はその渦中に投じることになる。当初三根山藩は中立を保つが、戦況の推移とともに左幕方から新政府方に転じ、庄内藩との交戦の功によって藩の存続がはかられた。本家長岡藩に贈られた「米百俵」の故事は、明治 2（1869）年のことである。同年三根山藩は峰岡県となる。藩主忠泰は新政府の下で参内し、天杯を賜っている。その後明治 4（1871）年に峰岡県は廃止され、これをもって 250 年余りにわたる牧野家の三根山領有は終わりを告げた。同年 9 月、牧野家は東京へ帰任している。

近世三根山藩の藩窯に端を発する「松郷屋焼」について概観する。これは角田山麓において近世末に始まる陶窯の総称で、漆山（新潟市西蒲区）出身の二村為八が大堀相馬焼窯（福島県波江町）で技術を習得して帰国した後、弘化 2（1845）年に峰岡地内に開窯した「丸山窯」を初源とする。以来三根山の「お庭窯」として操業し、甕・徳利などの日用雑器や花器・茶碗などを生産した。為八は陶工の育成にもあたり、その後の松郷屋焼きの隆盛に貢献した。丸山窯の廃絶時期は定かでないが、三根山藩と命運をともにしたと考えられている〔石川 1973・山口 1983〕。

近隣の松郷屋では、阿部勘九郎が安政 4（1857）年以前に阿部窯を築き、万延元（1860）年に焼酎徳利を考案したといわれる。現在確認できる近代以降の陶窯は、松郷屋地内に 7 基、その南西に隣接する平沢地内に 1 基、角田山の北東麓に位置する稲島地内に 1 基ある。松郷屋焼が最盛期を迎えるのは明治 20（1878）年ころで、年間 20 万本～30 万本といわれる焼酎徳利が北海道向けに生産された。その後焼酎徳利の受注は次第に減少し、明治 35（1893）年には生産中止に至る。北海道での焼酎の現地生産とガラス瓶の普及がその背景と考えられている。これ以降は、日用雑器や土管・瓦の生産に転じるが、陸上運送の発達とともに、安価で良質な先進窯業地の製品に圧迫され、廃窯が相次いだ。そして昭和 23（1948）年には、唯一残る石沢窯が燃料不足などから廃窯し、松郷屋焼は消滅した。

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 試掘・確認調査

A 第1次調査

一般国道460号線改良事業に伴う試掘調査である。平成19(2007)年2月6日から3月13日までの20日間にわたり実施した。調査対象となった範囲は舟戸地内から福井地内までの1.4kmの間である。調査は合計69箇所のトレンチを任意に設け、バックホーを使用して2～3mまで掘下げた。遺物は19地点で確認された。このうち10地点は峰岡丘陵の北端斜面とその周囲に分布する。丘陵下の低地では北部～東部の地表面下1m前後から古代の遺物、東部の地表面下2.5mから縄文時代の遺物が出土した。丘陵上では土坑・ピットとともに古代の土師器と須恵器が出土し、東西200mの範囲にわたる新発見遺跡と判明した(第8図)。調査の結果は平成19年3月13日付新歴1829号で報告され、その後峰岡上町遺跡として登録された。

B 第2次調査

第1次調査で遺物が出土した低地域での遺跡のあり方をより詳細に把握するため行った調査である。平成24(2012)年9月3日と12月13日・14日に実施した。調査はバックホーを使用し、東部で3箇所、西部で5箇所のトレンチを設定した。東部では丘陵に隣接した2Tから石鎌1点が出土したのみで、1次調査で深層から出土した遺物の位置づけを明らかにすることはできなかった。一方、西部に設けたトレンチでは、5Tから近世陶磁器と焼台が出土したにとどまり、古代遺跡の範囲外にあたる可能性が高まった(第8図)。

第2節 発掘調査(第3次調査)

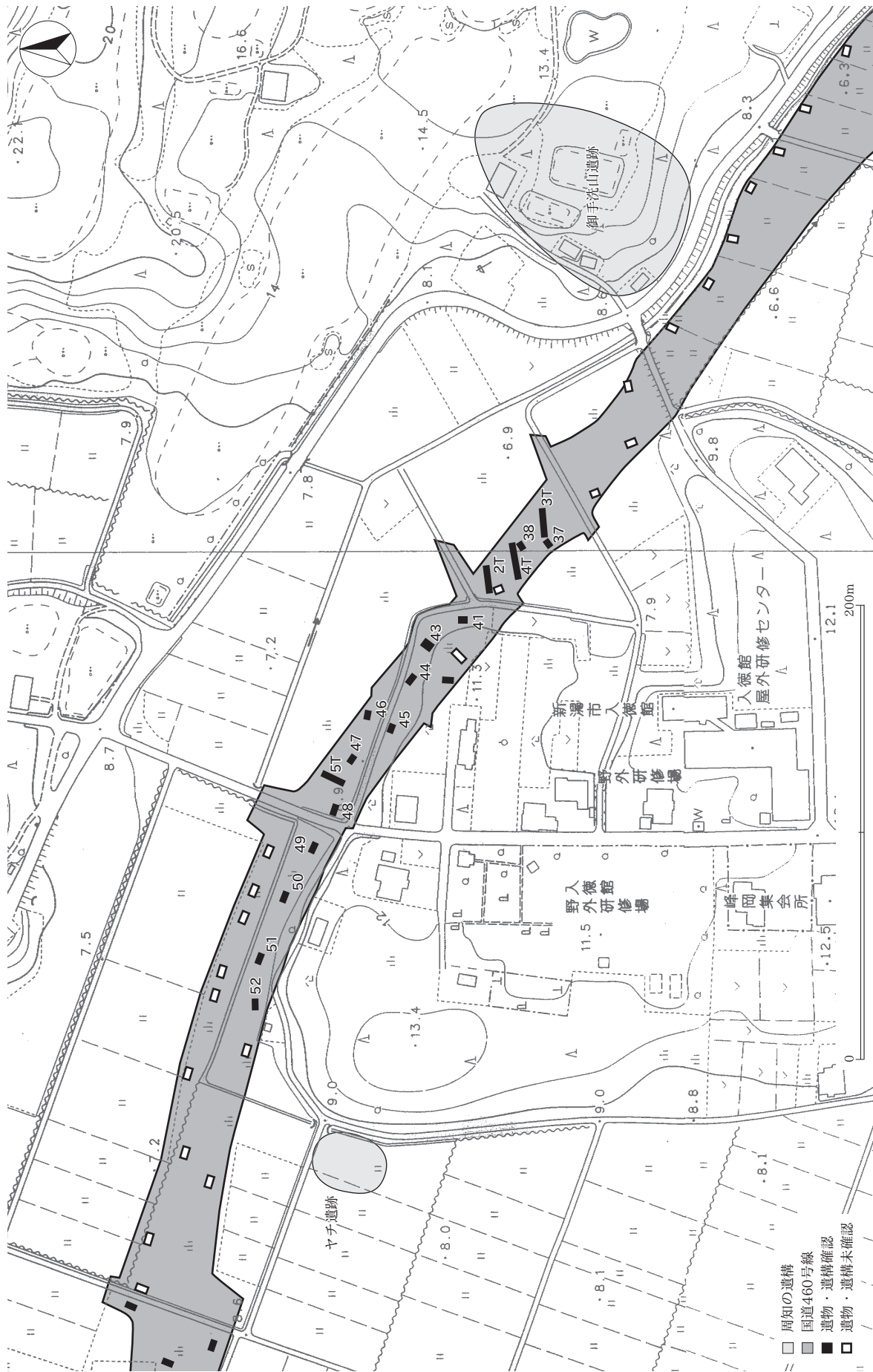
A 調査方法

1) 現況

国道460号線法線内の本遺跡は峰岡丘陵の北端に位置し、丘陵部とこれに接した低地からなる。丘陵部は、平坦地と緩斜面一帯が畠や植林地として永らく利用されていた。調査直前の状況は、高域部の平坦地に竹が密生し、傾斜地には杉の切り株が点在する荒地となっていた。丘陵裾部には斜面を削平して平坦地化した幅3m弱の農道が周囲をめぐり、その斜面側では基盤層が露出する50cm前後の段差がみられた。農道の北～東側は、高低差1m以上の崖をなして低地に接する。1区東部の南隣接区域は、現在畠として利用される。これに接した東斜面の一角では土留柵が設置され、階段状の地形をなしていた。丘陵下の低地は海拔7mを測る。この区域では近代に入って土盛りが行われ、以後水田として利用されていた。調査時点の現況は、全域が地盤の軟弱な荒地をなしており、南西部に存在する開析谷の谷口付近を中心に湿性に富んだ環境にあった。

2) グリッドの設定

試掘・確認調査をつうじて把握された本遺跡の範囲をカバーする形で、東西300m・南北200mにわたるグリッドを設定した。北西コーナーのX座標は+195.200、Y座標は+30.300である。これを基点として10m方眼を大グリッドとし、東西軸をA～AE、南北軸を1～20と呼称した(図版2)。小グリッドはこれを2m方眼で25に分割し、北西コーナーを基点として1～5・6～10・11～15・16～20・21～25区とした。



第8図 試掘・確認調査地

3) 調査方法

① 調査区の設定

丘陵部の法線内全域を1区とした。このうち丘陵裾部にめぐる農道区域については法面での層序観察をつうじ大半が削平されていることが判明したため、調査範囲から除外した。ただし、遺構が遺存する箇所については、記録作業を行った。2区は、1次調査で縄文時代の遺物が出土した地点を中心に東西35m・南北14mの調査範囲を設定し、地形の把握と遺物包含層の確認にあたった。

② 1区のトレンチ調査

表土掘削に先行して幅1mのトレンチ3箇所を任意に設け、手作業での掘り下げによって調査区内の層序と遺物の包含状況を把握した。各トレンチでの掘り下げ深度は、東半部が基盤層上面まで、西半部が基盤層内までとした。後者は層序記録と深層遺跡の存否確認を目的としたもので、遺構平面図に示されるトレンチの輪郭はこの範囲である。

③ 1区の掘削作業

バックホーによって表土掘削を行った。本遺跡付近では、隣接する御手洗山遺跡を含め3箇所以上から縄文時代草創期の石器が出土しており、関連遺跡の存在を想定する必要があった。そのため、重機を用いた掘削は基盤層から10cm上位までにとどめ、それ以下は手作業での掘り下げによって微細遺物の発見に努めた。

④ 2区の掘削作業

調査区域は全域に未分解有機物層が堆積する。とりわけ北部の地盤が軟弱で、壁面崩落の危険があるため、北壁側5mについてはⅢ層上面（地表面下1m）までの掘り下げにとどめた。これ以南の区域については壁面保持が可能な斜度を設け、掘り下げ作業を行った。面的な掘削は遺物包含層の上面までとし、壁面下と中央に設けた南北トレンチでのみ包含層の調査を行った。

⑤ 掘削土砂の搬出

1区では、既に削平されていることが判明した農道上を表土掘削の後ベルトコンベアの主線とし、調査区内に枝線を設けた。発掘残土は2区西側の低地にいったん集積した後、4tダンプによって東部の土砂置き場に随時移動した。2区では遺物包含層の上面までバックホーで掘り下げ、クローラーダンプを用いて土捨て場に残土を移動した。

⑥ 遺構調査

1区に分布する遺構は、確認レベルの上でⅡ層内とⅣ層上面に分かれる。前者についてはⅡ層内の確認面で調査を行い、記録作業が終了した後Ⅳ層上面まで掘り下げて再度遺構確認にあたった。1区の遺構は土質によって範囲が概ね明瞭に把握できたことから、サブトレンチは設定しなかった。

⑦ 鼠跡の調査

1区のⅣ層上面に分布する粘質土から把握したものである。視覚的な識別が困難なため、調査区全域のⅣ層上面を両刃鎌で薄く削りながら探査にあたった。作業は遺構調査が終了した西部から着手し、東部については遺構調査の進捗状況を見ながら順次範囲を広げていった。

⑧ 遺物の取り上げ

1区のⅠ層～Ⅲ層では、原則として2m小グリッドを遺物の取り上げ単位とした。遺構内出土遺物は、層位ごとの一括取り上げを行った。2区については、遺物出土地点のレベル差が大きく、斜度の強い傾斜地にもあたるため、トータルステーションで遺物出土位置を記録した。

⑨ 自然科学分析試料の採取

1区南壁と2区北壁で自然科学分析用の土壌を採取した。サンプリング地点の選定と土壌採取は前山が行った。

⑩ 層序記録

株式会社オリスに委託し、以下の層序図を作製した。1区では、上記のトレンチ壁面および、調査区南壁の全

域で写真測量による連続的な層序図作成を行った。2区では、壁面全域と南北中央トレンチ全域で、1区と同様の方法で層序図を作成した。

⑪ 遺構図の作成

株式会社オリスに委託した。平面図は、トータルステーションによる光波測定によって作成した。遺構断面図は、分層化できた場合手作業で行い、単層遺構ではトータルステーションによる光波測定によって図化した。

⑫ 遺物微細図の作成

西部窪地の「土器集中」で微細図を作成した。作業は株式会社オリスに委託し、写真測量による平面図の作成とトータルステーションによるエレベーションの作成を行った。

⑬ 畝跡の平面図作成

畝間痕の範囲を白色スプレーで示し、ラジコンヘリによる空中撮影写真から平面図の作成にあたった。

⑭ 写真撮影

担当者前山と調査員龍田・牧野が35mmリバーサルフィルム・35mmモノクロフィルム・デジタルカメラを使用して撮影を行った。単層のピットについては、原則としてデジタルカメラのみで撮影した。

⑮ 空中写真の撮影

株式会社オリスに委託し、35mmリバーサルフィルム・デジタルカメラを使用して撮影した。

⑯ 2区の保護

トレンチ内を土嚢で埋め、調査区全域に保護マットを敷いたのち、発掘残土で埋め戻した。

B 調査経過

4月3日～17日にプレハブの設置・整備および丘陵調査区（以下1区と呼ぶ）に通じる鉄板敷設を行った。調査着手までの準備作業としては、調査前写真の撮影を4月16日、機材搬入を18日、1区のトレンチ設定を19日に行った。以下では、丘陵上の1区と低地に設定した2区に分けて記述する。両地区の調査は、担当者前山、調査員龍田・牧野が作業を分担し、平行して実施した。作業分担は次のとおりである。

1区トレンチ調査：前山・牧野、1区表土掘削：牧野、1区包含層掘削およびIV層上面遺構調査：前山（5月14日～23日・7月23日～9月26日）・龍田（6月3日～7月5日）・牧野（5月23日～9月17日）、1区II層内遺構調査：前山、1区畝状遺構探査：前山、2区調査：前山。

1) 1区の調査

3箇所に設けたトレンチ調査から着手し、4月22～26日の間に人力作業による掘り下げを行った。これによって把握できた層序に基づき、5月7日から大形重機による表土掘削に入り、16日までの間に1区の精査区域、17日～22日の間に農道上の表土を除去した。

包含層調査は、表土除去を終えた西部で5月14日に着手し、東に向かって作業を進めながら7月31日までの間に行った。遺構調査は、包含層掘削を終了した西部で5月23日に開始した。1区の遺構は、II層内とIV層（基盤層）上面で確認された。II層内の遺構調査は、2区の調査を終えた7月1日から22日までの間に包含層掘削と平行して行った。その後区域内の面下げを行い、IV層上面確認遺構の調査に移った。IV層上面の遺構調査は7月2日に西部から本格的に着手した。8月6日、東部尾根において当初予想しなかった掘立柱建物の存在が明らかになった。以後はプランの把握に努め、9月13日に記録作業を終えた。

遺構調査最中の7月17日、西部窪地のIV層上面から畝跡とみられる粘質部が確認された。粘質部の探査は7月23日に着手した。作業は通常の遺構調査と平行しながら行き、西部から東部へ向けて順次範囲を広げていった。9月5日以降は本格的な探査を進め、9月19日までに1区全域に分布する畝跡を確認した。作業に要した実質的な日数は20日である。以上のような作業が終了した後、9月20日に空中撮影を行った。その後9月26日までの間に壁面記録を行い、1区の調査を完了した。1区の調査に要した総日数は83日間である。



調査前の峰岡上町遺跡（北東から撮影）



調査前の2区（東から撮影）



1区の特レンチ調査



1区の表土掘削



1区東尾根の包含層掘削



1区東尾根の遺構調査



1区の畝状遺構探査



2区の調査

第9図 第3次調査風景

2) 2 区 の 調 査

5月23日に調査区を設定し、24日からバックホーによる掘り下げ作業を行った。排水を考慮し、作業は最も掘削深度が深いと予想される北東部から着手した。地盤が軟弱な低地に位置するため地表下60cm付近から湧水が始まり、軟弱な未分解有機物含有層が厚く堆積することを改めて確認した。法線ラインに沿った北側5mでは壁面崩落を避けるため1mまでの掘削にとどめ、27日から深層への掘り下げを開始した。同日、南部に堆積した未分解有機物含有粘土層(IV層)から古代の土器が出土した。以後、遺物包含層の上面を確認しながら掘り広げる作業を行い、北に向かって下降する大規模な埋没谷が存在することが判明した。

6月5日、埋没谷中央部の地表面下2.5mほどから縄文土器が出土した。6日からは包含層の広がり把握すべく範囲を拡大するとともに、壁面下と中央に幅1mのトレンチを設け、包含層の深度確認にあたった。この作業をつうじ、縄文時代の遺物が4層にわたって出土するとともに、中期中葉～後期中葉遺物が層を異にして包含されることが判明した。各層には未分解有機物が含まれることから、新潟県内では確認例が乏しい縄文時代中期の低湿性遺跡であることも明らかになった。しかし、包含層基底部の確認にはさらに日数が必要なことから本年度調査での把握は困難と判断し、6月12日に掘り下げ作業を終了した、その後25日までの間に壁面層序の記録や各種分析試料の採取を行い、本年度の調査を完了した。調査に要した総日数は22日である。本地区については、1区の調査終了後の9月25日～10月1日に全域を埋め戻し、調査地の保護をはかった。

C 調 査 体 制

【平成19年度：第1次調査】

調 査 主 体	新潟市教育委員会（教育長：佐藤満夫）
所 管 課	歴史文化課（課長：倉地一則・課長補佐：山田一雄・埋蔵文化財係長：渡邊朋和）
調 査 担 当	相田泰臣（歴史文化課 主事）

【平成24年度：第2次調査】

調 査 主 体	新潟市教育委員会（教育長：阿部愛子）
所 管 課	歴史文化課（課長：倉地一則・課長補佐：拝野博一・埋蔵文化財係長：廣野耕造）
調 査 担 当	廣野耕造（歴史文化課埋蔵文化財係長）

【平成25年度：第3次調査】

調 査 主 体	新潟市教育委員会（教育長：阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長：中野俊一・所長補佐：丸山憲幸・主任：遠藤恭雄）
調 査 担 当	前山精明（新潟市文化財センター副主幹）
調 査 員	龍田優子（新潟市文化財センター主査）・牧野耕作（新潟市文化財センター嘱託）

第3節 整理作業

A 整 理 方 法

① 遺構図の作成

株式会社オリスに委託した平面図・断面図・微細図を校正し、デジタルデータとした。手作業で作成した遺構断面図については、有限会社不二出版にデジタル図化を委託した。

② 註 記

発掘年度「13」・「峰岡上町」・「グリッド」に続き、遺構出土資料については「遺構名」・「出土層位」、包含層出土資料については「層位」・「取上番号」の順に注記した。

③ 遺物実測

担当者前山と調査補助員2名が実測にあたった。陶磁器類の絵付実測は、簡易なものを中心に手作業で行ったが、これ以外は撮影写真をもとに有限会社不二出版がデジタル図化した。

④ 遺物トレース

土器は有限会社不二出版がデジタルトレースを行った。石製品・土製品・金属製品・木製品は、前山がトレースした。

⑤ 遺物写真撮影

調査補助員2名の協力のもとで前山が撮影した。胎土および種実写真は、新潟市文化財センターのオリンパスズーム式実体顕微鏡SZとオリンパス顕微鏡デジタルカメラDP25を使用して撮影した。

B 整理経過

平成25年度は、発掘調査と並行して現場調査事務所で遺物の洗浄・注記、2区採取土壌の水洗篩別と種実の抽出を行った。10月27日の現場撤収以後は、新潟市文化財センターで整理作業を行った。平成26年3月未までの間は、主として遺構の検討と遺構図面の整理、遺構断面図のデジタル図化、遺物の注記・接合・復元・分類・集計などの基礎作業を行った。

平成26年度は、報告書作成作業を行った。4月～10月には、報告書掲載遺物の抽出と実測・トレース、陶磁器類デジタル図化用の写真撮影、遺物写真撮影を行い、これをもとに遺物図版・挿図を作成した。この間、出土遺物の位置づけを目的とした関連遺跡での資料実見（梯子谷窯跡資料・重稲場窯跡資料・南赤坂遺跡出土土器・下稲場遺跡採集土器など）と各地の河川での川砂の採取・分類（信濃川・島崎川・角田山麓など）を行った。1月から2月にこれをふまえた検討を行い、その位置づけを確定させた。

平成27年度は、4月～7月に本文および挿図の作成を行った。

C 整理体制

平成25年度

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長：中野俊一・所長補佐：丸山憲幸・主任：遠藤恭雄）
調査担当	前山精明（新潟市文化財センター副主幹）

平成26年度

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長：中野俊一・所長補佐：福地康郎・主任：遠藤恭雄）
調査担当	前山精明（新潟市文化財センター副主幹）

平成27年度

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：前田秀子）
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長：中野俊一・所長補佐：福地康郎 渡邊朋和・主任：遠藤恭雄）
調査担当	前山精明（新潟市文化財センター学芸員）

第Ⅳ章 遺 跡

第 1 節 概 要

一般国道 460 号線の建設に伴い峰岡上町遺跡の北東部で実施した本次調査は、峰岡丘陵の北端に位置する 1 区と丘陵下の東部低地に設定した 2 区を対象とした。前者は丘陵部全域での面調査、後者は旧地形と遺物包含層の把握を目的としたものである。

1 区は北に向かって張り出す東部尾根、その西側に形成された小規模な窪地と西部緩斜面に分けられる。土砂の堆積は総じて少なく、基盤層までの層序は 2～3 層に大別できるのみである。本地区では縄文時代から近世にかけて断続的な利用が行われ、縄文時代・古代・近世の遺構が確認された。縄文時代の遺構は土坑とピット 1 基ずつに限定される。古代の遺構は掘立柱建物・焼土坑・畝状遺構などからなり、耕地や居住空間として機能していた。近世の遺構には井戸や遺物廃棄坑などがあり、三根山藩に関連した施設とみなされる。

2 区では大規模な埋没谷が確認された。遺物包含層上面までの掘り下げにとどまるが、縄文時代中期～後期と平安時代の遺物包含層が形成され、この間における古環境の変遷も明らかになった。縄文時代の層準には植物遺体が良好な状態で遺存しており、今後の調査をつうじ豊富な情報が得られるものと期待される。

第 2 節 微地形と層序

A 1 区

1) 微地形

峰岡上町遺跡は、角田山東南麓に形成された「峰岡丘陵」の北端に位置する。当丘陵では、文久 3 (1863) 年の三根山藩「高直り」に伴い大規模な地形改変が行われたといわれる。調査区南壁での観察によれば、これと前後する時期に形成されたとみられる盛土層が表土 (1 層) 内に堆積するが、平坦地での大規模な削平を示す形跡はみられなかった。基盤層上面地形に基づけば、本地区は次のような 3 エリアに区分できる。調査着手時設定した 3 個所のトレンチ位置と地区区分は図版 3 のとおりである。上空からの景観を写真図版 1・2 に示す。

① 西部緩斜面

調査区西部に設けた 1 トレンチ以西を本エリアとする。範囲内には L 列で斜度 9% ほどの小規模な張出しが形成され、その西部に緩やかな斜面が続く。張出し中央部での高度は、9.1m を最高とする。低域部では 7.4m を測り、北部に広がる低地へと同様の斜度で移行する。調査区南壁の連続柱状図 (図版 3 左) に表れる突出箇所は、近世終末に造成された「盛土遺構」である。

② 西部窪地

西部緩斜面の東に接して小規模な窪地 (谷) が存在しており、1 トレンチから調査区中央に設けた 2 トレンチまでの東西 22m の区域を西部窪地とする。両トレンチと窪地中央部での海拔は、1 トレンチが 8.0m～9.1m 台、中央部が 7.2m～9.2m、2 トレンチが 7.9m～10.4m 台を測る。東・西両斜面での斜度は、西側で 13%、東側で 16% 前後を測り、東側でやや急傾斜をなす。窪地の中央部は NE36° の方位をもち、14% の斜度で下降する。

③ 東部尾根

調査区の東部に位置し、北東に向かって張り出す尾根である。尾根の規模は、東西幅が 30m 弱、中央部での張り出しが 40m 弱である。斜度は中央部で 10%、東部斜面で 19%、西部斜面で 13% を測り、東斜面で急斜な

地形をなしている。尾根の高域部では、海拔 10m ライン以上に平坦面が存在する。その広がり、調査区南壁で 30m 弱である。

2) 層 序

調査区南壁で作成した層序図の中から、西部窪地の中央部、東尾根の平坦面～東・西斜面の層序を図版 4 に示す。図版 3 は、南壁と 3 箇所南北トレンチで作成した層序図に基づく連続的な土層柱状図である。表土から基盤層までの堆積土は 3 層に大別できる。

I 層

全域に堆積する表土層である。後述のⅡ層上の堆積土をⅠ層として一括した。堆積厚は最大 50cm ほどである。自然堆積による黒褐色～褐灰色腐植土を基本とするが、盛土や攪乱によって堆積状況は一様でない。南壁層序に基づけば、盛土層は東尾根東部の傾斜変換点付近、西部窪地の中央部、西側緩斜面の中央部に最大 20cm ほどの厚さをもって分布する（図版 4）。これらは藩政時代の地形改変に由来した堆積土とみられる。

Ⅱ 層

Ⅰ層下に堆積するしまりをもった腐植土含有粘土層である。古代を中心とした遺物を包含する。本層の色調・土質や堆積状況は一様でない。東部尾根の平坦面から東側斜面では、灰褐色を基調とした砂質粘土が堆積する。これ以外の区域では、にぶい赤褐色を呈する粘土層を基本的な土質とする。西部窪地と東部尾根の東斜面では、最大 50cm ほどの層厚をもち、良好な状態で残る。一方、東部尾根の平坦面では層厚 20cm、東部尾根の北側斜面や西部緩斜面では層厚 30cm ほどの堆積にとどまる。低域部では、尾根中央付近を中心に攪乱が著しい。

Ⅲ 層

灰黄褐色を基調とした緻密な硬質粘土である。西部窪地から西部緩斜面の東半部にかけてⅡ層下に堆積する。最大厚は 30cm ほどである。本層も古代を中心とした遺物包含層であるが、遺物の出土量は少ない。

Ⅳ 層

にぶい黄橙を基調とした基盤層である。本層の土質は、空間的に異なる。調査区南壁や 1～3 トレンチのあり方に基づけば、東部尾根の東斜面では砂質粘土が堆積する。尾根の中央部付近では、中域～低域部を中心にシルト層や砂層が堆積する。東部尾根の西斜面では次第に砂の含有量が減少化し、西部窪地や西部緩斜面一帯には粘土層が堆積する。

B 2 区

丘陵部 1 区の東直下に位置する低地である。地形と堆積層序を図版 5 と写真図版 3・5、各層から出土した代表的な遺物を第 10 図に示す。

1) 微 地 形

現在 2 区は海拔 6.8m 台の平坦な地形をなしている。これに対し、本次調査で確認された基盤層上面地形は、現況と大きく異なり、深さ 4m あまりの埋没谷が存在することが明らかになった。後述のように、堆積層はⅠ層～Ⅹ層に大別できる。層内に含まれる遺物や ^{14}C 年代測定値に基づけば、Ⅸ層～Ⅵ層が縄文時代中期～後期、Ⅴ層上部が西暦 700 年前後、Ⅳ層が 8 世紀代から 9 世紀代の堆積層とみなされる。

2 区中央に設けた南北トレンチの層序を図版 5 中段に示す。同図で表すⅤ層上面・Ⅳ層上面・Ⅲ層上面ラインは、北壁・南壁での確認レベルを直線的に結んだものである。同図上段の地形図は本次調査終了時点における状況で、南部の高域部はⅣb 層上部、北部の低域部ではⅥ層上部でのあり方に基づく。本地区における微地形の把握は今後の課題となるが、中央トレンチのあり方から各層上面の斜度をみると、Ⅳ層 3%・Ⅴ層 6%・Ⅵ層 15% となる。時間の経過とともに谷が次第に埋積し、古代前半には緩傾斜地へと移り変わったことがうかがえる。

2) 層 序

北壁および南壁の層序柱状図と中央南北トレンチの層序を図版 5 に示す。表土層（Ⅰ層）から基盤層（Ⅹ層）

に至る堆積層序は次のとおりである。

I層・II層

図版5では一括表示した。I層は灰白色～灰色の砂質粘土～粘土、II層は褐灰色粘土である。II層は5mm前後の灰白色粘土粒子を多量に含み、下部で5cmほどのIII層ブロックが混じる。ともに客土とみられ、近世以降の陶磁器を含む。前者は30cm、後者は20cm前後のほぼ均一な厚さで全域に堆積する。

III層

イネ科植物の茎や葉を多量に含む褐灰色～褐色層。上部は分解が進む有機物含有粘質土をなす。下部に向かって有機物の量が増加し、下半部では未分解有機物層に移行する。調査区全域に分布するが、北東に向かい層厚を増し、北東の最大厚は60cmほどとなる。少量の古代土器が出土したが、中世の堆積層と考えられる。

IV層

微細な未分解有機物を含む褐灰色軟質粘土層である。上部IVa層と下部IVb層に分けられる。IVa層では上半部を中心に微細有機物がラミナをなして堆積する。大形植物遺体では、クワイの球根を多く含む。IVb層は有機物の含有量が少なく、上部に弱いラミナを形成する程度である。堆積状況はIII層と類似し、北東にむかって層厚を増す。北東部での最大厚は70cmほどである。IV層下部を中心に9世紀前半の遺物が多量に包含されるもようである。この中には、古墳時代中期の土器1点(第10図7)が含まれる。

V層

VI層上の海拔5.5m域以下に分布する堆積層である。直径30cm前後の幹や樹枝などを多く含み、未分解有機物含有粘土層・未分解有機物層・粘質未分解有機物層・混砂未分解有機物層などが複雑に堆積する。ラミナの形成は微弱である。本層の斜度は下面で15度ほどを測るが、上面では5度以下にとどまり、本層の堆積によって谷の埋積化が進行したことがうかがえる。北壁中央部で最大80cm台の層厚をもつ。遺物は出土しなかったが、最上部の堆積樹木で行った¹⁴C年代測定でAD700年±20年の値がえられている。

VI層

V層下に堆積する未分解有機物含有粘土層である。色調は灰色や褐灰色を呈す。茎や葉を少量含み、一部でラミナの形成がみられる。分布は全域にわたる。北壁中央の西側で堆積が厚く、その層厚は40cmほどを測る。谷底付近の低域部から縄文時代後期中葉土器と剥片類が出土した。

VII層

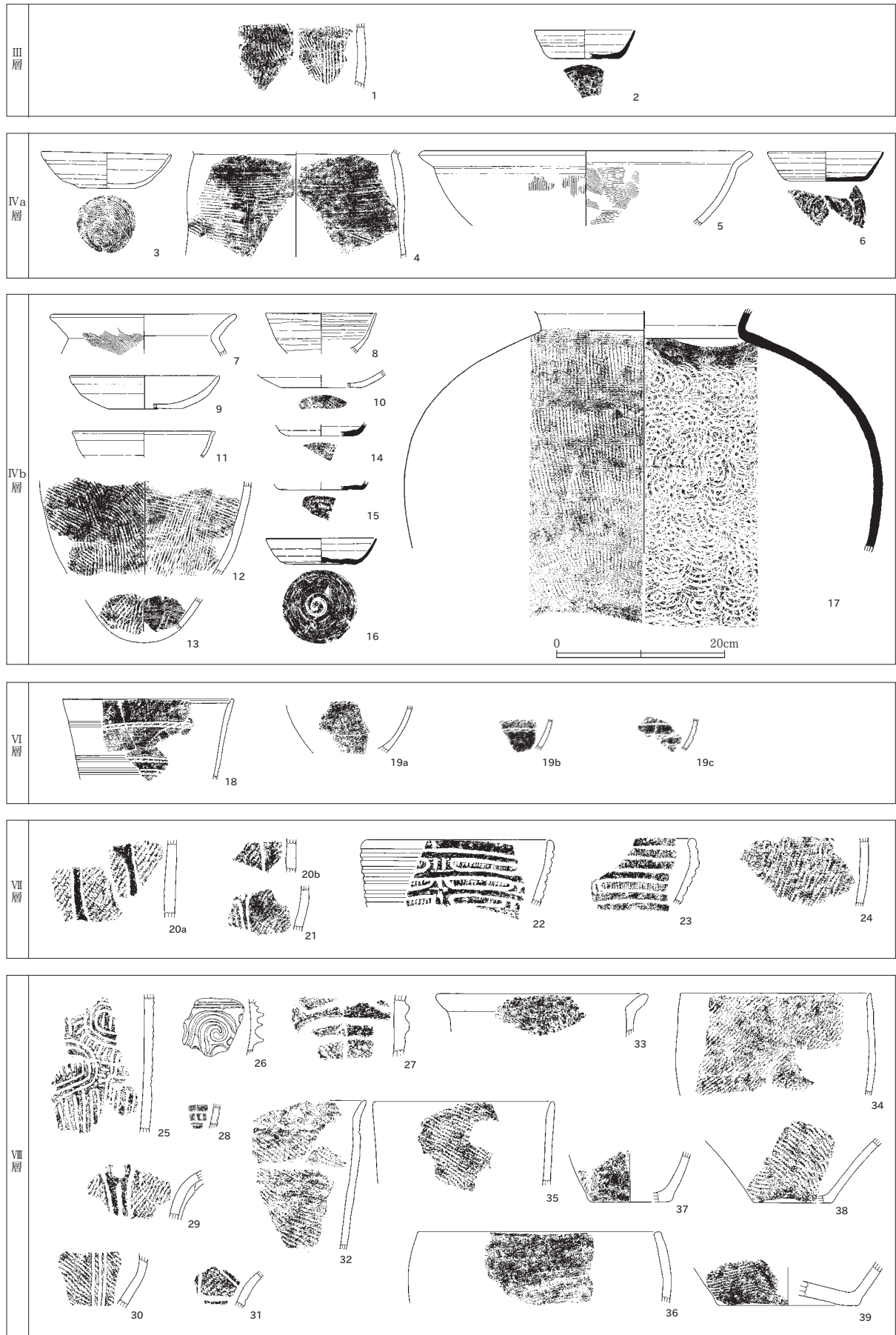
埋没谷の中央付近に分布する未分解有機物含有砂層である。堆積砂は粒子の粗い灰白色の泥岩が大半を占め、摩耗粒子は多くない。本層では長さ5cm未満の樹枝片や木本種子が多量に含まれる。調査区内での広がり、谷の中央部に限定され(図版5右下)、最大厚は40cmほどに達する。縄文時代中期中葉～終末の土器が出土した。

VIII層

谷中央の基底付近の堆積土である。上部VIIIa層と下部VIIIb層に区分できる。VIIIa層は、長さ1cm前後の樹枝や種実を多量に含む未分解有機物含有砂質粘土層である。色調は褐灰色を呈する。堆積レベルは海拔5m以下に限定される。北壁直下の中央付近で厚く堆積し、最大厚20cmほどを測る。縄文時代中期中葉土器や石器類が出土した。VIIIb層は、黒褐色を呈する軟質粘土層である。微細な有機物を微量に含むとともに、1～3cm大の炭化物を多量に含有する。部分的な調査にとどまるため堆積厚は明らかでなく、磨製石斧1点が出土したのみである。

IX層

谷最下部の堆積層である。明青灰色を呈する軟質粘土層で、VIII層と同様の分布域を有するとみられる。地山面が上昇する調査区北東コーナーや南北中央トレンチで一部が確認できただけで、谷底付近での堆積厚は明らかでない。所属時期が判然としない縄文土器が少量確認されたのみである。



第10図 層位別に見た2区の主要土器

X 層

浅黄橙色を呈する粘土層。2区の基盤層にあたる。層内には、長さ50cm以上の大型円礫が含まれる。

第3節 遺 構

A 概 要

本次調査で確認された遺構は、丘陵上の1区に限定される。2区については、包含層上面までの調査にとどまるため、遺構のあり方は明らかでない。1区の遺構は、縄文時代・古代・近世の3時代に大別できる。

縄文時代の遺構は、土坑1基とピット1基にとどまる。前者は西部緩斜面、後者は東部尾根の東斜面に位置する。前者で中期、後者で後期の土器が少量出土したのみである。

古代の遺構は、掘立柱建物3棟・ピット542基・土坑27基・焼土坑6基・焼土廃棄遺構7基・性格不明遺構21基・畝状遺構1417条からなる。掘立柱建物は東部尾根の頂部平坦面とこれに隣接する緩斜面に分布し、いずれも梁間2間の構造をもつ。焼土坑は西側緩斜面や東尾根に点在し、焼土廃棄遺構が付近に分布する。これらは8世紀後半～9世紀前半に構築されたものである。畝状遺構は1区全域に分布する。掘立柱建物や焼土坑との重複関係から、集落の存続期間をつうじて存在し、建物の存続期間には共存したと考えられる。

近世の遺構は、井戸1基・盛土遺構1基・遺物廃棄坑3基・土坑2基・ピット2基・溝2条が西部を中心に分布する。このうち4箇所では、近世終末の陶磁器類が接合関係をもって出土した。調査地は三根山藩上級武士層の居住エリアに隣接しており、これに関連した遺構とみなされる。

B 遺 構 の 区 分

1) 所 属 時 期

縄文時代・古代・近世以降の遺構に大別する。その基準は次のとおりである。

① 縄文時代の遺構

縄文土器が単独で出土した箇所を本時代の遺構とした。1区では西部を中心に縄文土器が分布するが、古代の遺物と混在状態で出土した。そのため、本時代の遺構認定は、多分に流動的な面がある。

② 古代の遺構

覆土にⅡ層またはⅢ層と同質の土砂が堆積する遺構のうち、縄文時代とみなしたものの以外をこれとする。遺物を伴わない箇所については、縄文時代に属す遺構が含まれる可能性もある。Ⅳ層上面で確認した畝状遺構については、分布の上で古代の掘立柱建物と有意な関連性をもつことから同時代の遺構と判断した。

③ 近世の遺構

Ⅰ層を構築面とするものや覆土にⅠ層が堆積する遺構をこれとする。近世陶磁器が出土することからこの時代の遺構としたが、近代まで下降する箇所が含まれる可能性もある。

2) 種 別

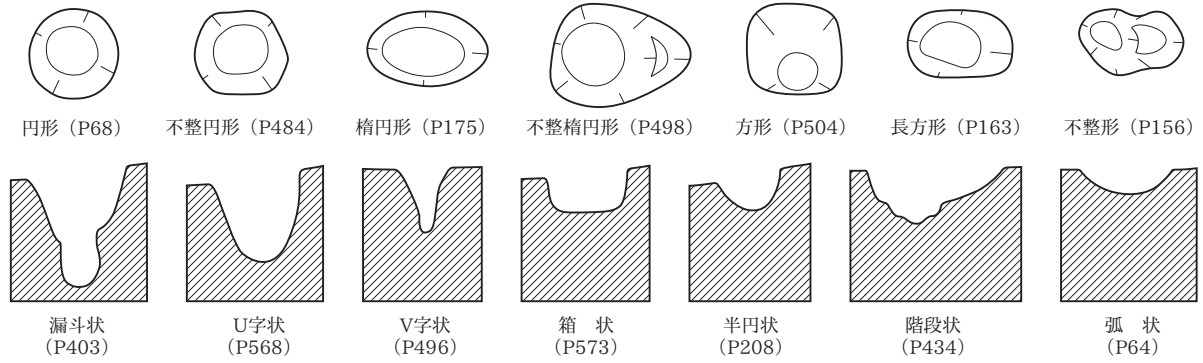
掘立柱建物・ピット・土坑・焼土坑・焼土廃棄遺構・性格不明遺構・畝状遺構・井戸・盛土遺構・遺物廃棄遺構に区分する。近世の井戸・盛土遺構・遺物廃棄坑については、個別遺構の項で記述する。

① ピ ッ ト (P)

最大径1.2m未満の落ち込みをピットとした。平面形と断面形を第11図のように区分する。堆積土のあり方としては、断面に柱痕をもつ1類と柱痕が確認できない2類に大別する。後者については分層が可能な2a類と単層の2b類に区分する。

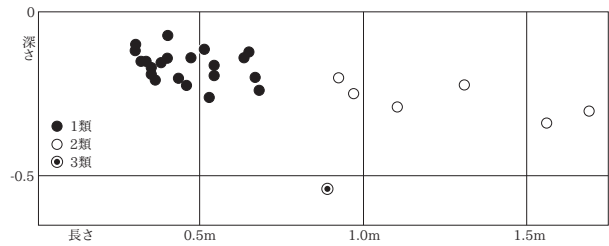
② 土 坑 (SK)

最大長2mに満たず、上面規模に較べて概して浅い掘込みを土坑とした。平面形や規模の上でピットに類す



第 11 図 ピットの区分

るものもあるが、柱痕が確認できず、掘り込み規模が大きい場合はこれに含めた。最大長・最大深度に基づく区分を第12図に示す。最大長30～60cm台・深度30cm未満を1類、最大長90～130cm台・深度30cm未満を2類、深度50cm以上を3類とする。



第 12 図 土坑の区分

③ 焼土坑 (FP)

内部が被熱し、多量の焼土や炭化材を伴う遺構をこれとした。円を基調とした平面形をもち、掘込が浅い1類、平面形が楕円をなし、深く掘り込む2類、平面形が方形または隅丸方形をなす3類に区分する。

④ 焼土廃棄遺構 (P・SK・SX)

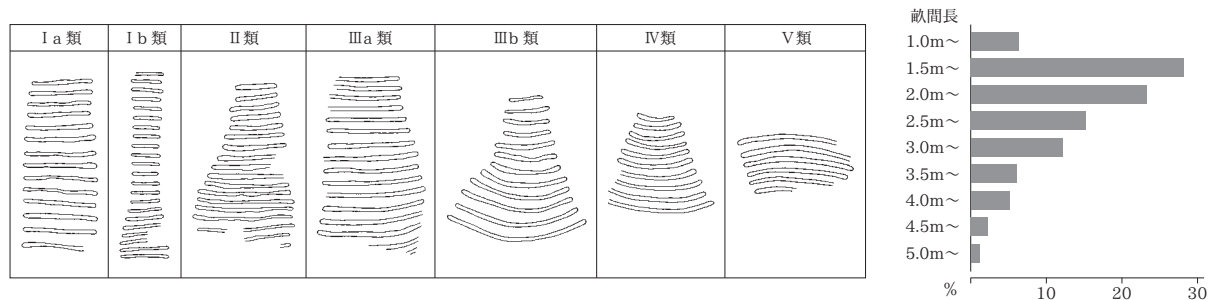
被熱痕が確認できないピット・土坑や浅い落ち込み内に多量の焼土が堆積する箇所をこれとした。形状・規模の点では上記遺構や性格不明遺構の範疇に含まれることから、P・SK・SXと表記する。

⑤ 性格不明遺構 (SX)

ピットや土坑と形状・規模が異なる落ち込みを便宜上これとする。浅く緩やかに窪むものを1類、不整形な形状をもつものを2類、上面規模が1.5m、最大深度が70cm以上の大規模なものを3類とする。このうち3類は沖積地の遺跡で「井戸」と見なされる遺構と類似する箇所もあるが、1区では地下水位が低く、本類分布域のIV層が保水機能をもたない砂質粘土や砂層であることから異なる性格の遺構とみなした。

⑥ 畝状遺構

IV層上面において幅20～30cm、長さ数mの「しまりをもった粘質土」が数条にわたり平行かつ等間隔に連なるものを畝状遺構とした。形状の類似例から畝跡とみなされる。条の走行と形状に基づき、一単位をなす畝の把握が可能なことから第13図のような区分を行う。「短冊形」をなすものをI類とする。真正な短冊形をなすIa類と一方の端部が幅を増して「撥形」をなすIb類に分かれるが、全体形が把握できない場合は細分しない。直線的な畝が主として低域部に向かって長さを増し、「撥形」をなすものをII類とする。I類との線引きは、畝



第 13 図 畝状遺構の区分

の長短が1.5倍以上を本類とする。Ⅲ類～Ⅴ類は、畝が弧をなすものである。Ⅲ類は、高域部で直線的な畝をもち、低域部に向かって次第に弧を描いて張り出す。全体形がⅡ類と類似し「撥形」をなすものをⅢa類、低域部に向かって強く張り出し「扇形」をなすものをⅢb類とする。Ⅳ類は畝全体が低域部に向かって張り出し、畝間長を増しながら扇形をなすものである。Ⅴ類は全体形を把握できるものがないが、高域部に向かって弧を描くものとする。以上の中で主体をなすのは、Ⅰ類とⅡ類である。第13図右のように、両者における粘質部の長さは2m台を中心とした一峰性分布を示す。ここでは便宜的に、長さ1.5mに満たない少数例をA種、1.5m以上～2.0m未満に分布する主体的な畝をB種、出現率10%台を示す2.0m以上～3.0m未満をC種、これ以上の長さをもつものをD種とする。

C 遺 構 各 説

1) 縄 文 時 代

土坑1基・ピット1基にとどまる。2区の埋没谷下底部に形成される縄文時代中期・後期の遺物包含層に対応する遺構は確認できなかった。

SK440 (図版7・14、写真図版6)

縄文土器の中心的な分布域にあたる西側緩斜面に位置する。西部が攪乱によって失われるが、長さ1.51m以上・深さ55cmを測る。平面形は不整楕円、断面形は半円状をなす。覆土は3層に区分され、いずれもⅢ層と同様の緻密な粘土が自然堆積する。中期中葉に属す1個体分の土器片が2層から7点出土した(図版44-5)。

P573 (図版13・14、写真図版6)

1区東部の斜面8.2m域に位置する。最大長26cm、深さ15cmたらずの小ピットである。不整楕円の平面形と階段状の断面形をもつ。覆土は単層で、暗褐色粘土が堆積する。後期に属す土器片1点(図版44-9)が出土した。

2) 古 代

掘立柱建物3棟・ピット542基・土坑27基・焼土坑6基・焼土廃棄遺構7基・性格不明遺構21基・1417条の畝状遺構を本時代の遺構として扱う。これらは、確認レベルのうえでⅡ・Ⅲ層内とⅣ層上面に分かれる。前者は、焼土坑のすべてと焼土廃棄遺構の一部、尾根東部の一角に分布するピット・土坑群である。尾根東部の上面確認遺構群は、Ⅱ層の保存状態が良好な区域にあたる。この中にはⅣ層上面で消失する箇所が多くあり、他の区域の遺構と同列に扱うことができないため、以下では別個に記述する。

地形区分別に遺構の分布状況を見ると、西部緩斜面と西部窪地では2b類を中心としたピットが多数分布するが、前者で焼土坑、後者で焼土廃棄遺構1基ずつが確認できるのみである。これに対し、東部尾根では掘立柱建物3棟・ピット273基(1類14基)・土坑27基・焼土坑5基・焼土廃棄遺構6基・性格不明遺構21基が分布し、本時代の中心的な利用空間をなしている。

① 掘立柱建物 (図版10・18～22、写真図版6～9)

東部尾根中央の頂部平坦面とその北側緩斜面に分布する。このうち2棟(SB516・SB621)の柱穴覆土から出土した炭化材で¹⁴C年代測定を行った。その結果は第VI章第2節で示すように、前者でAD760±20年、後者でAD780±20年の値がえられている。SB621はSB622と重複し、後者は焼土坑のFP365に切られる。FP365から採取した炭化材の¹⁴C年代はAD760±20年前と推定されている。以上のような値が各遺構の機能年代を正しく示すとすれば、3棟の建物はSB622(760年以前)・SB516(760年前後)・SB622(780年前後)の順に変遷することになる。

SB516 (図版10・18・19、写真図版7)

東尾根中央の頂部平坦面に位置する。NW66°を主軸とした梁間2間・桁行5間の庇付建物である。南西コーナーが調査区外に広がるが、長軸規模10.2m・短軸規模4.8m以上を測る。調査区内で確認できる15基の柱穴は、円(P316など)・楕円(P478など)・不整楕円(P484など)の平面形をもち、断面形は半円状(P479など)・

U字状 (P309 など)・箱状 (P476 など) を呈する。このうち、南部列中央の P613、東部列西の P480・P478・P484、南部列西側の P309 は柱痕をとどめる。使用される柱は、径 15cm 前後とみられる。以上 5 基の上面最大長は 42cm ~ 56cm、最大深度は 26cm ~ 52cm を記録する。これ以外の柱穴は、上面最大長 22cm ~ 50cm を測り、40cm 未満が 6 基を占める。これらはいずれも 2b 類にあたるが、北西コーナーの P316 と北部列西側の P308 は 30 ~ 40cm 台の最大深度をもち、他の柱穴に較べ大形である。東部列東の 3 基は庇柱で、最大深度 8cm ~ 34cm を測る。柱の間隔は、東部列で 2.4m ~ 2.5m、西部列で 1.8m を測る。北部列では 1.5m ~ 2.5m、南部列では 1.7m ~ 1.9m の間隔をもち、やや規則性に欠ける。本遺構では、P481 (単層) から出土した炭化材で ^{14}C 年代測定を行った。

SB621 (図版 10・20・21、写真図版 8)

東部尾根中央部の緩斜面 9.1m ~ 9.5m 域に位置し、前述の SB516 から北約 7m にある。NW63° を主軸とした梁間 2 間・桁行 3 間の建物である。長軸規模は 7.3m、短軸規模は 4.9m を測る。10 基の柱穴は、円 (P461)・楕円 (P434)・不整楕円 (P384 など)・方形 (P614) の平面形をもつ。断面形は階段状 (P409 など)・U 字状 (P461 など)・半円状 (P384)・箱状 (P614) を呈し、過半数が階段状に該当する。掘り込み規模は、上面最大長が 55cm ~ 116cm、最大深度が 26cm ~ 68cm を測り、SB516 に較べともに大形である。西部列の P461・P462、南部列の P460・P384、北部列の P448・P434、東部列の P409 では柱痕をとどめる。使用される柱は径 20cm ほどとみられ、SB516 より太めである。柱の間隔は、東西列で 2m ~ 2.5m、南北列で 2.2m ~ 2.4m である。本遺構では、北西コーナーに位置する P463 の 1 層から出土した炭化材で ^{14}C 年代測定を行った。

SB622 (図版 10・22、写真図版 9)

SB621 の東部と西半部が重複する。梁間 2 間・桁行 2 間の建物で、主軸方位は SB621 と 90° 異なる。建物規模は、長軸 4.9m、短軸 4.2m である。整理作業の段階でプランを確認したため、エレベーションは作成していない。西列中央の P469 は FP365 (焼土坑) に切られるため下部だけが遺存する。東列中央の P626 は調査時点で SX471 の 1 層として扱っていたが、遺構断面からピットと判断した。北東コーナーの P415 は、確認レベルが最も低い。深さ 8cm ならずの小ピットであるが、基底レベルが他のピットとほぼ同一であることから柱穴とみなした。以上を除いた 5 基の柱穴は、円 (P421 など)・不整円 (P432)・不整楕円 (P374 など)・長方形 (P395) の平面形をもち、断面形は半円状 (P390 など)・階段状 (P374 など)・箱状 (P432) からなる。掘り込み規模は、上面最大長が 46cm ~ 83cm、最大深度が 22cm ~ 40cm を測る。いずれのピットも柱痕をとどめており、使用される柱の径は 20cm 弱とみられる。柱の間隔は、東西列で 2m ~ 2.3m、南北列で 2.3m ~ 2.5m である。

② ピ ッ ト (図版 14~17、写真図版 6)

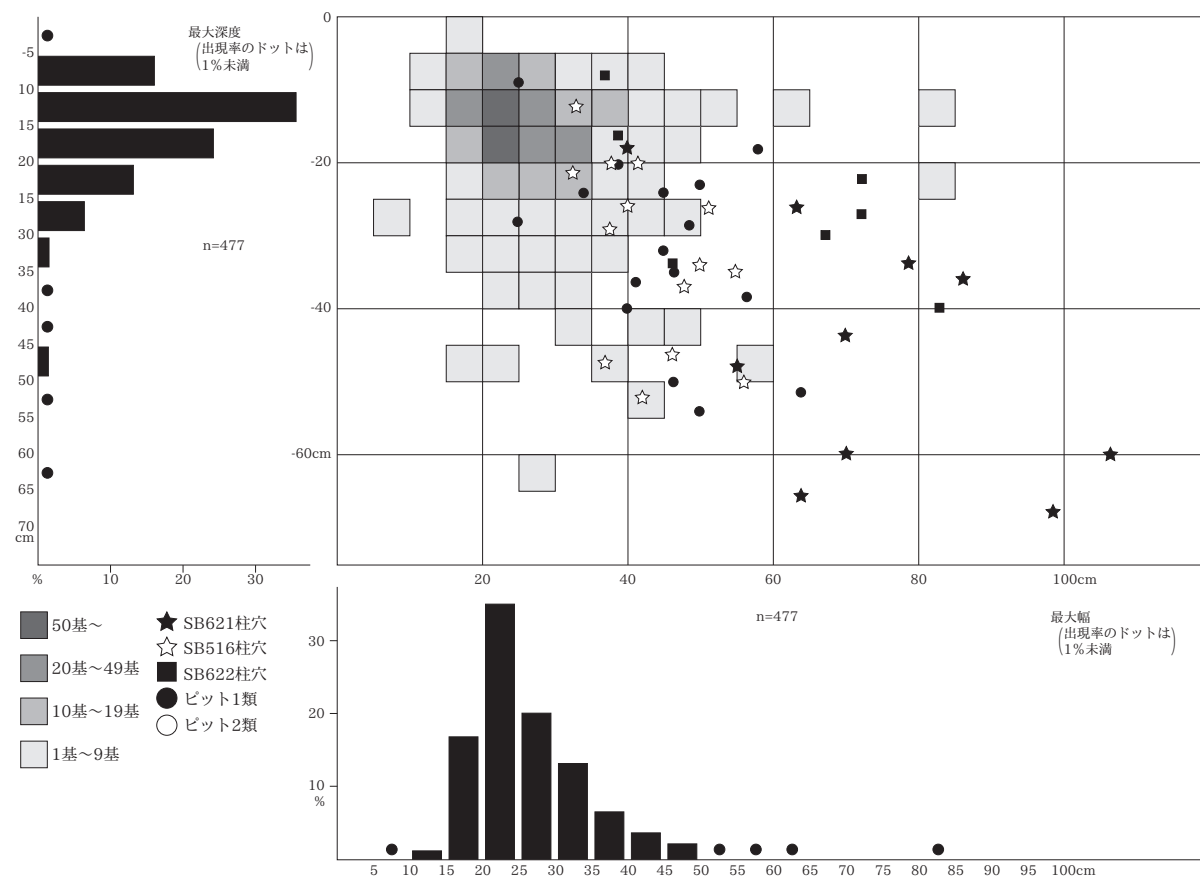
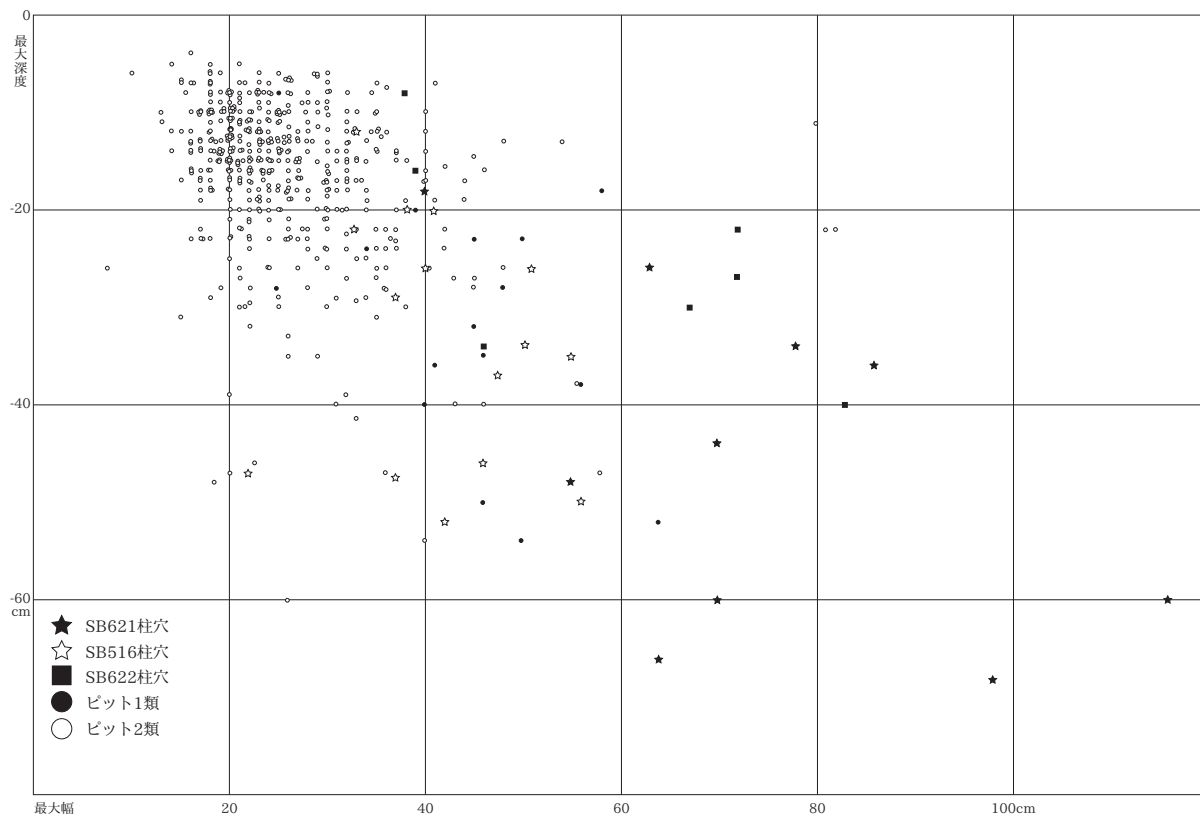
掘立柱建物の柱穴以外を本項で扱う。第 14 図に上面最大幅と最大深度に基づくサイズ分布を示す。柱痕をとどめる 1 類を黒丸、欠落する 2 類を白丸で示した。比較例として、3 棟の掘立柱建物の柱穴を星印で示す。ピット 2 類の大きさは、掘立柱建物の柱穴やピット 1 類に較べ、最大幅・深度の両面で下回る。前項で述べた掘立柱建物では、1 類 52%・2 類 48% の割合を示す。小規模な 2 類の中には単層の 2b 類が多く、自然営力によって生じた疑似遺構が少なからず混在するものとみられる。以下では、地形区分ごとに記述する。

西部緩斜面 (図版 23)

76 基が分布する。内訳は、2a 類 4 基 (5%)、2b 類 72 基 (95%) である。柱痕をとどめるピットは皆無である。遺物が出土したピットは 4 基 (5%) にとどまる。本エリアのピット上面最大幅は 13cm ~ 46cm の範囲にあり、20cm 台が 62% を占める。深さは 7cm ~ 32cm を測り、10cm 台が 63% 占める。図版 23 に 9 基を示す。P19・P21・P101 は 2a 類、P20・P51・P100・P160・P161・P164 は 2b 類である。

西部窪地 (図版 23)

100 基が分布する。本エリアでも 1 類は皆無で、2a 類 1 基 (1%)、2b 類 99 基 (99%) からなる。遺物が出土したピットは 11 基 (11%) を数え、西部緩斜面に較べ増加傾向にある。本エリアのピット上面最大幅は



第14図 ピットのサイズ分布

16cm～48cmの範囲内にある。最も多いのは20cm台(49%)で、以下30cm台(30%)・10cm台(16%)・40cm台(5%)の順に続く。深さは6cm～47cmの範囲にあり、10cm台が64%を占める。図版23に2b類の13基を示す。

東部尾根Ⅱ層(図版16・17、写真図版6)

東斜面のQ11・12区Ⅱ層から確認されたピットは60基を数える。柱痕をとどめるものではなく、2a類7基(12%)・2b類53基(88%)からなる。遺物は25基(42%)から出土し、西部窪地の4倍の数値を示す。本エリアのピット上面最大幅は15cm～42cmを測る。このうち20cm台が63%を占める。深さは7cm～27cmの範囲内に分布し、10cm台が69%を占める。図版16・17に12基を示す。P211・P212・P282・P283は2a類、P232・P233・P251・P252・P263・P266・P239・P247は2b類にあたる。

東部尾根Ⅳ層(図版24・25)

Ⅳ層上面から確認したピットは273基にのぼる。内訳は、1類15基(5%)・2a類24基(9%)・2b類233基(86%)である。遺物は55基(20%)から出土し、東部尾根Ⅱ層に次いで高い割合を示す。図版24・25に26基を示す。

1類は15基すべてを示した。P380・P386・P387・P388・P402・P403・P406・P423・P424・P492・P502・P506・P568・P604・P611が該当する。図版14左下のように、これらはSB621・SB622の周辺に集中するが、有意な配列を見いだすことはできなかった。1類の上面最大幅は30cm台3基・40cm台7基・50cm台4基・60cm台1基、深さは10cm台2基・20cm台4基・30cm台5基・40cm台1基・50cm台3基である。

2a類はP381・P397・P404・P408・P416・P456、2b類のP319・P320・P361・P620を示した。両者の上面最大幅は、20cm台(53%)を中心とし、30cm台(22%)・10cm台(19%)がこれに次いで多い。深さは10cm台が圧倒的に多く、73%に達する。

③ 土 坑

総数27基を数え、すべてが東部尾根の東半部に分布する(図版15)。確認層位はⅡ層内とⅣ層上面に分かれ、前者17基、後者10基からなる。分類別の内訳は、1類20基・2類6基・3類1基である。確認層位別に見た土坑サイズに違いはない。

東部尾根Ⅱ層

1類15基・2類2基からなり、図版16に全体分布図、17に11基を示す。2類のSK259については、焼土廃棄遺構の項で記述する。

SK214・SK215・SK216(図版16・17)

東斜面高域部の10.5m域に位置する。いずれも最大長40～50cm台、深さ10cm前後の1類にあたり、SK215が2基に切られる。SK215で土師器の小破片1点と少量の焼土ブロック、SK216で土師器の小破片が出土した。

SK222(図版16・17)

SK216の北1.4m、10.4m域に位置する。NE48°を長軸とした楕円形の平面形をもち、底面は自然地形に沿って傾斜する。最大長65cm・深さ12cmを測る1類土坑である。遺物は出土しなかった。

SK235(図版16・17)

SK222の東1.4m、10.1m域に位置する。平面形は等高線と同様の軸をもった楕円形、断面形は半円状を呈する。最大長53cm・深さ27cmの1類土坑である。土師器のハケ甕片(図版49-41・42)と焼土・炭が出土した。

SK238(図版16・17)

SK235の南2m、10.0m域に位置する。最大長30cm、深さ12cmたらずの小形1類の土坑である。楕円形の平面形と弧状の断面形をもち、底面が自然地形に沿って傾斜する。土師器のハケ甕(図版49-43)と炭が出土した。

SK241 (図版 16・17)

SK238の南1m、10.0m域に位置する。最大長34cm・深さ17cmたらずの1類土坑である。円形の平面形と階段状の断面形をもち、底面が自然地形に沿って傾斜する。上部1層で焼土と炭を少量伴う。

SK248 (図版 16・17)

SK235の北1.6m、9.9m域に位置する。SK241と近似した形状・規模をもつ小規模な1類土坑である。単層覆土から土師器の小破片と炭が出土した。

SK262 (図版 16・17)

9.4m～9.8m域の南壁付近に形成された遺構密集域の南西側に位置する。長さ1mほどの長楕円の平面形をもち、深さ20cmを測る2類土坑である。単層覆土に炭と少量の焼土粒子を含む。本遺構はP285とP289の上に掘り込まれる。北部がFP261、南部がSK286に切られ、上部にはSX260(焼土廃棄遺構)が覆う。

SK270 (図版 16・17)

10.2m～10.3m域北部に位置する遺構密集域の南側にある。最大長46cm、深さ22cmの1類土坑である。平面は不整形で、断面形は不整箱状を呈する。土師器の小破片と炭が出土した。

SK281 (図版 16・17)

SK270の北0.5mたらずに位置する。最大長43cm、深さ20cmの1類土坑で、覆土1層から土師器・須恵器の小破片が出土した。SX209・SX272と重複しており、SX272を切り、209に先行する。

SK286 (図版 16・17)

SK262の南部を切る土坑である。平面形は等高線と同一方位を軸とする不整楕円、断面形は弧状をなす。最大長70cm弱、深さ14cmを測り、1類としては大形の土坑である。覆土1層から土師器の細片と炭が出土した。

東部尾根Ⅳ層

1類5基・2類6基・3類1基からなる。図版26にすべての土坑を示す。

SK412 (図版 10・26、写真図版 11)

中央部低域の9.3m域に位置する。2類にあたる小形土坑で、不整楕円の平面形と弧状をなした断面形をもち、炭化物や土器などは皆無である。

SK491 (図版 10・26、写真図版 11)

FP9の中央部に重複する土坑である。唯一の3類にあたり、不整楕円の平面形と半円状の断面形をもち、本遺構は自然堆積によって埋積するが、上部3層内に大形焼土ブロックを含む。下部4層から9世紀前半の土師器無台椀(図版49-44)が出土した。

SK498 (図版 10・26)

中央部高域の10.3m域に位置する。2類にあたる小形土坑で、不整楕円の平面形と弧状の断面形をもち、上部から少量の炭と土師器の細片1点が出土した。

SK536 (図版 11・26、写真図版 11)

中央部中域の9.5m域に位置する。平面が長楕円をなした2類土坑で、底面は自然地形に沿って傾斜する。単層覆土には、少量の炭が含まれるのみである。

SK551 (図版 11・26)

Ⅱ層内の北部遺構密集域下に位置する。平面形が不整楕円をなした1類土坑。断面形は弧状を呈する。単層覆土には、少量の炭が含まれるのみである。

SK553 (図版 11・26、写真図版 11)

東斜面の9.9m域に位置する。不整楕円の平面形と階段状の断面形をもち1類土坑。遺物は出土しなかった。本遺構と重複するP255は、覆土を掘り込む。

SK560 (図版 11・26、写真図版 11)

SK553 の南 0.5m に隣接した 9.8m ～ 9.9m 域に位置する。平面楕円形、断面半円状の 1 類土坑。底面は自然地形に沿って傾斜する。単層覆土内には、少量の炭を含むのみである。

SK562 (図版 12・26)

中央部低域の 8.4m ～ 8.5m 域に位置する。平面不整楕円形、断面弧状をなした 2 類土坑。単層覆土内に少量の炭を含む。

SK579 (図版 11・26、写真図版 11)

頂部平坦面東部付近の 10.5m 域に位置する。平面形は不整楕円、断面形は弧状をなす。最大長 1.69m、深さ 30cm を測る 2 類土坑である。覆土には粘土が堆積し、4 層に分かれる。炭は含まない。

SK600 (図版 13・26)

東斜面裾部の 8.3m ～ 8.4m 域に位置する。不整形な平面形態をもち、断面形は弧状をなす。底面に径 14cm・深さ 14cm の小ピットを伴う 1 類土坑。単層覆土には、少量の炭を含む。

SK617 (図版 10・26、写真図版 11)

頂部平坦面中央の 10.5m 域、SB516 の内部に位置する。不整円の平面形と弧状の断面形をもつ 1 類土坑である。地山ブロックを含むが、炭は確認できなかった。

SK619 (図版 10・26、写真図版 11)

SK617 の東 5m、10.3m ～ 10.4m 域に位置する。平面は不整長楕円形を呈する。長軸断面形は非対称をなし、底面は平坦な形状をなす。最大長 1.31m、深さ 22cm を測る 2 類土坑である。覆土に炭は含まない。

④ 焼 土 坑

西部緩斜面に 1 基、東部尾根に 5 基が分布する。前者はⅢ層、後者はⅡ層内を確認面とする。

FP2 (図版 7・27、写真図版 12)

西部緩斜面の西側、8.4m ～ 8.5m 域に位置する。南側の一部が失われるが、全体形は不整円をなすとみられる。最大長は 1.99m。掘り込み深度は 16cm、壁面斜度は 70° 前後である。底面は自然地形に沿って緩やかに傾斜する。壁面東部と底面全体が被熱によって硬化しており、その範囲を網で示した。硬化面の厚さは最大 2cm を測る。覆土には焼土ブロックや炭が東部を中心に多量に含まれる。1 層・2 層から 8 世紀代の土器が出土した。

FP9 (図版 10・27、写真図版 12)

東部尾根中央の最低域部、海拔 8.7m 域に位置する。丘陵裾部をめぐる農道によって北部が削平されるため全体形は明らかでないが、NE13°ないしは NW63°を軸とした長方形の遺構とみられる。平面規模は東西 1.96m、南北 1.46m 以上、掘り込み深度は最大 48cm を測る。壁面の斜度は、南面・西面で 80°、東面で 70° 前後をもつ。底面は中央に向かって緩やかにくぼみ、炭を稀薄に含む 6 層(砂質粘土)が全面を覆う。壁面は強い被熱によって全域が硬化する。硬化層の厚さは、最大 4cm におよぶ。底面には 6 層上に不整形な形状の硬化面が形成され、南西コーナーでは炭化材が密な状態で堆積する。1 層・2 層から 8 世紀代～ 9 世紀前半の土器が出土した。本遺構では、南西コーナー出土の炭化材で ¹⁴C 年代測定を行った。

FP261 (図版 11・17、写真図版 14)

東部尾根東斜面の 9.3m ～ 9.6m 域に位置する。NE82°を軸とした楕円形の焼土坑である。平面規模は、長軸 1.12m、短軸 0.87m。断面形は、長軸方向が箱状、単軸方向が半円状をなす。最大深度は 53cm を測る。本遺構の覆土は 5 層からなる。いずれも斜面上部からの土砂供給によって堆積することが特徴である。被熱による硬化面は、最下部 5 層(砂質腐植土)の上に傾斜状態で形成される。硬化面の厚さは 2cm 前後を測る。上部を覆う 3 層内には、炭化材や焼土粒子が多く含まれ、同層を中心に 8 世紀末～ 9 世紀初頭の土師器と須恵器が出土した。

FP333 (図版 9・27、写真図版 13)

東部尾根西斜面の 9.8m 域に位置する。平面が円形をなした焼土坑で、最大長 81cm、最大深度は 20cm を

測る。断面形は弧状を呈し、底面は概ね平坦である。底面と壁面の全域が被熱によって硬化する。硬化面の厚さは2cm。覆土には、多量の炭化材が含まれる。微細な土師器1点が出土したのみで、所属時期の特定は難しい。

FP365 (図版10・27、写真図版13)

東尾根中央部の9.4m域に位置し、前述のSB621およびSB622と重複する。本遺構の北側は上部が削平されるため不整形な平面形をもつが、東部と南部が良好に保存されており、NW32°を軸とした一辺1.6mほどの隅丸方形をなしたものとみられる。掘り込み深度は16cm、壁の角度は50°前後を測る。埋積土は二層に大別できる。下部層(11~13層)では被熱による焼土層が見られず、多量の炭化材とともに焼土ブロック・粒子を含む。上部層(1~10層)では焼土硬化面が上下2層にわたり形成され(5・6層)、下面レベルで木炭層(10層)が堆積する。層厚は、上部焼土層が8cm、下部焼土層が10cm、木炭層が6cmである。最上面の2層から黒色土器と須恵器が出土した。本遺構では上部層下面の木炭層の炭化材で¹⁴C年代測定を行った。

FP376 (図版12・28、写真図版14)

東部尾根中央部の8.8m~8.9m域に位置し、FP9の南東4m、FP365の北東6.6mにあたる。本遺構も低域側の北部が削平され、やや不整形な形状をもつ。保存状態が良好な西部と南部に基づけば、一辺1.5mほどの隅丸方形をなした、とみられる。掘り込み深度は26cm、壁の角度は最大80°を測る。埋積土は二層に大別できる。下部層(5・6層)では微細な炭を多量に含む。上部層では東・南・西コーナーを結ぶ壁ぎわに3cmほどの焼土ブロック層(4層)が30cm弱の幅でL字状に集合堆積する。4層上には多量の炭や焼土粒子を含む1層・2層が堆積する。

⑤ 焼土廃棄遺構

以下の7箇所を焼土廃棄遺構とする。地形別に見た数は、西部窪地1箇所、東部尾根の中央部4箇所、東部尾根の東斜面3箇所である。

SX7 (図版8・28、写真図版15)

西部窪地の中央部、8.3m域に位置する。最大長56cm、深さ16cmを測る円形の落ち込みである。断面形は弧状をなし、自然地形にそって底面が傾斜する。単層覆土(シルト)から多量の焼土粒子(5~10mm)とともに炭(5~10mm)・被熱礫が出土した。

SX377 (図版12・28、写真図版15)

東部尾根中央の低域緩斜面、8.3m域に位置する。NW77°を軸とする不整長楕円形の落ち込みである。長さ2.04m、最大幅1.1m弱、深さ19cmを測り、断面形は不整形な弧状を呈する。最大1cmほどの焼土ブロックを多量に含む箇所が落ち込み内に点在する。関連資料としては、須恵器無台杯の焼成不良品が破片化した状態で3点出土した。

P410 (図版10・21、写真図版15)

東部尾根の中央部に位置するSB621の東部列柱穴P411と重複する小ピットで、FP365(焼土坑)の東0.4mたらずに隣接する。深さ20cm弱の単層覆土に、最大10mmほどの焼土粒子が多量に含まれる。

P434 (図版10・21、写真図版15)

SB621の柱穴で、FP365の北約1.7mに位置する。上面に堆積する1層において、炭や地山ブロックとともに、1~10mm大の焼土粒子が多量に確認された。

SX379 (図版10・28、写真図版15)

FP365の東0.7mたらずに位置する。P422の埋積土上部に形成された不整楕円の浅い落ち込みである。最大長62?cm、深さ11cmを測り、1層と2層から10mmほどの焼土粒子が多量に確認された。

SX414 (図版10・28、写真図版15)

東部尾根の中央部の9.5m~9.6m域に位置する。FP365の南東2m弱にあり、3トレンチの調査時に確認された。東部の広がり是不明であるが、最大長65?cm、厚さ12cmほどの緩やかな落ち込み内に5mm~

10mm の焼土粒子が多く含まれる。

SX260 (図版 11・17、写真図版 6)

東部尾根東斜面のⅡ層内から確認された FP261 (焼土坑) の上部を覆う浅い落ち込みである。海拔 9.60m 域にあたる。全体的な広がりは明らかでないが、3～10mm 大の多量の焼土粒子が最大 10cm ほどの厚さをもって東西 70cm の範囲に自然傾斜に沿って堆積していた。

SK259 (図版 13・17、写真図版 15)

SX260 の南西に隣接する。NW26° を軸とした長さ 1m 弱、深さ 25cm の不整楕円形の土坑である。土坑分類に従えば、2 類にあたる。覆土は 4 層に分けられ、3mm ほどの焼土粒子が上部の 1 層・2 層で多量に含まれていた。2 層から羽口片 2 点が出土した。

SX278 (図版 13・28、写真図版 15)

東部尾根東斜面の 8.7m 域に位置し、FP261 (焼土坑) の東 4m にあたる。3mm 前後の焼土粒子が南北 70cm・東西 40cm ほどの範囲に厚さ 1cm ほどの薄層をなして傾斜堆積していた。

⑥ 性格不明遺構

前項で扱った「焼土廃棄遺構」以外の 10 箇所を図版 16・29 に示す。該当する遺構はいずれも東部尾根に分布する。確認層別別の内訳は、東部尾根Ⅱ層 2 箇所、Ⅳ層上面 8 箇所である。

SX209・SX272 (図版 11・16、写真図版 6)

ともに 1 類の遺構である。尾根東斜面のⅡ層内北部遺構密集域の北側に位置する。SX209 は全体形が不明であるが、最大長 70cm 台以上、深さ 22cm を測る。SX272 は、最大長 70cm、深さ 18cm を測る。両者の底面は自然傾斜に沿って傾斜する。ともに埋積土に多量の炭化材を含み、土師器・須恵器の細片が出土した。2 基とその周辺遺構の切り合い関係は、SK281・P210・P287 などを SX209 が切り、SX272 がさらにこれを切る。

SX291 (図版 11・29、写真図版 16)

尾根中央部の 9.7m～9.9m 域に位置する 3 類遺構である。平面形は、一辺 2.3m あまりの不整形を呈する。掘り込み深度は 70cm 近くに及び、内部が階段状に掘り込まれる。覆土には地山ブロックを含む粘土や砂質粘土がレンズ状をなして堆積する。炭は含まない。層位不明であるが、8 世紀代の土師器が出土した。

SX300 (図版 12・29、写真図版 16)

尾根中央部の 8.9m～9.1m 域に位置する 2 類遺構。全長 3.69m・幅 1.24m を測り、一端に小さな張り出しを伴う不整形な形状をなす。最大深度 34cm で、断面形は弧状を呈する。埋積土は均質な粘土からなり、微量の炭を伴うのみである。

SX326 (図版 9・29、写真図版 16)

尾根頂部の平坦面西部、10.4m 域に位置する 1 類遺構。平面形は不整円を呈し、最大長 46cm を測る。厚さ 10cm 程度の緩やかな落ち込みで、覆土に炭や地山ブロックを少量含む。

SX334 (図版 9・29、写真図版 16)

SX326 の東 60cm 程度に位置する 1 類遺構。平面形は不整円を呈し、最大長 71cm を測る。最大厚は 12cm にすぎない。覆土に少量の炭と焼土粒子を含む。

SX459 (図版 10・29、写真図版 16)

尾根中央部の裾部、9.0m～9.1m 域に分布する 1 類遺構。平面形は一辺 2.0m～1.7m の隅丸長方形をなす。深さ 15cm を測り、底面は平坦である。覆土は 4 層に区分でき、いずれも地山ブロックを含む。炭は稀薄である。

SX471 (図版 10・29、写真図版 9・16)

尾根頂部の中域部、9.4m～9.5m 域に位置する 3 類遺構である。本遺構の上面には、SB622 (掘立柱建物) の柱穴にあたる P626 が掘り込まれる。平面形は最大長 2m ほどの円をなす。最大深度は 95cm におよび、断面形はやや不規則な箱状を呈す。覆土には、地山ブロックを多量に含む粘土・シルトなどがレンズ状をなして堆

積する。炭はほとんど含まれず、上部5層で微量に確認されたのみである。なお、本遺構が構築される尾根中央部では、砂質に富んだIV層が分布しており、内部壁面にシルト層の堆積が見られる。

SX592 (図版13・29、写真図版16)

東斜面裾部の8.1m域に位置する。東部が農道によって削平されるため全体形は明らかでないが、等高線に沿って長軸をもつようである。深度は44cmにおよぶ。掘り込み内部は不規則な形状をなし、単層覆土に炭と焼土粒子が少量含まれる。

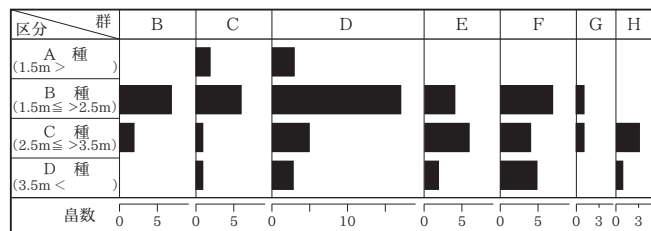
SX615 (図版10・29、写真図版16)

尾根中央部の頂部平坦面、SB516(掘立柱建物)北東コーナー内の10.5m域に位置する。平面形は不整楕円をなす。長さ94cm、深さ15cmたらずの1類遺構である。覆土に炭などは含まない。

⑦ 畝状遺構 (図版30～40、写真図版18～20)

1417条の粘質部を確認した。これらは色調差によって識別できず、鎌を用いて調査区全域を薄く削る作業をつうじて見出したものである。図版32・写真図版20に1区南壁での断面を示す。粘質部の断面はIV層上面に弧状をなして形成され、その厚さは最大10cmほどを測る。畝とみなされる明瞭な高まりは見いだせなかった。調査区東部の隣接区域が現在野菜畝として利用されており、その直交断面を同一図版および写真図版に示す。壁面にみられる連続的な凹凸は、「畝」と「畝間」である。このうち畝間の下部に畝状遺構に類した粘質土の堆積が確認できた。

畝としての単位が把握できた箇所は141箇所へのぼり、西部から通し番号を付した。これらは方位のうえで空間的なまとまりが見出せるところから、A～Hの8群を設定した。畝跡には高い頻度で重複がみられるが、粘性・しまりは畝間で異なる。その要因は存続期間の長短



第15図 畝状遺構における条の長さ

によって生じた可能性が高いため、畝の前後関係を把握するには至らなかった。このほか、一部の畝では、粘性・しまりを異にしたもう一条が並走するケースもみられた。こうした事例については、同一単位の畝における畝間の移動とみなされることから分離しなかった。以下、大別群ごとに記述する。

A 群 (図版33)

1区西端の緩斜面末端、海拔7.7m～8.2m域に位置し、NW9°～55°の方位で条が走行する4箇所を本群とする。平均方位はNW28°である。調査区西端にあたるため、南部や西部への広がりには明らかでない。全体形が把握できる畝はないが、V類にあたるものが1箇所存在する。本群内での重複例は半数にあたる2箇所である。

No.1 壁面下から2条を確認したのみである。方位はNW9°を示す。

No.2 No.1の南東3.5mに位置する。北西端部の1条が確認できたのみである。方位はNo.1に類似する。

No.3 No.2の東に接し、No.1・2と類似方位をとる。北東端部が遺存する3条が確認できたのみである。後述のB群No.3の東に接し、B群No.5～7と重複する。B群No.5との方位の異なりは90°である。

No.4 No.3の南に接し、V類にあたる唯一の畝である。畝間の形状は、高域に向かって長さを増しながら緩やかな弧を描く。畝間長は高域部で4.8m、低域部で2.9mを測り、3.8m(高低差0.5m)の間で6条確認できる。後述のB群No.5・6と重複する。

B 群 (図版33)

1区西部に形成された小規模な尾根の末端斜面7.5m～9.1m域に位置する。東西23mの間でNW80°～NW115°の方位をとる23箇所(No.5～27)を本群とする。平均方位はNE86°である。東半部で攪乱が著しく、西半部が狭長な調査地に位置するため、全体形が把握できる畝は1箇所に限られる。畝の形状は、I類4箇所、II類もしくはIII類7箇所、IV類1箇所からなる。畝間長は2mに満たないものが多く、A種7箇所、B種2個

所からなる。東西に近接する畠群との重複例は、A群で3箇所、C群で2箇所ある。本群内での重複例は13例を数え、重複頻度は57%である。

No.5 本群西端に位置するⅢa類もしくはⅢb類の畠である。南西部の広がりには不明であるが、最大長4m以上におよび、8m(高低差0.6m)の間に12条が低域に向かい弧を描きながら広がる。A群No.3・4、B群No.6と重複する

No.6 No.5の北東コーナー付近から、東端が残る2条が確認できた。本群No.5やA群No.4と重複し、No.5と類似方位をもつ畠である。

No.7 No.5の東に近接するⅠ類である。A群No.4の一部と重複し、No.5とは方位を若干異にする。長さ1.6m～1.8mのB種が7.6m(高低差0.9m)の間に12条確認できる。

No.8 No.7の東に同一方位をとりながら近接する。13条が8.4mの間で確認できる。長さは低域部で2.7m(C種)、高域部で1.9m(B種)を測り、Ⅰb類に近似した全体形をもつ可能性がある。

No.9 No.8の1mほど東に位置し、これと近似した方位をとる。高域部と低域部が遺存しておらず、長さ1.5m～1.7mのB種が5条が確認できるのみである。全体形は不明であるが、Ⅰb類もしくはⅡ類の可能性がある。

No.10 No.8の高域部東に方位をやや異にしながらか近接する。保存状態が良好でなく、長さ1.9mのB種が6条確認できるのみである。全体的な規模や形状は明らかでない。

No.11 No.9の東に隣接する7条をNo.11とする。低域側4条と高域側3条で方位がやや異なることから別個の畠の可能性はあるが、保存状態が良好でないため分離しなかった。長さは1.6m～1.9m(B種)を測る。

No.12 No.11の高域部と方位をいくぶん異にして重複する5条をNo.12とする。保存状態が悪く、東側が確認できるのみである。畠間長は2.5m以上。

No.13 No.12と方位を異にしながらか重複する3条をNo.13とする。長さは1.6m～1.7m(B種)を測る。攪乱が著しく、前後の状況は不明である。

No.14 No.10の高域側東に近接し、畠間の西部のみが確認できる2条をNo.14とする。No.11の高域部3条と走行が近似することから、同一の畠の可能性も考慮される。

No.15 No.10の南に近接する。長さ1.4m以上の4条がNo.10と近似した間隔をもって並ぶことから一連の畠の可能性もあるが、いくぶん方位を異にするため別個に扱った。

No.16 No.11の東1.5mほどに位置する2条をNo.16とする。東端がかろうじて確認できる畠である。

No.17 No.16の東に接し、これと同一方位をもった2条をNo.17とする。存在のみの確認にとどまる。

No.18 No.17の東に近接し、方位を若干異にする。長さが判然としない5条が確認できるのみである。

No.19 No.18の東に近接し、これと近似した方位をもつ。長さ0.8mの畠間A種が2条遺存するのみである。

No.20 No.12の東部や後述のNo.22の一部と方位を異にして重複する。遺存状態が良好でなく、長さ2.1m以上の4条が確認できるのみである。

No.21 No.20の南に接し、後述のNo.22・No.23・C群No.28の北側と重複する。長さ2.2m～2.5mのC種が3条確認できる。南部への広がりには明らかでない。

No.22 前述のNo.21の西に接して並走する。保存状態が悪いため、西側を残す4条が確認できるのみである。

No.23 No.21の東側、C群No.28・30と重複する。遺存状況は必ずしも良好ではないが、長さ1.3m～1.8mのA～B種が4.3m(高低差0.4m)の間に8条確認できる。長さは均一でないが、Ⅰa類の畠である。

No.24 No.15・22の中間付近に位置する。東部が残る5条がNo.25の一部と重複して確認できるのみである。

No.25 No.24の南部、No.27の北西コーナーと重複する。長さ1.9m～2.0mのB種が同一方位をとって3条確認できるのみである。

No.26 No.25の南に位置し、同一方位をとりながら近接する。東部を残す4条が確認できるのみである。

No.27 No.26の東に接して並走する。西側を残す3条が確認できるのみである。

C 群 (図版 33)

西部窪地の西側斜面 (7.3m~9.2m) に位置する 17 箇所を本群とする。前述の B 群とは方位を大きく異にし、NW12°~70°の範囲内に含まれる。平均方位は NW33°である。東に位置する D 群とも方位が明瞭に異なり、グルーピングが最も容易な畠群である。D 群との重複例は 3 箇所にとどまる。本群内での重複例は 9 箇所あり、全体的な重複頻度は 75% となる。概して保存状態が良好なため、形状が把握できる畠が多い。内訳は I 類 9 箇所 (Ia 類 3 箇所)、IIIa 類 1 箇所、IIIb 類 1 箇所、前述の B 群と似たあり方を示す。長さは 2m 前後のものが多く、A 種 2 箇所・B 種 6 箇所、C 種 1 箇所である。規模の面でも B 群との共通性を認める空間と言える。

No.28 本群西端にあたり、B 群 No.21・23 と方位を異にしながら重複する。長さ 1.5m 前後の A~B 種が 3 条確認できるのみである。

No.29 No.28 の南東 1.5m ほどに位置し、後述の No.31 と東側が重複する。北東方向の広がりには明らかでないが、長さ 1.2m~1.6m の B 種が 4.5m (高低差 0.4m) の間で 10 条確認できる。I 類にあたる狭長な畠である。

No.30 No.29 と B 群 No.23 の南端部が重複する。長さが明確でない 2 条が確認できるのみである。

No.31 No.29 と同一方位をもち、その東半部と重複する Ia 類の畠。全長は不明であるが、長さ 1.6m~1.8m の B 種が 8.6m (高低差 0.7m) の間で 16 条確認できる。低域部で No.33、高域部で No.32 とも重複する。

No.32 No.29・32 の南部に方位を若干異にしながら重複する。長さ 1.5m~1.6m の B 種が 5 条確認できるのみで、南部への広がりには明らかでない。

No.33 No.31 と 34 の間に位置し、両者と重複する。東部が遺存する 4 条が確認できるのみである。

No.34 No.32 の南に並列する 7 条と No.35 と重複する 5 条を一連の畠と仮定し、No.34 とする。長さ 1.2m~1.3m の B 種が 7m (高低差 0.6m) の間に 12 条分布する。

No.35 No.34 の低域部と No.42 の一部が重複する。7 条からなり、長さは高域部で 3m 弱、低域部で 3.4m を測る。全体に幅広い撥形を呈し、低域部で緩やかな弧を描く点から、IIIa 類にあたる畠である。全長は 3.2m。

No.36 No.34 の東高域に接して並走する I 類の畠である。長さ 1.2m の A 種が 5 条確認できるのみである。

No.37 No.36 の東に接して並走する。長さが明確でない 2 条が確認できるのみである。

No.38 本群の中で最も低域に位置する畠である。長さ 1.6m の B 種が 2 条確認できるのみである。

No.39 No.38 の低域部に方位を 40°異にして重複する。東部が遺存する 6 条が確認できるのみである。

No.40 No.38 の南に接する Ia 類の畠である。長さ 1.7m~2.0m の B 種が 8.4m (高低差 1.2m) の間に 13 条分布する。低域部では、C 群の No.51 と直角に交差する。

No.41 No.40 の南に接し、同一方位をとる。長さ 3.3m~3.9m の D 種が幅 60cm ほどの間隔で 14 条連なる。全長 8.7m (高低差 1.2m) にわたる Ia 類の畠である。No.39 と同様に、低域部で No.51 と交差する。

No.42 No.35 の南に位置する本群最大規模の畠である。高域部は短辺 1.9m の撥形を呈する。低域部に向かうにつれて弧を描きながら広がる典型的な IIIb 類である。条数は 24 にのぼるが、いずれも粘質度が異なるもう 1 条が並走する。長さは低域部で 7.2m を測る。全長は 7.7m (高低差 1.1m) を測る。北側が No.35・41、南側が No.43・45・46 の一部と重複する

No.43 No.42 の高域部南側と一部が重複する。No.42 と同様に、粘性を異にした 2 列の条が並走する。長さ 1.3m~1.5m の A 種が 3 条確認できるのみである。

No.44 No.43 の南部と重複する。本例も粘性が異なる 2 列が並走する。長さ 1.8m~2.3m の B~C 種が 4 条確認できる。

D 群 (図版 34・35)

西部窪地の東側斜面 (7.3m~10.6m) に分布し、NW59°~114°の方位幅をもつグループである。平均方位は NW89°である。畠数は 34 箇所にのぼり、A~H 群の中で最多を数える。東に隣接する E 群や平坦地に広がる H 群と重複し、その数は前者 6 箇所、後者 2 箇所である。このほか、E 群分布域に位置する掘立柱建物 SB621

との重複例が2箇所、H群分布域に位置するSB516との重複例が1箇所ある。本群内での重複例は28箇所(85%)に達する。本群は比較的良好に保存されることから、全体形が把握できる畠が多い。内訳はI類19箇所(Ia類11箇所)、I類もしくはII類6箇所、II類4箇所、IIIa類1箇所、IIIb類1箇所を数え、B群やC群に比べII類の占有率が高い傾向にある。I～II類は長さ2m未満のB種が多く、狭長な畠が卓越する点でB群・C群と類似した空間を形成する。

No.45 本群西端に位置する。窪地の底面に沿って広がるIa類である。長さ1.4m～1.8mのB種が5m(高低差0.4m)の間に8条分布する。C群No.42・44の一部と重複する。

No.46 No.45の東に接して並走し、窪地底面に位置するIa類である。長さ1.1m～1.4mのA種17条が7.7m(高低差0.8m)の間に分布する。C群No.42やD群No.47・48と重複する。

No.47 No.46の東に位置するIa類である。長さ1.0m～1.7mのA種が10.5m(高低差1.9m)の間に19条分布する。全体的に緩やかに蛇行した平面形をもち、高域部でNo.48、低域部でNo.46の一部と重複する。

No.48 No.46・47の高域部といくぶん方位を異にして重複する。長さ1.9m～2.4mのC種が8m(高低差1.3m)の間に14条分布する。No.50の高域部とNo.51の一部と重複する。

No.49 No.48の東に接しながら並走するI類である。長さ1.4mのA種が6.8m(高低差0.9m)の間に13条分布する。連続的な配列をみせるNo.50の高域部と重複し、東に位置するNo.51の高域部とも重複する。

No.50 No.48の低域部東に接しながら並走するIa類である。長さ1.0m～1.6mのA種が5.6m(高低差1.1m)の間に11条分布する。高域部でNo.49、低域部でNo.47の一部と重複する。

No.51 No.50の東側に並走し、調査区を南北に横断するIa類である。1区最大の長さをもつ畠で、長さ1.1m～1.5mのA種が19m(高低差2.7m)の間に33条分布する。高域部でNo.49・55と重複し、低域部でC群No.40・41と交差する。

No.52 No.51と53の間に両者と接しながら並走するI類である。長さ1.1m～1.5mのA種が5.2m(高低差0.9m)の間に9条分布する。低域部でC群No.41の東端と交差する。

No.53 No.53の東に接して並走するI類である。長さ2.4m～2.6mのC種が8.5m(高低差2.5m)の間に15条分布する。高域部の保存状態が良好でないが、No.55の低域部と重複する可能性が高い。

No.54 No.53の東に並走するIa類である。長さ1.3m～1.5mのA種が全長4.1m(高低差1.3m)の間に8条分布する。No.61の西側と重複する。

No.55 No.51・53・61の一部と方位を25°ほど異にしながら重複するIa類である。長さ1.1m～1.5mのA種16条が全長8.4m(高低差1.4m)の間に分布する。

No.56 No.55の東に並走するI類の畠である。長さ1.3m～1.8mのB種18条が9.5m(高低差1.4m)の間に分布する。北端部でNo.61、高域部でNo.57と重複する。

No.57 No.56の高域部と重なりあう畠である。長さ1.5m～1.9mのB種が4m(高低差0.6m)の間に8条分布する。高域部に広がることから全体形が明らかでなく、I類もしくはII類としておく。

No.58 No.57の東に位置し、やや方位を異にしたIa類である。粘性の異なる長さ1.2m～1.8mの2条が全長4.6m(高低差0.6m)の間に7～8条ずつ並走する。

No.59 No.58の高域部南に接し、調査区外に広がるI類もしくはII類である。長さ2.6mのC種が3.8m(高低差0.3m)の間に6条確認できる。

No.60 No.59の北端部に重複する2条をこれとする。長さ2.5mを測り、規模がNo.59と近似することから、同一単位の畠の可能性もある。

No.61 低域部でNo.54の東側と重複し、高域部でNo.58と並走するIa類である。長さ1.3m～1.9mのA～B種が16.3m(高低差2.6m)の間に30条分布する。低域部でNo.62の西側、中域部でNo.55・56の北端、高域部でNo.72の北側と重複する。

No.62 No.61の東側と一部重複しながら同一方位をとるⅢa類の畝である。高低差1.5mの間に18条が確認できるが、その形状は低域と高域で異なる。高域南端では2.2mの直線をなす。低域に向かい次第に畝間が広がり、北端では緩やかな膨らみをもった長さ5.3の畝間へと移行する。調査地内での全長は8.6m(高低差1.5m)を測る。東部ではNo.63・64の一部と重複する。

No.63 No.62と同一方位をとりながら低域部東側が重複するⅠ類である。長さ1.5m～1.8mのB種が3.5m(高低差0.6m)の間に9条分布する。東側ではNo.65と重複する。

No.64 No.63の南に接する。東部や高域方向の広がりには明らかでない。長さ2.3m以上の条が3.7m(高低差0.5m)の間で6条確認できたのみである。

No.65 No.63の東端と重複しながら同一方位をとるⅠ類である。南北の広がりには明らかでなく、長さ1.9m～2.3m以上のB～C種が2.3m(高低差0.8m)の間で4条確認できたのみである。

No.66 No.64の南に接するⅠ～Ⅱ類である。東に接するNo.64との関係や南北の広がりには明らかでない。長さ2.3m以上の条が2.5m(高低差0.5m)の間で4条確認できたのみである。後述のNo.76と一部が重複する。

No.67 No.65・66の東側に同一方位をもって近接するⅠ類である。2mほどの長さをもった7条が4.8m(高低差0.7m)の間に分布する。

No.68 No.61の高域部東に近接し、後述のNo.71の一部と重複するⅠ～Ⅱ類である。低域部への広がりには明らかでなく、長さ1.8m～2.0mのB種が1.8m、高低差0.4mの間で5条確認できたのみである。本例は、前述のNo.62と近似した方位をとることから、その高域部にあたる可能性もある。

No.69 No.68の高域部にやや方位を異にしながら近接する。No.61・71に接することから条の長さや全体形は明らかでなく、3条の存在が確認できるのみである。

No.70 No.69の高域部に接し、No.61の高域部やNo.70の北端部と重複する。長さ1.8m以上の3条の存在が確認できるのみである。

No.71 No.68・69の東側と重複する。長さ1.9m～2.5mのC種が5.6m、高低差0.7mの間に9条分布する。低域部がNo.73の北端、東半がNo.74にも重複する。

No.72 No.58・59の東側に接するⅢb類である。低域部西側でNo.73、高域部でH群No.126と重複する。高域部の条は1.8mの長さをもって直線的、低域部では最大4mほどを測り緩やかに弧を描く。形状は左右対称をなしておらず、東側に強い張り出しをもつ。8.3m(高低差0.9m)の間に16条が分布する。

No.73 高域部の南端に位置し、本群Ⅱ類の中では最長の畝である。低域部でNo.69～72と同一方位をとりながら重複し、H群No.126・127や丘陵頂部平坦面のSB516(掘立柱建物)とも重複関係をもつ。条の長さは北端で3.3m以上、調査区内南端で1.9mを測る。10.7m(高低差1.0m)の間に18条が分布する。

No.74 同じく南東部に位置するⅡ類の畝で、低域部でNo.71、高域部東半でE群No.78と重複する。条の長さは、北端付近で3.9m、南端部で1.7mを測る。北部の広がりには明確でないが、長さ9.7m(高低差1.2m)の間に17条が分布する。

No.75 低域部東端に位置するⅠa類である。No.67の東に隣接して同一方位をとり、高域部で本群No.76・E群No.77・80やSB621(掘立柱建物)の一部と重複する。長さ1.6m～2.3mのB～C種が全長6.4m(高低差0.6m)の間に12条分布する。本例の中心軸は西側にやや湾曲する。

No.76 No.76の高域部に近接し、これと同一方位をとるⅠa類である。長さ2.6mのC種が全長5.5m(高低差0.7m)の間に10条分布する。No.66・75・77・78やE群No.79・SB621(掘立柱建物)と重複する。

No.77 No.76の西半部と重複するⅠ類である。北部の広がりには明らかでないが、長さ2.7m～3.0mのC種7条が3.7m(高低差0.5m)の間に分布する。E群No.79とも重複する。

No.78 本群高域部の東端に位置するⅡ類である。条の長さは南端付近で1.9m、北端部で3.5mを測り、全長8.6m(高低差1.0m)の間に15条が分布する。本例の中心軸は西側にやや湾曲する。低域部で本群No.76とE

群 No.79・SB621（掘立柱建物）、高域部で E 群 No.91 と重複する。

E 群（図版 34・35）

東尾根の中央西部（8.3m～10.6m）に位置する 15 箇所を本群とする。NW35°～82°の範囲内に含まれ、平均方位は NW53°である。三つの畠群と接しており、それぞれの重複例は、D 群が 6 箇所、F 群が 4 箇所、H 群が 3 箇所ある。本群の畠はすべてが重複する。他のグループに較べて重複頻度が高く、1 箇所あたりの重複数が 3～5 例におよぶケースが一般的である。掘立柱建物との重複例も多く、SB516+621 が 1 箇所、SB516+621+622 が 1 箇所、SB622 が 5 箇所、SB621+622 が 3 箇所、SB622 が 2 箇所ある。畠の形状としては、I 類 6 箇所（Ia 類 4・Ib 類 1）、I 類もしくは II 類 5 箇所、II 類 2 箇所、IIIa 類 1 箇所からなる。規模としては、B～D 群を特徴づける狭長な I 類 B 種が相対的に少なく、条の長い C 種が主体を占める。

No.79 本群西端に位置する。低域部へ向かい幅長が広がる 1 区最大規模の II 類である。条の長さは北端付近で 2.8m、南端部で 4.8m を測り、全長 15.8m（高低差 0.7m）の間に 26 条が分布する。本例の中心軸は東に向かって湾曲する。重複例が多く、D 群 No.73～78、本群 No.82・91、H 群 No.135 や SB516・621（掘立柱建物）と重なり合う。

No.80 本群西端の低域部に位置する。北への広がりには明らかでないが、低域部で緩やかな弧を描くことから IIIa 類の畠とみなされる。条の長さは南端で 1.8m、北端で 4.0m を測り、5.0m（高低差 1.0m）の間に 9 条が分布する。高域部が D 群 No.75 と本群 No.82、東半部が本群 81 と重複する。

No.81 No.80 の東半部と同一方位をとりながら重複する I～II 類の畠である。北への広がりには明らかでないが、長さ 3.0m～3.6m の D 種が 4.5m（高低差 0.5m）の間に 7 条分布する。本例の中心軸は、西に向かって湾曲する。No.85 の一部とも重複する。

No.82 No.80 の高域部と同一方位をとりながら近接する Ia 類である。高域部に近接する No.83 と一連の畠の可能性はあるが、方位が若干異なることから別個に扱った。長さ 2.1m～2.4m の C 種が、全長 6.9m（高低差 0.6m）の間に 11 条分布する。本例の中心軸は、東に向かってやや湾曲する。北西コーナー付近が No.79・80、西縁が No.84・85、北部を除く全域が SB621（掘立柱建物）と重複する。

No.83 No.82 の高域部に近接し、D 群 No.78 と並走する Ia 類である。長さ 1.6m～2.0m の B 種が、全長 6.5m（高低差 0.8m）の間に 12 条分布する。No.91 が方位を 40°異にして交差し、低域部では SB621（掘立柱建物）の南縁と重複する。

No.84 No.82 の南東コーナーと重複する。西側のみを残す 4 条が確認できたのみである。

No.85 No.82 の西縁と重複する I 類である。北東部への広がりには明らかでないが、長さ 2.5m～2.9m の C 種が 11.1m（高低差 1.1m）の間に 20 条分布する。本例の中心軸は、東に向かって湾曲する。西縁が No.81・82、南端部が No.84 と SB621・622（掘立柱建物）、東縁が No.87・89、低域部が F 群 No.94 と重複する。

No.86 北東部の低域に位置する I～II 類である。北東部への広がりには明らかでなく、長さ 3.0m の D 種 5 条が 2.4m の間で確認できたのみである。No.88 と F 群 No.94・95 が重複する。

No.87 No.85 の東縁と一部重なりながら並走する Ia 類である。長さ 1.8m～2.4m の B～C 種が、全長 6.3m（高低差 0.6m）の間に 11 条分布する。高域部が No.89 と SB622（掘立柱建物）、北端が F 群 No.94 と重複する。

No.88 No.87 の南東 1m に並走する Ia 類である。長さ 2.7m の C 種が全長 8.7m（高低差 0.9m）の間に 13 条分布する。高域部が No.89・94、中域西部が F 群 No.97、低域部が本群 No.86・F 群 No.95・96 と重複する。

No.89 No.85・88 の高域部と一部重複する II 類である。条の長さは南端で 2.0m、北端で 3.3m を測り、全長 10.8m（高低差 0.9m）の間に 17 条分布する。本例の中心軸は東に向かってやや湾曲する。低域部で No.85・87・88、高域部で No.91・94 と重複する。

No.90 No.89 の東に一部重複する畠である。低域部の保存状態が悪く、東部がトレンチ内にもあたるため、畝間長や全体形状は明らかでない。7.8m（高低差 0.9m）の間に 13 条が分布する。低域部で No.88 と F 群

No.97、高域部でNo.89・91・92・F群No.100の一部と重複する。

No.91 本群の高域から中域にかけて、後述のF群に類した方位をとるIb類である。南への広がりには明らかでないが、南端で2.2m、北端で3m以上の長さを持ち、13m（高低差1.1m）の間に23条が分布する。低域部でNo.89、中域～高域でNo.79・83・D群No.78、低域部～高域で3棟の掘立柱建物と重複する。

No.92 No.90高域部の東に接する。保存状態が悪く全体形は明らかでないが、長さ3.1mのD種が2.4mの間に5条確認できる。F群No.131と重複する。

No.93 No.89・90の高域部に接する。低域部の広がりには明らかでないが、長さ3.0m～3.3mのD種が3.4mの間に7条確認できる。南東コーナーがH群No.131と重複する。

F 群（図版36・37・38）

東部尾根の東側斜面（7.4m～10.8m）に位置し、NW35°～NW30°の範囲内に分布する25箇所からなるグループである。斜面に位置する畠群の中で最も占有面積が広く、分布域は東西39mにおよぶ。平均方位はNW1°である。畠の形状は、I類15箇所（Ia類3・Ib類2）、I類もしくはII類6箇所、II類2箇所、III類2箇所（IIIa類1・IIIb類1）からなる。I・II類の条の長さはB種を主体とするが、2m以上のC種・D種の合計数がB種を上回り、前述のB～D群に較べれば、幅広い畠が多い。III類の中で最大規模を有する畠が存在する点も特徴となる。隣接する畠群との重複例は、E群5箇所、G群5箇所、H群5箇所である。本群の畠は総てが重複するが、近接した位置にある掘立柱建物と重複しない点も特徴的である。

No.94 西端に位置するI類である。F群では、本例を含め低域方向への広がりが不明なものが大半を占める。条の長さは1.7m～2.3mのB～C種で、11条が6.7m（高低差0.7m）の間に分布する。E群No.85・86と重複する。

No.95 No.94の東に一部重複して並走するI類である。本例は、高域方向の広がりも明らかでなく、長さ2.1m～2.4mのC種9条が5.5m（高低差0.6m）の間に分布する。E群No.86・88と重複する。

No.96 No.95の東に接して並走するI類である。長さ2.1m～2.4mのC種が8.4m（高低差0.7m）の間に14条分布する。中心軸は南に向かって湾曲する。高域部では、E群No.88とも重複する。

No.97 No.96の南に近接して並走するI類である。長さ4.4mのD種が12.5m（高低差1.1m）の間に20条分布する。本例も中心軸が南に向かい湾曲する。低域部でNo.100、高域部でE群No.88と重複する。

No.98 No.97の南に一部接しながら並走し、調査地内で完結するII類である。条の長さは東端で4.0mあまりを測り、全長10.7m（高低差1.2m）の間に17条が分布する。本例の中心軸もいくぶん東に向かって湾曲する。低域でNo.99、南半でNo.100、高域でE群No.90と重複する。

No.99 No.98の4m南に並走するI類である。長さ4mのD種が6.4m（高低差0.7m）の間に11条分布する。全域がNo.100の範囲内に包括され、西端がNo.98と重複する。

No.100 F群北半に位置するI区最大の畠である。その形状は、高域部で条が直線をなし、低域に向かうにつれて長さを増しながら弧を描くIIIb類の典型例となる。中心軸は低域部で南に大きくカーブする。条の長さは西端で3.1m、調査区内低域で13.3mを測る。調査区内での全長は18.5m以上、高低差は1.9mにわたり、条の全体数は32におよぶ。E群No.90・92、本群No.97～99・102・104・106・107と重複する。

No.101 No.99の南に接して並走する。低域方向の広がりには不明であるが、高域部の形状が撥形に広がるIb類の畠である。条の長さは低域で2.0m、高域で3.2mを測り、17.4m（高低差1.8m）の間に29条が分布する。本例は区域の半分以上がNo.100と重なりあい、低域部でNo.107、高域部でNo.98・102～104と重複する。

No.102 No.101の高域部で北半が重複しながら並走する畠である。長さ2.2mのC種が6条確認できたのみである。No.100・103・105・E群No.92とも重複する。

No.103 No.100西端の南1mほどに類似方位をとる畠である。低域部への広がりは明らかでなく、長さ2.7mのC種が5条確認できたのみである。No.102・105や後述のH群No.137と重複する。

No.104 No.101の高域部南に重複し、これと同一方位をとるIa類の畠である。長さ3.8mのD種14条が7.5m(高低差0.9m)の間に分布する。大半の区域がNo.105と重なり合い、高域部でNo.102・103・H群No.137、低域部でNo.109・110とも重複する。

No.105 高域部でNo.103と接しながら同一方位をとる畠である。本例は、条の長さが高域で2.0m、低域で4.7mを測る点でII類の範疇に含まれるが、西半部が弱い弧状をなし、南東コーナー付近の縁辺部が低域に向かってカーブする点で特異な形状をもつ。全長8.3m(高低差0.7m)の間に13条が分布する。高域部でNo.110とH群No.137、低域部でNo.101・110と重複する。

No.106 No.101に近接しながら並走するI～II類である。低域への広がりには明らかでなく、長さ2.8mのC種が3.7m(高低差0.6m)の間に7条確認できたのみである。北半部がNo.100、南西コーナーがNo.109と重複する。

No.107 No.106の高域部に接し、後述のNo.109と並走するIa類である。長さ2.7m～3.0mのC種8条が全長4.3m(高低差0.5m)の間に8条分布する。北部がNo.100・101、高域部がNo.110、南縁がNo.109と重複する。

No.108 No.107の南に接し、近似した方位をとるI～II類である。本例も低域への広がりが明らかでなく、長さ2.3m～2.4mのC種が3.5m(高低差0.5m)の間に6条確認できたのみである。No.100の一部と重複する。

No.109 No.105・107の南に一部接しながら同一方位をとるIb類である。条の長さは西端で1.9m、東端で3.6mを測り、全長14.8m(高低差1.9m)の間に24条が分布する。低域部でNo.106・107・111、中域～高域部でNo.104・105・110、高域部でH群No.137と重複する。

No.110 後述のH群No.139の低域部に近接し、これと同一方位をとる。本群の中では方位を異にした畠と言える。長さ3.0m～4.0mのC種26条が全長10.5m(高低差1.7m)の間に分布する。Ia類の範疇に含めたが、低域部の畝間が緩やかに弧を描く点が特徴的である。低域部から高域部にかけて、No.104～106・109が方位を異にして交差する。高域部の端部では、H群No.139の一部と重複する。

No.111 No.108・110と一部重複しながら並走するI類である。長さ2.3m～2.8mのC種25条が16.1m(高低差2.5m)の間に分布する。高域部でNo.110が方位を異にして重複する。

No.112 No.111の低域部南縁と重複しながら、長さ3.0m～4.0mのD種15条が9.2m(高低差1.2m)の間に分布する。南半部でNo.113と重複する。

No.113 No.112の南半とほぼ全域が重なるI～II類である。長さ2.2mほどのC種がNo.122と同一方位をとりながら5.5m(高低差0.9m)の間に10条確認できる。

No.114 No.112・113の南に接して並走するI類である。長さ2.5m～3.3mのC～D種が8.6m(高低差1.8m)の間に15条分布する。No.115・G群No.123が重複する。

No.115 本群南端に位置するIIIa類である。条の長さは西端で4mほど、東部で5.4mを測り、16条が9.2m(高低差1.6m)の間に分布する。No.114やG群No.115・119・120と重複するが、114とは方位を30°ほど異にする。

No.116 No.112の高域部に近接する。低域方向への広がりは明らかでなく、長さ2.0mのC種が4条確認できるのみである。G群No.123が重複する。

No.117 No.111の南に接しながら並走するI類である。No.112方向の広がりは明らかでなく、長さ2.1m～2.4mのC種が4.3m(高低差0.9m)の間に8条確認できるのみである。No.116の一部と重複する。

No.118 No.111・117の高域部に近接するI類である。No.117と同一方位をとることから、これと重複する可能性が高い。長さ1.9m～2.4mのC種が3m(高低差0.3m)の間に5条確認できるのみである。

G 群 (図版38)

東尾根の東端斜面に位置する。NE15°～35°の範囲に含まれる7箇所を本群とする。隣接群との重複例は、F群5箇所、H群2箇所である。群内での重複例は5箇所におよぶ。畠の形状としては、I類4箇所(Ia類3)、I類もしくはII類2箇所、IV類1箇所である。条の長さはC種3箇所、D種1箇所からなり、F群に類似する。

No.119 本群の低域部北端に位置する1a類である。長さ2.5m～2.7mのC種がいくぶん南に蛇行しながら、10.6m(高低差2.1m)の間に18条分布する。No.120・121やF群No.114・115と方位を異にしながら重複する。

No.120 No.119の低域部と重複する1区唯一のIV類である。条の長さは西端で1.9m、東部で4.7mを測り、すべての条が緩やかに張り出す。低域方向の広がりには明らかでないが、4.9m(高低差1.2m)のなかに10条分布する。F群No.115やG群No.119・120・121と重複する。

No.121 調査区の南壁ぎわに位置するI類である。長さ2.2m～3.0m弱のC種18条が10.7m(高低差2.2m)の間に分布する。中心軸は、南に向かって緩やかにカーブする。高域部がF群No.114、低域部が本群No.119・120・122と重複する。

No.122 1区南東コーナーの壁ぎわに位置する。長さ2.4m以上の畝間を含む9条がNo.120と同一方位をとりながら4.9m、(高低差0.7m)の間に分布する。No.121・122と重複する。

No.123 No.119の高域部に同一方位をとりながら近接するIa類である。長さ1.9m～2.2mのC種が4.3m(高低差1.0m)の間に8条分布する。F群No.116・117、H群No.141と重複する。

No.124 No.121の西端部に接する。後述のH群の方位に近似したI～II類である。西への広がりには明らかでなく、長さ1.5m以上の畝間が3.4mの間に5条確種できたのみである。No.125と重複する。

No.125 No.123の南西に同一方位をとりながら近接するIa類である。長さ1.5m～1.8mのB種が全長4.3m(高低0.9m)の間に7条分布する。No.124とH群No.141と重複する。

H 群 (図版39)

丘陵頂部の平坦面(10.1m～10.8m)に位置するグループで、16箇所からなる。これらは方位のうえで三方向にわかれることから、NW34°～52°を示す①、NW73°～98°を示す②、NE1°～9°を示す③に細分できる。②はE群、③はF群と近似した方位をもつ。本群ではすべての畝がエリア内で重複する。畝の形状としては、I類11箇所、I類もしくはII類2箇所となり、I類の卓越とIII～V類の欠落を特徴とする。条の長さはC種3箇所・D種1箇所、幅広い畝が主体を占める。エリア内に存在する掘立柱建物SB516と重複関係をもつ畝が9箇所あるが、SB621・622の重複例と排他的な分布を示す点も特徴的である。

No.126 本群西端に位置する①グループの畝である。西への広がりには明らかでなく、長さ3.5m～4.2mのD種が2.9mの間に6条確認できるのみである。D群No.72・73と交差し、本群No.127と東側の一部で重複する。

No.127 No.126の東コーナーと重複する。①グループにあたるI類である。長さ2.1m～2.4mのC種が4.7mの間に9条分布する。D群No.73、E群No.79・135、本群No.126・135、SB516(掘立柱建物)と重複する。

No.128 No.127の東に隣接し、同一方位をとるI類である。長さ1.9m～2.4mのC種が4.5mの間に9条分布する。E群No.79、本群No.130・135・136・137・138、SB516(掘立柱建物)と重複する。

No.129 No.128の北東1mに同一方位で並ぶ2条をこれとする。東部が確認できるだけであるが、No.128とは不連続な位置にあるため別個に扱った。D群No.83・E群No.91・本群No.135・136と重複する。

No.130 No.128と一部重複しながら同一方位をとる。①グループのI類で、長さ2mほどのC種が5.0mの間に9条分布する。No.135・137、SB516(掘立柱建物)と重複する。

No.131 No.130の南東に接して並走するI類である。長さ2.3mほどのC種が8.3mの間に15条分布する。E群No.93や方位を異にする本群No.135・137・138、SB516(掘立柱建物)と重複する。

No.132 No.131の東に接して並走するI類である。長さ3.3mのD種が3.2mの間に6条分布する。方位を異にしたNo.137～139やSB516(掘立柱建物)が重複する。

No.133 No.132の南東に隣接する①グループである。西部が残る3条が確認できるにすぎない。No.138・139と方位を大きく異にしながら重複する。

No.134 No.132の南東3mに並列する①グループのI類である。長さ3mほどのD種が5.0mの間に9条分布する。本例は前述のF群No.110の高域部に隣接し、これと類似方位をもつが、条の並びをやや異にするこ

とから別個の畠とみなした。F群 No.111・118、本群 No.139・140 と方位を異にして重複する。

No.135 本群西部に位置する②グループのI類で、E群 No.78・83 と類似方位をとる。条の長さは4.5mほど(D種)におよび、5.2mの間に10条が分布する。方位を異にするE群 No.91・本群 No.127～131 やSB516(掘立柱建物)と重複する。

No.136 No.135の低域内に東部3条が確認できるのみである。No.135と同一方位をとりながら、畝間が重なることから、全体形は明らかでない。

No.137 本群中央部に位置する③グループのI類で、F群と類似方位をもつ。西部への広がりには明らかでないが、長さ2.2m～2.7mのC種が10.2mの間に18条分布する。F群のNo.103・104・110、方位を異にした本群 No.130～132・135 やSB516(掘立柱建物)と重複する。

No.138 No.137と一部重複して並走する③グループのI類である。長さ2.2m～2.4mのC種が8.4mの間に14条分布する。方位を異にしたNo.131～133とSB516(掘立柱建物)が重複する。

No.139 No.137・138と並走する③グループのI類である。長さ3.2mほどのD種が8mの間に13条分布する。F群 No.118の一部や方位を異にした本群 No.131～133などと重複する。

No.140 No.139の南縁と重なりながら並走する③グループである。畝間規模や全体形状は明らかでなく、長さ1.7m以上の6条が確認できるのみである。No.134と方位を異にしながら重複する。

No.141 No.140の低域部と重なる③グループのI類である。長さ3.5mほどのD種が5.4mの間に8条分布する。G群 No.123～125と方位を異にして重複する。

3) 近世の遺構

井戸1基・遺物廃棄坑3基・盛土遺構1基・溝2条・土坑2基・ピット2基を確認した。

① 井 戸

SE1(図版7・41、写真図版21)

西部緩斜面に形成された緩やかな張り出しの西側に位置し、後述の「盛土遺構」の西に隣接する。掘り込み上面の形状は円をなす。上面の掘り込み規模は、最大1.25mを測る。本遺構は垂直に掘削した「素掘り井戸」である。IV層上面下2.2mまで掘り下げた時点で1.5m検土杖による層序確認を行ったが、基底部に達しなかったことから、安全面を考慮しそれ以下の作業を断念した。

堆積土は、大きく3層に分けられる。最上部にはI層が堆積する。上部から中部層は人頭大を含む大小の礫が混じる腐植土層で、9,641gの近世陶磁器類や412gの瓦などが出土した。井戸を埋める際に廃棄された遺物とみなされる。深度1m付近(海拔7m)から湧水が始まり、暗灰色を呈する下部シルト層に移行する。層内には多数の自然木とともに桶・下駄・板などの木製品(図版64)が含まれる。陶磁器類は碗が1個体出土したのみである。

本遺構の上部～中部から出土した陶磁器類は、近世終末の資料によって占められる(図版59)。この中には後述のSX6やSX290出土資料との接合例が複数あり(図版58)、各遺構が同一時期に埋められたことをうかがわせる。

② 盛土遺構(図版41・42、写真図版4)

I層上に大規模な土盛りを行い、マウンド状に造成した遺構である。表土除去の段階で7K-17・23区のI層内から近世陶磁器類が出土していたが、調査区南壁において盛土断面が現われ、陶磁器類の包含層準がその下部にあたる事が判明したことから本遺構に伴う遺物と判断した。盛土の北への広がり、調査着手前において丘陵裾部をめぐる農道の間際まで尾根状地形が見られたことから、南壁から4mほどの範囲とみられる。南壁で確認できる東西の広がり、8.3mにおよぶ。盛土層は、堆積状態から下部・中部・上部に分けられる。

下部層(6・7・9～12層)は、1～3cmほどの地山ブロックを多量に含む腐植土・粘土層である。各層の厚さは10cm台にとどまり、盤築状に各層が水平堆積する。南壁では、最上部6層の中央付近1.2mの範囲で陶磁器類が密な状態で含まれる。中部層(2～5・8層)は、最大10cmほどの地山または腐植土ブロックを多量に含む腐植土・粘土層である。層厚30cm以上を有し、水平に堆積する。上部層(1層)は地山ブロックを含有しな

い腐植土層である。上面地形は、緩やかに盛り上がる。6層出土の陶磁器類の中には、SE1や後述の遺物廃棄遺構SX3・6・290と同一形態の小皿(図版62-61)、が含まれることから、それぞれ接近した時期にあたる遺構とみなされる。

③ 遺物廃棄坑

SX3(図版8・41、写真図版21)

西部緩斜面に形成された小規模な尾根の中央部8.9～9.1m域に位置し、尾根の張り出し方向を中心軸とする細長い掘り込みである。調査区内での全長は4.86mにおよぶ。北部と南部で形状が異なるが、調査区外に広がることから全体形や規模は明らかでない。北部では最大幅1.2m・深さ30cm以上の溝状を呈し、底面は平坦である。南部では緩やかに下降しながら幅を広げ、南壁付近で底面が平坦化する。南壁での掘り込み規模は幅約2m、深さ80cmを測り、壁面角度は70°あまりである。本遺構は1層から掘り込まれ、覆土は6層に大別できる。3～6層を中心に総重量7,800gの陶磁器類と38.9kgの礫が出土した。陶磁器類の中には後述のSX6との接合資料があり(図版58)、在地窯「松郷屋焼」の窯変品(図版60-37)や窯壁も含まれる。

SX6(図版8・42、写真図版21)

SX3の北東8mにあたり、8.1～8.3m域に位置する。丘陵周囲をめぐる農道の法面に多数の陶磁器類が露出する状況が調査着手の段階で把握できていた。北部が削平されるため全体規模は明らかでないが、平面長2.9m以上の不整形な形状をなす。最大深度は23cmである。全体が皿状に窪み、底面は自然地形に沿って緩やかに傾斜する。覆土は単層で、多量の地山ブロックを含む腐植土が堆積する。層内から総重量4,249gの陶磁器類が出土した(図版61)。この中には、SE1・SX3や後述のSX290出土資料との接合例が含まれる(図版58)。

SX290(図版8・42、写真図版21)

SX6の東に隣接する。平面形は、南北に中心軸をもった不整形な形状をなす。北部が農道に切られるが、現存部長2.36m、幅2.11mを測る。掘込み深度は38cmで、底面には凹凸を伴う。覆土は3層に大別でき、下部層に多量の地山ブロックを含む。1層を中心に1,472gの陶磁器が出土した(図版61)。この中には、SE1・SX3・SX6との接合資料が含まれる(図版58)。

④ 溝

SD275(図版13・16)

東部尾根の頂部平坦面東端に位置する。東西に走行する幅20cm・深さ16cmの小規模な溝で、調査区内の1.8mの間で確認できる。東部は東斜面の9.8m域で途切れる。覆土は2層に分けられ、砂質粘土が堆積する。近世またはそれ以降の時代に属す頂部平坦面からの排水溝とみられる。磁器皿類の小破片3点が出土した。

SD507(図版12・41、写真図版21)

東部尾根中央の裾部8.1m域に位置する。全長6.52mにわたり直線的に延びる溝である。80cm前後の均一な幅をもち、最大深度は16cmを測る。底面は平坦である。覆土は単層で、地山の小ブロックを多数含む粘土が堆積する。覆土内から磁器3点が出土した。本遺構は丘陵裾部に等高線に沿って連なることから、丘陵外周をめぐる通路に沿った排水施設とみられる。

⑤ 土坑・ピット

SK295(図版11・42)

頂部平坦面の東部に位置する。平面形は東西を軸とした不整楕円をなし、長さ65cm・幅42cmを測る。断面形は弱い階段状を呈し、最大深度25cm。多量の地山ブロックを含む砂質粘土が堆積し、唐津甕の底部破片1点が出土した。

P201(図版11・42)

SK295の南東3mに位置する。一辺40cmほどの方形の掘り込みである。断面形は箱形を呈し、最大深度は12cmを測る。覆土は単層で、砂質腐植土が堆積する。磁器碗類の小破片1点が出土した。

第V章 遺 物

第1節 概 要

丘陵上の1区から縄文時代・弥生時代・古代・近世の遺物が出土した。縄文時代の遺物は、前期～後期の土器が口縁部遺存資料で4個体、これに伴う石器が6点出土したのみである。弥生時代はアメリカ式石鎌1点に限定される。本次調査では、丘陵上の1区から奈良・平安時代の集落が確認された。土器の出土量は、口縁部遺存資料集計で162個体を数える。大半が8世紀後半から9世紀前半に属し、西蒲原郡域における一般的な組成内容をもつ。この中には、本遺跡での製作を示す土師器・黒色土器・須恵器が含まれる点が特徴である。生産用具は漁撈具と鍛冶関連遺物が出土した。石製品の中には製作半ばの有溝石錘と権状錘が存在する。これらは、丘陵上に立地する古代の本遺跡が生産と居住機能を兼ね備えた集落であることを明示する。1区西部を中心に近世～近代の陶磁器類が多数出土した。出土資料の中には所有者銘を示す資料が含まれる。調査地は三根山藩の中樞部に隣接しており、これに伴う資料とみなされる。

第2節 縄文・弥生時代の遺物

縄文土器と縄文・弥生時代の石器類が出土した。後者は時代の特정이困難な資料を含むため、両時代の遺物を一括して本節で記述する。

A 縄 文 土 器

総重量で3,351g出土した。口縁部遺存資料に基づけば、4個体にとどまる。前期前葉から後期中葉までの資料からなり、調査区西部を中心に分布する(図版44上段)。

1) 前 期(図版44-1・2、写真図版22)

1・2は粗い植物繊維を少量含む。ともに単節縄文RLが観察できるが、小破片のため施文構成は明らかでない。前者は多量の赤色粒子(1～3mm)とともに粗大な破碎岩石と微細な石英、後者は摩耗岩石と磨耗・破碎石英粒子を含む。前期前半の大枠の中で位置づけられる資料である。

2) 中 期(図版44-3～8・11、写真図版22)

3・4は中期前葉土器である。前者は外傾ぎみの器形をもつ深鉢の口縁部資料で、口端内面が削ぎとられる。幅の異なる2種の多裁竹管工具を用いて口縁部に縦位集合沈線(幅5mm)と2条の横位平行沈線(幅7mm)を施し、横位沈線下を無文帯とする。微細な摩耗粒子と粗大な破碎岩石を含む。4は口縁部文様帯下端の破片で、横位の竹管沈線以下に原体不明の単節縄文が観察できる。摩耗した岩石粒子と破碎石英を多量に含む。中期前葉の6期区分〔高橋1999〕に基づけば、ともに4期の資料とみなされる。

5～8は中期中葉土器である。5は西部緩斜面に位置するSK440の2・3層と隣接グリッドから出土した。キャリパー器形をなした口縁部破片(5a・5b)と張り出しをもった体部破片(5c～5f)からなり、単節縄文LRを口縁下の5a・5bで横位回転、体部の5c～5fで縦位回転によって施す。口端は肥厚し、浅い一条の沈線を加える。口縁下にトーンで示す範囲は、隆帯の剥落箇所である。縄文上に施される文様は、一施文幅9mm台の平行沈線と単一沈線からなる。6は無文帯下に一施文幅8mm台の横位平行沈線を施す。7は口縁下の文様帯から頸部無文帯にあたる資料である。隆帯と単一沈線によって渦状文様などが描かれる。8は隆帯と単一沈線によって渦状文様などを施す。以上の資料は中葉後半の太木8b式段階に属す。いずれも微細な破碎岩石・石英を多量

に含むとともに、2～3mm 台の磨耗粒子も微量に確認できる。

11 は分厚く作出された底部資料である。やや粗い破碎石英や岩石を多量に含む。所属時期は判然としないが、中期に属す資料とみられる。

3) 後 期 (図版 44-9・10・12、写真図版 22)

9 は東部尾根東斜面の P573 から出土した。上部に孔と沈線を伴うアーチ状の把手で、後期前葉の資料とみられる。10・12 は後期中葉土器である。10 は全体に薄い作りで、器面全体に単節縄文 LR を施す。施文は浅く、横位回転による。底部は揚底ぎみに作出され、底面に網代圧痕をもつ。12 は体部下部的のためか文様が欠落するが、揚底ぎみの底面に網代圧痕をもつ。ともに網代は二本越え・二本潜り・一本送りによる。胎土も類似し、きわめて微細な岩石粒子を少量含むのみである。

B 石 器

石製品 7 点と石核・剥片類 4 点が出土した。前者は石鏃 3 点・礫石錘 1 点・磨石 1 点・磨製石斧 2 点からなり、西部窪地に集中する。後者は調査区の広い範囲に点在する (図版 44 下段)。

1) 石 鏃 (図版 44-13～15、写真図版 22)

14 は先端と一側縁が欠損した平基有茎石鏃である。灰オリーブ色の珪質流紋岩を石材とする。表裏に素材作出時の剥離面を残し、ラフなタッチの剥離によって整形する。欠損は、先端が右主面、側縁が左主面からの衝撃によって生じる。近隣の御井戸 A 遺跡で一般的に見られる石鏃形態にあたる〔前山 1994〕ことから、晩期の所産と考えられる。13 は灰褐色の頁岩を石材とした尖基鏃の完存品である。長さ 5.6cm・幅 1.5cm・厚さ 4.4mm、重量 3.1g を測る。両側縁の上半部を主として左面からの剥離によって鋸歯状に整形しており、加撃面をドットで示した。本例の基部には、アスファルトが明瞭な状態で付着しており、その範囲をトーンで示した。類例に乏しい形態であるが、アスファルトの使用を認める点で晩期に属す可能性が高い資料である。

15 は灰白色の岩体に青灰色の珪質部が混じる流紋岩を石材とする。「アメリカ式石鏃」の完形品で、長さ 2.0cm・幅 1.4cm・厚さ 4.4mm・重量 1.2g を測る。本例の形態的な特徴は、基部の幅が 8mm にとどまり、きわめて小さく作出される点にある。越後平野の周辺では、角田山麓の大沢遺跡 B' 地区〔小野ほか 1982〕と新潟市西区六地山遺跡〔古川・石原 1986〕で各 1 点の類例が確認できるのみである。

2) 礫 石 錘 (図版 44-20、写真図版 22)

安山岩を石材とし、扁平な円礫の長軸両端に縄かけ用の袂りを剥離・敲打によって作出したものである。袂部間での長さは 8.2cm、重量 200g を測る。袂部は左右ともに 2 回の加撃によって作出され、左側は敲打によって丸みを帯びる。角田山麓では前期前葉から中期前葉にかけて礫石錘が多用され、新谷遺跡〔前山 1994〕・豊原遺跡〔小野・前山 1988〕・御井戸 B 遺跡〔前山・相田 2004〕・南赤坂遺跡〔前山・相田 2002〕でまとまった量の資料が出土している。本例は小形の部類に入るが、袂の加工法としては一般的な製品の範疇に含まれる。

3) 磨 石 (図版 44-21、写真図版 22)

安山岩を石材とした磨石で、表裏両面に摩耗痕をもつ。最大厚は 4.2cm。顕著な被熱によってクラックが生じ、両端が欠損する。

4) 磨 製 石 斧 (図版 44-22・23、写真図版 22)

22 は安山岩を石材とする大形磨製石斧の刃部破片である。刃部の形態は、両刃・円刃をなす。側面は平坦に研磨されるが、一方に偏りをもつ。23 は灰白色の岩体に青灰色の岩脈が混じる美しい蛇紋岩を使用する。基部から中間部を遺存する撥形石斧で、左主面からの衝撃によって破損する。両側面は平坦に研磨されるが、主面は膨らみをもった形状をなす。基部に柄ズレ痕は見られない。角田山麓では縄文時代前期前葉から中期前葉にかけて磨製石斧の生産が行われ、近隣の新谷遺跡〔浅井 1989・前山 1994〕・豊原遺跡〔小野・前山 1988〕・南赤坂遺跡〔前山・相田 2002〕でまとまった量の製作関連資料が出土している。ともに類似石材の未成品が豊原遺跡や南赤坂遺

跡に存在しており、当地で製作された可能性が高い資料である。

5) 石核・剥片類 (図版 44-16~19、写真図版 22)

16 はオリーブ黒色のメノーを石材とする。素材の形状は明らかでないが、左主面上方向からのラフな剥離、右主面に両極打法による左右両方向からの剥離が行われる。側面の剥離は左主面を切り、右主面の剥離に先行する。小形石器の素材確保を目的とした石核とみなされる。

17 は明褐色の鉄石英(黄玉)を石材とした剥片である。両側縁に表裏二方向からの微細剥離痕をもつ。18 は灰白色珪質岩の岩体に褐灰色~灰白色の半透明メノーの岩脈が入り混じる。左が主剥離面にあたり、両側縁を折断したのち両極打法によって三方向からの微細剥離が行われる。小形石器の素材確保のための二次加工剥片である。19 は褐灰色の珪質頁岩を石材とする。右が主剥離面で、背面には自然面が残る。剥片端部と頂部には、両極打法による二次加工が行われ、打面の除去と端部の折断がなされる。本例も 18 と同様の位置づけが可能である。

第3節 古代の遺物

総重量 32,243g の土器、石製品 9 点、土錘 4 点、焼成粘土塊 902g、鉄滓 1184.4g、羽口 4 点、搬入礫 26,151g と炭化物が出土した。

A 土器

8 世紀中ごろから 9 世紀前半を中心とした土師器・黒色土器・須恵器が出土した。出土量は、土師器 27,436g (85.1%)・黒色土器 180g (0.6%)・須恵器 4,627g (14.3%) である。図版 45 に小グリッドあたりの出土重量を遺構内外の別を問わず示した。分布状況を種別に見ると、土師器は東部尾根の東斜面と西部窪地、黒色土器は西部窪地、須恵器は西部窪地に弱いながらも集中する傾向がある。西部窪地では、土師器 8 個体と黒色土器 1 個体が密集状態で出土した。一時点で廃棄された資料とみなされることから、「土器集中」として別個にとりあげる。

1) 分類

a 土師器と黒色土器

① 器種と形態 (第 16 図)

食膳具と煮炊具に大別できる。食膳具には無台椀があり、煮炊具は甕類と鍋からなる。

無台椀 土師器と黒色土器からなる。土師器は、8 世紀代の非ロクロ成形土器と 9 世紀代のロクロ成形土器に大別できる。後者は底径が大きく 9 世紀代前半に位置づけられる 1 類と底径が小さく薄く成形された 9 世紀後半の 2 類に分けられる。黒色土器は、底部が丸み帯びる 8 世紀後半の 1 類と揚底をなした 9 世紀前半の 2 類に分けられる。

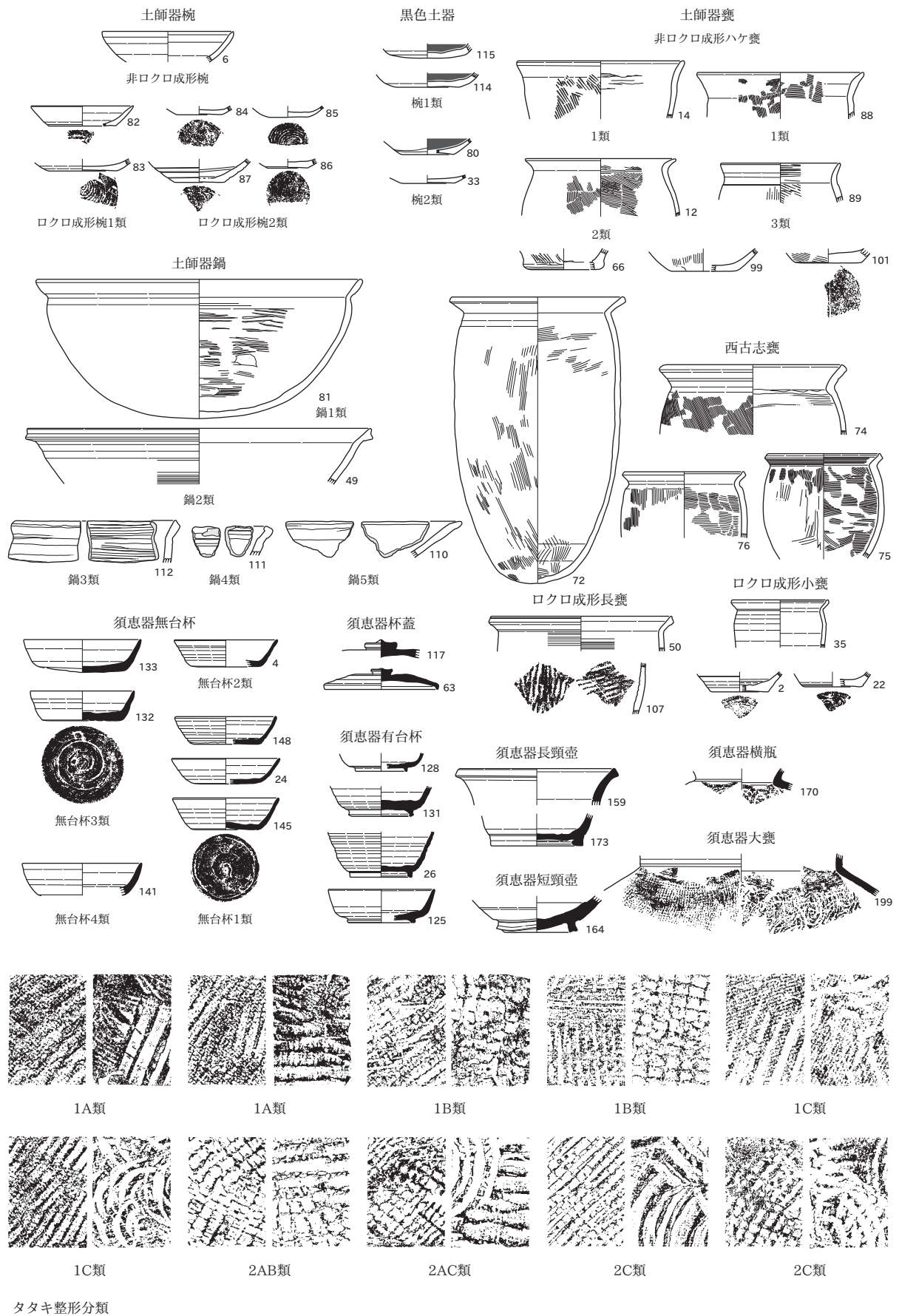
甕類 ハケ甕とロクロ甕に大別できる。ハケ甕は、非ロクロ成形による 8 世紀代の平底土器と 9 世紀代の西古志甕に大別できる。前者は口縁部に最大径をもつ 1 類、体部が膨らむ 2 類、口縁下に段をもつ 3 類からなる。西古志甕は、丸底の長甕と平底の小甕からなる。ロクロ甕は、口端が丸く整形される 8 世紀後半の小甕と端部をつまむ 9 世紀代の長甕が見られる。長甕の体部~底部にはタタキ整形が行われる。タタキ整形については後述の須恵器と同様の工具が使用されるが、出土数が乏しいため、須恵器の項で記述する。

鍋 ロクロ成形によって作出される。端部に面取りを行う 8 世紀末~9 世紀初頭の 1 類、端部が肥厚する 9 世紀前半の 2 類、端部をつまむ 9 世紀中葉~終末の 3 類、端部が巻き込む 9 世紀後半以降の 4 類、端部が外傾する 9 世紀終末の 5 類に分かれる。

② 含有物 (写真図版 30)

6 倍・10 倍ルーペによる観察をつうじ、鉱物 (石英・長石・雲母・角閃石)・各種岩石 (チャート・玉髄・泥岩・シ

第3節 古代の遺物



第16図 古代土器分類図

ルト岩など)・赤色粒子・海綿骨針の含有を確認した。石英・長石や各種岩石は、摩耗粒子と破碎粒子に大別できる。鉱物と岩石は粒子の大きさに差異があることから、1mm未満を微粒子、1mm台を細粒子、2mm以上を粗粒子とする。赤色粒子は、胎土内の褐鉄鉱が加熱によって発色したものとみられる。ここでは、胎土内に含まれる粒子のサイズに基づきⅠ類・Ⅱ類に区分し、含有物の内容から細分を行う。赤色粒子と海綿骨針は有意な区分基準となりえぬことから分類項目から除外した。

Ⅰ 類 各種鉱物・岩石からなる微粒子とともに、石英や硬質岩石(泥岩・シルト岩などの軟質岩石以外)の細粒子・粗粒子を一定量以上含むグループである。いずれの資料も磨耗した岩石細粒子を含み、破碎した石英・岩石を伴うものも多い。ここでは、石英の磨耗粒子を含むⅠa類とこれが欠落するⅠb類に細分する。

Ⅱ 類 石英や硬質岩からなる細粒子・粗粒子が欠落もしくは稀薄なグループである。微粒子の含有量には多寡が見られるが、明確な線引きが困難なため区分は行わず、泥岩などの軟質岩石からなる細粒子を含むⅡa類と欠落するⅡb類に細分する。

b 須 恵 器

① 器種と形態(第16図)

食膳具と貯蔵具に大別できる。食膳具は有台杯・無台杯・杯蓋、貯蔵具は壺類・横瓶・甕からなる。このうち復元個体が比較的多い無台杯について、以下のような分類を行う。

1類は体部と底部の境界が概ね明瞭で、全体が薄手のもの、2類は体部と底部の境界は明瞭であるが、底部のみが厚く作出されるもの、3類は体部と底部の境界は明瞭であるが、体部が厚く口端が尖るもの、4類は体部下端が丸みを帯び、底面との境界が不明瞭なもの、とする。

② タタキ整形(第16図)

横瓶・甕と壺類の体部下部に「タタキ整形」が行われる。外面のタタキ目には、平行・格子目状の二種があり、前者を1類、後者を2類とする。内面の当て具痕は三種あり、平行圧痕をA、格子目圧痕をB、同心円圧痕をCとする。内外面でのこれらの複合パターンは6種にわたる。各々の組み合わせから、1A類・1B類・1C類・2AB類・2AC類・2C類とする。使用工具には木取りにバリエーションが見られる。外面のタタキ整形痕では、平行タタキ目に木口痕をもつA種と平滑なB種の別がある。内面の当て具痕では木口痕をもつA種、条と平行に細線が走るB種、平滑なC種に分けられる。代表的な資料を第16図に示す。

③ 含 有 物(写真図版30)

6倍・10倍ルーペによる観察をつうじ、鉱物(石英・長石)と各種岩石・赤色粒子・海綿骨針を確認した。土師器と較べ含有物の識別は容易でなく、赤色粒子と海綿骨針は一部で観察できたのみである。鉱物と各種岩石は摩耗粒子と破碎粒子に二分できるが、自然釉の付着などによって両者の峻別が困難な資料がある。

Ⅰ 類 後述のように、本遺跡では酸化炎焼成による須恵器が出土した。8世紀中ごろから9世紀初頭の角山麓産須恵器であり、近隣の重稲場窯跡出土資料のあり方も加味して次のように細分する。

本類では、いずれの資料も石英・岩石からなる微粒子を含む。磨耗または破碎状態にある石英・岩石の細粒子・粗粒子を一定以上含むグループをⅠa類、これが欠落または稀薄なグループをⅠb類に細分する。前述のような土師器の胎土分類と比較した場合、前者は土師器Ⅰ類、後者は同Ⅱ類に対応する。

Ⅱ 類 磨耗した石英・長石・岩石からなる細粒子と破碎状態にある石英・長石の細粒子・粗粒子の含有を特徴とするグループである。明確な磨耗は確認できないものの、石英・長石の細粒子・粗粒子を少量含むものも本類とする。能代川の砂粒に類似し、8世紀後半から9世紀前半の新津丘陵東麓産須恵器とみなされる。

Ⅲ 類 磨耗度の高い石英・長石・硬質岩石からなる細粒子を多量に含むグループである。石英・長石の含有量がさほど多くないことから、8世紀後半の信濃川左岸産須恵器としておく。

Ⅳ 類 破碎または磨耗度の低い石英・長石の粗粒子を多量に含むグループである。新発田市域の加治川・坂井川や笹神丘陵周辺で採取できる砂粒に類似することから、8世紀中葉～終末の阿賀北産須恵器とみなされる。

V 類 灰白色を基調とした泥岩などの軟質微粒子を含み、石英・長石が稀薄なグループである。9世紀前半を中心とする佐渡小泊産須恵器とみなされる。

2) 遺構内出土土器 (図版 48・49、写真図版 23・24)

総数 132 基の遺構覆土 (ピット 105・土坑 12・焼土坑 6・焼土廃棄遺構 3・性格不明遺構 6) から土師器 11,509g・黒色土器 12g・須恵器 724g が出土した。一基あたりの出土量は少なく、良好な一括資料に欠ける。図版 48・49 に 23 箇所から出土した主要な資料を示す。各遺構の位置は図版 49 下段のとおりである。

SB516 (図版 48-1～5・写真図版 23)

5 基のピット覆土から土師器 15 点・須恵器 3 点が出土した。1 は P303 の 1 層 (単層) から出土した。ロクロ成形による土師器の甕体部で、外面に平行タタキ目、内面に同心円当具痕をもつ。タタキ目は木口痕を伴い、条の間隔は 4mm を測る。胎土は Ib 類。2 は P484 の 1 層 (柱痕上部) から出土した。ロクロ成形の土師器小甕で、底面に回転糸切痕をもつ。胎土は IIa 類。須恵器無台杯の 3 は P309 の 3 層、4・5 は P485 の 3～4 層から出土した。胎土は 4 が Ia 類、3・5 が Ib 類である。3 は無台杯 3 類もしくは 4 類、4 は同 3 類、5 は同 4 類にあたる。

以上のなかで本遺構の年代を示す資料は 3～5 である。これらはいずれも 8 世紀半ば～9 世紀初頭の大枠でとらえられる角田山麓産須恵器であり、P481 出土炭化材での ^{14}C 年代測定値 (AD760±20 年) は出土土器の上限に近い時期を示す。

SB621 (図版 48-6～11、写真図版 23)

8 基のピット覆土から土師器 47 点が出土した。6・8 は P448 の 1 層から出土した。6 は非ロクロ成形の椀。やや厚手の作りで、口端が尖る。8 はロクロ成形による長甕の体部。外面にカキ目がみられる。7 は同じく P448 の 4 層 (柱穴中部) から出土した。ロクロ成形の長甕体部で、外面に平行タタキ目をもつ。全体が摩耗するため、使用工具の詳細は不明である。9 は P434 の 1 層から出土した。ロクロ成形の長甕で、口端が掴まんで肥厚する。体部の膨らみは弱い。10 は P460 の 1 層、11 は P461 の 1 層からの出土。ともに甕類の体部破片で、10 は外面、11 は内外面に縦位のハケ目調整を行う。胎土はバラエティーに富んでおり、6・8・11 が Ib 類、9 が IIa 類、7・10 が IIb 類である。

以上の資料は、8 世紀代の 6・10・11、9 世紀前半の 9、9 世紀代の 7・8 が混在する。このうち 8 は本遺構の構築時期がうかがえる資料であり、P463 出土炭化材での ^{14}C 年代測定値 (AD780±20 年) に比べ新しい年代を示す。

SB622 (図版 48-12～19、写真図版 23)

5 基のピット覆土から土師器 26 点・須恵器 2 点が出土した。12～16 は P626 の 1 層 (単層) から出土した。12～15 は、非ロクロ成形による土師器の甕である。12 は体部に最大径をもち、外面に縦位・斜位、内面に斜位のハケ目調整を行う。13 は直立した体部と外反口縁をもち、外面に縦位、内面上部に横位のハケ目調整を行う。14 は外傾器形をもち、外面に斜位のハケ目調整を行う。15 は平底の底部資料。外面に縦位のハケ目調整を行う。以上 4 点の胎土は、14 が Ia 類、12・13 が Ib 類、15 が IIb 類である。16 は須恵器杯類の底面である。胎土 Ib 類にあたり、角田山麓産須恵器とみなされる。17・18 は P395 の 2 層 (柱痕下部) から出土した土師器ハケ甕。17 は内外面、18 は外面に縦位のハケ目調整を行う。胎土は前者が Ib 類、後者が IIb 類である。19 は P432 の 1 層から出土した。外面に縦位、内面に横位のハケ目調整を行う土師器の甕類で、胎土は Ib 類にあたる。

以上の資料は 8 世紀代のハケ甕と同時期の角田山麓産須恵器からなる点で所属時期が接近する。本遺構は SB621 と FP365 と重複し、後者がピットを切ることから、各遺構の機能年代を判断できる資料となる。

P123 (図版 48-20、写真図版 23)

西部窪地に位置する 2b 類のピットである。20 はロクロ成形による鍋。分厚く作出された底部付近の小破片で、

外面に縦位の平行タタキ目が観察できる。胎土はⅡb類にあたり、9世紀後半に下降する可能性がある。

P144 (図版 48-21、写真図版 23)

西部窪地に位置する 2b 類の小ピットである。21 は底径 6cm ほどの須恵器無台杯で、胎土は V 類に該当する。9 世紀中ごろとみられる佐渡小泊産の資料である。

P145 (図版 48-22、写真図版 23)

西部窪地に位置する 2b 類の小ピットである。22 はロクロ成形による土師器小甕の底部破片で、底面に回転糸切痕をもつ。胎土はⅡb類にあたる。8世紀終末以降の資料である。

P212 (図版 48-23、写真図版 23)

東部尾根東斜面のⅡ層内で確認された 2a 類の小ピットである。23 は 1 層から出土した須恵器の有台杯。高台の下端内部が削られた類例の乏しい形態をもつ。胎土は I b 類にあたり、角田山麓産須恵器とみなされる。

P251 (図版 48-25・26、写真図版 23)

東部尾根東斜面のⅡ層内で確認された 2b 類の小ピットである。25 は口径 13cm と推定できる須恵器無台杯。器面全体が平滑に整形され、口縁部はやや曲線的に立ち上がる。胎土 V 類にあたり、9 世紀第二四半世紀に製作された小泊産の製品とみなされる。26 は、須恵器有台杯の下半部で、底径 7.4cm を測る。外面を中心に整形時の凹凸が明瞭に残る。25 と同様の胎土をもち、同時期の小泊産の製品とみなされる。

P263 (図版 48-24、写真図版 23)

東部尾根東斜面のⅡ層内から確認された 2b 類の小ピットである。24 は口径 13cm 弱と推定できる須恵器無台杯。底部は丸みを帯び、直線的に外傾しながら口縁部に至る 4 類の資料である。胎土はⅡ類にあたり、新津丘陵で生産された 9 世紀代の資料とみなされる。

P266 (図版 48-27、写真図版 23)

東部尾根東斜面のⅡ層内から確認された 2b 類の小ピットである。27 は土師器甕類の小破片で、外面に斜位、内面に横位のハケ目調整を行う。胎土はⅡb類。8世紀代のハケ甕である。

P319 (図版 48-28、写真図版 23)

東部尾根頂部の SB516 北側に隣接した 2b 類のピットである。28 は口端を摘まんだ土師器ロクロ甕の口縁部破片。内外面にカキ目がみられる。胎土 I b 類にあたる 9 世紀代の資料である。

P320 (図版 48-29、写真図版 23)

東部尾根の高域西部に位置する 2b 類の小ピットである。29 は外面に縦位・斜位の平行タタキ目、内面に横位の平行当て具痕をもつ。使用工具に木口痕は見られない。胎土は I b 類。9 世紀代のタタキ甕である。

P361 (図版 48-30、写真図版 23)

東部尾根の高域部中央、SB516 と 621 の中間付近に位置する 2a 類のピットである。30 は 1 層から出土した須恵器甕。外面に木口痕を伴う斜位の平行タタキ目、内面に内部が平滑な同心円当て具痕をもち、タタキ整形分類 1C 類の資料である。胎土は I b 類にあたり、角田山麓産須恵器と見なされる。

P404 (図版 48-31・32、写真図版 23)

東部尾根の低域部中央に位置する 1 類のピットである。31・32 は 1 層から出土した。前者は胎土Ⅱb類の土師器無台碗。9 世紀中ごろ以降の資料と見られる。後者は外面に縦位の平行タタキ目、内面同心円当て具痕をもつ土師器タタキ甕。タタキ目の間隔は 4mm 台であるが、木取りは明らかでない。胎土Ⅱb類にあたり、9 世紀代の資料とみなされる。

P408 (図版 48-33・34、写真図版 23)

P406 に隣接する 2a 類のピットである。33・34 は 1 層から出土した。前者は底径 6.3cm の土師器無台碗 2 類にあたる。底部の大きさから、9 世紀前半の資料と見なされる。後者は外面に木口痕を伴う斜位の平行タタキ目、内面に同心円当て具痕をもつ。9 世紀代のタタキ甕である。胎土は 34 が I b 類、33 がⅡb類。

P416 (図版 48-35～37、写真図版 23)

東部尾根の中域部 SB622 に隣接する 2a 類のピットである。35～37 は 1 層から出土した。35 はロクロ成形による土師器小甕。口径 11.5cm を測り、きわめて薄手の作りである。36 は外面に縦位のハケ目調整を行う甕。内面の整形法は明らかでない。37 はロクロ成形による小甕で、底面に回転糸切痕をもつ。胎土は 36・37 が Ib 類、35 が IIb 類。36・37 は 8 世紀代、38 は 8 世紀終末以降の資料とみなされる。

P604 (図版 48-38・39、写真図版 23)

東部尾根東端の削平域に残存する 2a 類のピットである。38 は 2 層、39 は 1 層から出土した。前者は底径 7.6cm の平底甕。後者は劣化が進んだロクロ甕で、内面に同心円当て具痕の存在が観察できるのみである。胎土はともに Ib 類であるが、38 は多量の破碎石英を含む。38 は 8 世紀代、39 は 8 世紀後半以降の資料とみられる。

P620 (図版 48-40、写真図版 23)

東部尾根の低域部中央に位置する 2b 類の小ピットである。40 は外面に木口痕を伴う斜位の平行タタキ目をもつ土師器甕。タタキ目の間隔は 4mm 台を測る。胎土は Ib 類。ロクロ成形による 9 世紀代の資料である。

SK235 (図版 49-41・42、写真図版 24)

東部尾根の東斜面 II 層内から確認された単層の小規模土坑である。41・42 は、ともに土師器甕。41 は内外面にハケ目調整を行う。42 は内面にハケ目調整を行い、外面に斜位のケズリ痕が観察できる。胎土はともに Ib 類にあたるが、42 には多量の破碎石英が含まれる。8 世紀代のハケ甕である。

SK238 (図版 49-43、写真図版 24)

東部尾根東斜面の II 層内から確認された単層の小規模土坑である。43 は外面上部に小さな段を有する口縁下の小破片。胎土は Ib 類にあたる。後述の図版 52-89 と器形が類似しており、8 世紀代の東北系土器とみられる甕 3 類である。

SK491 (図版 49-44、写真図版 24)

東部尾根の低域部中央に位置し、焼土坑 FP9 の覆土を掘込む土坑である。44 は下部の 4 層から出土した。底径の小さな土師器碗 2 類で、底面に回転糸切痕をもつ。胎土は Ib 類。9 世紀後半の資料とみなされる。

FP2 (図版 49-45～47、写真図版 24)

西部緩斜面に位置する不整円形の焼土坑である。46・47 が 1 層、45 が 2 層から出土した。45・46 は土師器のハケ甕で、ともに内外面に縦位～斜位のハケ目調整を行う。胎土は Ib 類。47 は器壁が薄い須恵器の杯である。胎土は Ib 類にあたり、角田山麓産須恵器とみなされる。46・47 は 8 世紀代、48 は 9 世紀初頭を下限とする資料とみられる。

FP9 (図版 49-48～56、写真図版 24)

東部尾根の低域部中央に位置する方形の焼土坑である。48・50・51・53・54 が 1 層、52・55・56 が 2 層、49 が 2 層下部から出土した。48 は底径が小さい土師器碗 2 類である。49 は端部をつまむ鍋 3 類で、口径 44cm と推定できる。50 は推定口径 21cm 台の長甕である。口端は摘まんで成形する。体部は直線的に垂下し、内外面にカキ目がみられる。51 は内面が剥落するロクロ甕の体部資料。斜位の平行タタキ目を外面にもつ。幅 6mm 台の粗大な圧痕で、タタキ目に木口痕は見られない。52 は非ロクロ成形の小甕。以上のような土師器の胎土は 52 が Ib 類、それ以外は IIa 類である。53 は底径 9cm と推定できる須恵器の有台杯。胎土は V 類にあたり、小泊産の製品とみなされる。54・55 の須恵器無台杯は胎土 Ib 類にあたり、角田山麓産須恵器とみなされる。前者は薄手に作られた無台杯 4 類である。56 は外面に格子目タタキ、内面に同心円当て具痕をもったタタキ分類 2C 類の甕である。胎土 Ib 類に該当し、角田山麓産須恵器とみなされる。

以上の年代としては、土師器 52 が 8 世紀後半、須恵器 54～56 が 8 世紀半ば～9 世紀初頭、土師器 48～51 が 9 世紀代、須恵器 53 が 9 世紀前半に位置づけられる。8 世紀後半から 9 世紀代の資料が混在する状況に

あり、¹⁴C年代測定値(740±20年)に較べ後出時期の土器によって占められる。

FP261 (図版 49-57～63、図版 24)

東部尾根東斜面に位置する楕円の焼土坑である。57～59・61～63が3層、60が4層から出土した。57～61は土師器ハケ甕である。57は口径16cmを測る。「く」の字状に外傾する口縁と膨らみをもった体部からなり、外面に縦～斜位、内面に横位のハケ目調整を行う。口縁部58や口縁下～体部にあたる59・60も類似した器形と調整がみられる。61は内面に横位～斜位のハケ目調整を行い、外面に横位のケズリ痕を残す。胎土は57・59がIa類、58・60・61がIb類である。62は須恵器有台杯の口縁部破片。63は全体形がうかがえる本次調査唯一の杯蓋である。口径13.5cm・器高2.5cm・つまみの直径2.1cmを測り、端部が明瞭に突出する。胎土はともにII類にあたり、新津丘陵産須恵器とみなされる。

以上の年代としては、土師器58～61が8世紀代、須恵器63が8世紀終末、土師器57が8世紀末～9世紀初頭、須恵器62が8世紀代～9世紀前半と位置づけられ、比較的限定された期間内に収まる資料と言える。

FP365 (図版 49-64・65、写真図版 24)

東部尾根中域部のSB621・622と重複する隅丸方形の焼土坑である。64・65は最上部の2層から出土した。64は黒色土器の椀。内外面が平滑に整形され、内面が黒色を呈する。胎土はIIa類である。65は須恵器無台杯の底部破片。胎土V類にあたり、小泊産須恵器とみなされる。

以上2点は9世紀半ば以降の資料と位置づけられる。本遺構では¹⁴C年代測定でAD760±20年の測定値がえられている。両者における年代の隔たりは、2点の土器が遺構廃絶後の廃棄資料であるためと考えられる。

SX291 (図版 49-66、写真図版 24)

東部尾根の中域部東寄りに位置する大形の掘り込みである。66は推定径9cm弱の土師器平底甕で、外面に斜位のハケ目調整が行われる。胎土はIb類。8世紀代の資料とみなされるが、出土層位は明らかでない。

SX377 (図版 49-67～69、写真図版 24)

東部尾根の低域部中央に位置する焼土廃棄遺構である。67～69は焼土ブロック含有層の上部に堆積する1層から出土した。67は外面に縦位、内面に横位のハケ目調整を行う土師器甕。胎土はIIb類である。68・69は須恵器無台杯と同一手法によって製作される資料であるが、酸化炎焼成によって土師器に類した色調・質感をもつ。同様の資料が西部窪地からまとまって出土しており、底部付近の68は図版53-133～136・138～141に形態が類似する。69は底面に回転ヘラ切痕をもち、薄手の作りである。胎土はともにIb類にあたる。

以上の3点は、土師器67と須恵器68が8世紀代、須恵器69が9世紀初頭を下限とし、比較的接近した期間の中に含まれる。

SX379 (図版 49-70・71、写真図版 24)

東部尾根の中域部、SB622と重複する焼土廃棄遺構である。70・71は遺構確認面の1層から出土した。70は推定口径13cm弱の土師器椀2類で、きわめて薄手に作られる。胎土はIa類。71は口径推定14cm台の須恵器無台杯。胎土はII類にあたり、新津丘陵産須恵器とみなされる。70は9世紀後半以降、71は8世紀中ごろ～後半の資料とみなされる。年代が下る70については混在の疑いももたれる。

3) 土器集中出土土器 (図版 50・51-72～81、写真図版 17・25)

西部窪地の中央部、8M-25区のII層下部から、土師器の甕6個体・鍋1個体・黒色土器の椀1個体が密集状態で出土した(図版50)。出土範囲は南北1.3m・東西0.5mに限定される。南北方向での出土レベルは自然地形に沿って傾斜する。73は隣接グリッドから出土した数少ない復元土器で、関連遺物として本項でとりあげる。

72～76は西古志甕である。77～79は、その下部から底部資料の可能性がある。72～76は口端に面どりが行われる。72は口縁部、73は体部に最大径をもつ。74～76は口縁部と体部径がほぼ同一である。72～74は口径20～21cm台、72・73の器高は前者が34.2cm、後者が28cmを測る。75・76は小甕。口径は前者が13.4cm、後者が14.1cm。78・79は小甕の底部である。いずれの資料も内外面にハケ目調整が行われる。

調整部位と方向にはある程度の規則性があり、外面には縦位を中心とした調整が行われる。内面調整は長甕・小甕で異なる。前者は上部を横位、下部を縦位または斜位に調整し、中間部が欠落する72・74と全面に及ぶ73の別がある。後者はいずれも全面にわたり横位調整を行う。胎土は72・79がIa類、これ以外がIb類である。

81は本次調査で出土した鍋の中で、全体形が把握できる唯一の資料で、口径38cm台、器高16.6cmを測る。本例の口縁部は「く」の字状に外傾し、端部がいくぶん肥厚する。外面は平滑に整形されるが、内面に横位のケズリ痕とハケ目が観察できる。鍋1類、胎土Ia類にあたる資料である。

80は黒色土器無台碗2類の底部破片である。底部は推定径6cmを測り、揚底をなしている。内外面は平滑に整形され、内面が黒色を呈する。胎土はIa類にあたるが、上記の土師器に較べ微細な粒子が含まれる。

以上の資料は、いずれも9世紀前半に属し、一括廃棄された資料と考えられる。このうち72・77・81はきわめて軟質な土器で、焼成不良のため廃棄された資料とみられる。

4) 遺構外出土土器

a 土師器

口縁部遺存資料集計で、碗10個体、甕類38個体、鍋7個体が出土した。主要な資料を図版52に示す。分布上の特徴としては、西部緩斜面において8世紀代のハケ甕に偏る点があげられる。

① 碗 (図版52-82～87、写真図版26)

全体形と底部形態がわかる6点を示す。84は西部窪地の東側斜面、これ以外は東部尾根から出土した。底径の大小によって二つのグループに分けられる。胎土は85・87がIb類にあたるほかはIIb類である。

82・83は底部径が大きい碗1類で、8cm台の径をもつ。82は口径12.2cm、器高2.4cmを測る。底面が弱い揚底をなし、体部は直線的に立ち上る。ともに9世紀前半に位置づけられる資料である。

84～87は、底径5cm弱から6cm台の碗2類。84・86・87は弱い揚底をなし、85の底面には右回転による糸切痕が観察できる。87は体部にロクロ成形時の凹凸が残る。いずれも9世紀後半の資料である。

② 甕 類 (図版52-88～109、写真図版26)

口縁部遺存資料5点、底部5点と整形手法がうかがえる体部13点を示す。整形法に基づき、ハケ甕(88～102)とタタキ甕(103～109)に大別され、前者は形態的な特徴から新・旧に二分できる。

ハケ甕 8世紀代のハケ甕と9世紀前半の西古志甕に大別できる。胎土はともにIb類が卓越する。Ia類は後者の94・96、IIb類は前者の88・90と後者の97が該当するのみである。

88～90・98～102は、8世紀代に位置づけられる。89・94・98・100・101が西部緩斜面、88・90が西部窪地、99・102が東部尾根から出土した。88～91の口縁部資料は、いずれも形態を異にする。88は外反ぎみの口縁部に最大径をもち、体部が直線的に垂下する。推定口径は20cm弱。外面に横位～縦位、内面上部に横位～斜位のハケ目調整を行う。本例は東北的要素が指摘される資料である。89は、強く膨らむ体部の上端に小段を設け、口縁部はいくぶん外反する。口径14cm台の小形土器である。体部外面に縦位のハケ目、体部内面に斜位のハケ目調整を行い、内面上部にはカキ目を残す。90は膨らみをもった体部と端部が丸く作出された外反口縁を特徴とする。不鮮明ではあるが、外面には斜位のハケ目が観察できる。本例も口径13cm台の小形土器である。4点の底部資料もそれぞれ特徴を異にする。98は体部下端にケズリ整形を加え、内面に横位のハケ目調整を行う。99～101は、径7cm台から8cmの平底である。いずれも外面にハケ目調整を行うが、調整方向は縦位(99)・横位(100)・斜位(101)の別がある。100の底面には複数方向の擦痕が残る。101は木葉痕をもつ底部である。102は径6cmを測る平底土器。外面に縦位のハケ目調整、外面下端と底面にケズリ整形を行う。

91～93は9世紀前半の西古志甕である。92・93は、先述の「土器集中」隣接グリッドから出土した。91は東部尾根からの出土である。口縁部資料の91・92は、内面に横位のハケ目調整を行う。93は内外面にハケ目調整を行う。外面には全体に横位調整を行い、上部にのみ縦位調整を複合させる。内面調整は上部と下部で方

向を異にし、上部で横位、下部で縦位ハケ目が見られる。本例は堅緻に焼成された資料であるが、外面の一部に粗荒箇所をもち、使用前に廃棄された可能性が高い。

94～97は所属時期が判然としない体部資料である。94は外面に斜位と縦位のハケ目が交錯する。95～97は内外面に同一方向縦位もしくは横位のハケ目調整を行う。

タタキ甕 ロクロ成形によるもので、9世紀代に位置づけられる。103・104が西部窪地、105～109が東部尾根から出土した。胎土は分散しており、Ia類(108・109)、Ib類(104・105)、IIa類(106)、IIb類(103・107)に別けられる。整形痕にはいくつかのバリエーションが見られる。

103は外面に縦位平行タタキ目、内面に同心円状当て具痕をもつ。104・105は外面に縦位もしくは斜位の平行タタキ目、内面に横位のハケ目調整痕を認める。106～109は外面に平行タタキ目、内面に平行当て具痕をもつ資料である。圧痕方向は内外面で異なる。外面にはいずれも縦位のタタキ目をもち、斜位と縦位が交錯する106のような例も見られる。内面の当て具痕は、いずれも斜位または横位である。使用工具の条線間隔は、103・104・106が5mm台、105・107～109が6mm台である。

③ 鍋(図版52-110～113、写真図版26)

ロクロ成形によって作出されるもので、口縁部資料4点を示す。113は西部窪地、110・111・112は東部尾根から出土した。胎土は111がIb類、これ以外がIIa類である。口縁形態はそれぞれ特徴を異にする。

112は鍋1類。均一な器厚をもち、端部に面どりが行われる。内面にはカキ目が明瞭に観察できる。4点の中では最も古様相を認め、8世紀末～9世紀初頭に位置づけられる。113は端部を摘まむ鍋3類で、9世紀中ごろに位置づけられる。111は口縁端部が内部に突出する。鍋4類にあたる9世紀後半の資料である。口縁部が外傾する110は鍋5類にあたり、本地区の下限を示す9世紀終末の資料と位置づけられる。

b 黒色土器(図版52-114～116、写真図版26)

口縁部遺存資料で1個体、底部遺存資料で3個体分の椀が出土したのみである。いずれも入念なミガキを行い、内面を黒色処理する。114・115は西部窪地、116は東部尾根から出土した。

114・115は底径が大きく、縁辺が丸みを帯びた椀1類で、8世紀後半に位置づけられる。114は口縁部から底部にいたる破片が出土しているが、復元に至らなかったため、口縁部資料を別個に示した。両資料は、焼成時に生じた「焼はじけ」によって細片化する。先述の土器集中に隣接した地点から出土しており、未使用の状態で廃棄された資料とみられる。ともに胎土はIb類。116は底径8cmを測り、揚底ぎみの底部形態をもつ。椀2類にあたる9世紀前半の資料である。胎土はIIb類。

c 須恵器

口縁部遺存資料で杯類57個体・杯蓋6個体・壺～瓶類4個体が出土した。図版53・54に91点を示す。このうち出土位置が明確な資料は87点あり、地区別にみた数量は、西部緩斜面17点、西部窪地40点、東部尾根30点となる。胎土分類別の内訳は、I類(角田山麓)35点・II類(新津丘陵)16点・III類(阿賀北)5点・IV類(信濃川左岸)2点・V類(小泊)32点である。地区ごとの構成を見ると、西部緩斜面ではI類が最も多く、II類がこれに続く。西部窪地と東部尾根では、I類・V類がほぼ同数を占める。III類は西部窪地から西部緩斜面に分布し、東部尾根では確認できなかった。以下では各器種の特徴を胎土分類ごとに記述する。

① 無台杯(図版53-132～147・図版54-148～158、写真図版27・28)

27点掲載した。胎土分類別ではI類14点・II類1点・V類12点からなる。

I類 焼成状態によって、還元焼成品と酸化炎焼成品に二大別できる。前者の分布に偏りはない。図版47上段に示すように、後者は西部窪地の西斜面に集中する。先述の「土器集中」と同様に未使用の状態で廃棄された資料とみなされもので、付近に須恵器の窯跡が存在する可能性を強く示唆している。

132・144・145は、還元焼成品である。145が西部緩斜面、132が西部窪地、144が東部尾根から出土した。胎土は132がIa類、144・145がIb類である。形態は144・145が1類、132が3類にあたる。132は唯

一の完形品で、口径 12.4cm・底径 9.4cm・器高 3.5cm を測る。132 と 145 は底面に回転ヘラ切痕が明瞭に残されており、前者は左、後者は右回転によるものである。132 は 8 世紀後半、144～146 は 9 世紀前半に位置づけられる。

133～143 は酸化炎焼成による焼成不良品である。137・141 が西部緩斜面、これ以外が西部窪地から出土した。胎土は 137・141 が Ia 類、これ以外が Ib 類である。色調は、142 が褐色～黒褐色を呈するほかは橙色を基調とする。全体形が把握できる資料は 133 に限られる。3 類に該当する典型的な資料で、底面に左回転によるヘラ切痕が観察できる。134～141 は、口縁部から体下部までが遺存する。133 を含め、口径は 13～14cm 台が大半を占める。137 は器厚が薄く、1 類もしくは 2 類にあたる唯一の資料である。これ以外は器厚が厚く、端部が尖る点で 3 類に該当する可能性が高い。体下部が丸く作出される点も特徴的である。142・143 は底部資料。底径は前者が 7.0cm、後者が 8.8cm。ともに体部の器壁が厚く、3 類に該当する。以上の資料は、9 世紀代に下降する可能性が高い 137 を除けば、8 世紀中葉から後葉に位置づけられる。

Ⅱ 類 東部尾根から 146 が出土した。4 類にあたる底部資料である。8 世紀後半に位置づけられる。

V 類 西部窪地から 147～149・152・156・158、東部尾根から 150・153・154・155・157 が出土した。148・150～156 は 1 類、157・158 は 2 類にあたる。法量にはバラエティーがあり、口径では 12.2cm (148)～15.5cm (149)、底径では 6.5cm (156)～9.6cm (155) の変異幅を認める。器高はいずれも 3cm 台である。151 の底面には文字の判読ができないが墨書が確認できる。以上の資料は、151・152 が 9 世紀代半ば、これ以外が 9 世紀の第 2 四半世紀に位置づけられる。

② 有台杯 (図版 53-125～131、写真図版 27)

7 点掲載した。胎土分類別の内訳は、Ⅱ類 3 点・Ⅲ類 1 点・V類 3 点からなる。

Ⅱ 類 西部窪地から 126～128 が出土した。127 は底部と口縁部を欠損するが、口径 17cm 以上、高台径 9cm 弱の大型個体である。器厚も厚く、最大 8mm 台をもつ。126 は口径 14.5cm、128 は高台径 6.2cm を測る小型個体である。体部の器厚は 3mm 台にとどまる。127 は 8 世紀後半、126・128 は 9 世紀代に位置づけられる。

Ⅲ 類 西部窪地から出土した 125 に限定される。口径 12.7cm・底径 8.0cm・器高 4.0cm を測り、全体に厚手の作りである。高台が低く、端部が尖る点にも特徴がある。8 世紀中ごろから終末に位置づけられる。

V 類 東部尾根から 129・130 が出土した。129 は器壁が厚く、高台底面が幅広く作出される。130 は薄手の作りで高台尖端が尖る。前者は 9 世紀前半、後者は 9 世紀後半に位置づけられる。

③ 杯蓋 (図版 53-117～124、写真図版 27)

8 点掲載した。胎土分類別の内訳は、Ⅰ類 3 点・Ⅱ類 4 点・V類 1 点である。

Ⅰ 類 西部窪地から 117、東部尾根から 119 が出土した。胎土はともに Ib 類。117 は大形のツمامミが遺存する厚手の資料である。ツمامミの径は 3.9cm を測り、中央部が突出する。外面はケズリ整形痕が顕著に残り、内面には成形時に生じた右回転の渦が明瞭に観察できる。118・119 は中間部資料。前者は緩やかに下降して端部にいたる。117 は 8 世紀中ごろ、118 は 8 世紀終末から 9 世紀初頭に位置づけられる。

Ⅱ 類 西部窪地から 120・122、東部尾根から 121、123 が出土した。端部の形態には三種のバリエーションが見られる。122 は連続的な角度をもって端部にいたる。121・122 は裾部に小さな張り出しをもつ。121 には重ね焼きの痕跡がみられる。123 は薄手に作出される。裾端に平坦面が広がり、端部が鋭角的に屈曲する。122 は 8 世紀後半、120・121 は 8 世紀終末から 9 世紀初頭、123 は 9 世紀代に位置づけられる。

V 類 東部尾根から 124 が出土した。厚手に作られた中間部の資料である。9 世紀前半に位置づけられる。

④ 壺類・瓶類 (図版 54-159～173、写真図版 28)

15 点掲載した。胎土分類別の内訳は、Ⅰ類 3 点・Ⅱ類 4 点・Ⅲ類 1 点・V類 7 点である。

Ⅰ 類 西部緩斜面から 159、西部窪地から 161、東部尾根から 160 が出土した。胎土は 161 が Ia 類、

これ以外がIb類。159は口径18cm台弱と推定される広口壺である。160は体部上端付近の小形長頸壺。体部径16cmほどと推定される161は体部下端付近の小破片。外面に斜位の平行タタキ目が残される。

Ⅱ類 西部緩斜面から162・163・165、西部窪地から164が出土した。

162は壺の体部上部資料で、体部径21cmほどと推定される。164は短頸壺の底部資料で、焼成時の歪みが著しい。高台は径7.7cmを測り、端部が外に張り出す。内外面には、指によるラフなタッチの整形痕が残っており、整形方向を矢印で示した。165は長頸壺の底部資料。高台は径9.6cmを測り、下端が強く張り出す。

163は横瓶である。外面に横位の浅い平行タタキ目、内面に同心円当て具痕をもつ。外面のタタキ目は木口痕を伴わず、条線幅は4.5mmを測る。内面の当て具痕は平行線を伴う。

Ⅲ類 西部窪地から166が出土した。内面に横位のハケ目調整が行われる体部下端の破片である。

V類 西部緩斜面から170・171、窪地から168・169・172・173が出土した。

167は、器種が明確でない口縁部資料。口径11cmほどを測る。168・169は長頸壺の口縁部である。172は体部径20cm前後と推定される中形壺。173は長頸壺の底部資料である。高台は径11.0cmを測る。内部下端が突出し、底面には整形時の擦痕が残る。

170は横瓶の頸部～体部上端である。外面に木口痕を伴う斜位の平行タタキ目、内面に内部が平滑な同心円当て具痕をもつ。171は横瓶底部とみられる資料である。タタキ整形痕1C類の外面に木口痕を伴う平行タタキ目、内面に内部が平滑な同心円当て具痕をもつ。

⑤ 甕類 (図版54-174～176、図版55-177～207、写真図版28・29)

タタキ整形痕が把握できる体部資料を中心に34点を掲載した。胎土分類別の内訳は、I類14点、II類5点、III類3点・IV類2点・V類10点である。

I類 西部緩斜面から177・179・183・184、西部窪地から174・187、東部尾根から175・176・178・180・181・182・185・186が出土した。大甕の頸部～体部上端にあたる174以外は部位が明確でない。胎土はすべてIb類である。タタキ整形は、1A類(182～186)・1AC類(181)・1C類(174～180)・2A類(187)の4種がみられる。数量的には、1C類が半数を占め、1A類がこれに次いで多い。タタキ目には、大半の資料で木口痕が観察でき、条線の間隔は3～4mm台に集中する。内面の当て具痕は、条の内部が平滑なもの(174など)、木口痕を伴うもの、細線が平行するもの(177など)の別があり、前二者が主体を占める。木口痕では縦位(184など)と斜位(176など)の別があり、前者が量的主体をなしている。

Ⅱ類 西部緩斜面から190・192、東部尾根から188・189・191が出土した。大甕の体部上端付近にあたる188・189以外は部位が明確でない。191の内外面には、砥石に類した摩耗痕が見られる。

タタキ整形は、1A類(192)・1C類(189・190・191)・2C類(188)が見られる。資料数は乏しいが、1C類を主とする傾向にあると言える。タタキ目における木口痕の保有・欠落資料に明確な偏りは見られない。条線間隔は3～4mmを測る。内面当て具痕は、平滑なもの(191など)と斜位の木口痕をもつもの(188など)が半々を占める。

Ⅲ類 西部緩斜面から195・196、西部窪地から197が出土した。タタキ整形痕が内外面に残る195・196は、1B類にあたる。ともにタタキ目の条線間隔は3mm台で、木口痕を伴う。

Ⅳ類 東部尾根から193・194が出土した。タタキ整形はともに1C類で、条線間隔は4mm。タタキ目には木口痕が伴い、当て具痕の条は平滑である。

V類 西部緩斜面から201・204、西部窪地から198・199・205、東部尾根から200・202・203・206・207が出土した。頸部～体部上部にあたる198・199以外は部位が明らかでない。

タタキ整形は1A類(207)・1C類(199・203)・1AC類(204・206)・2C類(200・201・202・205)の4種がみられる。数量的には、2C類を主としながらも分散傾向を示す。タタキ目は木口痕を伴い、条線間隔は3～4mm台を測る。当て具痕は、平滑なもの(203など)と木口痕を伴うもの(207など)が主体を占めるようである。

B 土製品

1) 土 錘 (図版 56-1~4、写真図版 17・31)

西側窪地西斜面の M8-22 区Ⅱ層から管状土錘 4 点が出土した (写真図版 17)。いずれも大型にあたる資料である。1 は一部を欠損するが、長さ 6.6cm、最大径 1.6cm の大形品で、孔径は 7mm を測る。2 は完存資料。重量 17.8g、長さ 4.7cm、最大径 1.9cm、孔径 5mm を測る。3 は半分欠損するが、2 に形態とサイズが類似する。4 は両端を欠失する資料で、最大径 2.0cm、孔径 9mm を測る。

以上 4 点は、いずれも摩耗した石英・岩石粒子と破碎石英を含む。これらは 1~2mm 台の細粒子や粗粒子からなり、石英の摩耗度が低い点に特徴がある。本遺跡の土師器にみられる混和材とは異質な内容で、製作地が異なる可能性を示唆する資料と言える。

2) 円筒形土製品 (図版 56-16、写真図版 31)

西部窪地の西側斜面から小破片 1 点が出土した。最大厚 1.3cm の部厚い作りで、径 10cm ほどと推定できる。外面に縦方向のハケ目調整を行い、内面には粘土帯の凹凸と成形時の指頭圧痕が明瞭に残る。多量の摩耗岩石と石英・岩石の破碎粒子を含み、土師器の胎土分類に従えば Ib 類の範疇に含まれる。

3) 焼成粘土塊 (図版 56-5~15、写真図版 31)

粘土塊が意図的もしくは偶発的に被熱したものである。1 区全体で 902g が出土した。分布域は 1 区全域にわたり、特定区域への偏りは見られない (図版 47)。以下では、古代の遺構内およびⅡ層・Ⅲ層出土の 542g の資料について特徴を示す。遺構内と包含層出土資料は数量的に拮抗し、遺構内から 266g、包含層から 276g 出土した。前者は焼土坑 3 基・焼土廃棄遺構 2 基、ピット 4 基・性格不明遺構 2 基からの出土である。1 基あたりの出土量が 20g 以上の遺構は焼土坑の FP9 (24.4g)・FP261 (46.4g) と焼土廃棄遺構の SX7 (125.8g)・SX379 (45.5g) に限られる。

粘土塊はいずれも不整形な形状で、大半が最大長 4cm~5cm 台の範囲に含まれる。土師器の胎土分類に基づけば、Ia 類 4.8g (0.9%)・Ib 類 117.0g (21.6%)・Ⅱ類 420.4g (77.5%) からなり、細粒子の含有率が低い点特徴的である。このほか、後述の羽口と同様にイネ科の葉痕や籾殻痕が観察できる資料 (15) が 6 点 (26.0g) 確認された。

C 石製品

3 種 8 点を掲載した。古代の石製品としては他に砥石破片が 1 点ある。このほか、Ⅱ層出土資料の中には磨耗・敲打礫が 3 点あるが、時代の特定が困難なため図示しなかった。

1) 有溝石錘 (図版 56-18、写真図版 31)

敲打によって幅 1cm・深さ 3mm ほどの溝を全周にめぐらし、先端部にこれと直交方向の溝を施す石錘である。灰白色安山岩の円礫を素材とする資料 1 点が東部尾根東斜面高域部の SK261 から出土した。本例は先端部のみを遺存し、現存長 7.3cm、幅 5.6cm、厚さ 5.2cm、重量 244.5g を測る。礫面の整形は行われておらず、断面三角形をなした歪な形状をもつ。本来連続すべき溝が先端部で途切れ、施溝部からの衝撃によって欠損することから、施溝作業の段階において破損し、廃棄された資料とみなされる。越後平野の周辺では、同類の石錘が的場遺跡 (藤塚 1993)・緒立 C 遺跡 (渡邊 1994)・四十石遺跡 (渡邊 2012)・下稻場遺跡 (小野・山口 1994) などから確認されているが、未成品の出土は本例が初となる。

2) 権状錘 (図版 56-17、写真図版 31)

東部尾根の東斜面低域部 R11-6 区から出土した 2 点の欠損品が接合したものである。灰白色を呈する珪質流紋岩を石材とする。本例は上部が欠損するが、現存長 4.0cm・最大幅 3.4cm・最大厚 1.9cm・重量 26.5g を測る。孔は両面穿孔されるが、表裏の位置にズレがあり、中央付近で破損する。基部は剥離成形痕を残す。剥離は

左主面から2回、右主面から3回、一側面から1回行われる。主面や側面には研磨整形が行われるが、仕上げ研磨の段階に至っておらず、明瞭な稜線が各面に残る。以上のような諸特徴から、本例は成形過程で破損した権状錘とみなされる。越後平野の周辺において現在までに報告される権状錘は15例を数える〔相田2012〕。このうち流紋岩を石材とした権状錘は胎内市船戸桜田遺跡や新潟市江南区駒首潟遺跡で出土例がある。本資料は権状錘の未成品としては初の出土例であり、この種の用具における製作・流通を考える上で重要な資料となる。

3) 砥石 (図版 56-19～24、写真図版 31)

19は泥岩製。灰白色の岩体に灰褐色の節理が走り、これに沿って3面が欠損する。表裏両面と側面は表面が平滑に摩耗し、左面は凹状、右面は平坦な形状をなす。上下両端の欠損は左平坦面からの衝撃による。

20は19に類した泥岩を石材とする。節理に沿って上下両端を欠損した中間部破片。両側面は製作時の擦痕をとどめ、使用の形跡がほとんど見られない。表裏二面は、横方向の研磨によって明瞭な稜線が形成される。

21は赤褐色の泥岩を石材とする。厚さ3.5mmたらずの扁平な砥石。二側面に製作時の擦痕を残す。表裏二面に鋭利な刃部の研磨によって生じた繊細な線条痕が多方向にわたって残される。22は粒子がいくぶん粗い泥岩製。右面はきわめて平坦であるが、斜方向からの研磨痕が明瞭に残る。左面は節理面からの剥離によって階段状をなしており、凸部に平坦な摩耗痕、中段に繊細な線条痕が残される。側面には製作時のラフな整形痕が残る。23は灰白色の泥岩製で、全体形がうかがえる唯一の資料。平面形は一辺7～9cm台の台形状をなし、厚さ8mmたらずの扁平な形状をもつ。左平面を中心に平滑な磨耗痕と繊細な綿状痕が観察できる。側面には、整形時の擦痕が残る。

24は灰オリーブ色をなした凝灰の角礫を素材とする。右の平坦面が摩耗し、左面の先端部や中央付近に細く浅い線条痕が観察できる。金属器の研磨によって生じた線条痕の可能性が高いことから、古代の所産とみなした。

D 鍛冶関連遺物

1) 羽口 (図版 56-25～28、写真図版 31)

東部尾根の東斜面高域部から3点(25～27)、東部尾根西斜面の高域部から1点(28)出土した。前者は、焼土廃棄遺構とその隣接グリッドからの出土である。

25は径6cmほどと推定できる先端部付近の破片である。2cm強の厚さをもつ。強い加熱を受けるため、外面がクラックを生じながら黒化し、気孔を伴う滓が付着する。内面は赤化が著しい。26も先端付近の破片である。強い加熱によって一端が変形外反する。器厚は6mm～11mmにとどまる。遺存部での推定径は4.5cmほどである。外部表面は灰白色を呈するが、先端部寄りの内面が暗赤褐色、それ以下が橙色に変色する。28は焼土廃棄遺構にあたるSK259の2層から出土した。推定径6cm台の中間部破片で、被熱によって内外面が赤化する。27は西斜面から出土した。中間部の破片で、被熱によって内面が赤化する。径は9cm前後と推定できる。

以上の4点はいずれも微粒子を多量に含むが、細粒子が欠落する点で土師器Ⅱ類の胎土に類似する。いずれの資料も粉殻破片を含有することも特徴的である。

2) 鉄滓 (図版 56-29、写真図版 31)

Ⅱ層およびⅢ層出土資料を古代の鉄滓として扱う。西部窪地を中心に30点、1184.4gが出土した。遺構に伴う資料は、西部窪地のP119から出土した1点(8g)にとどまる。図版47に示す2個所の100g以上出土グリッドは、2点の椀形鍛冶滓の出土地点にあたる。図版56-29は本次調査でえられた資料の中では最大の椀形滓で、長さ9.5cm・厚さ5.1cm・重量373.2gを測る。左面の下半が湾曲し、トーン表示区域が灰白色を呈する。図示しなかったもう一例は、長さ8.5cm、厚さ2.9cm・重量240.6gの資料である。

E 搬入礫

Ⅳ層内に含まれる小形磨耗礫に類似する資料以外を搬入礫とする。古代の遺構内とⅡ層・Ⅲ層から26,151g

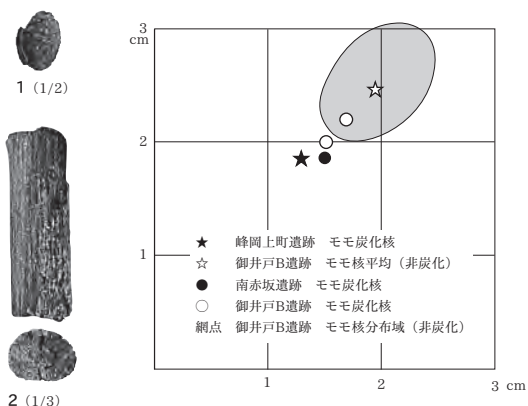
出土した。これらは9種の石材からなり、角田山東麓の開析谷などで容易に入手できるA群、主として南方2km以南の山地で産出するB群、弥彦・角田山塊以外からの搬入礫とみなされるC群に大別できる。A群は安山岩(25,074g)と玄武岩(29g)からなり、全体の96%に達する。B群は流紋岩(648g)・凝灰岩(105g)・玉髓(18g)、C群は硬質泥岩(218g)・砂岩(52g)・花崗岩(13g)・軽石(10g)が該当する。

遺構内からは、焼土坑2基・土坑1基・ピット6基・性格不明遺構1基から1,634gが出土した。100gを上回る遺構は、FP261(746g)・P126(555g)・SX377(190g)の3基に限定される。被熱資料は93%に達する。包含層出土礫は、24,517gにのぼる。このうち被熱礫は14,595g(59%)を測り、70%以上が西部窪地に分布する。なかでも8M-25区では被熱礫全体の24%にあたる8,798gが出土しており、前述の「土器集中」とともに中心的な廃棄空間をなしている。

F 植物遺体

1) 種 実(第17図1)

FP365(方形焼土坑)の2層から炭化したモモの核1点が出土した。一端が欠損するが、推定長1.8cm、幅1.25cm、厚さ1.05cmを測る。第17図右は、近隣の御井戸B遺跡(古墳時代前期)および南赤坂遺跡(古墳時代前期)出土資料とサイズを比較したものである。3遺跡から出土した炭化核はいずれも被熱によって収縮しているが、本遺跡の出土例は最小値を示し、小形サイズにあたることうかがえる。



第17図 古代の炭化物

2) 炭化材(第17図2)

本遺跡では、焼土坑を中心に多量の炭化材が出土している。第17図2は、SB621のP463第1層から出土し大形炭化材である。この資料は¹⁴C年代測定と樹種同定に供したもので、AD780年±20年の推定値がえられるとともに、硬質材のイヌエンジュであることが判明した。破損状態にあるため本来の長さは明らかでないが、直線的で端正な形状をなした丸木材である。幹の断面は扁平で、最大2.9cm、最小2.3cmの厚さをもつ。1区で確認された焼土坑の中には簡易炭窯に類似するものがあり、本例は形態やサイズの点において製炭材の可能性を考慮する必要がある。

第4節 近世以降の遺物

西部緩斜面に位置するSE1・SX3・SX6を中心に近世遺物が多数出土した。本節では、陶磁器類・土製品・金属製品・木製品について記述する。このほか多量の搬入礫と若干のガラス製品が出土した。

A 陶磁器類

総重量にして54,577gが出土した。分布範囲は全域にわたるが、西部緩斜面から西部窪地の低域部に集中する傾向にある(図版57上段)。

1) 遺構内出土資料

9箇所の遺構から20,910gの陶磁器類が出土した。本項では、1区全体出土量の38%を占めるSE1・SX3・SX6・SX290・盛土遺構出土資料をとりあげる。5遺構出土資料には遺構間の接合例があり、SE1+SX6(3個体)、SE1+SX290(1個体)、SX3+SX290(1個体)、SX6+SX290(1個体)、SE1+SX6+SX290(1個体)を確認した。遺構間の距離は、SE1とSX6・290が22~26m、SX3とSX6・290が7mを測る。このほか、すべての遺

構から同一形態の小皿が出土した。遺構間での接合例と特徴的な資料（補修品・記銘資料・同一形態の小皿）の分布状況を図版 58 に示す。以上の 5 遺構出土資料の年代としては、17 世紀後半～18 世紀代の資料を少量伴うものの大半が 19 世紀代に属することから、1860 年代（幕末）を下限とする一括性の高い遺物とみなされる。

SE1（図版 59-1～22、写真図版 32・33）

1 区の西端付近に位置する井戸跡である。埋積土の上部層と中部層から磁器 1,691g・陶器 7,597g・土器 373g が出土した。口縁部遺存資料に基づく個体数は 39 個体を数える。内訳は、磁器が 10 器種 26 個体（碗蓋 2・碗 7・小碗 7・中皿 1・小皿 3・小杯 2・段重 1・鉢 1・瓶 1・香炉 1）、陶器が 8 器種 12 個体（小碗 1・鉢 1・甕 1・徳利 1・土瓶 1・行平 1・片口鉢 1・火鉢 2・不明 3）、土器が焙烙 1 個体。このほか、口縁欠失資料の中には磁器製の銚子・蓋、陶製の播鉢、土製の火消壺破片がある。

碗蓋（1・2） 図示の 2 個体が出土した。ともに花唐草文を描く肥前系磁器。2 は 1820～1860 年代、1 は 19 世紀後半の製品である。

碗（3～5・7） 磁器製品が 7 個体出土した。肥前系の端反碗（3）・丸碗（4・5）と肥前または関西系の筒形碗（7）に別けられる。3～4 は外面・内面上端・見込に染付がなされる。外面の染付は 3 が雲龍文、4 が人物文、5 が花文。7 は外面にのみ松竹文が描かれる。3 は 19 世紀前半、4・5 は 1820～1860 年代、7 は 1840～1860 年代の製品である。4 は SX6・SX290、7 は SX6 出土資料と接合した。3 は破損面に焼継剤が付着した補修品で、底裏に「三」と判読不明の朱書きがある。

小碗（6・8～11） 10 個体の磁器と陶製の 1 個体（18）が出土した。6 の端反碗は 19 世紀後半の京焼。外面に蓮弁文を描き、見込に寿を配す。高台内には「五郎介」の印銘がある。8・9・11 は 1820～1860 年代の肥前系。半筒形の 8 は、SX6 の出土資料と接合した。外面に花唐津文を描き、内面上部に 5 と同様の文様を配す。端反ぎみの 9 は外面のみ、半球状の 11 は内外面と見込に染付を行う。6・9 の破損面には、焼継補修痕がみられる。丸碗ぎみの 10 は 1820～1860 年代の瀬戸美濃系で、外面に竹と笹が描かれる。同一形態の製品が他に 1 個体ある。18 は 19 世紀代の関西系陶器。高台を除く全面に白色粘土を重ね、「陶胎染付」によって織部風の宝珠文を描く。胎土は褐色を呈し、微細な破碎石英を多量に含む。

皿類（13） 磁器製の中皿 3 個体・小皿 6 個体と陶製の皿の破片資料 3 個体が出土した。13 は 1860 年代の瀬戸美濃小皿。木型打込によって成形され、内面に「寿文」を配す。同一形態の破片が他に 1 個体ある。このほか SX3 の菊皿（図版 60-28）と SX6 の小皿（図版 61-49）と同一規格の製品が 1 個体ずつ出土した。陶製皿は、肥前の二彩大皿である。

蓋（12） 12 は唯一の蓋。17 世紀後半～18 世紀初頭の肥前磁器で、本遺構出土資料の上限を示す資料である。精緻な作りの摘みをもち、山水文が描かれる。

段重（15） 15 が唯一の資料。18 世紀後半の肥前系磁器で、二種の丸文が交互に描かれる。

香炉（14） 1 個体の出土にとどまる。14 は 19 世紀代の肥前系磁器で、体部に花文が描かれる。使用によって生じた微細な敲打痕が口端上面に残る。底部内面にはアルミナ砂が付着する。

瓶（16） 16 は 19 世紀代の関西系磁器。口径 7.8cm・器高 22.7cm を測る筒形花瓶で、高台を除く外面全体に明緑灰色の釉を施す。体部には、中ほどに松竹梅の象嵌、その上下に連続的な横位の凹線を配す。器面上半の欠損面に焼継剤による補修痕が観察できる。底部内面には、アルミナ砂が 4 箇所わたって付着する。

土瓶（20） 20 は 19 世紀代の関西系陶製土瓶。厚さ 1.5mm ならずの小形湯瓶で、体部に富士と梅、舟と梅が描かれる。底部付近に示すトーンは、煤の付着範囲を表す。

鉢（17・19） 17 は陶製鉢。胎土は橙色を呈し、微細な石英粒子を多量に含む。高台を除く器面全体に鉄釉を施す。産地と製作年代の詳細は明らかでない。19 は 19 世紀代の関西系陶器。小碗 18 と胎土が類似する。内面に「陶胎染付」による竹の絵柄が流麗なタッチで描かれる。SX6 出土の陶製鉢（図版 61-50）とも共通性をもった資料である。このほか、図示しなかった資料の中には、焼継補修痕をもつ磁器製の蓋付鉢が 1 個体ある。

德利 (21) 21 は在地「松郷屋焼」の陶製德利。胎土の色調は紫黒色を呈し、微細な破碎石英を含有する。高台を除く全面に釉を施し、外面には淡白釉（オリーブ黄など）、内面には暗色釉（灰褐色など）を使用する。底部資料が他に2個体ある。

植木鉢 (22) 22 は高台に半円形の袂を3箇所配し、高台を除く外面全体と内面上部に灰白色～灰褐色・暗灰色の釉を施す。胎土は橙～灰白色を呈し、破碎した石英粒子を多量に含む。産地ならびに年代は明確でない。本例はSX290出土資料と接合しており、同一形態の資料が他に1個体ある。

SX3 (図版60-23～41、写真図版33・34)

SE1の東17mに位置する。本遺構は調査区南部に広がるため、出土資料は廃棄遺物の一部にとどまるとみられる。覆土3～6層から磁器1,324g・陶器5,890g・土器586gが出土した。口縁部遺存資料は43個体を数える。器種と個体数の内訳は、磁器が8器種25個体（碗蓋1・碗5・小碗5・中皿2・小皿9・小杯1・香炉1・水滴1）、陶器が7器種13個体（鉢1・中皿1・播鉢5・德利1・植木鉢1・行平1・蓋2・不明1）・土器が焙烙1個体である。図版59・61に11器種21個体を示す。このほか、底部が方形をなした磁器製の植木鉢、陶製の甕・土瓶の破片資料がある。

碗 (23・24) 磁器製品が5個体出土した。23は19世紀代の関西系丸碗。外面に松を描き、見込に花、内面上部に襷掛けの帯状文様を配す。24は1820～1860年代の肥前系半球碗。外面に幾何学文様を描く。本遺構から出土した碗は、SE1や後述のSX6に比べ絵柄が簡略な点が指摘できる。

小碗 (25) 磁器製品が5個体出土した。25は19世紀後半の瀬戸美濃系半筒碗で、外面に蝶と曲線文様が交互に描かれる。焼継によって補修が行われ、底裏に「三 くらち様」の朱文字が記される。同一形態の製品が他に1個体出土した。

中皿 (28・30) 磁器製品が5個体出土した。28は18世紀末～幕末の肥前系白磁。蛇の目高台の菊皿である。30は19世紀後半の瀬戸美濃系多角形皿で、内面に渦や花卉が彫刻手法によって描かれる優品である。焼継による補修が行われ、底裏に「倉」と判読不明の朱文字が記される。

小皿 (26・27・30・31) 磁器製品が10個体出土した。27は18世紀末～19世紀前半に肥前で製作された小形菊皿で、内面に山水文が描かれる。29は19世紀後半～幕末の肥前系小皿。栗と曲線文様が内面に描かれる。26はSE1出土の13と同一規格の瀬戸美濃磁器である。焼継による補修品で、底裏に「三 くらち様」の朱文字が記される。31は型打成形による19世紀後半の瀬戸美濃系多角形皿である。

香炉 (32) 32は18世紀後半～19世紀初頭に肥前で製作された磁器製小香炉。底部に三脚を配し、高台を除く外面全体と内面上部に緑青色の釉を施す。内面下部にアルミナ砂が渦状をなして付着する。

水滴 (33) 18世紀後半～幕末に肥前で製作された磁器製水滴。型押成形による動物意匠の製品で、底面を除く全体に淡青色の釉を施す。

德利 (37) 5個体出土した。いずれも在地松郷屋焼の陶製德利である。37は焼成時に口縁部が体部に付着した窯変品で、付近に窯跡が存在することをうかがわせる資料である。

播鉢 (34～36) 5個体出土した。35は19世紀代の肥前系播鉢。胎土に灰白色の岩石粒子を含み、にぶい黄橙を呈する。全面にくすんだ色の鉄釉を施す。34・36の製作地は明らかでないが、ともにSE1の植木鉢32と胎土が類似する。前者は光沢をもった鉄釉を内外面に施す。後者はくすんだ鉄釉を高台以外の内外面に施す。半円形の袂りを伴う高台と体部下部に設けた小段も特徴的な資料である。

植木鉢 (38・39) 2個体出土。38の胎土は微細な石英や岩石粒子を含み、にぶい赤褐色を呈する。外面と内面上部に鉄釉を厚く施す。39は小形の植木鉢で、播鉢34・36と胎土が類似する。体部下端に4条の凹線を加え、高台に半円形の袂りを施す。高台を除く外面全体と内面上部に鉄釉を施す。

鉢 (40) 40は底部の二分の一が残る大形鉢。SX290出土資料と接合した。磨耗岩石や破碎石英の微細粒子を多量に含む点で本遺跡出土の土師器と類似しており、在地窯における素焼き段階の資料の可能性も指摘できる。

焙烙(41) 41は推定口径32cmを測り、口端下に1条の凹線を加える。下端の平坦面は煤の付着が著しい。胎土には、磨耗岩石や破砕石英の微粒子とともに微細な雲母を含有する。

SX6 (図版61-42～51、写真図版35)

SE1の東22mに位置する。北側が農道によって削平されるため、遺物の一部は既に失われたとみられる。磁器1,065g・陶器2,341g・泥器843gが出土した。口縁部遺存資料は38個体を数える。器種と個体数の内訳は、磁器が8器種28個体(碗蓋2・碗4・小碗8・段重2・皿1・小皿5・小杯4・蓋2)、陶器が6器種9個体(鉢2・土瓶1・行平3・蓋1・ミニチュア甕1・不明1)、土器が焙烙1個体である。口縁欠失資料には、磁器製の銚子と陶製の小形植木鉢・徳利・播鉢・甕、土製の小皿がある。

碗蓋(42) 2個体出土した。42は1820～1860年代の肥前系磁器。図示しなかった1個体を含め、すべての資料が内面の広い範囲に染付を行う点が特徴である。

碗(43～45) 丸碗(45)と端反碗(43・44)が2個体ずつ出土した。43～45は1820～1860年代の肥前系磁器。いずれも外面および内面上部と見込に染付を行う。43は花唐草文、44は花文、45は七宝四方禪文を外面に描く。

小碗(46) 7個体出土した。46は1820～1860年代の肥前系磁器で、3種の丸文が交互に描かれる。本資料はSE1と接合した。同一形態の小碗がSX3に1個体ある。

皿類(48・49) 底部遺存資料を合わせると8個体出土した。48は19世紀後半の瀬戸美濃系小皿。内面に人物と野菜(株)が描かれる。49は肥前で製作された1820～1860年代の小皿で、口端に浅いクボミを等間隔に配す。本例は焼継による補修が行われる。同一形態の製品が他に本遺構とSE1から1例ずつ出土した。図示しなかったが、SX3出土の28と同一形態の菊皿と26などと同様の木型打込小皿が1個体ある。

段重(47) 47は1820～1860年代の肥前系磁器。花を表す二種の丸文が交互に描かれる。

鉢(50) 50は19世紀代の京都清水焼。SE1出土の小碗9や鉢19と胎土・釉調などが酷似する資料である。口径17.2cmを測り、端部が波状に作出される。内面には3個所の重ね焼痕がある。本資料も17・18と同様に「陶胎染付」が行われ、外面に籠目文様、内面に菊と桔梗が描かれる。体部下部に「清」を印した六角柿印があり、清水六兵衛の作例とみなされる。

土瓶(51) 19世紀代の関西系陶器。口径10.3cm、高さ13.0cmを測る。4種の釉を用い、器体上半部に山水文が描かれる。本例は被熱による器面の剥落が下半部の随所に見られ、長期間にわたる使用を物語る。底部付近には鉄釘が刺さり、欠損した注口部の接着や体部破損面の補修が焼継によって行われる。底面には補修時に記された「三 太田様」の朱文字が見られる。

SX290 (図版61-52～55、写真図版35・36)

SX6の東に隣接する遺物廃棄坑である。磁器411g・陶器969g・泥器92gが出土した。口縁部遺存資料は13個体にとどまる。器種と個体数の内訳は、磁器が4器種6個体(小碗1・中皿3・小皿1・小杯1)、陶器が2器種2個体(甕1・不明1)、土器が焙烙1個体。図版61に5器種6個体を示す。このほか、磁器では碗、陶器では鉢・播鉢の体部破片が出土した。

小杯(52) 52は19世紀後半の瀬戸美濃系磁器。端反の形態で、外面に若松文が描かれる。

中皿(54) 54は19世紀～幕末の肥前系磁器。蛇の目高台をもち、内面に山水文が描かれる。

小皿(53) 53はSE1やSX3出土の木型打込小皿(図版59-13・図版60-26)と同一形態の瀬戸美濃製磁器である。現存部では焼継剤の付着が確認できないが、底面に「三 大田様」の朱書きがある。

焙烙(55) 口径18.5cm・器高4.5cmの本体に長さ7.4cmの把手を付した小形製品である。胎土には微細な磨耗岩石や破砕石英を多量に含む。内面に示すトーンは、使用時に生じた黒化範囲である。本資料は、SX6出土の体部破片1点が接合した。

盛土遺構 (図版62-56～63、写真図版36)

SE1の東に隣接する。下部に堆積する第6層出土資料に加え、表土掘削に際し2グリッドから出土した陶磁

器類も本遺構資料とする。磁器 290g、陶器 1069g、泥器 99g からなるが、廃棄層が未調査区に広がるため、出土資料は一部にとどまる可能性が高い。口縁部遺存資料は 12 個体。器種と個体数の内訳は、磁器が 5 器種 9 個体（碗 3・小碗 1・碗類 2・段重 1・小皿 1・小杯 1）、陶器が 3 器種 3 個体（土瓶 1・火鉢 1・ミニチュア甕 1）、土器が焙烙 1 個体である。このほか、陶製徳利・播鉢・甕などの小破片が出土した。

碗（56～58） 分厚い作りの 58 は、18 世紀代の肥前系磁器。56・57 は端反碗。前者は 1840～1860 年代の瀬戸美濃系磁器、57 は 1820～1860 年代の肥前系磁器である。ともに簡易な図柄によって染付がなされる。

小杯（59・60） 59 は 19 世紀～幕末の肥前系磁器、60 は 1820～1860 年代の瀬戸美濃系または関西系磁器である。後者の内面には、人物と蝙蝠が描かれる。

小皿（61） 61 は、SE1・SX3・SX6・SX290 から出土した木型打込小皿と同一形態の瀬戸美濃磁器である。

火鉢（62） 62 は 19 世紀代の瀬戸美濃系陶器。内面に鉄釉を施し、外面には緑釉と藁灰釉を掛け分ける。

土瓶（63） 63 は 19 世紀代の関西系陶器。蓋はこれとセットをなすものである。ともに彫刻的な手法によって菊と桐を描出し、外面にのみ灰白色の釉を施す。

2) 遺構外出土資料（図版 62-64～76、写真図版 37）

I 層から総重量 33,667g の陶磁器類が出土した。任意に抽出した 13 点を図版 62-64～76 に示す。所属年代は 17 世紀中ごろから明治年間にわたり、上記のような 5 遺構に較べ幅広い期間におよぶことが特徴である。

碗（64・65・69） 65 の丸碗は 1650～1660 年代の肥前磁器で、外面に桐文が描かれる。本遺跡 1 区における陶磁器類の上限を示す一例である。64 の丸碗は、厚手に作られた 18 世紀後半の肥前磁器。69 は八角形をなした筒形碗。SX6・290 と同一グリッドから出土しており、両遺構出土資料に関連した廃棄品の可能性が高い。19 世紀代の磁器製品であるが、製作地は明確でない。本資料は、底面に片仮名三文字と「十六」の朱文字が記される。前者は唯一の片仮名文字で配列も他と異なるが、「マキノ」と解するのが妥当であろう。

小杯（67・68） 端反器形の 67・68 は、ともに明治時代に下降する磁器。前者は山水文、後者は瀬美が描かれる。製作地は明らかでない。

蓋（66・74） 66 は 19 世紀代の磁器製品。上面に小孔をもち、山水文が描かれる。製作地は明らかでない。74 は 17 世紀代の肥前陶器。底面に回転系切痕をもつ。

中皿（70） 70 は 1660～1680 年代の肥前磁器。底裏中央にハリ支痕を伴う三角高台をもち、内面には野菜風の植物が描かれる。漆継による補修が見られる本遺跡唯一の資料である。

大皿（71） 71 は 1655 年～1660 年代の肥前磁器。口径 32cm 台と推定される「芙蓉手」の大皿で、内面に花や幾何学文様、外面に円や直線文様が描かれる。

香炉（72） 72 は 19 世紀代の関西系陶器。外面上半に灰白色の釉を施し、赤色釉などで花や唐草が描かれる。底面に「十一」の墨書がある。SX290 と同一グリッドから出土しており、これに伴う廃棄資料の可能性が高い。

徳利（73・75） 73 は 18～19 世紀代の備前陶器。断面三角形の形状をもち、窪みの内部に布袋像が配される。75 は在地松郷屋焼。徳利の可能性が高い小破片 2 点が焼成時に溶着した窯資料である。

播鉢（76） 76 は 17 世紀中頃の備前陶器。碗 65 とともに、本遺跡 1 区から出土した陶磁器類の上限を示す資料となる。全体形が把握できる唯一の播鉢で、肥厚した口端に 2 条の凹線が施される。内面には 8～9 条を単位とした摺目条線が若干の間隔を置いて配される。底面は整形されておらず、不安定な形態をなす。

B 土製品

図版 63 に 6 種 8 点の土製品を示す。図示しなかったが、環状をなした土錘 1 点も本時代に属す可能性が高い。I 層および近世遺構内から出土した焼成粘土塊については、所属時期の特定が困難なため掲載しなかった。

1) 涼 炉（図版 63-1、写真図版 38）

煎茶用の湯沸かし炉である。SX6 から 1 個体出土した。箱形の外容器と目皿を置くための筒形内容器からな

る。前者は底部に三脚、上面内部に湯瓶設置用の突起を配す。正面下部には通風穴を設けるとともに、上部に「茶三口」・「庵柱」、下部に「口合」などの印を記す。後者は背面が外容器と連結する。下部の正面(1c)・背面(1b)に通風穴を設け、中ほどに7箇所の小孔を穿つ。内面上部は被熱によって赤化する。胎土には摩耗岩石や破碎石英を含む。外容器では微細粒子を主として含み、器面が平滑に整形される。

2) 目 皿 (図版 63-2、写真図版 38)

SX3 から 2 点、盛土遺構から 1 点出土した。2 は全体形がわかる唯一の資料で、SX3 からの出土。最大径 9.2cm、最大厚 1.2cm を測り、径 1.4cm の孔を 7 箇所設ける。含有物は涼炉内部と類似する。平坦面に示す矢印は、被熱範囲である。なお、図版 63 左上は、涼炉とセット関係にあると仮定して図化したものである。

3) 箱 庭 道 具 (図版 63-5、写真図版 38)

SE1 の上部～中部層から出土した。門をかたどる製品で、本例が唯一の資料である。きわめて微細な石英を多量に含み、大形の磨耗粒子も僅かに含む。焼成時に生じた黒斑が表面にみられる。

4) 瓦 (図版 63-3・4、写真図版 38)

1 区全体で 1,582g 出土した。いずれも小破片である。遺構内からは、SE1 で 412g、SX3 で 490g、SX6 で 176g 出土しており、SX6 出土の 2 点を示した。3 は軒丸瓦、4 は平瓦にあたる。3 基の遺構出土資料は、いずれも表面が暗赤褐色、内部がにぶい赤褐色の色調を基調とした燻瓦である。胎土には、摩耗した石英・岩石粒子と微細な破碎石英を多量に含む。オレンジ色を呈した微細岩石の含有も特徴である。遺構外からは燻瓦 209g と表面が光沢を帯びた施釉瓦が 295g した。両者の胎土に明確な違いはない。

本遺跡が位置する下越地方では、阿賀野市山崎、同庵地、加茂市と田上町にまたがる陣ヶ峯で近世瓦が生産された。前二者は粒子が大きい破碎石英を多量に含有する。後者は磨耗した微細石英・岩石の含有を特徴としており、本遺跡出土資料との類似性が指摘できる。

5) 窯 壁 (図版 63-7、写真図版 38)

窯壁ブロックの破損品である。西部緩斜面に位置する SE1 から 1 点 (54g)・SX3 から 3 点 (244g)、遺構外から 4 点 (1,143g) 出土した。図版 63 には、最も遺存状態が良好な 11Q 区出土資料を示した。各資料の外表面には、整形時の柁目圧痕が密な状態で観察できる。胎土には石英や各種岩石の磨耗または破碎粒子が多量に含まれる。色調は、外面が暗赤褐色を呈し、破損面では器表付近が黒色を呈する。本例は、焼成時の変形陶器 (図版 60-37・62-75) とともに、1 区付近での窯跡の存在を明示する資料となる。

6) 焼 台 (図版 63-8・9、写真図版 38)

西部緩斜面の北に隣接する 2012 年確認調査トレンチから出土した。ともに胎土は窯壁と類似する。8 の上部平坦面の最大径は 8.5cm。黒色釉が部分的に付着し、3 個体分の高台の痕跡が表面に残る。柱状部の断面形は不整楕円を呈する。側面には成形時に生じた 1 条の直線的な凹線が残り、全体に黒褐色釉が付着する。9 は上部平坦面の最大径 8.9cm を測り、平坦面全体に整形時の板目または柁目痕が観察できる。4 度にわたる焼成を物語る高台痕がみられる。柱状部には、整形時の直線的な凹線が 4 条あり、上部平坦面との接続付近に 2～3 列の指頭圧痕が残る。上面に自然釉が付着するが、無釉資料である。

C 石 製 品

図版 63 に 3 種 5 点の石製品を示す。このほか笏谷石製の礎石破片が SX3 と 7K 区 (西部緩斜面) から 1 点ずつ出土した。

1) 石 墨 (図版 63-12、写真図版 38)

東部尾根の中央緩斜面から蠟石製品が 1 点出土した。最大径 6.4mm を測り、一端が欠損する資料である。側面および先端部には、小さな面が形成される。

2) 石 盤 (図版 63-13・14、写真図版 38)

西部緩斜面から粘板岩製の破損品が3点出土した。3mm未満の扁平な製品である。側面には成形時の擦痕が明瞭に残る。表裏の平坦面は平滑で、13に1条の凹線が観察できる程度である。

3) 硯 (図版 63-10・11、写真図版 38)

粘板岩製の2点が出土した。ともに縁辺上面が欠損した陸部の断片資料である。

D 金属製品

器種が明確な資料は煙管1点に限定される。他に性格不明の鉄製品が出土しているが、図示しなかった。

1) 煙 管 (図版 63-6、写真図版 38)

SE1の上・中層から1点出土した。「羅字煙管」の吸口と羅字の一部が遺存する真鍮製の資料である。吸口は中ほどに稜をもった「如信型」にあたり、煙管の形態としては一般的なものであるが、口元が直線的な形状をなす点で「御殿型」の特徴を兼ね備える。後者は吸い口にすべり止めがないのが特徴で、大名が使用したキセルに由来する名称とされる〔燕市2000〕。吸口の先端には、梅の花弁と枝を表す繊細な調金が行われる。長さ4.8cm、最大径1.0cm、口元径0.4cm、重量6.3gを測る。羅字はタケ製で、基部側の長さ2.1cmが遺存する。

E 木製品

SE1の下部～中部層から73点出土した。針葉樹・広葉樹・竹を素材とし、製品と加工木に大別できる。図版63に製品12点を示したが、他に針葉樹を使用する楔が1点ある。加工木とみなした資料は、針葉樹を使用する板材46点・割材6点・挽物1点からなる。板材は1～5cm幅をもち、うち32点は厚さ5mmにみえない薄板である。割材は角柱状と断面三角形をなすものからなる。挽物は、厚さ2cmの角柱状板目材である。

1) 桶 (図版 64-1～4、写真図版 39)

側板3点と底板1点が出土した。いずれも針葉樹を使用する。1・2は推定径・器高・木取が近似することから同一個体とみなされる。ともに外面には焼印をもつ。円の中に井を配した「井桁紋」とみられるが、内部の図柄は明らかでない。4は桶の底板で、1・2に伴う可能性がある。直線的な側面に2点の木釘をとどめており、複数の板によって製作されたことがうかがえる。3は径が小さい桶の側板である。

2) 下 駄 (図版 64-5～7、写真図版 39)

差歯(5・6)4点と無歯下駄(7)1点が出土した。いずれも広葉樹を使用する。5は桁目材、6は板目材による差歯である。ともに下面が磨耗する。5の両面には、横位の整形痕が残る。7は長さ21.4cm・幅8.4cm・厚さ3.2cmを測る。全体が均一な板状をなし、側面両端にラフな加工痕を残す。裏面には2個所の抉りを設け、2個1単位の孔を3箇所に通す。底面に磨耗痕はなく、藁靴内部に使用した雪中歩行用の下駄とみなされる。

3) 付 札 (図版 64-8～11、写真図版 39)

8～10は幅2～3cm・長さ22cm・厚さ5mmほどの扁平板材の端部を木口面からの加工によって尖らせたものである。11は上下両端が欠損するが、類似した形状を有した可能性がある。片面に宛名とみられる「□□様」の墨書が記される。いずれも使用材は針葉樹である。

4) 円形木製品 (図版 64-12、写真図版 39)

針葉樹を使用した直径5.9cm・厚さ2mmの扁平薄板である。片面中央に微細な窪みをもち、鋭利な刃物によって生じた直線的な刃痕が残る。用途は明らかでない。

5) 竹 製 品 (図版 64-13、写真図版 39)

裁断した竹を素材とするへら状・棒状製品4点と竹の一端を斜めに削いだ「筧」状製品が1点出土した。13は後者にあたる最大径2.9cmの資料である。

第VI章 自然科学分析

第1節 概要

本章で記述する自然科学分析は、2013年の調査で明らかになった丘陵上の古代集落の位置づけにあたり、基礎的な情報をえることを目的とした。各試料の採取地点および採取状況は第18図のとおりである。種実同定は30×10×10cm、花粉分析などは10×10cmの土壌サンプルに基づく。分析項目とその概略を以下に示す。

① ¹⁴C年代測定

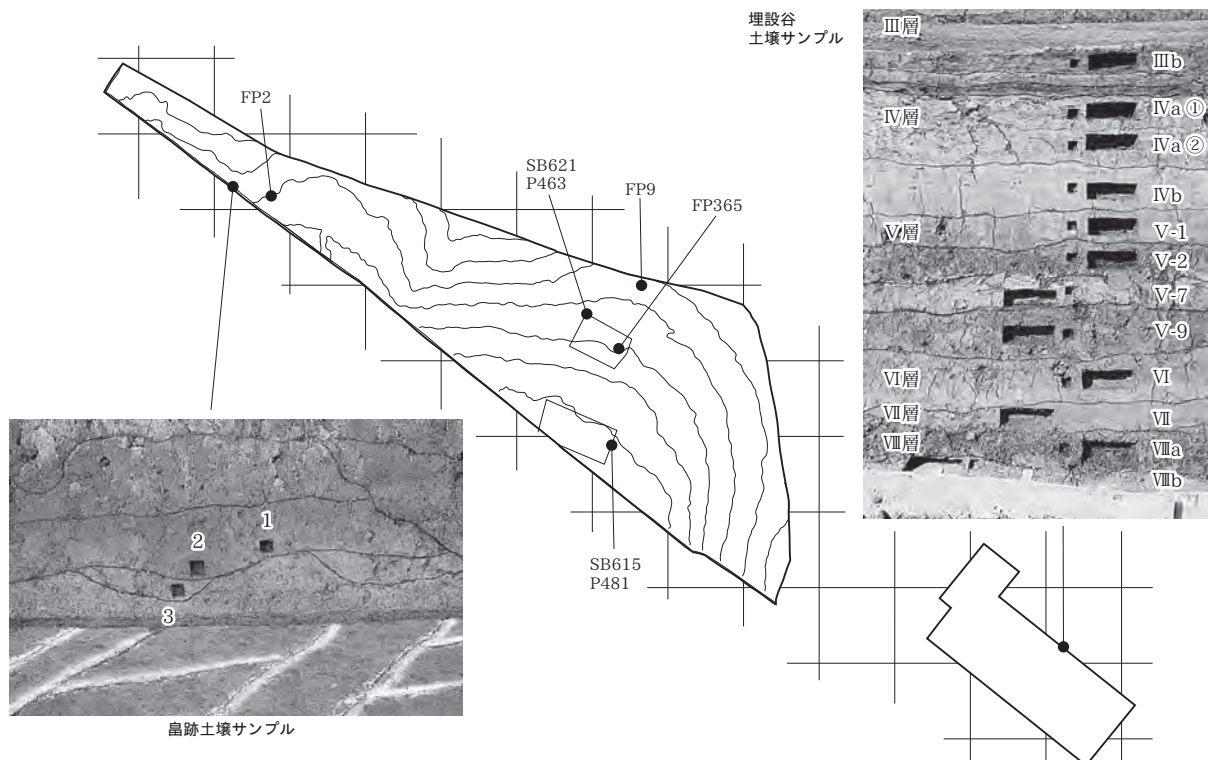
1区の主要な古代遺構となる掘立柱建物と焼土坑では、所属時期の特定が可能な良好な土器が乏しかった。そのため、2棟の掘立柱建物の柱穴と焼土坑2基から出土した炭化材各1点で年代測定を行った。提示された年代は土器に較べ古い値を示す傾向にあるが、8世紀代を上限とする点で整合性をみいだすことができた。

② 樹種同定

本遺跡は、新潟市域の丘陵上から確認された初の古代集落となる。森林資源の利用に適した環境下での伐採活動を知るため、掘立柱建物の柱穴2基、焼土坑4基から出土した15点の炭化材を対象に樹種同定を行った。判明した樹種は8種の落葉樹からなり、周囲に形成される二次林から供給されたものと考えられる。周辺遺跡を含めた樹木利用の位置づけについては、第VII章第3節において検討する。

③ 畝跡の土壌分析

1区全域から確認された畝状遺構について、畝跡としての位置づけの妥当性と栽培植物の実態を検討するため、調査区南壁で採取した3点の土壌サンプルで植物珪酸体分析を行った。いずれの試料もイネ科作物に由来する植物珪酸体は検出されなかったが、これ以外の作物が栽培された可能性を否定するものではなく、隣接する低地での種実検出や土壌分析が今後の課題となる。



第18図 分析試料の採取地

④ 2区埋没谷の古環境復元

丘陵下の2区から、縄文時代から中世までの堆積層に覆われる大規模な埋没谷を確認した。現時点において埋没谷の全容は明らかでないが、調査区北壁から採取した試料を対象に花粉分析・珪藻分析・種実同定を行い、縄文時代中期から中世に至る間の植生および水域環境の変遷が明らかになった。丘陵上に営まれた古代集落の環境や当時の経済基盤を考える上で重要な情報となるものである。

第2節 年代測定

A 試料

測定を行った試料は、1区4点(No.1～4)と、2区2点(No.5・6)である。

試料No.1は、SB621(掘立柱建物)の柱穴(P463)覆土1層から出土した炭化材である。直径2.4cmの芯持丸木で、約10年の年輪が確認できた。半割した一方を測定資料とした。

試料No.2は、SB516(掘立柱建物)の柱穴(P481)覆土1層から出土した炭化材である。微細片のため、形状などの詳細は不明。実体顕微鏡で組織を観察したのち、全量を測定資料とした。

試料No.3は、FP9(焼土坑)の覆土2層から出土した炭化材である。板目状の破片で、一方の面に樹皮が残る。最外部を含む2年分を採取し、測定試料とした。

試料No.4は、FP365(焼土坑)の覆土9層から出土した炭化材である。細片化しているため本来の形状は不明であるが、少なくとも4年分の年輪が観察できる。樹種同定用の1片以外の全量を測定試料とした。

試料No.5は、2区北壁V-1層から採取した樹枝である。

試料No.6は、2区北壁Ⅷa層から採取したエゴノキの種実である。種実同定の後、測定試料とした。

B 結果

放射性炭素年代測定結果および暦年較正結果を第4表に示す。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。測定1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma:68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.0(Copyright1986-20 Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

較正年代とは、大気中の ^{14}C 濃度一定で半減期が5,568年として産出した年代値に対し、過去の宇宙線濃度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動および半減期の違い(半減期 $5,730\pm 40$ 年)を較正することである。

暦年較正は、CALIB 7.0.1のマニュアルにしたがい、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値を用いて行う。

同位体効果の補正を行った測定結果(補正年代)は、1区のNo.1が $1190\pm 20\text{BP}$ 、No.2が $1170\pm 20\text{BP}$ 、No.3が $1210\pm 20\text{BP}$ 、No.4が $1190\pm 20\text{BP}$ 、2区のNo.5が $1250\pm 20\text{BP}$ 、No.6が $3890\pm 30\text{BP}$ である。また、測定誤差を 1σ で計算した暦年較正結果は、No.1がcalAD 777-880、No.2がcalAD 777-890、No.3がcalAD 773-867、No.4がcalAD 777-881、No.5がcalAD 693-771、No.6がcalBC 2458-2397である。

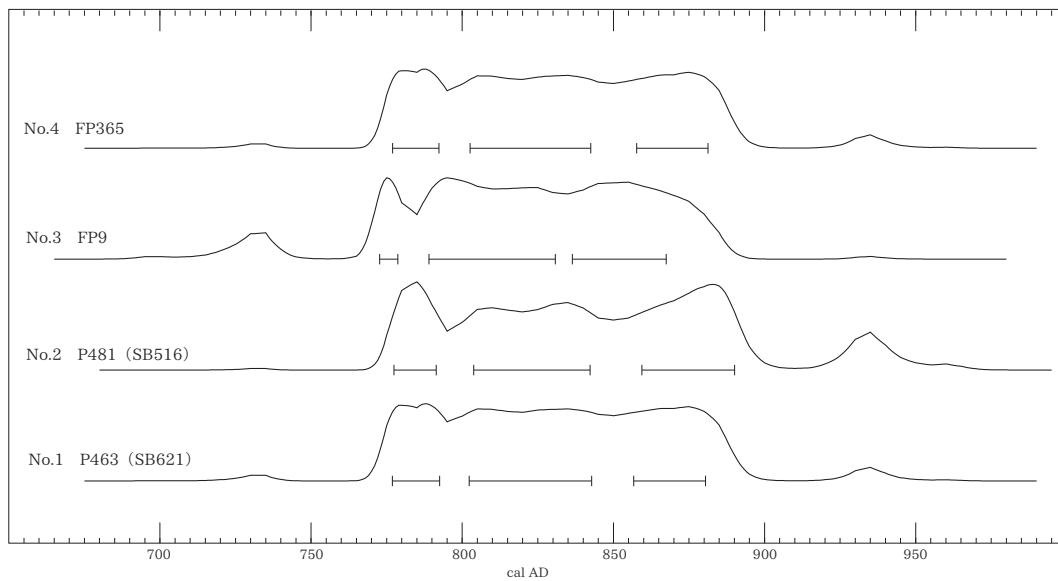
C 考察

放射性炭素年代測定の結果、1区遺構内から出土した4点の炭化材は、較正年代が $1170\pm 20\sim 1210\pm 20\text{BP}$ で比較的近い値を示し、暦年較正結果でもcalAD773～890でほぼ同時期を示す。No.2は種類不明であるが、No.1がイヌシデ節、No.3がエゴノキ属、No.4がサクラ属であり、すべて異なる樹種である。このように、樹種が異なる状況でありながら近い年代値を示すこと、およびエゴノキ属に樹皮があり伐採年代に近い値

第4表 放射性炭素年代測定結果

No.	地区遺構	種類	処理方法	測定年代	$\delta^{13}\text{C}$ (%)	補正年代 (暦年較正用) BP	暦年較正結果				Code No.
							誤差	cal BC/AD		cal BP	
1	1区 P463 (SB621)	炭化材	AAA	1200±20	-25.99±0.22	1190±20 (1187±22)	σ	cal AD 777 - cal AD 792	cal BP 1,173 - 1,158	0.207	IAAA-131615
								cal AD 802 - cal AD 843	cal BP 1,148 - 1,107	0.493	
								cal AD 857 - cal AD 880	cal BP 1,093 - 1,070	0.300	
2	1区 P481 (SB516)	炭化材	AaA	1180±20	-25.44±0.21	1170±20 (1173±22)	σ	cal AD 777 - cal AD 791	cal BP 1,173 - 1,159	0.187	IAAA-131616
								cal AD 804 - cal AD 842	cal BP 1,146 - 1,108	0.420	
								cal AD 859 - cal AD 890	cal BP 1,091 - 1,060	0.393	
3	1区 FP9	炭化材	AAA	1260±20	-28.45±0.21	1210±20 (1206±22)	σ	cal AD 773 - cal AD 779	cal BP 1,177 - 1,171	0.078	IAAA-131617
								cal AD 789 - cal AD 831	cal BP 1,161 - 1,119	0.526	
								cal AD 836 - cal AD 867	cal BP 1,114 - 1,083	0.396	
4	1区 FP365	炭化材	AAA	1180±20	-24.52±0.21	1190±20 (1186±21)	σ	cal AD 777 - cal AD 792	cal BP 1,173 - 1,158	0.213	IAAA-131618
								cal AD 803 - cal AD 842	cal BP 1,147 - 1,108	0.478	
								cal AD 858 - cal AD 881	cal BP 1,092 - 1,069	0.308	
5	2区 V-1層	木材 (樹枝)	AAA	1,280±20	-26.44±0.46	1,250±20 (1,254±23)	σ	cal AD 693 - cal AD 747	cal BP 1,257 - 1,203	0.869	IAAA-140376
								cal AD 763 - cal AD 771	cal BP 1,187 - 1,179	0.131	
								cal AD 675 - cal AD 777	cal BP 1,275 - 1,173	0.937	
6	2区 Ⅷa層	種実遺体 (エゴノキ)	AAA	4,010±30	-32.07±0.50	3,890±30 (3,892±26)	σ	cal BC 2,458 - cal BC 2,397	cal BP 4,407 - 4,346	0.589	IAAA-140377
								cal BC 2,393 - cal BC 2,389	cal BP 4,342 - 4,338	0.035	
								cal BC 2,385 - cal BC 2,346	cal BP 4,334 - 4,295	0.376	
2	6	6	6	6	6	6	6	cal BC 2,465 - cal BC 2,299	cal BP 4,414 - 4,248	1.000	6

- 1) 処理方法のAAAは、酸処理-アルカリ処理-酸処理を示す。アルカリ濃度が1M未満の場合にはAaAと記載している。
- 2) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。
- 3) BP年代値は、1950年を基点として何年前であることを示す。
- 4) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。
- 5) 暦年の計算には、1区 RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.0 (Copyright 1986-2013 M Stuiver and PJ Reimer) を使用した。
2区 RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.0.1 (Copyright 1986-2014 M Stuiver and PJ Reimer) を使用した。
- 6) 暦年の計算には、補正年代に()で暦年較正年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。
- 7) 年代値は、1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、暦年較正年代値は1桁目を丸めていない。
- 8) 統計的に真の値が入る確率は σ は68.3%、 2σ は95.4%である。
- 9) 相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。



第19図 暦年較正曲線図

を示していると考えられることなどを考慮すれば、炭化材はいずれも8～9世紀代の近い時期の資料と考えられる。これより、各試料が出土した遺構の時期も同時期の可能性がある。

一方、2区のV-1層より出土したNo.5は、補正年代で1,250±20BP(calAD 693～771)の年代がえられた。1区の柱穴や焼土坑の年代に近似するところから、同時期に堆積した可能性がある。

同じく2区のⅧa層から出土したNo.6は、補正年代で3,890±30BP(calAD 2,458～2,397)の年代がえられた。Ⅷa層の年代測定結果は縄文時代中期～後期頃に相当する。本層からは中期中葉の土器が出土しており、えられた年代はこれより新しいが、概ねⅧa層の堆積年代を示していると考えられる。

第3節 古環境復元

A 試料

分析試料は、低地部に位置する2区北壁より採取されている。2区北壁では大規模な埋没谷が確認され、基本土層は上位からI層～IX層に分層されている。さらにI層はIa層・Ib層、II層はIIa～IIc層、III層はIIIa～III d層、IV層はIVa・IVb層、V層はV-1～V-9層、VIII層はVIIIa層～VIIIc層に細分されている。なお、発掘所見から想定される年代観は、III層が中世、IV層が古代、VI層が縄文時代後期中葉、VII層が縄文時代中期末葉、VIIIa・VIIIb層が中期中葉、VIIIc層とIX層が縄文時代中期とされている。

微化石分析に用いた土壌試料は、各層より採取された計11点で、IIIb層(試料番号1)・IVa層①(試料番号2)・IVa層②(試料番号3)・IVb層(試料番号4)・V-1層(試料番号5)・V-2層(試料番号6)・V-7層(試料番号7)・V-9層(試料番号8)・VI層(試料番号9)・VIIIa層(試料番号10)・VIIIc層(試料番号11)である。各分析目的に応じて、珪藻分析7点(試料番号1～5・8・10)、花粉分析4点(試料番号2・4・6・10)、イネ属同定2点(試料番号2・4)、植物珪酸体分析2点(試料番号2・4)を選択する。

種実同定試料は、微化石分析資料と同一箇所から採取された水洗用土壌を洗浄し、抽出された種実試料12点のほか、隣接地点のVII層より採取された予備資料1点である。種実は、縦10cm×横30cm・奥行10cmで土壌を採取した後、1mmメッシュの篩で取り上げられており、すべて乾燥した状態で容器に入っている。同定前の検査の際、予備試料1点にも古植生に関する分類群が確認されたため、これも同定対象に含めることとした。

B 分析結果

1) 珪藻分析

結果を第5表・6表・第20・21図に示す。分析対象の7試料すべてから、珪藻化石が検出されるが、産出率は層準によって異なる。IIIb層・IVa層①・IVa層②・IVb層・V-1層は200個体以上、V-9層は100個以上が検出されたが、VIIIa層は少なく35個体である。

化石の保存状態は、IIIb層・IVa層①・IVa層②・IVb層・V-1層およびV-9層は、半壊した殻は含まれるが、溶解の痕跡が認められないことから、保存状態はほぼ良好である。一方VIIIa層は、破片状で溶解した個体も多いことから、保存状態は極不良である。

検出された分類群は、淡水生種が主体であり、低率に淡水～汽水生種、極低率に汽水生種を伴う構成である。珪藻化石の産状に基づき、下位よりI帯～III帯の珪藻化石帯を設定した。

2) 花粉分析・イネ属同定

結果を第7表・第22・23図に示す。いずれの試料も花粉化石が豊富に産出し、保存状態も比較的良である。

IVa層①は木本花粉が多産し、スギ属・クマシデ属-アサダ属・ハンノキ属・ブナ属・コナラ属コナラ亜属・ニレ属-ケヤキ属等が多く認められる。その他では、マツ属・ヤナギ属・クリ属などを伴う。草本花粉ではイネ科・カヤツリグサ科が多く産出し、クワ科・ヨモギ属などを伴う。イネ科花粉中にはイネ属花粉が確認されたが、イネ科全体に占める割合は15.4%であった。

IVb層も木本花粉が多産するが、草本花粉の割合がやや高くなる。木本花粉ではスギ属・ブナ属・コナラ亜属・ニレ属-ケヤキ属等が多く産出し、クマシデ属-アサダ属・ハンノキ属・モチノキ属などを伴う。草本花粉ではイネ科が最も多く産出し、カヤツリグサ科・アリノトウグサ属などを伴う。イネ科におけるイネ属の割合は、9.9%であった。また、サジオモダカ属・オモダカ属・コウホネ属・ヒシ属・ゴキヅル属などの水湿地生植物や、サンショウモ属などの水生藻類も確認された。

V-2層では木本花粉が優占し、草本花粉の割合は少ない。木本花粉ではハンノキ属が最も多く、次いでコナ

第5表 珪藻分析結果表(1)

種類	生態性			環境 指標種	IIIb層	IVa層①	IVa層②	IVb層	V-1層	V-9層	VIIa層
	塩分	pH	流水		1	2	3	4	5	8	10
<i>Nitzschia scalaris</i> (Ehr.) W.Smith	Euh-Meh				-	1	-	-	-	-	-
<i>Navicula peregrina</i> (Ehr.) Kuetzing	Meh			E1, E2	-	-	-	1	-	-	-
<i>Nitzschia obtusa</i> var. <i>scalpelliformis</i> Grunow	Meh			E2	-	-	-	-	1	-	-
<i>Cyclotella medanae</i> Germain	Ogh-Meh	al-il	l-bi	SM	-	-	-	-	1	-	-
<i>Cyclotella meneghiniana</i> Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	l-ph	L, S	-	-	-	1	-	-	-
<i>Fragilaria construens</i> fo. <i>subsalina</i> (Hust.) Hustedt	Ogh-Meh	al-il	ind	D1, E1	-	-	4	-	12	-	-
<i>Navicula capitata</i> Ehrenberg	Ogh-Meh	al-il	r-ph	U, D, E	-	-	1	-	-	-	-
<i>Pseudostaurosira brevistriata</i> (Grun.) Williams & Round	Ogh-Meh	al-il	l-ph	U	3	-	2	-	9	-	-
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.) Mueller	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	3	1	1	1	1	-
<i>Achnanthes exigua</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	-	5	-	-	-
<i>Actinella brasiliensis</i> Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-bi	O	-	-	-	-	1	-	-
<i>Amphora ovalis</i> var. <i>affinis</i> (Kuetz.) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	13	-	1	-	-	18	-
<i>Anomooneis brachysira</i> (Breb.) Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-ph	O, T	-	-	1	1	-	-	-
<i>Anomooneis gomphonemacea</i> (Grun.) H.Kobayasi	Ogh-ind	ac-il	ind	T	-	-	1	1	-	-	-
<i>Anomooneis vitrea</i> (Grun.) Ross	Ogh-hob	ac-il	l-ph	T	-	-	-	1	2	-	-
<i>Aulacoseira alpigena</i> (Grun.) Krammer	Ogh-hob	ac-il	l-bi	M, U	-	1	3	-	3	-	-
<i>Aulacoseira ambigua</i> (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	N	1	16	22	16	27	-	-
<i>Aulacoseira crassipunctata</i> Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph	M, U	147	82	78	32	21	-	6
<i>Aulacoseira distans</i> (Ehr.) Simonsen	Ogh-hob	ac-il	l-bi	N, U	-	2	3	1	-	-	-
<i>Aulacoseira granulata</i> (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	M, U	-	3	1	-	4	-	-
<i>Aulacoseira islandica</i> (Muell.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	-	-	2	-	-	-
<i>Aulacoseira italica</i> (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	2	7	8	-	-	-
<i>Aulacoseira laevis</i> (Grun.) Krammer	Ogh-hob	ac-il	l-ph	M, U	-	4	-	7	8	-	-
<i>Aulacoseira</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	U	-	-	2	-	-	-	-
<i>Caloneis bacillum</i> (Grun.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	5	1	-	-	-
<i>Caloneis leptosoma</i> Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	1	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis silicula</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O	-	-	-	-	1	-	-
<i>Caloneis silicula</i> var. <i>intermedia</i> A.Mayer	Ogh-ind	al-il	ind	O	-	-	-	-	1	-	-
<i>Caloneis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		2	1	-	-	-	-	-
<i>Craticula cuspidata</i> (Kuetz.) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	-	1	1	-	-
<i>Cymbella aspera</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O, T	-	-	1	1	-	-	-
<i>Cymbella heteropleura</i> var. <i>minor</i> Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	1	-	-	-
<i>Cymbella mesiana</i> Cholnoky	Ogh-ind	al-bi	l-bi	O	-	1	-	-	-	-	-
<i>Cymbella naviculiformis</i> Auerswald	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	-	1	-	-	-
<i>Cymbella tumida</i> (Breb. ex Kuetz.) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	1	-	-	-	-
<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i> Skvortzow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	1	-	-	-	-	-
<i>Cymbella</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		3	-	2	1	-	-	-
<i>Diploneis oblongella</i> (Naeg.) Cleve-Euler	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	1	-	-	-	-	-
<i>Diploneis ovalis</i> (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		-	1	-	1	-	-	-
<i>Diploneis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1	-	1	-	-	1
<i>Encyonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	-	1	1	-	1	-	-
<i>Encyonema silesiacum</i> (Bleisch in Rabenh.) D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	-	3	1	1	1	-	-
<i>Eunotia bilunaris</i> (Ehr.) Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	2	-	1	1	-	-
<i>Eunotia diodon</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-bi	ind	O, U	-	-	-	1	-	-	-
<i>Eunotia exigua</i> (Breb.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	P	-	-	-	1	-	-	-
<i>Eunotia fallax</i> Cleve	Ogh-hob	ac-bi	ind	RA	-	1	1	-	2	-	-
<i>Eunotia implicata</i> Noepel & Lange-Bertalot	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	2	-	1	-	12	-
<i>Eunotia lunaris</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	12	4	3	3	-	-
<i>Eunotia monodon</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	1	-	1	-	-	-
<i>Eunotia monodon</i> var. <i>undulata</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind	O, U	-	1	-	-	-	-	-
<i>Eunotia muscicola</i> var. <i>tridentula</i> Noerpel & Lange-Bertalot	Ogh-hob	ac-il	ind	O, U	-	1	-	-	-	-	-
<i>Eunotia pectinalis</i> (Dillwyn) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O, T	-	2	1	1	1	1	-
<i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>minor</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	12	1	1	2	17	-
<i>Eunotia praerupta</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB, O, T	-	1	-	-	-	5	-
<i>Eunotia serra</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-bi	l-bi	P	-	-	-	1	-	-	-
<i>Eunotia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		2	6	1	1	-	12	5
<i>Fragilaria capucina</i> Desmazieres	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	1	-	-	-
<i>Fragilaria parasitica</i> (W.Smith) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria pinnata</i> var. <i>lanceolata</i> (Schumann) Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	-	3	2	-	-
<i>Fragilaria ulna</i> (Nitzsch) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	O, U	-	3	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria ulna</i> var. <i>arcus</i> (Kuetz.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	1	-	-	-
<i>Fragilaria</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	3	-	-	-	-	4
<i>Fragilariforma virescens</i> var. <i>exigua</i> (Grun.) Poulin	Ogh-ind	ind	l-ph	U	-	2	6	28	-	-	-
<i>Frustulia rhomboides</i> (Ehr.) De Toni	Ogh-hob	ac-il	l-ph	P	-	1	-	3	-	-	-
<i>Frustulia rhomboides</i> var. <i>saxonica</i> (Rabenh.) De Toni	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	1	1	1	-	-	-
<i>Gomphonema acuminatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	3	1	1	1	-	-
<i>Gomphonema angustum</i> C.Agardh	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	1	-
<i>Gomphonema clevei</i> Fricke	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	-	-	-	-	-	1	-
<i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O, U	-	1	-	1	-	-	-
<i>Gomphonema parvulum</i> (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	-	7	-	2	1	6	-
<i>Gomphonema sphaerophorum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	3	1	-	1	-	-
<i>Gomphonema truncatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	-	2	-	1	1	-	-
<i>Gomphonema</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		4	3	-	-	-	-	-
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, U	-	1	-	1	-	-	-
<i>Hantzschia amphioxys</i> var. <i>vivax</i> (Hantz.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, U	-	1	-	1	1	-	-
<i>Luticola mutica</i> (Kuetz.) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA, S	-	1	-	-	-	-	-
<i>Meridion circulare</i> var. <i>constrictum</i> (Ralfs) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	r-bi	K, T	-	-	-	-	1	-	-
<i>Navicula angusta</i> Grunow	Ogh-ind	ac-il	ind	O, U	-	-	-	-	1	-	-
<i>Navicula cryptocephala</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	1	-	-	-
<i>Navicula cryptotenella</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	-	1	-	-
<i>Navicula rhynchocephala</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	1	1	-	-
<i>Navicula seminulum</i> Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RB, S	-	-	-	-	1	-	-
<i>Navicula</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	2	-
<i>Neidium alpinum</i> Hustedt	Ogh-unk	unk	ind	RA	-	-	-	1	1	-	-
<i>Neidium ampliatum</i> (Ehr.) Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	1	-	1	-	4	-
<i>Neidium iridis</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi	O	-	-	-	1	-	1	-
<i>Neidium</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	1	-	6	-

第6表 珪藻分析結果表(2)

種類	生態性			環境 指標種	IIIb層	IVa層①	IVa層②	IVb層	V-1層	V-9層	VIIa層
	塩分	pH	流水		1	2	3	4	5	8	10
<i>Nitzschia brevissima</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB, U	—	—	—	1	—	—	—
<i>Nitzschia fonticola</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	—	—	—	1	—	—	—
<i>Pinnularia acrosphaeria</i> W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	N, O, U	1	1	—	1	—	1	—
<i>Pinnularia balfouriana</i> Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RI	—	—	—	—	1	—	—
<i>Pinnularia braunii</i> (Grun.) Cleve	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	S	—	—	—	1	—	—	—
<i>Pinnularia brevissonii</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U	—	—	—	1	—	—	—
<i>Pinnularia brevicostata</i> var. <i>sumatrana</i> Hustedt	Ogh-ind	ac-il	l-ph	O	—	1	—	—	1	—	—
<i>Pinnularia divergens</i> W.Smith	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	—	1	1	1	—	—	—
<i>Pinnularia gibba</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O	2	1	1	2	1	—	—
<i>Pinnularia gibba</i> var. <i>linearis</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind	O	1	—	1	2	1	—	—
<i>Pinnularia gibba</i> var. <i>mesogongyla</i> (Ehr.) Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind	O	—	1	—	—	—	—	—
<i>Pinnularia lundii</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	l-ph	O	—	1	—	—	—	—	—
<i>Pinnularia mesolepta</i> (Ehr.) W.Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	—	—	—	—	1	—	—
<i>Pinnularia microstauron</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	S	—	4	2	2	3	1	1
<i>Pinnularia nobilis</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	—	—	1	1	—	—	—
<i>Pinnularia nodosa</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	—	1	—	—	—	—	—
<i>Pinnularia rupestris</i> Hantzsch	Ogh-hob	ac-il	ind	O	2	—	1	1	—	—	—
<i>Pinnularia stomatophora</i> (Grun.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph	O, P	—	1	—	—	—	—	—
<i>Pinnularia subcapitata</i> Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB, S	—	2	—	—	3	—	—
<i>Pinnularia subrupestris</i> Krammer	Ogh-hob	ac-il	ind	O	2	—	—	—	—	—	—
<i>Pinnularia substomatophora</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph	N, O, U	—	1	—	—	—	—	—
<i>Pinnularia sudetica</i> (Hilse) M.Peragallo	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O, P	—	1	—	—	—	—	—
<i>Pinnularia viridiformis</i> Krammer	Ogh-ind	ind	ind	N, O, U	—	1	1	—	—	—	—
<i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	—	1	—	—	—	—	—
<i>Pinnularia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		18	7	6	—	—	8	17
<i>Rhopalodia gibba</i> (Ehr.) Mueller	Ogh-ind	al-il	ind	O, U	—	—	—	1	—	—	—
<i>Sellaphora americana</i> (Ehr.) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	—	1	1	1	—	—	—
<i>Sellaphora laevis</i> (Kuetz.) D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	U	—	—	—	1	1	—	—
<i>Sellaphora pupula</i> (Kuetz.) Mereschowsky	Ogh-ind	ind	ind	S, U	1	1	—	1	1	1	—
<i>Stauroneis anceps</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	—	—	—	1	—	1	—
<i>Stauroneis nobilis</i> fo. <i>alabamae</i> (Heid.) Cleve-Euler	Ogh-hob	ac-il	ind		—	1	—	—	—	—	—
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	N, O, U	—	1	1	1	1	4	—
<i>Stauroneis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		—	1	—	—	1	—	1
<i>Stausira construens</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	—	—	2	3	2	—	—
<i>Stausira construens</i> var. <i>venter</i> (Ehr.) Hamilton	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	—	—	17	21	63	—	—
<i>Stausirella pinnata</i> (Ehr.) Williams & Round	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	—	—	—	7	8	—	—
<i>Surirella elegans</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-bi	U	—	—	—	—	—	1	—
<i>Surirella</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		—	1	—	—	—	2	—
<i>Tabellaria fenestrata</i> (Lyngb.) Kuetzing	Ogh-ind	ac-il	l-bi	O, T	—	13	22	12	16	2	—
<i>Tabellaria flocculosa</i> (Roth) Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-bi	T	3	—	11	9	12	—	—
海水生種					0	0	0	0	0	0	0
海水～汽水生種					0	1	0	0	0	0	0
汽水生種					0	0	0	1	1	0	0
淡水～汽水生種					3	3	8	2	23	1	0
淡水生種					204	244	211	217	208	107	35
珪藻化石総数					207	248	219	220	232	108	35

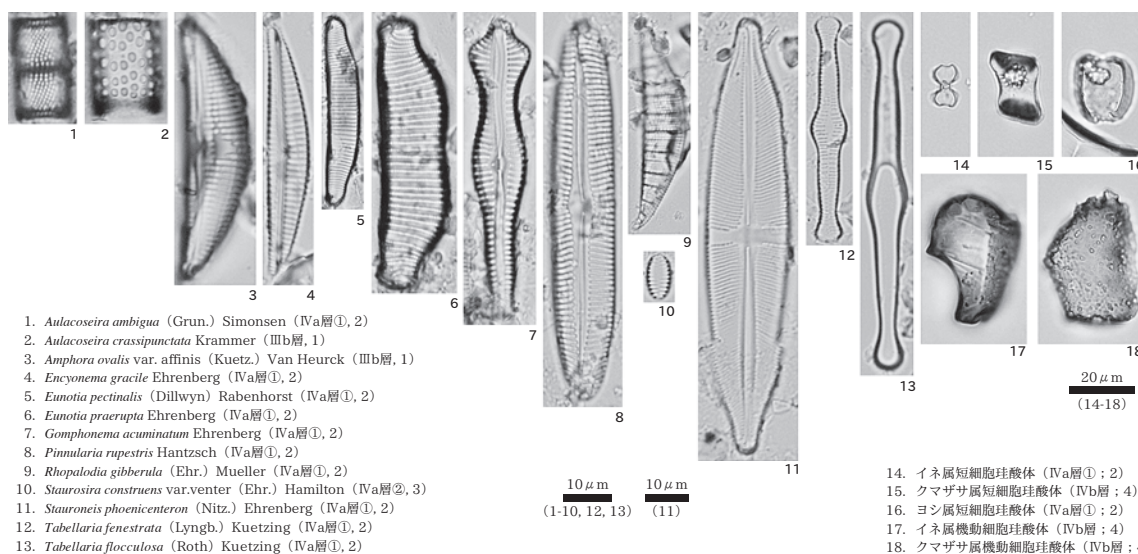
凡例

環境指標種

A : 外洋指標種 B : 内湾指標種 C1 : 海水藻場指標種 C2 : 汽水藻場指標種
 D1 : 海水砂質干潟指標種 D2 : 汽水砂質干潟指標種 E1 : 海水泥質干潟指標種
 E2 : 汽水泥質干潟指標種 F : 淡水底生種群 (以上は小杉, 1988)
 G : 淡水浮遊生種群 H : 河口浮遊生種群 J : 上流性河川指標種 K : 中～下流性河川指標種 L : 最下流性河川指標種 M : 湖沼浮遊生種 N : 湖沼沼沢湿地指標種
 O : 沼沢湿地付着生種 P : 高層湿原指標種群 Q : 陸域指標種群 (以上は安藤, 1990)
 S : 好汚濁性種 U : 広適応性種 T : 好清水性種 (以上はAsai & Watanabe, 1995)
 RI : 陸生珪藻 (RA : A群, RB : B群, 伊藤・堀内, 1991)

塩分・pH・流水に対する適応性

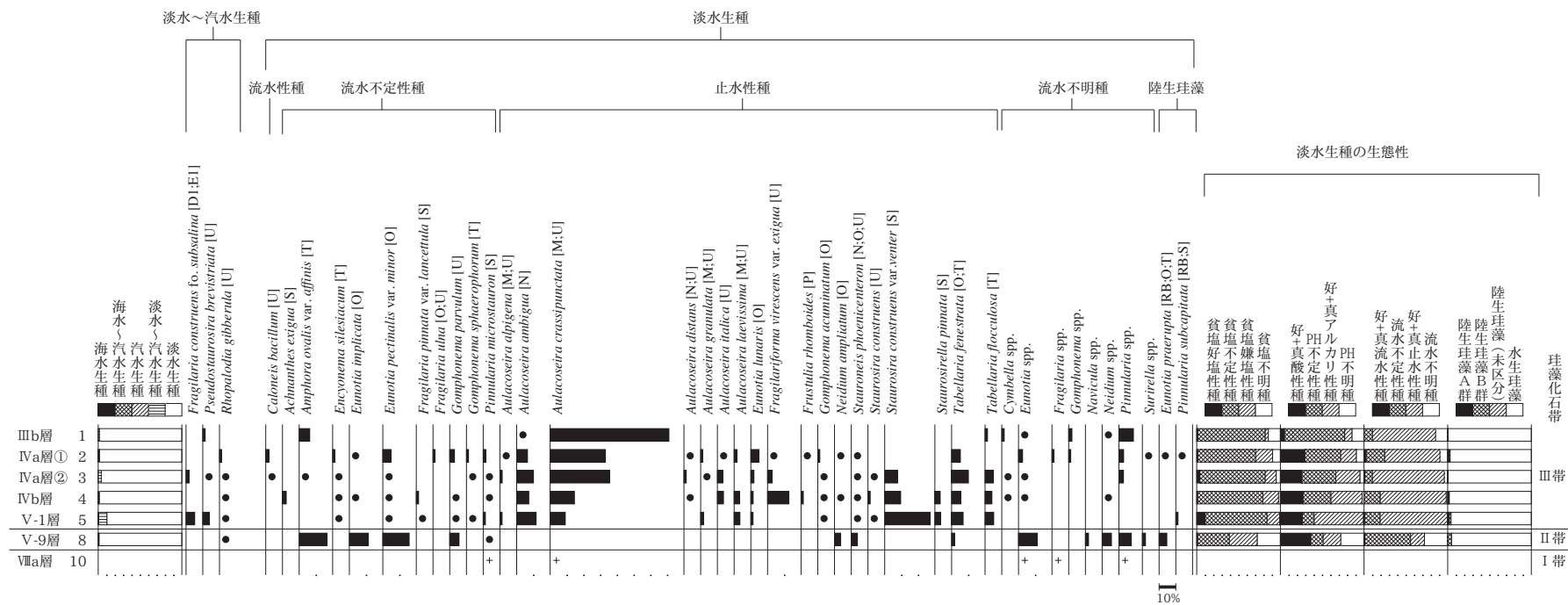
H.R. : 塩分濃度に対する適応性 pH : 水素イオン濃度に対する適応性 C.R. : 流水に対する適応性
 Euh : 海水生種 al-bi : 真アルカリ性種 l-bi : 真止水性種
 Euh-Meh : 海水生種～汽水生種 al-il : 好アルカリ性種 l-ph : 好止水性種
 Meh : 汽水生種 ind : pH不定性種 ind : 流水不定性種
 Ogh-hil : 貧塩好塩性種 ac-il : 好酸性種 r-ph : 好流水性種
 Ogh-ind : 貧塩不定性種 ac-bi : 真酸性種 r-bi : 真流水性種
 Ogh-hob : 貧塩嫌塩性種 unk : pH不明種 unk : 流水不明種
 Ogh-unk : 貧塩不明種



1. *Aulacoseira ambigua* (Grun.) Simonsen (IVa層①, 2)
2. *Aulacoseira crassipunctata* Krammer (IIIb層, 1)
3. *Amphora ovalis* var. *affinis* (Kuetz.) Van Heurck (IIIb層, 1)
4. *Encyonema gracile* Ehrenberg (IVa層①, 2)
5. *Eunotia pectinalis* (Dillwyn) Rabenhorst (IVa層①, 2)
6. *Eunotia praerupta* Ehrenberg (IVa層①, 2)
7. *Gomphonema acuminatum* Ehrenberg (IVa層①, 2)
8. *Pinnularia rupestris* Hantzsch (IVa層①, 2)
9. *Rhopalodia gibberula* (Ehr.) Mueller (IVa層②, 3)
10. *Stausira construens* var. *venter* (Ehr.) Hamilton (IVa層②, 3)
11. *Stauroneis phoenicenteron* (Nitz.) Ehrenberg (IVa層①, 2)
12. *Tabellaria fenestrata* (Lyngb.) Kuetzing (IVa層①, 2)
13. *Tabellaria flocculosa* (Roth) Kuetzing (IVa層①, 2)

14. イネ属短細胞珪酸体 (IVa層①; 2)
15. クマザサ属短細胞珪酸体 (IVb層; 4)
16. ヨシ属短細胞珪酸体 (IVa層①; 2)
17. イネ属機動細胞珪酸体 (IVb層; 4)
18. クマザサ属機動細胞珪酸体 (IVb層; 4)

第20図 珪藻化石・植物珪酸体顕微鏡写真



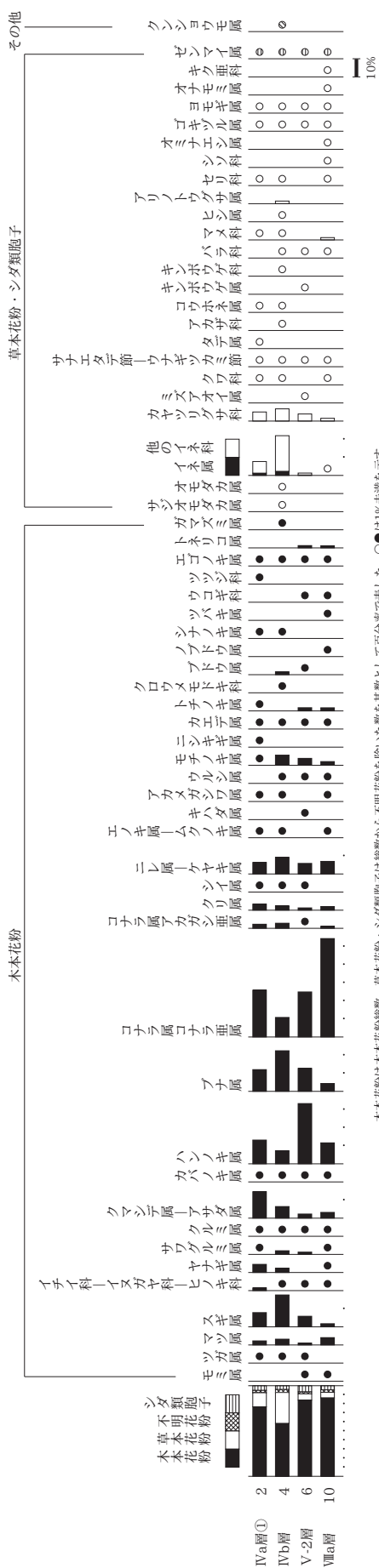
海水〜汽水〜淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は1%未満、+は100個体未満の試料について検出した種類を示す。

- 環境指標種
 A：外洋指標種 B：内湾指標種 C1：海洋藻場指標種 C2：汽水藻場指標種 D1：海水砂質干潟指標種 D2：汽水砂質干潟指標種 E1：海水泥質干潟指標種 F：淡水底生種群（以上は小杉、1988）
 G：淡水浮遊性種群 H：河口浮遊性種群 J：上流性河川指標種 K：中〜下流性河川指標種 L：最下流性河川指標種群 M：湖沼浮遊性種 N：湖沼沼沢湿地指標種 O：沼沢湿地付着生種
 P：高層湿原指標種群 Q：陸域指標種群（以上は安藤、1990）
 S：好汚濁性種 U：広適応性種 T：好清水性種（以上はAsai and Watanabe, 1995）
 RI：陸生珪藻（RA：A群，RB：B群、伊藤・堀内、1991）

第 21 図 主要珪藻化石群集の層位分布

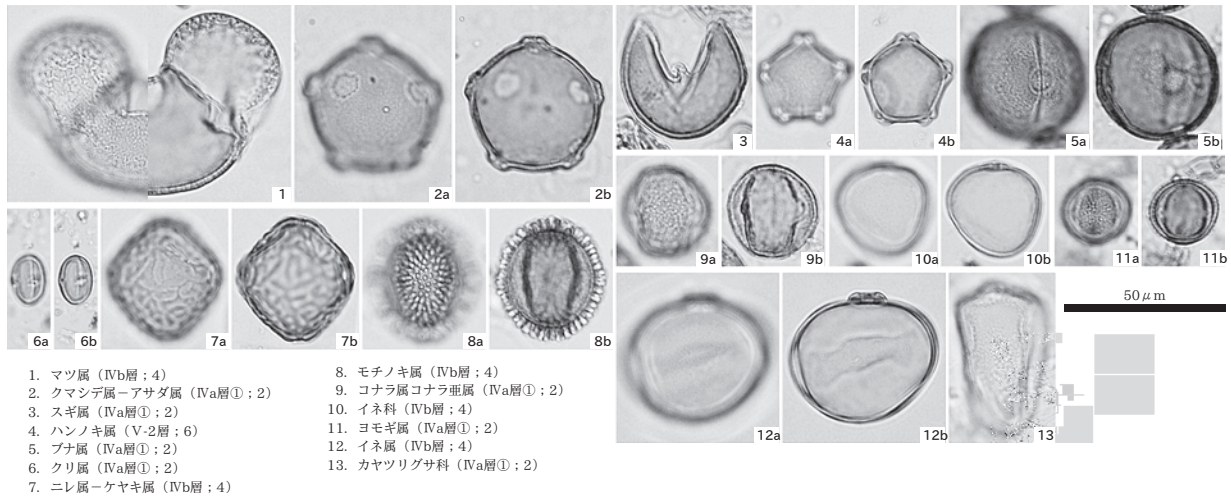
第7表 花粉分析結果

種類	IVa層① 2	IVb層 4	V-2層 6	VIIa層 10
木本花粉				
モミ属	-	-	1	2
ツガ属	2	1	3	-
マツ属単維管束亜属	1	3	1	-
マツ属複維管束亜属	1	4	1	5
マツ属(不明)	4	1	2	9
スギ属	21	44	23	6
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	4	2	1	1
ヤナギ属	12	6	-	1
サワグルミ属	1	5	5	2
クルミ属	2	1	1	2
クマシデ属-アサダ属	39	16	9	11
カバノキ属	1	2	3	2
ハンノキ属	35	18	131	40
ブナ属	32	56	50	15
コナラ属コナラ亜属	69	27	98	188
コナラ属アカガシ亜属	6	7	3	4
クリ属	9	6	5	7
シイ属	1	1	1	-
ニレ属-ケヤキ属	17	23	23	24
エノキ属-ムクノキ属	1	1	-	3
キハダ属	-	-	1	-
アカメガシワ属	1	1	-	1
ウルシ属	-	1	1	1
モチノキ属	1	14	15	7
ニシキギ属	1	-	-	-
カエデ属	1	1	1	1
トチノキ属	2	-	7	6
クロウメモドキ科	-	1	-	-
ブドウ属	-	4	1	-
ノブドウ属	-	-	-	1
シナノキ属	1	1	-	-
ツバキ属	-	-	-	1
ウコギ科	-	-	1	1
ツツジ科	1	-	-	-
エゴノキ属	1	2	1	1
トネリコ属	-	-	5	4
ガマズミ属	-	1	-	-
草本花粉				
サジオモダカ属	-	2	-	-
オモダカ属	-	2	-	-
イネ属	4	9	1	-
他のイネ科	22	82	4	1
カヤツリグサ科	17	28	18	6
ミズアオイ属	-	-	1	-
クワ科	2	1	-	1
サナエタデ節-ウナギツカミ節	1	1	2	1
タデ属	1	-	-	-
アカザ科	-	1	-	-
コウホネ属	1	2	-	-
キンボウゲ属	-	-	1	-
キンボウゲ科	-	1	-	-
バラ科	-	1	1	1
マメ科	1	3	-	5
ヒシ属	-	1	-	-
アリノトウグサ属	-	6	-	-
セリ科	1	3	-	1
シソ科	-	-	-	1
オミナエシ属	-	-	-	1
ゴキツル属	1	1	2	3
ヨモギ属	3	3	3	2
オナモミ属	-	-	-	1
キク亜科	-	-	-	1
不明花粉				
不明花粉	9	14	10	11
シダ類胞子				
ゼンマイ属	1	2	2	1
他のシダ類胞子	17	16	30	17
合計				
木本花粉	267	250	394	346
草本花粉	54	147	33	25
不明花粉	9	14	10	11
シダ類胞子	18	18	32	18
合計(不明を除く)	339	415	459	389
その他				
クンショウモ属	-	1	-	-



第22図 花粉化石群集の層位分布

木本花粉は木本花粉総数、草本花粉は草本花粉総数から不明花粉を除いた数を基数として百分率で表した。○●は1%未満を示す。



第 23 図 花粉化石顕微鏡写真

ラ垂属が多く産出する。その他では、スギ属・ブナ属・ニレ属－ケヤキ属・モチノキ属などを伴う。草本花粉では、イネ科・カヤツリグサ科・サナエタデ節－ウナギツカミ節・ゴキヅル属・ヨモギ属などが認められる。

VIIa 層も木本花粉が優占する。木本花粉ではコナラ垂属が多産し、マツ属・クマシデ属－アサダ属・ハンノキ属・ブナ属・ニレ属－ケヤキ属などを伴う。草本花粉では、カヤツリグサ科・マメ科・ゴキヅル属・ヨモギ属などがわずかに認められる。

3) 植物珪酸体分析

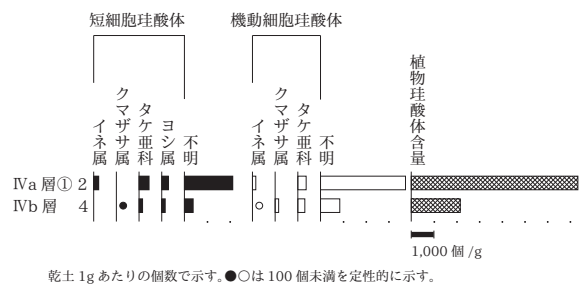
結果を第 8 表と第 24 図に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されたが、保存状態が悪く、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる。植物珪酸体含量は、試料番号 4 が 1g あたり約 2,200 個、試料番号 2 が約 7,400 個である。

栽培植物はイネ属が産出し、単細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が見られる。1g あたりの含量は、IVb 層が機動細胞珪酸体のみで 100 個未満、IVa 層①が単細胞珪酸体約 200 個、機動細胞珪酸体約 100 個である。この他のイの含量は概して少ない。ネ科作物（キビ類・ムギ類）は認められない。そのほか、クマザサ属を含むタケ亜科やヨシ属が見られるが、その含量は概して少ない。

第 8 表 2 区IV層の植物珪酸体含量 (個/g)

分類群	IVa層① 2	IVb層 4
イネ科葉部短細胞珪酸体		
イネ属	200	—
クマザサ属	—	<100
タケ亜科	400	200
ヨシ属	300	200
不明	2,100	400
イネ科葉身機動細胞珪酸体		
イネ属	100	<100
クマザサ属	—	200
タケ亜科	400	300
不明	3,700	800
合計		
イネ科葉部短細胞珪酸体	3,100	800
イネ科葉身機動細胞珪酸体	4,300	1,400
植物珪酸体含量	7,400	2,200

1) 含量は、10の位で丸めている (100単位にする)。
 2) 合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。
 3) <100: 100個/g未満。



第 24 図 2 区IV層の植物珪酸体出現率

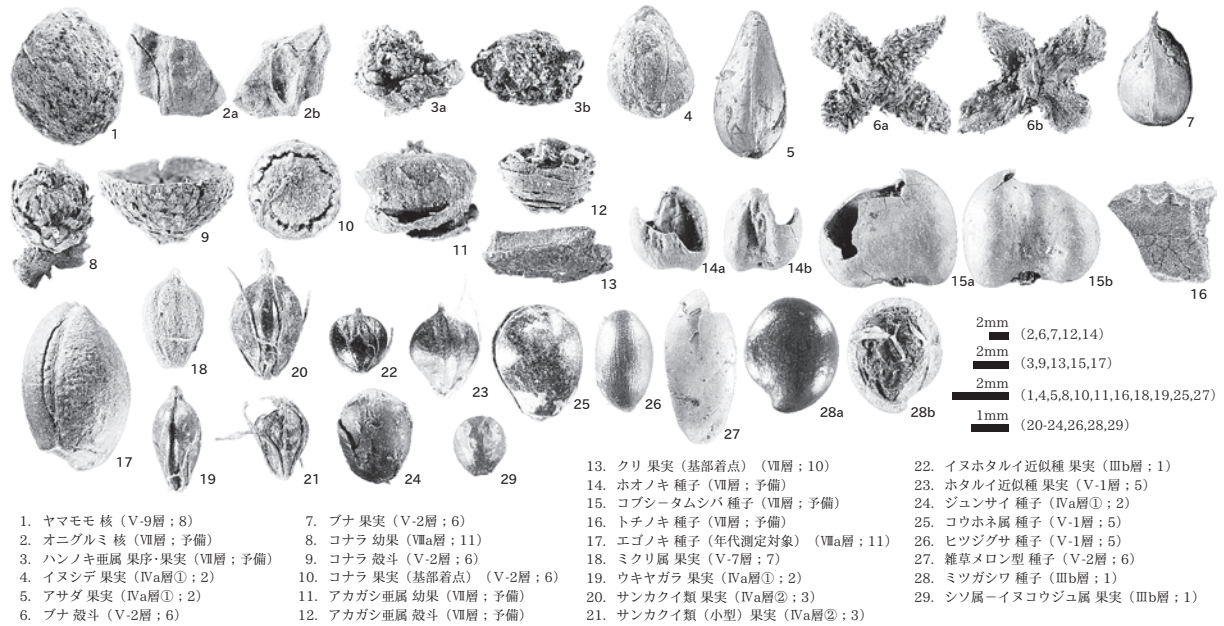
4) 種実同定

結果を第 9 表と第 25 図に示す。全 13 試料をつうじて、木本 36 分類群 611 個、草本 29 分類群 2031 個、計 2642 個の種実遺体が同定された。各種実遺体の検出個数は、IIIb 層が 305 個、IVa 層①が 164 個、IVa 層②が 1048 個、IVb 層が 84 個、V-1 層が 290 個、V-2 層が 97 個、V-7 層が 51 個、V-9 層が 82 個、

第3節 古環境復元

第9表 種実同定結果

分類群	部位	状態	IIIb層 1	IVa層① 2	IVa層② 3	IVb層 4	V-1層 5	V-2層 6	V-7層 7	V-9層 8	VI層 9	VII層 10	VII層 予備	VIIIa層 11	VIIIc層 12	合計
木本																
ヤマモモ	核	完形	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
オニグルミ	核	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	5
オニグルミ?	核	破片	炭化	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3
ハンノキ亜属	果実	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	3
	果実	完形	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	4
ハンノキ属	雌花序	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2
	果鱗	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
アサダ	果実	完形	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3
イヌシデ	果実	完形	-	8	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	10
ブナ	殻斗	完形	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	1	-	-	5
	果実	完形	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	1	-	-	9
	破片	完形	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	3
	破片	炭化	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	1	-	-	4
コナラ	幼果	完形	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	15	2	22
	破片	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	4
	破片	炭化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	殻斗	完形	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	6
	破片	完形	-	-	-	-	-	22	-	-	-	-	-	49	26	97
	破片	炭化	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2
アカガシ亜属	幼果	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	4
	殻斗	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
クリ	果実	破片	炭化	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
ブナ科	果実	破片	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	8
クワ属	核	完形	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	18	1	-	22
ホオノキ	種子	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	3
	破片	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2
コブシ-タムシバ	種子	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2
	破片	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	12
アブラチャン	種子	破片	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2
サルナシ近似種	種子	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
マタビ近似種	種子	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
サクラ属	核	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
アカメガシワ	種子	完形	-	-	-	1	-	-	-	2	-	5	4	-	-	12
	破片	完形	-	-	-	2	1	-	-	-	-	12	19	3	4	41
カラスザンショウ	種子	完形	炭化	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	破片	完形	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	13
	破片	炭化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	11
サンショウ	種子	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
	破片	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
キハダ	種子	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
カエデ属	種子	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2
トチノキ	種子	破片	炭化	-	-	-	-	-	-	-	-	8	7	-	-	15
アワブキ属	核	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
	破片	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2
クマヤナギ属	核	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
ノブドウ	種子	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
イイギリ	種子	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	9	-	-	14
	破片	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	2	1	-	10
クマノミズキ	核	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
	破片	完形	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ミズキ	核	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	5
	破片	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	5
タラノキ	核	完形	-	-	-	-	-	-	-	4	2	1	-	1	-	8
エゴノキ	種子	完形	-	-	-	-	-	3	6	1	-	1	3	5	4	23
	破片	完形	1	-	-	-	1	1	9	9	1	16	49	65	29	181
ハクウンボク	種子	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
ムラサキシキブ属	核	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
クサギ	核	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
	破片	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
ヤブデマリ	核	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
堅果類 (オニグルミ・トチノキの類)	破片	炭化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	10
草本																
サジオモダカ属	果実	完形	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ヒルムシロ属	果実	完形	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
ミクリ属	果実	完形	9	-	-	-	1	11	34	30	-	6	1	2	-	94
	破片	完形	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	2
アゼスゲ類	果実	完形	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2
スゲ属 (3面型)	果実	完形	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3
スゲ属 (3面小型)	果実	完形	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
ハリイ属	果実	完形	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ウキヤガラ	果実	完形	-	15	4	-	2	3	-	1	-	-	-	1	-	26
サンカクイ類	果実	完形	-	129	601	-	-	1	-	-	-	-	2	-	-	733
	破片	完形	-	2	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
サンカクイ類 (小型)	果実	完形	-	-	421	10	12	-	-	-	-	-	-	-	-	443
	破片	完形	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
イヌホタルイ近似種	果実	完形	64	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	66
ホタルイ近似種	果実	完形	8	-	2	21	44	1	-	-	-	-	-	-	-	76
ホタルイ類 (表面横皺型)	果実	完形	17	-	-	18	162	4	-	2	-	-	-	-	-	203
	破片	完形	-	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	9
ホタルイ属 (表面不明瞭)	果実	完形	-	-	-	14	38	2	1	5	-	-	-	7	2	69
	破片	完形	-	-	-	1	3	-	-	1	-	-	-	-	1	6
カヤツリグサ科 (2面型)	果実	完形	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
イシミカワ-ママコノシリヌグイ	果実	完形	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ミゾソバ	果実	完形	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
ボントクタデ近似種	果実	完形	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	7
	破片	完形	39	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	46
ヤナギタデ近似種	果実	完形	-	3	2	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	8
	破片	完形	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2
サナエタデ近似種	果実	完形	-	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4
	破片	完形	-	-	1	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
イヌタデ近似種	果実	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
タデ属 (3面平滑型)	果実	完形	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	-	20
	破片	完形	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2
ジュンサイ	種子	完形	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
コウホネ属	種子	完形	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	2	-	5
ヒツジグサ	種子	完形	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	7
雑草メロン型	種子	完形	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
フサモ属	果実	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
ミツガシワ	種子	完形	47	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	48
	破片	完形	95	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	95
シソ属-イヌコウジュ属	果実	完形	12	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	13
合計																
木本種実	</															



第 25 図 種実遺体顕微鏡写真

VI層が8個、VII層72個、VIIa層が167個、VIIIc層が71個、VII層予備サンプルが203個であった。

栽培種は雑草メロン型の種子がV-2層から1個確認された。その他に、栽培された可能性もあるシソ属・イヌコウジュ属の果実がIIIb層から12個、V-2層から1個確認された。なお、栽培種およびその可能性を含む分類群をはじめ、主な種実遺体の計測値を第10表に示す。

木本類は全て広葉樹からなり、落葉高木19種(オニグルミ・ハンノキ(亜)属・アサダ・イヌシデ・ブナ・コナラ・クリ・ブナ科・クワ属・ホオノキ・コブシ・タムシバ・サクラ属・アカメ

ガシワ・カラスザンショウ・キハダ・トチノキ・イイギリ・クマノミズキ)、落葉高木~小高木1種(カエデ属)、落葉小高木2種(エゴノキ・ハクウンボク)、落葉小高木~低木1種(ヤブデマリ)、落葉低木7種(アブラチャン・サンショウ・アワブキ属・クサギ)、落葉藤木3種(サルナシ近似種・マタタビ近似種・ノブドウ)、常緑高木2種(ヤマモモ・アカガシ亜属)が確認された。エゴノキが最も多いが、204個中181個が破片である。VII層より出土したオニグルミ?・クリ・トチノキなどの堅果片とVI層のカラスザンショウ1個には炭化が認められた。

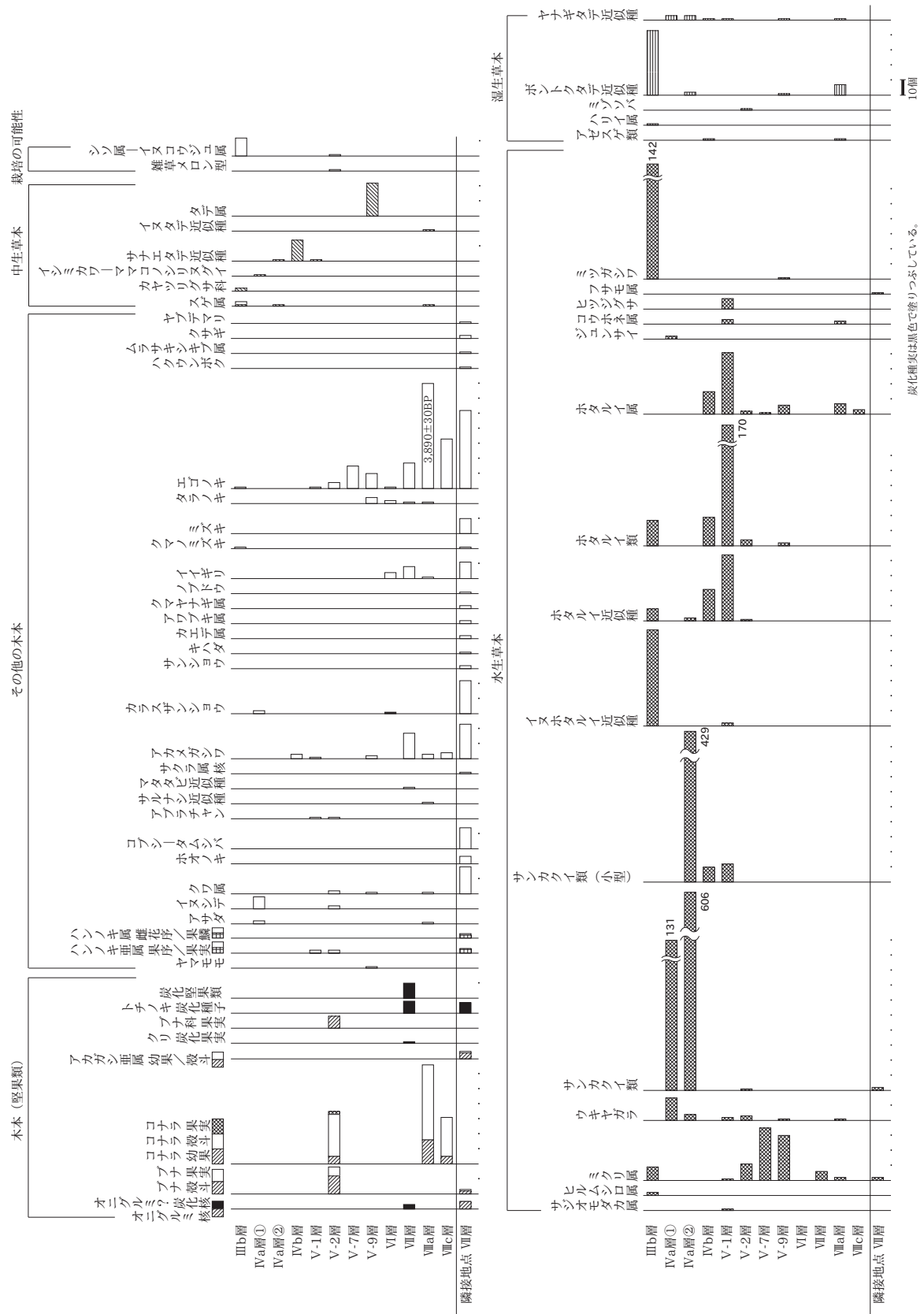
なお、アカガシ亜属・ハンノキ属・ホオノキ・コブシ・タムシバ・サクラ属・サンショウ・キハダ・カエデ属・アワブキ属・クマヤナギ属・ノブドウ・ミズキ・ハクウンボク・ムラサキシキブ属・クサギ・ヤブデマリは、隣接地点のVII層のみで確認された分類群である。

草本類は、抽水植物のホタルイ属(1620個)をはじめ、多年生~湿生植物のサジオモダカ属、多年生の沈水植物または浮葉植物のヒルムシロ属、腐植栄養または貧~中栄養の湖沼やため池などに生育する多年生浮葉植物のジンサイ・ヒツジグサ、多年生の浮葉~抽水植物のコウホネ属、多年生抽水植物のミクリ・ウキヤガラ・ミツ

第 10 表 主な種実遺体の計測値

層位	試料番号	分類群	部位	状態	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	備考
V-2層	6	雑草メロン型	種子	破片	5.6	2.5	0.6+	
IIIb層	1	シソ属-イヌコウジュ属	果実	完形	1.4	1.3	1.1	
IIIb層	1	シソ属-イヌコウジュ属	果実	完形	1.4	1.2	1.1	
IIIb層	1	シソ属-イヌコウジュ属	果実	完形	1.4	1.4	1.1	
IIIb層	1	シソ属-イヌコウジュ属	果実	完形	1.5	1.3	1.0	
IIIb層	1	シソ属-イヌコウジュ属	果実	完形	1.5	1.3	1.1	
IIIb層	1	シソ属-イヌコウジュ属	果実	完形	1.6	1.4	1.0	
IIIb層	1	シソ属-イヌコウジュ属	果実	完形	1.6	1.2	1.1	
IIIb層	1	シソ属-イヌコウジュ属	果実	完形	1.6	1.3	1.0	
IIIb層	1	シソ属-イヌコウジュ属	果実	完形	1.6	1.3	1.1	
IIIb層	1	シソ属-イヌコウジュ属	果実	完形	1.6	1.5	1.1	
IIIb層	1	シソ属-イヌコウジュ属	果実	完形	1.6	1.4	1.1	
V-2層	6	シソ属-イヌコウジュ属	果実	完形	1.6	1.4	1.2	
V-2層	6	コナラ	果実	破片	-	2.7	-	基部着点径
V-2層	6	コナラ	果実	破片	-	3.3	-	基部着点径
VII層	10	マタタビ近似種	種子	完形	1.6	1.3	0.8	
VIIa層	11	サルナシ近似種	種子	完形	2.5	1.7	0.9	
VIIa層	11	エゴノキ	種子	完形	9.5	6.0	-	着点径3.4mm, 重量0.1g, 年代測定対象

1) 計測はデジタルノギスを使用。



第26図 種実遺体群集の変遷

ガシワ、沈水～湿生植物のフサモ属などの水生植物が計 1903 個と、草本全体の 93.7%、種実全体の 72.0% を占めその他に、湿生植物 4 種（アゲスゲ類・ハリイ属・ミゾソバ・ボントクタデ近似種）、中性植物 7 種（スゲ属・カツリグサ科・イシミカワ・ママコノシリヌグイ・サナエタデ近似種・イヌタデ近似種・タデ属）が確認された。

最も多く確認されたホタルイ属の果実は、サンカクイやフトイに似る果皮表面が平滑な個体をサンカクイ類とし、果皮表面が横皺状で刺針状花被片が果実の長さより短い個体をイヌホタルイ近似種、花被片が果実より長いまたは同長の個体をホタルイ近似種、花被片を欠損する個体をホタルイ類、果皮表面が不明瞭な個体をホタルイ属としている。その結果、サンカクイ類が最も多く（1,191 個）、IVa 層①・IVa 層②で多産し、特にIVa 層②で極めて多く確認された。一方、V-1 層・IVb 層ではホタルイ近似種やホタルイ類が多く、IIIb 層ではイヌホタルイ近似種が高い傾向がえられた。ホタルイ以外では、V-9 層・V-7 層・V-2 層でミクリ属が多く、IIIb 層では、ミツガシワとボントクタデ近似種が多く確認された。

D 考 察

1) 低地の堆積環境

上述のとおり、VIIa 層からIIIb 層における珪藻化石群集の産状から、下位から I～III の化石帯設定された。以下では下位より堆積環境の変遷を推定する。

I 帯 (VIIa 層)

堆積物中の珪藻化石量が少なく、淡水の流水不明種と陸生珪藻がごく低率で認められた。珪藻化石の産出率が低いと、堆積環境を推定するには十分なデータでないが、検出種の生態性に基づけば、次のように考えられる。本帯から低率に検出された主な群集は流水不明種であるが、概ね湿地に生育する群集である。さらに、化石の産出率が低いことから、本帯の堆積時は水域でなく、好気的な環境下にあった可能性がある。

II 帯 (V-9 層)

流水不定性種、流水不定性種と流水不明種を主体に止水性種および陸生珪藻を伴う群集が認められた。特徴的に認められた流水不定性種の *Amphora ovalis* var. *affinis*、*Eunotia implicata*、*Eunotia pectinalis* var. *minor*、流水不定性種の *Eunotia* spp.、*Pinnularia* spp. および陸生珪藻の *Eunotia praerupta* 等の生育環境を考慮すると、本帯の堆積時は地下水位が比較的低く、好気的な場所が点在する湿地のような水域環境であったと推定される。

III 帯 (V-1 層・IVb 層・IVa 層②・IVa 層②・IIIb 層)

止水性種を主体に低率の流水不定性種と淡水～汽水生種の *Pseudostaurosira brevistriata*、淡水種で止水性種の *Aulacoseira ambigua*、*Aulacoseira crassipunctata*、*Staurosira construens* fo. *venter*、*Staurosirella pinnata*、*Tabellaria flocculosa* 等の生育環境や、他の希産種の産状を考慮すると、本帯下部は湿地のような水域環境であったが、上部では池沼のような水域環境へと変化したと推定される。すなわち、上位に向かい水深が増加したことが示唆される。

2) 森林植生

VIII 層～VI 層

発掘調査の所見により縄文時代中期中葉（今回の年代測定値では縄文時代中期～後期頃）とされる VIIa 層の花粉化石群集は、木本類が優占し、コナラ属コナラ亜属が多産する。その他では、マツ属・スギ属等の針葉樹、クマシ属-アサダ属・ハンノキ属・ブナ属・ニレ属-ケヤキ属・モチノキ属・トチノキ属・トネリコ属等の落葉広葉樹が認められる。

種実遺体群集でも、発掘調査所見で縄文時代中期とされる VIIIc 層・VIIa 層、中期末葉とされる VII 層、後期中葉とされる VI 層は、木本主体の組成を示す。木本類は、常緑高木のアカガシ亜属、落葉高木のオニグルミ・ハンノキ（亜）属・アサダ・クリ・ブナ科・クワ属・ホオノキ・コブシ-タムシバ・サクラ属・アカメガシワ・カラスザンショウ・キハダ・トチノキ・イイギリ・クマノミズキ、落葉高木～小高木のカエデ属、落葉小高木のエゴノ

キ・ハクウンボク、落葉小高木～低木のヤブデマリ、落葉低木のサンショウ・アワブキ属・クマヤナギ属・タラノキ・ムラサキシキブ属・クサギ、落葉藤木のサルナシ近似種・マタタビ近似種・ノブドウが確認された。

花粉化石および種実遺体で確認された群集は、共通するものや同様の環境に生育するものが多い。ヤナギ属・サワグルミ属・オニグルミ（クルミ属）・クマシデ属－アサダ属・ハンノキ（亜）属・ニレ属－ケヤキ属・トチノキ（属）・クモノミズキ・ミズキなどの河畔林要素や、コナラ（亜属）・クリ（属）などの二次林要素、崩壊地や林縁などの明るく開けた場所に先駆的に侵入する陽樹が多く確認されることから、当時の調査周辺域の森林植生を反映していると考えられる。また、極相林要素のブナ（属）やアカガシ亜属も確認されたことから、当時の周辺丘陵・山地上にブナ林が、沿岸域・低地域などに常緑広葉樹が存在したことが推定される。

V層

V-2層の花粉化石群集は、VIIIa層同様に木本類が優占し、ハンノキ属・ブナ属・コナラ亜属が多く産出し、スギ属・クマシデ属－アサダ属・ブナ属・ニレ属－ケヤキ属・モチノキ属・トチノキ属・トネリコ属等を伴う。一方、種実遺体群集では、V-9層・V-7層・V-2層・V-1層になると木本の分類群数が少なくなり、常緑高木のヤマモモ、落葉高木のブナ・コナラ・イヌシデ・クワ属・アカメガシワ、落葉低木のアブラチャン・タラノキ・エゴノキが確認される程度となる。基本的には、VIIIc層～VI層までに検出される種群が相違しないことから、周囲の森林植生に大きな変化はなかったと思われる。なお、V-9層で確認されたヤマモモは、現在関東南部以西に分布するとされており、新潟県内には分布しない。今回確認されたヤマモモは1個のみであるが、当時の調査地付近に分布した可能性を示す貴重な古植生情報といえる。

IV層

古代とされるIVb層・IVa層では、草本花粉の割合が高くなり、特にIVb層で顕著に増加する。しかし、検出される木本類ではスギ属・クマシデ属－アサダ属・ハンノキ属・ブナ属・コナラ亜属・ニレ属－ケヤキ属等が多く、多産する種類構成はV層以深と大差ない。このことから、本遺跡の周辺では開けた空間が拡大したことが示唆されるが、後背のブナ属などからなる冷温帯林やハンノキ属・ニレ属－ケヤキ属などの河畔林、さらにスギ属などが沢沿いや湧水部などに引き続き周囲の森林植生として分布していたと考えられる。

3) 草本植生

VIII層～VI層

VIIIc層・VIIIa層・VII層・VI層における草本類は、花粉化石ではカヤツリグサ科・マメ科・ゴキヅル属・ヨモギ属などがわずかに認められる程度であったが、種実遺体では水生植物のミクリ属・ウキヤガラ・サンカクイ類・ホタルイ類・コウホネ属・フサモ属・湿性植物のアゼスゲ類・ポントクタデ近似種・ヤナギタデ近似種、中性植物のスゲ属・イヌタデ近似種などが確認された。珪藻分析の結果をふまえると、当時の調査地点周辺は水深が浅く（水深1～2m以内）好気的環境になりやすい湿地のような状態で、その周囲の乾いた場所には、これらの草本類が生育していたと考えられる。

V層

V-9層・V-7層・V-2層・V-1層になると、花粉化石群集ではイネ科・カヤツリグサ科・サナエタデ節－ウナギツカミ節・ゴキヅル属・ヨモギ属などがわずかに認められる程度であるが、種実遺体群集では産状に変化が認められる。V-9層・V-7層・V-2層ではミクリ属が多いのに対し、V-1層ではホタルイ近似種やホタルイ類が多産し、サンカクイ類やコウホネ属・ヒツジグサ・サジオモダカ属などもみられるようになる。したがって、V-1層が堆積した当時は、水生植物群落に大きな変化が生じたと推定される。珪藻分析の結果を考慮すると、水域が拡大し、点在する好気的な場所が減少し、水深のある安定した湿地へと変化したことを反映するものと考えられる。

IV層

IVb層・IVa層になると、花粉化石群集では草本類の割合が高くなり、イネ科・カヤツリグサ科が多く、アリ

ノトウグサ属などを伴う。また、植物珪酸体群集では、IVb層やIVa層でクマザサ属を含むタケ亜科が認められる。日本海側の多雪地域に広く分布するブナを主体とした落葉広葉樹林の林床では、クマザサ属のチシマザサが生育する〔宮脇編著 1985〕。チシマザサは林床に生育するだけでなく、森林が失われた空間に侵入し、ササ群落をつくることもある。このことから、検出されたクマザサ属を含むイネ科・カヤツリグサ科・アリノトウ属などは、周囲の落葉広葉樹林の林床や林縁、低地沿いの草地などに由来すると考えられる。

一方、種実遺体群集は水生植物を主体とする組成であり、植物珪酸体群集でも湿潤な場所に生育するヨシ属が確認される。両層の群集組成を子細に見ると、IVb層の種実遺体群集はV-1層の組成と類似し、ホタルイ近似種やホタルイ類が多いのに対して、IVa層ではサンカクイ類が極めて多くなる。草本花粉でも、IVb層ではサジオモダカ属・オモダカ属・コウホネ属・ヒシ属などの水生草本が多く、水生藻類のクンショウモ属も確認される。よって、低地では上位層に向けて水深が増加し、池沼のような水域環境になったことが推定される。

Ⅲ層

中世とされるⅢb層でも、種実遺体群集の木本類はクマノミズキとエゴノキのみであり、圧倒的に水生草本を主体とする組成である。よって、Ⅲb層堆積時にも水生植物が繁茂する池沼のような水域環境が続いていたことが推定される。ただし、草本類ではミツガシワとイヌホタルイ近似種が優占する点で、IVa層の組成と異なることから水生植物に変化があったと考えられるが、基本的には池沼のような水域である点で共通している。

4) 低地の土地利用状況

IVb層やIVa層からは、栽培種であるイネ属の花粉や植物珪酸体が検出された。しかし、イネ科花粉中のイネ属の割合はIVb層で10%、IVa層で15%程度であり、堆積物1gあたりの植物珪酸体含有量（機動細胞由来）も、IVb層で100個未満、IVa層で100個程度であった。両層からイネ属に由来する花粉・植物珪酸体が検出されたことから、IV層が形成された頃、調査地点の集水域で稲作が行われたことが示唆される。

ところで、水田跡の判断基準としては、イネ科花粉中におけるイネ属の割合が30%以上〔中村 1980〕、イネの植物珪酸体（機動細胞由来）が試料1g当り5,000個以上〔杉山 2000〕などが知られている。これらと比較すると、今回の結果はいずれも低い値であり、調査地点付近で稲作が行われた可能性は低いと判断される。

その他の植物利用としては、Ⅶ層からオニグルミヤクリ・トチの炭化した核や種子も出土した。これらの堅果類は、堆積当時に利用された植物質食料の一部であり、食用後の残渣を燃料とするなどにより炭化したことが示唆される。また、V-2層より小粒の雑草メロン型と、V-2層およびⅢb層から栽培された可能性もあるシソーイヌコウジュ属が確認される。これらは、当時の利用植物の一部であった可能性もある。

第4節 炭化材の樹種同定

A 試料

1区の掘立柱建物と焼土坑から出土した15点で同定を行った。内訳は、掘立柱建物SB516・621の柱穴覆土から出土した各1点、焼土坑FP2の1点、・FP9の3点、・FP333の1点・FP365の7点、FP376の1点である。

B 結果

樹種同定結果を第11表・第27図に示す。炭化材は、広葉樹8分類群に同定された。なお、No.2は微細片で量が少なく、実体顕微鏡観察では広葉樹であることは確認できたが、種類までは同定できなかった。No.11は広葉樹の節部分のみであり、道管が認められることから広葉樹であることは確認できたが、道管の特徴が観察できないために種類は不明である。同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

クマシデ属イヌシデ節 (*Carpinus* subgen. *Eucarpinus*)

カバノキ科

散孔材で、道管は単独または2-4個が放射状に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列状～交互状に配列する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-40細胞高のものとの集合放射組織がある。

コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*)

ブナ科

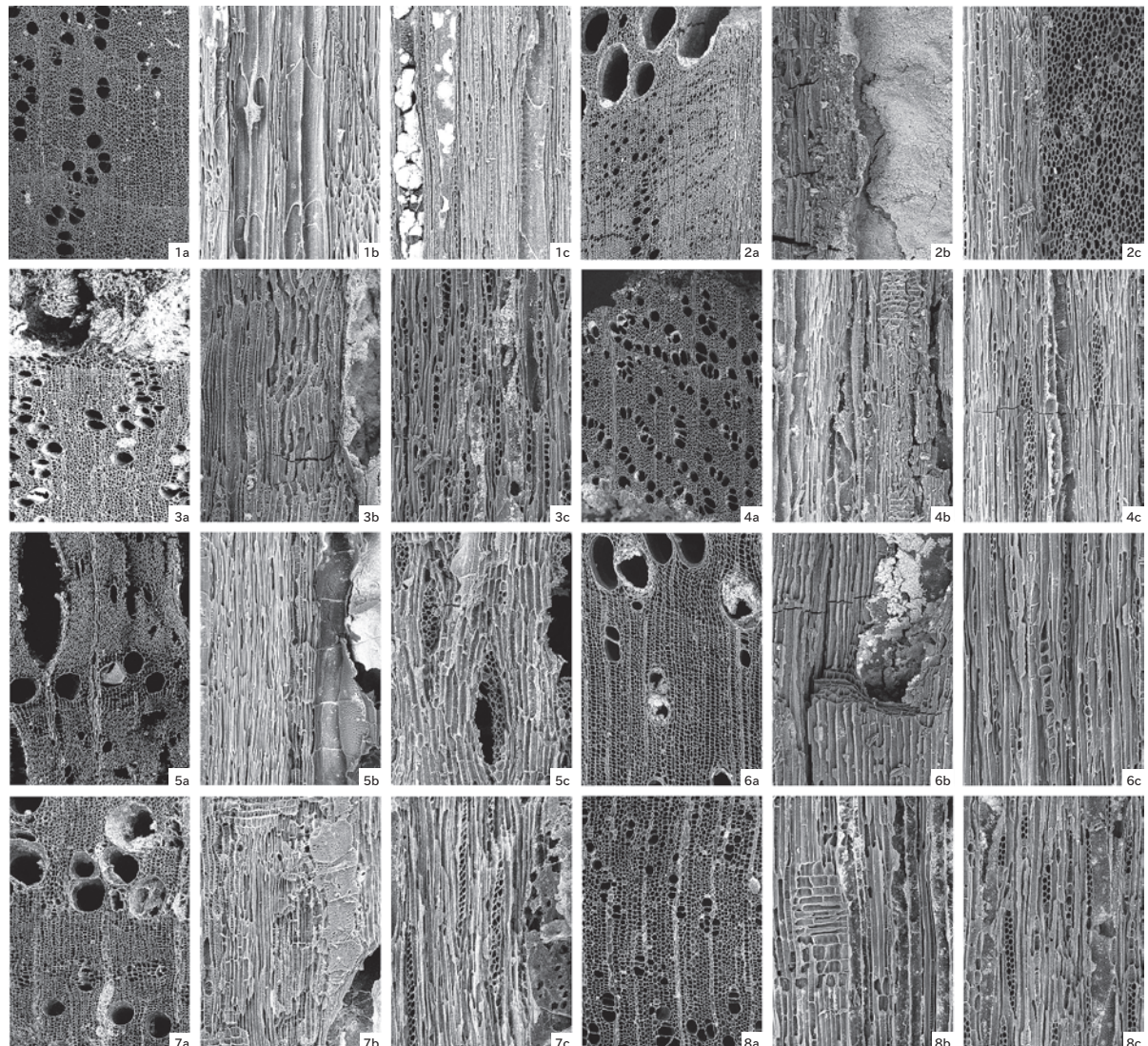
環孔材で、孔圏部は1-3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものとの複合放射組織がある。

クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc) ブナ科クリ

環孔材で、孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞。

第11表 樹種同定結果

番号	地区	遺構	層位	形状	種類
No.1	1区	P463 (SB621)	1層	芯持丸木 (直径2.4cm)	クマシデ属イヌシデ節
No.2	1区	P481 (SB516)	1層	微細片	広葉樹
No.3	1区	FP9 (焼土遺構)	2層	破片	エゴノキ属
No.4	1区	FP365 (焼土遺構)	9層	破片	サクラ属
No.5	1区	FP2 (焼土遺構)	3層	破片	キハダ
No.6	1区	FP9 (焼土遺構)	2層	破片	クリ
No.7	1区	FP9 (焼土遺構)	2層	破片	クリ
No.8	1区	FP333 (焼土遺構)	1層	破片	クリ
No.9	1区	FP365 (焼土遺構)	4層	破片	イヌエンジュ属
No.10	1区	FP365 (焼土遺構)	4層	破片	コナラ属コナラ亜属コナラ節
No.11	1区	FP365 (焼土遺構)	4層	破片	広葉樹 (節)
No.12	1区	FP365 (焼土遺構)	9層	破片	クリ
No.13	1区	FP365 (焼土遺構)	9層	破片	アカメガシワ
No.14	1区	FP365 (焼土遺構)	9層	破片	クリ
No.15	1区	FP376 (焼土遺構)	5層	破片	クリ



1. クマシデ属イヌシデ節 (No.1) 4. サクラ属 (No.4) 7. キハダ (No.5)
 2. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (No.10) 5. イヌエンジュ属 (No.9) 8. エゴノキ属 (No.3)
 3. クリ (No.15) 6. アカメガシワ (No.13)

a: 木口, b: 柎目, c: 板目
 100μm: a
 100μm: b, c

第27図 炭化材顕微鏡写真

サクラ属 (*Prunus*) バラ科

散孔材で、管壁厚は中庸、横断面では角張った楕円形、単独または2-6個が複合、年輪界に向かって管径を漸減させながら散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、単列、1-3細胞幅、1-30細胞高。

イヌエンジュ属 (*Maackia*) マメ科

環孔材で、孔圏部は1-3列、孔圏外でやや径を減じた後、多数の道管が集まって接続方向・斜方向に複合し、木口面で帯状の模様をつくる。道管は単穿孔を有している。小道管は階段状に配列し、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性~同性、1-5細胞幅、1-50細胞高。

アカメガシワ (*Mallotus japonicus* (Tunb.) Mueller-Arg) トウダイグサ科アカメガシワ属

環孔材で、孔圏部は1-5列、孔圏外への移行は緩やかで、小道管は漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は単列異性、1-30細胞高。

キハダ (*Pfelloidendron amurense* Ruprecht) ミカン科キハダ属

環孔材で、孔圏部は3-5列、孔圏外でやや急激に径を減じたのち塊状に複合して接線・斜方向に紋様状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-5細胞幅、1-40細胞高。

エゴノキ属 (*Styrax*) エゴノキ科

散孔材で、横断面では楕円形、単独または2-4個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-20細胞高。

C 考 察

各遺構から出土した炭化材は、合計8種類が認められた。全て落葉広葉樹であり、二次林を構成する種類が多い。木材の材質を見ると、イヌシデ節・コナラ節・クリ・サクラ属・イヌエンジュ属・エゴノキ属は、重硬で強度が強い。一方、キハダとアカメガシワは、比較的軟質で強度は低い。

同定された樹種を遺構別にみると、掘立柱建物ではSB621がイヌシデ節、焼土坑では、FP2がキハダ、FP9がエゴノキ属とクリ、FP333がクリ、FP365がサクラ属・コナラ節・クリ・アカメガシワ、FP376がクリである。複数資料について同定を実施した遺構では、構成種が複数種類になり、全体的にクリの利用が多い傾向にある。また、材質面で見ると、強度の高い木材が多い一方で、軽軟なキハダやアカメガシワも利用されている。木材の強度は燃焼性にも関係しており、一般に強度の高い木材は火付きは悪いが火持ちが良く、軽軟な木材は火付きが良いが火持ちが悪い。樹種が雑多になる傾向が見られることから、材質に関係なく、周囲で入手できる様々な木材を利用している可能性がある。

第5節 畠土壌の植物珪酸体分析

A 試 料

7K区のⅢ層で確認された畝跡の構成層が試料番号1、畝間の堆積物が試料番号2、畝間下粘質部のⅣ層が試料番号3で、分析試料は3点である。

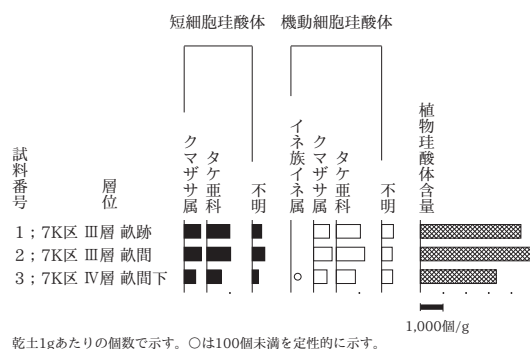
B 結 果

第12表に植物珪酸体含量の一覧表を示す。その際100個/g未満は「<100」で表示する。各分類群の含量は、10の位で丸め(100単位にする)、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。また、各分類群の植物珪酸体含量を第12表、第28図に示す。

第12表 1区畠跡の植物珪酸体含量 (個/g)

分類群	1		2		3	
	畠跡	Ⅲ層	畠間	Ⅲ層	畠間下	Ⅳ層
イネ科葉部短細胞珪酸体						
クマザサ属	700		800			500
タケ亜科	1,000		1,000			600
不明	400		600			300
イネ科葉身機動細胞珪酸体						
イネ族イネ属	-		-			<100
クマザサ属	700		800			600
タケ亜科	1,100		1,300			800
不明	500		500			500
合計						
イネ科葉部短細胞珪酸体	2,200		2,400			1,400
イネ科葉身機動細胞珪酸体	2,300		2,500			1,900
植物珪酸体含量	4,500		4,900			3,300

含量は、10の位で丸めている(100単位にする)
合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている
<100:100個/g未満



第28図 1区畠跡の植物珪酸体含量

各試料からは植物珪酸体が検出されるものの保存状態が悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。植物珪酸体含量は各試料で概して少なく、試料番号3が約3,300個/gと最も少なく、試料番号2が約4,900個/g、試料番号1が約4,500個/gである。

栽培植物は、試料番号3でイネ属の機動細胞珪酸体が産出する。ただしその量は少なく、100個体/g未満である。また、各試料の産状は同様であり、クマザサ属を含むタケ亜科の産出が目立つ。

C 考 察

7K区の畠跡では、Ⅲ層の畠跡や畠間から栽培植物が全く認められなかったものの、Ⅳ層の畠間下粘質部からイネ属の機動細胞珪酸体がわずかに産出した。これより調査地点周辺で稲作が行われたことや、肥料や資材として稲藁などが利用されたことが考えられる。なお、その産状を考慮すれば、稲作が行われた場合、耕作期間が短かったことや生産量が低かったものと考えられる。また、稲藁はコメの収穫後に容易に入手でき、敷藁などの農業資材のほか、燃料材や住居構築材などの生活資材として利用することができる。

ところで、キビ類やムギ類などのイネ科作物に由来する植物珪酸体は検出されず、これらのイネ科作物が栽培された可能性は低い。なお、ソバやマメ類・アブラナ科などの野菜は体内に特徴的な植物珪酸体を形成しないために、植物珪酸体分析では栽培の痕跡が見つけれない。そのため、イネ科以外の作物が栽培された可能性は否定できない。また、植物珪酸体の含量が概して少なかったが、土層中に植物珪酸体を取り込まれにくく、耕作期間が短かったのかもしれない。

今回調査対象とした土壌試料では、クマザサ属とタケ亜科の産出が目立った。日本海側の多雪地帯において、ブナ林の林床はチシマザサ(クマザサ属)が発達する〔宮脇編著1985〕。チシマザサは林床に生育するだけでなく、森林が失われた空間に侵入し、ササ群落を作ることがある。このことから、検出されたクマザサ属は、ブナ林に生育していたものや山地に点在するササ群落などに由来すると考えられる。

第Ⅶ章 総 括

第 1 節 丘陵上の古代遺跡

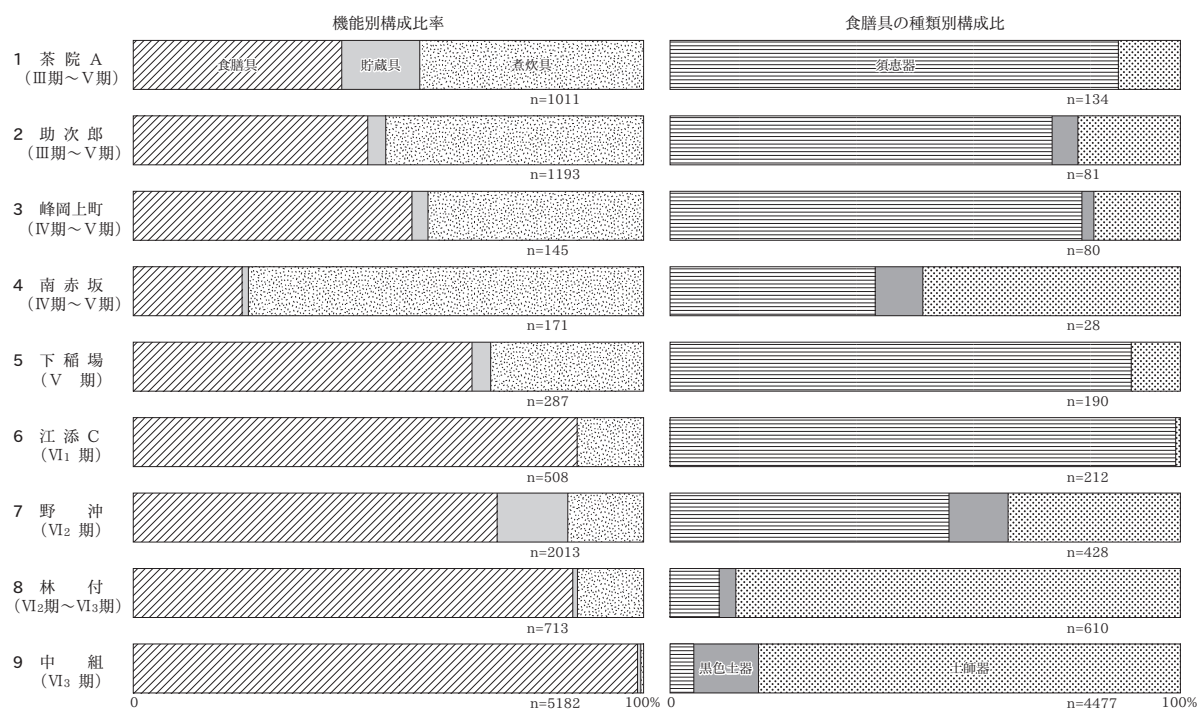
2013年に行った峰岡上町遺跡の調査において、丘陵上に営まれた古代集落の存在が明らかになった。調査地は丘陵上の1区 1,734m²と東部低地に設けた2区 441m²からなる。2区については遺物包含層上面までの掘り下げにとどまるため、調査が終了した1区のあり方をもとに本集落が意味するところを考える。

1区出土の土器は、口縁部遺存資料で162個体を数える。春日真実の編年〔春日2000〕に基づけば、Ⅲ期からⅥ期までの間に位置づけられる。遺構に伴う良好な一括資料に欠けるが、これによって本地区でのおおよその遺跡形成過程を知ることができる。Ⅲ期（8世紀前半）は土師器ハケ甕の一部が該当し、これに若干の東北系土器が伴う。カマドの芯材として使用された円筒形土製品も本段階の資料とみられる。Ⅳ期（8世紀後半～9世紀初頭）に入り土器の出土量は増加する。非ロクロ成形による土師器ハケ甕の主要部分や黒色土器に加え、角田山麓を中心とした越後平野周辺産須恵器が本段階の資料である。Ⅴ期（9世紀前半）も本地区の主要形成時期にあたり、ロクロ成形土師器の主要資料や西古志甕・黒色土器・佐渡小泊産須恵器などから構成される。Ⅵ期（9世紀後半）になると出土量は大きく減少し、土師器の椀・鍋、小泊産須恵器が少量確認できる程度となる。

土器の分布状況には時期的な異なりがみられる。Ⅲ期とⅣ期では西部緩斜面や西部窪地に中心がある。Ⅴ期になると主たる分布域が西部窪地や東部尾根に移り、東部尾根下の2区で多量の土器が包含されるもようである。西約100mの丘陵下に位置するヤチ遺跡では、Ⅱ～Ⅲ期の土器が採集されている〔山口1994a〕。本遺跡とヤチ遺跡は形成期間の上で連続しており、次第に中心を東へ移しながら存続する一連の遺跡とみることできる。

峰岡上町遺跡中心半径10km圏内に分布する古代Ⅲ期～Ⅵ期遺跡の土器組成を第29図に示す。本遺跡1区から出土した土器には、土師器・黒色土器・須恵器の焼成不良品が含まれる。遺跡内での土器製作を示唆する資料であるが、未使用の可能性が高いため集計から除外した。これに基づく1区の土器構成割合は、食膳具55%、貯蔵具3%、煮炊具42%と算出される。食膳具では須恵器の占有率が高く、80%あまりの数値を示す。周辺エリアの土器組成では、Ⅴ期（9世紀前半）を境に食膳具の割合が高まり、Ⅵ期（9世紀後半）に入ると食膳具における土師器椀の占有率が急激に上昇する。周辺部におけるこうした動きの中で、本地区の数値は整合性をもったあり方を示しており、この遺跡に備わる一般的な集落としての性格をうかがわせる。

1区で確認された主要な遺構は、3棟の掘立柱建物と6基の焼土坑、1,417条にのぼる畝状遺構である。掘立柱建物は東部尾根の頂部に位置する1棟と頂部下の緩斜面に重複する2棟からなる。角田山麓に分布する丘陵上の古代遺跡としては初の確認例となるものである。¹⁴C年代測定値や出土土器のあり方に基づけば、3棟の建物は8世紀後半から9世紀前半に属し、SB622・SB516・SB621の順に機能したと推定できる。これらはいずれも律令社会の指標とされる「梁間2間型」の構造をもつ。3棟の柱穴覆土では柱痕が遺存しており、直径20cm前後の柱を使用したことがうかがえる。焼土坑は西部緩斜面と東部尾根に点在する。被熱面をもち、多量の木炭を伴う遺構である。形態は一様でなく、円形をなして皿状に窪む1類、楕円形の平面形をもち深く掘り込む2類、方形を呈し概して浅い掘り込みの3類に分けられる。このうち2類は8世紀末～9世紀初頭と推定でき、1類・3類の中には8世紀後半～9世紀前半と推定できるものがある。各遺構の性格は明確でないが、炊事施設・簡易炭窯・土器焼成遺構との関連性から検討する必要がある。SB621の柱穴P463から出土した丸木炭化材（第17図2）は、形状からみて製炭材と考えることもできよう。畝状遺構は1区の全域にわたり分布する。形状などから畠跡と判断でき、本遺跡の経済基盤を考えるうえで重要な遺構となる。次節でそのあり方を検討する。



第29図 峰岡上町遺跡と周辺遺跡の土器組成

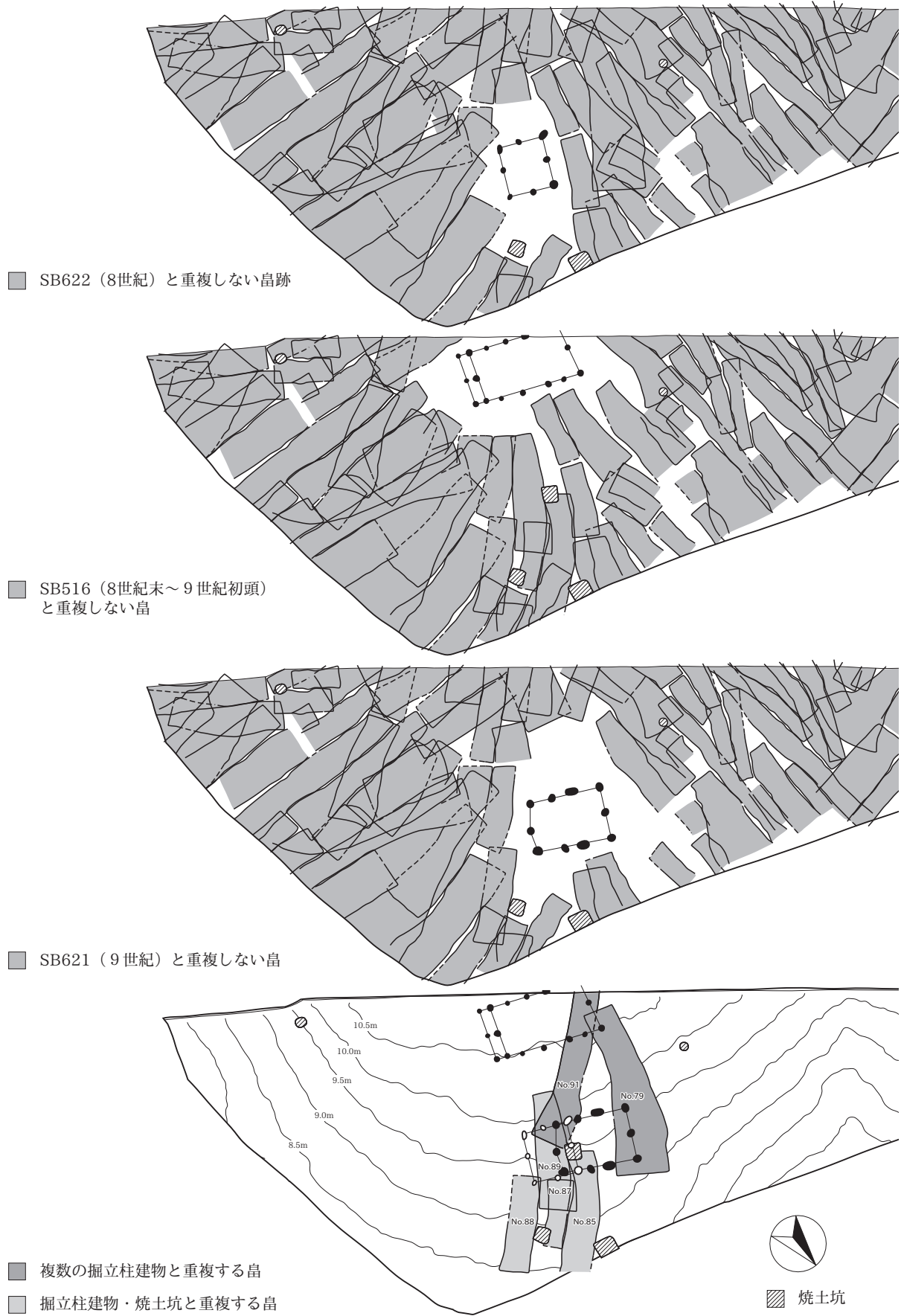
生産用具としては、網漁に関わる太型管状土錘が4点出土した。本遺跡の形成当時、周囲に沼地が存在したことが丘陵下の2区で行った自然科学分析によって明らかになっている。近隣の御井戸A遺跡では縄文時代晩期地区からサケ・イトヨ・コイ科、古墳時代の御井戸B遺跡ではサケの椎骨が出土しており〔前山・相田2004〕、本遺跡での利用魚種を考える上で参考になる。1区からは、鍛冶関連遺物として羽口4点と鉄滓1,180gが出土した。角田山麓では、伏部道下遺跡で平安時代の炉壁が採集されており、本遺跡居住集団が製鉄に関与した可能性もある。石製品で注目されるのは、製作半ばの有溝石錘と権状錘である。前者は安山岩、後者は流紋岩を石材とする。ともに角田山の周辺で入手できるものである。有溝石錘は、角田山北東麓の砂丘地に立地する下稲場遺跡〔小野・山口1994〕や同一砂丘列上の四十石遺跡〔渡邊2012〕・緒立C遺跡〔渡邊1994〕・的場遺跡〔藤塚1993〕などから出土し、内水面漁業に関わる遺物と考えられている。権状錘は拠点的な機能をもった集落から出土するケースが多く、越後平野の周辺から十数点が確認されている〔相田2012〕。本遺跡からえられた両者の未成品は越後平野周辺で初の出土例となり、石材利用に適した丘陵上の集落の特性を表わしている。

以上列記してきたように、本次調査で明らかになった古代の峰岡上町遺跡は、居住と生産機能を兼ね備えた丘陵上の集落とみなされる。越後平野の周辺では、古代に入り遺跡分布の中心が沖積地に移る。こうした現象については、稲作農業の進展に伴い耕地が低地に拡大し、それまで主要な居住空間として機能してきた丘陵地帯が生産の場に変化する、という認識がもたれていた。峰岡上町遺跡でえられた本次調査での知見は従来の図式と異なるもので、丘陵地帯に分布する古代遺跡の位置づけに再検討を促す事例となる。角田山を区域内に含む新潟市西蒲区には、現在88箇所の古代遺跡が確認されている。遺跡の分布は区内全域におよび、沖積低地・丘陵地帯・内陸砂丘地・海浜地帯といった多彩な立地を見せる(第6図)。丘陵上の遺跡は20箇所を数え、その割合は23%にのぼる。丘陵地帯は洪水のリスクを回避できる利点がある。本遺跡が立地する峰岡丘陵は、角田山東麓の丘陵地帯の中で沖積地との高低差が最も少ない。なだらかな地形が広範囲にわたって展開する点においても集落立地に適した好条件を備える。周囲に目を移すと、同一丘陵上の豊原遺跡〔前山・山口1986〕や近隣の台地上に立地する御井戸B遺跡も良好な居住環境をもつ。御井戸B遺跡では円面硯が出土しており〔前山・相田2004〕、本遺跡とともに拠点的な機能をもった集落跡として評価する必要がある。古代の角田山周辺では、多様な環境を背景に様々な営みがなされていた。丘陵地帯・沖積地・砂丘地・海辺の遺跡は、互いに連携をとりながら一つの地域社会を形成したと考えられる。これに関連して提起されることがらを第2節～4節で考える。

第2節 古代の畝跡

1区の全域から1,417条にのぼる畝状遺構を確認した。いずれも色調によって識別できず、IV層(基盤)上面に残る「しまりをもった粘質土」を両刃鎌で薄く削りながら見出す作業をつうじ把握したものである。こうした手法に基づく古代・中世遺構の探査は、新潟市秋葉区大沢谷内遺跡で2008年に行った縄文時代集落の調査で会得した調査法を応用したもので、2010年に同遺跡西部地区で見出した畝状遺構〔前山2012〕を初例とする。この調査では、視覚的に把握できた畝状遺構が10条存在したが、粘質部の存在から確認した箇所が69条(87%)にのぼった。2012年に行った秋葉区細池寺道上遺跡の調査では、同様の手法によって2,900条あまりの畝状遺構が調査区全域(4,715m²)から確認され、中世の水田跡とセットをなして分布することも明らかになった〔前山2013〕。二遺跡は沖積地に立地する。本次調査はこれに続くもので、土質を異にした丘陵部では初の確認例となる。

この種の遺構は視覚的な識別が困難なことから第三者による検証が必ずしも容易でなく、存在自体の妥当性を明確にしておく必要がある。粘質土は20cm程度の均一な幅をもつ。長さ数メートルにわたる狭長な範囲を最小単位とし、30～50cmほどの近似した間隔をとりながら連続的に並ぶ点が大きな特徴である。条の走行は傾斜地の場合等高線と概ね平行するが、平坦地ではランダムな方位をとり、複雑に交錯する傾向にある。調査区壁面での観察によれば、粘質土はIV層上面から10cm程度ほどの厚さを持ち、断面形は緩やかなU字状をなして



第30図 掘立柱建物・焼土坑（斜線）と畠跡の分布

いた。1区の南西部では隣接区域が現在野菜畠として利用され、その横断面を調査区南壁で観察することができた(図版32、写真図版20)。現代の畠は畝と畝間で土質が異なり、畝間の下部に粘質土が形成されていた。畝間に雨水が溜まり湿性を帯びるとともに、農作業の過程で加圧されることが「しまりをもった粘質土」の生成理由と考えられる。ちなみに、仙台市域の古代の畠跡を検討した佐藤甲二は、畝間痕と耕作痕の比較を行い、「小溝状遺構」を耕作痕であると結論づけた〔佐藤2000〕。しかし粘質土の存在については言及されておらず、本遺跡の畝状遺構との対応関係は明らかでない。ここでは調査区壁面で確認した現代の畠との類似性を重視し、しまりをもった粘質部を「畝間痕」と位置づけておきたい。

第IV章では、走行や長さに連続性が見られる複数の畝間痕を一単位の畠とみなし、その形状を第13図のように区分した。主体を占めるのは短冊形をなすI類で、撥形を呈するII類がこれに次いで多い。III類～V類は斜面の傾斜に沿って弧を描くものである。5種に大別した畠は、畝間の長さに異なりがある。1.5m未満のA種、1.5m以上2.0m未満のB種、2.0m以上3.0m未満のC種、3.0m以上のD種に区分すると、I類・II類の最大畝間長はB種やC種に集中するが、III類～V類はすべてがD種に該当する。規模の違いは畝間間隔にも現れており、前者が30cm前後に集中するのに対し、後者は50cm以上に及ぶ例もみられる。

第IV章では、畠の方位に空間的なまとまりが見出せることから、8群にわたる区分を試みた。各群には大形のIII類～V類が1～2箇所ずつ存在する。畝間長を見ると、西部に位置するB・C・D群では平均的な長さをもったB種が大半を占め、東部尾根のE・F・G・H群ではC種の割合が高い傾向にある。それぞれの占有スペースと畠の規模にも関連が見られるようで、最大面積を有するF群では巨大なIII類(No.100)が存在する。ここに述べたことから、各群が有意な空間単位を示す可能性を強く示唆しており、当時の地割や耕作者間による畠のスペースデザインの違いを反映している、と解釈することもできる。

畝間痕の探査は、通常の遺構調査を終えた後行った。そのため、掘立柱建物や焼土坑との切り合い関係を明らかにすることはできなかつたが、両者と重複する畠があるところから、互いの分布関係をもとに所属時期を考察することができる。掘立柱建物と畠の重複パターンは5通りにわたる。これを列記すれば、①丘陵頂部平坦面のSB516と重複する9箇所(No.73・127・128・130・131・132・135・137・138)、②緩斜面のSB621と重複する6箇所(No.75・76・78・82～84)、③SB622と重複する3箇所(No.87・88・90)、④SB621・622の2棟と重複する2箇所(No.85・89)、⑤3棟すべてと重複する2箇所(No.79・91)となる。このうち①と②～④は分布域が異なり、①・④の重複例は見られない。各段階で想定できる建物・畠の位置関係と建物・焼土坑と重複する畠の広がり第30図に示した。掘立柱建物・焼土坑と重複する畠は4箇所(No.85・87～89)ある。これらは③・④と同一の畠を含み、①・②と重なることはない。以上のような関係に基づけば、SB516と621・622は存続時期が異なり、一方の空間に建物や焼土坑が存在した期間において、もう一方の空間が畠として利用されていたケースが想定できる。こうした見方は建物跡の変遷過程とも矛盾しておらず、畠跡との共存関係を示す根拠となる。一方、3棟の建物と重なる畠⑤は、建物と前後する期間に畠が存在したことを意味しており、古代集落が機能した期間をつうじ、畠作が行われた可能性を示唆する。

本次調査で確認された畠跡の位置づけに関連し、低地の2区から重要な知見がえられた。同地区で確認された大規模な埋没谷は、V層が堆積する過程で次第に埋積化する。そして、古代の遺物包含層下にあたるV層上部(7世紀終末)において水深の深い沼沢地に変貌したことが判明している。1区直下の低地では近代まで「深田」が広がり、稲作に不向きな低湿地をなしていた。1区全域を埋めつくした畠の存在はそうした環境を背景としたことが確実で、畠作や水辺資源の利用によって成り立つ丘陵上の古代集落の姿を明示する。ちなみに、2区のIV層ではイネのプラントオパールが少量ながら検出されている。谷頭などの限られた範囲で稲作が行われていたことも考えられ、2区南部での水田探査が今後の課題となる。

新潟県内における古代・中世の畠跡については、可視的な遺構の集成をつうじて普遍的な存在が明らかになりつつある〔細井2014〕。しかし、視覚的に把握できる畠の広がり土壌条件によって大きく左右される部分が多

く、古代・中世の畠の実態を必ずしも正しく反映しているわけではない。細池寺道上遺跡や本遺跡の遺構空白地帯から姿を現わした畠は、調査地のそれまでの景観を一変させた。粘質部の探査をつうじて把握できる畠は、何らかの期間にわたり固定的に利用された畠地の広がりやを明らかにできる利点があり、従来認識されてきた畠に比べ広大な広がりをもつ点に特徴がある。この種の畠に認める複雑な切り合いは、そうした状況を端的に物語る。本遺跡で確認された畠跡には細池寺道上遺跡との類似点が多く、両遺跡に存在するⅢ類は可視的な畠で確認できなかった形状である。古代・中世の畠は、「目に見えない畠」を含めた調査をつうじて理解が深まることになろう。不可視な畠跡に対して共通認識がもたれ、類例の検討が広く行われることを期待したい。

第3節 古代の樹木利用

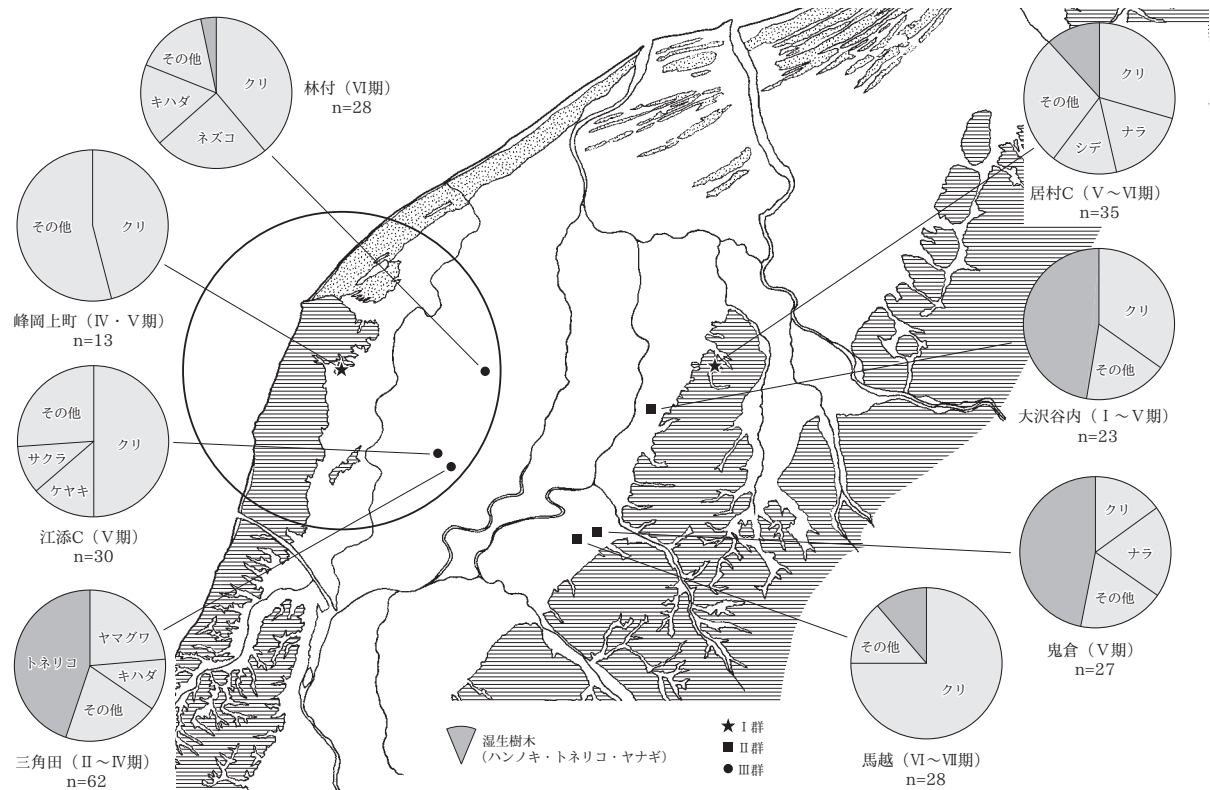
丘陵上に立地する古代集落の樹木利用を検討するため、5基の焼土坑と2棟の掘立柱建物の柱穴から出土した炭化材で樹種同定を行った。¹⁴C年代測定値や共伴土器に基づけば、8世紀半ばから9世紀前半にかけての樹木とみなされる。15点の分析試料はいずれも落葉広葉樹で、このうち13点について種が特定できた。内訳はクリ6点、コナラ・アカメガシワ・サクラ・エゴノキ・キハダ・イヌシデ・イヌエンジュ各1点である。全体に二次林を構成する樹種が多く、周囲で入手できる樹木を利用していたことがうかがえる内容と言える。

近年、越後平野周辺に分布する古代・中世の低地遺跡で柱や杭の出土例が増加している。春日真実(2007)年までに報告された掘立柱建物の利用樹種を検討し、古墳時代から中世に至る柱材にクリとスギが次第に増加する事実を明らかにした(春日2008)。峰岡上町遺跡で今回行った樹種同定は燃料材を対象とするため、柱材とのダイレクトな比較は適切でないが、クリが多用される点において春日の指摘と調和的であり、こうした現象が意味するところを木材利用環境という観点から検討する。以下では、越後平野南部周辺の縄文時代～古代遺跡を次のように区分する。Ⅰ群は間近で材の入手が可能な丘陵部もしくは丘陵直下の遺跡、Ⅱ群は丘陵から2km以内に位置する沖積低地の遺跡、Ⅲ群は平野中央部の遺跡である。第31図に示す円グラフでは、沖積地に生育する湿生樹木とそれ以外の樹木に二分し、出現率のうえで10%以上の占有率を示す後者の樹種を示した。

Ⅰ群遺跡の樹木利用については、角田山麓から良好な情報がえられている。本遺跡と同一台地上に位置する豊原遺跡の縄文時代中期初頭層準(小林・藤田1988)や近隣の御井戸A遺跡後期中葉地区(パリノ・サーヴェイ2003)、同遺跡晩期後葉地区(前山1996)では、クリ属花粉が多産し、御井戸A遺跡の晩期地区から出土した木柱群は、90%以上がクリ材を使用していた(前山・相田2003)。東に隣接する御井戸B遺跡では、古墳時代の層準でもクリ属花粉が多産した(パリノ・サーヴェイ2004)。本遺跡における炭化材の樹種は、ここに列記した各時代の植生環境と類似しており、縄文時代に形成された二次林が古代にも受け継がれていたことをうかがわせる。

新津丘陵では、古津八幡山遺跡の直下で縄文時代の層準からクリやトチの花粉が多産し(火山灰考古学研究所2014)、二次林の形成がその頃まで遡る可能性を示唆する。古墳時代中期の舟戸遺跡では、竪穴住居の柱にクリが多用されていた(川上1995)。丘陵上に立地する古代遺跡の樹木利用については、製鉄・製炭遺構が確認された居村遺跡群での炭化材の樹種同定(三城・白井・市川1998)から大要が理解できる。第31図では、同定試料数が最も多い居村C遺跡(古代Ⅴ期～Ⅵ期)でのあり方(三城・白井・市川1998)を示した。確認された樹種は湿生樹木1種と丘陵産樹木8種からなり、後者の割合は89%にのぼる。クリ(29%)を主体としながら多種にわたる樹木を利用する点で本遺跡と共通した特徴があり、越後平野周辺の丘陵地帯一帯に類似環境が展開していたようである。

Ⅱ群遺跡は、新津丘陵西麓に分布する5遺跡で縄文時代晩期から平安時代に至る樹木利用の変遷が明らかになっている。縄文時代晩期の新潟市秋葉区大沢谷内北遺跡では、ハンノキを主体とした花粉構成が確認され、周辺に生育するハンノキとトネリコを杭として使用していた(パリノ・サーヴェイ2010)。古墳時代前期の三条市古津川遺跡でも湿生樹木のヤナギが多用される(パリノ・サーヴェイ2008)。古代に入ると、湿性樹木は減少する。



第 31 図 越後平野南部における古代遺跡の利用樹木 (円は峰岡上町遺跡中心半径 10km)

古代Ⅰ期～Ⅴ期の大沢谷内遺跡〔火山灰研究所 2012〕・Ⅳ期～Ⅴ期の加茂市馬越遺跡〔パリノ・サーヴェイ 2005〕・Ⅴ期の同市鬼倉遺跡〔パリノ・サーヴェイ 2001〕では、湿生樹木の割合が 50% 前後にとどまる。古代Ⅵ期の馬越遺跡では、湿性樹木の割合がさらに低下し、クリが 75% もの高率を示すに至る。このうち大沢谷内遺跡では埋没谷の飛鳥時代層準からハンノキ・コナラ・トチノキの花粉が多産しているが、クリ属花粉の出現率は低率にとどまる〔火山灰研究所 2012〕。

Ⅲ群遺跡は、本遺跡中心半径 10km 圏内に分布する燕市三角田遺跡（古代Ⅱ～Ⅲ期）・同市（旧吉田町）江添 C 遺跡（Ⅴ期）・新潟市西蒲区林付遺跡（Ⅵ期）で柱材の樹種が判明している。形成時期が最も古い三角田遺跡ではトネリコなどの湿生樹木が 40% 台を示し、新津丘陵西麓に分布するⅠ期～Ⅴ期のⅡ群遺跡と似た状況をみせる。現地産と考えにくい樹木の中ではキハダが高い占有率を示しているが、クリが欠落する点も特徴的である〔パリノ・サーヴェイ株式会社 2001〕。これに対し、Ⅴ期の江添 C 遺跡では湿性樹木が欠落するとともに、クリが半数を占める状況となる〔パリノ・サーヴェイ株式会社 2000〕。似た状況はⅥ期の林付遺跡にも見られ、クリを主体としながらネズコやキハダなども利用する〔火山灰考古学研究所 2012〕。江添 C 遺跡に隣接する同 E 遺跡〔吉川 2003〕や林付遺跡〔早田 2012〕では、湿性樹木主体の花粉が検出されている。

以上のように、角田山麓や新津丘陵では縄文時代の段階から二次林が形成され、古代に至るまで同様の樹木利用環境が維持されてきたようである。一方、沖積地に立地するⅡ群遺跡やⅢ群遺跡では、古代に入り湿性樹木の利用率が低下し、旧西蒲原郡域の遺跡ではⅤ期、新津丘陵西麓ではⅥ期を境にクリが卓越するようになる。この期間をつうじ、沖積地の植生環境に有意な変化は確認されておらず、湿性樹木と補完関係をなしたクリなどが丘陵部から供給された可能性は高い。こうした現象は丘陵地帯での二次林の存続を前提としており、Ⅰ群遺跡がこれに関与したことは確実である。旧西蒲原郡域の低地では、丘陵部と類似した樹種組成を示す遺跡がⅤ期になって現われる。この段階は本遺跡 1 区の主要形成時期にあるとともに、大量の佐渡小泊産須恵器が内水面を経由して流通する時期でもある。沖積地の遺跡に認める現地産樹木の利用率低下とクリの多用化は、流通機構の整備を背景に進行した可能性が高く、山林資源の供給地として機能した丘陵上の集落の重要な役割を想起させる。

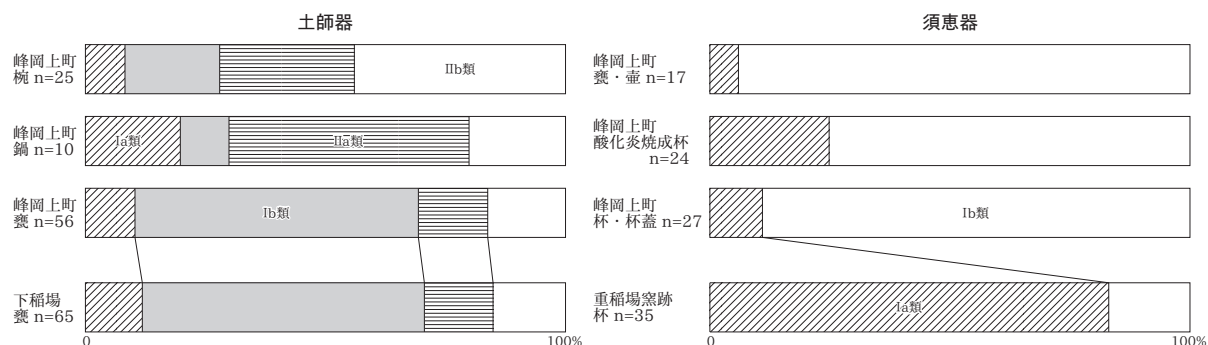
第4節 胎土からみた古代の土器と土製品

本遺跡1区からⅣ期～Ⅴ期に属す土師器・黒色土器・須恵器の焼成不良品が出土した。これらは西部窪地を中心に分布し、東部尾根の焼土廃棄遺構SX377からも2個体の焼成不良須恵器が確認された。いずれも未使用の状態での廃棄された資料とみられ、本遺跡の主要形成期間をつうじ集落内や近辺で土器製作が行われたことをうかがわせる。本節では、角田山麓産と推定できる須恵器と土師器・土製品の含有物を検討し、提起されることがらを指摘する。

在地産とみなした須恵器や土師器の胎土には、石英・長石・角閃石などの鉱物、チャート・玉髓などの珪質岩石、頁岩などの硬質岩石、泥岩などの軟質岩石が含まれる。第Ⅴ章では、含有物の大きさを1mm未満の微粒子、1mm台の細粒子、2mm以上の粗粒子に別け、磨耗の有無や鉱物・岩石の含有状況から、硬質岩石の細粒子を一定量以上含む資料を土師器Ⅰ類と須恵器Ⅰa類、それらが欠落または乏しい資料を土師器Ⅱ類と須恵器Ⅰb類とした。土師器については、磨耗した石英や硬質岩石を含むⅠa類と磨耗石英を欠くⅠb類、軟質岩石の細粒子～粗粒子を含むⅡa類と欠落するⅡb類に細分した。分類別の占有率を第32図に示す。土師器の甕・鍋と須恵器の杯・蓋は口端遺存資料に基づく。資料数が乏しい土師器碗と須恵器の甕・壺・瓶類については、体部や底部の掲載資料を加えて集計した。土師器の含有物を器種別に見ると、碗ではⅡb類、鍋ではⅡa類、甕ではⅠb類が主体を占める。須恵器におけるⅠa類（細粒子含有土器）の占有率は13%にとどまる。細粒子や粗粒子に認める含有率の異なりは、それらが意図的に混ぜ合わせた混和材であることを物語る。

峰岡上町遺跡は角田山の東麓に形成された台地の一角に位置する。基盤層のⅣ層は第四紀海成層にあたり〔小林1994〕、粘土・シルト・砂が互層をなして堆積する。東部尾根に位置する大形遺構SX471の壁面には、砂層やシルト層の堆積が観察できた。壁面に露出する砂層を10cm角で採取し、水洗作業を行ったのちえられた砂粒は546gを測る。大半が直径1mmに満たない微粒子で、1mm以上の細粒子や粗粒子は6g(1%)にすぎない。後者は、石英0.3g、チャート・玉髓などの硬質岩石3.3g、灰白色を呈する軟質な泥岩やシルト岩2.3gからなる。軟質岩石の大半は磨耗しているが、硬質岩石の半数以上は破碎粒子からなり、概して磨耗度が低い点特徴である。以上のような特徴をもつⅣ層内の砂粒は土師器や酸化炎焼成須恵器に含まれる微粒子と酷似しており、本遺跡の土器含有物の主要な供給源となった可能性が高い。ただし、角田山東麓の丘陵地帯を構成する第四紀層は細粒砂や粗粒砂の含有量が総じて少なく、両者が層をなして堆積する路頭は現時点で確認できていない。土器の混和材に適した細粒砂や粗粒砂を本遺跡の周辺でえるためには、丘陵下に形成された砂溜まりを見出すか、大量の砂層を採取して何らかの方法で抽出する必要がある。SX471などの大形遺構の性格をこれに関連づけて考えた場合、粘土や混和材の入手を目的とした採掘坑の可能性も考慮する必要がある。

混和材の由来として想定されるもう一つのケースは、近隣河川で採取した河川砂である。越後平野周辺の河川から1mmメッシュ篩で採取した砂粒をもとに作成した河川砂組成を第33図に示す。同図左では各種岩石と石英に二分し、それぞれの重量比を磨耗・破碎粒子別に表した。同図右は細粒砂と粗粒砂の重量比を求めたものである。角田山麓の事例として、南西麓の福井地内矢垂川、東麓中央部の伏部地内、北東麓の稲島地内大沢、西麓海岸部の角海浜地内角海沢の数値を第33図1～4に示す。4地点では山塊の岩相を反映して安山岩・凝灰岩を主とした岩石が卓越する。石英や珪質岩の含有量は2%ほどにすぎず、本遺跡の土器含有物とは内容を大きく異にする。旧西蒲原郡域において利用が想定されるのは、島崎川と信濃川下流域の河川砂である。前者(同図16)は出雲崎町梯子谷窯跡付近、後者(15)は大河津分水との合流地点付近での採取資料に基づく。島崎川の砂粒は、西山丘陵を構成する第四紀「灰爪層」から主として供給されたもので、チャートや玉髓などの珪質岩石が30～40%、石英が10～20%を占める。同層は浅瀬に形成された海成層のため〔小林2006〕砂粒の磨耗が著しく、破碎粒子の含有率はきわめて低い。信濃川下流域の砂粒は鉱物・岩石組成の上で島崎川と類似するが、細粒砂や



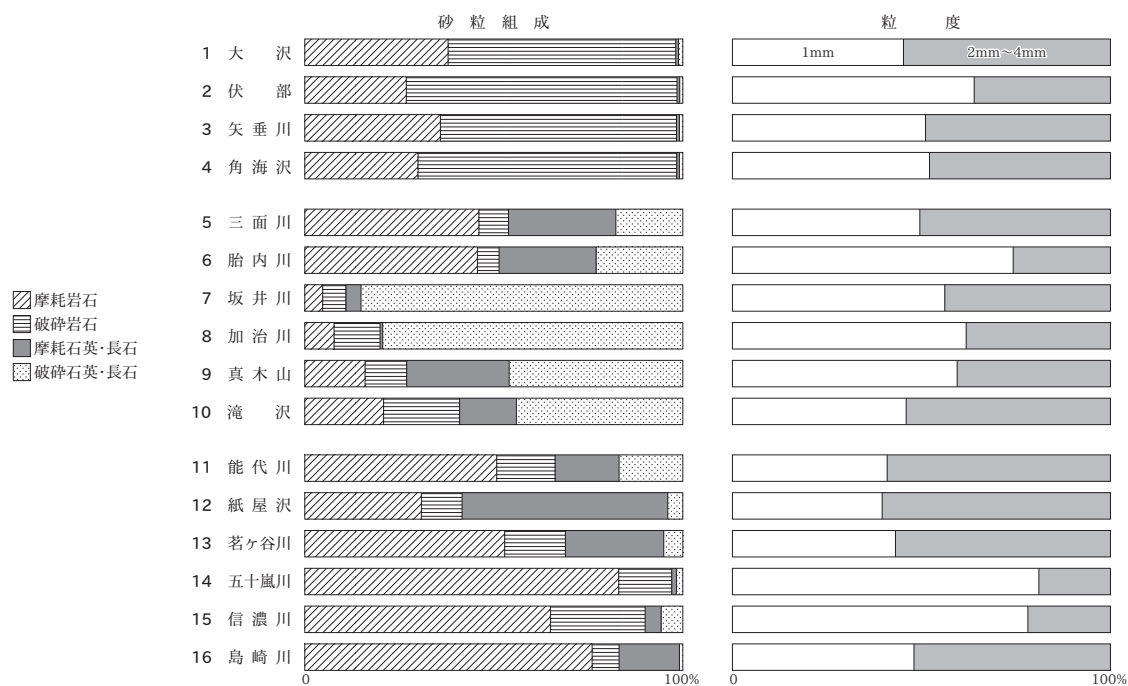
第 32 図 土師器・須恵器の胎土構成

破碎岩石の割合が目立って高く、磨耗度が相対的に低い点が特徴である。本遺跡の土器に含まれる細粒砂は磨耗度がさほど高くなく、破碎岩石が多数存在する点において信濃川下流域の砂粒との類似性が指摘できる。当時付近に流れた信濃川水系の河川から川砂を採取し、混和材として利用した可能性を考慮する必要もあろう。

現在の河川で採取できる砂粒は何らかの形で汚染がみられることに注意が必要であるが、流域の地質を反映する点で土器の製作地推定に有効な情報を提供する〔河西 2008〕。本遺跡から出土した土師器には、東北系土器と西古志甕が含まれる。阿賀野川以北の胎内市域は越後平野周辺における東北系土器の中心的な分布域を形成する〔水澤 2008〕。第 33 図 5～10 のように、阿賀野川以北の河川では総じて石英の占める割合が高いが、その一方で空間的な差異もみられる。北部の胎内川や三面川では新発田市域 (同図 7・8) や笹神丘陵 (同図 9・10) に比べて磨耗岩石の割合が高く、その中には黒色泥岩が多数含まれる。本遺跡の東北系土器はいずれも胎土 Ib 類にあたる。石英の細粒砂を多量に含む資料もあるが、黒色泥岩が欠落する点において阿賀野川以北の混和材とは異質な特徴をもつ。本遺跡から出土した西古志甕の胎土も Ib 類に該当する。この中には焼成不良品が含まれることから本遺跡での製作を物語る。島崎川流域を特徴づける強度磨耗粒子がこれらに欠落する点は調和的なあり方と言える。土製品の胎土は、羽口が土師器Ⅱ類、円筒形土製品が Ib 類の範疇に含まれる。ともに本遺跡で製作された可能性が高い資料である。これに対し、4 点の管状土錘はいずれも石英の粗粒子や細粒子を多量に含む (図版 30)。粒子の磨耗度は低く、破碎状態の石英粗粒子が共存する点でも本遺跡の中では異質な混和材である。こうした特徴をもった砂粒は阿賀野川以北の笹神丘陵の河川砂 (第 33 図 -9・10) に類似しており、同地からの搬入品の可能性が高い資料として注目する必要がある。

土錘から提起される流通問題に関連し、角田山麓で製作された土器の製作地についてふれておく。本遺跡の土師器と類似胎土をもつ資料は、角田山東麓の丘陵地帯や砂丘地・海岸地帯・沖積低地の遺跡で一般的に見ることができる (第 34 図)。砂丘地や海岸部は、粘土の採取や混和材の確保が容易でない点で土器製作には不向きな環境に置かれる。角田山北麓の砂丘地に営まれた下稲場遺跡ではこれまで多量の古代遺物が採集されており、角田山北麓における拠点的な機能をもった集落と考えられる。採集資料 100 点に基づく観察によれば、含有物に基づく分類別の構成割合が本遺跡の数値と酷似する点が注目される (第 32 図)。北 1.5km の丘陵上に位置する南赤坂遺跡では未使用の可能性が指摘される鍋が出土しているが〔春日 2015〕、土器製作を示す遺構は確認されなかった。ともに、本遺跡で製作された土器が供給されていた可能性を示唆する事例と考えられる。一方、角田山の丘陵部や沖積地の遺跡で信濃川水系の砂粒が利用されていたとすれば、各遺跡での混和剤の入手環境に明確な違いは想定できないことになる。沖積地の遺跡に存在する類似胎土の土師器については、個々の遺跡での多角的な検討をつうじ製作地を考える必要がある。

V 章において、1 区出土の須恵器を 5 箇所の産地に区分した。産地別に示すと第 35 図のようになる。西蒲原郡域出土の須恵器については、肉眼的な観察に基づく産地の特徴が春日真実によって示されているが〔春日 2000〕、本書での区分は見方を異にする部分がある。角田山麓産須恵器は、これまで重稲場窯跡採集資料 (山口



第33図 越後平野周辺における川砂の砂粒構成

	無台杯	杯蓋・有台杯	壺	横瓶・甕
I 類	<p>134, 132, 141, 145, 138, 4, 133, 144, 136, 54, 135, 139, 140, 137, 143, 142</p>	<p>117, 119, 118, 53, 23</p>	<p>159, 160, 161</p>	<p>183, 184, 182, 185, 187, 174, 181, 177, 56, 176, 30, 178, 180</p>
II 類	<p>24, 146</p>	<p>123, 122, 120, 121, 63, 127, 126, 128</p>	<p>162, 165, 164</p>	<p>163, 188, 189, 191, 192, 190</p>
III 類		<p>125</p>	<p>166</p>	<p>196, 195</p>
IV 類				<p>193</p>
V 類	<p>149, 71, 155, 25, 151, 154, 152, 153, 148, 150, 158, 147, 157, 156</p>	<p>124, 129, 131, 130, 26</p>	<p>167, 172, 173</p>	<p>170, 171, 198, 207, 206, 199, 201, 204, 202, 205, 203, 200</p>

第35図 須恵器の産地別構成

1994b) が基準とされてきた。しかし、本遺跡で出土した酸化炎焼成須恵器や還元須恵器の含有物は、重稲場の資料と少なからず内容を異にする。第 32 図右のように、重稲場窯跡では磨耗岩石などの細粒子を一定量含む Ia 類が大半を占めるのに対し、本遺跡ではそれらが稀薄な Ib 類が卓越する。角田山麓では、前平野窯跡や峰岡地内でも須恵器の生産関連資料が採集されている。ともに 1 個体ずつの確認にとどまるが、両者の胎土は Ib 類にあたる (第 34 図)。Ib 類は軟質岩石の微粒子や細粒子を概して多量に含む。これとともに微細な石英または珪質岩を含有するがその量は極めて少なく、佐渡小泊産須恵器と一見類似する資料が存在する点に留意すべきである。角田山麓産須恵器は概して生産量が少なく、流通範囲も限定されると考えられてきた。しかし、これまで小泊産とされてきた角田浜沖揚陸須恵器〔山口 1994d〕の中には胎土 Ib 類にあたる資料 (第 34 図左上) が含まれており、従来の認識とは異なる流通状況を有したことも予想される。角田山麓産須恵器のあり方は出土資料全般にわたる見直しが必要であり、流通量や空間的な広がりを検討する中で位置づけを明確にする必要がある。

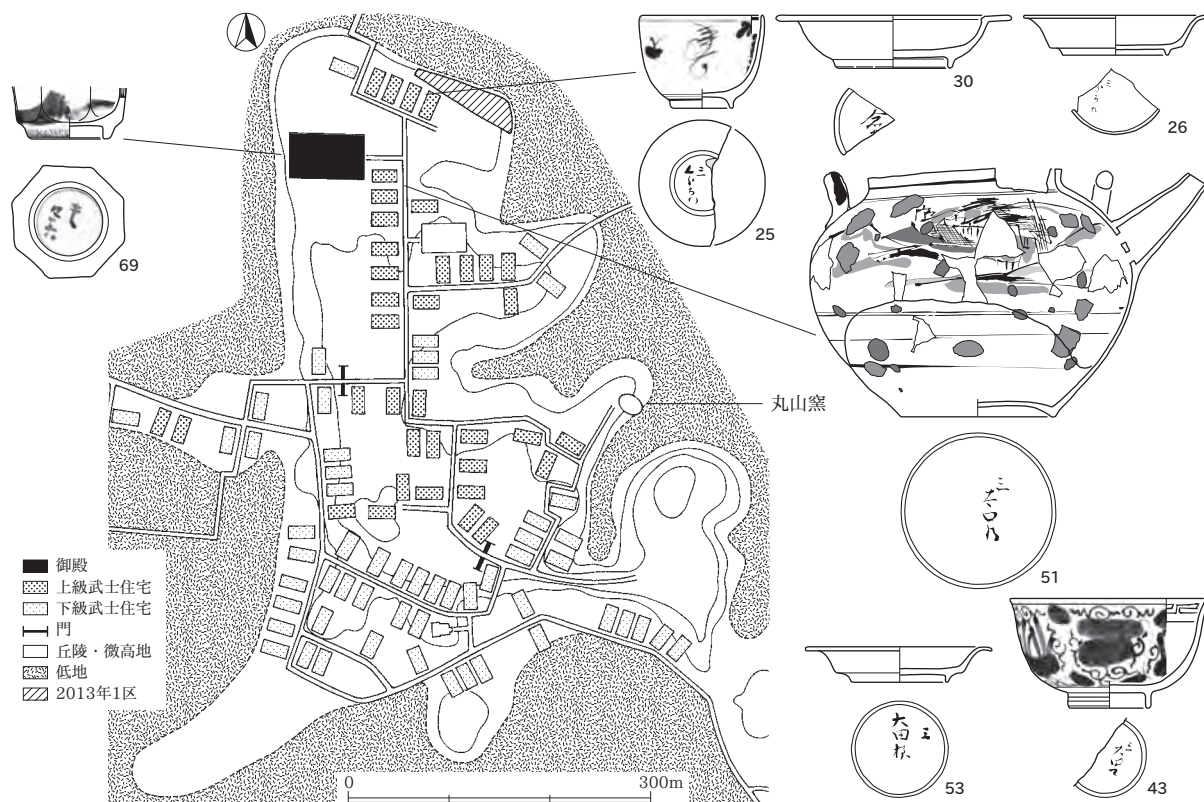
第 5 節 近世三根山藩の考古学資料

1 区西部の井戸 (SE1)・遺物廃棄坑 (SX3・6・290)・盛土遺構を中心に総重量 58kg あまりにのぼる近世陶磁器などが出土した。第 II 章第 3 節で述べたように、丘陵上の 1 区は近世「三根山藩」の藩主御殿や上級家臣の居住地に隣接する。本節では、出土資料にみられる特徴に基づき、三根山藩との関連性を検討する。

1 区出土の陶磁器類は、17 世紀中頃を上限とする。この時期は、長岡藩牧野家からの分知によって三根山知行地が成立した寛永 11 (1634) 年と近似した年代にあたる。この段階の資料には肥前磁器の優品「芙蓉手」大皿 (図版 62-71) が含まれることから、三根山藩に関連した廃棄遺物とみることができる。一方、近世遺物が主として出土した上記 5 遺構の陶磁器類は、大半が 19 世紀代の製品によって占められるとともに 1860 年代を下限とする点において、三根山藩末期に使用された一括性の高い資料とみなされる。この中には所有者の推定につながる記銘遺物が含まれており、嘉永元 (1848) 年の家臣構成文書や藩政当時の屋敷復元図〔佐藤ほか 1973〕との照合をつうじ歴史的な位置づけを検討することが可能である。

5 箇所の遺構出土資料の中で最も古い段階にあたるのは、SE1 の下部を中心に出土した木製品である。井戸の機能が終息し、廃棄物の投棄が始まる段階の遺物と考えられる。これらは桶・下駄・付札などからなり、墨書がある付札 (図版 64-11) や焼印をもつ桶 (図版 64-1・2) が含まれる。前者については判読に至っていないが、後者の図柄は「井筒紋」とみなされる。この種の印章は「井」をもつ苗字の家紋として使用されることから〔千鹿野 1993〕三根山藩の中で該当者を求めると、給人衆の「井田」氏や近習の「村井」氏があげられる。このほか、藩財政に関与した近隣吉田の豪商「今井」家〔佐藤ほか 1973〕との関わりも考慮に値する。

5 遺構から出土した陶磁器類は、SE1 と SX6 など接合例が確認できた。同一規格の皿類や小碗を複数遺構で共有することからも、きわめて接近した時期の廃棄物とみなされる。この中には焼継によって補修を行う資料が磁器 11 点 (碗 2・小碗 2・中皿 2・小皿 4・瓶 1) と陶器 1 点 (土瓶) にみられる。磁器の中に占める割合は、口縁部遺存個体集計で 12% である。これを含む 8 点に朱書文字が記される (図版 58)。補修にあたり、焼継師が記した発注者名と考えられる。うち 6 点に「三」が記される。「三根山藩」の頭文字にちなんだ略称とみられる。これに続く文字には、家名と判断できるものが 5 点ある。SX3 では、「くらち」・「□らち様」・「倉□」と記された小碗や小皿・中皿が出土した。調査区の南部隣接地に住まいした家老衆の「倉地」氏を指すものであろう。SX6 と 290 からは「大田様」と記された碗・小皿・土瓶が出土した。藩主牧野家の御殿正面に住まいした目付衆の「大田」氏を指す文字とみられる。SX6・290 と同一グリッドから出土した碗 (図版 62-69) は両遺構に伴う遺物と考えられるが、その底面には藩主「牧野」氏と同音の「マキノ」の朱文字が変則的な書き順で記される。遺構ごとに認める家名のあり方は、それぞれの資料が有意な単位をなす可能性を示唆している。これに基づけば、SX3 は倉地家の使用・廃棄資料、SE1 と SX6・290 は牧野家・大田家関連資料が混在すると考えることもできる。



第36図 近世三根山藩と記銘陶磁器

SX3に比べ、後者に優品が多い点はそうした見方の傍証となろう。明治27(1894)年の「峰岡構成図」によれば、大田家の住居は示されておらず、既に転出していたことがうかがえる。各遺構から出土した陶磁器は、三根山藩の「高直り」に伴い御殿が造営された文久3(1863)年から藩主牧野氏が東京に帰任する明治4(1871)年の間を中心に使用され、明治20年代までに廃棄された資料の可能性が高い。

以上のような遺物には、所有者層にちなんでいくつかの特徴がみられる。陶磁器類では、小碗が高い割合を示す。SE1やSX6で出土した涼炉・土瓶(湯瓶)・小形焙烙はこれに関連した喫茶道具で、煎茶に対する強い嗜好をうかがうことができる。精緻な調金がなされた煙管や箱庭道具・植木鉢・瓦なども上級武士層に関わる遺物と言ってよく、三根山藩の中でも最高ランクにあたる廃棄資料と考えられる。各遺構からは、「寿文」をもつ瀬戸美濃製の小皿が6個体出土した。同一形態の製品が高田城の遺物廃棄坑から明治3(1870)年銘のある遺物とともに出土しており〔渡邊2003〕、これと近い時期の慶事にあたり藩内に配布された器とみられる。六角「清」印のある鉢(図版61-50)は京の陶工として名高い「清水六兵衛」の作例であり、これに類似した小碗・鉢(図版59-18・19)も同一系譜の陶器とみなされる。これらの位置づけについては、六兵衛が長岡藩に招聘され天保14(1843)年に開窯した「お山焼」との関連が問題になるが、いずれの資料も京都「五条坂」の胎土・釉調に近似する、とのご教示を能芝勉氏からいただいた。

本次調査では、在地窯の「松郷屋焼」に関する新たな知見がえられた。SX3などから徳利の窯変資料、SE1やSX3・6などから窯壁、隣接低地から焼台が出土し、これまで知られなかった窯跡が調査区付近に存在する可能性が高まった。松郷屋焼は三根山藩の御用窯として成立した。その初源は、峰岡丘陵の東部で弘化2(1845)年に開窯した「丸山窯」に求められる。しかし、窯の存続期間や廃絶の経緯は明らかでなく、三根山藩と運命を共にしたのであろう、と考えられてきた〔石川1973・山口1983〕。本遺跡1区の窯跡関連資料は、三根山藩の中核に関わる1860年代の遺物群とともに出土した。この段階においても藩窯が存続した可能性を示唆しており、松郷屋焼の沿革や初期段階における生産の実態を知る上で少なからず重要な資料と位置づけられる。

引用・参考文献

- ア 相田泰臣 2010 「うぶすめ遺跡・穴口遺跡採集土器」『三条考古学研究会機関紙』第4号 三条考古学研究会
 相田泰臣 2012 『林付遺跡 第3次調査』新潟市教育委員会
 秋田裕毅 2002 『下駄』法政大学出版局
 浅井芳伸 1989 「巻町新谷遺跡における磨製石斧製作工程の復元」『巻町史研究』V 巻町
- イ 石川秀雄 1973 『越後の陶磁』雄山閣
 石沢 進 1999 「森の生い立ちとその行方」『里山の植物』財団法人新潟県都市緑化センター
 市原壽文^{ほか} 1984 「縄文後・晩期における低湿性遺跡の特殊性に関する研究」『古文化財に関する保存 科学と人文・自然科学—総括報告書』文部省科学研究費特定研究「古文化財」総括班
 伊藤秀和 2001 『鬼倉遺跡』加茂市教育委員会
 伊藤秀和 2005 『馬越遺跡』加茂市教育委員会
- ウ 上原甲子郎 1956 「弥彦角田山周辺古文化遺跡概観」『弥彦角田山総合調査報告書』新潟県教育委員会
 卜部厚志・高濱信行 2002 「新潟平野・西蒲原郡域における縄文時代中期の古環境」『新潟考古』第13号 新潟県考古学会
- オ 小熊博史・小野 昭 1994 「布目遺跡」『巻町史 資料編1 考古』巻町
 小野 昭^{ほか} 1982 『大沢遺跡・第3次調査概報』新潟大学考古学研究室
 小野 昭・前山精明 1988 「巻町豊原遺跡の調査」『巻町史研究』IV 巻町
 小野昭・山口栄一 1994 「下稲場遺跡」『巻町史 資料編1 考古』巻町
- カ 河西 学 2008 「胎土分析と産地推定」『縄文時代の考古学 7 土器を読み取る』同成社
 ㈱火山灰考古学研究所 2012a 「上層（飛鳥時代・古代・中世）における自然科学分析」『大沢谷内遺跡Ⅱ 第7・9・11・12・14次調査』新潟市教育委員会
 ㈱火山灰考古学研究所 2012b 「自然科学分析」『林付遺跡 第2次調査』新潟市教育委員会
 ㈱火山灰考古学研究所 2014 「自然科学分析」『史跡 古津八幡山遺跡発掘調査報告書—第15・16・17・18・19次調査』新潟市教育委員会
 春日真実 2000 「まとめ」『吉田町史 資料編1』吉田町
 春日真実 2008 「越後における古墳時代～中世の柱材について」『新潟考古』第19号 新潟県考古学会
 春日真実 2014 「古代遺跡の動態—西蒲原地域を事例として—」『郷土史燕』第7号 燕市教育委員会
 春日真実 2015 「古代西蒲原地域の土器器煮炊具」『郷土史燕』第8号 燕市教育委員会
 川上貞夫 1995 『舟戸遺跡』新津市教育委員会
 川上貞夫 1996 『中組遺跡発掘調査報告書』吉田町教育委員会
- ク 黒田和哉 2011 『近世・近代の茶陶』淡交社
- コ 小池裕子・松井 功・小野 昭 1991 「豊原遺跡出土シカ遺体と狩猟季節について」『巻町史研究』VII 巻町
 小林巖雄・藤田英和 1988 「巻町豊原遺跡の調査 VII花粉分析と植生の推定」『巻町史研究』IV 巻町
 小林巖雄 1994 「巻町周辺の地形・地質」『巻町史 資料編1 考古』巻町
 小林巖雄 2006 「大地のおいたちと人の生活」『分水町史 通史編』分水町
- サ 佐藤和男^{ほか} 1973 『三根山藩』巻町双書20 巻町役場
 佐藤甲二 2000 「畑跡の耕作痕に関する問題点と今後の課題—仙台地域の調査事例をとおして—」『はたけの考古学』日本考古学協会2000年度鹿児島大会実行委員会
 佐藤友子 2008 『近世新潟町跡広小路堀地点』新潟県教育委員会
- シ 清水美和 1997 「新発田城第8～10地点出土の近世木簡」『新発田城跡発掘調査報告書Ⅱ』新発田市教育委員会
- ス 杉山真二 2000 「植物珪酸体（プラント・オパール）」『考古学と自然科学 3 考古学と植物学』同成社
- ソ 早田 勉 2012 「自然科学分析」『林付遺跡 第3次調査』新潟市教育委員会
- タ 高橋 保 1999 「縄文土器 第4項 中期」『新潟県の考古学』新潟県考古学会
 龍田優子 2014 「下新田遺跡」『平成25年新潟市遺跡調査速報会』新潟市文化財センター
- チ 千鹿野茂 1993 『日本家紋総監』角川書店
- ツ 立木宏明 2013 『峰岡城山遺跡 2次調査』新潟市教育委員会
 燕市 2000 『煙管・矢立のすべて』
 坪内淳二 「幕末・明治初期における清水六兵衛家」『清水六兵衛家』愛知県陶磁資料館1
 鶴巻康司^{ほか} 1997 『新発田城跡発掘調査報告書Ⅱ』新発田市教育委員会

- ナ 中村 純 1980 「花粉分析による稲作史の研究」『自然科学の手法による遺跡・古文化財等の研究—総括報告書—』
文部省科研費特定研究「古文化財」総括班
長島義介^{ほか} 1976 『角田山塊の自然』 巻町・潟東村教育委員会
- ニ 新潟市史編纂原始古代中世史部会編 1994 『新潟市史 資料編 1 原始 古代 中世』 新潟市
新潟県農地部農地整備課 1976 『新潟県中越地域土地分類基本調査 三条』
- ハ バリノ・サーヴェイ株式会社 2000 「自然科学分析」『江添 C 遺跡』 吉田町教育委員会・山武考古学研究所
バリノ・サーヴェイ株式会社 2001a 「自然科学分析」『三角田遺跡』 燕市教育委員会・吉田町教育委員会
バリノ・サーヴェイ株式会社 2001b 「自然科学分析」『鬼倉遺跡』 新潟県加茂市教育委員会
バリノ・サーヴェイ株式会社 2003 「御井戸 B 遺跡の調査 5 自然科学分析」『御井戸遺跡 I』 巻町教育委員会
バリノ・サーヴェイ株式会社 2004 「御井戸 B 遺跡の調査 5 自然科学分析」『御井戸遺跡 II』 巻町教育委員会
バリノ・サーヴェイ株式会社 2005 「平成 11 年度馬越遺跡自然科学分析」『馬越遺跡』 加茂市教育委員会
バリノ・サーヴェイ株式会社 2008 「自然科学分析」『吉津川遺跡』 三条市教育委員会
バリノ・サーヴェイ株式会社 2010 「自然科学分析」『大沢谷内北遺跡 第 3 次調査』 新潟市教育委員会
広井 造^{ほか} 1990 「角田山東麓および佐潟周辺の遺跡調査報告書Ⅳ」『FIELD NOTE』第 6 号 新潟大学考古学研究所
- フ 藤塚 明 1993 『新潟市的場遺跡』 新潟市教育委員会
布施智也^{ほか} 2000 『江添 C 遺跡』 吉田町教育委員会・山武考古学研究所
古川知明・石原正敏 1986 「アメリカ式石鎌に関する一考察」『六地山遺跡』 新潟市教育委員会
- ホ 細井佳浩 2014 「新潟県における古代の「畝状小溝」(畠)について」『三面川流域の考古学』第 12 号 奥三面を考
える会
本間信昭 1976 『北陸高速自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 茶院遺跡』 新潟県教育委員会
- マ 前山精明・山口栄一 1986 「巻町福井南部における遺跡分布と出土・採集遺物」『巻町史研究』Ⅱ 巻町
前山精明 1994 「新谷遺跡」『巻町史 巻町史 資料編 1 考古』 巻町
前山精明・山口栄一 1994 「沙山遺跡」『巻町史 資料編 1 考古』 巻町
前山精明 1996a 「縄文時代晩期集落の経済基盤」『考古学と遺跡の保護』 甘粕健先生退官記念論集刊行会
前山精明 1996b 「新潟県西蒲原郡巻町御井戸遺跡」『日本考古学年報』47 日本考古学協会
前山精明 1997 『有馬崎遺跡』 分水町教育委員会
前山精明・相田泰臣 2002 『南赤坂遺跡』 巻町教育委員会
前山精明・相田泰臣 2003 『御井戸遺跡 I』 巻町教育委員会
前山精明・相田泰臣 2004 『御井戸遺跡 II』 巻町教育委員会
前山精明 2005 「水辺の営み」『地域と文化の考古学 I』 六一書房
前山精明 2012 『大沢谷内遺跡Ⅲ 第 18 次調査』 新潟市教育委員会
前山精明 2013 「細池寺道上遺跡」『平成 24 年度新潟市遺跡発掘調査速報』 新潟市文化財センター
松島悦子 2001 『三角田遺跡』 燕市教育委員会・吉田町教育委員会
- ミ 三城昭義・白井美奈子・市川朋子 1998 「金津丘陵製鉄遺跡群出土炭化材の樹種同定」『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査
報告書Ⅲ』 新潟市教育委員会
水澤幸一 2008 「磐舟柵修理前後の北方系土器—胎内市内遺跡を中心に—」『多知波奈の考古学—上野圭司先生
追悼論集』 橘考古学会
宮脇 昭 編著 1985 『日本植生誌 中部』 至文堂
- モ 森本伊知郎 1990 「焼継ぎに関する一考察」『江戸の陶磁器』 江戸遺跡研究会
- ワ 渡邊ますみ 1994 『緒立 C 遺跡』 黒埼町教育委員会
渡邊ますみ 2003 「高田城」『上越市史叢書 8 考古—中・近世資料—』 上越市
渡邊ますみ 2012 『四十石遺跡 第 2 次調査』 新潟市教育委員会
- ヤ 山口栄一 1983 『松郷屋焼館藏品目録』 巻町郷土資料館
山口栄一 1984 「西川町の遺跡」『西川町史考 その 12』 西川町教育委員会
山口栄一 1994a 「ヤチ遺跡」『巻町史 資料編 1 考古』 巻町
山口栄一 1994b 「重稲場窯跡」『巻町史 資料編 1 考古』 巻町
山口栄一 1994c 「銭原遺跡」『巻町史 資料編 1 考古』 巻町
山口栄一 1994d 「タラバ揚陸須恵器」『巻町史 資料編 1 考古』 巻町
山口英一 1994e 「前平野窯跡」『巻町史 資料編 1 考古』 巻町
- ヨ 吉川昌信 2003 「自然科学分析」『十二田・江添 E 遺跡』 吉田町教育委員会

別表1 縄文時代の遺構計測表

図版No.	地区	遺構No.	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				深度	底面座標 (m)	形態		覆土	出土遺物	切り合い関係	備考
							上端		下端				平面	断面				
							長軸	短軸	長軸	短軸								
7・14	1a	SK 440	7K-9・10・14・15	縄文	IV	N-73°-E	1.51+	1.01	0.72	0.44	0.55	7.67	不整楕円	半円状	3	縄文土器 (1)		
13・14	1c	Pit 573	12Q-10	縄文	IV	N-38°-W	0.26	0.22	0.06	0.06	0.15	8.58	不整楕円	階段状	2b	縄文土器 (1)	<SX278	

別表2 古代の掘立柱建物計測表

図版No.	地区	遺構No.	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)						身舎面積 (m ²)	構成遺構	形態	切り合い関係	付帯施設
							桁行			梁行							
							尺	(m)	間	尺	(m)	間					
10・18・19	1c	SB 516	100-12・13・17・19・20・22 10P-21・22 11P-1・2・6	古代	IV	N-66°-W	3.1	10.2	5	1.5	4.8	2	48.9	P303.P308.P309.P316. P325.P476~P481.P483 ~P485.P613			庇

図版No.	地区	遺構No.	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				深度	底面座標 (m)	形態		覆土分類	出土遺物	切り合い関係	備考
							上端		下端				平面	断面				
							長軸	短軸	長軸	短軸								
10・19	1c	Pit 303	100-13	古代	IV	N-60°-E	0.33	0.30	0.20	0.13	0.22	10.32	不整円	箱状	2b	土師器 (1)		
10・19	1c	Pit 308	100-19	古代		N-35°-W	0.48	0.45	0.28	0.20	0.37	10.18	不整円	箱状	2b			
10・18	1c	Pit 309	100-17	古代		—	0.42	0.42	0.14	0.14	0.52	10.14	円形	U字状	1	須恵器 (1)		
10・18	1c	Pit 316	100-12・13	古代		—	0.46	0.46	0.22	0.22	0.46	10.09	円形	U字状	2b			
10・19	1c	Pit 325	100-20	古代		N-66°-E	0.37	0.36	0.14	0.14	0.29	10.15	楕円	階段状	2b	土師器 (3)		
10・18	1c	Pit 476	110-4・9	古代		N-34°-E	0.40	0.35	0.22	0.22	0.26	10.40	楕円形	箱状	2b			
10・18	1c	Pit 477	110-10	古代		N-65°-E	0.22	0.20	0.10	0.08	0.47	10.21	楕円形	U字状	2b			
10・18	1c	Pit 478	11P-6	古代		N-77°-E	0.56	0.47	0.16	0.14	0.50	10.16	楕円形	U字状	1			
10・18	1c	Pit 479	11P-6	古代		N-64°-E	0.33	0.30	0.22	0.13	0.24	10.42	不整円	半円状	2b			
10・19	1c	Pit 480	11P-1・2	古代		N-50°-W	0.55	0.49	0.20	0.20	0.35	10.26	不整楕円	U字状	1		<P487	
10・19	1c	Pit 481	11P-2	古代		N-69°-E	0.38	0.34	0.24	0.24	0.20	10.38	不整楕円	半円状	2b		>P489	
10・19	1c	Pit 483	10P-21	古代		N-31°-W	0.41	0.31+	0.23	0.12	0.20	10.30	方形	箱状	2b		<P490	
10・19	1c	Pit 484	10P-22	古代		N-60°-W	0.51	0.44	0.26	0.24	0.26	10.22	不整円	半円状	2a	土師器 (7)		
10・19	1c	Pit 485	10P-22	古代		N-10°-W	0.50	0.38	0.26	0.20	0.34	10.10	不整楕円	階段状	2a	土師器 (4) 須恵器 (1)		
10・18	1c	Pit 613	110-3・4	古代	N-55°-W	0.48	0.34	0.08	0.08	0.28	10.22	長方形	階段状	1				

図版No.	地区	遺構No.	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)						身舎面積 (m ²)	構成遺構	形態	切り合い関係	付帯施設
							桁行			梁行							
							尺	(m)	間	尺	(m)	間					
10・20・21	1c	SB 621	90-10・15・19・20・24・25 9P-11・12・17~19 21・23 10P-1・2	古代	IV	N-63°-W	2.2	7.3	3	1.5	4.9	2	35.8	P384.P409.P411.P434. P448.P460~P463.P614		<FP365	

図版No.	地区	遺構No.	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				深度	底面座標 (m)	形態		覆土分類	出土遺物	切り合い関係	備考
							上端		下端				平面	断面				
							長軸	短軸	長軸	短軸								
10・21	1c	Pit 384	9P-21 10P-1	古代	IV	N-61°-E	0.78	0.54	0.29	0.18	0.34	9.44	不整楕円	半円状	1	土師器 (4)		
10・21	1c	Pit 409	10P-2	古代		N-6°-E	0.70+	0.60	0.36+	0.32	0.60	9.22	不整楕円	階段状	1	土師器 (2)	<SX391	
10・21	1c	Pit 411	9P-23	古代		N-70°-W	0.56	0.28+	0.28	0.26	0.38	9.21	不整円	階段状	2a		<P410	
10・21	1c	Pit 434	9P-12・17	古代		N-12°-E	0.63	0.53	0.04	0.04	0.26	9.10	楕円形	階段状	1	土師器 (8)		焼土廃棄遺構
10・20	1c	Pit 448	9P-11・12	古代		N-59°-W	1.16	0.64	0.14	0.12	0.60	8.70	不整楕円	階段状	1	土師器 (15)	>P405 <P451	
10・20	1c	Pit 460	90-25 9P-21	古代		N-48°-W	0.98	0.57	0.6+	0.23	0.68	8.83	不整楕円	階段状	1	土師器 (14)	>P470 >P502	
10・20	1c	Pit 461	90-19・24	古代		—	0.64	0.60	0.18	0.18	0.66	8.90	円形	U字状	1	土師器 (2)		
10・20	1c	Pit 462	90-15・20	古代		N-64°-E	0.55	0.55	0.26	0.18	0.48	8.86	不整円	U字状	1	土師器 (1)		
10・20	1c	Pit 463	90-10・15	古代		N-61°-W	0.70	0.61	0.14	0.13	0.44	8.71	不整円	階段状	2a	土師器 (1)		
10・21	1c	Pit 614	9P-18・19	古代		N-67°-W	0.86	0.80	0.12	0.08	0.36	9.07	方形	箱状	2a			

図版No.	地区	遺構No.	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)						身舎面積 (m ²)	構成遺構	形態	切り合い関係	付帯施設
							桁行			梁行							
							尺	(m)	間	尺	(m)	間					
10・22	1c	SB 622	9P-18・19・22・25 10P-1~4・8・9	古代	IV	N-27°-E	1.3	4.9	2	1.3	4.2	2	20.6	P374.P390.P395.P415. P421.P432.P469.P626		<FP365 >SX471	

図版No.	地区	遺構No.	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				深度	底面座標 (m)	形態		覆土分類	出土遺物	切り合い関係	備考
							上端		下端				平面	断面				
							長軸	短軸	長軸	短軸								
10・22	1c	Pit 374	10P-3	古代	IV	N-10°-E	0.67	0.47+	0.04	0.04	0.26	9.59	不整楕円	階段状	1			
10・22	1c	Pit 390	10P-4・8・9	古代		N-54°-E	0.72	0.42	0.30	0.2+	0.22	9.58	不整楕円	半円状	1		<P389	
10・21・22	1c	Pit 395	10P-1・2	古代		N-75°-E	0.83	0.60	0.12	0.11	0.40	9.42	長方形	階段状	1	土師器 (10)	>P385	
10・22	1c	Pit 415	9P-25	古代		N-82°-E	0.38	0.25	0.26	0.13	0.08	9.20	不整楕円	弧状	2b			
10・22	1c	Pit 421	9P-19	古代		—	0.46	0.43	0.24	0.22	0.34	9.06	円形	半円状	1	土師器 (2)		
10・21・22	1c	Pit 432	9P-18	古代		N-28°-W	0.72	0.69	0.48	0.46	0.27	9.14	不整円	箱状	1	土師器 (6)		
10・22	1c	Pit 469	9P-27	古代		N-48°-W	0.39	0.27	0.14	0.12	0.16	9.20	不整楕円	半円状	1	土師器 (1)	<FP365	
10・22・29	1c	Pit 626	10P-4	古代		—	0.4+	0.40	—	—	0.23	9.14	円形	半円状	1	土師器 (7) 須恵器 (2)	SX471内	

別表3 古代のピット計測表

図版No.	地区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				深度	底面座標 (m)	形態		覆土分類	出土遺物	切り合い関係	備考
							上端		下端				平面	断面				
							長軸	短軸	長軸	短軸								
7	1a	Pit 5	6I-20		IV	N-52°-W	0.32	0.25	0.24	0.20	0.13	7.60	楕円	箱状	2b			
9	1b	Pit 8	8M-24・25		IV	N-15°-E	0.48	0.34+	0.18	0.16	0.26	8.32	不整楕円	階段状	2a			
7	1a	Pit 12	7K-6		IV	N-80°-E	0.20	0.17	0.12	0.04	—	—	不整楕円	—	—			
7	1a	Pit 13	7K-6		IV	N-28°-W	0.19	0.16	0.14	0.06	0.14	7.84	楕円	箱状	2b			
7	1a	Pit 14	7K-6		IV	N-25°-W	0.26	0.20	0.17	0.13	0.08	7.87	楕円	半円状	2b			
7	1a	Pit 15	7K-6		IV	N-26°-W	0.17	0.17	0.09	0.08	0.15	7.79	不整円	U字状	2b			
7	1a	Pit 16	7K-7		IV	N-66°-E	0.20	0.20	0.14	0.13	0.10	7.80	不整円	半円状	2b			
7	1a	Pit 17	7K-12		IV	N-44°-W	0.17	0.15	0.06	0.06	0.09	7.96	楕円	半円状	2b			
7	1a	Pit 18	7K-12		IV	—	0.24	0.22	0.11	0.05	0.16	7.94	円形	U字状	2b			
7・23	1a	Pit 19	7K-12		IV	N-27°-W	0.44	0.37	0.16	0.12	0.27	7.72	不整楕円	箱状	2a			
7・23	1a	Pit 20	7K-7・8		IV	N-61°-W	0.35	0.18	0.28	0.11	0.08	7.72	長方形	弧状	2b			
7・23	1a	Pit 21	7K-8		IV	N-66°-W	0.30	0.29	0.10	0.09	0.16	7.98	不整円	半円状	2a			
7	1a	Pit 22	7K-8		IV	N-10°-E	0.25	0.20	0.08	0.07	0.20	7.70	楕円	V字状	2b		>P32	
7	1a	Pit 23	7K-17		IV	N-14°-W	0.23	0.22	0.10	0.09	0.09	8.03	不整円	弧状	2b			
7	1a	Pit 24	7K-13・18		IV	N-20°-W	0.21	0.18	0.04	0.04	0.13	7.97	楕円	漏斗状	2b			
7	1a	Pit 25	7K-14		IV	N-36°-E	0.30	0.28	0.22	0.21	0.09	8.11	不整楕円	箱状	2b			
7	1a	Pit 26	7K-14		IV	N-39°-E	0.35	0.24	0.12	0.09	0.15	8.02	楕円	階段状	2b			
7	1a	Pit 27	7K-13		IV	N-65°-E	0.34	0.25	0.28	0.20	0.10	7.98	楕円	箱状	2b			
7	1a	Pit 28	7K-13		IV	N-80°-E	0.16	0.15	0.11	0.11	0.08	7.92	不整円	箱状	2b			
7	1a	Pit 29	7K-18		IV	—	0.20	0.18	0.10	0.06	0.12	8.20	円形	半円状	2b			
7	1a	Pit 30	7K-23		IV	N-64°-W	0.21	0.22	0.14	0.12	0.14	8.31	不整円	半円状	2b			
8	1b	Pit 31	8M-21		IV	—	0.19	0.18	0.12	0.10	0.10	9.06	円形	半円状	2b			
7	1a	Pit 32	7K-8		IV	N-23°-E	0.17	0.17	0.12	0.10	0.13	7.78	不整楕円	半円状	2b		<P22	
7	1a	Pit 33	7K-13・14		IV	N-52°-E	0.30	0.18	0.09	0.08	0.08	7.98	不整楕円	階段状	2b			
7	1a	Pit 34	7K-23・24		IV	—	0.23	0.21	0.20	0.19	0.13	8.34	円形	半円状	2b			
7	1a	Pit 35	7K-24		IV	N-27°-W	0.18	0.17	0.08	0.06	0.10	8.44	不整円形	半円状	2b			
7	1a	Pit 36	7K-18・19		IV	N-54°-W	0.28	0.24	0.14	0.12	0.11	8.20	不整楕円	半円状	2b			
7	1a	Pit 37	7K-19		IV	N-49°-W	0.24	0.16	0.10	0.06	0.12	8.16	不整楕円	半円状	2b			
7	1a	Pit 38	7K-19		IV	—	0.24	0.22	0.12	0.12	0.15	8.20	円形	V字状	2b			
7	1a	Pit 39	7K-19		IV	N-52°-W	0.25	0.22	0.14	0.14	0.10	8.27	楕円	半円状	2b			
7	1a	Pit 40	7K-19		IV	—	0.22	0.21	0.09	0.08	0.12	8.38	円形	半円状	2b		<FP2	
7	1a	Pit 41	7K-10		IV	N-61°-W	0.24	0.21	0.13	0.12	0.17	8.03	楕円	箱状	2b			
7	1a	Pit 42	7K-15・20		IV	N-29°-E	0.29	0.26	0.16	0.12	0.20	8.26	楕円	U字状	2b			
8	1b	Pit 43	8M-16・21		IV	N-13°-E	0.20	0.16	0.12	0.06	0.15	8.90	楕円	V字状	2b			
8	1b	Pit 44	8M-16		IV	N-62°-E	0.20	0.13	0.10	0.03	0.13	8.86	楕円	V字状	2b			
8	1b	Pit 45	8M-17		IV	N-39°-W	0.24	0.18	0.14	0.09	0.09	8.79	不整楕円	箱状	2b			
8	1b	Pit 46	8M-11		IV	N-25°-E	0.17	0.16	0.10	0.10	0.10	8.70	不整楕円	半円状	2b			
8	1b	Pit 47	8M-17		IV	N-89°-E	0.26	0.20	0.16	0.08	0.13	8.65	楕円	半円状	2b			
8	1b	Pit 48	9M-3		IV	N-59°-E	0.24	0.20	0.20	0.10	0.23	8.38	楕円	箱状	2b			
8	1b	Pit 49	9M-8		IV	N-40°-E	0.35	0.30	0.16+	0.14	0.12	8.46	不整楕円	箱状	2b		<P50	
8	1b	Pit 50	9M-8		IV	N-52°-E	0.20	0.14	0.10	0.07	0.14	8.40	不整楕円	箱状	2b		>P49	
8・23	1b	Pit 51	8M-22 9M-2	古代	IV	—	0.35	0.33	0.20	0.20	0.26	8.56	円形	U字状	2b	土師器 (1)		
8	1b	Pit 52	9M-8		IV	N-8°-E	0.30	0.26	0.18	0.14	0.10	8.97	楕円形	弧状	2b			
8	1b	Pit 53	8M-19		IV	—	0.18	0.18	0.10	0.10	0.11	8.12	円形	半円状	2b			
8	1b	Pit 54	9M-8		IV	N-73°-E	0.18	0.16	0.10	0.06	0.06	9.15	不整楕円	半円状	2b			
8	1b	Pit 55	8M-23		IV	N-88°-W	0.24	0.20	0.16	0.10	0.14	8.36	楕円	半円状	2b			
8	1b	Pit 56	8M-22		IV	N-75°-W	0.34	0.28	0.24	0.16	0.17	8.94	不整楕円	箱状	2b			
8・23	1b	Pit 57	8M-22		IV	N-61°-E	0.30	0.25	0.14	0.10	0.30	8.54	不整円	U字状	2b			
8	1b	Pit 58	9M-3		IV	N-45°-E	0.27	0.21	0.18	0.08	0.18	8.66	不整楕円	箱状	2b			
8	1b	Pit 59	9M-3		IV	N-19°-W	0.32	0.25	0.18	0.12	0.17	8.60	不整楕円	半円状	2b			
8	1b	Pit 60	9M-9		IV	—	0.20	0.20	0.10	0.10	0.23	8.98	円形	U字状	2b			
8	1b	Pit 61	8M-23		IV	N-64°-E	0.24	0.16	0.17	0.06	0.14	8.44	不整楕円	半円状	2b			
8	1b	Pit 62	8M-22 9M-2		IV	N-30°-E	0.40	0.26	0.30	0.14	0.18	8.60	長方形	半円状	2b			
8	1b	Pit 63	9M-2		IV	N-34°-E	0.20	0.17	0.11	0.09	0.18	8.89	不整楕円	半円状	2b			
8	1b	Pit 64	8M-14		IV	N-11°-W	0.32	0.22	0.20	0.08	0.10	8.11	不整楕円	弧状	2b			
8	1b	Pit 65	9M-3		IV	N-82°-W	0.32	0.24	0.18	0.15	0.17	8.54	不整楕円	箱状	2b			
8	1b	Pit 66	9M-9・10		IV	N-36°-W	0.24	0.19	0.14	0.90	0.13	8.98	楕円	半円状	2b			
8	1b	Pit 67	9M-14		IV	—	0.17	0.16	0.06	0.04	0.19	9.18	円形	V字状	2b			
8	1b	Pit 68	8M-18・19		IV	—	0.30	0.30	0.18	0.16	0.17	8.11	円形	半円状	2b			
8	1b	Pit 69	8M-14		IV	N-14°-E	0.18	0.18	0.08	0.07	0.12	7.94	不整円形	半円状	2b			
8	1b	Pit 70	8M-8		IV	N-70°-E	0.19	0.17	0.08	0.08	0.13	8.61	不整円形	半円状	2b			
9	1b	Pit 71	8M-15		IV	N-77°-E	0.27	0.24	0.07	0.05	0.15	7.79	楕円	V字状	2b			
9	1b	Pit 72	8M-15 8N-11		IV	N-4°-E	0.36	0.27	0.14	0.11	0.26	7.42	不整楕円	U字状	2b			
8・23	1b	Pit 73	9M-14	古代	IV	N-23°-W	0.28	0.24	0.14	0.10	0.23	9.18	不整円形	半円状	2b	土師器 (1)		
8	1b	Pit 74	8M-23		IV	N-0°-S	0.29	0.26	0.16	0.12	0.13	8.47	不整円形	弧状	2b			
8・23	1b	Pit 75	9M-14	古代	IV	N-16°-W	0.22	0.20	0.16	0.12	0.20	9.25	不整円形	箱状	2b	土師器 (1)		
7	1a	Pit 76	7K-8・13		IV	N-23°-W	0.25	0.21	0.19	0.13	0.14	7.82	楕円	箱状	2b			
7	1a	Pit 77	7K-7・8・12・13		IV	N-14°-E	0.46	0.30	0.23	0.18	0.16	7.76	不整楕円	弧状	2b			
7	1a	Pit 78	7K-13		IV	N-35°-W	0.28	0.21	0.17	0.10	0.09	7.89	不整楕円	半円状	2b			
7	1a	Pit 79	7K-7・12		IV	N-69°-E	0.29	0.20	0.12	0.09	0.06	7.80	不整楕円	弧状	2b			
7	1a	Pit 80	7K-7・12		IV	N-65°-E	0.26	0.24	0.11	0.10	0.18	7.70	不整円形	半円状	2a			
9	1b	Pit 81	8M-10		IV	N-20°-E	0.24	0.20	0.18	0.11	0.08	7.88	不整楕円	半円状	2b			
8	1b	Pit 82	8M-18・23		IV	N-51°-W	0.37	0.32	0.23	0.12	0.22	8.28	楕円	半円状	2b			
9	1b	Pit 83	8M-5・10		IV	N-12°-E	0.17	0.15	0.09	0.07	0.10	7.81	不整楕円	V字状	2b			
8	1b	Pit 84	8M-23		IV	N-47°-E	0.42	0.37	0.13	0.12	0.24	8.44	不整楕円	V字状	2b			
9	1b	Pit 85	8M-5		IV	N-54°-W	0.30	0.25	0.20	0.17	0.16	7.60	不整楕円	半円状	2b			
8	1b	Pit 86	9M-8		IV	N-23°-E	0.20	0.19	0.10	0.08	0.15	8.86	不整楕円	半円状	2b			
8	1b	Pit 87	8M-17		IV	N-40°-W	0.32	0.29	0.15	0.14	0.20	8.46	不整円形	半円状	2b			
8	1b	Pit 88	8M-22		IV	N-29°-W	0.26	0.20	0.06	0.06	0.23	8.70	不整楕円	半円状	2b			
8	1b	Pit 89	8M-18		IV	N-13°-W	0.31	0.21	0.23	0.10	0.17	8.14	不整楕円	U字状	2b			
8	1b	Pit 90	7M-23 8M-3		IV	N-54°-E	0.22	0.18	0.05	0.04	0.21	7.92	不整楕円	U字状	2b			

図版No.	地区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				深度	底面座標 (m)	形態		覆土分類	出土遺物	切り合い関係	備考
							上端		下端				平面	断面				
							長軸	短軸	長軸	短軸								
8	1a	Pit 91	7L-21		IV	N-7°-W	0.36	0.22	0.26	0.16	0.13	8.72	楕円	箱状	2b			
8	1a	Pit 92	7K-25		IV	N-17°-W	0.23	0.20	0.15	0.10	0.12	8.64	不整形楕円	半円状	2b			
8	1a	Pit 93	7K-25		IV	N-88°-E	0.21	0.21	0.07	0.11	0.20	8.45	不整形円形	U字状	2b			
8	1a	Pit 94	7K-25		IV	N-45°-W	0.30	0.19	0.13	0.08	0.18	8.49	長方形	V字状	2b			
7	1a	Pit 95	7L-16		IV	-	0.22	0.21	0.15	0.12	0.15	8.38	円形	半円状	2b			
7	1a	Pit 96	7K-20 7L-16		IV	N-71°-E	0.38	0.32	0.28	0.18	0.19	8.34	不整形	箱状	2b			
7	1a	Pit 97	7K-15		IV	N-30°-W	0.33	0.25	0.24	0.16	0.22	8.16	楕円	箱状	2b			
7	1a	Pit 98	7L-11		IV	N-4°-E	0.21	0.19	0.16	0.11	0.11	8.32	不整形楕円	半円状	2b			
7	1a	Pit 99	7K-10・15		IV	N-12°-W	0.30	0.25	0.16	0.11	0.21	8.08	楕円	半円状	2b			
7・23	1a	Pit 100	7L-6	古代	IV	-	0.22	0.22	0.12	0.10	0.15	8.13	円形	半円状	2b	土師器 (1)		
7・23	1a	Pit 101	7K-10 7L-6	古代	IV	N-54°-E	0.29	0.24	0.12	0.08	0.12	8.12	不整形円形	半円状	2a	土師器 (1)		
8	1b	Pit 102	8L-25 8M-21		IV	N-43°-W	0.33	0.45+	0.32	0.18	0.21	9.08	不整形楕円	半円状	2b			
8	1b	Pit 103	8M-4・9		IV	N-26°-E	0.20	0.17	0.03	0.03	0.13	8.04	不整形楕円	U字状	2b			
8	1b	Pit 104	8M-4		IV	N-43°-E	0.20	0.16	0.09	0.07	0.09	8.08	楕円	箱状	2b			
8	1b	Pit 105	8M-4		IV	N-6°-E	0.21	0.20	0.14	0.12	0.13	8.00	不整形円形	半円状	2b			
9	1b	Pit 106	9M-15		IV	N-6°-E	0.20	0.17	0.12	0.11	0.13	9.34	不整形楕円	箱状	2b			
8	1b	Pit 107	8M-16		IV	N-52°-W	0.24	0.20	0.14	0.08	0.19	8.84	楕円	半円状	2b			
8	1b	Pit 108	8M-12		IV	-	0.29	0.27	0.18	0.14	0.10	8.55	円形	弧状	2b			
8	1b	Pit 109	8M-17・22		IV	N-14°-E	0.33	0.25	0.24	0.14	0.17	8.72	不整形楕円	箱状	2b			
8	1b	Pit 110	8M-21・22		IV	N-83°-E	0.41	0.29	0.14	0.10	0.19	8.79	不整形楕円	階段状	2b			
8	1b	Pit 111	8M-22		IV	N-36°-E	0.34	0.26	0.20	0.10	0.18	8.84	楕円	半円状	2b			
8	1b	Pit 112	8M-12・13		IV	N-21°-E	0.26	0.24	0.13	0.08	0.22	8.36	不整形円形	U字状	2b			
8	1b	Pit 113	8M-17・18		IV	-	0.20	0.20	0.10	0.10	0.15	8.48	円形	半円状	2b			
8	1b	Pit 114	8M-12・13		IV	N-30°-W	0.32	0.26	0.22	0.12	0.17	8.36	楕円	半円状	2b			
8	1b	Pit 115	8M-21 9M-1		IV	N-35°-E	0.31	0.26	0.18	0.10	0.29	8.83	不整形円形	半円状	2b			
8・23	1b	Pit 117	8M-21		IV	N-42°-W	0.32	0.28	0.17	0.10	0.39	8.62	不整形	U字状	2b			
9	1b	Pit 118	9M-20		IV	N-11°-W	0.19	0.16	0.10	0.06	0.09	9.57	楕円	半円状	2b			
9・23	1b	Pit 119	9M-15	古代	IV	-	0.23	0.22	0.12	0.10	0.18	9.24	円形	半円状	2b	須恵器 (1)		
9	1b	Pit 120	9N-11・12		IV	N-10°-W	0.27	0.23	0.15	0.13	0.15	9.26	不整形楕円	半円状	2b			
9	1b	Pit 121	9N-11		IV	N-28°-W	0.22	0.18	0.12	0.08	0.15	9.13	楕円	半円状	2b			
9	1b	Pit 122	9N-2		IV	N-10°-E	0.30	0.23	0.24	0.16	0.13	8.68	楕円	箱状	2b			
9・23	1b	Pit 123	9M-20	古代	IV	N-0°-S	0.23	0.21	0.14	0.12	0.19	9.40	不整形円形	箱状	2b	土師器 (2)		
9・23	1b	Pit 124	9M-20	古代	IV	N-45°-E	0.21	0.19	0.07	0.07	0.16	9.50	楕円	V字状	2b	土師器 (1)		
9	1b	Pit 125	8M-25 9M-5		IV	N-35°-W	0.20	0.20	0.10	0.08	0.26	8.27	不整形円形	U字状	2b			
9・23	1b	Pit 126	9N-11	古代	IV	N-24°-W	0.18	0.15	0.08	0.08	0.26	8.97	楕円	階段状	2b	土師器 (1)		
9	1b	Pit 127	9N-11		IV	N-66°-E	0.18	0.15	0.12	0.08	0.13	9.38	不整形楕円	箱状	2b			
9・23	1b	Pit 128	9N-11	古代	IV	-	0.22	0.21	0.14	0.13	0.18	9.31	円形	箱状	2b	土師器 (1)		
9	1b	Pit 129	9M-15		IV	N-2°-E	0.19	0.18	0.10	0.08	0.10	9.22	不整形円形	半円状	2b			
9	1b	Pit 130	8N-21		IV	N-41°-W	0.35	0.19	0.32	0.14	0.14	8.28	楕円	箱状	2b			
9	1b	Pit 131	8N-22		IV	N-76°-E	0.21	0.16	0.10	0.06	0.11	8.28	不整形楕円	半円状	2b			
9	1b	Pit 132	9N-2		IV	N-10°-E	0.22	0.17	0.14	0.07	0.28	8.56	不整形楕円	U字状	2b			
9	1b	Pit 133	9M-5		IV	N-30°-W	0.37	0.28	0.26	0.11	0.24	8.50	不整形楕円	半円状	2b			
9	1b	Pit 134	9N-6・11		IV	N-48°-E	0.44	0.24	0.28	0.16	0.19	9.07	不整形楕円	半円状	2b			
9	1b	Pit 135	9M-5 9N-1		IV	N-21°-W	0.30	0.25	0.20	0.16	0.20	8.44	不整形楕円	箱状	2b			
9	1b	Pit 136	8N-17・22		IV	N-7°-W	0.31+	0.19	0.08	0.06	0.20	8.00	不整形	箱状	2b			
9	1b	Pit 137	9N-11・12・16・17		IV	N-6°-E	0.30	0.26	0.17	0.16	0.22	9.44	楕円形	半円状	2b			
9	1b	Pit 138	9N-17		IV	N-38°-E	0.22	0.20	0.15	0.14	0.14	9.56	不整形円形	半円状	2b			
9	1b	Pit 139	9N-16		IV	N-78°-W	0.34	0.25	0.15	0.14	0.13	9.50	不整形楕円	半円状	2b			
9	1b	Pit 140	9N-17		IV	N-26°-W	0.23	0.19	0.16	0.10	0.13	9.64	楕円	半円状	2b			
9	1b	Pit 141	10N-3		IV	N-35°-E	0.28	0.24	0.14	0.14	0.24	10.00	楕円	箱状	2b			
9	1b	Pit 142	9N-22 10N-2		IV	N-79°-W	0.21	0.17	0.14	0.09	0.17	9.91	楕円	U字状	2b			
9	1b	Pit 143	10N-3		IV	N-42°-E	0.19	0.16	0.14	0.10	0.10	10.23	不整形円形	箱状	2b			
9・23	1b	Pit 144	10N-4	古代	IV	N-70°-W	0.16	0.14	0.08	0.08	0.12	10.12	不整形円形	半円状	2b	土師器 (1) 須恵器 (1)		
9・23	1b	Pit 145	9N-16	古代	IV	N-50°-E	0.23	0.20	0.16	0.12	0.18	9.52	不整形楕円	U字状	2b	土師器 (3)		
9	1b	Pit 146	9N-18		IV	N-11°-E	0.27	0.24	0.20	0.15	0.17	9.53	不整形円形	半円状	2b			
9	1b	Pit 147	9N-22		IV	N-88°-W	0.23	0.21	0.16	0.10	0.15	9.84	不整形円形	箱状	2b			
9	1b	Pit 148	9N-13・18		IV	N-34°-W	0.21	0.19	0.13	0.11	0.22	9.36	不整形円形	U字状	2b			
9	1b	Pit 149	10N-3		IV	-	0.18	0.17	0.10	0.10	0.23	10.06	円形	箱状	2b			
9・23	1b	Pit 150	9N-19	古代	IV	N-6°-W	0.35	0.28	0.10	0.06	0.31	9.36	不整形楕円	V字状	2b	土師器 (1)		
9	1b	Pit 151	9N-13		IV	N-72°-W	0.38	0.25	0.14	0.10	0.20	9.40	不整形楕円	半円状	2b			
9	1b	Pit 152	9N-14		IV	N-5°-W	0.26	0.22	0.16	0.08	0.23	9.23	楕円	U字状	2b			
9	1b	Pit 153	9N-13		IV	N-45°-E	0.22	0.20	0.14	0.09	0.21	9.40	不整形楕円	半円状	2b			
9	1b	Pit 154	9N-13		IV	N-21°-W	0.16	0.14	0.09	0.06	0.16	9.34	楕円	V字状	2b			
9	1b	Pit 155	8N-19		IV	N-25°-E	0.22+	0.18	0.08	0.06	0.10	7.88	不整形楕円	V字状	2b			
9	1b	Pit 156	8N-19		IV	N-33°-W	0.36	0.21	0.12	0.08	0.24	7.76	不整形	階段状	2b			
9	1b	Pit 157	8N-25 8O-21		IV	N-12°-W	0.25+	0.18	0.07	0.07	0.47	8.01	不整形楕円	V字状	2b			
8	1a	Pit 158	8L-1・6		IV	N-20°-E	0.21	0.16+	0.09	0.08	0.15	8.85	不整形円形	箱状	2b		<P162	
8	1a	Pit 159	8L-7・12		IV	N-38°-W	0.25	0.22	0.16	0.12	0.13	8.97	不整形楕円	半円状	2b			
8・23	1a	Pit 160	8L-7		IV	N-19°-E	0.25	0.22	0.18	0.14	0.15	8.93	不整形楕円	箱状	2b			
8・23	1a	Pit 161	8L-7	古代	IV	-	0.23	0.22	0.14	0.14	0.19	8.86	円形	U字状	2b	土師器 (1)		
8	1a	Pit 162	8L-1・6		IV	N-30°-E	0.19	0.15	0.07	0.07	0.14	8.85	楕円形	箱状	2b		>P158	
8	1a	Pit 163	8L-2・3		IV	N-40°-E	0.27	0.18	0.16	0.10	0.13	8.78	長方形	箱状	2b			
8・23	1a	Pit 164	8L-7・8	古代	IV	N-37°-W	0.19	0.17	0.10	0.08	0.13	8.82	不整形円形	V字状	2b	鉄滓 (1)		
8	1a	Pit 165	8L-7		IV	N-45°-E	0.13	0.12	0.08	0.05	0.10	8.83	不整形楕円	半円状	2b			
8	1a	Pit 166	8L-13		IV	N-23°-W	0.24	0.23	0.15	0.06	0.13	8.90	不整形円形	半円状	2b			
8	1a	Pit 167	7L-13		IV	N-25°-E	0.21	0.20	0.14	0.10	0.27	8.15	不整形円形	箱状	2b			
8	1a	Pit 168	8L-9		IV	N-12°-W	0.23	0.17	0.16	0.08	0.12	8.78	楕円	半円状	2b			
8	1a	Pit 169	8L-19		IV	N-62°-E	0.26	0.19	0.16	0.10	0.13	9.05	楕円	箱状	2b			
8	1a	Pit 170	7L-23 8L-3		IV	N-10°-W	0.27	0.23	0.08	0.08	0.16	8.58	楕円	V字状	2b			
8	1a	Pit 171	8M-11		IV	N-39°-W	0.45	0.32	0.24	0.14(+)	0.27	8.61	不整形楕円	半円状	2b		<	

別 表

図版No.	地区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				深度	底面座標 (m)	形態		覆土分類	出土遺物	切り合い関係	備考
							上端		下端				平面	断面				
							長軸	短軸	長軸	短軸								
8	1a	Pit 174	8L-9		IV	N-87°-E	0.28	0.22	0.14	0.06	0.22	8.58	不整楕円	U字状	2b			
8	1a	Pit 175	8L-9		IV	N-81°-W	0.22	0.13	0.14	0.08	0.07	8.76	楕円	箱状	2b			
8	1a	Pit 176	8L-14		IV	N-35°-E	0.24	0.19	0.14	0.12	0.21	8.56	楕円	U字状	2b			
8	1a	Pit 177	8L-14・15		IV	N-60°-E	0.22	0.13	0.18	0.16	0.23	8.77	方形	U字状	2b			
8	1a	Pit 178	8L-8・13		IV	-	0.22	0.20	0.08	0.08	0.32	8.68	円形	U字状	2b	>P179		
8	1a	Pit 179	8L-8		IV	-	0.19	0.20	0.05	0.04	0.28	8.71	円形	U字状	2b	<P178		
7	1a	Pit 180	8K-5		IV	N-64°-E	0.24	0.18	0.14	0.12	0.08	8.92	楕円	箱状	2b			
8	1a	Pit 181	8M-6		IV	-	0.32	0.28	0.20	0.18	0.29	8.42	円形	U字状	2b			
8	1a	Pit 182	8L-20		IV	N-51°-W	0.31	0.28	0.20	0.18	0.40	8.65	不整楕円	U字状	2b			
8	1a	Pit 183	8L-14		IV	N-29°-E	0.18	0.14	0.12	0.06	0.16	8.90	不整楕円	箱状	2b			
8	1a	Pit 184	8L-25		IV	N-52°-W	0.18	0.16	0.12	0.08	0.10	9.04	不整楕円	半円状	2b			
8	1a	Pit 185	8L-20		IV	-	0.20	0.18	0.10	0.08	0.15	8.92	円形	半円状	2b			
8	1a	Pit 186	8L-20		IV	-	0.23	0.23	0.17	0.13	0.10	8.90	円形	弧状	2b			
9	1c	Pit 187	10N-15	古代	IV	N-47°-W	0.15+	0.09+	0.08	0.07	0.17	10.38	不整円形	U字状	2b	土師器 (1)		
9	1c	Pit 188	10N-5	古代	IV	-	0.26	0.26	0.19	0.16	0.18	9.90	円形	箱状	2b	土師器 (1)		
9	1c	Pit 189	100-11		IV	N-47°-W	0.17	0.10+	0.08	0.07	0.17	10.45	方形	U字状	2b			
9	1c	Pit 190	10N-15 100-11		IV	N-34°-E	0.14	0.12	0.08	0.06	0.12	10.52	楕円	箱状	2b			
9	1c	Pit 191	10N-4・5		IV	-	0.22	0.20	0.13	0.11	0.16	10.12	円形	箱状	2b			
9	1c	Pit 192	10N-4・9		IV	N-10°-W	0.32	0.27	0.25	0.18	0.14	10.14	不整楕円	半円状	2b			
9	1c	Pit 193	10N-5		IV	N-44°-E	0.26	0.24	0.14	0.12	0.19	9.96	不整楕円	V字状	2b			
9	1c	Pit 194	10N-15		IV	N-50°-W	0.18	0.16	0.12	0.10	0.16	10.40	不整円形	箱状	2b			
9	1c	Pit 195	10N-15	古代	IV	-	0.20	0.19	0.14	0.12	0.13	10.44	円形	半円状	2b	土師器 (1)		
9	1c	Pit 196	100-6	古代	IV	N-65°-W	0.26	0.26	0.14	0.12	0.33	10.04	不整円形	U字状	2b	土師器 (2)		
9	1c	Pit 197	10N-5・10	古代	IV	N-20°-E	0.24	0.18	0.15	0.12	0.07	10.24	楕円	半円状	2b	土師器 (1)	>P198	
9	1c	Pit 198	10N-5・10		IV	N-48°-E	0.23	0.19	0.16	0.10	0.07	10.26	不整楕円	弧状	2b	<P197		
9	1c	Pit 199	10N-5・10 100-1・6	古代	IV	N-69°-E	0.27	0.27	0.24	0.14	0.26	10.01	不整円形	箱状	2b	土師器 (2)		
9	1c	Pit 200	100-6・7	古代	IV	N-66°-E	0.32	0.23	0.25	0.16	0.20	10.23	不整楕円	箱状	2b	土師器 (1)		
11	1c	Pit 202	11P-25		II	N-40°-E	0.42	0.25	0.32	0.14	0.16	10.48	楕円	階段状	2b	>P298		
11	1c	Pit 203	12P-5 12Q-1		II	N-65°-W	0.22	0.21	0.16	0.12	0.11	10.52	不整円形	箱状	2b			
11	1c	Pit 204	12Q-1		II	-	0.15	0.15	0.10	0.10	0.08	10.50	円形	半円状	2a			
11	1c	Pit 205	11Q-21		II	N-69°-W	0.22	0.20	0.13	0.12	0.17	10.44	不整楕円	U字状	2b			
11	1c	Pit 206	11Q-16	古代	II	N-23°-E	0.36	0.26	0.26	0.14	0.08	10.48	楕円	弧状	2b	土師器 (2)		
11	1c	Pit 207	11Q-21		II	N-55°-E	0.22	0.20	0.14	0.12	0.11	10.40	不整楕円	半円状	2b			
11	1c	Pit 208	11Q-21		II	N-50°-E	0.20	0.16	0.12	0.08	0.14	10.35	楕円	箱状	2b			
11・16	1c	Pit 210	11Q-16	古代	II	N-48°-E	0.20	0.13	0.08	0.07	0.08	10.30	不整楕円	半円状	2a	土師器 (1)	<SX209	
11・16	1c	Pit 211	11Q-17	古代	II	-	0.24+	0.22+	0.14	0.12	0.18	10.04	円形	U字状	2a	土師器 (1) 黒色土器 (1) 須恵器 (1)	>P283	
11・16	1c	Pit 212	11Q-17	古代	II	N-45°-E	0.20	0.20	0.08	0.03	0.13	7.89	不整円形	階段状	2a	土師器 (1) 須恵器 (1)		
11	1c	Pit 213	11Q-17		II	N-38°-E	0.20	0.17	0.14	0.10	0.10	10.04	長方形	半円状	-			
11	1c	Pit 218	12Q-6	古代	II	N-63°-E	0.17	0.16	0.12	0.10	0.10	10.34	不整円形	半円状	2b	土師器 (1)		
11	1c	Pit 219	12Q-7		II	N-76°-E	0.18	0.12+	0.09	0.08	0.13	10.14	不整円形	半円状	2b			
11	1c	Pit 221	11Q-21・22	古代	II	N-76°-W	0.28	0.26	0.30	0.25	0.14	10.24	不整円形	弧状	2b	土師器 (1)		
11	1c	Pit 223	11Q-21		II	-	0.18	0.16	0.10	0.10	0.14	10.36	円形	U字状	2b	<SK222		
11	1c	Pit 225	11Q-21	古代	II	-	0.17	0.16	0.10	0.08	0.18	10.28	円形	半円状	2b	土師器 (2)		
11	1c	Pit 227	11Q-22	古代	II	-	0.25+	0.20+	0.11	0.08	0.20	10.10	円形	U字状	2a	土師器 (3)		
11	1c	Pit 228	12Q-2・7		II	N-85°-E	0.17	0.15	0.10	0.06	0.07	10.02	不整円形	弧状	2b			
11	1c	Pit 229	11Q-22		II	N-20°-E	0.25+	0.24+	0.22	0.18	0.10	10.02	楕円形	半円状	2b	>P230		
11	1c	Pit 230	11Q-22		II	N-39°-E	0.25+	0.18	0.18+	0.14	0.06	10.02	楕円	弧状	2b	<P229		
11	1c	Pit 231	11Q-17		II	-	0.21	0.19	0.05	0.04	0.15	10.02	円形	V字状	2b			
11・16	1c	Pit 232	11Q-17	古代	II	N-11°-E	0.26	0.20	0.08	0.06	0.18	9.98	不整楕円	U字状	2b	土師器 (2)	>P283	
11・16	1c	Pit 233	11Q-17	古代	II	N-88°-W	0.20	0.18	0.09	0.08	0.25	9.92	不整円	U字状	2b	土師器 (1)		
11	1c	Pit 234	12Q-2	古代	II	N-45°-W	0.28	0.25	0.16	0.14	0.13	10.06	不整円	弧状	2b	土師器 (1)		
11	1c	Pit 236	11Q-22	古代	II	-	0.21	0.21	0.14	0.10	0.15	9.88	円形	半円状	2b	土師器 (1)		
11・17	1c	Pit 239	12Q-7	古代	II	N-25°-E	0.18+	0.12+	0.12	0.08	0.18	9.85	楕円	U字状	2b	土師器 (2)		
11	1c	Pit 240	11Q-22		II	-	0.20	0.19	0.12	0.12	0.08	10.06	円形	箱状	2b			
11・17	1c	Pit 242	12Q-12		II	N-76°-E	0.23	0.21	0.16	0.12	0.13	9.89	不整円	箱状	2b	>SK241		
11	1c	Pit 243	11Q-22		II	N-90°-WE	0.20	0.18	0.12	0.11	0.11	10.12	不整円	半円状	2b			
11	1c	Pit 244	11Q-22		II	N-84°-E	0.20	0.20	0.14	0.12	0.10	10.12	不整楕円	半円状	2b			
11	1c	Pit 245	11Q-22		II	-	0.23	0.23	0.14	0.11	0.20	9.76	円形	半円状	2b	>P552		
11	1c	Pit 246	11Q-22		II	N-65°-E	0.22	0.21	0.10	0.10	0.12	9.78	不整円	半円状	2b			
11・17	1c	Pit 247	11Q-17・22		II	N-74°-E	0.19+	0.17	0.14	0.09	0.14	9.77	不整楕円	半円状	2b	<SK248		
11	1c	Pit 249	11Q-18		II	-	0.19	0.18	0.08	0.08	0.14	9.58	円形	半円状	2b	>P563		
11	1c	Pit 250	11Q-18		II	N-30°-E	0.20	0.18	0.10	0.18	0.14	9.64	楕円	箱状	2b			
11・16	1c	Pit 251	12Q-2		II	N-44°-E	0.22+	0.20+	0.10	0.10	0.26	9.95	不整円	V字状	2b	須恵器 (2)	>P252	
11・16	1c	Pit 252	12Q-2	古代	II	N-75°-W	0.24+	0.12+	0.14	0.10+	0.16	10.00	不整円	半円状	2b	土師器 (1)	<P251	
11	1c	Pit 253	12Q-2		II	N-22°-E	0.26	0.20	0.12	0.09	0.18	9.94	不整楕円	半円状	2b			
11	1c	Pit 254	12Q-2		II	N-74°-W	0.18	0.16	0.10	0.09	0.15	9.84	不整円	半円状	2b			
11	1c	Pit 255	11Q-17	古代	II	N-40°-E	0.25	0.22	0.18	0.12	0.10	9.93	楕円	弧状	2b	土師器 (1)	<SK553	
11	1c	Pit 256	11Q-22	古代	II	-	0.17	0.16	0.10	0.09	0.13	9.90	円形	半円状	2b	土師器 (2)		
11	1c	Pit 257	11Q-21・22		II	N-55°-W	0.32	0.22	0.20	0.12	0.18	10.18	不整楕円	半円状	2b			
11・17	1c	Pit 258	12Q-7・8・12・13		II	N-0°-WE	0.40+	0.19+	0.18	0.14	0.10	9.62	不整長楕円	U字状	2b	>SK259 SX260		
11・16	1c	Pit 263	12Q-6	古代	II	N-32°-E	0.21+	0.12+	0.10+	0.06	0.11	10.46	不整円	半円状	2b	土師器 (1) 須恵器 (1)	<SD275	
11	1c	Pit 264	12Q-6	古代	II	-	0.22+	0.10+	0.14+	0.06+	0.05+	10.43	円形	弧状	2b	土師器 (1)	<SD275	
11	1c	Pit 265	11Q-22		II	-	0.17+	0.50+	0.08	0.06	0.17	9.74	円形	U字状	2b	>P545		
11・16	1c	Pit 266	11Q-21	古代	II	N-21°-W	0.28	0.24	0.09	0.06	0.12	10.24	不整円	弧状	2b	土師器 (2)	>SK551	
11	1c	Pit 267	11Q-21		II	-	0.16	0.15	0.08	0.06	0.23	10.10	円形	U字状	2b	>SK551		
11	1c	Pit 268	11Q-16		II	N-45°-W	0.30	0.27	0.20	0.20	0.06	10.40	不整楕円	弧状	2b	>P269		
11	1c	Pit 269	11Q-16		II	-	0.20	0.12+	0.16	0.08+	0.10	10.34	円形	半円状	2a	<P268 >P588		
11	1c	Pit 271	12Q-1		II	N-11°-E	0.25	0.19+	0.12	0.10	-	-	不整楕円	-	-	>SX549 >SK214		
11	1c	Pit 274	11Q-23		II	N-23°-W	0.22	0.19	0.10	0.08	0.23	9.44	楕円	U字状	2b			

図版No.	地区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				深度	底面座標 (m)	形態		覆土分類	出土遺物	切り合い関係	備考
							上端		下端				平面	断面				
							長軸	短軸	長軸	短軸								
11	1c	Pit 276	12Q-2	古代	II	N-84°-W	0.31	0.25	0.20	0.14	0.20	9.82	不整形円	箱状	2b	土師器 (2)		
11	1c	Pit 277	11Q-22	古代	II	-	0.20	0.19	0.14	0.12	0.13	9.90	円形	半円状	2b	土師器 (2)	>P545	
11	1c	Pit 279	11P-15	古代	II	-	0.20	0.18	0.13	0.11	0.08	10.40	円形	半円状	2b	土師器 (1)		
11	1c	Pit 280	11P-15・20		II	-	0.23	0.22	0.16	0.13	0.08	10.43	円形	弧状	2b			
11・16	1c	Pit 282	11Q-16		II	N-90°-WE	0.16	0.16	0.10	0.08	0.13	10.25	不整形円	半円状	2a		>SX209	
11・16	1c	Pit 283	11Q-16・17	古代	II	N-65°-W	0.33+	0.19	0.28+	0.18	0.10	10.20	不整形円	箱状	2a	土師器 (3)	<P211 P232 SX272	
11	1c	Pit 284	11Q-16	古代	II	N-15°-W	0.24+	0.13+	0.14+	0.08+	0.11	10.18	不整形	箱状	2b	須恵器 (1)	<SX209 SX272 SK270	
11・17	1c	Pit 285	12Q-8		II	-	0.32	0.30	0.24	0.22	0.27	8.92	円形	半円状	2b		<FP261	
11	1c	Pit 287	11Q-16		IV	N-40°-E	0.35	0.20	0.14	0.07	0.22	10.16	不整形円	弧状	2b		>SX209	
11	1c	Pit 288	12Q-13		IV	N-6°-W	0.23+	0.18+	-	-	-	-	-	U字状	2b		<FP261	
11・17	1c	Pit 289	12Q-8		IV	N-8°-W	0.19	0.19	0.10	0.07	0.08	9.02	不整形	U字状	2b		<SK262	
11	1c	Pit 292	11P-18		IV	-	0.20	0.20	0.14	0.14	0.10	10.60	円形	箱状	2b			
11	1c	Pit 293	11P-9		IV	N-88°-W	0.21	0.20	0.16	0.15	0.05	10.40	不整形円	弧状	2b		<SK579	
11	1c	Pit 294	12 P-5		IV	N-36°-E	0.27	0.24	0.20	0.16	0.17	10.58	不整形円	箱状	2b			
11	1c	Pit 296	12Q-1・6		IV	-	0.16	0.15	0.70	0.70	0.14	10.38	円形	半円状	2b			
11	1c	Pit 297	11Q-6・11		IV	N-35°-W	0.25	0.22	0.15	0.12	0.11	10.08	不整形円	箱状	2b			
11	1c	Pit 298	11P-25		IV	N-41°-E	0.32	0.25	0.18	0.10	0.15	10.44	不整形円	箱状	2b		<P202	
10・19	1c	Pit 302	100-23	古代	IV	-	0.26	0.23	0.12	0.10	0.16	10.56	円形	V字状	2b	土師器 (2)		
10	1c	Pit 304	100-17・18		IV	N-60°-E	0.33	0.32	0.20	0.16	0.42	10.20	方形	U字状	2b			
10	1c	Pit 305	100-14		IV	N-79°-E	0.36	0.27	0.26	0.16	0.12	10.34	楕円	弧状	2b			
10	1c	Pit 306	100-11		IV	N-69°-E	0.21	0.17	0.11	0.09	0.11	10.50	楕円	半円状	2b			
10・19	1c	Pit 307	100-24		IV	N-49°-E	0.29	0.27	0.18	0.12	0.35	10.32	不整形円	U字状	2b			
10・18	1c	Pit 310	100-20		IV	N-56°-E	0.20	0.19	0.12	0.10	0.19	10.28	不整形円	U字状	2b			
10	1c	Pit 311	100-14		IV	N-42°-W	0.29	0.25	0.19	0.14	0.25	10.20	不整形円	箱状	2b			
10	1c	Pit 312	100-14		IV	N-15°-W	0.19	0.17	0.12	0.10	0.14	10.25	不整形円	箱状	2b			
9	1c	Pit 313	100-11		IV	N-70°-W	0.19	0.18	0.10	0.06	0.15	10.39	不整形円	U字状	2b			
9	1c	Pit 314	100-12・17		IV	-	0.30	0.29	0.18	0.11	0.19	10.39	円形	箱状	2b			
10	1c	Pit 315	100-8・13		IV	N-90°-WE	0.23	0.17	0.14	0.07	0.14	10.28	不整形円	箱状	2b			
9	1c	Pit 317	100-6	古代	IV	N-79°-W	0.27	0.20	0.16	0.10	0.12	10.34	楕円	箱状	2b	土師器 (1)		
10	1c	Pit 318	100-9		IV	N-74°-E	0.15	0.15	0.10	0.08	0.12	10.22	不整形円	箱状	2b			
10・24	1c	Pit 319	100-14	古代	IV	N-48°-W	0.42	0.28	0.28	0.14	0.22	10.25	不整形円	箱状	2b	土師器 (1)		
9・24	1c	Pit 320	10N-10 100-6	古代	IV	-	0.20	0.20	0.14	0.14	0.12	10.24	円形	半円状	2b	土師器 (2)		
10	1c	Pit 321	100-9		IV	N-81°-E	0.23	0.16	0.16	0.08	0.12	10.26	不整形円	箱状	2b			
9	1c	Pit 322	10N-10		IV	N-56°-E	0.25	0.20	0.14	0.08	0.13	10.26	楕円	半円状	2b			
10	1c	Pit 323	100-15		IV	-	0.30	0.30	0.16	0.13	0.24	10.21	円形	箱状	2b			
10	1c	Pit 324	100-15		IV	N-25°-W	0.23	0.22	0.16	0.13	0.12	10.28	不整形円	半円状	2b			
10	1c	Pit 327	100-8		IV	N-13°-W	0.21	0.15	0.18	0.08	0.15	10.18	楕円	階段状	2b			
10	1c	Pit 328	100-6		IV	N-79°-E	0.32	0.25	0.14	0.12	0.16	10.14	楕円	箱状	2b			
9・29	1c	Pit 329	10N-10		IV	N-27°-E	0.18	0.16	0.10+	0.02+	0.10	10.28	不整形円	半円状	2b		<SX326	
9	1c	Pit 330	100-1・6	古代	IV	N-54°-E	0.25	0.19	0.16	0.11	0.18	10.10	不整形円	半円状	2b	土師器 (1)		
10	1c	Pit 331	100-10・15		IV	-	0.24	0.22	0.14	0.10	0.16	10.18	円形	半円状	2b			
10	1c	Pit 332	100-15・20 10P-11・16		IV	N-5°-E	0.30	0.25	0.16	0.16	0.26	10.12	不整形円	階段状	2b			
10	1c	Pit 335	100-20 10P-16		IV	N-60°-E	0.26	0.23	0.18	0.14	0.13	10.28	楕円	箱状	2b			
10	1c	Pit 336	10P-16		IV	N-21°-E	0.22	0.19	0.08	0.08	0.16	10.20	不整形円	V字状	2b			
10	1c	Pit 337	10P-11		IV	N-16°-W	0.37	0.30	0.12	0.11	0.23	10.08	不整形円	階段状	2b			
10	1c	Pit 338	10N-5	古代	IV	N-65°-E	0.32	0.27	0.17	0.14	0.23	10.01	不整形円	U字状	2b	黒色土器 (1) 須恵器 (1)		
10	1c	Pit 339	100-2	古代	IV	N-88°-E	0.30	0.16	0.22	0.10	0.07	10.20	長方形	箱状	2b	土師器 (2)		
10	1c	Pit 340	100-1		IV	N-32°-W	0.22	0.20	0.16	0.10	0.16	10.12	不整形円	箱状	2b			
10	1c	Pit 341	100-8		IV	N-37°-W	0.21	0.20	0.14	0.12	0.26	10.10	楕円	箱状	2b			
10	1c	Pit 342	10P-12	古代	IV	N-18°-E	0.17	0.17	0.08	0.08	0.22	10.12	不整形円	箱状	2b	土師器 (1)		
10	1c	Pit 343	100-1	古代	IV	N-53°-E	0.22	0.19	0.14	0.12	0.11	10.04	楕円	半円状	2b	土師器 (1)		
10	1c	Pit 344	10P-12・13	古代	IV	N-75°-W	0.24	0.19	0.08	0.06	0.16	10.07	楕円	半円状	2b	土師器 (3)		
10	1c	Pit 346	100-10		IV	N-24°-E	0.17	0.15	0.10	0.08	0.14	10.15	不整形円	U字状	2b		>SX345	
10	1c	Pit 347	100-8	古代	IV	N-25°-E	0.22	0.19	0.40	0.10	0.15	10.24	不整形円	箱状	2b	土師器 (1)		
10	1c	Pit 348	100-2・7		IV	N-36°-E	0.25	0.25	0.40	0.10	0.14	10.18	方形	半円状	2b			
10	1c	Pit 349	100-2		IV	N-30°-E	0.35	0.27	0.06	0.06	0.14	10.16	不整形円	V字状	2b			
10	1c	Pit 350	100-7		IV	-	0.25	0.24	0.14	0.14	0.15	10.20	円形	箱状	2b			
10	1c	Pit 351	100-8		IV	-	0.13	0.12	0.05	0.05	0.11	10.30	円形	U字状	2b			
9	1c	Pit 352	10N-5		IV	-	0.16	0.14	0.04	0.04	0.16	9.98	円形	U字状	2b			
10	1c	Pit 353	100-4		IV	-	0.20	0.19	0.08	0.05	0.20	9.99	円形	U字状	2b			
10	1c	Pit 354	100-10		IV	N-18°-W	0.18	0.17	0.08	0.06	0.07	10.2+	不整形円	半円状	2b			
10	1c	Pit 355	100-10		IV	N-62°-E	0.24	0.24	0.09	0.08	0.08	10.2+	不整形円	半円状	2b			
10	1c	Pit 356	100-4		IV	N-74°-E	0.18	0.15	0.11	0.06	0.07	9.80	楕円	半円状	2b			
10	1c	Pit 357	10P-6		IV	N-29°-E	0.23	0.19	0.18	0.14	0.15	10.12	不整形円	箱状	2b			
9	1c	Pit 358	10N-9		IV	-	0.36	0.32	0.24	0.18	0.28	10.18	円形	箱状	2b			
9	1c	Pit 359	100-1		IV	-	0.18	0.18	0.14	0.11	0.10	10.17	円形	半円状	2b		>P360	
9	1c	Pit 360	100-1		IV	N-32°-E	0.16+	0.14	0.1+	0.09	0.07	10.18	不整形円	半円状	2b		<P359	
10・24	1c	Pit 361	100-9	古代	IV	N-30°-E	0.18+	0.15+	0.12	0.08	0.10	10.16	不整形円	半円状	2b	須恵器 (1)		
10	1c	Pit 362	100-9		IV	N-30°-E	0.18+	0.17+	0.08	0.08	0.23	10.01	不整形円	U字状	2b			
10	1c	Pit 363	100-3		IV	N-28°-E	0.20	0.18	0.14	0.06	0.15	9.92	不整形円	箱状	2b			
9	1c	Pit 364	100-6		IV	N-50°-W	0.27	0.17	0.16	0.12	0.15	10.30	不整形円	半円状	2b		<SX334	
9	1c	Pit 367	100-1		IV	N-43°-W	0.18	0.15	0.12	0.07	0.09	10.07	楕円	半円状	2b			
10	1c	Pit 368	100-10		IV	N-87°-E	0.22	0.19	0.16	0.12	0.12	10.04	不整形円	箱状	2b			
10	1c	Pit 369	100-5		IV	N-50°-W	0.25	0.21	0.19	0.12	0.14	10.03	楕円形	箱状	2b			
10	1c	Pit 370	10P-8		IV	N-16°-E	0.26	0.20	0.20	0.13	0.14	9.98	不整形円	箱状	2b			
10	1c	Pit 371	10P-3	古代	IV	N-76°-W	0.20	0.15	0.14	0.10	0.12	9.69	不整形円	半円状	2b			
10	1c	Pit 372	10P-7	古代	IV	N-35°-E	0.22	0.18	0.12	0.08	0.14	9.88	楕円	半円状	2b	土師器 (1)		
10	1c	Pit 373	10P-7		IV	N-33°-E	0.19	0.18	0.13	0.10	0.15	9.84	不整形円	半円状	2b			
10	1c	Pit 375	100-10		IV	N-65°-E	0.24	0.16	0.16	0.07	-	-	楕円形	階段状	2b			
10</																		

別 表

図版No.	地区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				深度	底面座標 (m)	形態		覆土分類	出土遺物	切り合い関係	備考
							上端		下端				平面	断面				
							長軸	短軸	長軸	短軸								
10・24	1c	Pit 380	10P-3・8		IV	N-31°-W	0.58	0.49	0.14	0.14	0.18	9.59	不整楕円	階段状	1			
10・24	1c	Pit 381	10P-2・3		IV	N-65°-E	0.45	0.36	0.20	0.18	0.46	9.56	不整楕円	U字状	2a			
10	1c	Pit 382	9P-23		IV	N-40°-W	0.45	0.37	0.30	0.16	0.15	9.44	不整楕円	箱状	2b			
10	1c	Pit 383	9P-23		IV	N-72°-W	0.22	0.18	0.14	0.10	0.11	9.42	不整楕円	箱状	2b			
10・22	1c	Pit 385	9P-22 10P-2	古代	IV	N-70°-E	0.81	0.64	0.15+	0.10	0.22	9.52	不整楕円	弧状	2a	土師器 (2)	<P395	
10・24	1c	Pit 386	9P-24		IV	N-21°-E	0.44	0.35	0.30	0.14	0.17	9.31	不整楕円	半円状	1		>P397	
10・24	1c	Pit 387	9P-24	古代	IV	N-82°-E	0.56	0.50	0.34	0.32	0.38	9.08	不整楕円	箱状	1	土師器 (1)		
10・24	1c	Pit 388	10P-9		IV	N-42°-E	0.34	0.28	0.21	0.12	0.24	9.41	不整形	U字状	1			
10・22	1c	Pit 389	10P-9		IV	N-60°-E	0.35	0.25	0.10	0.06	0.24	9.55	不整楕円	U字状	2a		>P390	
10	1c	Pit 392	10P-8・9		IV	N-75°-W	0.27	0.26	0.20	0.20	0.23	9.62	不整楕円	箱状	2b			
10	1c	Pit 393	10P-9		IV	N-70°-E	0.18	0.15	0.12	0.08	0.18	9.66	不整楕円	箱状	2b			
10	1c	Pit 394	10P-9		IV	N-40°-E	0.48	0.25	0.16	0.06	0.13	9.58	不整楕円	階段状	2b			
10・24	1c	Pit 396	9P-24 10P-4		IV	N-10°-E	0.25+	0.11+	-	-	0.08	9.40	-	半円状	2a			
10・24	1c	Pit 397	9P-23・24 10P-4	古代	IV	N-26°-W	0.58	0.47	0.16	0.12	0.47	9.11	不整楕円	V字状	2a	土師器 (1)	<P386	
10	1c	Pit 398	10P-4		IV	-	0.32	0.30	0.11	0.09	0.08	9.49	階段状	2b				
10	1c	Pit 399	10P-4		IV	N-77°-W	0.34	0.34	0.14	0.08	0.08	9.50	不整楕円	半円状	2b			
10	1c	Pit 400	10P-5		IV	N-35°-W	0.54	0.30	0.22	0.18	0.13	9.25	長方形	階段状	2b			
10	1c	Pit 401	10P-4		IV	-	0.26	0.24	0.08	0.06	0.35	9.37	円形	漏斗状	2b			
10・24	1c	Pit 402	10 P-2・3	古代	IV	N-84°-W	0.39	0.32	0.34	0.14	0.20	9.56	不整楕円	半円状	1	土師器 (2)		
10・24	1c	Pit 403	9P-6	古代	IV	N-69°-E	0.50	0.46	0.22	0.20	0.54	8.64	不整楕円	漏斗状	1			
10・24	1c	Pit 404	9P-6		IV	N-44°-W	0.26	0.24	0.12	0.11	0.48	8.40	不整楕円	U字状	2a	土師器 (7)		
10	1c	Pit 405	9P-12	古代	IV	N-50°-W	0.18	0.16+	0.08	0.06	0.07	9.13	不整楕円	箱状	2b	土師器 (3)	<P448	
10・25	1c	Pit 406	9P-6・7	古代	IV	N-76°-E	0.64	0.41	0.09	0.08	0.52	8.70	不整楕円	漏斗状	1	土師器 (3)	>P407	
10	1c	Pit 407	9P-6・7		IV	N-55°-E	0.26+	0.13+	0.01+	0.04+	0.08	9.12	不整楕円	弧状	2b		<P406	
10・25	1c	Pit 408	9P-6・7	古代	IV	N-19°-E	0.36	0.35	0.16	0.13	0.47	8.62	不整楕円	U字状	2a	土師器 (3)		
10・25	1c	Pit 416	9P-19	古代	IV	N-33°-E	0.38	0.31	0.09	0.09	0.16	9.13	不整楕円	階段状	2a	土師器 (4)		
10	1c	Pit 417	10P-5 10Q-1		IV	N-68°-E	0.40	0.32	0.28	0.20	0.17	9.18	楕円形	半円状	2b			
10	1c	Pit 418	10P-4・5		IV	N-90°-WE	0.30	0.28	0.16	0.14	0.09	9.50	不整楕円	弧状	2b			
10	1c	Pit 419	10P-4・9		IV	N-1°-W	0.26	0.24	0.12	0.08	0.10	9.53	不整楕円	弧状	2b			
10・26	1c	Pit 420	9P-13	古代	IV	-	0.26	0.25	0.07	0.06	0.18	9.16	円形	V字状	2a	土師器 (1)	>SK412	
10・28	1c	Pit 422	9P-18・23		IV	N-45°-E	0.40	0.32	0.19	0.18	0.49	9.04	不整楕円	U字状	2a		<SX379	
10・25	1c	Pit 423	9P-18		IV	N-35°-W	0.46+	0.46	0.24	0.24	0.35	9.02	不整楕円	箱状	1			
10・25	1c	Pit 424	9P-17		IV	-	0.45	0.43	0.28	0.22	0.32	9.10	円形	V字状	1			
10	1c	Pit 425	9P-13		IV	N-15°-W	0.29	0.23	0.14	0.10	0.06	9.08	楕円形	弧状	2b			
10	1c	Pit 426	9P-19		IV	-	0.21	0.20	0.04	0.04	0.07	9.22	円形	弧状	2b			
10	1c	Pit 427	9P-13		IV	-	0.19	0.18	0.04	0.04	0.15	9.12	円形	半円状	2b			
10	1c	Pit 428	9P-12		IV	N-80°-W	0.20	0.16	0.07	0.06	0.12	9.16	不整楕円	半円状	2b			
10	1c	Pit 430	9P-17		IV	N-65°-W	0.23	0.21	0.06	0.04	0.15	9.30	不整楕円	V字状	2b			
10	1c	Pit 431	9P-15	古代	IV	N-23°-W	0.35	0.24	0.16	0.11	0.10	9.04	不整楕円	弧状	2b	土師器 (1)		
10	1c	Pit 433	9P-7・8	古代	IV	N-28°-E	0.40	0.30	0.20	0.16	0.16	9.00	楕円形	箱状	2a			
8	1c	Pit 435	7M-23		IV	N-68°-W	0.22	0.20	0.10	0.06	0.32	7.52	不整楕円	U字状	-		<SX290	
10	1c	Pit 438	9P-15		IV	N-31°-E	0.35	0.27	0.18	0.16	0.12	8.90	楕円形	半円状	2b			
10	1c	Pit 439	9P-17		IV	-	0.23	0.20	0.14	0.12	0.08	9.34	円形	半円状	2b			
7	1a	Pit 442	7K-14		IV	N-48°-E	0.32	0.26	0.24	0.19	0.11	7.80	不整楕円	階段状	2b		>P443	
7	1a	Pit 443	7K-14		IV	N-54°-E	0.21+	0.20	0.14+	0.12	0.14	8.00	楕円形	U字状	2b		<P442	
7	1a	Pit 444	7K-14		IV	N-15°-E	0.31	0.23	0.12	0.10	0.18	7.90	不整楕円	階段状	2a			
12	1c	Pit 445	9Q-11・16		IV	N-34°-E	0.37	0.25	0.23	0.11	0.14	8.92	楕円形	半円状	2b			
12	1c	Pit 446	9Q-17		IV	N-76°-E	0.33	0.27	0.26	0.18	0.10	8.76	不整楕円	箱状	2b			
12	1c	Pit 447	9Q-7	古代	IV	N-69°-E	0.43	0.40	0.24	0.17	0.30	8.24	不整楕円	半円状	2b	土師器 (1)		
10	1c	Pit 449	9P-12		IV	N-4°-W	0.20	0.19	0.09	0.07	0.13	9.24	不整楕円	半円状	2b			
10	1c	Pit 450	9P-11		IV	N-24°-E	0.18	0.14	0.11	0.08	0.05	9.26	不整楕円	半円状	2a			
10	1c	Pit 451	9P-11・12		IV	N-47°-E	0.14	0.14	0.10	0.07	0.14	9.20	不整楕円	箱状	2b		>P448	
7	1a	Pit 452	7K-14		IV	-	0.21	0.21	0.14	0.14	0.17	8.03	円形	半円状	2b			
7	1a	Pit 453	7K-15		IV	N-22°-E	0.27	0.23	0.12	0.10	0.17	8.13	不整楕円	階段状	2b			
7	1a	Pit 454	7K-9		IV	N-14°-E	0.26	0.21	0.22	0.15	0.10	7.90	不整楕円	箱状	2b			
10	1c	Pit 455	9P-5		IV	N-53°-W	0.18	0.17	0.08	0.08	0.29	8.50	不整楕円	U字状	2b			
10・25	1c	Pit 456	9P-22・23		IV	N-50°-E	0.25	0.22	0.13	0.12	0.28	9.30	不整楕円	U字状	2a			
10	1c	Pit 457	9P-18		IV	-	0.33	0.29	0.13	0.13	0.29	9.20	円形	箱状	2b			
9	1c	Pit 458	100-6		IV	N-27°-E	0.35	0.25+	0.24	0.14	0.07	10.36	楕円形	弧状	2a		<SX334	
10	1c	Pit 464	9P-2		IV	N-19°-W	0.34	0.22	0.14	0.04	0.34	8.82	不整楕円	半円状	2b			
10	1c	Pit 465	9P-3		IV	-	0.25	0.25	0.18	0.16	0.29	8.64	円形	箱状	2b			
10	1c	Pit 466	9P-3	古代	IV	N-76°-W	0.24	0.23	0.12	0.10	0.13	8.80	不整楕円	半円状	2b	土師器 (2)		
10	1c	Pit 467	9O-15・20		IV	-	0.30	0.30	0.18	0.14	0.24	9.18	円形	半円状	2b			
10	1c	Pit 468	9O-20・25		IV	N-53°-E	0.35	0.27	0.20	0.14	0.10	9.44	楕円形	弧状	2b			
10・20	1c	Pit 470	9O-25		IV	N-52°-W	0.27	0.20	0.15	0.07	0.10	9.26	不整楕円	箱状	2b		<P460	
10	1c	Pit 472	9P-12		IV	N-86°-W	0.29	0.29	0.24	0.16	0.11	9.19	楕円形	弧状	2b			
10	1c	Pit 473	9P-5		IV	N-82°-W	0.18	0.16	0.04	0.04	0.08	8.54	不整楕円	半円状	2b			
10	1c	Pit 474	9P-5		IV	N-44°-E	0.12	0.12	0.06	0.05	0.06	8.61	不整楕円	半円状	2b			
10	1c	Pit 482	11P-8		IV	N-85°-E	0.33	0.30	0.22	0.22	0.15	10.36	不整楕円	半円状	2a			
10・18	1c	Pit 486																

図版No.	地区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				深度	底面座標 (m)	形態		覆土分類	出土遺物	切り合い関係	備考
							上端		下端				平面	断面				
							長軸	短軸	長軸	短軸								
10	1c	Pit 501	10P-12・13	古代	IV	N-9°-E	0.30	0.27	0.20	0.16	0.12	10.16	不整楕円	箱状	2b	土師器 (1) 須恵器 (2)		
10・21・25	1c	Pit 502	90-25 9P-21		IV	N-75°-W	0.50	0.37	0.32	0.24	0.23	9.54	不整楕円	箱状	1		<P460	
10・18	1c	Pit 503	11P-6		IV	N-45°-E	0.41	0.34	0.24	0.23	0.20	10.56	不整楕円	V字状	2b			
10	1c	Pit 504	10P-22		IV	N-70°-E	0.29	0.27	0.10	0.10	0.16	10.24	方形	半円状	2a			
10	1c	Pit 505	11P-5		IV	N-20°-E	0.37	0.29	0.22	0.13	0.14	9.87	不整楕円	弧状	2a			
10・25	1c	Pit 506	9P-23		IV	N-40°-E	0.46	0.46	0.24	0.2+	0.50	9.00	不整円	U字状	1		<FP365	
13	1c	Pit 508	11R-1	古代	IV	N-25°-W	0.22	0.20	0.09	0.08	0.10	8.74	不整円	弧状	2b	須恵器 (1)		
13	1c	Pit 509	11R-1	古代	IV	N-63°-W	0.22	0.18	0.11	0.08	0.16	8.66	不整楕円	半円状	2b	土師器 (2)		
13	1c	Pit 510	11R-6		IV	-	0.24	0.22	0.14	0.12	0.26	8.38	円形	U字状	2b			
13	1c	Pit 511	11R-1		IV	N-53°-E	0.18	0.16	0.10	0.08	0.18	8.60	不整円	半円状	2b			
13	1c	Pit 512	10R-21		IV	N-89°-E	0.21	0.19	0.13	0.12	0.08	8.62	不整楕円	半円状	2b			
12	1c	Pit 513	9Q-8		IV	N-18°-W	0.30+	0.18+	0.24+	0.12	-	-	楕円形	-	-		<SX377	
12	1c	Pit 514	9Q-8		IV	N-60°-E	0.32	0.24	0.09	0.06	0.13	8.10	不整楕円	箱状	2b		<SX377	
12	1c	Pit 515	9Q-9		IV	N-72°-E	0.24	0.20	0.18	0.16	0.10	8.16	不整楕円	箱状	2b		<SX377	
12	1c	Pit 517	10R-21		IV	N-28°-W	0.38	0.35	0.25	0.22	0.15	8.60	不整円	弧状	2b			
12	1c	Pit 518	10Q-20		IV	N-28°-W	0.23	0.23	0.18	0.10	0.11	8.74	不整円	半円状	2b			
12	1c	Pit 519	10Q-19		IV	N-2°-W	0.20	0.16	0.12	0.08	0.15	8.94	不整楕円	箱状	2b			
12	1c	Pit 520	11R-1・6		IV	-	0.30	0.28	0.17	0.17	0.31	8.40	円形	U字状	2b			
12	1c	Pit 521	10Q-15・20		IV	N-20°-W	0.29	0.24	0.18	0.16	0.06	8.72	不整楕円	弧状	2b			
12	1c	Pit 522	10Q-15		IV	N-3°-E	0.23	0.20	0.10	0.10	0.06	8.75	不整楕円	弧状	2b			
12	1c	Pit 523	10Q-18		IV	N-85°-E	0.30	0.18	0.11	0.08	0.10	9.20	不整楕円	弧状	2b			
13	1c	Pit 524	11R-2・3・7・8		IV	N-80°-W	0.33	0.30	0.16	0.12	0.25	8.12	不整円	半円状	2b			
10	1c	Pit 525	9P-23		IV	N-30°-E	0.23	0.17	0.12	0.10	0.08	9.40	長方形	箱状	2a			
12	1c	Pit 526	10R-6	古代	IV	N-67°-E	0.20	0.18	0.14	0.12	0.08	8.44	不整円	弧状	2b	土師器 (1)		
12	1c	Pit 527	10Q-17		IV	N-80°-E	0.32	0.23	0.08	0.08	0.12	9.40	楕円形	半円状	2b			
12	1c	Pit 528	10R-7		IV	N-83°-E	0.19	0.15	0.14	0.10	0.11	8.22	楕円形	半円状	2b			
12	1c	Pit 529	10Q-14		IV	-	0.22	0.18	0.08	0.08	0.19	8.91	円形	漏斗状	2b			
12	1c	Pit 530	10R-1		IV	-	0.30	0.30	0.16	0.16	0.21	8.24	円形	半円状	2b			
12	1c	Pit 531	10R-22		IV	N-65°-W	0.19	0.19	0.14	0.07	0.14	8.34	不整円	半円状	2b			
12	1c	Pit 532	10P-20		IV	N-7°-W	0.24	0.19	0.06	0.06	0.18	9.81	楕円形	V字状	2b			
12	1c	Pit 533	10R-2	古代	IV	N-10°-E	0.21	0.20	0.11	0.10	0.09	8.22	不整円	半円状	2b	土師器 (1)		
12	1c	Pit 534	10Q-13		IV	N-69°-W	0.25	0.20	0.14	0.08	0.14	9.13	不整円	半円状	2b			
12	1c	Pit 535	10Q-5		IV	-	0.19	0.17	0.04	0.03	0.06	8.62	円形	弧状	2b			
12	1c	Pit 537	10R-12		IV	-	0.33	0.30	0.22	0.18	0.12	8.32	円形	半円状	2b			
12	1c	Pit 538	9R-21		IV	N-1°-W	0.20	0.15	0.10	0.04	0.12	8.26	楕円形	半円状	2b			
12	1c	Pit 539	9R-21		IV	N-75°-E	0.25	0.15	0.12	0.09	0.13	8.17	楕円形	箱状	2b			
13	1c	Pit 540	11R-2	古代	IV	N-32°-E	0.25	0.21	0.12	0.11	0.30	8.08	不整楕円	U字状	2b	土師器 (2)		
13	1c	Pit 541	11R-7		IV	N-10°-W	0.20	0.20	0.12	0.11	0.10	8.40	不整形	半円状	2b			
13	1c	Pit 542	11Q-21		IV	N-33°-E	0.24	0.18	0.13	0.08	0.15	10.12	楕円形	半円状	2b		<SK222	
13	1c	Pit 543	11Q-12・13		IV	N-10°-E	0.24	0.24	0.20	0.15	0.11	9.68	不整形	半円状	2b			
13	1c	Pit 544	11Q-13		IV	N-23°-W	0.18	0.14	0.09	0.06	0.04	9.71	不整楕円	弧状	2b			
13	1c	Pit 545	11Q-22		IV	-	0.18	0.18	0.12	0.10	0.06	9.78	円形	箱状	2b		<P265 P277	
13	1c	Pit 546	11Q-22		IV	N-33°-W	0.16	0.12	0.08	0.04	0.14	9.72	楕円形	半円状	2b			
13	1c	Pit 547	11Q-7・12	古代	IV	N-68°-E	0.28	0.20	0.22	0.14	0.19	9.81	不整形	半円状	2b	土師器 (1)		
13	1c	Pit 548	12Q-3		IV	N-75°-E	0.22	0.15	0.12	0.08	0.08	9.62	楕円形	弧状	2b			
13	1c	Pit 550	11Q-23		IV	-	0.25	0.23	0.12	0.10	0.10	9.41	円形	U字状	2b			
13	1c	Pit 552	11Q-22		IV	N-74°-W	0.25	0.22	0.05	0.05	0.18	9.72	不整楕円	V字状	2b		<P245 <SK248	
13	1c	Pit 554	12Q-3		IV	-	0.20	0.18	0.08	0.06	0.16	9.58	円形	半円状	2b			
13	1c	Pit 555	11Q-18		IV	N-26°-W	0.37	0.26	0.17	0.11	0.15	9.46	不整楕円	半円状	2b			
13	1c	Pit 556	11Q-18		IV	-	0.20	0.20	0.08	0.07	0.14	9.45	円形	半円状	2b			
13	1c	Pit 557	12Q-3		IV	N-4°-E	0.15	0.13	0.09	0.04	0.07	9.52	不整楕円	半円状	2b			
13	1c	Pit 558	11Q-21		IV	N-87°-E	0.37	0.33	0.20	0.20	0.23	10.18	不整形	半円状	2b		< SK222	
13	1c	Pit 559	12Q-7		IV	N-65°-W	0.21	0.20	0.13	0.12	0.08	10.04	方形	箱状	2b			
13	1c	Pit 561	11Q-16・17・21・22		IV	N-12°-E	0.27	0.25	0.16	0.16	0.15	9.96	不整円	U字状	2b			
13	1c	Pit 563	11Q-18		IV	N-30°-W	0.35	0.22	0.28	0.14	0.12	9.55	不整楕円	箱状	2b		< P249	
13	1c	Pit 564	12Q-7		IV	N-57°-E	0.19	0.17	0.10	0.09	0.08	10.04	不整形	箱状	2b			
13	1c	Pit 565	12Q-4		IV	N-54°-W	0.27	0.18	0.08	0.05	0.13	9.05	楕円形	階段状	2b			
13	1c	Pit 566	12Q-4		IV	N-87°-E	0.16	0.16	0.12	0.08	0.16	9.17	不整円	箱状	2b			
13	1c	Pit 567	12Q-9		IV	N-19°-W	0.30	0.24	0.18	0.08	0.18	8.98	楕円形	半円状	2b			
13・25	1c	Pit 568	12Q-14		IV	-	0.40	0.38	0.14	0.14	0.40	8.45	円形	U字状	1			
13	1c	Pit 569	12Q-5・10		IV	N-54°-W	0.34	0.30	0.20	0.12	0.19	8.72	楕円形	箱状	2b			
13	1c	Pit 570	11Q-21		IV	N-70°-E	0.18	0.15	0.09	0.09	0.07	10.12	不整楕円	箱状	2b			
13	1c	Pit 571	11Q-10・15		IV	N-13°-E	0.33	0.26	0.25	0.16	0.15	8.58	不整楕円	箱状	2b		< SX278	
13	1c	Pit 572	12Q-10	古代	IV	N-28°-E	0.30	0.22	0.18	0.10	0.17	8.72	不整楕円	半円状	2b	土師器 (1)		
13	1c	Pit 574	12R-6		IV	N-20°-E	0.18	0.16	0.12	0.12	0.10	8.54	不整楕円	半円状	2b			
13	1c	Pit 575	11Q-25 11R-21		IV	N-59°-E	0.30	0.22	0.10	0.08	0.12	8.68	不整形	箱状	2b			
13	1c	Pit 576	11Q-25 12Q-5		IV	N-14°-E	0.20	0.19	0.16	0.14	0.12	8.82	不整楕円	箱状	2b			
13	1c	Pit 577	12Q-10		IV	N-48°-E	0.36	0.28	0.09	0.07	0.22	8.67	不整楕円	階段状	2a			
13	1c	Pit 578	12R-21	古代	IV	N-65°-W	0.20	0.20	0.09	0.08	0.16	8.11	不整円形	U字状	2b	土師器 (1)		
13	1c	Pit 580	12R-21・22		IV	N-84°-E	0.20	0.18	0.07	0.06								

別 表

図版No.	地区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				深度	底面座標 (m)	形態		覆土分類	出土遺物	切り合い関係	備考
							上端		下端				平面	断面				
							長軸	短軸	長軸	短軸								
13	1c	Pit 594	11R-16		IV	N-20°-E	0.17	0.17	0.06	0.05	0.10	8.62	不整形	箱状	2b			
13	1c	Pit 595	12R-3		IV	N-86°-W	0.29	0.24	0.16	0.10	0.15	7.98	楕円形	箱状	2b			
13	1c	Pit 596	11R-11・12		IV	N-43°-W	0.22	0.17	0.12	0.08	0.17	8.39	楕円形	箱状	2b			
13	1c	Pit 597	11R-11		IV	N-19°-W	0.20	0.18	0.13	0.09	0.17	8.83	楕円形	箱状	2b			
13	1c	Pit 598	11Q-15		IV	N-3°-E	0.21	0.19	0.14	0.10	0.13	9.07	楕円形	箱状	2b			
13	1c	Pit 599	11Q-15 11R-11		IV	N-20°-W	0.17	0.14	0.08	0.03	0.14	8.70	不整形楕円	V字状	2b			
13	1c	Pit 601	11R-16		IV	N-10°-W	0.21	0.20	0.12	0.11	0.15	8.64	不整形	半円状	2b			
	1c	Pit 602	13R-3		IV	N-75°-W	0.26	0.24	0.22	0.20	0.07	7.58	楕円形	弧状	2b			
	1c	Pit 603	13R-4		IV	N-50°-E	0.40	0.35	0.22	0.22	0.17	7.38	楕円形	半円状	2b			
25	1c	Pit 604	13R-3・4	古代	IV	N-77°-W	0.38	0.33	0.14	0.14	0.30	7.24	不整形	U字状	1	土師器 (1)		
	1c	Pit 605	13R-4		IV	-	0.20	0.18	0.05	0.05	0.08	7.38	円形	半円状	2b			
10	1c	Pit 606	8P-21・22		IV	N-85°-E	0.20	0.17	0.12	0.09	0.15	8.48	楕円形	箱状	2b			
10	1c	Pit 607	8P-21		IV	N-80°-W	0.26	0.22	0.09	0.09	0.23	8.52	長方形	U字状	2b			
10	1c	Pit 608	8P-21		IV	N-14°-W	0.26	0.22	0.19	0.14	0.17	8.56	楕円形	箱状	2b			
10	1c	Pit 609	8P-21 9P-1		IV	-	0.28	0.26	0.04	0.04	0.22	8.61	円形	半円状	2b			
10	1c	Pit 610	8P-21・22		IV	N-75°-E	0.22	0.18	0.10	0.10	0.24	8.60	不整形楕円	U字状	2b			
10・25	1c	Pit 611	8P-22 9P-2		IV	N-20°-E	0.41	0.30	0.14	0.14	0.38	8.49	不整形	U字状	1			
10	1c	Pit 612	9Q-25 9P-21	古代	IV	-	0.30	0.27	0.10	0.10	0.20	9.42	円形	U字状	2a	土師器 (1)		
10	1c	Pit 616	10P-16		IV	N-68°-E	0.30	0.28+	0.14	0.13	0.17	10.20	不整形楕円	半円状	2b			
10	1c	Pit 618	9Q-23 10Q-3		IV	N-65°-W	0.28	0.23	0.22	0.16	0.09	9.74	不整形楕円	弧状	2b			
10・25	1c	Pit 620	8P-22・23	古代	IV	N-35°-E	0.15+	0.15+	0.22	0.09	0.31	8.46	不整形	U字状	2b	土師器 (1)		
12	1c	Pit 623	9Q-3		IV	N-1°-W	0.26	0.19	0.16	0.08	0.12	8.20	楕円形	半円状	2b			

別表 4 古代の土坑計測表

図版No.	地区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				深度	底面座標 (m)	形態		覆土	出土遺物	切り合い関係	備考
							上端		下端				平面	断面				
							長軸	短軸	長軸	短軸								
11・17	1c	SK 214	12Q-1・6		II	N-2°-W	0.54+	0.5	0.36+	0.30	0.16	10.42	不整形	弧状	2層		>P271 SX549 SK215	
11・17	1c	SK 215	12Q-1・6	古代	II	N-0°-W	0.40+	0.25L+	0.28	0.20+	0.14	10.36	不整形	弧状	1層	土師器 (1)	<SK216 SK214 >SX549	
11・17	1c	SK 216	12Q-1	古代	II	N-5°-E	0.40	0.40+	0.22	0.20	0.07	10.44	不整形	弧状	2層	土師器 (1)	>SK215	
11	1c	SK 220	12Q-7	古代	II	-	0.36	0.31	0.22	0.16	0.21	9.96	円形	半円状	1層	土師器 (1)		
11・17	1c	SK 222	11Q-21		II	N-48°-E	0.65	0.40	0.46	0.26	0.12	10.36	楕円	階段状	1層		>P223 P542 P558	
11	1c	SK 226	12Q-7		II	-	0.32	0.30	0.13	0.10	0.15	9.94	円形	半円状	1層			
11・17	1c	SK 235	11Q-22 12Q-2	古代	II	N-6°-W	0.53	0.39	0.40	0.22	0.27	9.84	楕円	半円状	1層	土師器 (2)		
11	1c	SK 237	12Q-7		II	N-31°-W	0.30	0.25	0.22	0.14	0.10	10.04	楕円	弧状	1層			
11・17	1c	SK 238	12Q-7	古代	II	N-64°-E	0.30	0.23	0.22	0.14	0.12	9.98	楕円	弧状	1層	土師器 (2) 須恵器 (1)		
11・17	1c	SK 241	12Q-12		II	-	0.34+	0.34+	0.22	0.18	0.17	10.03	円形	階段状	2層		<P242	
11・17	1c	SK 248	11Q-17・22	古代	II	-	0.33	0.33	0.32	0.19	0.15	9.71	円形	箱状	1層	土師器 (1)	>P247 P552	
11・17	1c	SK 262	12Q-8・13		II	N-8°-W	1.12+	0.42+	0.90+	0.25	0.20	9.46	長楕円	弧状	1層		<FP261 SK286 >SX260 P289	
11・17	1c	SK 270	11Q-16・21	古代	II	N-39°-E	0.46	0.44	0.40	0.38	0.22	10.16	不整形	不整形箱状	2層	土師器 (3)	>P284 P588	
11	1c	SK 273	11Q-17		II	-	0.34	0.31	0.24	0.19	0.19	9.78	円形	箱状	1層			
11・17	1c	SK 281	11Q-16	古代	II	N-82°-W	0.43	0.33	0.18	0.14	0.20	10.07	不整形楕円	V字状	3層	土師器 (3) 須恵器 (1)	<SX272 >SX209	
11・17	1c	SK 286	12Q-13	古代	IV	N-9°-E	0.63+	0.43	0.55	0.32	0.14	9.38	不整形楕円	弧状	2層	土師器 (1)	>SK262	
10・26	1c	SK 412	9P-13	古代	IV	N-79°-W	0.51	0.47	0.26	0.16	0.16	9.18	不整形楕円	弧状	2層	土師器 (11)	<P420	
10・26・27	1c	SK 491	8P-24 9P-4	古代	IV	N-38°-W	0.89+	0.67+	0.48	0.43	0.42	8.34	不整形楕円	半円状	5層	土師器 (1)	>FP9	
10・26	1c	SK 498	11P-3・4	古代	IV	N-4°-E	0.47	0.35	0.20	0.20	0.14	10.19	不整形楕円	弧状	3層	土師器 (1)		
11・26	1c	SK 536	10Q-22・23		IV	N-60°-E	1.56	0.77	1.16	0.50	0.34	9.26	長楕円形	弧状	1層			
11・26	1c	SK 551	11Q-21		IV	N-30°-W	0.67	0.52	0.08	0.08	0.20	10.12	不整形楕円	弧状	1層		>P266 P267	
11・26	1c	SK 553	11Q-17		IV	N-60°-E	0.54	0.42	0.20	0.12	0.19	9.78	不整形楕円	階段状	1層		>P255	
11・26	1c	SK 560	11Q-17		IV	N-80°-E	0.44	0.25	0.24	0.07	0.21	9.72	楕円形	半円状	1層			
12・26	1c	SK 562	9Q-25 10Q-5		IV	N-64°-E	1.10	0.86	0.40	0.39	0.29	8.26	不整形楕円	弧状	1層			
11・26	1c	SK 579	11P-9・14・15		IV	N-82°-W	1.69	1.44	1.1+	0.90	0.30	10.25	不整形楕円	弧状	4層		>P293	
13・26	1c	SK 600	11R-16		IV	N-63°-E	0.68	0.54	0.38	0.33	0.24	8.48	不整形	弧状	1層			
10・26	1c	SK 617	10Q-25 10P-21 11Q-5 11P-1		IV	N-30°-E	0.70	0.62	0.48	0.28	0.14	10.44	不整形	弧状	1層			
10・26	1c	SK 619	11P-3・8		IV	N-38°-E	1.31	0.66	0.96	0.42	0.22	10.23	不整形長楕円	弧状	1層			

別表 5 古代の焼土坑計測表

図版No.	地区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				深度	底面座標 (m)	形態		覆土	出土遺物	切り合い関係	備考	
							上端		下端				平面	断面					
							長軸	短軸	長軸	短軸									
7・27	1a	FP 2	7K-19・20・24・25 (焼土坑)	古代	III	N-62°-E	1.99	2.06	0.16	0.16	0.16	8.58	不整形	弧状	4層	土師器 (4) 須恵器 (1)	>P40		
10・26・27	1c	FP 9	8P-23・24 9P-3・4 (焼土坑)	古代	IV	N-13°-E	2.40+	1.88+	1.42+	1.72	0.48	8.18	方形	箱状	6層	土師器 (21) 須恵器 (5)	<SK491		
11・17	1c	FP 261	12Q-8・13 (焼土坑)	古代	II	N-82°-E	1.12	0.87	0.82+	0.60	0.53	9.10	楕円	箱状	5層	土師器 (12) 須恵器 (2) 被熱礫 (1)	<SX260 >P285 P288 SK262		
9・27	1c	FP 333	9N-25 9Q-21 (焼土坑)	古代	IV	-	0.81	0.76	0.60	0.60	0.20	9.86	円形	弧状	4層	土師器 (1)			
10・27	1c	FP 365	9P-17・18・22・23 (焼土坑)	古代	IV	N-84°-W	1.66	1.62	1.50	0.97	0.16	9.34	方形	箱状	14層	土師器 (7) 黒色土器 (2) 須恵器 (1)	>P469 (SB522) P506		
12・28	1c	FP 376	9P-15 9Q-6・11 (焼土坑)	古代	IV	N-32°-W	1.5+	1.46	1.40	1.30	0.26	8.74	方形	箱状	6層	土師器 (6)			

別表 6 古代の焼土廃棄遺構計測表

図版No.	地区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				深度	底面座標 (m)	形態		覆土	出土遺物	切り合い関係	備考
							上端		下端				平面	断面				
							長軸	短軸	長軸	短軸								
13・17	1c	SK 259	12Q-12・13	古代	II	N-26°-W	0.97+	0.52+	0.83	0.65	0.25	9.56	不整楕円	弧状	4層	土師器 (1) 羽口 (2)	<P258	
8・28	1b	SX 7	8M-24	古代	IV	N-39°-E	0.56	0.50+	0.27	0.27	0.16	8.68	円	弧状	1層	被熱燻		
11・17	1c	SX 260	12Q-7・8	古代	II	N-8°-W	0.70+	0.45+	0.43+	0.24+	0.18	9.64	不整楕円	弧状	1層		<SK262 P258 FP261	
13・28	1c	SX 278	12Q-10・15		II	N-3°-W	0.72+	0.45	0.24	0.08	0.13	8.68	不整形	弧状	1層		>P571 P573	
12・28	1c	SX 377	9Q-8・9	古代	II	N-77°-W	2.04	1.06+	1.94	1.20	0.28	8.22	不整長楕円	弧状	6層	土師器 (9) 須恵器 (3)	>P513 P514 P515	
10・21	1c	Pit 410	9P-23	古代	IV	N-55°-E	0.40	0.33	0.20	0.18	0.18	9.38	不整楕円	半円状	2b	土師器 (1)	>P411	
10・28	1c	SX 379	9P-18・23	古代	IV	-	0.62	0.60	0.36	0.26	0.11	9.42	不整楕円	箱状	4層	土師器 (2)	>P422	
10・28	1c	SX 414	10P-9・10	古代	IV	-	0.65+	0.24+	0.55+	0.2+	-	9.58	円形	弧状	1層			

別表 7 古代の性格不明遺構計測表

図版No.	地区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				深度	底面座標 (m)	形態		覆土	出土遺物	切り合い関係	備考
							上端		下端				平面	断面				
							長軸	短軸	長軸	短軸								
11・16	1c	SX 209	11Q-16	古代	II	N-64°-E	0.76+	0.76+	0.7+	0.24+	0.22	10.18	-	弧状	1層	土師器 (3) 須恵器 (1)	<P282 P287 SK281 SX272 P210>P284	
11・16	1c	SX 272	11Q-16・17	古代	II	N-45°-W	0.70	0.46	0.43	0.28	0.18	10.14	長方形	弧状	2層	土師器 (2) 須恵器 (1)	>SX209 P283 P284 SK281	
11・29	1c	SX 291	10P-25 10Q-21 11P-5 11Q-1	古代	IV	N-70°-W	2.64	2.47	0.78	0.19	0.70	9.22	不整形	階段状	12層	土師器 (1)		
12・29	1c	SX 300	9P-20 9Q-16・17・22		IV	N-71°-W	3.69	1.24	3.44	1.00	0.34	8.72	不整形	弧状	2層			
9・29	1c	SX 326	10N-10	古代	IV	N-27°-E	0.46	0.42	0.26	0.19	0.10	10.31	不整円	弧状	1層	土師器 (1) 須恵器 (2)	>P329	
9・29	1c	SX 334	10O-6	古代	IV	N-89°-W	0.71	0.63	0.58	0.50	0.12	10.31	不整円	弧状	1層	土師器 (1)	>P364 P458	
10	1c	SX 345	10O-10		IV	-	0.38	0.35+	0.16+	0.20	0.14	10.16	円形	半円状	1層		<P346	
10・21	1c	SX 391	10P-2		IV	N-55°-W	0.70	0.55	0.34	0.20	0.22	9.56	不整形	階段状	1層		>P409	
10	1c	SX 429	9P-16・17		IV	N-34°-E	0.35	0.23	0.14	0.11	0.10	9.32	楕円形	弧状	1層			
10・29	1c	SX 459	9P-8・9・13・14		IV	N-16°-W	2.18	1.90	1.88	1.30	0.15	8.96	長方形	弧状	4層			
10・22・29	1c	SX 471	9P-24・25 10P-4・5	古代	IV	N-8°-E	1.93+	1.62+	1.20	0.96	0.95	8.61		箱状	16層	土師器 (1)	>P626	
13	1c	SX 549	12Q-1		IV	N-60°-W	1.12	0.28	0.92	0.10	0.13	10.25	不整形	半円状	1層		<P271 SK214 SK215	
11	1c	SX 590	11Q-13・18		IV	N-85°-E	0.80	0.64	0.08	0.08	0.33	9.42	不整楕円	弧状	1層			
13・29	1c	SX 592	12R-18・23		IV	N-15°-E	1.62+	0.98+	0.54	0.40	0.44	7.40	-	漏斗状	1層			
10・29	1c	SX 615	10P-22 11P-2		IV	N-60°-W	0.94	0.67	0.74	0.50	0.15	10.40	不整楕円	弧状	1層			

別表 8 古代の畝跡計測表

No.	群	畝間 条数	畝長 (m)	形状	最少長 (m)	最大長 (m)	最大畝幅 (m)	方位	海拔 (m)
1	A	2	0.7+	-	-	0.8+	0.3	N-9°-W	8.1~
2	A	1	0.4+	-	-	0.8+	-	N-24°-W	8.2~
3	A	3	1.5+	-	-	1.1+	0.4	N-25°-W	8.0~8.2
4	A	6	3.3+	V	-	5.8	0.5	N-55°-W	7.7~8.2
5	B	12	7.5+	III	-	4.0+	0.5	N-70°-E	7.7~8.3
6	B	2	0.8+	-	-	1.5+	0.4	N-69°-E	7.6~7.8
7	B	12	7.5+	I	1.6	1.8	0.7	N-80°-E	7.5~8.4
8	B	13	8.2+	I	1.9	2.7	0.5	N-83°-E	7.8~8.6
9	B	5	2.6+	I~II	1.5	1.7	0.4	N-78°-E	8.1~8.5
10	B	6	3.2+	I~II	-	1.9	0.4	N-75°-E	8.4~8.9
11	B	7	3.7+	I	1.6	1.9	0.5	N-85°-W	8.1~8.7
12	B	5	2.6+	-	-	2.5+	0.4	N-76°-E	8.5~8.7
13	B	3	1.4+	I~II	1.6	1.7	0.5	N-64°-W	8.5~8.6
14	B	2	0.9+	-	-	1.2+	0.4	N-80°-E	8.7~8.8
15	B	4	2.1+	-	-	1.4+	0.5	N-66°-E	8.9~9.9
16	B	2	0.9+	-	-	0.9+	0.3	N-90°-E	8.4~8.5
17	B	2	1.2+	-	-	0.9	0.3	N-90°-E	8.4~8.5
18	B	5	2.6+	I~II	-	1.5+	0.3	N-72°-E	8.3~8.4
19	B	2	0.7+	-	-	0.8	0.3	N-70°-E	8.1~8.2
20	B	4	1.8+	-	-	2.1+	0.5	N-80°-W	8.5~8.7
21	B	3	1.4+	-	-	1.3+	0.4	N-90°-W	8.5~8.6
22	B	4	1.7+	I~II	2.2	2.5	0.3	N-75°-E	8.6~8.7
23	B	8	4.2	I	1.3	1.8	0.4	N-88°-W	8.6~9.0
24	B	5	3.2+	-	-	1.7	0.3	N-75°-E	8.7~9.0
25	B	3	1.4+	I~II	1.9	2.0	0.3	N-80°-E	8.9~9.0
26	B	4	1.3+	-	-	1.5+	0.3	N-80~90°-E	9.0~9.1
27	B	3	1.5+	-	-	0.9	0.3	N-85°-E	9.1~9.2
28	C	3	1.2+	I~II	1.4	1.5+	0.3	N-45°-W	8.7~8.8
29	C	10	5.0+	I	1.2	1.6	0.5	N-43°-W	8.5~8.9
30	C	2	0.7	-	-	0.8	0.4	N-47°-W	8.9~9.1
31	C	16	8.6+	Ia	1.6	1.8	0.4	N-40°-W	8.4~9.1
32	C	5	2.6+	I	1.5	1.6	0.5	N-12°-W	8.9~9.0
33	C	4	1.9+	-	-	1.2+	0.4	N-52°-W	8.7~8.8
34	C	12	6.8+	I	1.2	1.3	0.5	N-25°-W	8.5~9.1
35	C	7	3.2	IIIa	-	3.4	0.3	N-20°-W	8.5~9.0
36	C	5	2.5+	I	-	1.2	0.4	N-70°-W	8.9~9.1
37	C	2	1.0+	-	-	0.7+	0.4	N-20°-W	9.1~9.2

No.	群	畝間 条数	畝長 (m)	形状	最少長 (m)	最大長 (m)	最大畝幅 (m)	方位	海拔 (m)	
38	C	2	1.2+	-	-	1.8	0.3	N-50°-W	7.9~8.0	
39	C	6	3.2+	-	-	1.6	0.4	N-20°-W	7.9~8.2	
40	C	13	8.2+	Ia	1.7	2.0	0.5	N-21°-W	7.3~8.5	
41	C	14	9.0	Ia	3.3	3.9	0.9	N-19°-W	7.3~8.5	
42	C	12	7.8	IIIb	1.7	7.3	0.6	N-14°-W	8.0~9.1	
43	C	3	1.8+	I	1.3	1.5	0.4	N-38°-W	8.7~9.1	
44	C	4	1.7+	I~II	1.8	2.3	0.3	N-25°-W	8.7~9.1	
45	D	8	4.3+	Ia	1.4	1.8	0.5	N-75°-W	8.7~9.1	
46	D	17	9.4+	Ia	1.4	1.8	0.5	N-77°-W	8.4~9.2	
47	D	19	10.5+	Ia	1.0	1.7	0.5	N-73°-W	7.7~9.6	
48	D	14	8.0+	I~II	1.9	2.4	0.5	N-70~75°-E	8.6~9.9	
49	D	13	7.0+	I	-	1.4	0.4	N-69°-E	9.1~10.0	
50	D	11	5.7	Ia	1.0	1.6	0.4	N-81~90°-E	8.3~9.4	
51	D	33	19.2+	Ia	1.5	2.1	0.6	N-78~90°-E	7.3~10.0	
52	D	9	5.1+	I	1.1	1.5	0.6	N-88°-W	7.4~8.3	
53	D	15	8.5+	I	2.4	2.6	0.5	N-85~90°-W	7.4~9.9	
54	D	8	4.2	Ia	1.3	1.5	0.5	N-90°-W	8.5~9.8	
55	D	16	8.5	Ia	1.1	1.3	0.4	N-60°-W	8.5~9.8	
56	D	18	9.3	I	0.7	1.8	0.4	N-64°-W	8.9~10.3	
57	D	8	3.9+	I~II	1.5	1.9	0.5	N-64°-W	9.7~10.3	
58	D	8	4.6	Ia	1.2	1.8	0.5	N-81~90°-E	9.6~10.2	
59	D	6	2.5+	I~II	-	2.6	0.4	N-90°-E	10.2~10.5	
60	D	2	1.0+	-	-	2.5	0.4	N-90°-E	10.2~10.3	
61	D	30	16.5	Ia	1.3	1.9	0.6	N-85~90°-E	7.5~10.1	
62	D	18	8.9+	IIIa	2.2	5.3	0.5	N-90°-E	7.5~9.0	
63	D	9	3.8+	I	-	1.8	0.3	N-87°-E	7.8~8.4	
64	D	6	2.7+	-	-	1.5	2.2+	0.3	N-71~90°-E	8.3~8.8
65	D	4	2.4+	I	1.9	2.3+	0.9	N-72°-E	8.1~8.9	
66	D	4	2.7+	I~II	-	2.3+	0.9	N-88°-E	8.5~9.0	
67	D	7	4.4+	I	-	1.2+	0.4	N-70°-E	8.1~8.7	
68	D	5	2.0+	I~II	1.8	2.0	0.4	N-87°-E	9.2~9.6	
69	D	3	1.3	-	-	1.7	0.3	N-76°-E	9.5~9.7	
70	D	3	1.1	I~II	-	1.8+	0.4	N-74°-E	9.6~9.8	
71	D	9	5.2	II	1.9	2.5	0.6	N-82°-E	9.0~9.7	
72	D	16	7.0+	IIIb	1.8	4.0	0.4	N-90°-E	9.7~10.6	
73	D	18	10.0+	II	1.9	3.3+	0.4	N-90°-E	9.6~10.6	
74	D	17	9.6+	II	1.7	3.9	0.5	N-85°-E	9.1~10.3	

別 表

No.	群	畝間 条数	畝長 (m)	形状	最少長 (m)	最大長 (m)	最大畝幅 (m)	方位	海拔 (m)
75	D	12	6.5	I a	1.6	2.3	0.4	N-82°-E	8.5~9.1
76	D	10	5.5	I a	-	2.6	0.5	N-66°-E	8.7~9.4
77	D	7	4.3+	I	2.7	3.0	0.5	N-66°-E	8.9~9.4
78	D	15	8.6	II	1.9	3.5	0.5	N-80~90°-W	9.4~10.4
79	E	26	15.8	II	2.8	4.8	0.5	N-55~70°-W	8.5~9.2
80	E	9	5.4+	IIIa	1.8	4.0	0.5	N-82°-W	8.6~9.1
81	E	7	4.5+	I~II	3.0	3.6	0.6	N-78°-W	8.6~9.1
82	E	11	6.7	I a	2.1	2.4	0.4	N-53~57°-W	9.0~9.6
83	E	12	5.7	I a	1.6	2.0	0.4	N-75°-W	9.6~10.4
84	E	4	2.0	-	-	1.7+	0.4	N-70°-W	9.4~9.6
85	E	20	11.4+	I	2.5	2.9	0.4	N-42~55°-W	8.3~9.4
86	E	5	2.5+	I~II	-	3.0	0.4	N-45°-W	8.3~8.5
87	E	11	6.2	I a	1.8	2.4	0.4	N-40~45°-W	8.7~9.3
88	E	13	9.0	I a	-	2.7	0.5	N-43°-W	8.4~9.3
89	E	17	10.8	II	2.0	3.3	0.6	N-23~47°-W	9.1~10.1
90	E	13	7.8	I~II	-	2.3	0.6	N-35°-W	8.8~9.7
91	E	23	14.0	I b	2.2	3.0+	0.6	N-40°-W	9.5~10.6
92	E	5	2.6+	I~II	-	3.1	0.3	N-60°-W	9.9~10.1
93	E	7	3.5+	I~II	3.0	3.3	0.4	N-35°-W	10.2~10.4
94	F	11	6.7+	I	1.7	2.3	0.5	N-17°-W	8.3~9.0
95	F	9	5.5+	I	2.1	2.4	0.6	N-20°-W	8.1~8.7
96	F	14	8.6+	I	2.1	2.4	0.5	N-20°-W	8.1~8.8
97	F	20	12.0+	I	-	4.4	0.5	N-5°-W	7.6~8.7
98	F	17	10.7	II	-	4.0+	0.5	N-8°-W	8.5~9.7
99	F	11	6.0+	I	-	4.0	0.4	N-0°-S	8.2~8.9
100	F	32	18.1+	IIIb	3.1	13.3	0.5	N-10°-W	8.2~10.1
101	F	29	16.7+	I b	2.0	3.2	0.4	N-0~26°-E	8.2~10.0
102	F	6	3.5	I~II	-	2.2	0.4	N-15°-E	9.7~10.4
103	F	5	3.0	I~II	-	2.7	0.4	N-10°-W	9.9~10.3
104	F	14	7.6	I a	-	3.8	0.4	N-10°-E	9.3~10.2
105	F	13	8.5	II	2.0	4.7	0.5	N-20~28°-E	8.2~8.9
106	F	7	3.6+	I~II	-	2.8	0.4	N-3°-E	8.1~8.7
107	F	8	4.3	I a	2.7	3.0	0.3	N-10°-W	8.6~9.1
108	F	6	3.2+	I~II	2.3	2.4	0.4	N-8°-W	8.0~8.5

No.	群	畝間 条数	畝長 (m)	形状	最少長 (m)	最大長 (m)	最大畝幅 (m)	方位	海拔 (m)
109	F	24	14.8	I b	1.9	3.6	0.5	N-0~10°-W	8.5~10.4
110	F	26	15.0+	I a	3.0	4.0	0.4	N-30°-W	8.9~10.8
111	F	25	16.4+	I	2.3	2.8	0.6	N-0~5°-W	8.0~10.5
112	F	15	9.3+	I	3.1	4.0	0.5	N-2°-E	8.0~9.2
113	F	10	6.1	I~II	-	2.2	0.6	N-0°-S	8.0~8.9
114	F	15	8.7	I	2.5	3.3	0.5	N-0°-S	7.4~9.2
115	F	16	9.2+	IIIa	-	5.4	0.6	N-19°-E	7.4~9.0
116	F	4	1.8+	I~II	-	2.0	0.4	N-17°-E	9.4~9.8
117	F	8	4.3+	I	2.1	2.4	0.4	N-9°-E	9.3~10.2
118	F	5	3.0	I	1.9	2.4+	0.6	N-0°-S	10.2~10.6
119	G	18	10.5	I a	2.5	2.7	0.4	N-35°-E	7.2~9.3
120	G	10	5.0+	IV	1.9	4.7+	0.4	N-23°-E	7.2~8.4
121	G	18	10.7+	I	2.2	2.7+	0.4	N-30°-E	7.2~9.4
122	G	9	5.0+	I~II	-	2.2+	0.4	N-22°-E	7.2~8.5
123	G	8	5.2	I a	1.9	2.2	0.7	N-33°-E	9.2~10.2
124	G	5	3.4+	I~II	-	1.5+	0.4	N-15°-E	9.2~10.1
125	G	7	4.4	I a	1.5	1.8	0.4	N-35°-E	9.7~10.6
126	H	6	2.9+	I~II	3.5	4.2	0.5	N-82°-W	10.4~10.6
127	H	9	4.7+	I	2.1	2.4	0.5	N-15°-E	10.4~10.6
128	H	9	4.3+	I	1.9	2.4	0.4	N-40°-W	10.4~10.6
129	H	2	0.7+	-	-	1.3+	0.4	N-34°-W	10.3~10.4
130	H	9	4.8+	I	-	2.0+	0.3	N-43°-W	10.4~10.6
131	H	15	8.2+	I	-	2.3+	0.5	N-42°-W	10.2~10.6
132	H	6	3.2+	I	-	3.3	0.4	N-47°-W	10.5~10.7
133	H	3	1.4+	-	-	2.1+	0.4	N-52°-W	10.6~10.7
134	H	9	4.8+	I	2.8	3.3+	0.5	N-36°-W	10.4~10.8
135	H	10	6.3+	I	-	4.5+	0.4	N-75°-W	10.3~10.6
136	H	3	1.2+	-	-	2.1	0.3	N-73°-W	10.4~10.6
137	H	18	10.2	I	2.2	2.7	0.5	N-6°-E	10.1~10.6
138	H	14	8.4+	I	2.2	2.4	0.5	N-0°-S	10.4~10.7
139	H	13	8.0+	I	-	3.2	0.4	N-8°-E~ ~N-1°-W	10.4~10.8
140	H	6	3.3+	I~II	-	1.7+	0.4	N-9°-E	10.6~10.8
141	H	8	4.7	I	-	3.5+	0.5	N-4°-E	10.1~10.8

別表 9 近世遺構計測表

図版No.	地区	遺構	グリッド	時代	確認 面	主軸方位	規模 (m)				深度	底面 座標 (m)	形態			出土遺物	切り合い関係	備考
							上端		下端				平面	断面	覆土			
							長軸	短軸	長軸	短軸								
7・41	1a	SE 1	7J-10・15	近世	II	N- 0°-S	1.256	1.196	1.18	1.08	3.56+	-	円	-	-	土師器 (5) 須恵器 (2) 近世近代遺物 (112)		
8・41	1a	SX 3	8L・7・8・12・13・18	近世	II	N- 2°-E	4.86+	2.01+	1.52+	0.86+	0.80	8.23	不整形	階段状	6層	土師器 (7) 須恵器 (1) 近世近代遺物 (86)		遺物廃棄坑
41・42	1a	盛土遺構	7K-23・24	近世	IV	-	9.5	-	-	-	1.66	7.91	-	-	12層	土師器 (12) 須恵器 (2) 近世近代遺物 (30)		
8・42	1a	SX 6	7M-16・17・21・22	近世	II	N- 74°-E	2.90+	2.29+	1.72	0.94	0.23	8.20	不整形	弧状	1層	土師器 (31) 須恵器 (4) 近世近代遺物 (135)		遺物廃棄坑
11・42	1c	Pit 201	11P-24・25	近世	II	N- 0°-S	0.40	0.40	0.26	0.24	0.12	10.62	方形	箱形	1層	近世近代遺物 (1)		
13・16	1a	SD 275	12Q-6	近世	II	N- 89°-W	1.80+	0.20	1.52+	0.10	0.16	10.32	不整形	箱状	2層	土師器 (2)	>P263 P264	
8・42	1a	SX 290	7M-18・22・23 8M-3	近世	II	N- 7°-W	2.36+	2.11+	1.98	0.68+	0.38	8.03	不整形	箱状	3層	土師器 (7) 須恵器 (1) 近世近代遺物 (32)	>P435	遺物廃棄坑
11・42	1c	SK 295	11P-18	近世	IV	N- 73°-E	0.65	0.42	0.35	0.19	0.25	10.52	不整楕円	階段状	1層	土師器 (4) 須恵器 (2) 近世近代遺物 (3)		
11	1c	Pit 299	11Q-11	近世	IV	-	0.20	0.19	0.17	0.12	0.17	10.00	円形	箱状	2b層	近世近代遺物 (6)		
12・41	1c	SD 507	8Q-23・24 9Q-3・4・5・9・10・15 9R-11	近世	IV	N- 43°-W	6.52	0.80	6.28	0.38	0.16	7.96	不整形	箱状	1層	土師器 (8) 須恵器 (3) 近世近代遺物 (3)		

別表 10 縄文土器観察表

図版No.	報告No.	出土位置			器種	遺存部位	文様	色調	時期	備考											
		地区	遺構名	グリッド							層位										
44	1	1b		8N-7	II 深鉢	体	縄文 (RL)	外面: にぶい黄橙 (10YR7/2) 内面: 橙 (7.5YR7/6)	前期	含織維土器											
44	2	1a		7K-17	I 深鉢	体	縄文 (RL)	外面: にぶい黄橙 (10YR7/4) 内面:	前期	含織維土器											
44	3	1b		8O-16	I 深鉢	口	竹管平行沈線	外面: にぶい黄橙 (10YR7/4) 内面: 橙 (5YR6/8)	中期前葉												
44	4	1b		9M-3	II 深鉢	体	竹管平行沈線・縄文 (RL)	外面: 浅黄橙 (7.5YR8/6) 内面:	中期前葉												
44	5a	1a	SK440	7K-14	II	深鉢	口	竹管平行沈線・単沈線	外面:	橙 (5YR6/8)	中期中葉										
	5b											2	口								
	5c													体							
	5d														隆帯						
	5e															縄文 (LR・RL)					
5f	内面:																				
7K-9		II	体																		
7K-25				II 深鉢	体	竹管平行沈線	外面: 明赤褐 (5YR5/6) 内面:	中期中葉													
7K-14									I 深鉢	口辺	隆帯	外面: 橙 (5YR6/8) 内面:	中期中葉								
7K-18														III 深鉢	口	隆帯	外面: 橙 (5YR6/8) 内面:	中期中葉			
Pit573	1 深鉢																		把手	単沈線	外面: にぶい黄橙 (10YR7/4) 内面:
10a		II	深鉢																		
10b				8M-22																	
10c					8M-24																
10d						8M-23															
8M-23 9M-4																					
7K-14	II 深鉢	底					外面: 黄褐 (10YR5/6) 内面:	中期													
8M-23				II 深鉢					底	底面網代圧痕	外面: 明褐 (7.5YR5/6) 内面:	後期中葉									

別表 11 縄文・弥生時代石器観察表

図版No.	報告No.	出土位置			時代	器種	色調	遺存状態	石材	法量			備考	
		地区	遺構名	グリッド						層位	長さ (mm)	幅 (mm)		厚さ (mm)
44	13	1b		9M-4	II 縄文	石籤	灰褐 (7.5YR5/2)	完形	頁岩	56	5	4.4	3.1	アスファルト付着
44	14	1b		8N-18	II 縄文	石籤	灰オリーブ (5Y6/2)	先端・側面欠損	珪質流紋岩	24+	15+	4	1.6	
44	15	1b		7M-24	I 弥生	石籤	灰白 (2.5Y8/1)	完形	珪質流紋岩	20	14	4.4	1.2	
44	16	1c		10P-9	I 縄文	石核	オリーブ黒 (5Y3/1)		メノウ	31	22	10.5	8.2	
44	17	1c		11Q-4	I 縄文	剥片	明褐 (7.5YR5/6)		鉄石英	27	25.5	5	3.4	
44	18	1a		8L-9	I 縄文	二次加工剥片	灰白 (N8/) 褐灰 (7.5YR6/1)		珪質頁岩	25	24	9	4.3	
44	19	1c		10P-8	I 縄文	二次加工剥片	褐灰 (7.5YR6/1)		珪質頁岩	30	27.5	11	9.4	
44	20	1b		8N-2	II 縄文	礫石錘	明オリーブ灰 (2.5GY7/1)	完形	安山岩	82+	69	23	200.0	
44	21	1b		9M-8	III 縄文	磨石	明黄褐 (2.5Y6/8)	破損	安山岩	105	61	42	399.0	被熱
44	22	1a		8L-24	II 縄文	磨製石斧	浅黄 (2.5Y7/3)	刃部破片	安山岩	39+	58	22	67.1	
44	23	1b		8O-11	I 縄文	磨製石斧	灰白 (5Y8/1) 青灰白 (5B5/1)	刃部欠損	蛇紋岩	58+	52	30.5	143.6	

別表 12 古代土器観察表

図版No.	報告No.	出土位置			種別	器種	分類	法量 (cm)			胎土		色調	焼成	手法				遺存率			備考			
		地区	遺構名	グリッド				層位	口径	底径	器高	分類			産地	外面	内面	底部	回転方向	タタキ整形分類	口縁部		底部	全体	
48	1	1c	P303	100-13 (SB516)	1	土師器	甕	タタキ甕	-	-	-	I b	角田山麓	外面: にぶい黄橙 (10YR6/4) 内面: 浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	平行タタキ目	同心円当て具痕	-	-	-	1C	-	-	-	
48	2	1c	P484	9P-12 (SB516)	1	土師器	小甕		-	6.9	-	II a	角田山麓	外面: 橙 (7.5YR6/6) 内面:	酸化		糸切り	-	-	-	8/36	-	-		
48	3	1c	P309	100-22 (SB516)	3	須恵器	無台杯		-	-	-	I b	角田山麓	外面: 灰 (5Y6/1) 内面:	還元			-	-	-	1/36	-	-		
48	4	1c	P485	10P-22 (SB516)	4	須恵器	無台杯		12.3	8.3	3.2	I a	角田山麓	外面: 灰白 (7.5Y7/1) 内面:	還元			ヘラ切り	-	-	4/36	6/36	4/36		
48	5	1c	P485	10P-22 (SB516)	3	須恵器	無台杯		-	7.7	-	I b	角田山麓	外面: 灰 (5Y6/1) 内面: 灰黄 (2.5Y6/2)	還元			ヘラ切り	-	-	3/36	-	-		
48	6	1c	P448	9P-11 (SB621)	1	土師器	椀		15.7	-	-	I b	角田山麓	外面: にぶい黄橙 (10YR7/4) 内面:	酸化			-	-	-	5/36	-	-		
48	7	1c	P448	9P-12 (SB621)	4	土師器	長甕	タタキ甕	-	-	-	II b	角田山麓	外面: 浅黄橙 (10YR8/4) 内面:	酸化	平行タタキ目	不明	-	-	1	-	-	-		
48	8	1c	P448	9P-11 (SB621)	1	土師器	長甕	ロクロ甕	-	-	-	I b	角田山麓	外面: にぶい黄橙 (7.5YR7/4) 内面: 浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	カキ目		-	-	-	-	-	-		
48	9	1c	P434	9P-12 (SB621)	1	土師器	長甕	ロクロ甕	17.3	-	-	II a	角田山麓	外面: 明黄橙 (10YR7/6) 内面: 橙 (7.5YR6/6)	酸化		カキ目	-	-	-	4/36	-	-		
48	10	1c	P460	9O-25 (SB621)	1	土師器	甕	ハケ甕	-	-	-	II b	角田山麓	外面: 橙 (7.5YR7/6) 内面: 橙 (7.5YR6/8)	酸化	ハケ目		-	-	-	-	-	-		
48	11	1c	P461	9O-24 (SB621)	1	土師器	甕	ハケ甕	-	-	-	I b	角田山麓	外面: 明褐 (7.5YR5/6) 内面: にぶい褐 (7.5YR5/4)	酸化	ハケ目	ハケ目	-	-	-	-	-	-		
48	12	1c	P626	10P-5 (SB622)	1	土師器	甕	ハケ甕2類	17.2	-	-	I b	角田山麓	外面: 橙 (7.5YR6/6) 内面: 黒 (5Y2/1)	酸化	ハケ目	ハケ目	-	-	-	4/36	-	-		

別 表

図版 No.	報告 No.	出土位置				種別	器種	分類	法量 (cm)			胎土		色調	焼成	手法					遺存率			備考		
		地区	遺構名	グリッド	層位				口径	底径	器高	分類	産地			外面	内面	底部	回転 方向	タタ 整形 分類	口縁部	底部	全体			
48	13	1c	P626	10P-5 (SB622)	1	土師器	甕	ハケ甕	15.7	-	-	I b	角田 山麓	外面: にぶい黄橙 (10YR6/3) 内面: にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	ハケ目	ハケ目	-	-	-	4/36	-	-			
48	14	1c	P626	10P-5 (SB622)	1	土師器	甕	ハケ甕	19.8	-	-	I a	角田 山麓	外面: にぶい黄橙 (10YR6/4) 内面: 黒褐 (10YR3/1)	酸化	ハケ目		-	-	-	4/36	-	-			
48	15	1c	P626	10P-5 (SB622)	1	土師器	甕	ハケ甕	-	6.0	-	II b	角田 山麓	外面: にぶい黄橙 (10YR6/4) 内面:	酸化	ハケ目		-	-	-	15/36	-				
48	16	1c	P626	10P-5 (SB622)	1	須恵器	杯		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 灰 (10Y6/1) 内面:	還元			ヘラ切 り	左	-	-	-	-	-		
48	17	1c	P395	10P-12 (SB622)	2	土師器	甕	ハケ甕	-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 明赤褐 (5YR5/6) 内面:	酸化	ハケ目	ハケ目	-	-	-	-	-	-	-		
48	18	1c	P395	10P-12 (SB622)	2	土師器	甕	ハケ甕	-	-	-	II b	角田 山麓	外面: 暗褐 (10YR3/4) 内面:	酸化	ハケ目		-	-	-	-	-	-	-		
48	19	1c	P432	9P-18 (SB622)	1	土師器	甕	ハケ甕	-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 明赤褐 (5YR5/6) 内面:	酸化	ハケ目	ハケ目	-	-	-	-	-	-	-		
48	20	1b	P123	9M-15	1	土師器	鍋		-	-	-	II b	角田 山麓	外面: 橙 (7.5YR7/6) 内面:	酸化	平行タタ キ目		-	-	1	-	-	-	-		
48	21	1b	P144	10N-4	1	須恵器	無台杯		-	6.3	-	V	小泊	外面: オリーブ灰 (25GY6/1) 内面:	還元			ヘラ切 り		-	-	-	8/36	-		
48	22	1b	P145	9N-6	1	土師器	小甕		-	6.7	-	II b	新津 丘陵	外面: 橙 (2.5YR6/8) 内面: 明赤褐 (5YR5/6)	酸化			糸切り		-	-	-	7/36	-		
48	23	1c	P212	11Q-17	1	須恵器	有台杯		-	7.3	-	I b	角田 山麓	外面: 緑灰 (7.5GY6/1) 内面:	還元			ヘラ切 り		-	-	-	5/36	-		
48	24	1c	P263	12Q-6	1	須恵器	無台杯		12.8	7.8	3.0	II	新津 丘陵	外面: 灰 (N5/ 内面:	還元			ヘラ切 り		-	9/36	14/36	10/36			
48	25	1c	P251	12Q-2	1	須恵器	無台杯		13.0	8.2	3.1	V	小泊	外面: オリーブ灰 (5GY6/1) 内面: 暗緑灰 (10G3/1)	還元			ヘラ切 り		-	3/36	7/36	4/36			
48	26	1c	P251	12Q-2	1	須恵器	有台杯		-	7.4	-	V	小泊	外面: オリーブ灰 (5GY6/1) 内面:	還元			ヘラ切 り		-	-	-	15/36	-		
48	27	1c	P266	11Q-21	1	土師器	甕	ハケ甕	-	-	-	II b	角田 山麓	外面: にぶい褐 (7.5YR5/4) 内面:	酸化	ハケ目	ハケ目	-	-	-	-	-	-	-		
48	28	1c	P319	10O-14	1	土師器	甕	ロクロ 甕	-	-	-	I b	角田 山麓	外面: にぶい橙 (7.5YR7/4) 内面:	還元	カキ目	カキ目	-	-	-	1/36	-	-	-		
48	29	1c	P320	10O-6	1	土師器	甕	タタキ 甕	-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 橙 (5YR6/6) 内面:	酸化	平行タタ キ目	平行当 て具痕	-	-	1A	-	-	-	-		
48	30	1c	P361	10O-9	1	須恵器	甕		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 暗緑灰 (10G4/1) 内面: 緑灰 (10G6/1)	還元	平行タタ キ目	同心円当 て具痕	-	-	1C	-	-	-	-		
48	31	1c	P404	9P-6	1	土師器	無台椀		-	-	-	II b	角田 山麓	外面: 浅黄橙 (10YR8/4) 内面: にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化			-	-	-	4/36	-	-			
48	32	1c	P404	9P-6	1	土師器	甕	タタキ 甕	-	-	-	II b	角田 山麓	外面: 浅黄橙 (10YR8/3) 内面: にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	平行タタ キ目	同心円当 て具痕	-	-	1C	-	-	-	-		
48	33	1c	P408	9P-6	1	土師器	無台椀		-	6.3	-	II b	角田 山麓	外面: にぶい黄橙 (10YR7/4) 内面: 橙 (2.5YR6/6)	酸化			-	-	-	-	-	33/36	-		
48	34	1c	P408	9P-6	1	土師器	甕	タタキ 甕	-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 浅黄橙 (10YR8/4) 内面:	酸化	平行タタ キ目	同心円当 て具痕	-	-	1C	-	-	-	-		
48	35	1c	P416	9P-19	1	土師器	小甕		11.5	-	-	II b	角田 山麓	外面: 橙 (5YR6/6) 内面: 褐 (7.5YR6/8)	酸化			-	-	-	6/36	-	-			
48	36	1c	P416	9P-19	1	土師器	甕	ハケ甕	-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 褐 (7.5YR4/6) 内面: 橙 (7.5YR6/6)	酸化	ハケ目	不明	-	-	-	-	-	-	-		
48	37	1c	P416	9P-19	1	土師器	小甕		-	8.9	-	I b	角田 山麓	外面: 明赤褐 (5YR5/6) 内面:	酸化			糸切り		-	-	-	6/36	-		
48	38	1c	P604	13R-4	2	土師器	平底甕		-	7.6	-	I b	角田 山麓	外面: 橙 (5YR6/6) 内面:	酸化			-	-	-	-	-	-	-		
48	39	1c	P604	13R-4	1	土師器	甕	ロクロ 甕	-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 橙 (5YR7/6) 内面:	酸化			同心円当 て具痕	-	-	-	-	19/36	-		
48	40	1c	P620	8P-22	1	土師器	甕	タタキ 甕	-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 橙 (5YR6/6) 内面:	酸化	平行タタ キ目		-	-	1	-	-	-	-		
49	41	1c	SK235	11Q-22 12Q-2	1	土師器	甕	ハケ甕	-	-	-	I b	角田 山麓	外面: にぶい黄褐 (10YR5/3) 内面: にぶい黄褐 (10YR5/4)	酸化	ハケ目	ハケ目	-	-	-	-	-	-	-		
49	42	1c	SK235	11Q-22 12Q-2	1	土師器	甕	ハケ甕	-	-	-	I b	角田 山麓	外面: にぶい橙 (7.5YR7/4) 内面: にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ケズリ	ハケ目	-	-	-	-	-	-	-		
49	43	1c	SK238	12Q-7	1	土師器	甕		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 橙 (7.5YR6/6) 内面:	酸化			-	-	-	-	-	-	-	東北系	
49	44	1c	SK491	8P-24	4	土師器	椀		-	4.6	-	I b	角田 山麓	外面: にぶい黄橙 (10YR6/3) 内面: 灰黄褐 (10YR6/2)	酸化			糸切り		-	-	-	6/36	-		
49	45	1a	FP2	7K-20	2	土師器	甕	ハケ甕	-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 灰白 (2.5YR8/2) 内面:	酸化	ハケ目	ハケ目	-	-	-	-	-	-	-		
49	46	1a	FP2	7K-24	1	土師器	甕	ハケ甕	-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 明黄褐 (10YR7/6) 内面: 明赤褐 (5YR5/6)	酸化	ハケ目	ハケ目	-	-	-	-	-	-	-		
49	47	1a	FP2	7K-24	1	須恵器	杯		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: オリーブ灰 (5Y6/2) 内面:	還元			-	-	-	-	-	-	-		
49	48	1c	FP9	8P-24	1	土師器	椀		-	5.0	-	II a	角田 山麓	外面: 橙 (5YR6/8) 内面: 橙 (5YR6/6)	酸化			糸切り		-	-	-	10/36	-		

図版 No.	報告 No.	出土位置				種類	器種	分類	法量 (cm)			胎土		色調	焼成	手法					遺存率			備考	
		地区	遺構名	グリッド	層位				口径	底径	器高	分類	産地			外面	内面	底部	回転 方向	タキ 整形 分類	口縁部	底部	全体		
49	49	1c	FP9	9P-4	2	土師器	鍋		44.0	-	-	IIa	角田山麓	外面: 橙 (7.5YR6/6) 内面: 橙 (7.5YR6/6)	酸化	カキ目		-	-	-	3/36	-	-		
49	50	1c	FP9	8P-24	1	土師器	長囊	?	21.5	-	-	IIa	角田山麓	外面: 橙 (7.5YR6/6) 内面: 橙 (7.5YR6/6)	酸化	カキ目	カキ目	-	-	-	5/36	-	-		
49	51	1c	FP9	8P-24	1	土師器	囊	ロクロ囊	-	-	-	IIa	角田山麓	外面: 浅黄橙 (7.5YR8/6) 内面: 浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	平行タタキ目	不明	-	-	1	-	-	-		
49	52	1c	FP9	8P-24	2	土師器	小囊		-	7.1	-	Ib	角田山麓	外面: 赤橙 (10YR6/6) 内面: にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化						-	-	7/36	-	
49	53	1c	FP9	8P-24	1	須恵器	有台杯		-	9.0	-	V	小泊	外面: 灰黄褐 (10YR4/2) 内面: 黒褐 (10YR3/1)	還元				ヘラ切り	-	-	7/36	-		
49	54	1c	FP9	8P-24	1	須恵器	無台杯		-	7.5	-	Ib	角田山麓	外面: 灰 (5Y6/1) 内面: 灰 (5Y6/1)	還元				ヘラ切り	-	-	14/36	-		
49	55	1c	FP9	8P-24	2	須恵器	無台杯		-	6.8	-	Ib	角田山麓	外面: オリーブ灰 (2.5GY6/1) 内面: オリーブ灰 (2.5GY6/1)	還元				ヘラ切り	-	-	10/36	-		
49	56	1c	FP9	8P-24	2	須恵器	囊					Ib	角田山麓	外面: オリーブ灰 (5Y6/2) 内面: オリーブ黄 (5Y6/3)	酸化	格子状タタキ目	同心円当て具痕	-	-	2C	-	-	-		
49	57	1c	FP261	12Q-8	3	土師器	囊	ハケ囊	16	-	-	Ia	角田山麓	外面: 橙 7.5YR6/8 内面: 橙 7.5YR6/8	酸化	ハケ目	ハケ目	-	-	-	7/36	-	-		
49	58	1c	FP261	12Q-8	3	土師器	囊	ハケ囊	-	-	-	Ib	角田山麓	外面: にぶい褐 (7.5YR5/4) 内面: にぶい褐 (7.5YR5/4)	酸化	ハケ目		-	-	-	1/36	-	-		
49	59	1c	FP261	12Q-8	3	土師器	囊	ハケ囊	-	-	-	Ia	角田山麓	外面: 黒褐 (7.5YR3/2) 内面: 褐灰 (7.5YR4/1)	酸化	ハケ目	ハケ目	-	-	-	-	-	-		
49	60	1c	FP261	12Q-8	4	土師器	囊	ハケ囊	-	-	-	Ib	角田山麓	外面: 橙 (7.5YR7/6) 内面: 橙 (7.5YR7/6)	酸化	ハケ目	ハケ目	-	-	-	-	-	-		
49	61	1c	FP261	12Q-8	3	土師器	囊	ハケ囊	-	-	-	Ib	角田山麓	外面: にぶい赤褐 (5YR5/4) 内面: にぶい赤褐 (5YR5/4)	酸化	ケズリ	ハケ目	-	-	-	-	-	-		
49	62	1c	FP261	12Q-8	3	須恵器	有台杯		-	-	-	II	新津丘陵	外面: オリーブ灰 (5GY6/1) 内面: オリーブ灰 (2.5GY6/1)	還元						1/36	-	-		
49	63	1c	FP261	12Q-8	3	須恵器	杯蓋		13.5	-	2.5	II	新津丘陵	外面: 灰 (N4/) 内面: 灰 (N4/)	還元				右	-	3/36	-	7/36		
49	64	1c	FP365	9P-22	2	黒色土器	椀		-	-	-	IIa	角田山麓	外面: 黒褐 (7.5YR3/2) 内面: 黒 (N2/)	酸化	ミガキ	ミガキ	-	-	-	-	-	-		
49	65	1c	FP365	9P-22	2	須恵器	無台杯		-	-	-	V	小泊	外面: 灰 (5Y6/1) 内面: 灰 (5Y6/1)	還元				ヘラ切り	-	-	1/36	-		
49	66	1c	SX291	10Q-21	-	土師器	囊	平底囊	-	8.6	-	Ib	角田山麓	外面: 暗オリーブ灰 (2.5GY3/1) 内面: にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ハケ目		-	-	-	-	2/36	-		
49	67	1c	SX377	9Q-8	1	土師器	囊	ハケ囊	-	-	-	IIb	角田山麓	外面: 橙 (7.5YR7/6) 内面: にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ハケ目	ハケ目	-	-	-	-	-	-		
49	68	1c	SX377	9Q-8	1	須恵器	無台杯		-	-	-	Ib	角田山麓	外面: 橙 (5YR6/8) 内面: 橙 (5YR6/8)	酸化						-	-	-	焼成不良品	
49	69	1c	SX377	9Q-8	1	須恵器	無台杯		-	-	-	Ib	角田山麓	外面: 褐灰 (7.5YR5/1) 内面: 橙 (7.5YR7/6)	酸化				ヘラ切り	-	-	-	-	焼成不良品	
49	70	1c	SX379	9P-23	1	土師器	無台椀		12.8	-	-	Ia	角田山麓	外面: 橙 (7.5YR7/6) 内面: 橙 (7.5YR7/6)	酸化						11/36	-	-		
49	71	1c	SX379	9P-23	1	須恵器	無台杯		14.6	-	-	II	新津丘陵	外面: 灰 (5Y6/1) 内面: 灰 (5Y6/1)	還元						2/36	-	-		
51	72	1b		8M-25	II	土師器	長囊	西古志囊	20.5	-	34.2	Ia	角田山麓	外面: 浅黄橙 (10YR8/3) 内面: 浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ハケ目	ハケ目	-	-	-	12/36	-	-	土器集中	
51	73	1b		8M-16 8L-20 8L-20	II I	土師器	長囊	西古志囊	20.0	-	28.0	Ib	角田山麓	外面: 明赤褐 (5YR5/6) 内面: 橙 (5YR7/6)	酸化	ハケ目	ハケ目	-	-	-	2/36	-	-	土器集中	
51	74	1b		8M-25	II	土師器	長囊	西古志囊	21.3	-	-	Ib	角田山麓	外面: 浅黄橙 (10YR8/6) 内面: 橙 (5YR7/6)	酸化	ハケ目		-	-	-	20/36	-	-	土器集中	
51	75	1b		8M-25	II	土師器	小囊	西古志囊	13.4	-	-	Ib	角田山麓	外面: 橙 (5YR-7/8) 内面: 橙 (5YR-7/8)	酸化	ハケ目	ハケ目	-	-	-	22/36	-	-	土器集中	
51	76	1b		8M-25	II	土師器	小囊	西古志囊	14.1	-	-	Ib	角田山麓	外面: 橙 (5YR-7/6) 内面: 橙 (5YR-7/6)	酸化	ハケ目	ハケ目	-	-	-	36/36	-	-	土器集中	
51	77	1b		8M-25	II	土師器	長囊	西古志囊	-	-	-	Ib	角田山麓	外面: 橙 (5YR-7/8) 内面: 橙 (5YR-7/8)	酸化	ハケ目	ハケ目	-	-	-	-	-	-	土器集中	
51	78	1b		8M-25	II	土師器	小囊	西古志囊	-	8.3	-	Ib	角田山麓	外面: 浅黄橙 (10YR8/3) 内面: 橙 (5YR6/8)	酸化						-	-	22/36	-	
51	79	1b		8M-25	II	土師器	小囊	西古志囊	-	7.8	-	Ia	角田山麓	外面: 橙 (5YR6/6) 内面: にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化		ハケ目				-	-	10/36	-	土器集中
51	80	1b		8M-25	II	黒色土器	無台椀		-	6.2	-	Ia	角田山麓	外面: にぶい黄橙 (10YR7/4) 内面: ？ (10YR4/1)	酸化	ミガキ	ミガキ	ミガキ	-	-	-	18/36	-	土器集中	
51	81	1b		8M-25	II	土師器	鍋		38.6	-	16.6	Ia	角田山麓	外面: 橙 (5YR7/8) 内面: 橙 (5YR7/8)	酸化		ハケ目ケズリ				3/36	-	8/36	土器集中	
52	82	1c		13R-2	II	土師器	無台椀		12.2	8.0	2.4	IIb	角田山麓	外面: 明赤褐 (5YR5/6) 内面: 明赤褐 (5YR5/6)	酸化				糸切り	-	2/36	5/36	4/36		
52	83	1c		11Q-22	II	土師器	無台椀		-	8.2	-	IIb	角田山麓	外面: にぶい黄褐 (10YR5/3) 内面: にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化				糸切り	-	-	4/36	-		
52	84	1b		10N-3	II	土師器	無台椀		-	5.4	-	IIb	角田山麓	外面: 橙 (5YR7/8) 内面: 橙 (5YR7/8)	酸化				糸切り	-	-	12/36	-		

別 表

図版 No.	報告 No.	出土位置				器種	分類	法量 (cm)			胎土		色調	焼成	手法					遺存率			備考			
		地区	遺構名	グリッド	層位			口径	底径	器高	分類	産地			外面	内面	底部	回転 方向	タタキ 整形 分類	口縁部	底部	全体				
52	85	1c		11Q-18	II	土師器	無台椀		-	4.8	-	I b	角田 山麓	外面: にぶい黄橙 (2.5Y7/4) 内面: 浅黄橙 (2.5Y8/4)	酸化				糸切り	右	-	-	17/36	-		
52	86	1c		11Q-22	II	土師器	無台椀		-	4.8	-	II b	角田 山麓	外面: 橙 (2.5YR6/8) 内面: 橙 (5YR6/8)	酸化				糸切り		-	-	23/36	-		
52	87	1c		12Q-7	II	土師器	無台椀		-	6.0	-	I b	角田 山麓	外面: 橙 (7.5YR7/6) 内面: 橙 (7.5YR6/6)	酸化				糸切り		-	-	9/36	-		
52	88	1b		8O-16	I	土師器	甕	ハケ甕	19.7	-	-	II b	角田 山麓	外面: 橙 (7.5YR6/6) 内面: 橙 (7.5YR6/6)	酸化	ハケ目	ハケ目						2/36	-	-	
52	89	1a		7K-14	II	土師器	甕	ハケ甕	14.2	-	-	I b	角田 山麓	外面: 明赤褐 (5YR5/6) 内面: 橙 (7.5YR7/6)	酸化	ハケ目	ハケ目 カキ目						1/36	-	-	
52	90	1b		8M-19	II	土師器	甕	ハケ甕	13.6	-	-	II b	角田 山麓	外面: にぶい黄橙 (7.5YR7/4) 内面: にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ハケ目							2/36	-	-	
52	91	1c		13R-3	I	土師器	甕	西古志 甕	-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 橙 (5YR6/6) 内面: にぶい黄橙 (7.5YR6/4)	酸化		ハケ目						1/36	-	-	
52	92	1b		8M-20	II	土師器	甕	西古志 甕	13.7	-	-	I b	角田 山麓	外面: 橙 (5YR6/6) 内面: 黒褐 (5YR3/1)	酸化		ハケ目						3/36	-	-	
52	93	1b		8M-21・ 24	II	土師器	甕	西古志 甕	-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 橙 (5YR6/8) 内面: 橙 (5YR6/6)	酸化	ハケ目	ハケ目						-	-	焼成不 良品	
52	94	1a		7K-14	II	土師器	甕	ハケ甕	-	-	-	I a	角田 山麓	外面: にぶい黄橙 (10YR7/4) 内面: 橙 (5YR7/8)	酸化	ハケ目							-	-	-	
52	95	1b		8N-2	I	土師器	甕	ハケ甕	-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 橙 (5YR6/6) 内面: 赤灰 (2.5YR4/1)	酸化	ハケ目	ハケ目						-	-	-	
52	96	-		排土	-	土師器	甕	ハケ甕	-	-	-	I a	角田 山麓	外面: 橙 (7.5YR6/6) 内面: にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ハケ目	ハケ目						-	-	-	
52	97	1c		10O-9	II	土師器	甕	ハケ甕	-	-	-	II b	角田 山麓	外面: にぶい黄橙 (7.5YR7/4) 内面: 橙 (5YR6/6)	酸化	ハケ目	ハケ目						-	-	-	
52	98	1a		7K-14	I	土師器	甕	ハケ甕	-	-	-	I b	角田 山麓	外面: にぶい黄橙 (7.5YR6/4) 内面: 橙 (5YR6/6)	酸化	ケズリ	ハケ目						-	-	-	
52	99	1c		13R-3	I	土師器	甕	平底ハ ケ甕	-	7.7	-	I b	角田 山麓	外面: 橙 (7.5YR7/6) 内面: 橙 (5YR6/8)	酸化	ハケ目							9/36	-	-	
52	100	1a		7K-14	I	土師器	甕	平底ハ ケ甕	-	7.0	-	I b	角田 山麓	外面: 浅黄橙 (10YR8/4) 内面: 明黄橙 (10YR6/6)	酸化	ハケ目							-	-	14/36	
52	101	1a		7K-13	I	土師器	甕	平底ハ ケ甕	-	8.0	-	I b	角田 山麓	外面: 浅黄橙 (10YR8/4) 内面: 橙 (5YR6/6)	酸化	ハケ目		木葉痕					8/36	-	-	
52	102	1c		11R-11	II	土師器	甕	平底ハ ケ甕	-	6.0	-	I b	角田 山麓	外面: にぶい黄橙 (10YR6/4) 内面: 橙 (5YR6/6)	酸化	ハケ目		ケズリ					14/36	-	-	
52	103	1c		9P-6	II	土師器	甕	タタキ 甕	-	-	-	II b	角田 山麓	外面: 浅黄橙 (7.5YR8/3) 内面: 橙 (5YR6/6)	酸化	平行タタ キ目	同心円当 て具痕			1C			-	-	-	
52	104	1b		8N-24	I	土師器	甕	タタキ 甕	-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 暗灰 (N3/) 内面: 橙 (5YR6/6)	酸化	平行タタ キ目	ハケ目				1		-	-	-	
52	105	1c		13R-3	I	土師器	甕	タタキ 甕	-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 暗褐 (10YR3/3) 内面: にぶい黄橙 (7.5YR5/4)	酸化	平行タタ キ目	ハケ目				1		-	-	-	
52	106	1b		9M-20	I	土師器	甕	タタキ 甕	-	-	-	II a	角田 山麓	外面: 黒褐 (10YR3/2) 内面: 橙 (7.5YR7/6)	酸化	平行タタ キ目	平行当 て具痕				1A		-	-	-	
52	107	1c		10N-5	II	土師器	甕	タタキ 甕	-	-	-	II b	角田 山麓	外面: 橙 (7.5YR6/6) 内面: にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	平行タタ キ目	平行当 て具痕				1A		-	-	-	
52	108	1c		11Q-23	II	土師器	甕	タタキ 甕	-	-	-	I a	角田 山麓	外面: 橙 (7.5YR6/6) 内面: 浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	平行タタ キ目	平行当 て具痕				1A		-	-	-	
52	109	1c		12Q-3	II	土師器	甕	タタキ 甕	-	-	-	I a	角田 山麓	外面: にぶい黄橙 (10YR7/4) 内面: 橙 (5YR6/6)	酸化	平行タタ キ目	平行当 て具痕				1A		-	-	-	
52	110	1c		9P-6	II	土師器	鍋		-	-	-	II a	角田 山麓	外面: 橙 (5YR7/6) 内面: 橙 (7.5YR7/6)	酸化								1/36	-	-	
52	111	1c		10P-8	II	土師器	鍋		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: にぶい黄橙 (10YR5/3) 内面: 橙 (7.5YR6/6)	酸化								1/36	-	-	
52	112	1c		13R-5	I	土師器	鍋		-	-	-	II a	角田 山麓	外面: 橙 (5YR7/6) 内面: 橙 (7.5YR7/6)	酸化		カキ目						1/36	-	-	
52	113	1b		9M-20	I	土師器	鍋		-	-	-	II a	角田 山麓	外面: 橙 (5YR7/6) 内面: 橙 (7.5YR7/6)	酸化								1/36	-	-	
52	114	1b		8M-9 8M-21	II	黒色 土器	椀		-	7.7	-	I b	角田 山麓	外面: 明赤褐 (5YR5/6) 内面: 黒 (N1.5/)	酸化	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ			1/36	24/36	-	-	
52	115	1b		8M-21 8M-22	II	黒色 土器	椀		-	8.5	-	I b	角田 山麓	外面: 明赤褐 (5YR5/6) 内面: 黒 (N1.5/)	酸化	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ					11/36	-	-
52	116	1c		10N-5	II	黒色 土器	椀		-	8.0	-	II b	角田 山麓	外面: 橙 (5YR6/6) 内面: 黒 (N2/)	酸化	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ					4/36	-	-
53	117	1b		9N-12 9N-17	I II	須恵器	杯蓋		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 灰黄 (2.5Y6/2) 内面: 灰白 (7.5Y7/1)	還元	ケズリ							-	-	-	
53	118	-		表探	-	須恵器	杯蓋		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 灰白 (7.5Y7/1) 内面: 灰白 (7.5Y7/1)	還元								-	-	-	
53	119	1c		10P-5	I	須恵器	杯蓋		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 灰白 (5YR7/2) 内面: 灰白 (5YR7/2)	還元								-	-	-	

図版 No.	報告 No.	出土位置				種類	器種	分類	法量 (cm)			胎土		色調	焼成	手法					遺存率			備考						
		地区	遺構名	グリッド	層位				口径	底径	器高	分類	産地			外面	内面	底部	回転 方向	タテ 整形 分類	口縁部	底部	全体							
53	120	1a		8M-25	II	須恵器	杯蓋		13.4	-	-	II	角田山麓	外面: 灰白 (7.5Y7/1) 内面: 灰 (N6/)	還元								27/36	-	-					
53	121	1c		12Q-2	I	須恵器	杯蓋		-	-	-	II	新津丘陵	外面: にぶい赤褐 (5YR4/3) 内面: 灰 (5Y6/1)	還元								4/36	-	-					
53	122	1b		7M-25	II	須恵器	杯蓋		15.7	-	-	II	新津丘陵	外面: 暗灰黄 (2.5Y5/2) 内面: にぶい黄 (2.5Y6/3)	還元								3/36	-	-					
53	123	1c		13R-3	I	須恵器	杯蓋		15.0	-	-	II	新津丘陵	外面: 灰 (7.5Y6/1) 内面: 灰 (7.5Y6/1)	還元								-	-	-					
53	124	1c		13R-2	II	須恵器	杯蓋		-	-	-	V	小泊	外面: 灰 (10Y5/1) 内面: 灰 (10Y5/1)	還元								1/36	10/36	10/36					
53	125	1b		8M-24	II	須恵器	有台杯		12.7	8.0	4.0	III	阿賀北	外面: 灰 (10Y5/1) 内面: 灰 (10Y5/1)	還元								4/36	-	-					
53	126	1b		8M-25	II	須恵器	有台杯		14.5	-	-	II	新津丘陵	外面: 灰 (N4/) 内面: 灰 (N6/)	還元								4/36	-	-					
53	127	1b		7N-21	I	須恵器	有台杯		-	11.4	-	II	新津丘陵	外面: 灰 (10Y5/1) 内面: 灰白 (N7/)	還元								6/36	-	-					
53	128	1b		9M-9	II	須恵器	有台杯		-	6.2	-	II	新津丘陵	外面: にぶい褐 (7.5YR5/3) 内面: 灰白 (5Y7/1)	還元								4/36	-	-					
53	129	1c		10Q-5	II	須恵器	有台杯		-	8.6	-	V	小泊	外面: 黒 (7.5YR2/1) 内面: 黄灰 (2.5Y5/1)	還元								6/36	-	-					
53	130	1b		9N-25 10N-4	II I	須恵器	有台杯		-	7.8	-	V	小泊	外面: 青黒 (5PB1.7/1) 内面: 灰 (10Y6/1)	還元								36/36	-	-					
53	131	-		排土	-	須恵器	有台杯		-	7.2	-	V	小泊	外面: 灰 (N4/) 内面: 灰 (N4/)	還元								ヘラ切り	左	-	33/36	36/36	34/36		
53	132	1b		8M-25	II	須恵器	無台杯		12.4	9.4	3.5	I a	角田山麓	外面: 橙 (2.5YR6/8) 内面: にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化								ヘラ切り	左	-	13/36	30/36	22/36	焼成不良品	
53	133	1b		8M-22・ 23 9M-7	II	須恵器	無台杯		14.0	10.3	3.9	I b	角田山麓	外面: 橙 (5YR7/6) 内面: 橙 (7.5YR7/6)	酸化								-	-	3/36	-	-	焼成不良品		
53	134	1b		8M-21	II	須恵器	無台杯		13.5	-	-	I b	角田山麓	外面: 橙 (5YR7/6) 内面: 橙 (5YR7/6)	酸化								-	-	8/36	-	-	焼成不良品		
53	135	1b		8M-21	II	須恵器	無台杯		13.7	-	-	I b	角田山麓	外面: 橙 (5YR6/8) 内面: 浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化								-	-	1/36	4/36	2/36	焼成不良品		
53	136	1b		8N-1	II	須恵器	無台杯		13.7	-	-	I b	角田山麓	外面: 橙 (7.5YR6/6) 内面: 橙 (7.5YR6/6)	酸化								-	-	1/36	-	-	焼成不良品		
53	137	1a		7L-18	I	須恵器	無台杯		12.7	-	-	I a	角田山麓	外面: 橙 (7.5YR6/6) 内面: 橙 (7.5YR6/6)	酸化								-	-	1/36	-	-	焼成不良品		
53	138	1b		8M-22	II	須恵器	無台杯		13.9	-	-	I b	角田山麓	外面: 橙 (7.5YR6/6) 内面: 明黄褐 (10YR7/6)	酸化								-	-	5/36	-	-	焼成不良品		
53	139	1b		8M-21	II	須恵器	無台杯		13.0	-	-	I b	角田山麓	外面: 橙 (5YR6/6) 内面: 橙 (5YR6/6)	酸化								-	-	6/36	-	-	焼成不良品		
53	140	1b		8M-21	II	須恵器	無台杯		12.7	-	-	I b	角田山麓	外面: 橙 (5YR6/6) 内面: 橙 (5YR6/6)	酸化								-	-	6/36	-	-	焼成不良品		
53	141	1a		7L-16	III	須恵器	無台杯		14.2	-	-	I a	角田山麓	外面: にぶい黄橙 (10YR6/4) 内面: 橙 (7.5YR6/6)	酸化								-	-	1/36	-	-	焼成不良品		
53	142	1a		8M-11	I	須恵器	無台杯		-	7.0	-	I b	角田山麓	外面: 灰黄褐 (10YR4/2) 内面: 褐 (7.5YR4/3)	酸化								ヘラ切り		-	-	10/36	-	焼成不良品	
53	143	1b		8M-21	II	須恵器	無台杯		-	8.8	-	I b	角田山麓	外面: 橙 (5YR7/8) 内面: 灰 (10Y5/1)	酸化								ヘラ切り		-	-	10/36	-	焼成不良品	
53	144	1c		12Q-7	I	須恵器	無台杯		-	7.0	-	I b	角田山麓	外面: 灰 (10Y5/1) 内面: 灰 (10Y5/1)	還元								ヘラ切り		-	-	14/36	-		
53	145	1a		7L-12 7L-13	II I	須恵器	無台杯		12.5	8.0	3.8	I b	角田山麓	外面: 灰 (10Y6/1) 内面: 灰 (10Y6/1)	還元								ヘラ切り	右	-	31/36	36/36	33/36		
53	146	1c		10P-10	I	須恵器	無台杯		-	11.0	-	II	新津丘陵	外面: 浅黄 (2.5Y7/3) 内面: 灰白 (5Y7/1)	還元								ヘラ切り		-	-	11/36	-		
53	147	1b		8M-5	I	須恵器	無台杯		-	8.0	-	V	小泊	外面: 灰 (10Y6/1) 内面: 灰 (10Y6/1)	還元								ヘラ切り		-	-	18/36	10/36		
54	148	1b		8M-20・ 24 8N-11	II	須恵器	無台杯		12.2	7.7	3.3	V	小泊	外面: 灰 (10Y6/1) 内面: 灰 (10Y6/1)	還元								ヘラ切り	左	-	7/36	31/36	30/36		
54	149	1b		9N-24	I	須恵器	無台杯		15.5	-	-	V	小泊	外面: 灰 (7.5Y5/1) 内面: 灰 (7.5Y5/1)	還元								ヘラ切り		-	-	4/36	-	-	
54	150	1c		11Q-12	II	須恵器	無台杯		-	9.0	-	V	小泊	外面: 灰 (N5/) 内面: 灰 (N5/)	還元								ヘラ切り		-	-	6/36	-		
54	151	-		不明	-	須恵器	無台杯		13.3	9.3	3.6	V	小泊	外面: 灰 (10Y6/1) 内面: 灰 (10Y6/1)	還元								ヘラ切り		-	6/36	8/36	7/36	底面墨書	
54	152	1b		8O-16	I	須恵器	無台杯		12.4	-	-	V	小泊	外面: 灰 (5Y6/1) 内面: 灰 (5Y6/1)	還元										-	-	6/36	-	1b/36	
54	153	1c		11Q-12	II	須恵器	無台杯		12.6	8.5	3.1	V	小泊	外面: 灰 (7.5Y5/1) 内面: 灰 (N4/)	還元								ヘラ切り		-	-	2/36	10/36	6/36	
54	154	1c		9O-23	I	須恵器	無台杯		12.9	8.0	3.0	V	小泊	外面: 灰白 (10Y7/1) 内面: 灰白 (10Y7/1)	還元								ヘラ切り		-	-	4/36	9/36	6/36	
54	155	1c		11Q-21	II	須恵器	無台杯		13.2	9.6	3.3	V	小泊	外面: 灰 (7.5Y5/1) 内面: 灰 (7.5Y5/1)	還元								ヘラ切り		-	-	6/36	-	-	
54	156	1b		8O-7	I	須恵器	無台杯		-	6.5	-	V	小泊	外面: 灰 (10Y5/1) 内面: 灰 (10Y5/1)	還元								ヘラ切り	左	-	-	6/36	-		
54	157	1c		8O-18	I	須恵器	無台杯		-	8.0	-	V	小泊	外面: 灰 (10Y5/1) 内面: 灰 (10Y5/1)	還元								ヘラ切り		-	-	9/36	-		
54	158	1b		10N-4	I	須恵器	無台杯		-	7.5	-	V	小泊	外面: 灰 (10Y5/1) 内面: 灰 (10Y5/1)	還元								ヘラ切り		-	-	7/36	-		

別 表

図版 No.	報告 No.	出土位置				種類	器種	分類	法量 (cm)			胎土		色調	焼成	手法					遺存率			備考		
		地区	遺構名	グリッド	層位				口径	底径	器高	分類	産地			外面	内面	底部	回転 方向	タタ 整形 分類	口縁部	底部	全体			
54	159	1a		7K-23	II	須恵器	広口壺		18.5	-	-	I b	角田 山麓	外面: 灰 (N5/) 内面: 灰 (N5/)	還元								-	-	-	
54	160	1c		10P-11	I	須恵器	長頸壺		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 灰黄 (2.5Y6/2) 内面: 灰 (5Y6/1)	還元								-	-	-	
54	161	1b		8N-24	I	須恵器	壺		-	-	-	I a	角田 山麓	外面: 灰 (N4/) 内面: 灰 (N5/)	還元	平行タタ キ目					1		-	-	-	
54	162	1a		7K-14	II	須恵器	長頸壺		-	-	-	II	新津 丘陵	外面: 灰白 (10Y7/1) 内面: 黄灰 (2.5Y5/1)	還元								-	-	-	
54	163	1a	盛土遺構	7K-17	6	須恵器	横瓶		-	-	-	II	新津 丘陵	外面: 灰 (5Y5/1) 内面: 灰黄褐 (10YR5/2)	還元	平行タタ キ目	同心円当 て具痕				1C		-	-	-	
54	164	1b		9M-3	II	須恵器	短頸壺		-	7.7	-	II	新津 丘陵	外面: オリーブ灰 (5Y3/1) 内面: 灰白 (2.5Y7/1)	還元		ナデ	ナデ					-	34/36	-	
54	165	1b		8N-3	I	須恵器	長頸壺		-	9.6	-	II	新津 丘陵	外面: オリーブ黒 (7.5Y2/2) 内面: 灰白 (5Y7/1)	還元								-	8/36	-	
54	166	1b		7M-20	II	須恵器	壺		-	-	-	III	阿賀北	外面: 灰白 (5Y7/1) 内面: 灰白 (2.5Y7/1)	還元		ハケ目						-	-	-	
54	167	-		排土	-	須恵器	壺		11.0	-	-	V	小泊	外面: 灰 (5Y6/1) 内面: 灰 (N5/)	還元							2/36	-	-	-	
54	168	1b		8M-25	II	須恵器	長頸壺		-	-	-	V	小泊	外面: 黒褐 (2.5Y3/1) 内面: にぶい黄 (2.5Y6/3)	還元								-	-	-	
54	169	1c		8O-22	I	須恵器	長頸壺		12.0	-	-	V	-	外面: 黄灰 (2.5Y5/1) 内面: 灰 (N5/)	還元							3/36	-	-	-	
54	170	1b		8N-3	I	須恵器	横瓶		-	-	-	V	小泊	外面: 黒 (N1.5/) 内面: 灰 (10Y6/1)	還元	平行タタ キ目	同心円当 て具痕				1C		-	-	-	
54	171	1b		8O-3	I	須恵器	横瓶		-	-	-	V	小泊	外面: 灰 (10Y5/1) 内面: 灰 (7.5Y6/1)	還元	平行タタ キ目	同心円当 て具痕				1C		-	-	-	
54	172	1c		8O-13	I	須恵器	壺		-	-	-	V	小泊	外面: 灰 (5Y5/1) 内面: 灰 (5Y5/1)	還元								-	-	-	
54	173	1b		9M-13	II	須恵器	長頸壺		-	11.0	-	V	小泊	外面: 灰 (10Y5/1) 内面: 灰 (10Y5/1)	還元								-	9/36	-	
54	174	1b		8N-9	I	須恵器	大甕		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 灰 (5Y5/1) 内面: 灰白 (5Y7/1)	還元	平行タタ キ目	同心円当 て具痕				1C		-	-	-	
54	175	1c		10O-3	I	須恵器	甕		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 灰 (N4/) 内面: 灰 (10Y6/1)	還元	平行タタ キ目	同心円当 て具痕				1C		-	-	-	
54	176	1c		11Q-23	II	須恵器	甕		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 暗灰 (N3/) 内面: 暗青灰 (5B4/1)	還元	平行タタ キ目	同心円当 て具痕				1C		-	-	-	
55	177	1a		7K-23	I	須恵器	甕		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 灰 (5YR5/1) 内面: 灰 (5YR6/1)	還元	平行タタ キ目	同心円当 て具痕				1C		-	-	-	
55	178	1c		10Q-9	II	須恵器	甕		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 灰 (10Y5/1) 内面: 灰 (7.5Y6/1)	還元	平行タタ キ目	同心円当 て具痕				1C		-	-	-	
55	179	1a		6J-16	I	須恵器	甕		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 灰 (N5/) 内面: 灰 (N5/)	還元	平行タタ キ目	同心円当 て具痕				1C		-	-	-	
55	180	1c		10O-9	II	須恵器	甕		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 灰 (10Y5/1) 内面: 灰 (7.5Y6/1)	還元	平行タタ キ目	同心円当 て具痕				1C		-	-	-	
55	181	1b		10N-9	II	須恵器	甕		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 灰 (N6/) 内面: 暗灰 (N3/)	還元	平行タタ キ目	平行+同 心円当 て具痕				1AC		-	-	-	
55	182	1c		11Q-23	II	須恵器	甕		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: にぶい赤褐 (5YR5/3) 内面: 灰白 (5Y7/1)	還元	平行タタ キ目	平行当 て具痕				1A		-	-	-	
55	183	1a		7K-17	I	須恵器	甕		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 灰 (10Y6/1) 内面: 灰 (7.5Y5/1)	還元	平行タタ キ目	平行当 て具痕				1A		-	-	-	
55	184	1a		7K-17 排土	I	須恵器	甕		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 灰 (7.5Y5/1) 内面: 灰 (N6/)	還元	平行タタ キ目	平行当 て具痕				1A		-	-	-	
55	185	1b		9N-2	I	須恵器	甕		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 黄灰 (2.5Y6/1) 内面: 灰白 (N7/)	還元	平行タタ キ目	平行当 て具痕				1A		-	-	-	
55	186	1a		7K-23	I	須恵器	甕		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 灰 (10Y5/1) 内面: 黄灰 (2.5Y5/1)	還元	平行タタ キ目	平行当 て具痕				1A		-	-	-	
55	187	1b		8M-23	II	須恵器	甕		-	-	-	I b	角田 山麓	外面: 灰 (7.5Y6/1) 内面: 灰黄 (2.5Y7/2)	還元	格子状タ タキ目	平行当 て具痕				2A		-	-	-	
55	188	1c		12Q-2	I	須恵器	大甕		-	-	-	II	新津 丘陵	外面: 黒褐 (10YR3/2) 内面: 灰黄褐 (10YR5/2)	還元	格子状タ タキ目	同心円当 て具痕				2C		-	-	-	
55	189	1c		12R-3	I	須恵器	大甕		-	-	-	II	新津 丘陵	外面: 灰オリーブ (7.5Y4/2) 内面: 灰 (5Y6/1)	還元	平行タタ キ目	同心円当 て具痕				1C		-	-	-	
55	190	1a		7K-23	I	須恵器	甕		-	-	-	II	新津 丘陵	外面: オリーブ黄 (5Y6/3) 内面: 黒褐 (10YR3/2)	還元	平行タタ キ目	同心円当 て具痕				1C		-	-	-	
55	191	1c		12R-3	I	須恵器	甕		-	-	-	II	新津 丘陵	外面: 灰 (N5/1) 内面: 灰白 (7.5Y7/1)	還元	平行タタ キ目	同心円当 て具痕				1C		-	-	-	転用観
55	192	1a		7K-10	I	須恵器	甕		-	-	-	II	新津 丘陵	外面: 灰 (N4/) 内面: 灰 (N5/)	還元	平行タタ キ目	平行当 て具痕				1A		-	-	-	
55	193	1c		9O-23	I	須恵器	甕		-	-	-	IV	信濃川 左岸	外面: 灰 (7.5Y6/1) 内面: 灰 (7.5Y6/1)	還元	平行タタ キ目	同心円当 て具痕				1C		-	-	-	
55	194	1c		12R-3	I	須恵器	甕		-	-	-	IV	(信濃川 左岸)	外面: 黒 (10YR2/1) 内面: 灰赤 (10R4/2)	還元	平行タタ キ目	同心円当 て具痕				1C		-	-	-	
55	195	1b		8M-2	I	須恵器	甕		-	-	-	III	阿賀北	外面: 灰 (N5/) 内面: 灰白 (7.5Y8/1)	還元	平行タタ キ目	格子目状 当て具痕				1B		-	-	-	

図版No.	報告No.	出土位置				種別	器種	分類	法量 (cm)			胎土		色調	焼成	手法				遺存率			備考		
		地区	遺構名	グリッド	層位				口径	底径	器高	分類	産地			外面	内面	底面	回転方向	タタキ整形分類	口縁部	底部		全体	
55	196	1b		9N-2	I	須恵器	甕		-	-	-	Ⅲ	阿賀北	外面: 灰 (5Y6/1) 内面: 灰 (5Y6/1)	還元	平行タタキ目	格子目状当て具痕				1B	-	-	-	
55	197	1b		8M-11	I	須恵器	甕		-	-	-	Ⅲ	阿賀北	外面: 灰 (N5/) 内面: 灰 (N5/)	還元	平行タタキ目	-			1	-	-	-		
55	198	1b		8O-11	I	須恵器	甕		-	-	-	V	小泊	外面: 黄灰 (2.5Y5/1) 内面: 黄灰 (2.5Y5/1)	還元						-	-	-		
55	199	1c		8O-16 8O-22 8O-21	I I II	須恵器	甕		-	-	-	V	小泊	外面: 黄灰 (2.5Y4/1) 内面: 黄灰 (2.5Y6/1)	還元	平行タタキ目	同心円当て具痕			1C	-	-	-		
55	200	1b		8O-11	I	須恵器	甕		-	-	-	V	小泊	外面: 灰 (5Y6/1) 内面: 灰白 (7.5Y7/1)	還元	格子状タタキ目	同心円当て具痕			2C	-	-	-		
55	201	1a	SX290	7M-22	I	須恵器	甕		-	-	-	V	小泊	外面: オリーブ黒 (10Y3/1) 内面: 浅黄 (2.5Y7/3)	還元	格子状タタキ目	同心円当て具痕			2C	-	-	-		
55	202	1c		10N-9	II	須恵器	甕		-	-	-	V	小泊	外面: 灰 (5Y4/1) 内面: 黄灰 (2.5Y6/1)	還元	格子状タタキ目	同心円当て具痕			2C	-	-	-		
55	203	1c		12Q-2	II	須恵器	甕		-	-	-	V	小泊	外面: 灰黄 (2.5Y6/2) 内面: 灰黄 (2.5Y7/2)	還元	平行タタキ目	同心円当て具痕			1C	-	-	-		
55	204	1a		8L-4	I	須恵器	甕		-	-	-	V	小泊	外面: 灰 (10Y5/1) 内面: 灰 (10Y5/1)	還元	平行タタキ目	平行+同心円当て具痕			1AC	-	-	-		
55	205	1b		7M-24	I	須恵器	甕		-	-	-	V	小泊	外面: 黄灰 (2.5Y4/1) 内面: におい黄 (2.5Y6/3)	還元	格子状タタキ目	同心円当て具痕			2C	-	-	-		
55	206	1c		10P-12	I	須恵器	甕		-	-	-	V	小泊	外面: 灰 (5Y6/1) 内面: 黄灰 (2.5Y6/1)	還元	平行タタキ目	平行+同心円当て具痕			1AC	-	-	-		
55	207	1c		12R-3	I	須恵器	甕		-	-	-	V	小泊	外面: 淡黄 (2.5Y8/3) 内面: 淡黄 (2.5Y8/3)	還元	平行タタキ目	平行当て具痕			1A	-	-	-		

別表 13 古代の土製品・石製品・鍛冶関連遺物観察表

図版No.	報告No.	出土位置				時代	器種	色調	遺存状態	石材	法量				備考
		地区	遺構名	グリッド	層位						長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	
56	1	1b		8M-22	II	古代	管状土錘	におい黄橙 (10YR7/3)	完形		66.0	16.0	15.0	13.5	胎土 1a 類
56	2	1b		8M-22	II	古代	管状土錘	におい黄橙 (10YR7/2)	完形		47.0	19.0	18.0	17.8	胎土 1a 類
56	3	1b		8M-22	II	古代	管状土錘	におい黄橙 (10YR7/2) 灰 (N5/)	一端欠損		33.0	19.0	19.0	11.0	胎土 1a 類
56	4	1b		8M-22	II	古代	管状土錘	におい黄橙 (10YR7/2)	中間部		46.0	20.0	18.0	13.6	胎土 1a 類
56	5	1a		7K-12	II	古代	焼成粘土塊	におい橙 (7.5YR7/4)			32.0	15.0	15.0	5.9	胎土 1a 類
56	6	1a		7K-12	II	古代	焼成粘土塊	橙 (7.5YR7/4)			30.0	21.0	20.0	11.7	胎土 1a 類
56	7	1c		8O-18	II	古代	焼成粘土塊	橙 (5YR6/8)			15.0	20.0	18.0	7.7	胎土 1a 類
56	8	1b		8M-25	II	古代	焼成粘土塊	浅黄橙 (10YR8/4)			30.0	20.0	13.0	7.1	胎土 1a 類
56	9	1b		8M-25	II	古代	焼成粘土塊	橙 (7.5YR6/6)			36.0	28.0	26.0	15.9	胎土 1a 類
56	10	1c		10O-15	II	古代	焼成粘土塊	橙 (5YR6/6)			35.0	31.0	21.0	19.6	胎土 1a 類
56	11	1b		7M-24	II	古代	焼成粘土塊	におい橙 (7.5YR7/4)			50.0	35.0	29.0	23.7	胎土 1a 類
56	12	1b		8M-5	II	古代	焼成粘土塊	浅黄橙 (10YR8/4)			37.0	25.0	15.0	9.4	胎土 1a 類
56	13	1c		12Q-7	II	古代	焼成粘土塊	橙 (5YR7/8)			28.0	22.0	20.0	6.5	胎土 1a 類
56	14	1b		8M-25	II	古代	焼成粘土塊	橙 (7.5YR7/6)			24.0	21.0	12.0	4.9	胎土 1a 類
56	15	1a		8L-7	II	古代	焼成粘土塊	明赤褐 (5YR5/8)			32.0	20.0	18.0	11.2	胎土 1a 類
56	16	1b		8M-7	II	奈良	円筒形土製品	明赤褐 (5YR5/6)			-	-	13.0	-	胎土 1b 類
56	17	1c		11R-6	II	古代	権状錘	灰白 (7.5Y8/1)	先端欠損	珪質流紋岩	40.0+	34.0	19.0	26.5+	
56	18	1c	SK261	12Q-8	4	古代	有溝石錘	灰白 (2.5Y8/1)	先端	安山岩	73.0+	56.0	52.0	244.5+	
56	19	1b		8O-11	I	古代	砥石	灰黄 (2.5Y7/2)	先端	泥岩	64.0+	55.0	28.0	162.8+	
56	20	1a	SE1	17J-10・15	上・中	古代	砥石	灰白 (2.5Y8/2)	先端	泥岩	57.0+	55.0	38.0	147.2+	
56	21	-		排土	-	古代	砥石	におい赤褐 (2.5YR5/4)	欠損	泥岩	31.0+	22+	3.0	3.2+	
56	22	1c	P282	11Q-16	I	古代	砥石	灰黄褐 (10YR6/2)	欠損	泥岩	61.0+	35.0+	11.0	27.9+	
56	23	1a		7K-17	I	古代	砥石	灰白 (5YR7/2)	完形	泥岩	95.0	72.0	8.0	103.6	
56	24	1c		8N-2	III	古代	砥石	オリーブ黄 (5Y6/3)	完形	凝灰岩	125.0	42.0	25.0	195.8	
56	25	1c		12Q-13	II	古代	羽口	浅黄橙 (10YR8/3)	先端付近		28.0+	33.0+	20.0	16.4+	
56	26	1c		12Q-13	II	古代	羽口	黄橙 (7.5YR7/8)	先端付近		26.0+	34.0+	8.0	8.3+	
56	27	1c		9N-25	II	古代	羽口	におい黄橙 (10YR7/4)	中間部		41.0+	31.0+	25.0	27.5+	
56	28	1c	SK259	12Q-8	2	古代	羽口	におい黄橙 (10YR8/4)	中間部		45.0+	23.0+	21.0	16.3+	
56	29	1b		8M-5	II	古代	鉄滓	褐 (7.5YR4.6)			95.0	51.0	38.0	373.2	楕形滓

別表 14 近世陶磁器観察表

図版No.	報告No.	出土位置				種別	器種	産地	年代	法量 (cm)			成形	色調	釉薬・文様	補修痕	接合	備考
		地区	遺構名	グリッド	層位					口径	底径	器高						
59	1	1a	SE 1	7J-10・15	上～中	磁器	碗蓋	肥前系	19世紀後半	9.5	-	2.8	灰白 (N8/)	染付 (花唐草文)				
59	2	1a	SE 1	7J-10・15	上～中	磁器	碗蓋	肥前系	1820～1860年代	9.5	-	2.8	灰白 (2.5Y8/1)	染付 (花唐草文)				
59	3	1a	SE 1	7J-10・15	上～中	磁器	碗	肥前系	19世紀前半	10.7	4.1	5.8	灰白 (N8/)	染付 (雲龍文)	焼継		底面朱書「三〇〇〇」	
59	4	1a	SE 1	7J-10・15	上～中	磁器	碗	肥前系	1820～1860年代	10.2	4.1	5.9	灰白 (5Y8/1)	染付 (人物文)		SE1+SX6+ SX290		
59	5	1a	SE 1	7J-10・15	上～中	磁器	碗	肥前系	1840～1860年代	10.6	3.9	5.8	灰白 (N8/)	染付 (花文)				
59	6	1a	SE 1	7J-10・15	上～中	磁器	小碗	京都	19世紀後半	6.9	4.2	4.5	灰白 (2.5Y8/1)	染付 (蓮弁文)	焼継		高台内「五郎介」	

別 表

図版 No.	報告 No.	出土位置				種別	器種	産地	年代	法量 (cm)			成形	色調	釉薬・文様	補修痕	接合	備考
		地区	遺構名	グリッド	層位					口径	底径	器高						
59	7	1a	SE 1 SX 6	7J-10・15 7M-16・17	上～中 1	磁器	碗	肥前系・関西系	1840～1860年代	5.9	3.9	6.4		灰白 (N8/)	染付 (花唐津文)		SE1+SX6	
59	8	1a	SE 1 SX 6	7J-10・15 7M-22	上～中 1	磁器	小碗	肥前系	1820～1860年代	6.8	3.8	5.1		灰白 (N8/)	染付 (花唐津文)		SE1+SX6	
59	9	1a	SE 1	7J-10・15	上～中	磁器	小碗	肥前系	1820～1860年代	8.4	3.0	4.1		灰白 (N8/)	染付	焼継		
59	10	1a	SE 1	7J-10・15	上～中	磁器	小碗	瀬戸美濃系	1820～1860年代	6.8	3.3	4.3		灰白 (N8/)	染付			
59	11	1a	SE 1	7J-10・15	上～中	磁器	小碗	肥前系	1820～1860年代	6.5	2.7	3.2		灰白 (N8/)	染付			
59	12	1a	SE 1	7J-10・15	上～中	磁器	蓋	肥前	17世紀後半～18世紀初頭	—	—	—		灰白 (5Y8/1)	染付 (山水文)			
59	13	1a	SE 1	7J-10・15	上～中	磁器	小皿	瀬戸美濃系	1860年代	9.6	5.4	2.4	木型打込	灰白 (N8/)	寿字文			
59	14	1a	SE 1	7J-10・15	上～中	磁器	香炉	肥前系	19世紀	11.4	10.4	—		灰白 (7.5Y8/1)	染付 (花文)			内面アルミナ砂付着
59	15	1a	SE 1	7J-10・15	上～中	磁器	段重	肥前系	18世紀後半	14.2	8.8	6.3		灰白 (97.5Y8/1)	染付 (丸文)			
59	16	1a	SE 1	7J-10・15	上～中	磁器	瓶	関西系	19世紀	7.8	7.8	22.7		灰白 (N8/)	象嵌 (松竹梅文)	焼継		内面アルミナ砂付着
59	17	1a	SE 1	7J-10・15	上～中	陶器	鉢	福岡?	18世紀?	19.0	7.0	7.9		橙 (2.5YR6/6)	鉄釉・高台無釉			
59	18	1a	SE 1	7J-10・15	上～中	陶器	小碗	関西系	19世紀	8.4	4.1	5.4		にぶい黄橙 (10YR7/4)	染付 (宝珠文)			
59	19	1a	SE 1	7J-10・15	上～中	陶器	鉢	関西系	19世紀	—	6.0	—		にぶい黄橙 (10YR7/3)	染付 (笹竹文)			
59	20	1a	SE 1	7J-10・15	上～中	陶器	土瓶	関西系	19世紀	7.8	6.4	8.9		にぶい黄 (2.5Y6/3)	染付			
59	21	1a	SE 1	7J-10・15	上～中	陶器	徳利	在地	19世紀	4.0	7.4	—		紫黒 (5P2/1)				
59	22	1a	SE 1	7J-10・15	上～中	陶器	植木鉢	在地	18世紀後半～19世紀	19.6	8.6	14.4		橙 (5YR7/6) 灰白 (7.5YR5/1)	鉄釉 内面・底面無釉		SE1+SX290	
60	23	1a	SX 3	8L-13	3～6	磁器	碗	関西系	19世紀	9.6	3.9	5.4		灰白 (N8/)	染付			
60	24	1a	SX 3	8L-13	3～6	磁器	碗	肥前系	1820～1860年代	10.0	3.8	5.5		灰白 (2.5YR8/1)	染付 (幾何学文)			
60	25	1a	SX 3	8L-13	3～6	磁器	小碗	瀬戸美濃系	19世紀後半	6.6	3.3	4.9		灰白 (10YR8/1)	染付 (蝶文)	焼継		底面朱書「三 くらち □」
60	26	1a	SX 3	8L-13	3～6	磁器	小皿	瀬戸美濃	1860年代	9.9	5.6	2.1	木型打込	灰白 (5Y8/1)	寿字文 (山水文)	焼継		底面朱書「三 □らち様」
60	27	1a	SX 3	8L-8	3～6	磁器	小皿	肥前	18世紀末～19世紀前半	8.8	4.9	2.2		灰白 (N8/)	染付 (山水文)			
60	28	1a	SX 3	8L-13	3～6	磁器	皿	肥前系	18世紀末～幕末	13.4	8.1	4.0	型打	灰白 (2.5YR8/1)				
60	29	1a	SX 3	8L-13	3～6	磁器	小皿	肥前系	19世紀後半～幕末	—	4.6	—		灰白 (2.5YR8/1)	染付			
60	30	1a	SX 3	8L-8	—	磁器	皿	瀬戸美濃系	19世紀後半	12.5	6.1	2.8		灰白 (5Y8/1)	隔刻	焼継		底面朱書「倉 □」
60	31	1a	SX 3	8L-8	3～6	磁器	小皿	瀬戸美濃系	19世紀後半	9.3	4.5	2.5	型打	灰白 (2.5YR8/1)	染付	焼継		
60	32	1a	SX 3	8L-13	3～6	磁器	小香炉	肥前	18世紀後半～19世紀初頭	7.6	2.6	5.2		灰白 (2.5YR8/1)	内面・底面無釉			内面アルミナ砂付着
60	33	1a	SX 3	8L-13	3～6	磁器	水滴	肥前	18世紀後半～幕末	—	—	—	型押	灰白 (10YR8/1)				
60	34	1a	SX 3	8L-13	3～6	陶器	掃鉢	在地	19世紀	3.7	—	—		灰白 (2.5Y5/1)	鉄釉			
60	35	1a	SX 3	8L-13	3～6	陶器	掃鉢	肥前系	19世紀	—	18.1	—		橙 (5YR7/6)	鉄釉			
60	36	1a	SX 3	8L-13	6	陶器	掃鉢	在地	19世紀	—	15.0	—		にぶい黄橙 (10YR7/4) 灰白 (7.5Y7/2)	鉄釉			
60	37	1a	SX 3	8L-13	3～6	陶器	徳利	在地	19世紀	—	—	—		黒褐 (10YR3/1)				
60	38	1a	SX 3	8L-13	3～6	陶器	植木鉢	在地	18世紀後半～幕末	25.4	—	—		にぶい赤褐 (2.5YR5/4)	鉄釉			
60	39	1a	SX 3	8L-13	3～6	陶器	植木鉢	在地	18世紀後半～幕末	—	6.2	11.0		橙 (5YR6/6) 灰 (7.5YR4/1)	鉄釉			
60	40	1a	SX 3 SX 290	8L-13 7M-23	3～6 1	土器	鉢			—	17.5	—		橙 (7.5YR7/6) 黒褐 (7.5YR3/1)			SX3+SX290	
60	41	1a	SX 3	8L-13	3～6	土器	焙烙			32.0	31.4	—		浅黄橙 (7.5YR8/4) 橙 (7.5YR7/6)				
61	42	1a	SX 6	7M-23	1	磁器	碗蓋	肥前系	1820～1860年代	9.1	—	3.1		白 (9/)	染付 (花唐草文)			
61	43	1a	SX 6	7M-17	1	磁器	碗	肥前系	1820～1860年代	10.6	4.4	5.8		白 (9/)	染付 (花唐草文)	焼継		底面朱書「三 大田様」
61	44	1a	SX 6	7M-17	1	磁器	碗	肥前系	1820～1860年代	10.6	4.2	5.9		灰白 (2.5Y8/1)	染付 (花文)			
61	45	1a	SX 6	7M-22	1	磁器	碗	肥前系	1820～1860年代	10.2	3.8	6.0		灰白 (2.5Y8/1)	染付 (七宝四方禪文)			
61	46	1a	SX 6 SE 1	7M-21 7J-10・15	1 上～中	磁器	小碗	肥前系	1820～1860年代	6.7	—	—		灰白 (2.5Y8/1)	染付 (丸文)		SE1+SX6	
61	47	1a	SX 6	7M-22	1	磁器	段重	肥前系	1820～1860年代	7.8	6.9	2.8		灰白 (10YR8/1)	染付 (丸文)			
61	48	1a	SX 6	7M-17	1	磁器	小皿	瀬戸美濃系	19世紀後半	9.8	4.9	2.4		灰白 (10YR8/1)	染付			
61	49	1a	SX 6	7M-22	1	磁器	小皿	肥前	1820～1860年代	12.4	6.6	2.6		灰 (5Y8/1)	染付	焼継		
61	50	1a	SX 6	7M-22	1	陶器	鉢	関西系	19世紀	17.2	8.2	7.7		にぶい黄褐 (10YR6/4)	染付			六角捺印
61	51	1a	SX 6	7M-22	1	陶器	土瓶	関西系	19世紀	10.3	8.3	13.0		黄褐 (2.5Y5/3)	染付 (山水文)	焼継		底面朱書「三 大田様」
61	52	1a	SX 290	7M-23	1	磁器	小杯	瀬戸美濃系	19世紀後半	9.2	—	—		灰白 (N8/)	染付 (若松文)			
61	53	1a	SX 290	7M-23	1	磁器	小皿	瀬戸美濃	1960年代	9.8	5.2	1.9	木型打込	灰白 (N8/)	寿字文			底面朱書「三 大田様」
61	54	1a	SX 290	7M-23	1	磁器	中皿	肥前系	19世紀～幕末	—	8.4	—		灰白 (2.5Y8/1)	染付 (山水文)			

図版No.	報告No.	出土位置				種別	器種	産地	年代	法量 (cm)			成形	色調	釉薬・文様	補修痕	接合	備考
		地区	遺構名	グリッド	層位					口径	底径	器高						
61	55	1a	SX 290 SX 6	7M-23	1	土器	焙烙			18.5	13.7	4.5		橙 (7.5YR7/6)			SX6+SX290	
62	56	1a	盛土遺構	7K-17・23	6	磁器	碗	瀬戸美濃系	1840~1860年代	9.4	3.5	4.3		灰白 (2.5Y8/1)	染付			
62	57	1a	盛土遺構	7K-17	1	磁器	碗	肥前系	1820~1860年代	9.0	3.8	4.1		灰白 (N8/)	染付 (草花)			
62	58	1a	盛土遺構	7K-17	6	磁器	碗	肥前系	18世紀	-	4.4	-		灰白 (N8/)				
62	59	1a	盛土遺構	7K-17	6	磁器	小杯	肥前系	19世紀~幕末	10.4	5.1	2.3		灰白 (N8/)	染付			
62	60	1a	盛土遺構	7K-17	6	磁器	小杯	瀬戸美濃系・関西系	1820~1860年代	-	1.5	-		灰白 (N8/)	色絵			
62	61	1a	盛土遺構	7K-23	6	磁器	小皿	瀬戸美濃系	1860年代	9.4	5.1	2.3	木型打込	灰白 (N8/)	寿字			
62	62	1a	盛土遺構	7K-17	6	陶器	火鉢	瀬戸美濃系	19世紀	-	23.5	-		淡黄 (2.5Y8/3)	緑釉薬灰釉掛分け			
62	63	1a	盛土遺構	7K-23	6	陶器	土瓶 蓋	関西系	19世紀	9.0 7.5	- -	- -		灰オリーブ (5Y6/2)	花文貼付			
62	64	1b		8M-5	1	陶器	碗	肥前	18世紀後半	11.0	4.0	5.4		灰白 (N8/)	染付			
62	65	1b		8M-5	1	陶器	碗	肥前	1650~1660年代	10.2	4.3	6.6		灰白 (N8/)	染付 (桐文)			
62	66	1c		8P-22	1	磁器	蓋	関西系?	19世紀	5.8	-	2.7		灰白 (N8/)	染付 (山水文)			
62	67	1c		8P-16	1	磁器	小杯	関西系?	明治	7.6	4.2	3.9		灰白 (N8/)	染付 (山水文)			
62	68	1a		8L-3	1	磁器	小杯	関西系?	明治	6.2	2.7	4.7		灰白 (N8/)	染付 (瀬美)			
62	69	1a		7M-22	1	磁器	碗	関西系?	19世紀	-	4.2	-		灰白 (5Y8/1)	染付 (瀬美)			底面朱書 「マキノ 十六」
62	70	1b		9M-3	1	磁器	中皿	肥前	1660~1680年代	13.6	8.8	2.8		灰白 (N8/)	染付	漆継		
62	71	1b		8N-1・2・7	1	磁器	大皿	肥前	1655~1660年代	32.6	16.4	6.9		灰白 (N8/)	染付			
62	72	1a		7M-22	1	陶器	香炉	関西系	19世紀	12.4	6.4	5.2		浅黄 (2.5Y8/4)	色絵			底面墨書 「十一」
62	73	1b		7N-21	1	陶器	徳利	備前	18~19世紀	-	-	-		黄灰 (2.5Y6/1)	鉄釉			
62	74	1b		8O-11	1	陶器	蓋	肥前	17世紀	7.6	-	2.9		にぶい黄橙 (10YR6/4)	鉄釉			
62	75	1a		7K-25	1	陶器	徳利	在地		-	-	-		黒褐 (10YR3/1)				焼成時溶着
62	76	1b		9N-8	1	陶器	播鉢	備前	17世紀中頃	29.6	10.3	12.4		にぶい橙 (5YR7/4)				

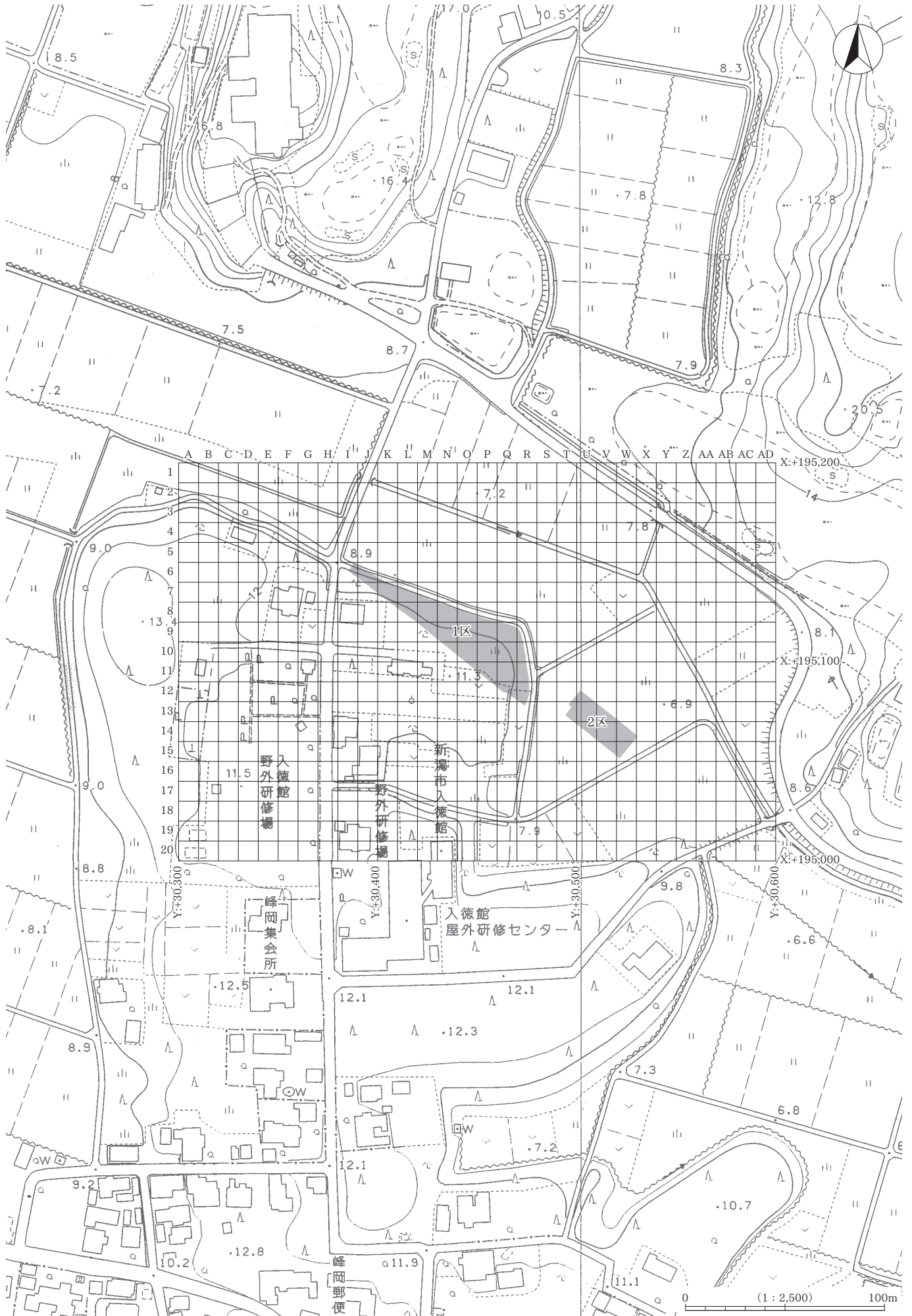
別表 15 近世~近代の土製品・石製品・金属製品観察表

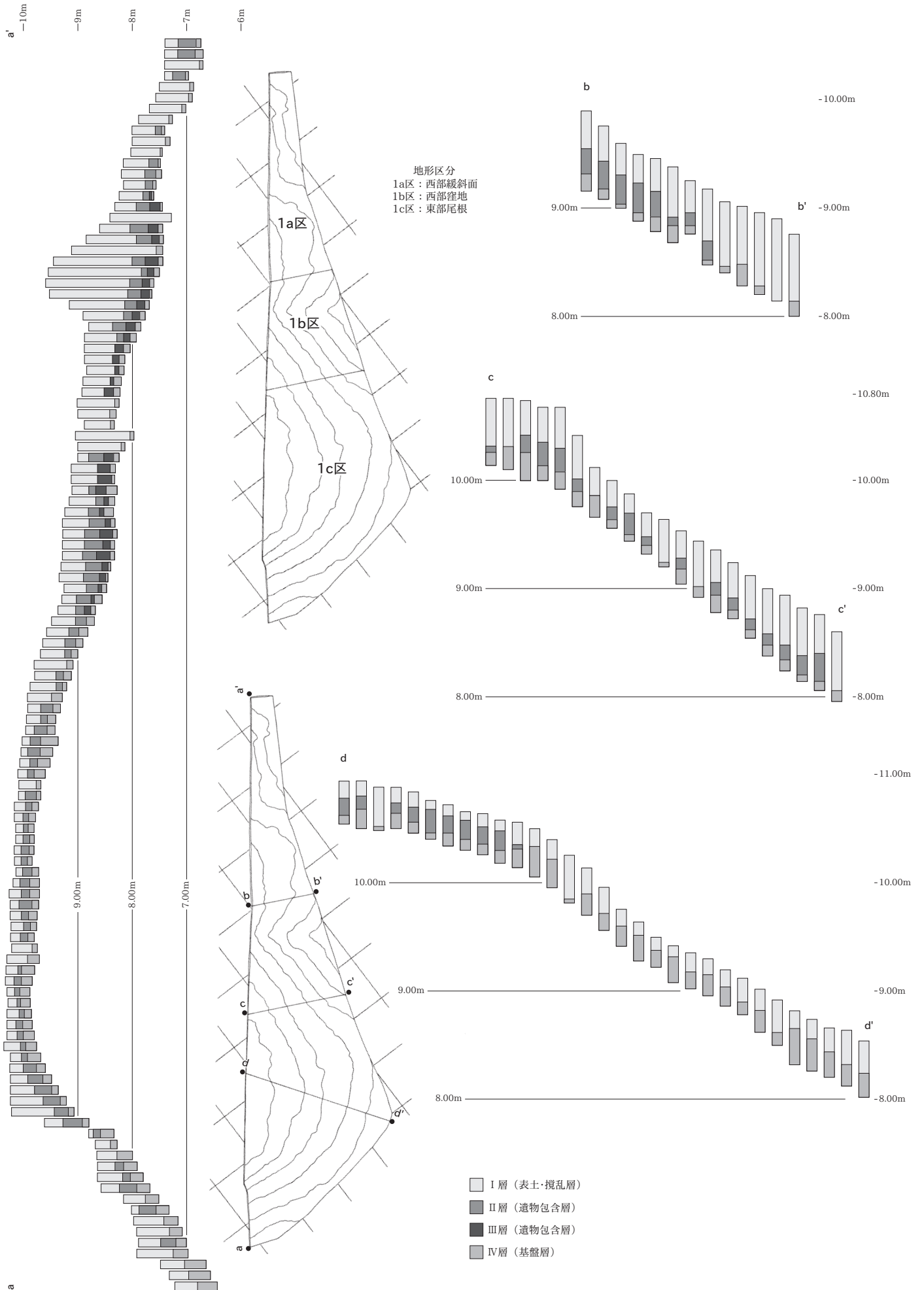
図版No.	報告No.	地区	遺構名	出土位置		時代	器種	色調	遺存状態	石材	法量				備考
				グリッド	層位						長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	
63	1	1a	SX6	7M-17・22	1	近世	涼炉	にぶい黄橙 (10YR7/3)	一部欠損		172	160	153	-	
63	2	1a	SX3	8L-13	3~6	近世	目皿	橙 (7.5YR6/6)	完形		92	90	12	87.6	
63	3	1a	SX6	7M-22	1	近世	瓦	にぶい黄橙 (7.5YR5/4)	欠損		53	48	24	45.2	陣ヶ峯瓦
63	4	1a	SX6	7M-21	1	近世	瓦	にぶい褐 (7.5YR5/4)	欠損		76	62	21	116.2	陣ヶ峯瓦
63	5	1a	SE1	7J-10・15	上~中	近世	箱庭道具	明褐 (5YR5/6)	一部欠損		55	57	20	30.3	
63	6	1a	SE1	7J-10・15	上~中	近世	煙管	明褐 (7.5YR3/3)	吸口完形・羅字欠損		48	10	10	6.3	
63	7	1c		11Q-9	I	近世~近代	窯壁	にぶい褐 (7.5YR3/3)	欠損		81+	65+	64+	290.1	
63	8	-		2012・5T	II	近世~近代	焼台	褐灰 (10YR5/1)	欠損		149+	85	84	1024	12峰岡確認調査
63	9	-		2012・5T	II	近世~近代	焼台	にぶい黄橙 (10YR7/3)	欠損		250+	93	90	1131	12峰岡確認調査
63	10	-		排土	-	近世~近代	硯	灰 (10Y4/1)	欠損	粘板岩	66+	64+	14+	71.1	
63	11	1a		8M-6	I	近世~近代	硯	黒 (10Y2/1)	欠損	粘板岩	30+	17+	10+	5.9	
63	12	1c		10Q-9	I	近代	石墨	明赤灰 (2.3YR7/2)	完形	蠟石	28	7+	7	2.5	
63	13	1a		8L-2	I	近代	石盤	暗灰 (N3/)	欠損	粘板岩	50+	48+	3	10.8	
63	14	1c		10Q-9	I	近代	石盤	暗灰 (N3/)	欠損	粘板岩	39+	53+	5	12.1	

別表 16 近世木製品観察表

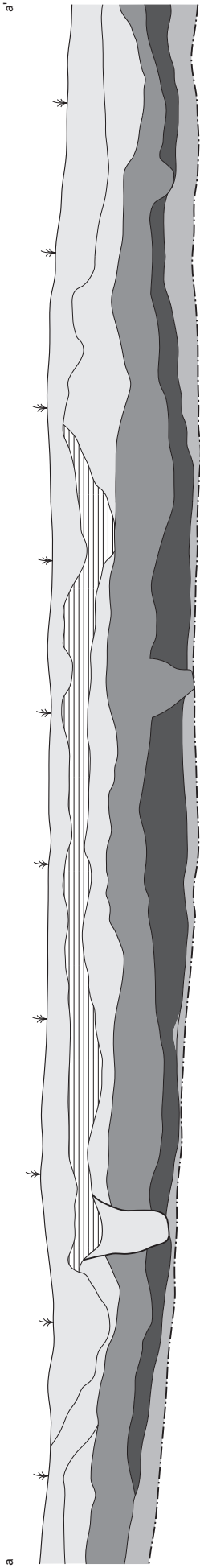
図版No.	報告No.	地区	遺構	出土位置		時代	器種	樹種	木取り	法量			備考
				グリッド	層位					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	
64	1	1a	SE1	7J-10・15	下	近世	桶	針葉樹	柎目	19.5	89.0	9.0	焼印
64	2	1a	SE1	7J-10・15	下	近世	桶	針葉樹	柎目	19.2	9.1	1.0	焼印
64	3	1a	SE1	7J-10・15	下	近世	桶	針葉樹	柎目	10.1	7.4	0.9	
64	4	1a	SE1	7J-10・15	下	近世	桶底	針葉樹	板目	20.2	4.0	1.4	
64	5	1a	SE1	7J-10・15	下	近世	下駄歯	広葉樹	柎目	7.6	11.3	1.2	
64	6	1a	SE1	7J-10・15	下	近世	下駄歯	広葉樹	板目	5.7	8.9	1.1	
64	7	1a	SE1	7J-10・15	下	近世	下駄	広葉樹	板目	21.4	8.4	3.2	
64	8	1a	SE1	7J-10・15	下	近世	付札	針葉樹	板目	22.0	3.0	0.3	
64	9	1a	SE1	7J-10・15	下	近世	付札	針葉樹	板目	22.0	2.5	0.6	
64	10	1a	SE1	7J-10・15	下	近世	付札	針葉樹	板目	21.8	2.0	0.4	
64	11	1a	SE1	7J-10・15	下	近世	付札	針葉樹	板目	16.6	2.4	0.4	
64	12	1a	SE1	7J-10・15	下	近世	円形木製品	針葉樹	柎目	5.9	5.9	0.2	墨書「□□様」
64	13	1a	SE1	7J-10・15	下	近世	筧状竹製品	竹		12.7	2.7	2.8	

版 图

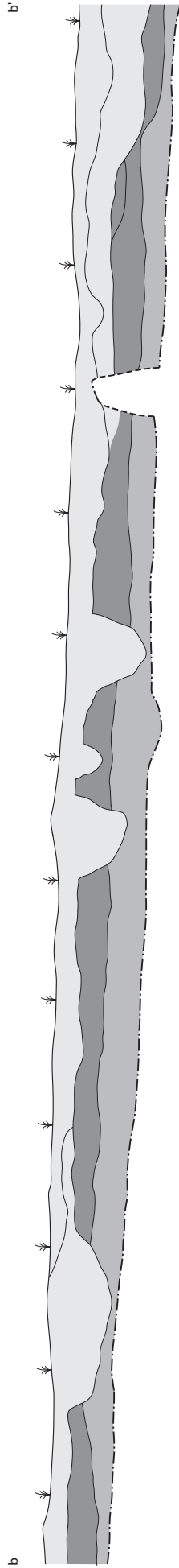




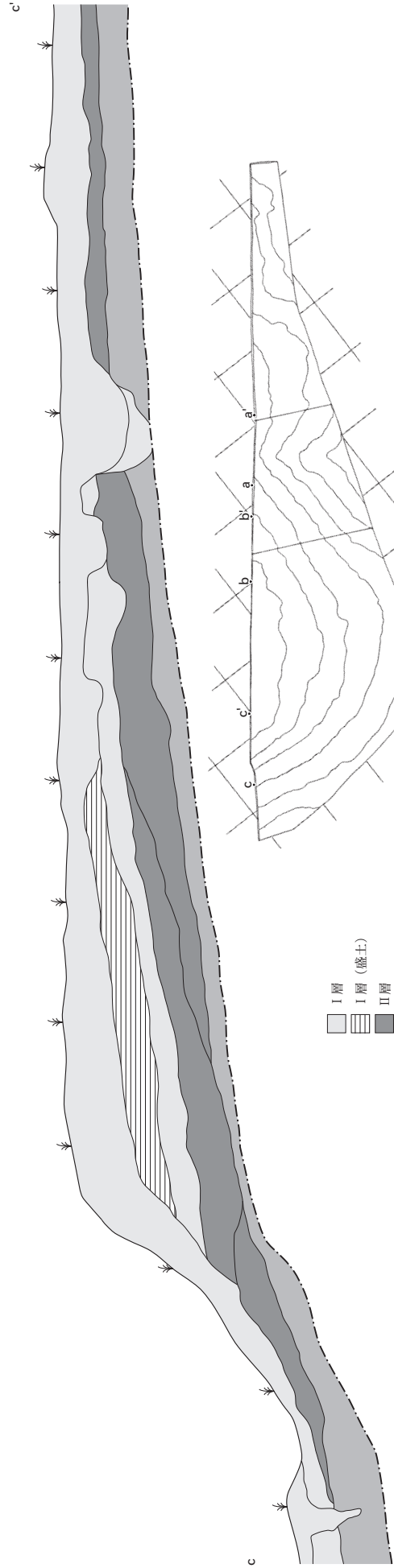
西側窪地中央部



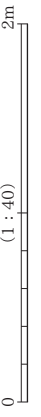
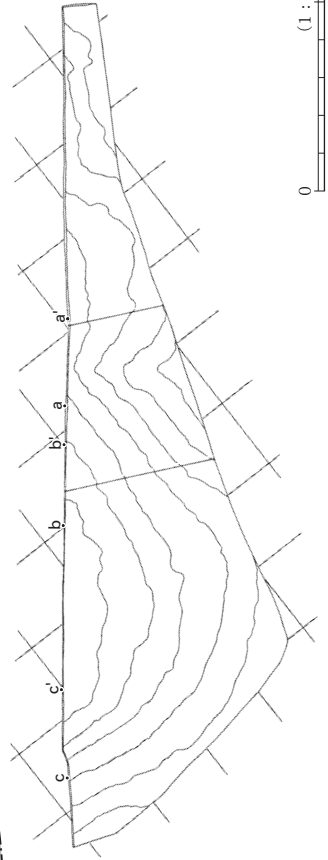
東部尾根頂部平坦面～

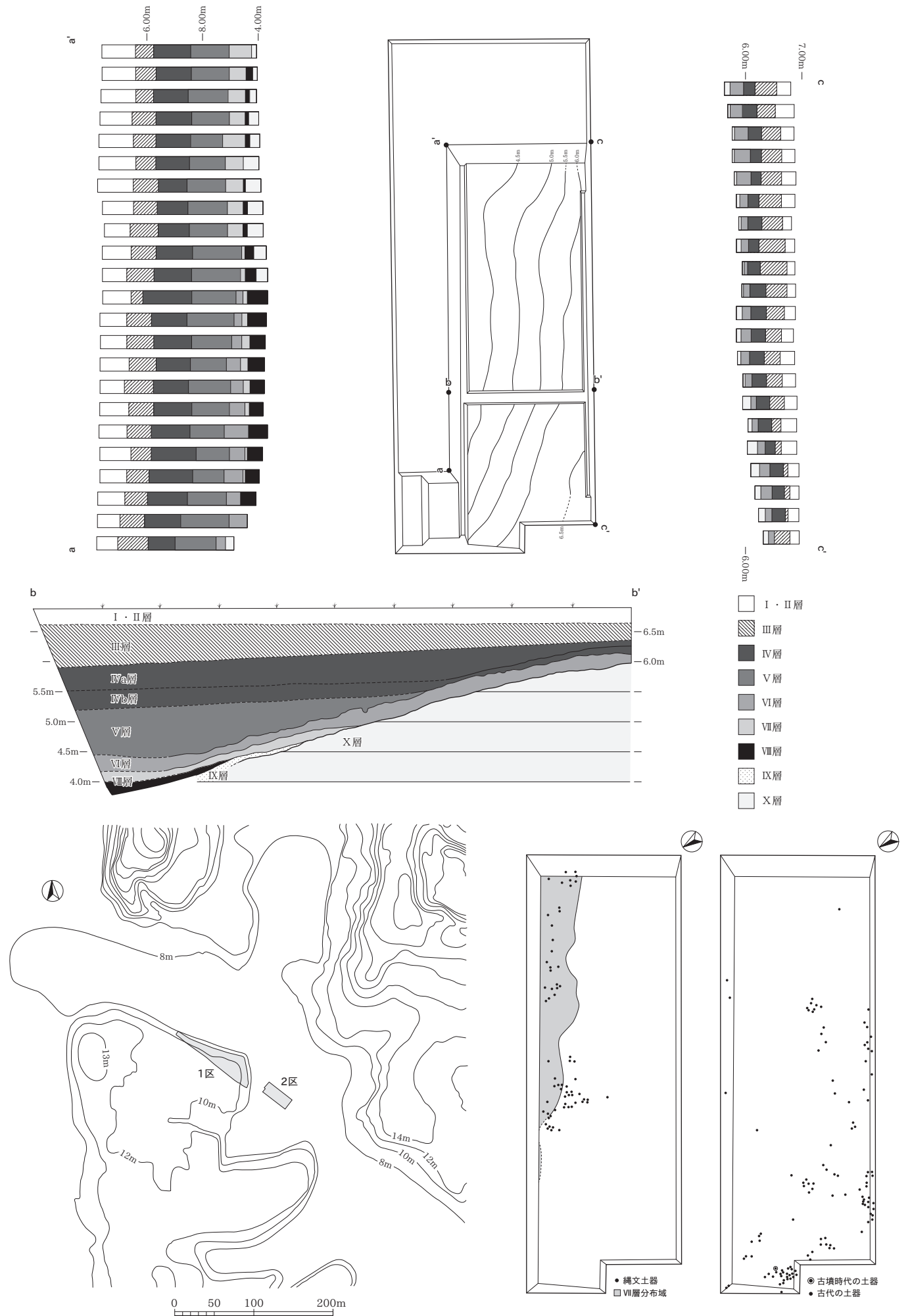


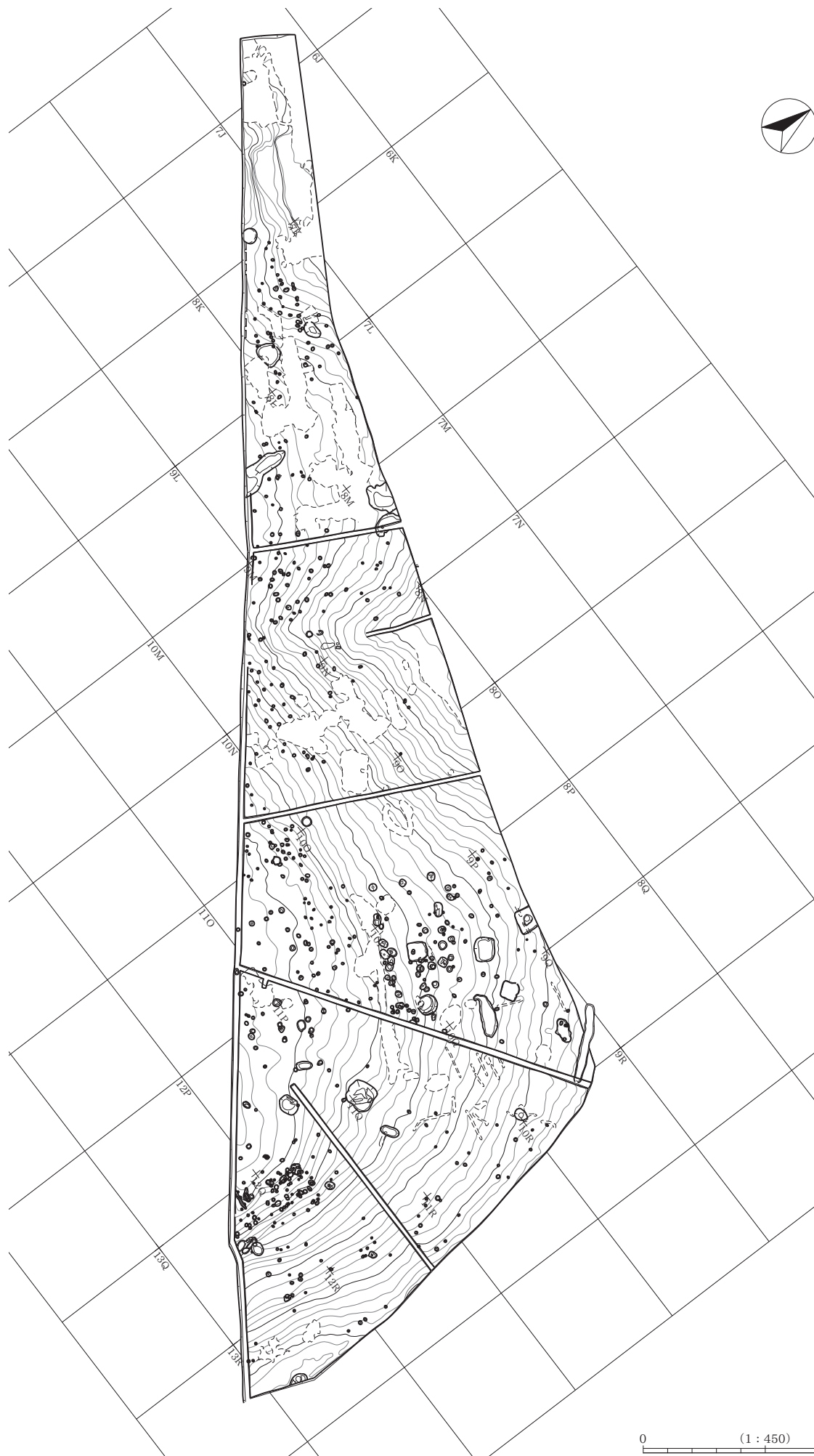
頂部平坦面～東斜面

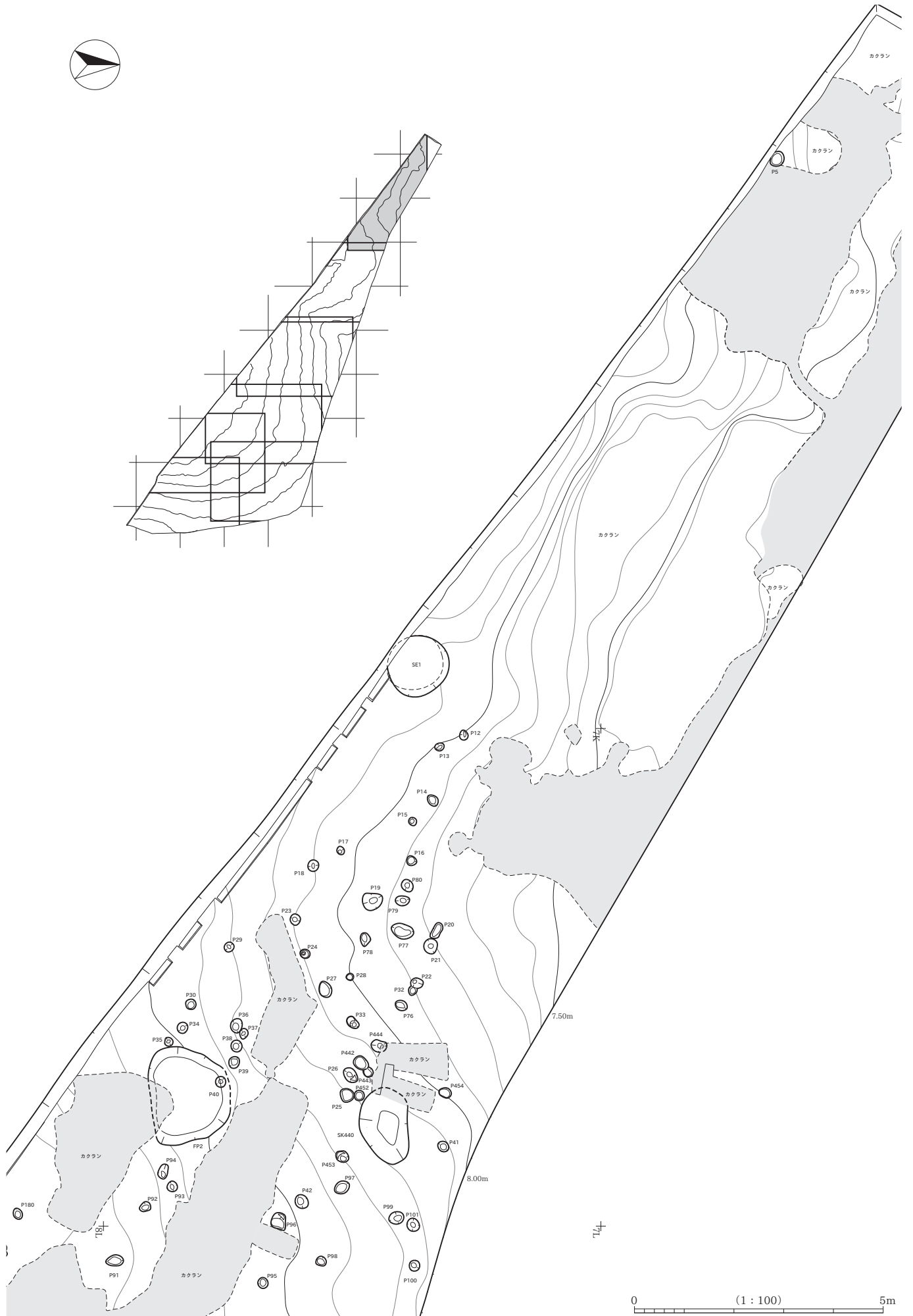


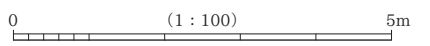
- I 層 (盛土)
- ▨ II 層
- ▩ III 層
- IV 層

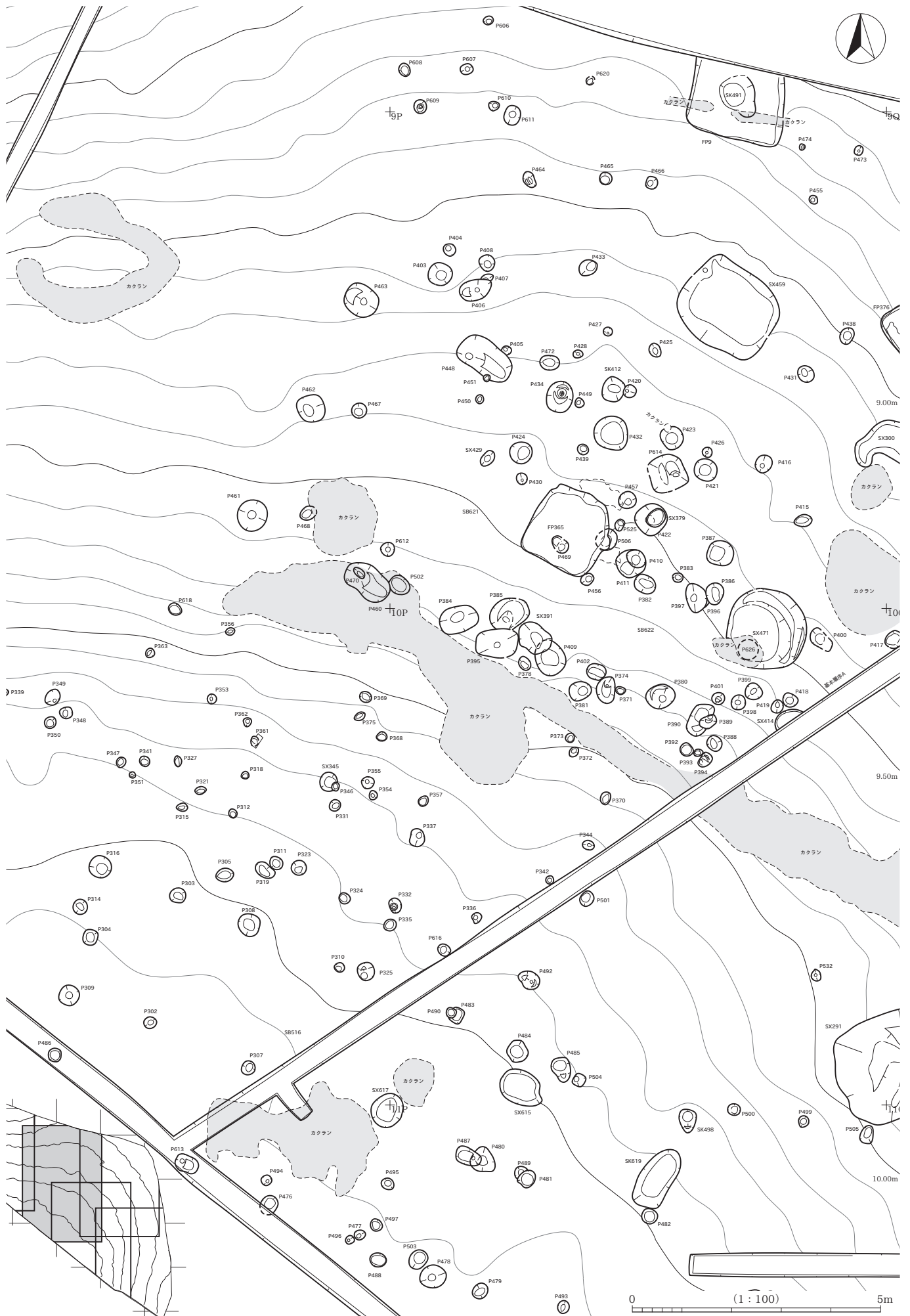


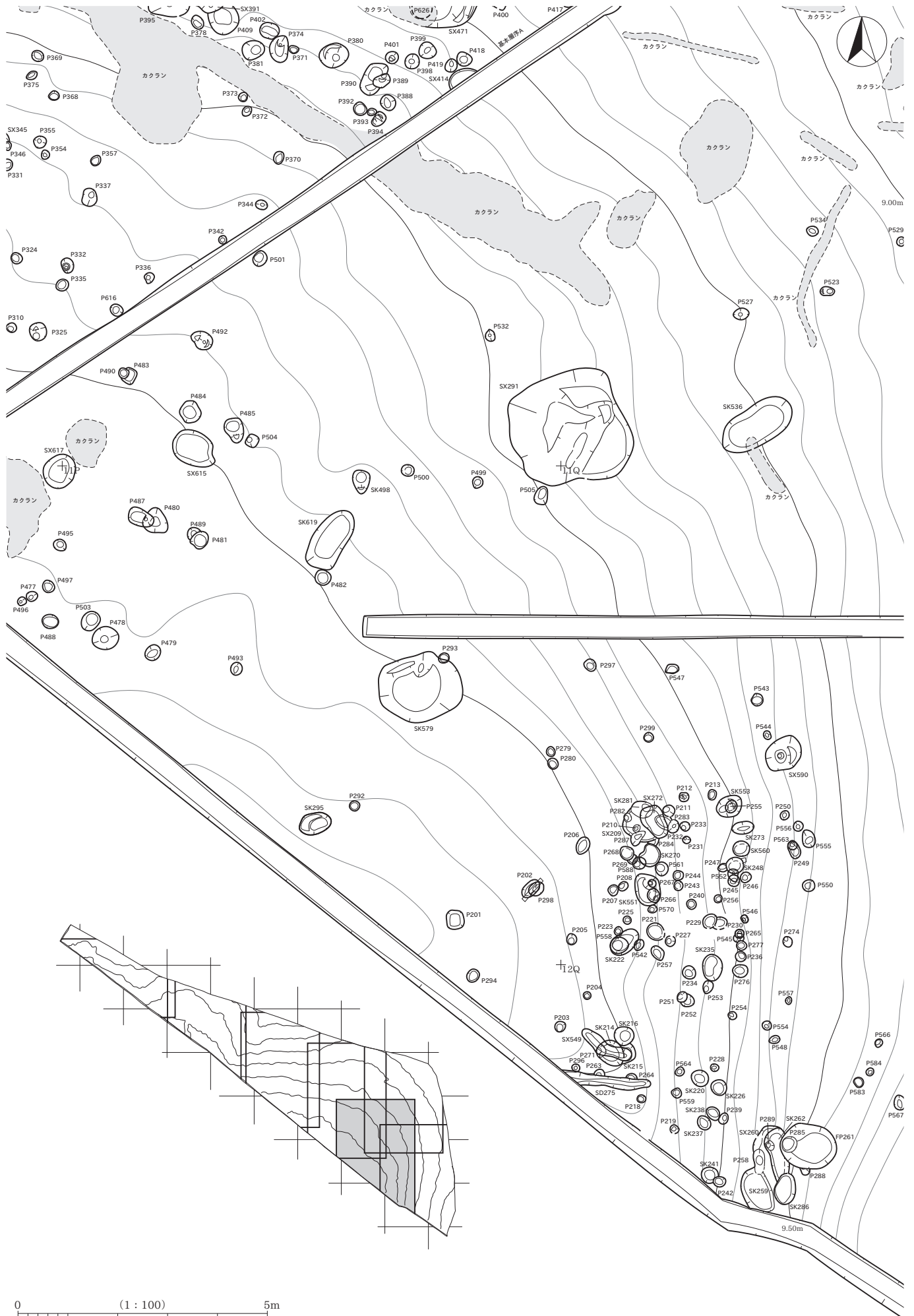


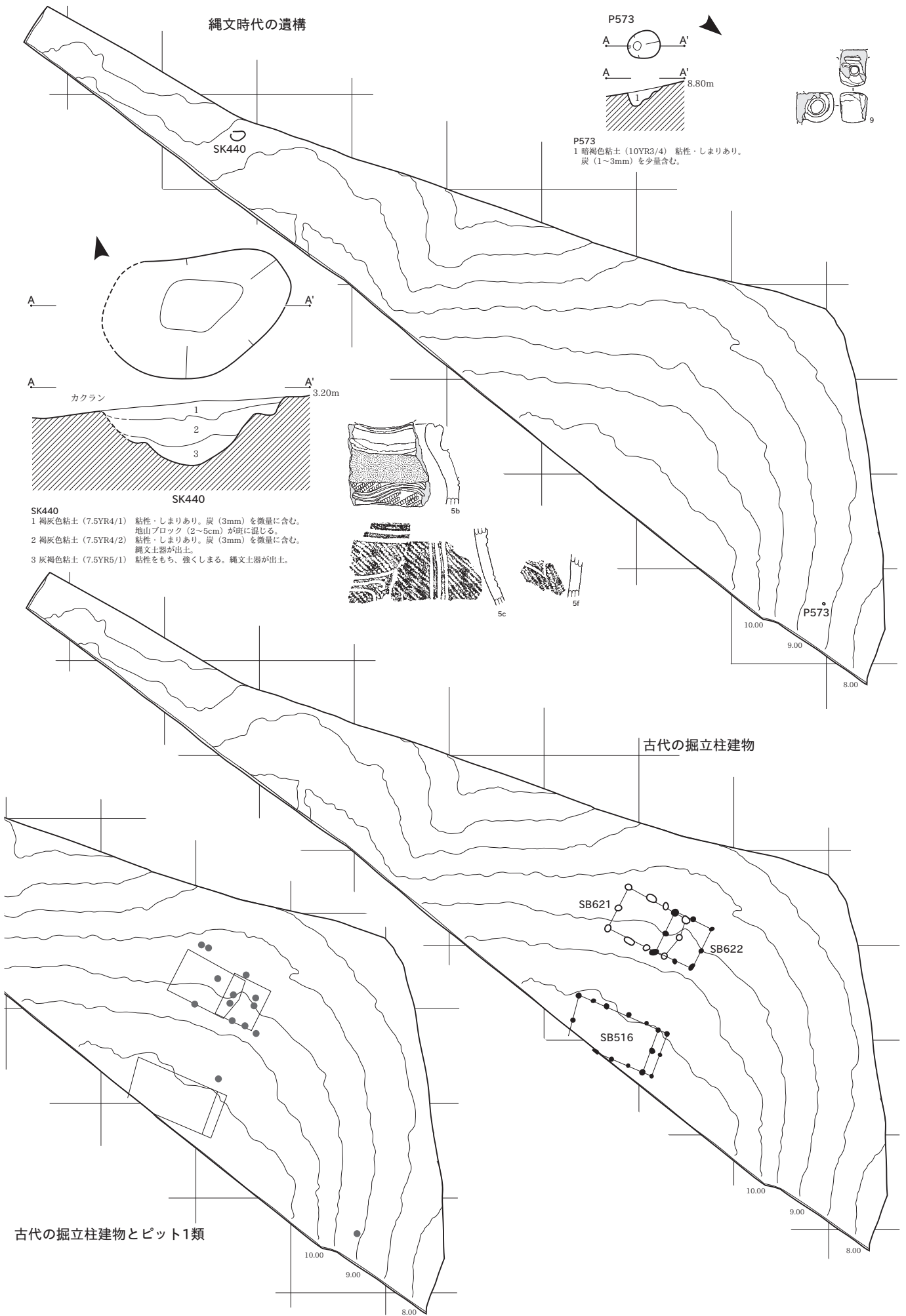


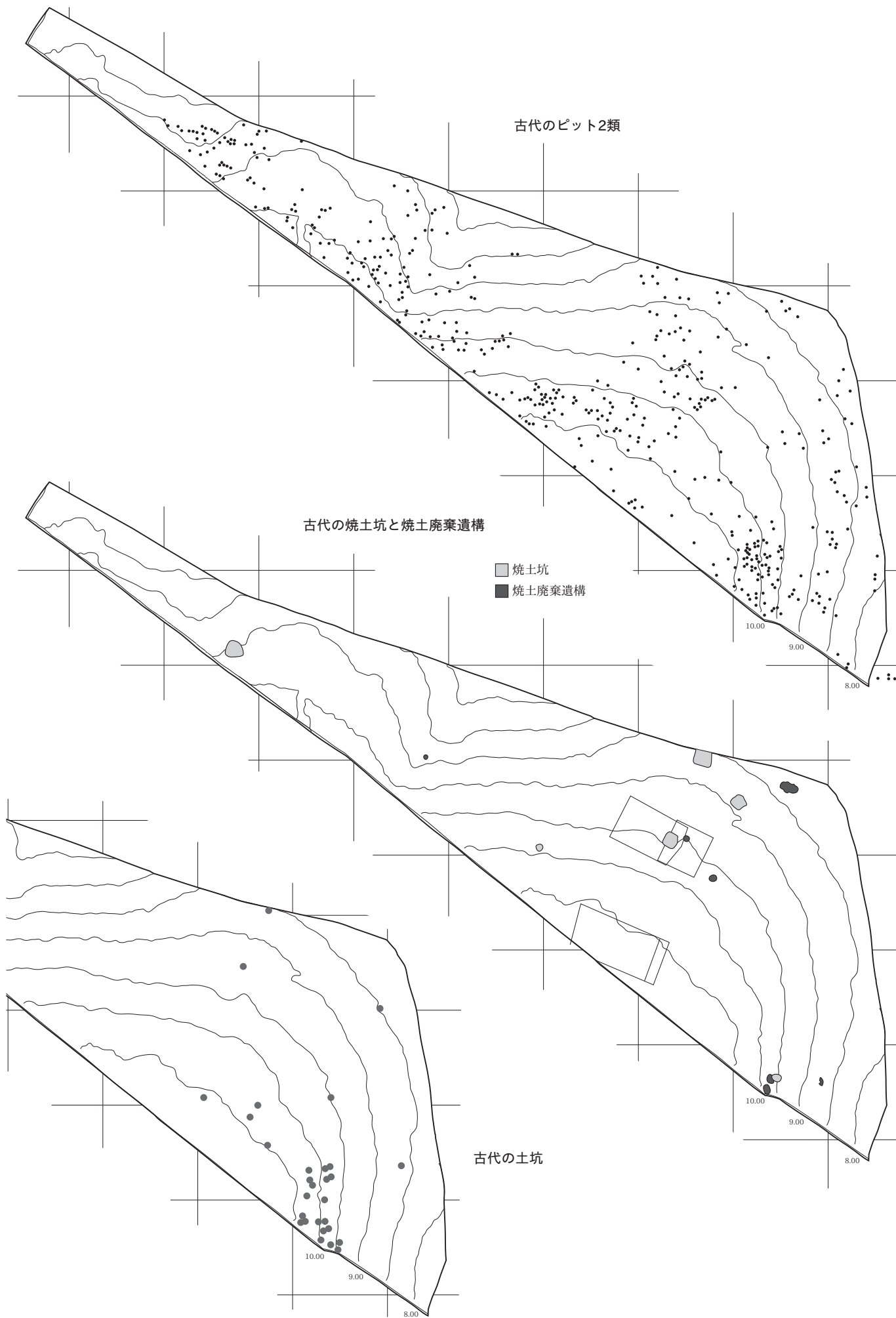


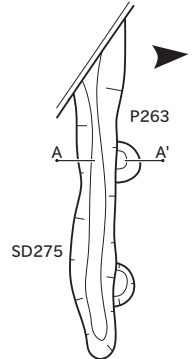
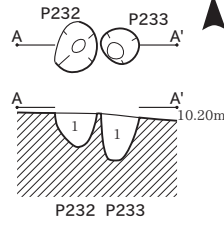
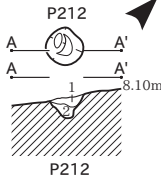
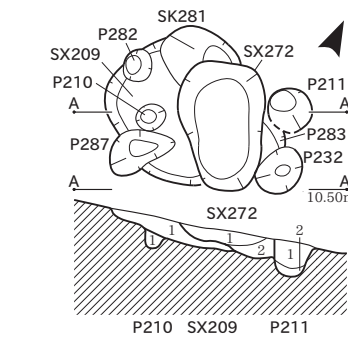
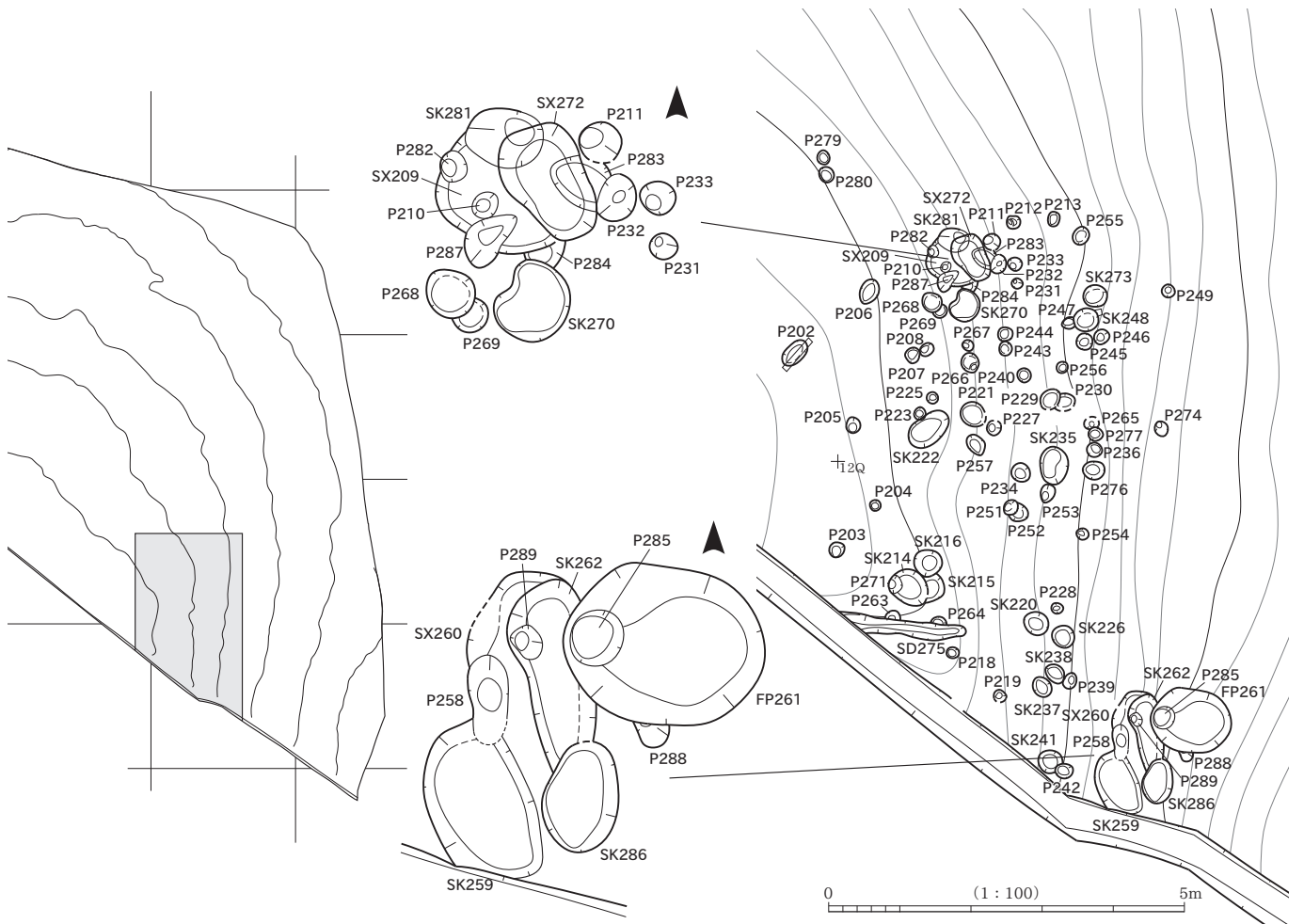












- SX272**
 1 黒褐色砂質腐植土 (7.5YR3/1) 粘性に乏しいが、しまりあり。炭 (2~3mm) を多量に含む。
 2 褐色砂質腐植土 (5YR4/1) 粘性に乏しいが、しまりあり。地山粒子 (5~10mm) を多量に含む。
- SX209**
 1 にぶい褐色砂質腐植土 (7.5YR5/3) 粘性に乏しいが、しまりあり。多量の地山ブロック (10~20mm) と炭 (1~2mm) を含む。
- P210**
 1 褐色腐植土 (7.5YR4/1) 粘性・しまりあり。地山ブロック (2~3cm) と炭 (1~3mm) を少量含む。
- P211**
 1 黒褐色腐植土 (7.5YR3/2) 粘性に乏しいが、しまりあり。地山ブロック (1cm) とマンガン粒子を比較的多く含む。焼土粒子 (2mm) と炭 (1mm) も微量に含む。
 2 灰褐色腐植土 (7.5YR4/2) 粘性・しまりに乏しい。多量の地山ブロック (10mm) とともに、炭 (1~2mm) を少量含む。

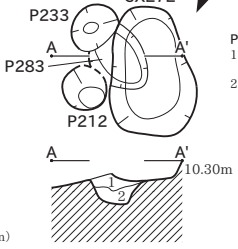
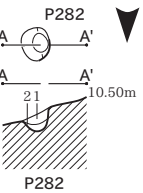
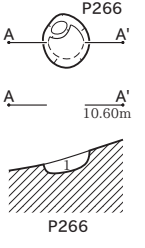
P212
 1 黒褐色砂質腐植土 (7.5YR3/1) しまりがあるが粘性に乏しい。地山粒子 (2~5mm) と炭 (1~2mm) を多く含む。
 2 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR4/2) 粘性・しまりあり。多量の地山粒子 (2~5mm) と少量の炭 (1mm) を含む。

P232
 1 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR4/2) 粘性に乏しいが、しまりあり。多量の炭 (2~5mm) と灰白色微粒子とともに焼土粒子 (3mm) を少量含む。

P233
 1 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR5/2) 粘性に乏しいが、しまりあり。多量の灰白色微粒子とともに炭 (2mm) を少量含む。

P263
 1 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR5/2) 粘性に乏しいが、しまりあり。多量の地山ブロック (10mm) と少量の炭 (1mm) を含む。

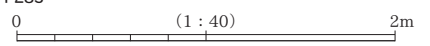
SD275
 1 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR5/2) 粘性に欠けるが、強くしまる。灰色砂を比較的多く含む。
 2 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR6/2) 粘性に欠けるが、しまりあり。灰色砂を多量に含む。

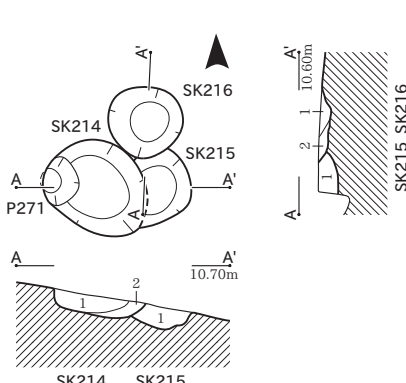


P266
 1 灰褐色腐植土 (7.5YR4/2) 粘性・しまりあり。多量の炭 (1~3mm) とともに焼土粒子と地山粒子を少量含む。

P282
 1 黒褐色腐植土 (10YR3/2) 粘性に乏しいが、しまりあり。多量の炭 (1~2mm) とともに、地山粒子 (5mm) を少量含む。
 2 黒褐色腐植土 (10YR3/2) 粘性・しまりあり。多量の炭 (1~2mm) とともに、地山粒子 (5mm) を少量含む。

P283
 1 灰黄褐色粘質腐植土 (10YR4/2) 粘性・しまりあり。炭 (2mm) を少量含む。
 2 灰黄褐色粘質腐植土 (10YR6/2) 粘性・しまりあり。マンガン粒子 (5mm) と地山粒子 (2mm) を多量に含む。

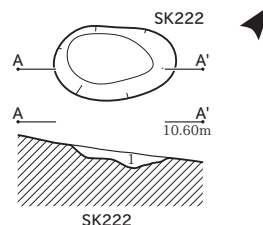




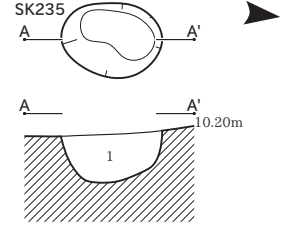
SK214
1 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR4/2) 粘性に乏しいが、強くしまる。地山粒子 (5mm) と炭 (3mm) を少量含む。
2 にぶい褐色砂質腐植土 (7.5YR5/4) 粘性に乏しいが、しまりあり。地山ブロック (20mm) と1層ブロック (20mm) が混在する。

SK215
1 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR4/2) 粘性に乏しいが、強くしまる。焼土ブロック (10mm) と炭 (1mm) を少量含む。

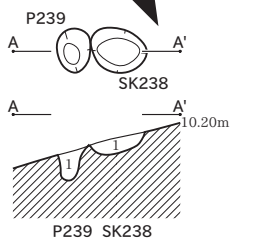
SK216
1 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR4/2) 粘性に乏しいが、強くしまる。炭 (2~4mm) を比較的多く含む。
2 にぶい褐色砂質腐植土 (7.5YR6/3) 粘性に乏しいが、しまりあり。白色微粒子を多量に含む。



SK222
1 灰褐色腐植土 (7.5YR4/2) 粘性・しまりあり。地山粒子 (5mm) を多量に含む。炭 (1~3mm) も比較的多い。

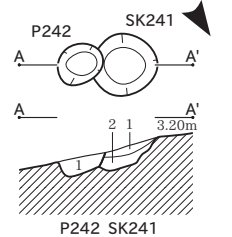


SK235
1 にぶい褐色粘質腐植土 (7.5YR5/3) しまりに乏しいが、粘性あり。多量の炭 (1~5mm) と地山ブロック (5mm) とともに少量の焼土粒子 (4mm) を含む。



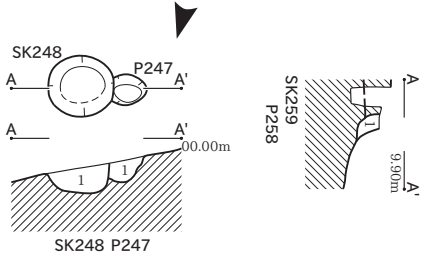
SK238
1 にぶい褐色砂質腐植土 (7.5YR5/3) 粘性に乏しいが、しまりあり。炭

P239
1 にぶい褐色砂質腐植土 (7.5YR5/3) 粘性に乏しいが、しまりあり。多量の地山ブロック (5mm) とともに、炭 (1~3mm) を微量に含む



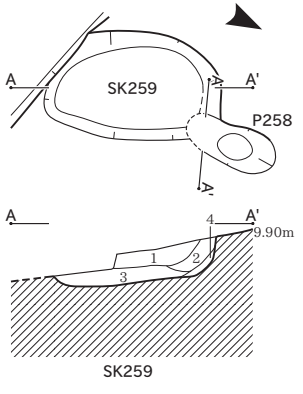
SK241
1 灰褐色腐植土 (7.5YR6/2) 粘性・しまりあり。炭 (1~2mm) と焼土粒子 (1mm) を少量含む。
2 灰褐色腐植土 (7.5YR6/2) 粘性・しまりあり。赤色粒子 (1mm) を少量含む。

P242
1 にぶい褐色腐植土 (7.5YR6/2) 粘性・しまりあり。炭 (1~3mm) と地山ブロック (10~20mm) を少量含む。



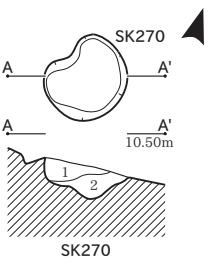
SK248
1 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR4/2) 粘性乏しいが、しまりあり。多量の地山ブロック (10mm) とともに炭 (2~5mm) も比較的多く含む。

P247
1 黒褐色腐植土 (7.5YR3/2) 粘性をもつが、しまりに欠ける。多量の地山ブロック (10~20mm) とともに炭 (2~5mm) も比較的多く含む。

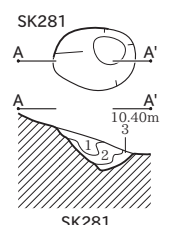


SK259
1 灰褐色腐植土 (7.5YR4/2) 粘性・しまりあり。多量の焼土粒子 (3mm) とともに炭 (2~5mm) も比較的多く含む。
2 にぶい赤褐色腐植土 (5YR5/4) 粘性に富むが、しまりに欠ける。多量の焼土粒子 (3mm) とともに炭 (3~10mm) も比較的多く含む。
3 灰褐色腐植土 (7.5Y5/2) 粘性・しまりあり。焼土粒子 (3~10mm) と炭 (2mm) を比較的多く含む。
4 灰褐色腐植土 (7.5YR6/2) 粘性に富むが、しまりに欠ける。少量の焼土粒子 (3mm) とともに比較的多くの地山粒子 (5mm) を含む。

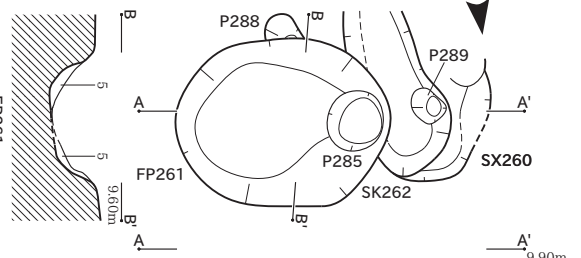
P258
1 灰褐色腐植土 (7.5YR6/2) 粘性・しまりあり。比較的多くの炭 (2~3mm) を含む。



SK270
1 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR4/2) 粘性乏しいが、しまりあり。少量の地山粒子 (3mm) と比較的多くの炭 (1~3mm) を含む。
2 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR4/2) 粘性に乏しいが、しまりあり。多量の地山ブロック (10~20mm) とともに炭 (1~2mm) を少量含む。



SK281
1 灰黄褐色砂質腐植土 (10YR4/2) 粘性乏しいが、しまりあり。多量の地山粒子 (5mm) とマンガン粒子 (2mm) とともに炭 (1mm) を少量含む。
2 灰黄褐色砂質腐植土 (10YR4/2) 粘性乏しいが、しまりあり。多量の地山ブロック (10mm) とともにマンガン粒子 (2mm) を少量含む。
3 灰黄褐色砂質腐植土 (10YR4/2) 粘性乏しいが、しまりあり。地山粒子 (5mm) とマンガン粒子 (2mm) を少量含む。



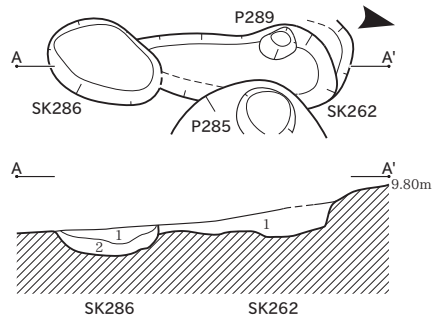
SK262
1 にぶい褐色粘質腐植土 (7.5YR5/3) 粘性に富むが、しまりに欠ける。炭 (10~20mm) と焼土粒子 (5mm) を多く含む。

FP261
1 灰黄褐色粘質腐植土 (10YR6/2) 粘性に富み、しまりあり。炭 (10~20mm) と焼土粒子 (5mm) を多く含む。
2 にぶい褐色粘質腐植土 (7.5YR5/3) 粘性に富み、しまりあり。炭 (2~5mm) を比較的多く含む。焼土粒子の含有量は少ない。
3 にぶい褐色粘質腐植土 (7.5YR5/3) きわめて粘性が強いが、しまりに欠ける。炭 (5mm) と焼土粒子 (5~10mm) を多く含む。
4 明赤褐色焼土 (2.5YR5/6) 焼土硬化層。強くしまるが、粘性なし
5 にぶい褐色粘質腐植土 (7.5YR6/3) やや粘性をもつが、しまりに欠ける。炭 (10mm) を少量含む。

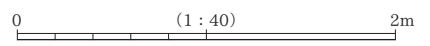
SK262
1 にぶい褐色粘質腐植土 (7.5YR5/3) 粘性乏しいが、しまりあり。比較的多くの炭 (1~2mm) とともに、焼土粒子 (5mm) を少量含む。

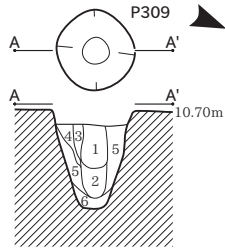
P285
1 にぶい黄褐色粘土 (10YR6/3) 粘性・しまりあり。多量の黄褐色粘土粒子 (3mm) とともに、炭 (2mm) を少量含む。

P289
1 にぶい褐色腐植土 (7.5YR5/3) 粘性に富み・しまりあり。比較的多くの地山粒子 (5mm) とともに、焼土粒子 (3mm) と炭 (1~3mm) を少量含む。にぶい褐色粘土粒子 (5mm) を比較的多く含む。

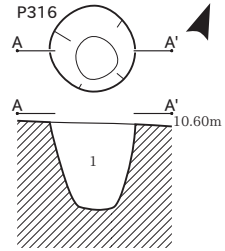


SK286
1 灰褐色腐植土 (7.5YR4/2) 粘性・しまりあり。少量の地山粒子 (5mm~1cm) と比較的多くの炭 (2~5mm) を含む。
2 にぶい褐色腐植土 (7.5YR6/3) 粘性・しまりあり。地山ブロック (10mm) を多量に含む。

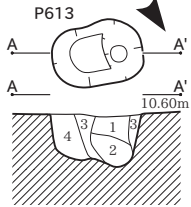




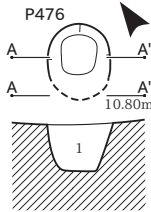
P309
 1 褐色粘土 (7.5YR4/4) 粘性に富み、しまりあり。炭 (1~3mm) と微量の赤色粒子を含む。
 2 褐色粘土 (7.5YR4/4) 粘性をもち、強くしまる。多量の炭 (1~5mm) と微量の地山粒子を含む。
 3 黄褐色粘土 (10YR5/8) 粘性・しまりあり。多量の地山ブロックとともに微量の炭 (1~2mm) を含む。
 4 褐色粘土 (7.5YR4/4) 粘性に富み、しまりあり。炭 (1mm) を微量に含む。
 5 明褐色粘土 (7.5YR5/6) 粘性・しまりあり。地山粒子とともに少量の炭 (1~3mm) と微量の赤色粒子を含む。
 6 黄褐色粘土 (10YR5/8) 粘粘性に富み、しまりあり。炭 (1mm) を微量に含む。



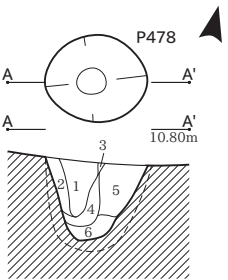
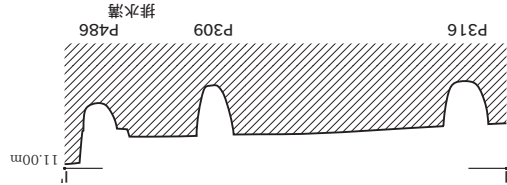
P316
 1 褐色粘土 (7.5YR4/6) 粘性をもち、強くしまる。炭 (1~5mm) を少量含む。



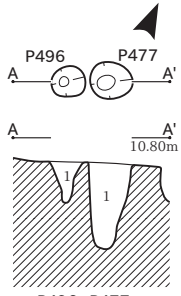
P613
 1 褐色粘土 (7.5YR4/3) 粘性強く、しまりあり。地山ブロックを少量含む。
 2 にぶい褐色粘土 (7.5YR4/3) 粘性強く、硬くしまる。地山ブロックを少量含む。
 3 褐色粘土 (7.5YR4/6) 粘性強く、しまりあり。地山小ブロックを多く含む。
 4 にぶい褐色粘土 (7.5YR5/4) 粘性強く、しまりあり。地山ブロックを多く含む。



P476
 1 褐色粘土 (7.5YR4/4) 粘性・しまりあり。炭を少量含む。

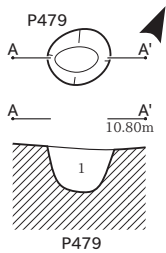


P478
 1 褐色粘土 (7.5YR4/4) 粘性・しまりあり。
 2 暗褐色粘土 (7.5YR3/4) 粘性をもち、強くしまる。
 3 褐色粘土 (7.5YR4/6) 粘性をもち、強くしまる。地山粒子が斑に混じる。
 4 褐色粘土 (7.5YR4/6) 粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを少量含む。
 5 褐色粘土 (7.5YR4/4) 粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを少量含む。
 6 褐色粘土 (7.510YR5/8) 粘性・しまりあり。地山ブロックを少量含む。

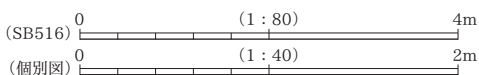
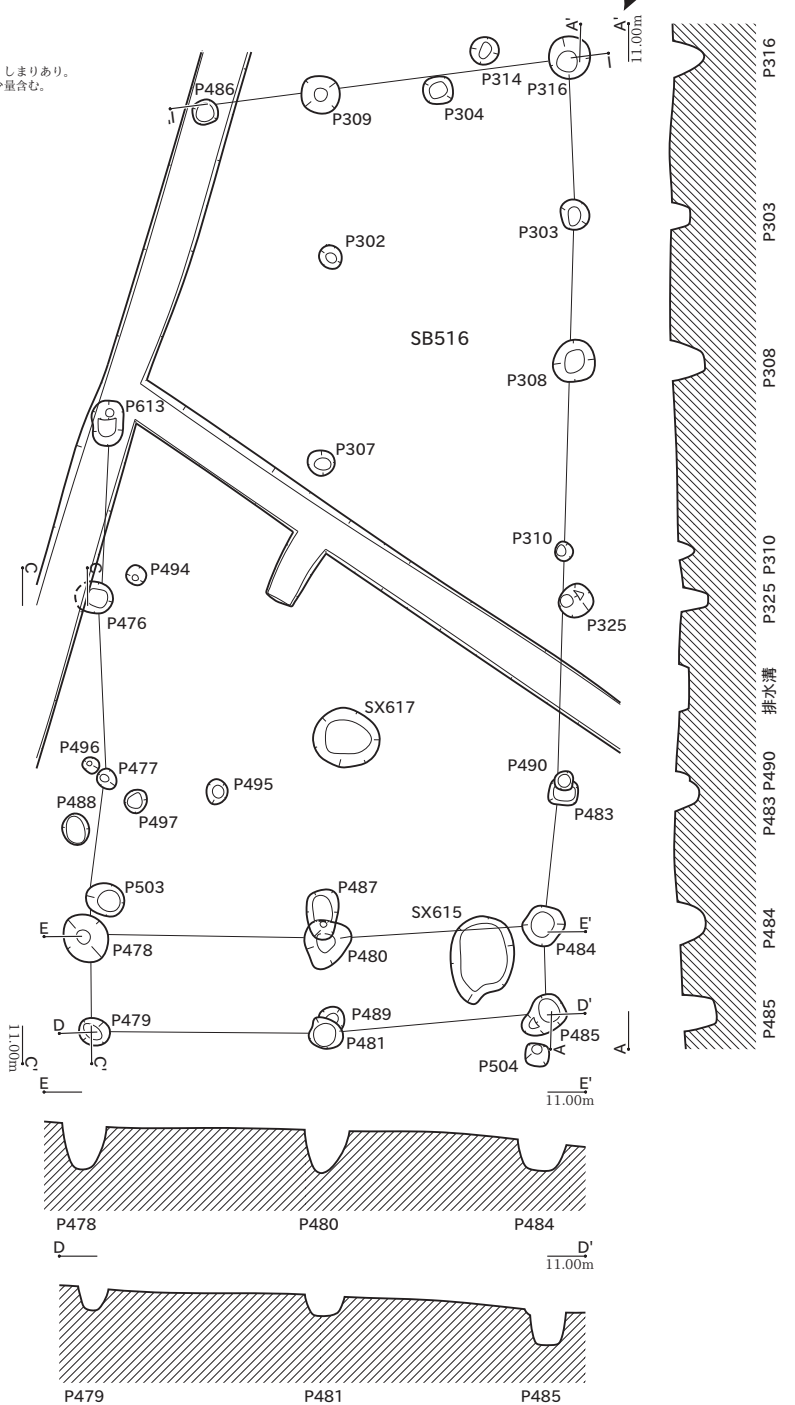


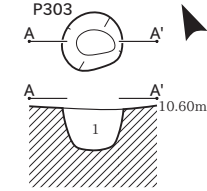
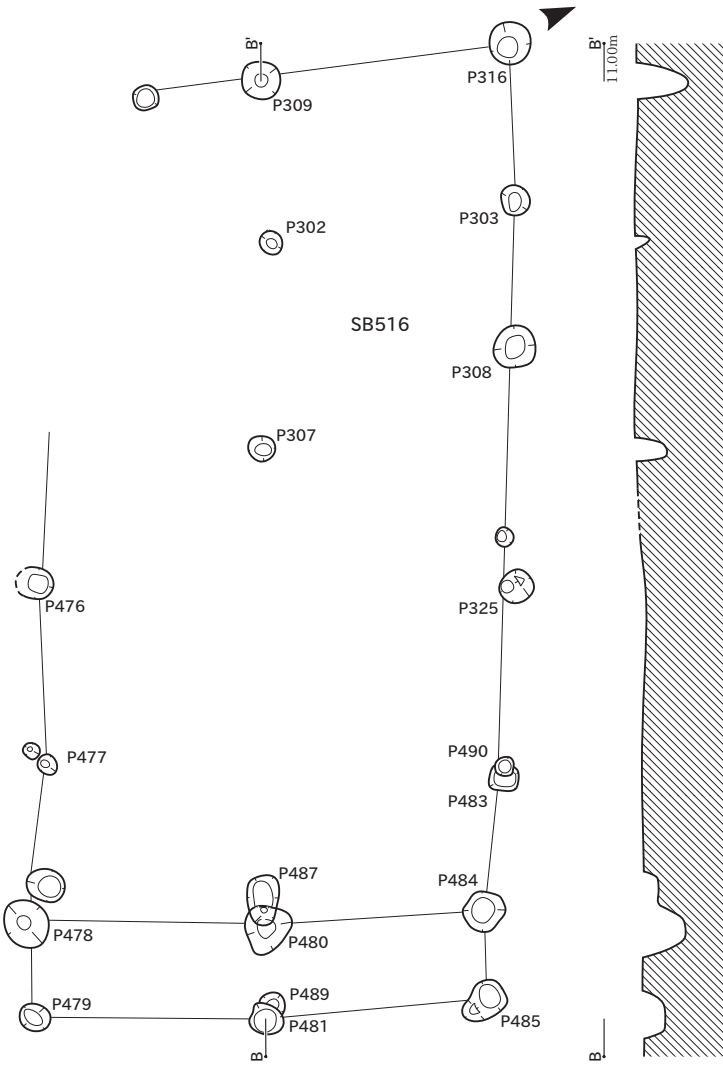
P496
 1 褐色粘土 (7.5YR4/4) やや粘性をもち、強くしまる。地山小ブロックを微量に含む。

P477
 1 褐色粘土 (7.5YR4/6) やや粘性をもち、強くしまる。地山小ブロックを少量含む。

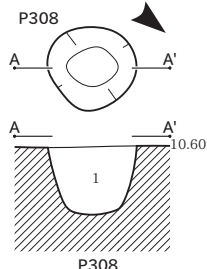


P479
 1 褐色砂質粘土 (7.5YR4/6) 粘性に乏しいが、強くしまる。地山ブロックを多量に含む。

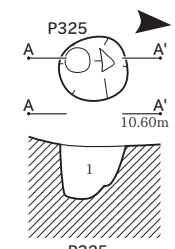




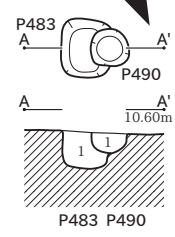
P303
1 明褐色粘土 (7.5YR5/6) 粘性・しまりあり。炭 (2~8mm) を微量に含む。



P308
1 褐色粘土 (10YR4/6) 粘性・しまりあり。赤色粒子 (2~5mm) を微量に含む。

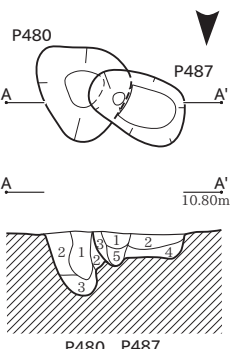


P325
1 褐色粘土 (7.5YR4/4) 粘性をもち、強くしまる。炭 (2~7mm) を少量含む。



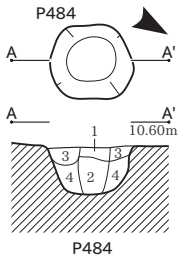
P483
1 暗褐色粘土 (10YR3/4) やや粘性をもち、強くしまる。少量の焼土粒子 (10mm) と微量の炭 (5~10mm) を含み、マンガン粒子 (1mm) が珪に混じる。

P490
1 褐色粘土 (10YR4/4) やや粘性をもち、強くしまる。少量の焼土粒子 (10mm) と微量の炭 (5~10mm) を含み、少量の焼土粒子 (1mm) や地山ブロックとともに、炭 (1mm) を微量に含む。

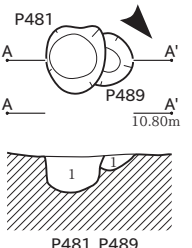


P480
1 におい黄褐色粘土 (10YR4/3) やや粘性をもち、強くしまる。炭 (5mm) と焼土粒子 (1~3mm) を少量含む。
2 褐色粘土 (10YR4/6) やや粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを多く含む。
3 明褐色砂質粘土 (7.5YR5/8) 粘性に欠けるが、強くしまる。褐色粘土が珪に混る。

P487
1 褐色砂質粘土 (10YR4/4) 粘性に乏しいが、強くしまる。炭 (1~5mm) と焼土粒子 (1mm)・地山小ブロックを少量含む。
2 褐色砂質粘土 (7.5YR4/4) 粘性に欠けるが、強くしまる。炭 (5~10mm) とともに、地山小ブロックを少量含む。
3 におい黄褐色砂質粘土 (10YR4/3) やや粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを含み、マンガン粒子 (3mm) が珪に混る。
4 明褐色粘土 (7.5YR5/8) やや粘性をもち、強くしまる。褐色粘土が珪に混る。
5 におい黄褐色砂質粘土 (10YR4/3) 粘性に欠けるが、強くしまる。炭 (1mm) と焼土粒子 (5mm) を少量含む。

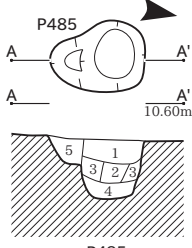


P484
1 褐色砂質粘土 (10YR4/4) 粘性に乏しいが、強くしまる。炭 (3~5mm) と微量の焼土粒子 (3mm) を含む。
2 暗褐色砂質粘土 (10YR4/4) 粘性に乏しいが、強くしまる。多量の炭 (3~5mm) とともに焼土粒子 (3~5mm) を含む。
3 褐色粘土 (7.5YR4/6) やや粘性をもち、強くしまる。炭 (3~5mm) と地山ブロックを少量含む。
4 褐色粘土 (7.5YR4/4) やや粘性をもち、強くしまる。炭 (3~5mm) を微量に含み、マンガン粒子 (1mm) が珪に混る。

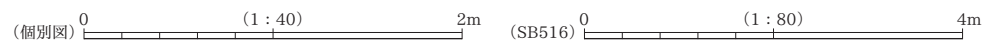


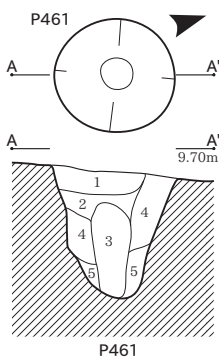
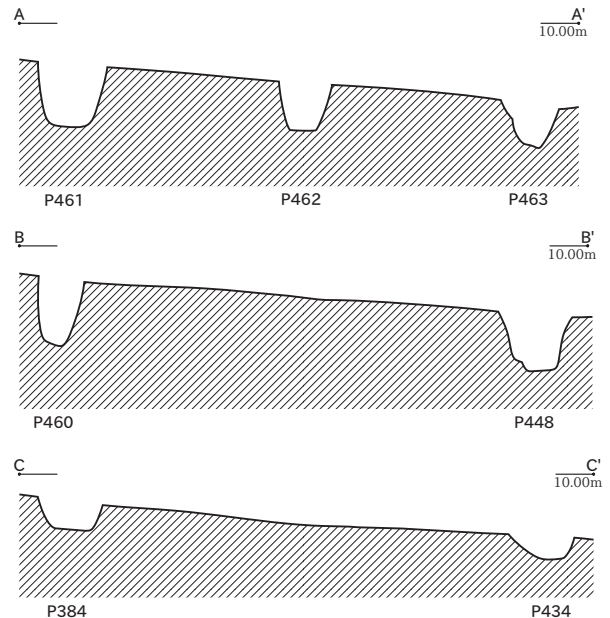
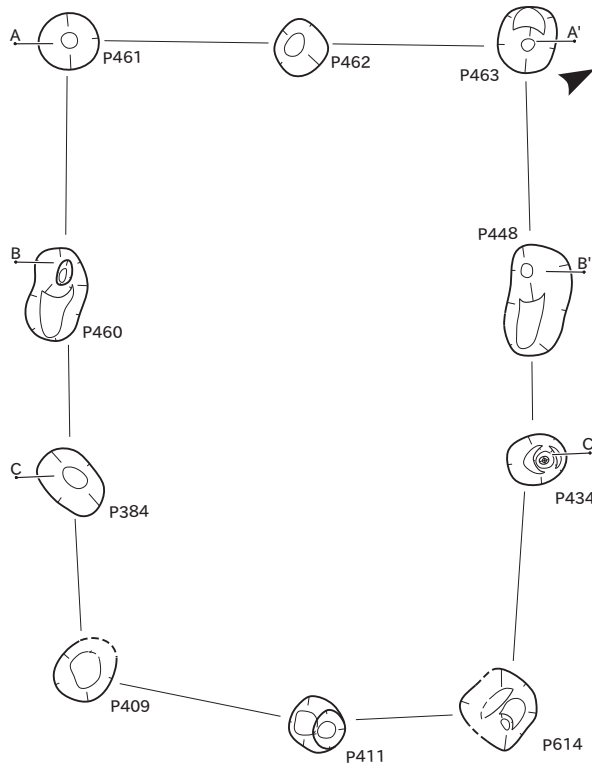
P481
1 褐色粘土 (7.5YR4/4) 粘性をもち、強くしまる。炭 (5~10mm) と焼土粒子 (10mm) を少量含む。

P489
1 明褐色粘土 (7.5YR5/8) 粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを多く含む。

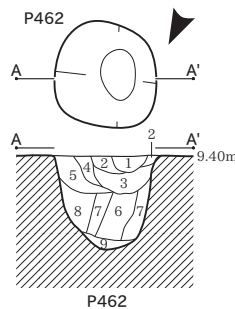


P485
1 明褐色粘土 (7.5YR5/6) やや粘性をもち、強くしまる。炭 (3~10mm) と少量の地山ブロックを含み、マンガン粒子 (3mm) が珪に混る。
2 褐色粘土 (10YR4/4) 粘性・しまりあり。マンガン粒子 (3mm) が珪に混る。
3 褐色粘土 (7.5YR4/6) やや粘性をもち、強くしまる。炭 (3~5mm) と地山ブロックを少量含む。
4 褐色シルト (10YR4/6) やや粘性をもち、強くしまる。褐色粘土とマンガン粒子 (3mm) が珪に混る。
5 明褐色シルト (10YR5/8) やや粘性をもち、強くしまる。褐色粘土が珪に混る。

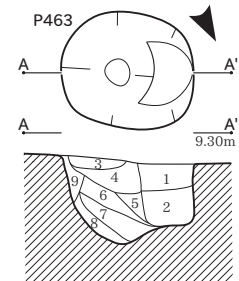




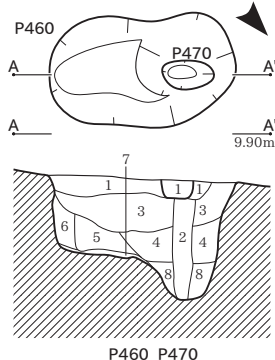
- P461**
- 1 濃い黄褐色砂質粘土 (10YR5/4) 粘性に欠けるが、強くしめる。褐色粘土および地山を斑に少量含む。炭 (1~3mm) を含む。
 - 2 褐色砂質粘土 (10YR4/6) 粘性に欠けるが、強くしめる。地山ブロックを少量含む。炭 (1mm) を微量に含む。
 - 3 褐色粘土 (10YR4/4) やや粘性があり、強くしめる。炭 (5mm) を微量に含む。
 - 4 褐色砂質粘土 (10YR4/6) 粘性に欠けるが、きわめて強くしめる。地山をブリック状に含む。マンガン粒子 (1mm) を少量含む。
 - 5 にぶい黄褐色粘土 (10YR5/4) やや粘性があり、きわめて強くしめる。地山ブロックを少量含む。



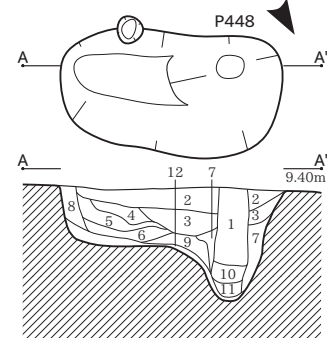
- P462**
- 1 褐色砂質粘土 (10YR4/4) 粘性に欠けるが、きわめて強くしめる。炭 (3~5mm) と焼土粒子 (1mm) を微量に含む。
 - 2 褐色砂質粘土 (10YR4/4) 粘性に欠けるが、きわめて強くしめる。炭 (1mm) とマンガン粒子 (3mm) を少量含む。
 - 3 褐色砂質粘土 (10YR4/4) 粘性に欠けるが、きわめて強くしめる。マンガン粒子 (1mm) が斑に混じり、炭 (3~5mm) も少量含む。
 - 4 褐色粘土 (10YR4/6) やや粘性があり、きわめて強くしめる。地山ブロックとマンガン粒子 (1mm) を少量含む。
 - 5 褐色粘土 (10YR4/6) やや粘性があり、きわめて強くしめる。マンガン粒子 (1mm) が斑に混じり、地山ブロックと炭 (3~5mm) を少量含む。
 - 6 褐色粘土 (10YR4/6) やや粘性があり、きわめて強くしめる。地山ブロックと炭 (3mm) を少量含む。
 - 7 黄褐色粘土 (10YR5/6) やや粘性があり、きわめて強くしめる。マンガン粒子 (1mm) が斑に混じり、地山ブロックも少量含む。
 - 8 黄褐色粘土 (10YR5/6) やや粘性があり、きわめて強くしめる。マンガン粒子 (1mm) が斑に混じり、地山ブロックや炭 (3mm) も少量含む。
 - 9 淡黄褐色粘土 (2.5Y8/3) やや粘性があり、きわめて強くしめる。褐色粘土が斑に混じる。



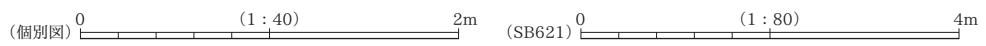
- P463**
- 1 褐色粘土 (10YR4/4) やや粘性があり、強くしめる。地山ブロック・炭 (3~5mm) ・焼土粒子 (3mm) を微量に含む。粘性に欠けるが、強くしめる。炭を含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 2 褐色砂質粘土 (10YR4/6) 粘性に欠けるが、強くしめる。炭 (1mm) と地山ブロックを微量に含む。
 - 3 褐色砂質粘土 (10YR4/6) 粘性に欠けるが、強くしめる。炭 (1mm) と地山ブロックを微量に含む。
 - 4 暗赤褐色粘土 (2.5YR3/4) やや粘性があり、強くしめる。炭 (5~20mm) と地山ブロックを少量含む、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 5 暗赤褐色粘土 (2.5YR5/6) やや粘性があり、強くしめる。多量の地山ブロックとともに炭 (5~20mm) を含む。
 - 6 明黄褐色粘土 (10YR7/6) やや粘性があり、強くしめる。多量の褐色粘土ブロックとともに炭 (3mm) を微量に含む。
 - 7 にぶい黄褐色粘土 (2.5YR5/6) 粘性をもち、強くしめる。炭 (1mm) 地山ブロックを微量に含む、褐色粘土が斑に混じる。
 - 8 明黄褐色粘土 (10YR7/6) やや粘性をもち、強くしめる。多量の褐色粘土ブロックとともに炭 (3~10mm) を微量に含む。
 - 9 淡黄褐色砂質粘土 (2.5Y2/3) 粘性に欠けるが、強くしめる。炭 (3mm) を少量含む、褐色粘土が斑に混じる。

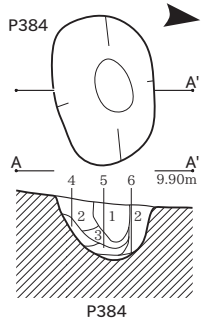
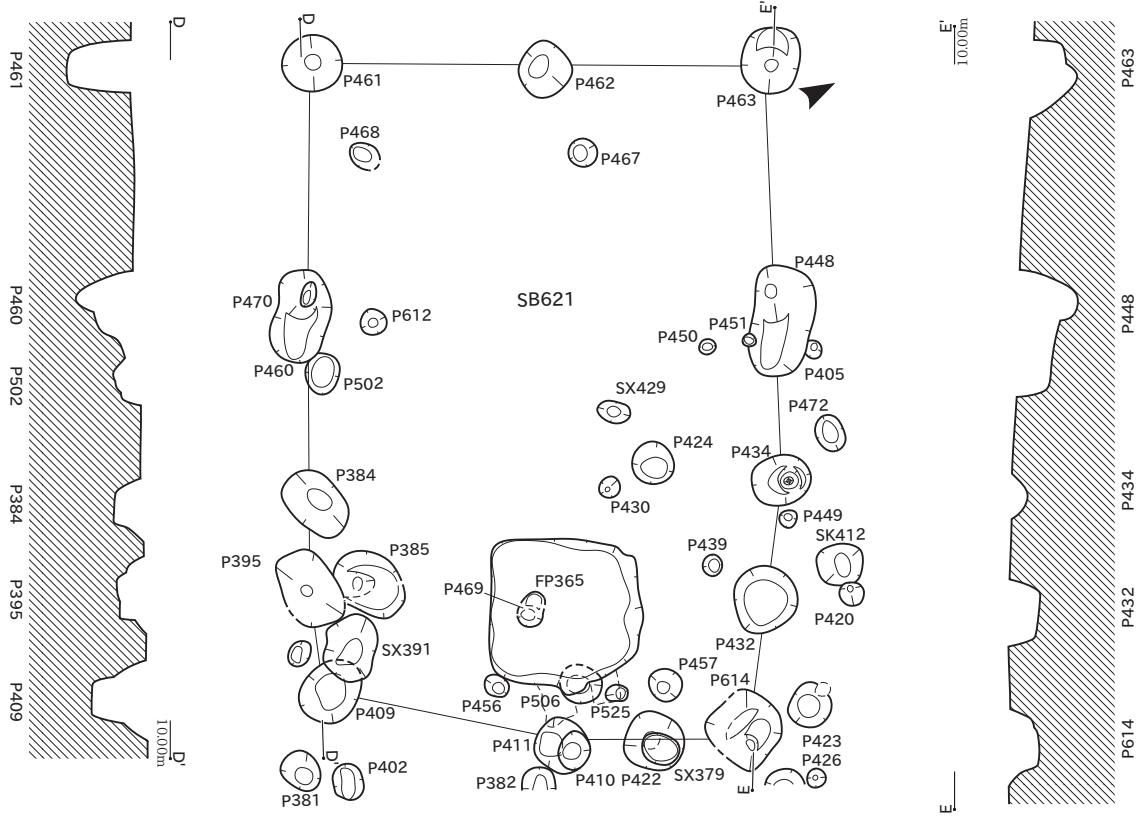


- P460**
- 1 褐色砂質粘土 (10YR4/6) 粘性に乏しいが、強くしめる。地山小ブロックを少量含む、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 2 褐色砂質粘土 (10YR4/4) 粘性に乏しいが、強くしめる。炭 (3mm) とマンガン粒子 (1mm) を含む。
 - 3 褐色砂質粘土 (10YR4/6) 粘性に乏しいが、強くしめる。多量の地山大ブロックとともに炭 (3mm) を少量含む、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 4 暗褐色粘土 (10YR3/4) やや粘性をもち、強くしめる。多量の地山ブロックとともに炭 (1mm) を含む。
 - 5 褐色粘土 (10YR4/6) やや粘性をもち、強くしめる。多量の地山ブロックとともに炭 (1mm) を少量含む。
 - 6 褐色粘土 (10YR4/6) やや粘性をもち、強くしめる。地山ブロックを多量に含む。
 - 7 灰黄色粘土 (2.5Y7/2) やや粘性をもち、強くしめる。褐色シルトが斑に混じる。
 - 8 にぶい黄褐色粘土 (10YR 5/3) 粘性に乏しいが、強くしめる。地山小ブロックを含む。
- P470**
- 1 にぶい黄褐色砂質粘土 (10YR 3/4) 粘性に欠けるが、強くしめる。地山小ブロックを含む。

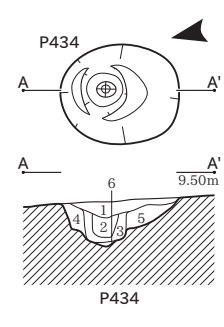


- P448**
- 1 褐色砂質粘土 (10YR4/4) 粘性に乏しいが、強くしめる。炭 (3mm) と微量の焼土粒子 (3mm) を含む、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 2 褐色砂質粘土 (10YR4/6) 粘性に乏しいが、強くしめる。少量の地山ブロックとともに炭 (1mm) と焼土粒子 (3mm) を微量に含む、マンガン粒子 (1~5mm) が斑に混じり、やや粘性をもち、強くしめる。炭 (1~5mm) と地山小ブロックを少量含む。
 - 3 褐色粘土 (10YR4/6) 粘性に乏しいが、強くしめる。炭 (1mm) ・焼土粒子 (3mm) ・地山ブロックを微量に含む。
 - 4 褐色砂質粘土 (10YR4/6) やや粘性をもち、強くしめる。褐色粘土が斑に混じる。
 - 5 明黄褐色粘土 (10YR6/8) やや粘性をもち、強くしめる。少量の炭 (5mm) とともに、多量の地山ブロックを含む。
 - 6 褐色粘土 (10YR4/6) やや粘性をもち、強くしめる。少量の地山小ブロックとともに炭 (1mm) を微量に含む、マンガン粒子 (1mm) と褐色粘土が斑に混じる。
 - 7 暗褐色粘土 (7.5YR3/4) やや粘性をもち、強くしめる。少量の地山小ブロックとともに炭 (1mm) を微量に含む、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 8 褐色粘土 (7.5YR4/4) やや粘性をもち、強くしめる。少量の炭 (1mm) と地山ブロックを含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 9 褐色粘土 (10YR4/4) やや粘性をもち、強くしめる。多量の地山ブロックとともに炭 (1mm) を少量含む、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 10 暗褐色粘土 (7.5YR4/4) やや粘性をもち、しりりがある。炭 (1mm) を微量に含む、水酸化鉄と多量のマンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 11 灰黄色褐色粘土 (10YR6/2) 粘性をもち、強くしめる。炭 (1mm) を微量に含む、水酸化鉄が斑に混じる。
 - 12 淡黄色粘土 (2.5Y8/3) やや粘性をもち、強くしめる。褐色粘土が斑に混じる。

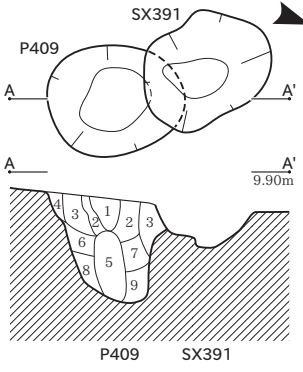




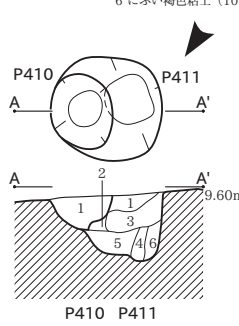
- P384**
- 1 にぶい黄褐色粘土 (10YR4/3) 粘性に富み、しまりあり。炭 (3mm) 焼土粒子 (10mm)・地山小ブロックを含み、水酸化鉄が斑に混じる。
 - 2 褐色粘土 (10YR4/4) 粘性をもち、強くしまる。炭 (1mm) とともに微量の焼土粒子 (1mm) を含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 3 褐色粘土 (10YR4/4) やや粘性をもち、強くしまる。焼土粒子 (10mm) とともに地山小ブロックを含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 4 褐色粘土 (10YR4/6) やや粘性をもち、強くしまる。多量の地山小ブロックを含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 5 にぶい黄褐色粘土 (10YR5/4) やや粘性をもち、強くしまる。炭 (1mm) を含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 6 にぶい黄褐色粘土 (10YR4/3) やや粘性をもち、強くしまる。焼土粒子 (5mm) と地山小ブロックを含む。



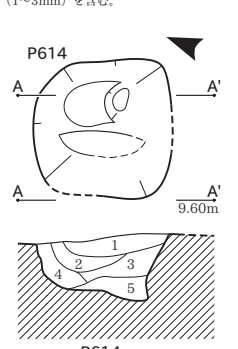
- P434**
- 1 褐色粘土 (10YR4/6) やや粘性があり、強くしまる。炭 (1~10mm) とともに・多量の焼土粒子 (1~10mm) ・少量の地山小ブロックを含む。
 - 2 褐色粘土 (10YR4/6) やや粘性があり、強くしまる。少量の炭 (1~3mm) とともに焼土粒子 (5~20mm) と地山小ブロックを含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 3 褐色粘土 (10YR4/6) やや粘性があり、強くしまる。炭 (3mm)・焼土粒子 (1~10mm)・地山小ブロックを少量含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 4 褐色砂質粘土 (7.5YR4/6) 粘性に乏しいが、強くしまる。多量の地山小ブロックとともに焼土粒子 (5~10mm) と炭 (1~10mm) を含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 5 にぶい黄褐色粘土 (10YR5/4) やや粘性をもち、強くしまる。多量の地山小ブロックとともに焼土粒子 (1~3mm) と炭 (3~5mm) を含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 6 にぶい褐色粘土 (10YR6/3) 粘性・しまりあり。炭 (1~3mm) を含む。



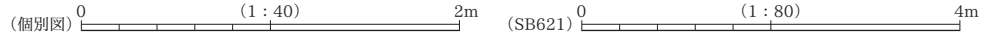
- P409**
- 1 褐色粘土 (7.5YR4/6) 粘性に欠けるが、きわめて強くしまる。地山ブロックを少量含む。
 - 2 明褐色粘土 (7.5YR5/6) 粘性・しまりあり。地山ブロックを多く含む。
 - 3 褐色粘土 (7.5YR4/6) 粘性に富み、しまりあり。炭 (1~3mm) を含む。
 - 4 褐色粘土 (7.5YR4/6) 粘性・しまりあり。地山ブロックを多く含む。炭 (1~2mm) を微量に含む。
 - 5 褐色粘土 (7.5YR4/6) 粘性に富み、きわめて強くしまる。炭 (1~3mm) を少量含む。
 - 6 褐色粘土 (7.5YR4/6) 粘性をもち、きわめて強くしまる。地山ブロックを少量含む。炭 (2~4mm) を多く含む。
 - 7 明褐色粘土 (7.5YR5/8) 粘性・しまりあり。地山ブロックを少量含む。炭 (2~4mm) を多く含む。
 - 8 褐色粘土 (7.5YR4/6) 粘性をもち、きわめて強くしまる。地山ブロックを含む。
 - 9 明褐色粘土 (7.5YR5/8) やや粘性があり、きわめて強くしまる。地山ブロックを含む。

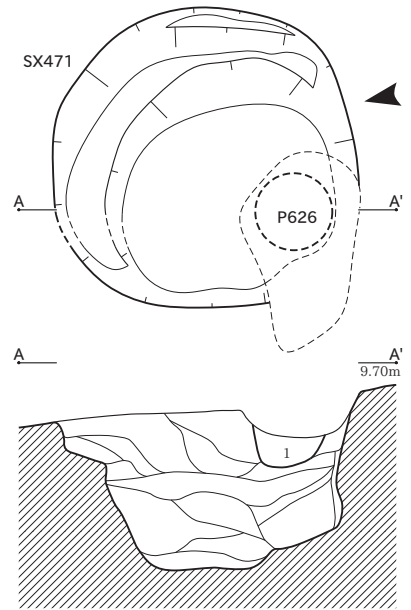
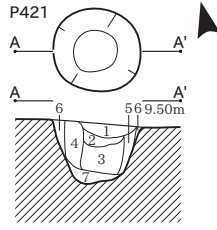
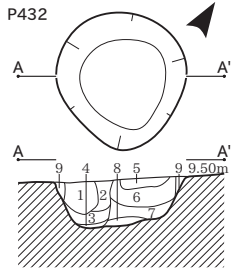


- P410**
- 1 褐色粘土 (7.5YR4/4) 粘性・しまりあり。炭 (1mm~1cm) と多量の焼土を含む。
- P411**
- 1 明褐色粘土 (7.5YR5/6) 粘性強く、しまりあり。地山ブロックと炭 (1~3mm) を少量含む。
 - 2 橙色粘土 (7.5YR6/8) 粘性・しまりあり。地山ブロックと炭 (3~8mm) を少量含む。
 - 3 黄褐色粘土 (7.5YR6/8) 粘性をもち、きわめて強くしまる。多量の地山ブロックと微量の炭 (1~2mm) を含む。
 - 4 橙色粘土 (7.5YR6/6) 粘性をもち、きわめて強くしまる。多量の地山ブロックと微量の炭 (1mm) を含む。
 - 5 明褐色粘土 (7.5YR5/6) 粘性をもち、きわめて強くしまる。多量の地山ブロックと微量の炭 (1~2mm) を含む。
 - 6 明褐色粘土 (7.5YR5/6) 粘性・しまりあり。地山ブロックと炭 (1~3mm) を少量含む。



- P614**
- 1 明褐色砂質粘土 (7.5YR5/8) やや粘性をもち、強くしまる。褐色粘土が斑に混じる。
 - 2 橙色砂質粘土 (7.5YR6/8) 粘性をもち、強くしまる。少量の褐色粘土が斑に混じる。
 - 3 明褐色砂質粘土 (7.5YR5/8) 粘性をもち、強くしまる。地山小ブロックを少量含み、褐色粘土が斑に混じる。
 - 4 明褐色砂質粘土 (7.5YR5/8) 粘性をもち、強くしまる。少量の褐色粘土が斑に混じる。
 - 5 明褐色砂質粘土 (7.5YR5/8) 粘性をもち、強くしまる。多量の地山小ブロックとともに4層を含み、褐色粘土が斑に混じる。

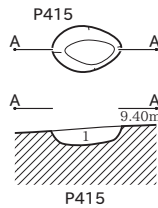




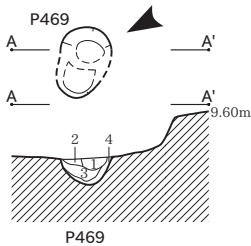
- P432**
- 1 暗褐色砂質粘土 (10YR3/4) 粘性に乏しいが、強くしめる。炭 (1~3mm) を含み、マンガン粒子 (1mm) と地山が斑に混じる。
 - 2 暗褐色砂質粘土 (7.5YR3/4) 粘性に乏しいが、強くしめる。地山ブロック・炭 (3~5mm) と微量の焼土粒子 (10mm) を含み、マンガン粒子 (5mm) が斑に混じる。
 - 3 暗褐色粘土 (7.5YR3/4) やや粘性をもち、強くしめる。微量の焼土粒子 (10mm) とともに炭 (3~10mm) と地山ブロックを含む。
 - 4 褐色粘土 (10YR4/6) 粘性・しりあり、地山ブロックを含む。
 - 5 褐色砂質粘土 (7.5YR4/3) 粘性に乏しいが、強くしめる。炭 (1~3mm) と多量の地山ブロックを含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 6 褐色砂質粘土 (10YR4/4) 粘性に乏しいが、強くしめる。炭 (1~3mm) と地山小ブロックを含み、少量のマンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 7 にぶい褐色粘土 (7.5YR5/4) やや粘性をもち、強くしめる。多量の地山ブロックと少量の炭 (5mm) を含む。
 - 8 褐色粘土 (7.5YR4/3) やや粘性をもち、しりあり。炭 (3~5mm) と少量の地山ブロックを含む。
 - 9 褐色砂 (7.5YR4/3) 強くしめる。褐色シルトを斑に含む。

- P421**
- 1 褐色粘土 (7.5YR4/4) やや粘性をもち、強くしめる。少量の炭 (5~10mm) ・地山小ブロックと微量の焼土粒子 (3mm) を含む。
 - 2 褐色粘土 (10YR4/4) やや粘性をもち、強くしめる。地山ブロックと少量の炭 (1mm) を含み、少量のマンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 3 にぶい褐色粘土 (7.5YR5/3) やや粘性をもち、強くしめる。炭 (1mm) と少量の地山ブロックを含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 4 褐色砂質粘土 (7.5YR4/4) 粘性に乏しいが、強くしめる。地山ブロックと炭 (3~5mm) を含む。
 - 5 明褐色砂質粘土 (7.5YR5/8) やや粘性をもち、強くしめる。少量の炭を含み、マンガン粒子 (1mm) と褐色粘土が斑に混じる。
 - 6 明褐色砂 (7.5YR5/8) 強くしめる。
 - 7 にぶい褐色粘土 (7.5YR6/3) やや粘性をもち、強くしめる。マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。

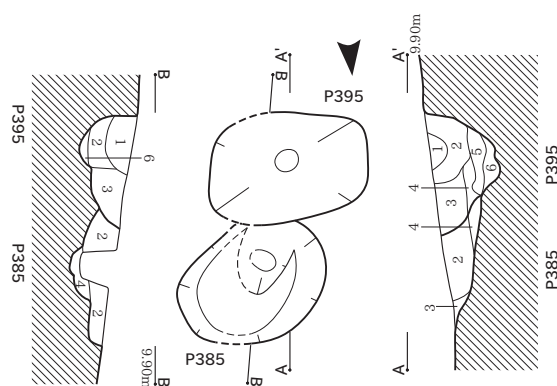
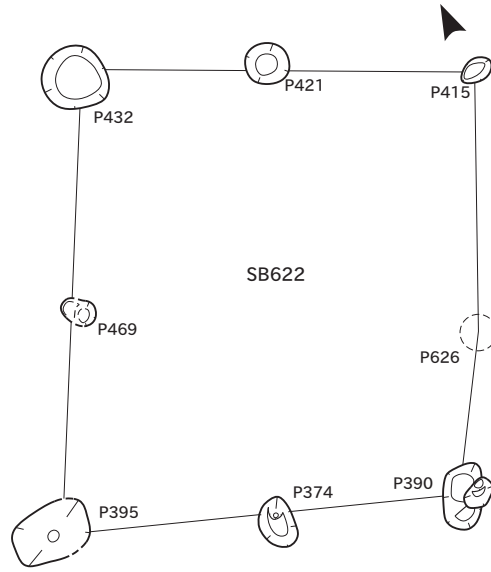
- P626**
- 1 褐色粘土 (7.5YR4/4) やや粘性をもち、強くしめる。明褐色粘土ブロックを含む。



- P415**
- 1 褐色砂質粘土 (7.5YR4/4) 粘性に乏しいが、強くしめる。炭 (1mm) と地山ブロックを含む。



- P469**
- 1 にぶい黄褐色粘土 (10YR4/3) やや粘性をもち、しりあり。地山ブロックを含み、マンガン粒子 (3mm) が斑に混じる。
 - 2 にぶい黄褐色砂質粘土 (10YR7/3) 粘性に乏しいが、強くしめる。マンガン粒子 (3mm) と褐色粘土が斑に混じる。
 - 3 にぶい黄褐色粘土 (10YR4/3) 粘性・しりあり。地山小ブロックと微量の炭 (1mm) を含み、水酸化鉄が斑に混じる。
 - 4 明黄褐色粘土 (10YR6/8) やや粘性をもち、強くしめる。

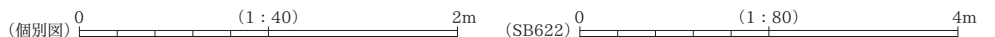


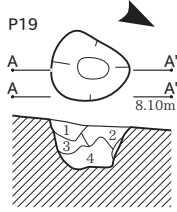
- P395**
- 1 にぶい黄褐色砂質粘土 (10YR5/4) 粘性に乏しいが、強くしめる。地山ブロックと炭 (1mm) を含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 2 にぶい黄褐色粘土 (10YR5/4) やや粘性をもち、強くしめる。多量の地山大ブロックとともに炭 (1~5mm) を含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 3 にぶい黄褐色粘土 (10YR5/4) やや粘性をもち、強くしめる。地山ブロック・炭 (1mm) とともに微量の焼土焼土粒子 (3mm) を含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 4 にぶい黄褐色粘土 (10YR5/4) やや粘性をもち、強くしめる。炭 (1mm) を含み、地山粒子やマンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 5 にぶい黄褐色粘土 (10YR5/4) やや粘性をもち、強くしめる。炭 (1mm) を含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 6 黄褐色粘土 (10YR5/8) やや粘性をもち、強くしめる。

- P374**
- 1 暗褐色粘土 (10YR3/4) 粘性・しりあり。焼土粒子 (10mm) と炭 (1mm) を含む。
 - 2 褐色粘土 (10YR4/6) やや粘性をもち、強くしめる。炭 (1mm) と地山小ブロックを含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 3 褐色粘土 (10YR4/4) やや粘性をもち、強くしめる。地山小ブロックを少量含む。
 - 4 黄褐色粘土 (10YR5/6) 粘性をもち、強くしめる。マンガン粒子 (1mm) を斑に含む。

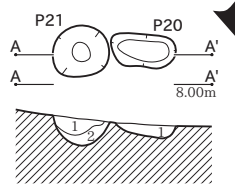
- P389**
- 1 にぶい黄褐色粘土 (10YR5/4) やや粘性をもち、強くしめる。地山小ブロックを少量含む。
 - 2 明黄褐色粘土 (10YR6/6) やや粘性をもち、強くしめる。褐色粘土の小ブロックを少量含む。マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。

- P390**
- 1 褐色粘土 (10YR4/4) やや粘性をもち、強くしめる。少量の地山ブロックとともに焼土粒子 (5~10mm) ・住 1~10mm) を・地山小ブロックを少量含む。
 - 2 褐色粘土 (10YR4/6) やや粘性をもち、強くしめる。地山ブロックを含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 3 褐色粘土 (10YR4/4) 粘性をもち、強くしめる。地山ブロックを含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。

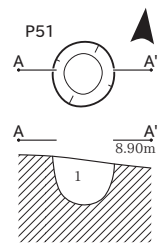




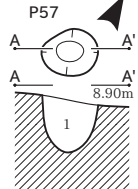
P19
 1 暗褐色粘質シルト (10YR3/4) 粘性に欠けるが、強くしまる。褐色粘土が斑に混じる。
 2 明褐色砂質粘土 (7.5YR5/8) 粘性に欠けるが、強くしまる。地山が斑に混じる。
 3 暗褐色砂質粘土 (10YR3/4) やや粘性をもち、しまりあり。地山小ブロックを含む。
 4 褐色砂質粘土 (10YR4/4) やや粘性をもち、しまりあり。褐色粘土が斑に混じる。



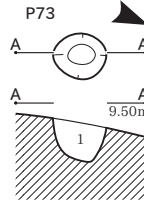
P20
 1 暗褐色砂質粘土 (10YR3/4) やや粘性をもち、しまりあり。地山と褐色粘土が斑に混じる。
P21
 1 暗褐色砂質粘土 (10YR3/4) やや粘性をもち、しまりあり。焼土粒子 (3mm) を微量に含み、地山が斑に混じる。
 2 暗褐色砂質粘土 (10YR3/4) やや粘性をもち、しまりあり。地山が斑に混じる。



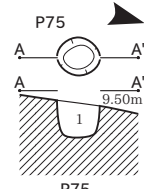
P51
 1 褐色粘土 (10YR4/4) 粘性をもち、強くしまる。少量の地山ブロックとともに炭 (3mm) を微量に含む。



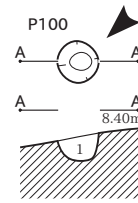
P57
 1 暗褐色シルト (10YR3/4) 粘性に欠けるが強くしまる。地山ブロックを少量含む。



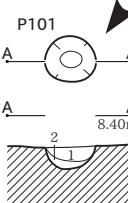
P73
 1 暗褐色粘質粘土 (10YR3/4) 粘性に乏しいが、強くしまる。地山ブロックと少量の炭 (1mm) を含む。



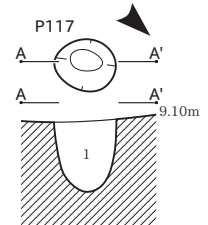
P75
 1 褐色粘土 (7.5YR4/6) 粘性・しまりあり。炭 (1mm) を微量に含み、水酸化鉄が斑に混じる。



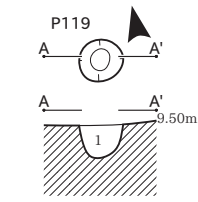
P100
 1 暗褐色粘土 (10YR3/4) 粘性・しまりあり。炭 (1mm・10~20mm) を微量に含む。



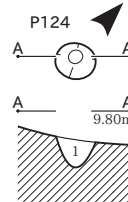
P101
 1 褐色粘土 (10YR4/4) 粘性・しまりあり。炭 (10~15mm) と地山ブロックを少量含む。
 2 黄褐色粘土 (10YR5/8) 粘性に富み、しまりあり。多量の地山ブロックと共に炭 (2mm) を微量に含む。



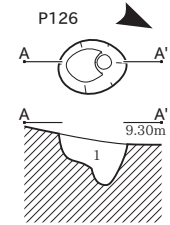
P117
 1 褐色粘土 (10YR4/6) 粘性に富み、しまりあり。炭 (3mm) を含む。



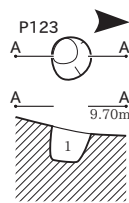
P119
 1 褐色粘土 (10YR4/6) 粘性をもち、強くしまる。水酸化鉄が斑に混じる。



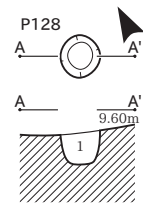
P124
 1 褐色粘土 (10YR4/6) 粘性に富み、強くしまる。炭 (1mm) を含み、水酸化鉄が斑に混じる。



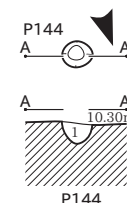
P126
 1 褐色粘土 (10YR4/6) 粘性・しまりあり。炭 (1mm) を少量含む。



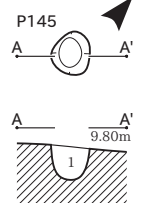
P123
 1 褐色粘土 (10YR4/4) 粘性・しまりあり。炭 (1mm) を含み、水酸化鉄が斑に混じる。



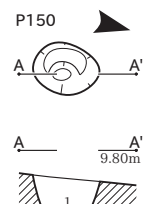
P128
 1 暗褐色粘土 (10YR3/4) 粘性に富み、強くしまる。炭 (1mm) を含む。



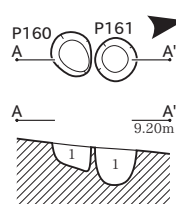
P144
 1 暗褐色砂質粘土 (10YR3/4) 粘性に乏しいが、強くしまる。炭 (3mm) を微量に含む。



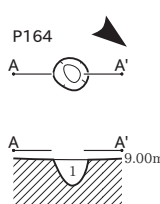
P145
 1 褐色粘土 (10YR4/4) 粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを少量含む。



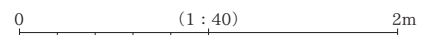
P150
 1 褐色粘土 (10YR4/6) 粘性・しまりあり。地山ブロックを少量含む。

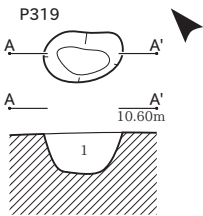


P160
 1 褐色砂質粘土 (10YR4/6) 粘性に乏しいが、強くしまる。炭 (1mm) を少量含む。
P161
 1 褐色砂質粘土 (10YR4/6) 粘性に乏しいが、しまりあり。炭 (3~5mm) を少量含む。

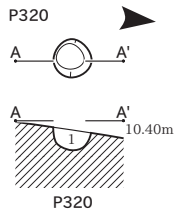


P164
 1 褐色粘土 (10YR4/6) 粘性があり、強くしまる。炭 (1mm) と地山小ブロックを少量含む。

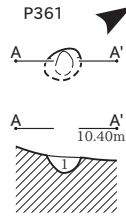




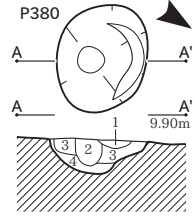
P319
1 灰褐色腐植土 (7.5YR4/2) 粘性・しまりあり。
多量の炭 (1~3mm) と少量の焼土粒子・地山粒子を含む。



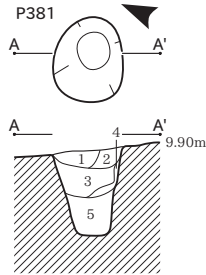
P320
1 褐色粘土 (7.5YR4/4) 粘性・しまりあり。
炭 (1~5mm) を含む。



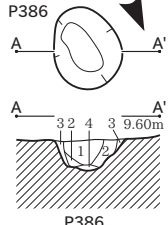
P361
1 褐色粘土 (10YR4/6) 粘性に富むが、しまりに欠ける。
炭 (1mm) を微量に含む。



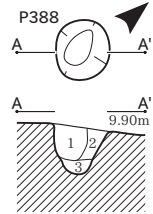
P380
1 暗褐色粘土 (10YR3/4) 粘性・しまりあり。
2 褐色粘土 (10YR4/4) やや粘性をもち、強くしまる。炭 (3mm) を微量に含む。
3 黄褐色粘土 (10YR5/6) やや粘性をもち、強くしまる。炭 (1mm) を微量に含む。
4 黄褐色粘土 (10YR5/8) 粘性をもち、強くしまる。白色粘土ブロックを含む。



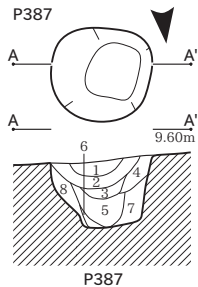
P381
1 褐色粘土 (10YR4/4) やや粘性をもち、強くしまる。多量の炭 (1~3mm) と少量の焼土粒子 (1mm) ・微量のマンガン粒子 (1mm) を含む。
2 褐色粘土 (7.5YR4/4) 粘性をもち、強くしまる。多量の地山ブロックとともに、微量の焼土粒子 (1mm) と炭 (3mm) を含む。
3 褐色粘土 (10YR4/6) やや粘性をもち、強くしまる。炭 (1~3mm) ・焼土粒子 (3mm) ・マンガン (1mm) とともに地山ブロックを少量含む。
4 褐色粘土 (10YR4/6) 粘性・しまりあり。炭 (1mm) を含む。
5 褐色粘土 (10YR4/6) 粘性・しまりあり。炭 (1mm) を少量含み、マンガン粒子 (3mm) が斑に混じる。



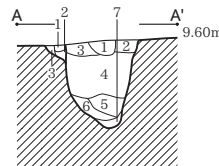
P386
1 暗褐色粘土 (10YR3/4) やや粘性をもち、しまりあり。炭 (3mm) と多量の地山ブロックを含む。
2 褐色粘土 (10YR4/4) 粘性・しまりあり。多量の地山ブロック・少量の明褐色粘土ブロックとともに炭 (3~5mm) を含む。
3 明褐色砂質粘土 (7.5YR5/8) 粘性・しまりあり。炭 (3mm) を微量に含み、褐色土が斑に混じる。
4 黄褐色砂質粘土 (10YR3/4) やや粘性をもち、しまりあり。褐色土ブロックを含む。



P388
1 暗褐色粘土 (10YR3/4) 粘性・しまりあり。炭 (3mm) を少量含む。
2 暗褐色粘土 (10YR3/4) 粘性・しまりあり。炭 (3mm) を微量に含む。
3 にぶい褐色粘土 (7.5YR5/4) 粘性・しまりあり。地山小ブロックを多量に含む。

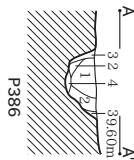


P387
1 にぶい褐色粘土 (7.5YR5/4) やや粘性をもち、強くしまる。炭 (1~3mm) と地山ブロックを含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
2 にぶい黄褐色粘土 (7.5YR5/4) 粘性をもち、強くしまる。地山ブロックと微量の炭 (3mm) を含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
3 褐色砂質粘土 (10YR4/6) やや粘性をもち、しまりあり。地山ブロック・褐色粘土ブロックとともに少量の炭 (3mm) を含み、少量のマンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
4 褐色砂質粘土 (10YR4/6) 粘性をもち、強くしまる。褐色粘土ブロックを含む。
5 明褐色砂質粘土 (7.5YR5/8) やや粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
6 明褐色砂質粘土 (7.5YR5/8) やや粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを含む。
7 褐色粘土 (7.5YR4/4) 粘性をもち、強くしまる。地山ブロックに混じる。
8 明褐色砂質粘土 (7.5YR5/6) やや粘性をもち、しまりあり。地山ブロックと微量の炭 (3mm) を含む。

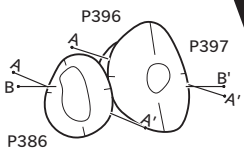


P396 P397

P396
1 褐色粘土 (10YR4/6) 粘性・しまりあり。炭 (1~2mm) と微量の赤色粒子を含む。
2 明褐色粘土 (7.5YR5/8) 粘性に富み、しまりあり。地山ブロックを多量に含む。
3 明褐色粘土 (7.5YR5/8) やや粘性をもち、しまりあり。炭 (1~3mm) と多量の地山ブロックを含む。

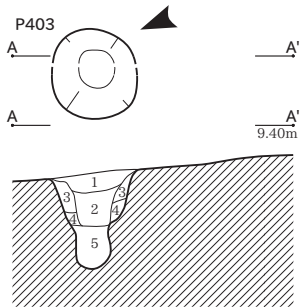


P386



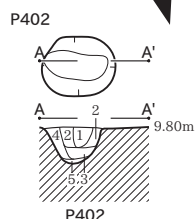
P396 P397

P397
1 褐色粘土 (10YR4/6) 粘性に富み、しまりあり。地山ブロックと炭 (1~5mm) を少量含む。
2 黄褐色粘土 (10YR5/8) 粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを含む。
3 黄褐色粘土 (10YR5/8) 粘性に富み、しまりあり。微量の炭 (1~7mm) と多量の地山ブロックを含む。
4 黄褐色粘土 (10YR5/8) 粘性をもち、強くしまる。多量の地山ブロックと少量の炭 (1~3mm) を含む。
5 明褐色粘土 (7.5YR5/8) やや粘性があり、強くしまる。炭 (1~3mm) を多量に含む。
6 黄褐色粘土 (10YR5/8) 粘性をもち、強くしまる。微量の炭 (1~3mm) と少量の地山ブロックを含む。
7 褐色粘土 (7.5YR6/8) 粘性に富み、強くしまる。地山ブロックを多量に含む。



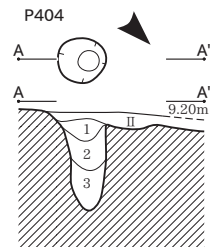
P403

P403
1 黄褐色砂質粘土 (10YR5/6) 粘性に乏しいが、強くしまる。少量の炭 (5mm) を含み、少量のマンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
2 褐色粘土 (10YR4/6) 多量の地山小ブロックと少量の炭 (1mm) を含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
3 黄褐色砂質粘土 (10YR5/6) 粘性に乏しいが、強くしまる。少量の地山小ブロックを含む。
4 淡黄色粘土 (2.5YR5/6) やや粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを多く含む。
5 淡黄色粘土 (2.5YR5/6) やや粘性をもち、強くしまる。褐色粘土を斑に含む。



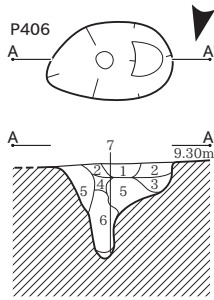
P402

P402
1 褐色粘土 (7.5YR4/6) 粘性をもち、強くしまる。炭 (1mm) を微量に含む。
2 明褐色粘土 (7.5YR5/6) 粘性に富み、しまりあり。少量の地山粒子と微量の炭 (1~2mm) を含む。
3 明褐色粘土 (7.5YR5/8) 粘性をもち、強くしまる。多量の地山ブロックとともに炭 (1~2mm) を微量に含む。
4 褐色粘土 (7.5YR4/6) 粘性・しまりあり。少量の炭 (2~5mm) と地山ブロックを含む。
5 明褐色粘土 (7.5YR5/6) 粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを多量に含む。



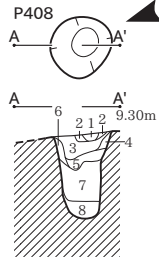
P404

P404
1 にぶい黄褐色砂質粘土 (10YR5/4) 粘性に乏しいが、強くしまる。地山小ブロックとともに多量の炭 (1~10mm) を含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
2 褐色砂質粘土 (10YR4/6) 粘性に乏しいが、強くしまる。少量の炭 (1mm) と地山ブロックを含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
3 にぶい黄褐色粘土 (10YR7/4) やや粘性をもち、強くしまる。



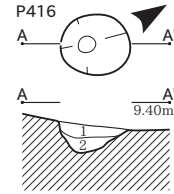
P406

- P406**
- 1 暗褐色砂質粘土 (10YR3/4) 粘性に乏しいが、強くしめる。焼土粒子 (1~10mm) と多量の炭 (1~10mm) を含む。
 - 2 暗褐色砂質粘土 (10YR3/4) 粘性に乏しいが、強くしめる。少量の炭 (1mm) と地山ブロックを含む。
 - 3 褐色粘土 (10YR4/4) やや粘性をもち、強くしめる。少量の炭 (1mm) と地山ブロックを含む。
 - 4 にぶい黄褐色粘土 (10YR5/6) やや粘性をもち、強くしめる。地山小ブロックを含む。
 - 5 浅黄褐色粘土 (10YR8/3) やや粘性をもち、強くしめる。炭 (5mm) を微量に含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 6 褐色粘土 (10YR4/4) 粘性をもち、強くしめる。地山ブロックと炭 (5mm) や微量の焼土粒子 (5mm) を含む。
 - 7 明黄褐色粘土 (10YR7/6) 粘性をもち、強くしめる。微量の炭 (1mm) を含み、褐色粘土が斑に混じる。



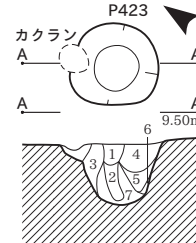
P408

- P408**
- 1 黒褐色炭化物層 (10YR2/2) 粘性に欠けるが、強くしめる。
 - 2 暗褐色砂質粘土 (10YR3/4) 粘性に乏しいが、強くしめる。炭 (3mm) を含む。
 - 3 褐色粘土 (10YR4/4) やや粘性をもち、強くしめる。炭 (3mm) と微量の焼土粒子 (3mm) を含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 4 明黄褐色砂質粘土 (10YR7/6) 粘性に乏しいが、強くしめる。マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 5 褐色砂質粘土 (10YR4/6) 粘性に乏しいが、強くしめる。少量の炭 (3mm) と微量の焼土粒子 (3mm) を含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 6 黄褐色粘土 (10YR8/6) やや粘性をもち、強くしめる。地山ブロックと微量の炭 (3mm) を含む。
 - 7 にぶい黄褐色粘土 (10YR7/4) やや粘性をもち、強くしめる。炭 (1~10mm) を含み、褐色粘土とマンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 8 にぶい黄褐色粘土 (10YR6/3) やや粘性をもち、強くしめる。炭 (1mm) を微量に含み、褐色粘土とマンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。



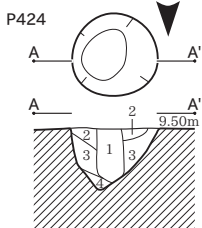
P416

- P416**
- 1 褐色砂質粘土 (7.5YR4/4) 粘性に乏しいが、強くしめる。炭 (5mm) と地山小ブロックを含む。水酸化鉄が斑に混じる。
 - 2 にぶい褐色粘土 (7.5YR5/4) やや粘性をもち、強くしめる。炭 (5mm) と地山小ブロックを含む。



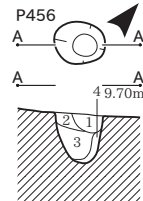
P423

- P423**
- 1 褐色粘土 (7.5YR4/4) やや粘性をもち、しまりあり。少量の炭 (5mm) を含む。
 - 2 褐色粘土 (10YR4/4) 粘性をもち、ややしまりあり。水酸化鉄が斑に混じる。
 - 3 明褐色砂質粘土 (7.5YR4/4) やや粘性をもち、しまりあり。褐色粘土が斑に混じる。
 - 4 褐色砂質粘土 (7.5YR6/8) やや粘性をもち、しまりあり。少量の炭 (3mm) を含む。褐色粘土が斑に混じる。
 - 5 にぶい黄褐色砂質粘土 (10YR7/4) 粘性・しまりあり。
 - 6 褐色粘土 (10YR4/4) 粘性をもち、ややしまりあり。地山ブロックを多量に含む。
 - 7 灰黄褐色粘土 (10YR5/2) 粘性・しまりあり。炭 (3mm) を少量含む。



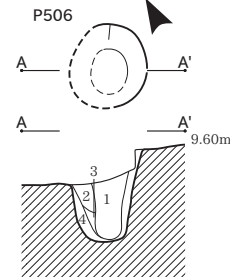
P424

- P424**
- 1 褐色粘土 (10YR4/6) やや粘性をもち、強くしめる。炭 (1mm) を微量に含み、地山が斑に混じる。
 - 2 褐色砂質粘土 (7.5YR4/4) 粘性に乏しいが、強くしめる。炭 (5mm) を含み、地山が斑に混じる。
 - 3 浅黄褐色粘土 (10YR8/4) やや粘性をもち、強くしめる。
 - 4 浅黄褐色粘土 (10YR8/4) やや粘性をもち、強くしめる。炭 (1mm) を微量に含む。



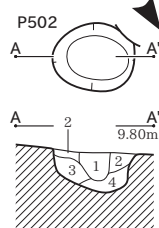
P456

- P456**
- 1 褐色砂質粘土 (10YR4/6) 粘性に乏しいが、強くしめる。炭 (1~3mm) と多量の地山ブロックを含む。
 - 2 褐色砂質粘土 (10YR4/6) 粘性に乏しいが、強くしめる。多量の地山ブロックと微量の炭 (1mm) を含む。
 - 3 褐色砂質粘土 (7.5YR4/6) 粘性に乏しいが、強くしめる。炭 (3~5mm) と少量の地山ブロックを含む。
 - 4 にぶい褐色砂質粘土 (7.5YR4/6) 粘性に乏しいが、強くしめる。



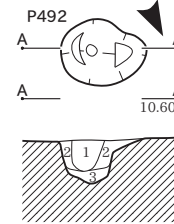
P506

- P506**
- 1 暗褐色粘土 (10YR3/4) やや粘性をもち、強くしめる。炭 (1~3mm) と地山小ブロックを少量含む。
 - 2 褐色粘土 (10YR4/4) やや粘性をもち、強くしめる。微量の炭 (1mm) と地山小ブロックを含む。
 - 3 褐色粘土 (10YR4/6) やや粘性をもち、しまりがある。地山小ブロックを含む。
 - 4 褐色粘土 (10YR4/3) やや粘性をもち、強くしめる。褐色粘土が斑に少量混じる。



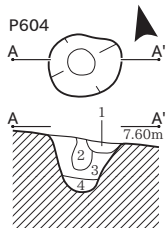
P502

- P502**
- 1 褐色粘土 (10YR4/4) 粘性・しまりあり。炭 (1mm) と微量の焼土粒子 (1mm) を含み、マンガン粒子 (1mm) も斑に混じる。
 - 2 にぶい黄褐色粘土 (10YR5/4) 粘性をもち、強くしめる。マンガン (1mm) 粒子が斑に混じる。
 - 3 にぶい黄褐色粘土 (10YR5/4) 粘性をもち、強くしめる。焼土粒子 (5mm) を微量に含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 4 にぶい黄褐色粘土 (10YR5/4) 粘性をもち、強くしめる。焼土粒子 (5mm) を微量に含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。



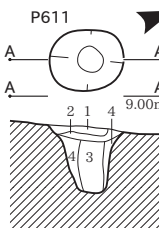
P492

- P492**
- 1 にぶい黄褐色砂質粘土 (10YR5/4) 粘性に欠けるが、強くしめる。少量の炭 (1mm) と微量の焼土粒子 (5mm) を含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 2 褐色粘土 (10YR4/6) やや粘性をもち、強くしめる。炭 (1mm) と焼土粒子 (5mm) を少量含む。
 - 3 にぶい黄褐色粘土 (10YR5/4) 粘性をもち、強くしめる。炭 (1mm) を微量に含む。



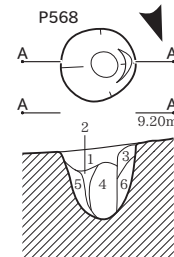
P604

- P604**
- 1 にぶい褐色粘土 (7.5YR5/3) やや粘性をもち、しまりあり。炭 (1mm) を少量含み、水酸化鉄が斑に混じる。
 - 2 褐色粘土 (7.5YR4/3) 粘性に富むが、しまりない。炭 (1~10mm) を含む。
 - 3 褐色粘土 (7.5YR4/3) 粘性・しまりあり。地山ブロックを含む。
 - 4 にぶい褐色粘土 (7.5YR5/3) 粘性に富むが、しまりない。炭 (5mm) を含む。



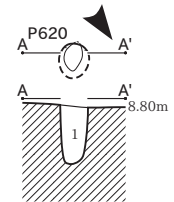
P611

- P611**
- 1 褐色砂質粘土 (10YR4/6) 粘性に欠けるが、強くしめる。地山が斑に混じり、炭 (1mm) を少量含む。
 - 2 暗褐色砂質粘土 (10YR3/4) 粘性に欠けるが、強くしめる。地山小ブロックを多く含む。
 - 3 褐色粘土 (7.5YR4/3) やや粘性をもち、強くしめる。地山ブロックと炭 (1mm) を少量含む。
 - 4 褐色粘土 (7.5YR4/3) やや粘性をもち、強くしめる。地山ブロックを多く含む。



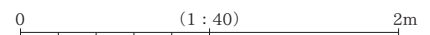
P568

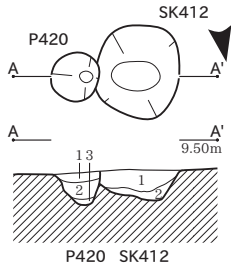
- P568**
- 1 褐色粘土 (7.5YR4/4) 粘性強く、しまりあり。炭 (3mm) を含む。
 - 2 褐色粘土 (7.5YR4/4) 粘性をもち、強くしめる。炭 (5mm) と地山ブロックを少量含む。
 - 3 暗褐色粘土 (10YR3/4) 粘性強く、しまりあり。
 - 4 褐色粘土 (10YR4/4) 粘性強く、しまりあり。炭 (5mm) と地山ブロックを少量含む。
 - 5 にぶい褐色粘土 (7.5YR6/3) 粘性に富み、強くしめる。地山ブロックを多く含む。
 - 6 褐色粘土 (7.5YR4/3) 粘性に富み、強くしめる。少量の炭 (1mm) と地山ブロックを含む。



P620

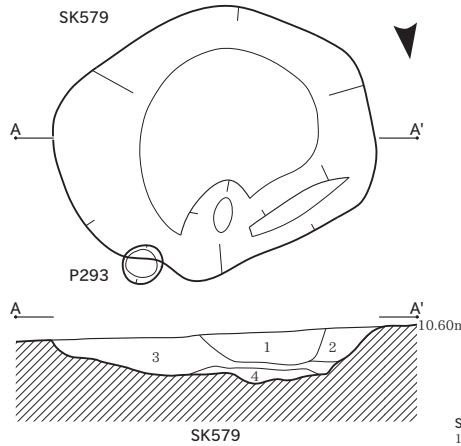
- P620**
- 1 暗褐色粘土 (10YR3/4) 粘性・しまりあり。炭 (1~3mm) を含む。



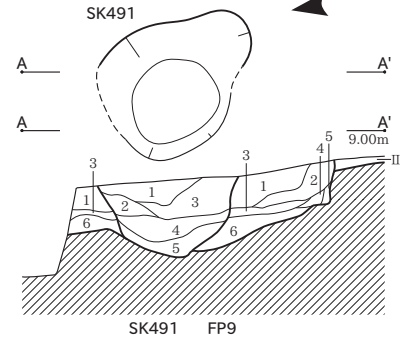


- P420**
 1 ぶい褐色砂質粘土 (7.5YR6/3) 粘性に乏しいが、強くしまる。炭 (1mm) と地山ブロックを少量含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 2 ぶい褐色粘土 (7.5YR6/3) やや粘性をもち、強くしまる。炭 (1mm) と地山ブロックを少量含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 3 明褐色砂質粘土 (7.5YR5/8) やや粘性をもち、強くしまる。褐色粘土が斑に混じる。

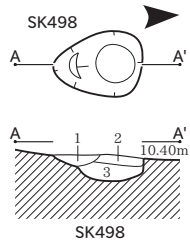
- SK412**
 1 ぶい褐色砂質粘土 (7.5YR5/3) 粘性に乏しいが、強くしまる。少量の焼土粒子 (5~10mm) と炭 (3~5mm) を含み、マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。と地山小ブロックを含み、粘性に乏しいが、強くしまる。地山ブロックを含み、褐色粘土が斑に混じる。
 2 褐色砂質粘土 (7.5YR4/6) 粘性に乏しいが、強くしまる。地山ブロックを含み、褐色粘土が斑に混じる。



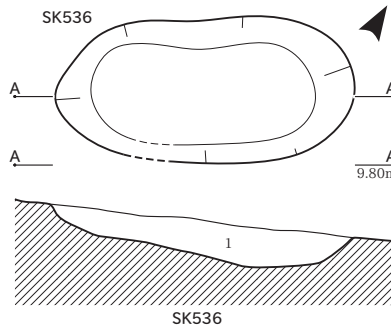
- SK579**
 1 褐色粘土 (7.5YR4/6) 粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを少量含む。
 2 明褐色粘土 (7.5YR5/6) やや粘性をもち、強くしまる。褐色粘土が斑に混じる。
 3 褐色粘土 (7.5YR4/6) 粘性・しまりあり。地山ブロックを含む。
 4 浅黄褐色粘土 (7.5YR6/8) 粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを含む。



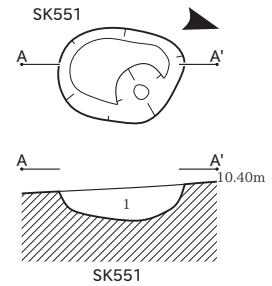
- SK491**
 1 明褐色砂質腐植土 (7.5YR5/6) 粘性に乏しいが、しまりあり。炭 (1mm) を微量に含む。
 2 明褐色腐植土 (7.5YR5/6) 粘性・しまりあり。地山粒子 (5mm) を微量に含む。
 3 灰黄褐色砂質腐植土 (7.5YR4/2) 粘性に乏しいが、しまりあり。大形焼土ブロック (50mm) を含む。
 4 灰黄褐色腐植土 (7.5YR6/4) 粘性・しまりあり。地山ブロック (10cm) を多く含む。
 5 ぶい褐色粘質腐植土 (7.5YR5/4) 粘性・しまりあり。炭 (4mm) を少量含む。



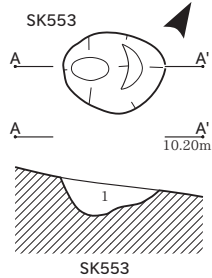
- SK498**
 1 灰白色粘土 (10YR8/2) やや粘性をもち、しまりあり。水酸化鉄が斑に混じる。
 2 褐色粘土 (7.5YR4/4) やや粘性をもち、強くしまる。少量の炭 (3mm) とともに褐色粘土ブロックを含む。
 3 ぶい褐色粘土 (7.5YR5/3) やや粘性をもち、強くしまる。地山が斑に混じる。



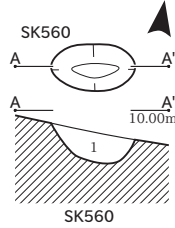
- SK536**
 1 褐色粘土 (10YR4/6) やや粘性をもち、しまりあり。地山ブロックと炭 (1~20mm) を少量含む。



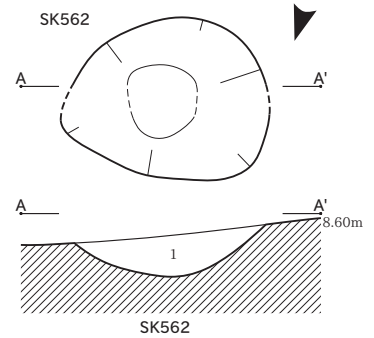
- SK551**
 1 褐色砂質粘土 (10YR4/6) 粘性に乏しいが強くしまる。炭 (3mm) を少量含む。



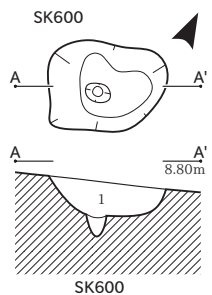
- SK553** ※不明
 1 褐色砂質粘土 (10YR4/6)



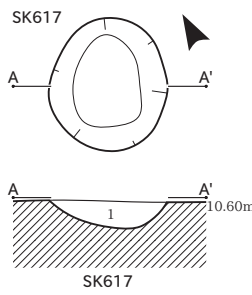
- SK560**
 1 褐色砂質粘土 (10YR4/6) 粘性にとぼしいが強くしまる。炭 (1mm) を少量含む。



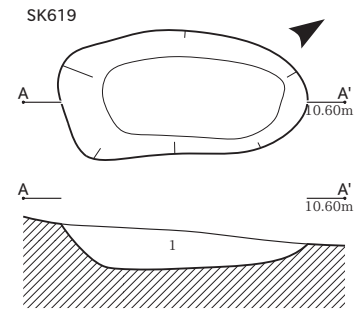
- SK562**
 1 褐色粘土 (10YR4/6) 粘性・しまりあり。炭 (1~10mm) を含む。



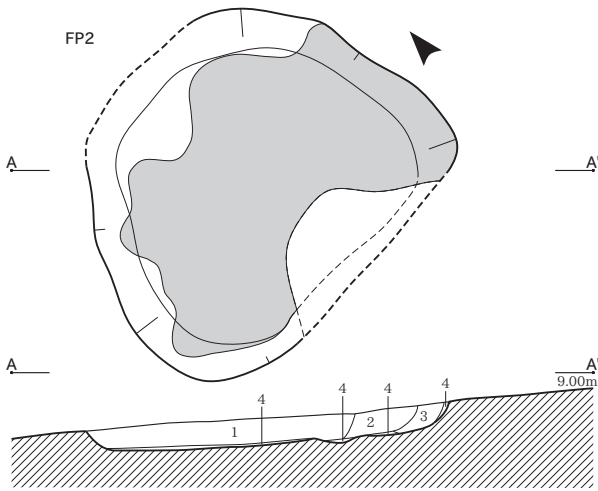
- SK600**
 1 褐色粘土 (10YR4/6) 粘性が強く、しまりあり。炭 (1mm) を少量含む。



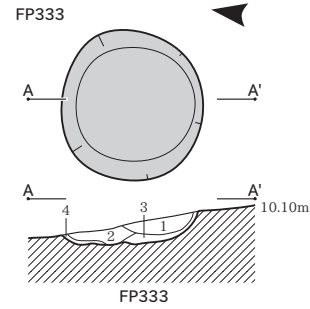
- SK617**
 1 明褐色粘土 (7.5YR5/8) 粘性・しまりあり。地山ブロックを含み、マンガン粒子 (3mm) が斑に混じる。



- SK619**
 1 褐色砂質腐植土 (7.5YR4/6) 粘性に乏しいが、強くしまる。

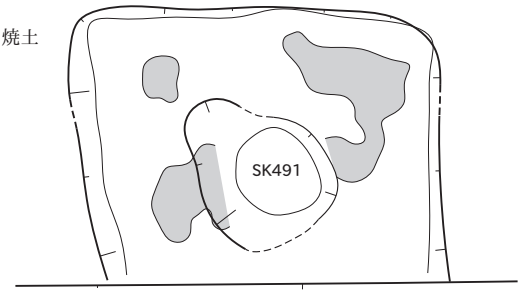


- FP2**
- 1 灰黄褐色砂質腐植土 (10YR4/2) 粘性・しまりに欠ける。焼土ブロック (1~3cm) を少量、炭 (3mm) を比較的多く含む。
 - 2 灰黄褐色砂質腐植土 (10YR4/2) 粘性・しまりややあり。焼土ブロック (1~2cm) を多量に含む。炭 (3mm) も比較的多い。
 - 3 灰黄褐色砂質腐植土 (10YR4/2) 粘性強く、しまりにも含む。焼土ブロック (1cm) と炭 (1cm~5mm) を多く含む。
 - 4 橙色焼土 (2.5YR7/6)・2.5YR6/1) 粘性に欠けるが、しまり強い。硬化面がほぼ全域に分布する。

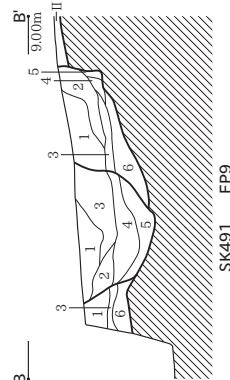
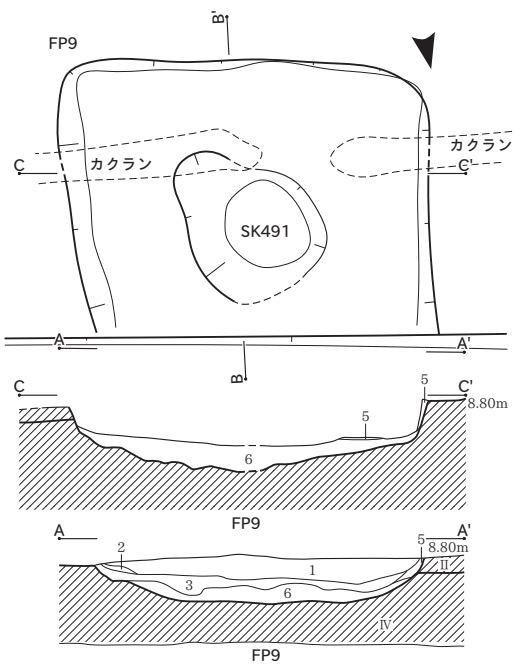
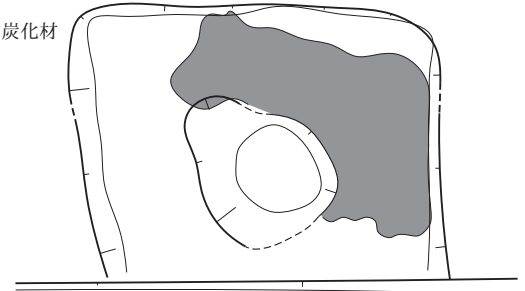


- FP333**
- 1 灰褐色腐植土 (7.5YR4/2) 粘性・しまりあり。炭 (2~5mm) を比較的多く含む。
 - 2 褐灰色腐植土 (7.5YR4/1) 粘性・しまりあり。炭 (3~5mm) を比較的多く含む。
 - 3 黒褐色腐植土 (7.5YR3/1) 粘性・しまりあり。炭 (2~3mm) を多く含む。
 - 4 黒褐色焼土 (10YR5/4) 粘性に欠けるがしまり強い。褐色土が混入する。

■ 焼土



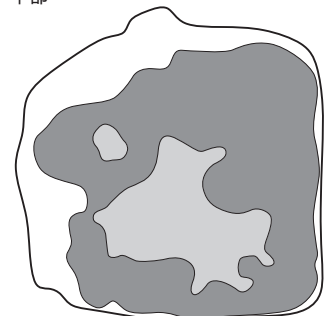
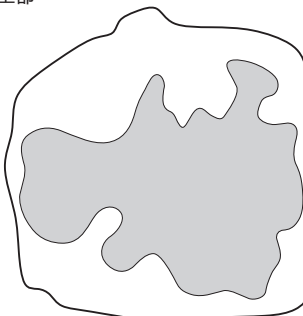
■ 炭化材



- FP9**
- 1 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR4/2) 粘性乏しく、しまりもない。炭 (1~3mm) を比較的多く含む。
 - 2 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR5/2) 粘性乏しく、しまりもない。白色微粒子を多く含む。炭 (1mm) の含有量は希薄。
 - 3 褐灰色砂質腐植土 (7.5YR5/2) 粘性・しまり中程度。炭 (1~2cm) を多量に含む。地山粒子 (5~10mm) と焼土粒子 (2~5mm) も比較的多い。
 - 4 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR5/2) 粘性・しまり中程度。炭 (2mm) を比較的多く含む。
 - 5 赤色焼土 (7.5YR6/4) 硬化面。粘性に欠けるが、きわめて強いしまりをもつ。
 - 6 びい赤褐色砂質粘土 (2.5YR4/4) 粘性・しまり中程度。地山に較べ粘質。炭 (2mm) は希薄に含む。
- IV' 明茶褐色焼土 (5YR5/6) 粘性・しまり中程度。周囲のIV層に較べ粘性に富む。

上部

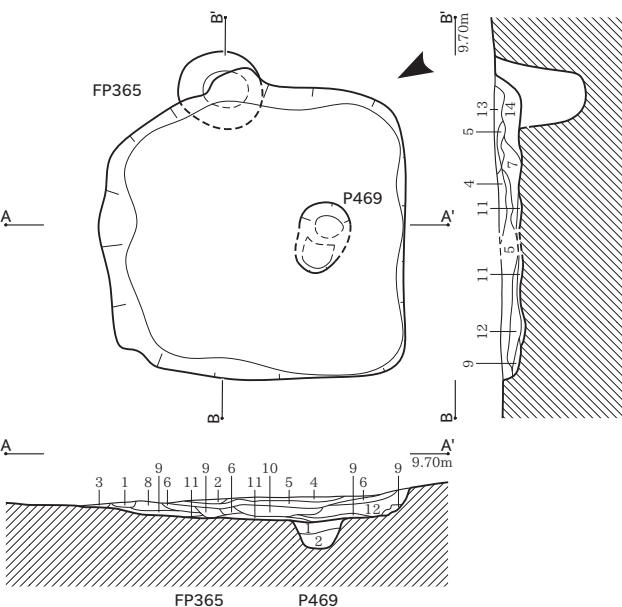
下部



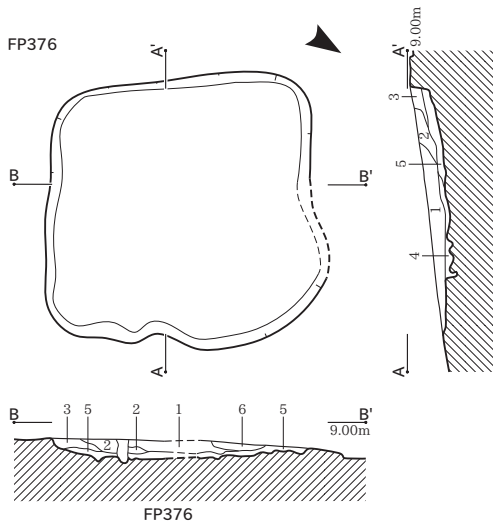
■ 焼土
■ 炭化材

- FP365**
- 1 暗赤褐色焼土 (10YR3/2) 粘性に欠けるがしまり強い。
 - 2 砂灰褐色腐植土 (7.5YR4/2) 粘性・しまりあり。炭 (1~5mm) と焼土粒子 (2mm~1cm) を多く含む。
 - 3 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR4/2) しまり・粘性に欠ける擾乱層。
 - 4 灰黄褐色砂質粘土 (10YR5/2) 粘性に欠けるが、しまり中程度。炭 (5mm~1cm) を多量に含む。
 - 5 明赤褐色焼土 (2.5YR5/6) 粘性に欠けるがしまり強い。
 - 6 暗赤褐色焼土 (10YR3/3) 粘性に欠けるが、しまり中程度。
 - 7 暗赤褐色焼土 (10YR3/3) しまり・粘性中程度。炭 (2~3mm) と焼土粒子 (5mm~1cm) を多量に含む。
 - 8 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR4/2) 粘性に欠けるが、しまり中程度。焼土粒子 (5mm) と炭 (3mm) を比較的多く含む。
 - 9 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR4/2) 粘性に欠けるが、しまり中程度。焼土粒子 (5mm) と炭 (3mm) を多量に含む。
 - 10 黒色木炭層 (10YR2/1) しまりなく、粘性中程度。1cm欠の炭片層に焼土ブロック (1cm~5mm) が混じる。
 - 11 淡黄褐色砂質粘土 (10YR8/4) しまりなく、粘性中程度。地山の微細ブロックから構成される。
 - 12 灰黄褐色砂質粘土 (10YR5/2) 粘性に欠けるが、しまり中程度。焼土粒子 (5mm) を多量に含む。
 - 13 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR4/2) 粘性に欠けるが、しまり中程度。炭 (3~5mm) と焼土粒子 (5~10mm) を多量に含む。
 - 14 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR4/2) 粘性に欠けるが、しまり中程度。焼土ブロック (10~20mm) を多量に含む。

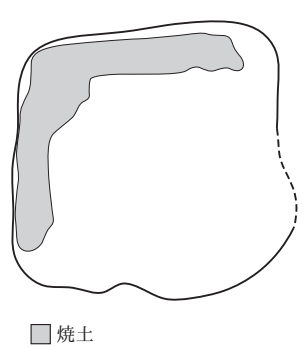
0 (1:40) 2m



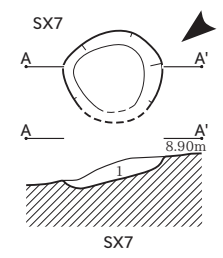
FP365 P469



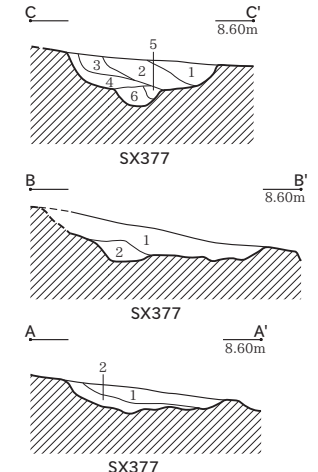
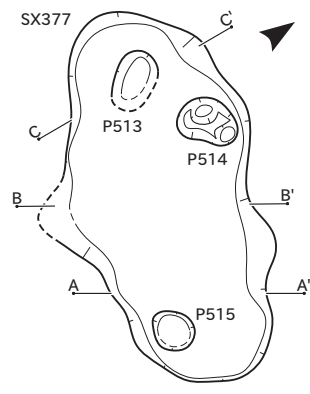
- FP376**
- 1 黒褐色砂質腐植土 (10YR2/3) 粘性・しまりに乏しい。多量の炭 (2~10mm) とともに、少量の地山ブロック (30mm) と焼土粒子 (5~10mm) を含む。
 - 2 にぶい褐色砂質腐植土 (7.5YR5/3) 粘性・しまりに乏しい。炭 (5mm~1cm) と焼土粒子 (5mm~1cm) を少量含む。
 - 3 にぶい赤褐色焼土 (2.5YR4/4) 粘性・しまりに乏しい。硬化面は見られず 30mmほどのブロックが集合堆積する。
 - 4 黒褐色砂質腐植土 (10YR3/1) 粘性・しまりに乏しい。微細な炭 (1mm) を多量に含む。
 - 5 黒褐色腐植土 (10YR2/1) 粘性・しまりに乏しい。微細な炭 (1mm) を多量に含む。焼土粒子 (5mm) や地山ブロック (20mm) も比較的多い。
 - 6 灰褐色砂質腐植土 (7.5YR4/2) 粘性・しまりに乏しい。焼土粒子 (2~3mm) と炭 (1mm) を多量に含む。cm) を少量含む。



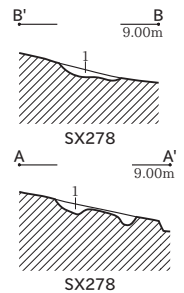
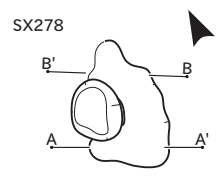
■ 焼土



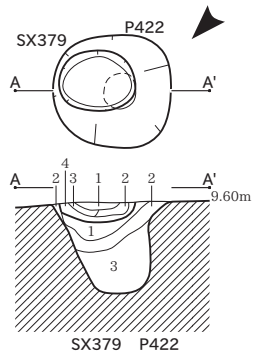
- SX7**
- 1 褐色シルト (7.5YR4/4) 粘性に欠けるが、強くしまる。多量の焼土粒子 (5~10mm) とともに、炭 (5~10mm) と焼礫を含む。



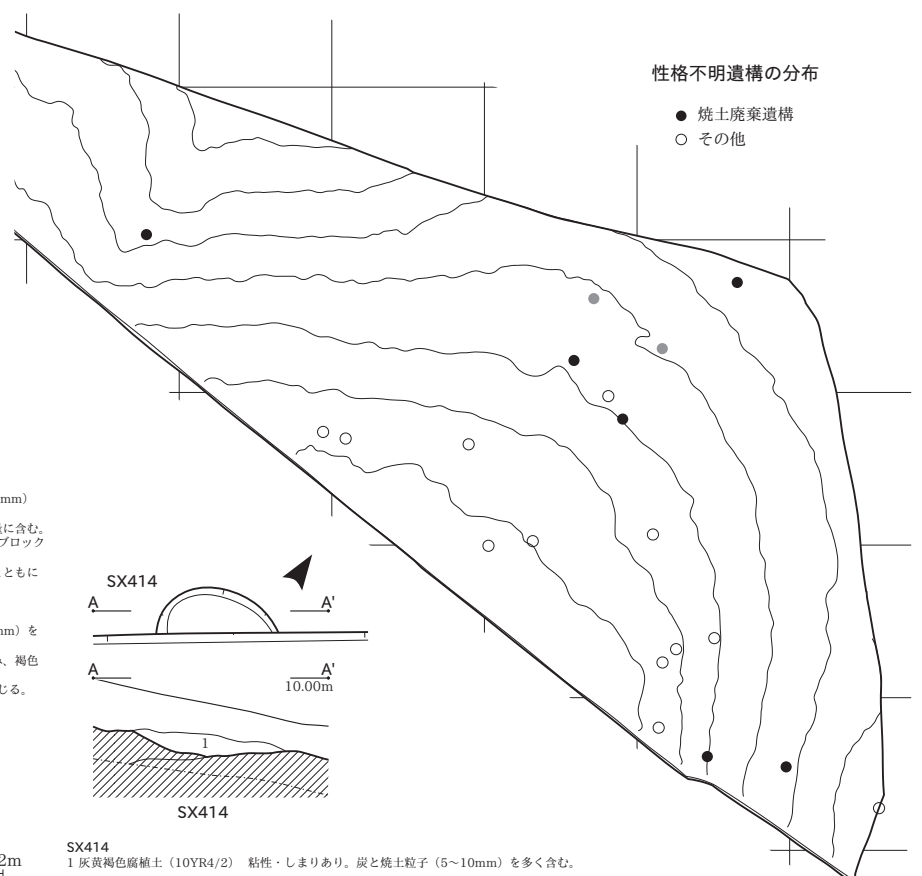
- SX377**
- 1 灰褐色腐植土 (7.5YR4/2) 粘性に乏しいが、しまりあり。炭 (2~4mm) を少量含む。
 - 2 灰褐色腐植土 (7.5YR4/2) 粘性に乏しいが、しまりあり。炭 (1~2cm) と焼土ブロック (30mm) を少量含む。
 - 3 灰褐色腐植土 (7.5YR4/2) 粘性に乏しいが、しまりあり。多量の焼土粒子 (5mm) とともに、少量の炭 (2mm) を含む。
 - 4 灰褐色腐植土 (7.5YR4/2) 粘性・しまりあり。多量の焼土粒子 (5mm~1cm) とともに炭 (2~5mm) を少量含む。
 - 5 にぶい褐色砂質腐植土 (7.5YR5/3) 粘性・しまりに乏しい。地山ブロック (1cm) を比較的多く、炭 (1mm) を微量含む。
 - 6 にぶい褐色砂質腐植土 (7.5YR5/3) 粘性・しまりに乏しい。地山ブロック (1~2cm) を多量に含む。



- SX278**
- 1 褐灰色腐植土 (7.5YR4/1) 粘性・しまりあり。多量の炭 (3mm) と焼土粒子 (10mm) を少量含む。

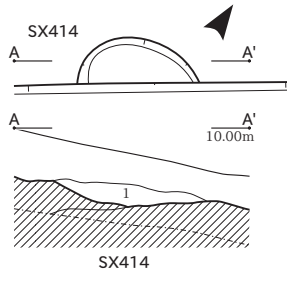


- SX379**
- 1 褐色砂質粘土 (7.5YR4/4) 粘性に乏しいが、強くしまる。焼土ブロック (10mm) と炭 (3~5mm) を多量に含む。
 - 2 褐灰色シルト (7.5YR5/1) 粘性に欠けるが、強くしまる。炭 (5mm) を多量に含む。
 - 3 褐色シルト (7.5YR4/4) 粘性に欠けるが、強くしまる。多量の焼土ブロック (10mm) とともに炭 (1mm) を少量含む。
 - 4 褐色シルト (7.5YR4/4) 粘性に欠けるが強くしまる。多量の炭 (5mm) とともに焼土ブロック (10mm) を少量含む。
- P422**
- 1 にぶい黄褐色砂質粘土 (10YR5/4) 粘性に乏しいが、しまりあり。炭 (1~5mm) を含む。マンガン粒子 (1mm) が珪に混じる。
 - 2 浅黄褐色シルト (10YR8/4) 粘性に欠けるが、しまりあり。炭 (1mm) を含む。褐色粘土が珪に混じる。
 - 3 黄褐色砂質粘土 (10YR5/8) 粘性に乏しいが、強くしまる。褐色粘土が珪に混じる。

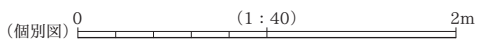


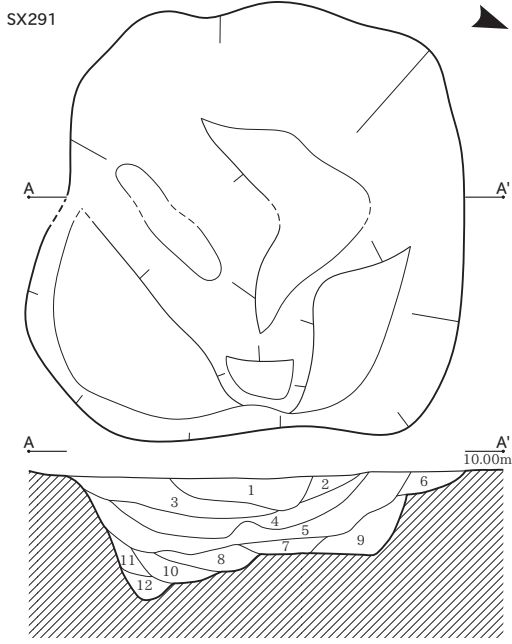
性格不明遺構の分布

- 焼土廃棄遺構
- その他

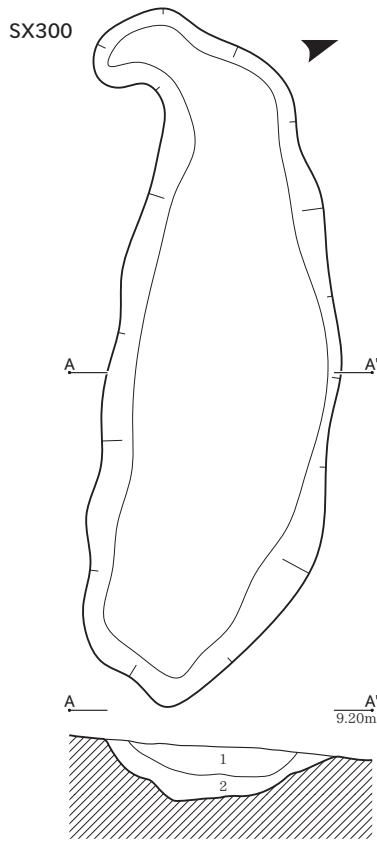


- SX414**
- 1 灰黄褐色腐植土 (10YR4/2) 粘性・しまりあり。炭と焼土粒子 (5~10mm) を多く含む。

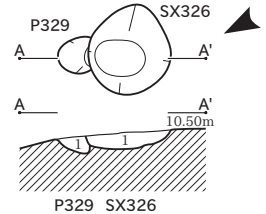




- SX291**
- 1 黄褐色砂質粘土 (10YR5/8) 粘性をもち、ややしまりあり。褐色粘土が斑に混じる。
 - 2 褐色粘土 (7.5YR4/4) 粘性・しまりあり。地山ブロックを少量含む。
 - 3 褐色粘土 (10YR4/4) 粘性をもち、ややしまりあり。地山ブロックを少量含む。
 - 4 褐色粘土 (10YR4/6) 粘性をもち、ややしまりあり。大形地山ブロックを多量に含む。褐色粘土が斑に混じる。
 - 5 褐色粘土 (7.5YR4/6) 粘性に富み、しまりあり。大形地山ブロックを少量含む。褐色粘土が斑に混じる。
 - 6 明褐色粘土 (7.5YR5/8) 粘性をもち、強くしまる。地山が斑に混じる。
 - 7 淡黄色砂質粘土 (2.5Y8/4) やや粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを多量に含む。褐色粘土が斑に混じる。
 - 8 明褐色砂質粘土 (7.5YR5/8) やや粘性をもち、強くしまる。マンガン粒子と褐色粘土が斑に混じる。
 - 9 灰白色砂質粘土 (2.5Y8/2) やや粘性をもち、強くしまる。褐色粘土が斑に混じる。
 - 10 灰白色砂質粘土 (2.5Y8/2) 粘性をもち、強くしまる。粘土塊を含み、マンガン・褐色粘土が斑に混じる。
 - 11 黄褐色砂質粘土 (2.5Y5/4) 粘性をもち、強くしまる。多量の地山ブロックとともに粘土塊も含む。
 - 12 橙色砂質粘土 (7.5YR4/4) 粘性をもち、強くしまる。粘土塊を含み、マンガンと褐色粘土が斑に混じる。

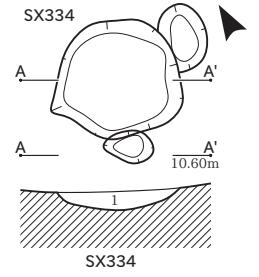


- SX300**
- 1 におい橙色粘土 (7.5YR6/4) しまりあり、強い粘性をもつ。炭 (1mm) を微量を含む。
 - 2 におい橙色粘土 (7.5YR6/4) 粘性・しまりあり。地山ブロック (10~30mm) を少量含む。

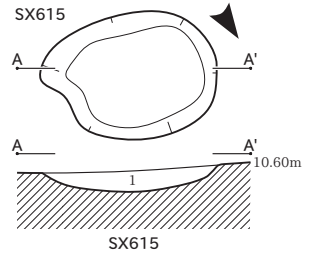


- SX326**
- 1 褐色粘土 (7.5YR4/4) 粘性・しまりあり。炭 (2~8mm) と地山ブロックを少量含む。

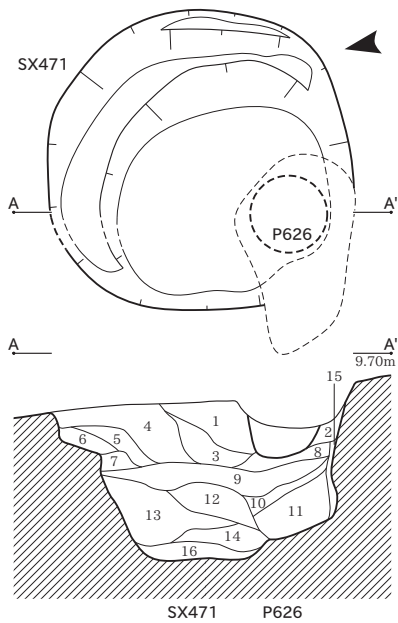
- P 329**
- 1 褐色粘土 (7.5YR4/3) 粘性をもち、強くしまる。多量の炭 (1~5mm) とともに焼土粒子と地山ブロックを少量含む。



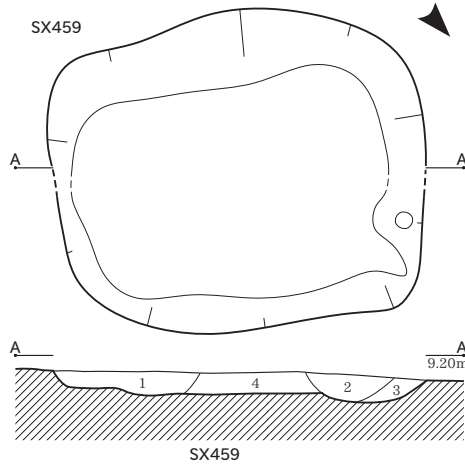
- SX334**
- 1 黒褐色腐植土 (7.5YR3/2) 粘性・しまりあり。多量の炭 (2~3mm) とともに焼土粒子 (3~5mm) を少量含む。



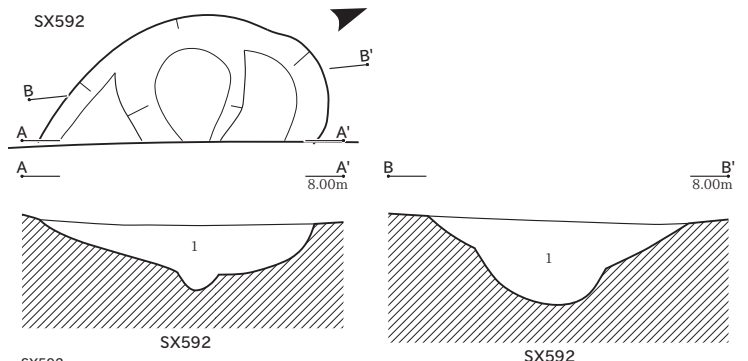
- SX615**
- 1 明褐色砂質粘土 (7.5YR5/8) 粘性に乏しいが、強くしまる。地山ブロックを含む。



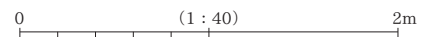
- SX471**
- 1 褐色粘土 (7.5YR4/6) やや粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを多量に含む。
 - 2 におい褐色粘土 (7.5YR4/4) やや粘性をもち、強くしまる。
 - 3 褐色粘土 (7.5YR4/4) やや粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを多量に含む。
 - 4 褐色粘土 (7.5YR4/4) やや粘性をもち、強くしまる。明褐色粘土ブロックとともに微量の炭 (1mm) を含む。
 - 5 明褐色シルト (7.5YR5/6) 粘性に欠けるが、強くしまる。地山ブロックとともに微量の炭 (1mm) を含む。
 - 6 褐色シルト (7.5YR4/6) 粘性に欠けるが、強くしまる。多量の地山ブロックとともにマンガン粒子 (1mm) を含む。
 - 7 淡黄色粘土 (2.5Y8/3) やや粘性をもち、強くしまる。水酸化鉄が斑に混じる。
 - 8 明褐色粘土 (7.5YR5/6) やや粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを含む。
 - 9 褐色砂質粘土 (7.5YR4/4) やや粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを多く含む。
 - 10 褐色粘土 (7.5YR4/6) 粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを多く含む。
 - 11 浅黄褐色粘土 (10YR8/3) やや粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを多く含む。マンガン粒子 (1mm) が斑に混じる。
 - 12 灰白色砂質粘土 (7.5YR8/1) やや粘性をもち、強くしまる。マンガン粒子 (1mm) ・水酸化鉄・褐色粘土が斑に混じる。
 - 13 灰白色砂質粘土 (7.5YR8/1) やや粘性をもち、強くしまる。少量のマンガン粒子 (1mm) とともに褐色粘土が斑に混じる。
 - 14 橙色砂質粘土 (7.5YR6/8) 粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを含み、褐色粘土とマンガン粒子 (3mm) が斑に混じる。
 - 15 褐色粘土 (7.5YR4/6) 粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを多く含む。
 - 16 におい黄褐色砂質粘土 (7.5YR4/6) 粘性をもち、強くしまる。地山ブロックを多く含む。

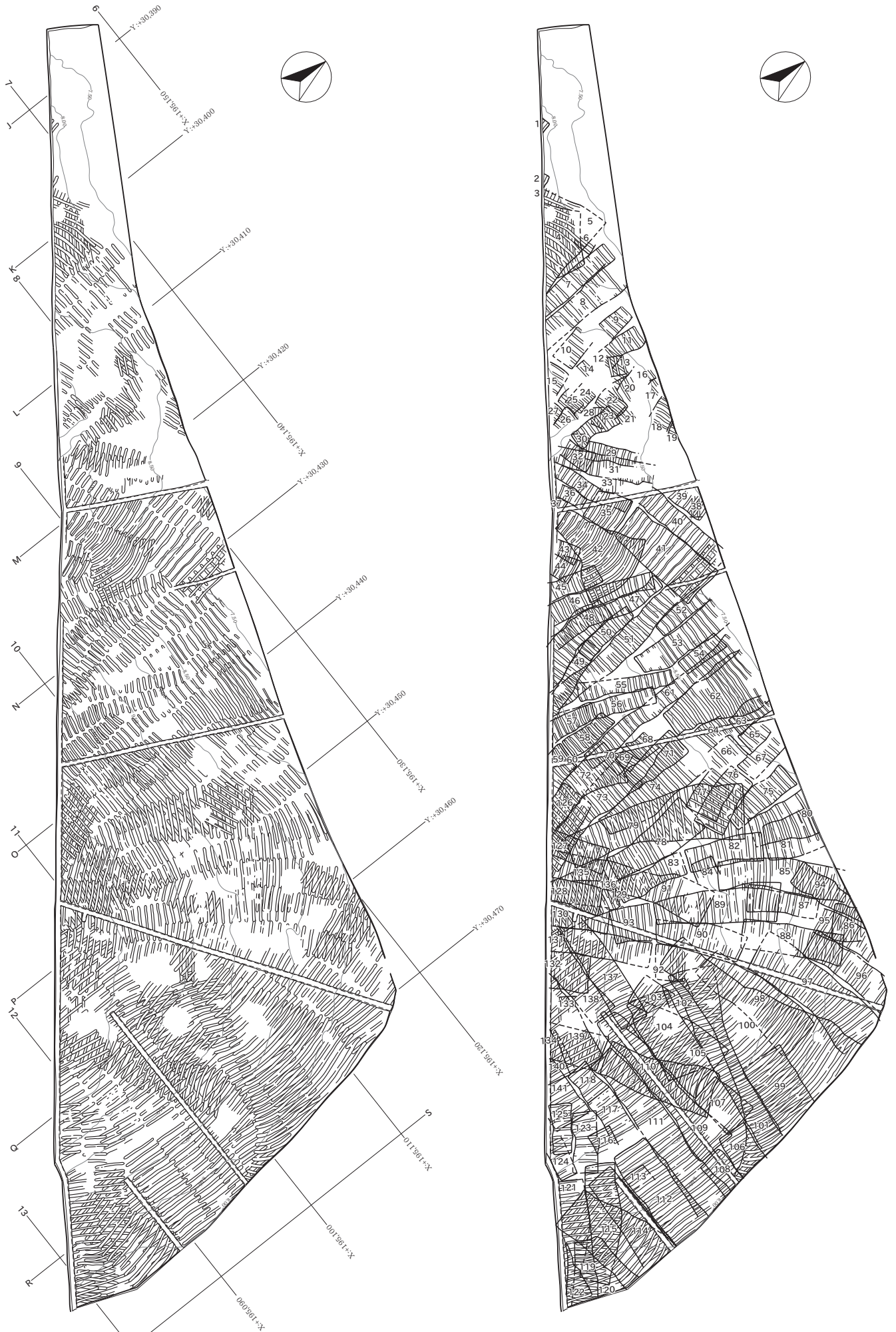


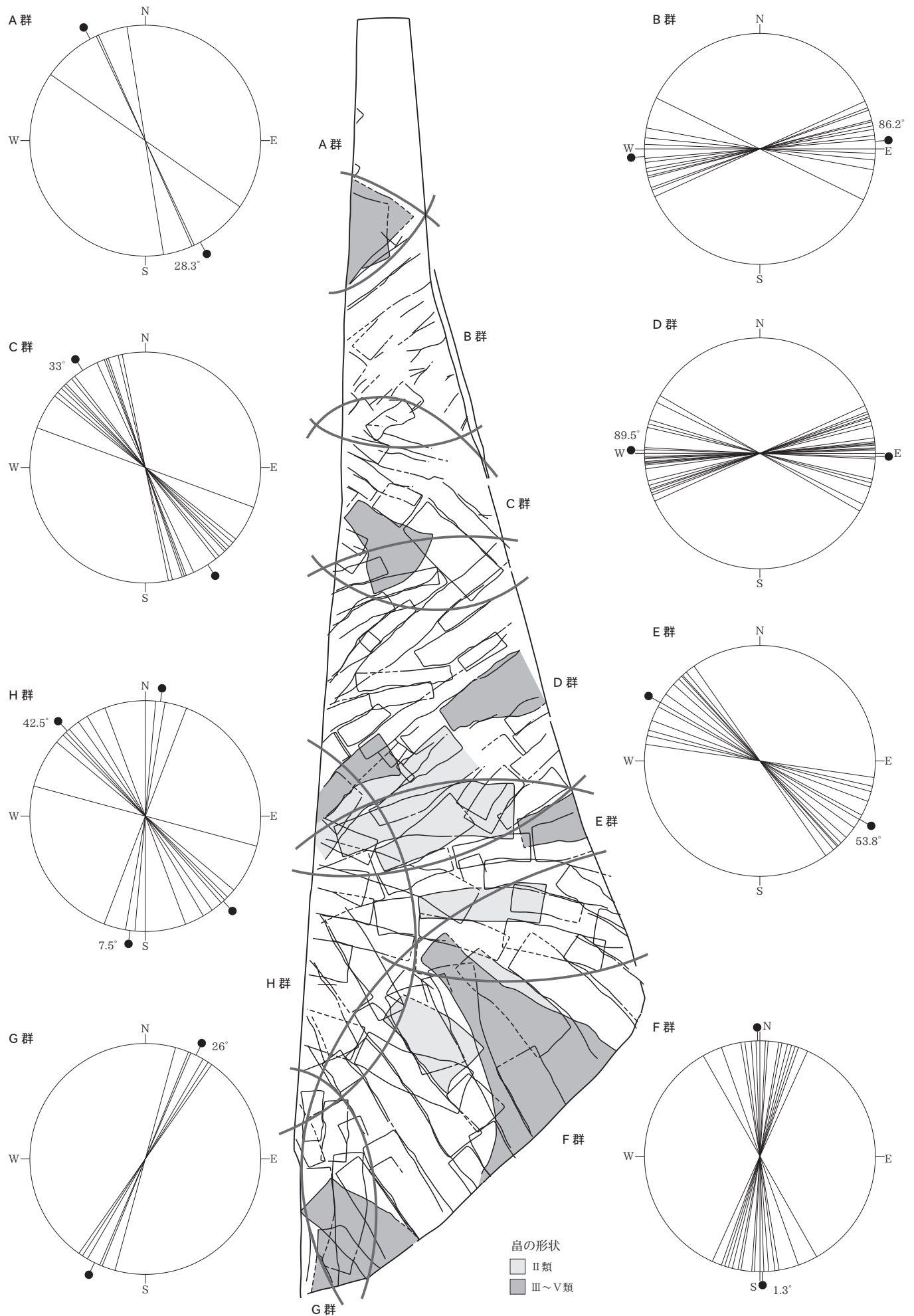
- SX459**
- 1 褐色砂質粘土 (7.5YR4/3) 粘性に欠けるが、強くしまる。地山ブロックと少量の炭 (1mm) を含む。
 - 2 褐色砂質粘土 (7.5YR4/4) 粘性に欠けるが、強くしまる。地山小ブロックを含む。
 - 3 明褐色粘土 (7.5YR5/8) やや粘性をもち、強くしまる。地山小ブロックを含む。
 - 4 褐色砂質粘土 (7.5YR4/6) 粘性に欠けるが、強くしまる。地山ブロックを含む。

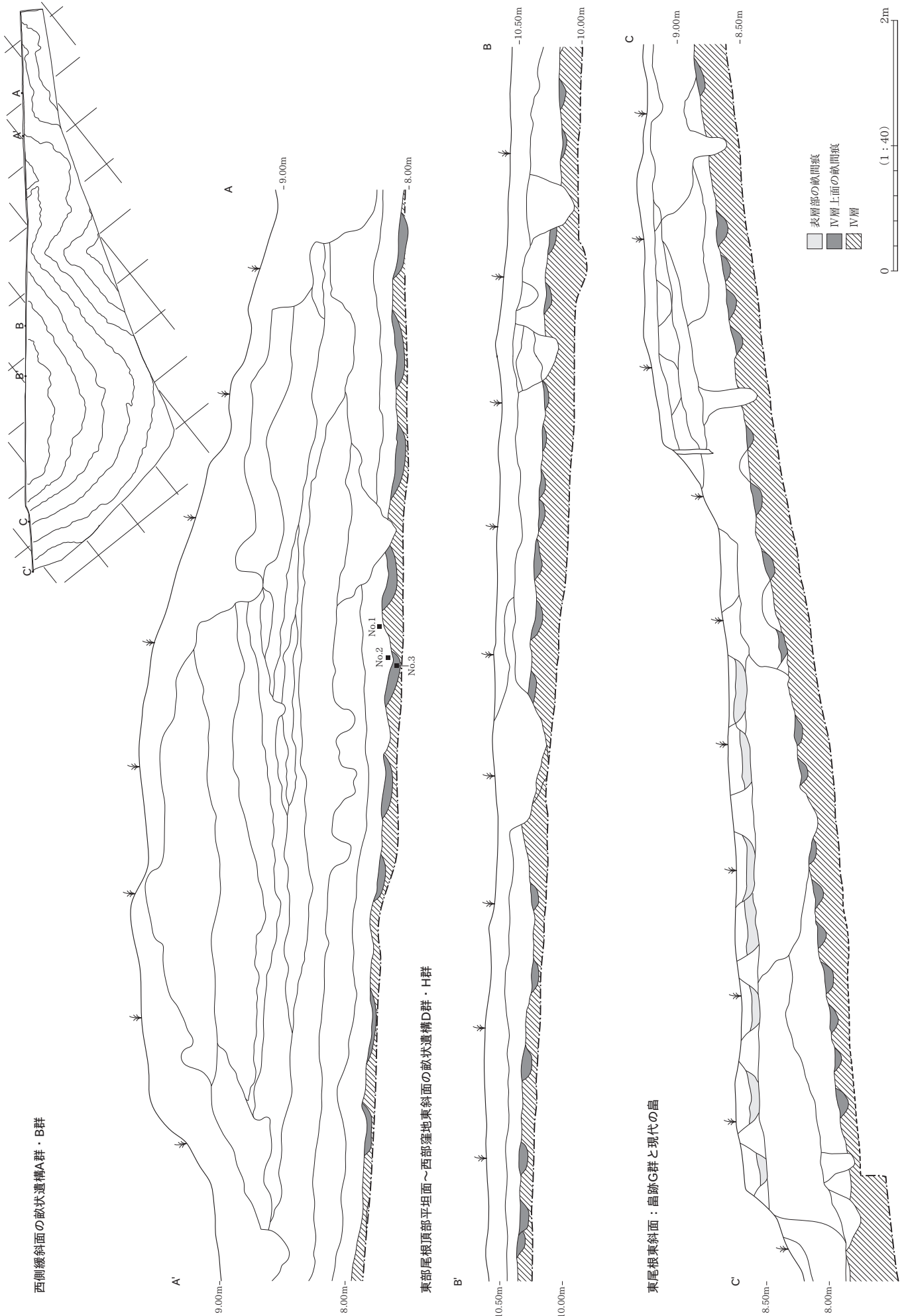


- SX592**
- 1 暗褐色砂質粘土 (10YR3/4) 粘性に乏しいが、しまりあり。炭 (1~3mm) と焼土粒子 (3mm) を少量含む。

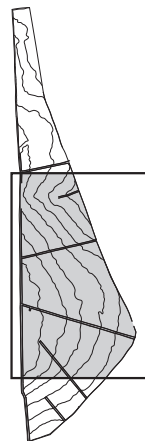






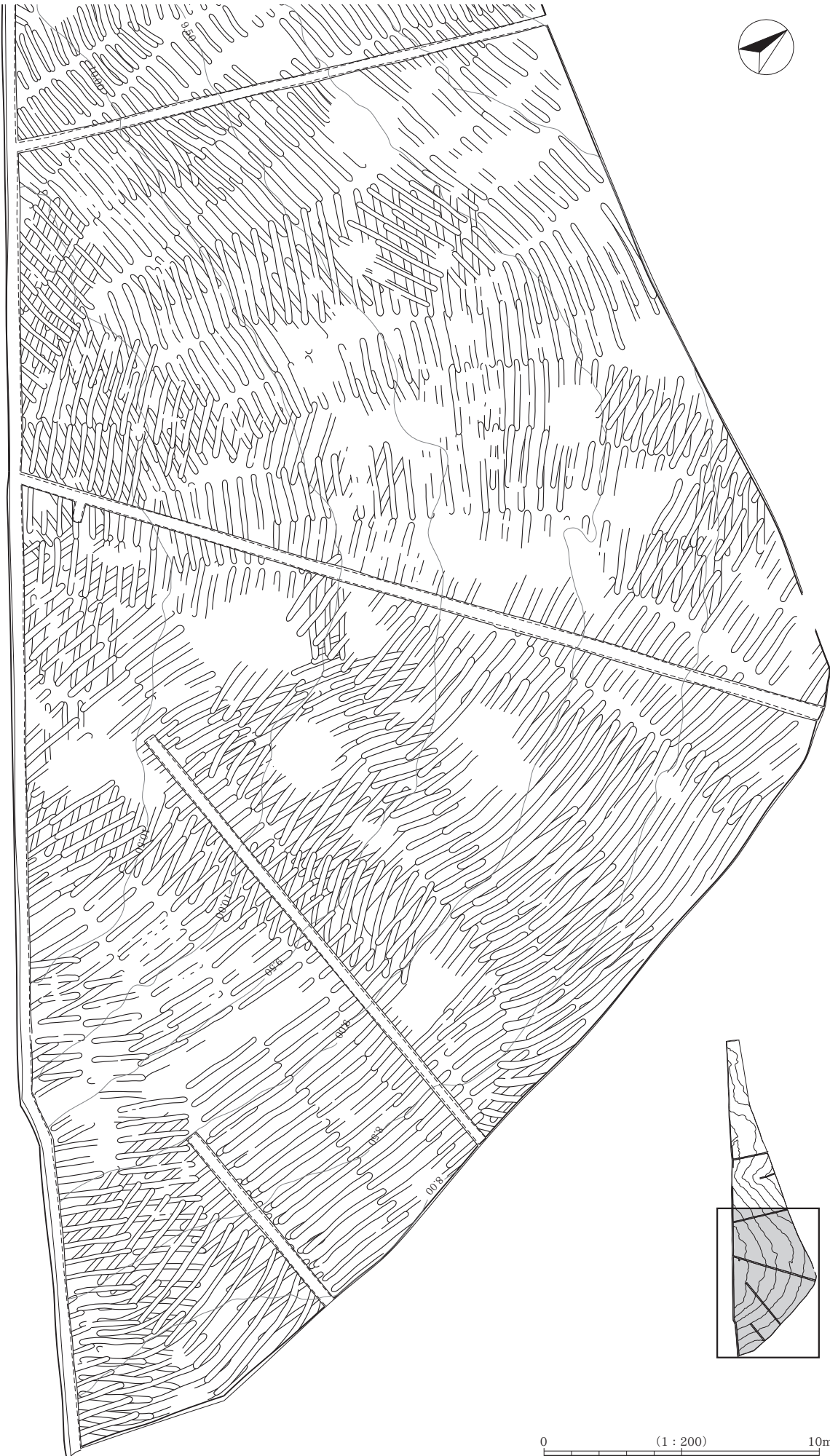






0 (1 : 200) 10m



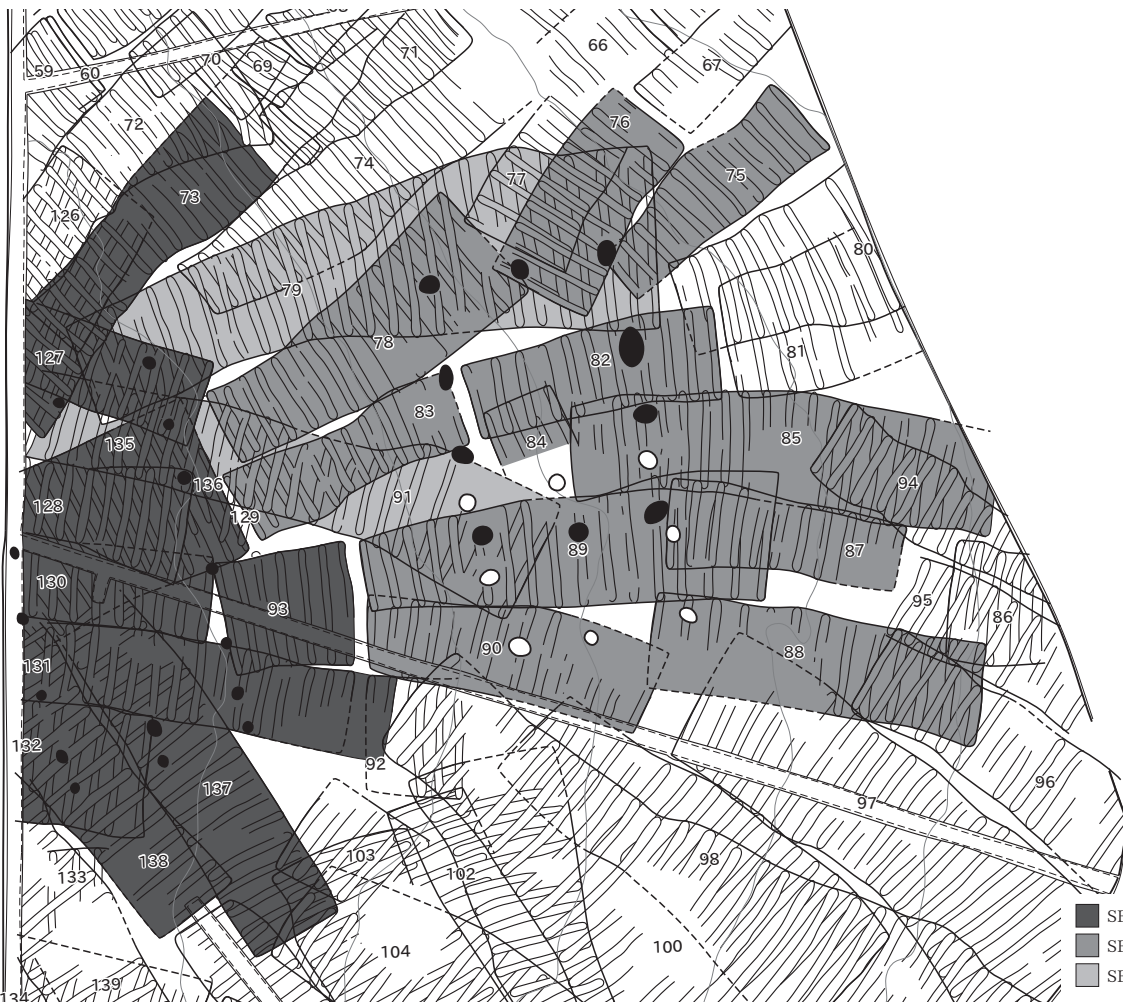
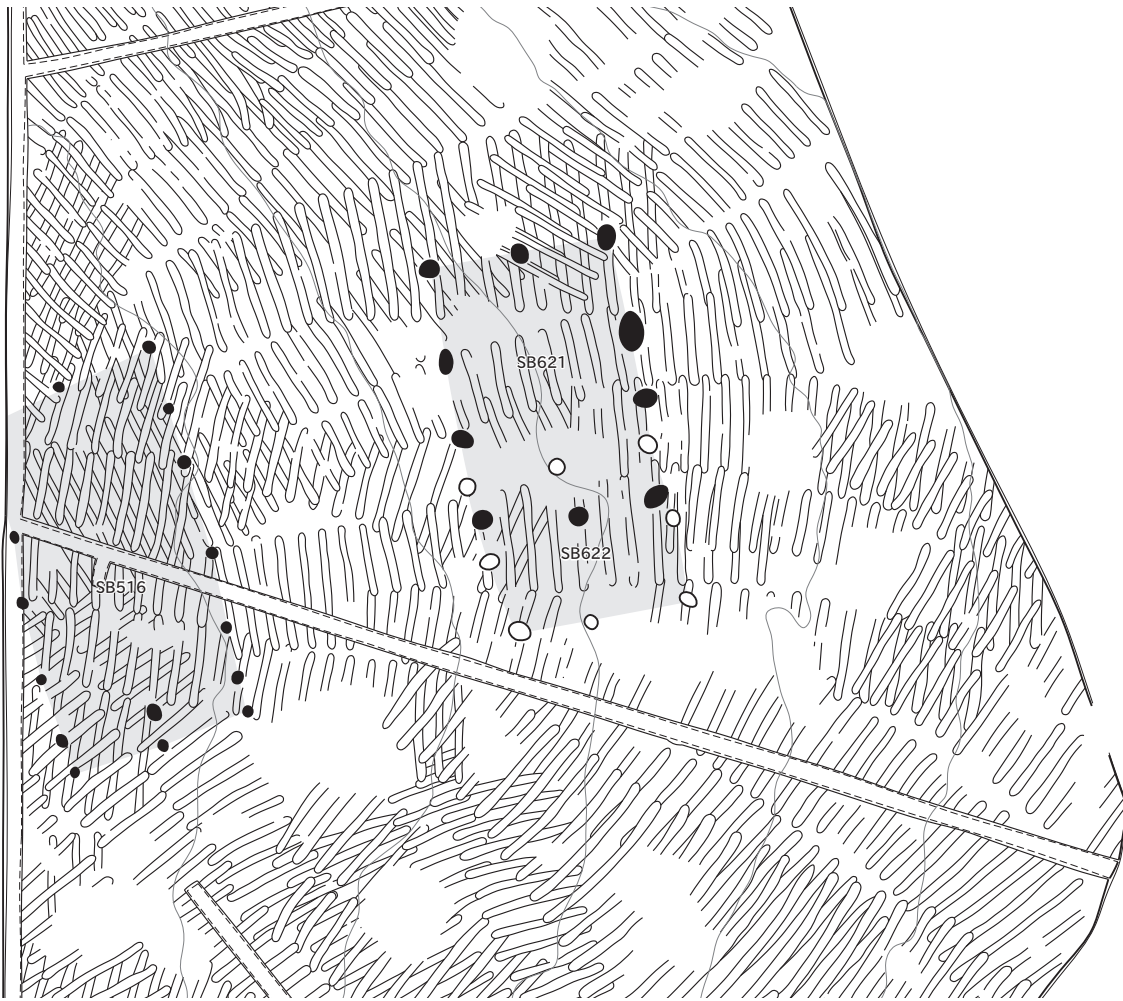


0 (1 : 200) 10m

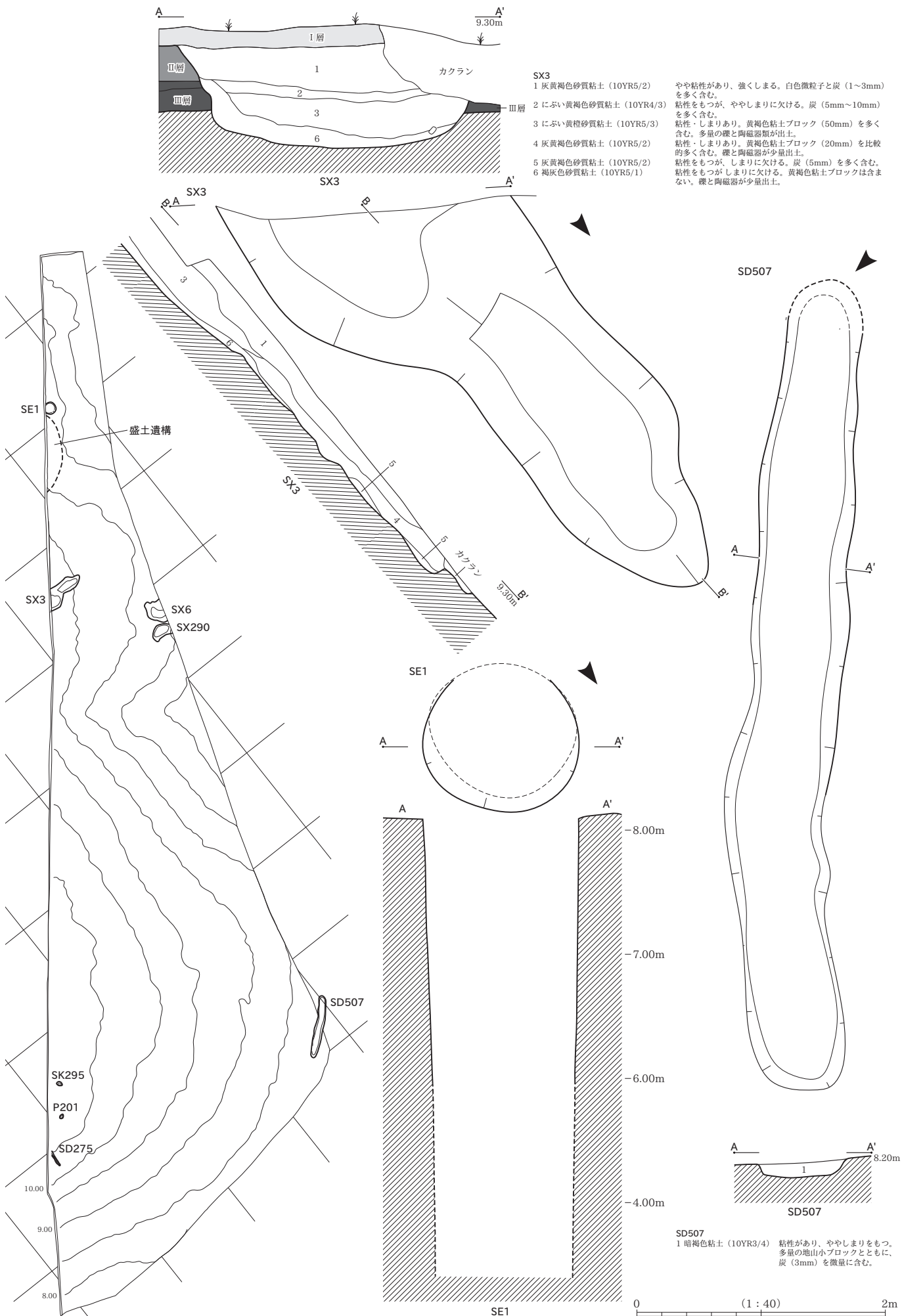




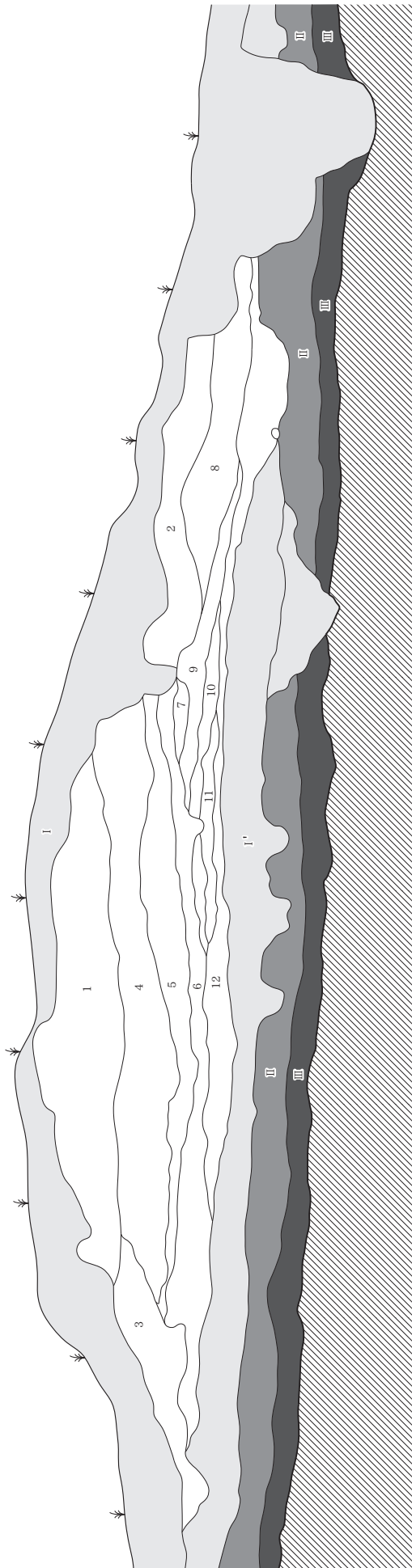




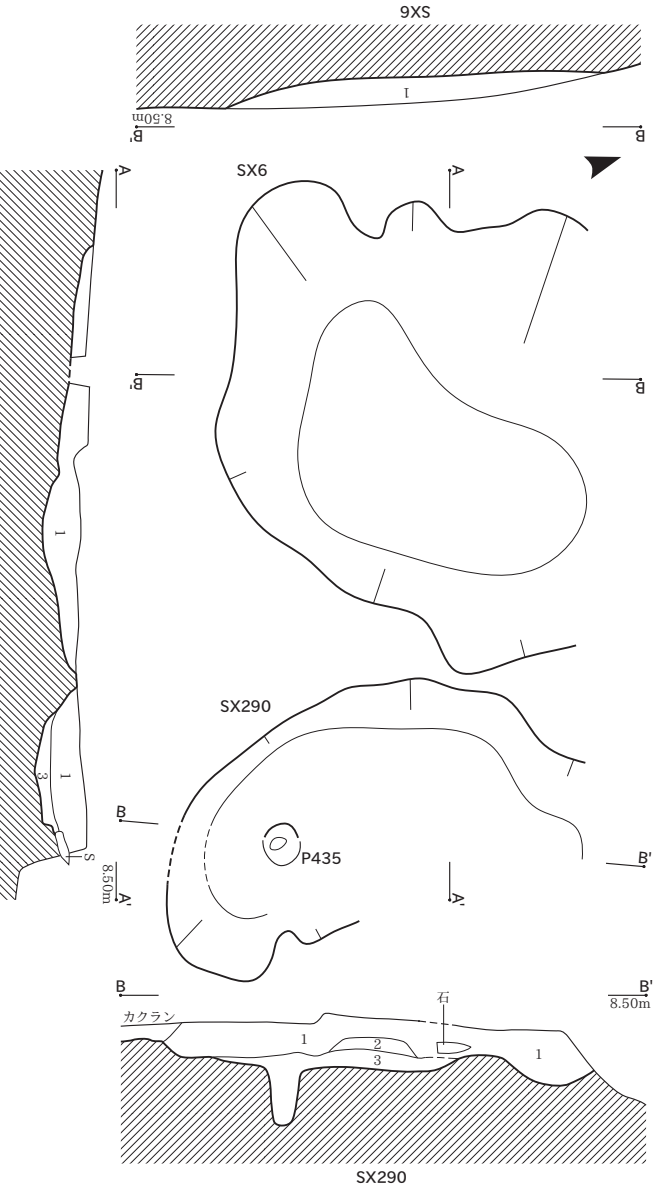
- SB516と重複
- SB621・622と重複
- SB516・621と重複



A
1000m



盛土遺構

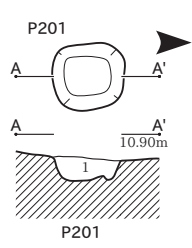


SX6
1 にふい黄褐色砂質腐植土 (10YR5/3) 粘性乏しいが、しまりあり。多量の地山ブロック (1~5cm) とともに炭 (5mm) を少量含む。

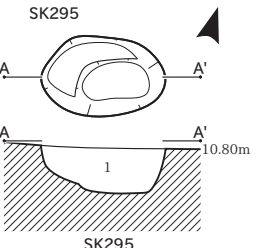
SX290
1 にふい黄褐色腐植土 (10YR5/3) 粘性に乏しいが、しまりあり。地山粒子 (1mm) を少量含む。
2 褐色腐植土 (7.5YR4/3) 粘性に乏しいが、しまりあり。焼土粒子 (5mm) とともに、炭 (3mm) を少量含む。
3 にふい黄褐色腐植土 (10YR6/3) 粘性・しまりあり。多量の地山ブロック (10~20mm) とともに炭 (5mm) を少量含む。

盛土遺構

1 黄褐色腐植土 (10YR4/2) 粘性・しまりあり。礫片と焼土粒子 (3~5mm) を少量含む。
2 灰黄褐色腐植土 (10YR4/2) 粘性・しまりあり。地山ブロック (1~2cm) を多量に含む。
3 にふい橙粘土 (7.5YR7/4) 粘性・しまりあり。多量の地山ブロックに腐植土ブロック (5cm) が混じる。
4 灰褐色腐植土 (7.5YR5/2) 粘性・しまりあり。地山ブロック (5~10cm) と炭 (5mm) を多量に含む。
5 にふい橙粘土 (7.5YR7/4) 粘性・しまりあり。地山ブロック層。腐植土と炭を少量含む。
6 灰褐色腐植土 (7.5YR5/2) 粘性・しまりあり。中央部の幅1.2mの範囲に陶磁器破片が多数廃棄される。炭を少量含む。
7 にふい橙粘土 (7.5YR7/4) 粘性・しまりあり。10~15cmの地山ブロック層。
8 にふい橙粘土腐植土 (7.5YR7/4) 粘性・しまりあり。地山ブロック (3cm) を多量に含む。
9 褐灰色粘土 (7.5YR6/1) 粘性・しまりあり。地山ブロック (3cm) を比較的多く含む。
10 浅黄橙~褐灰色粘土 (7.5YR6/1・7.5YR6/1) 粘性・しまりあり。地山ブロック (3~15cm) を多量に含む。
11 灰褐色腐植土 (7.5YR5/2) 粘性・しまりあり。炭 (1~5cm) と地山ブロックを多量に含む。
12 褐灰色粘土 (7.5YR5/1) 粘性・しまりあり。炭 (3~5cm) を少量含む。



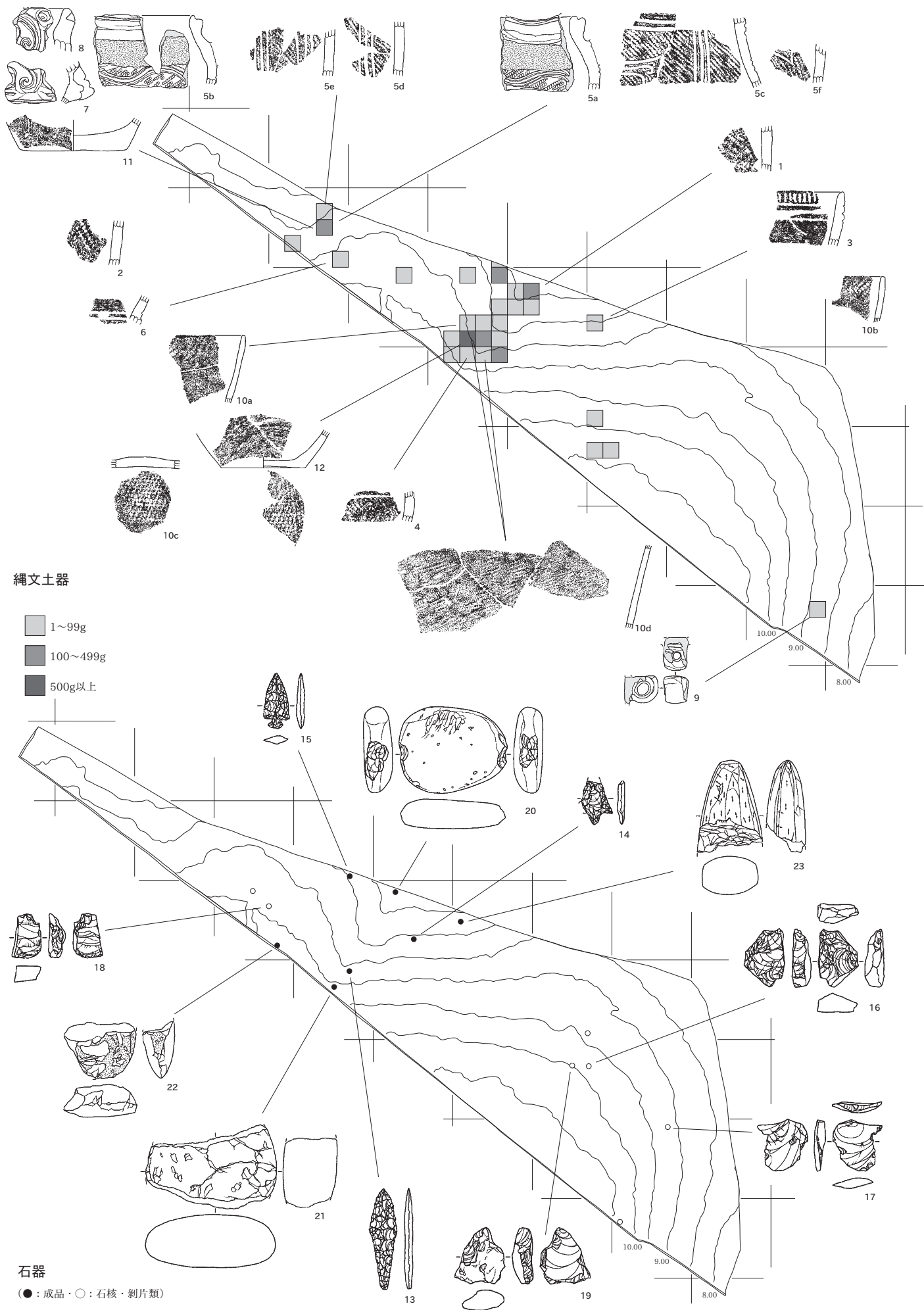
P201
1 褐灰色砂質腐植土 (7.5YR4/2) 粘性・少量の炭 (2mm) と地山粒子 (1~5mm) を含む。

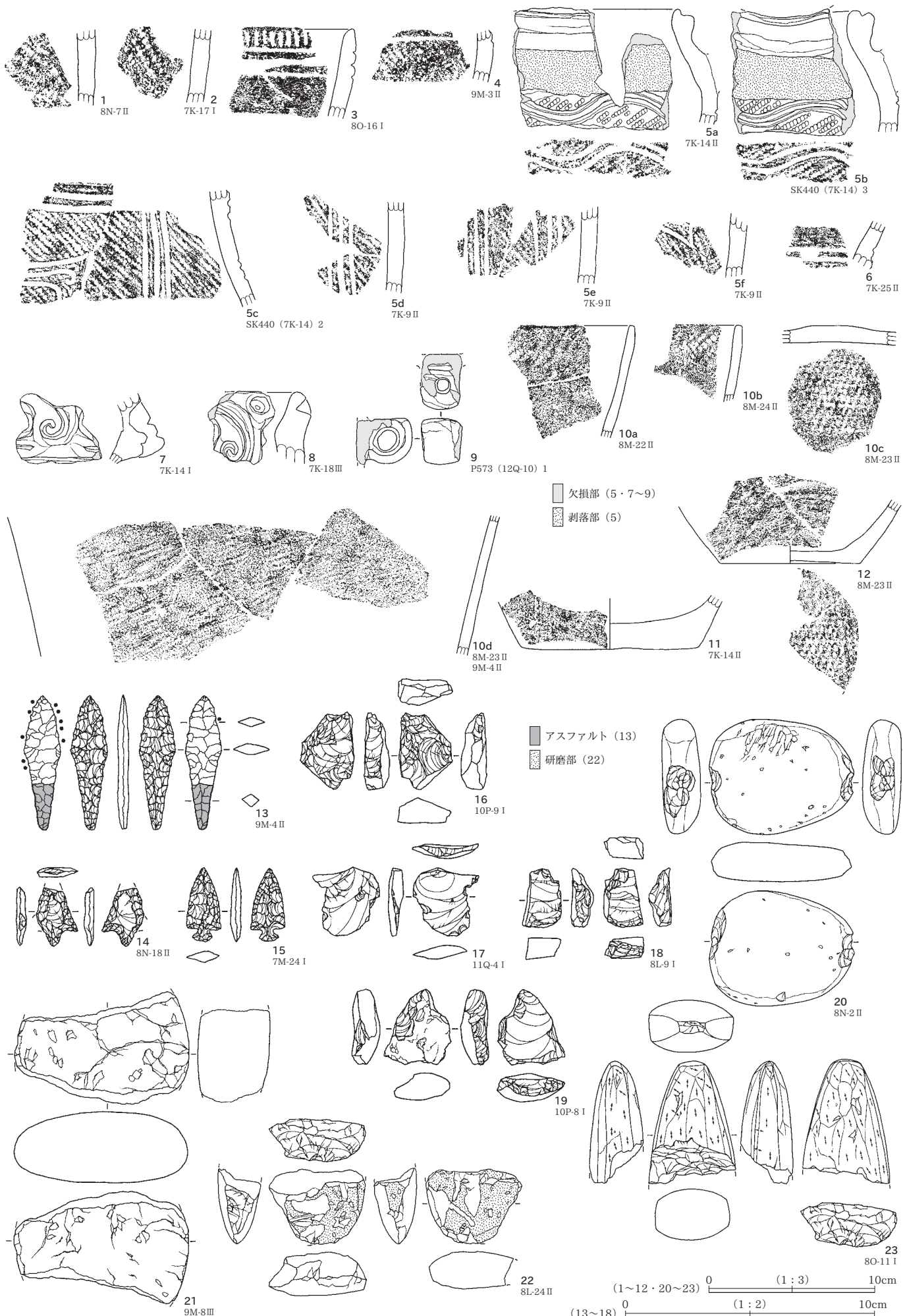


SK295
1 にふい黄褐色砂質粘土 (10YR4/3) 粘性に乏しいが、しまりあり。多量の地山ブロックとともに炭 (3mm) を少量含む。

0 (1:40) 2m

A





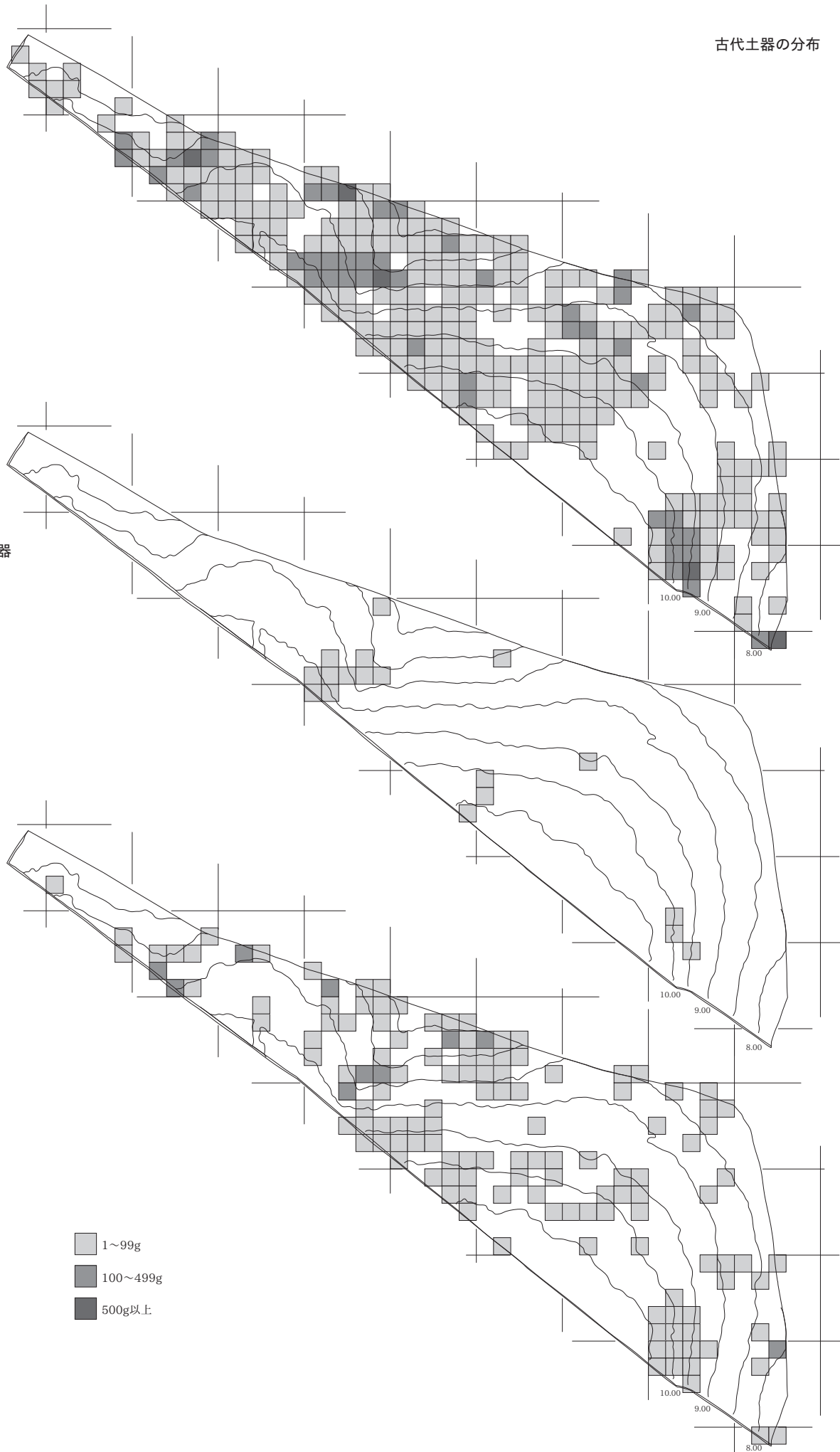
古代土器の分布

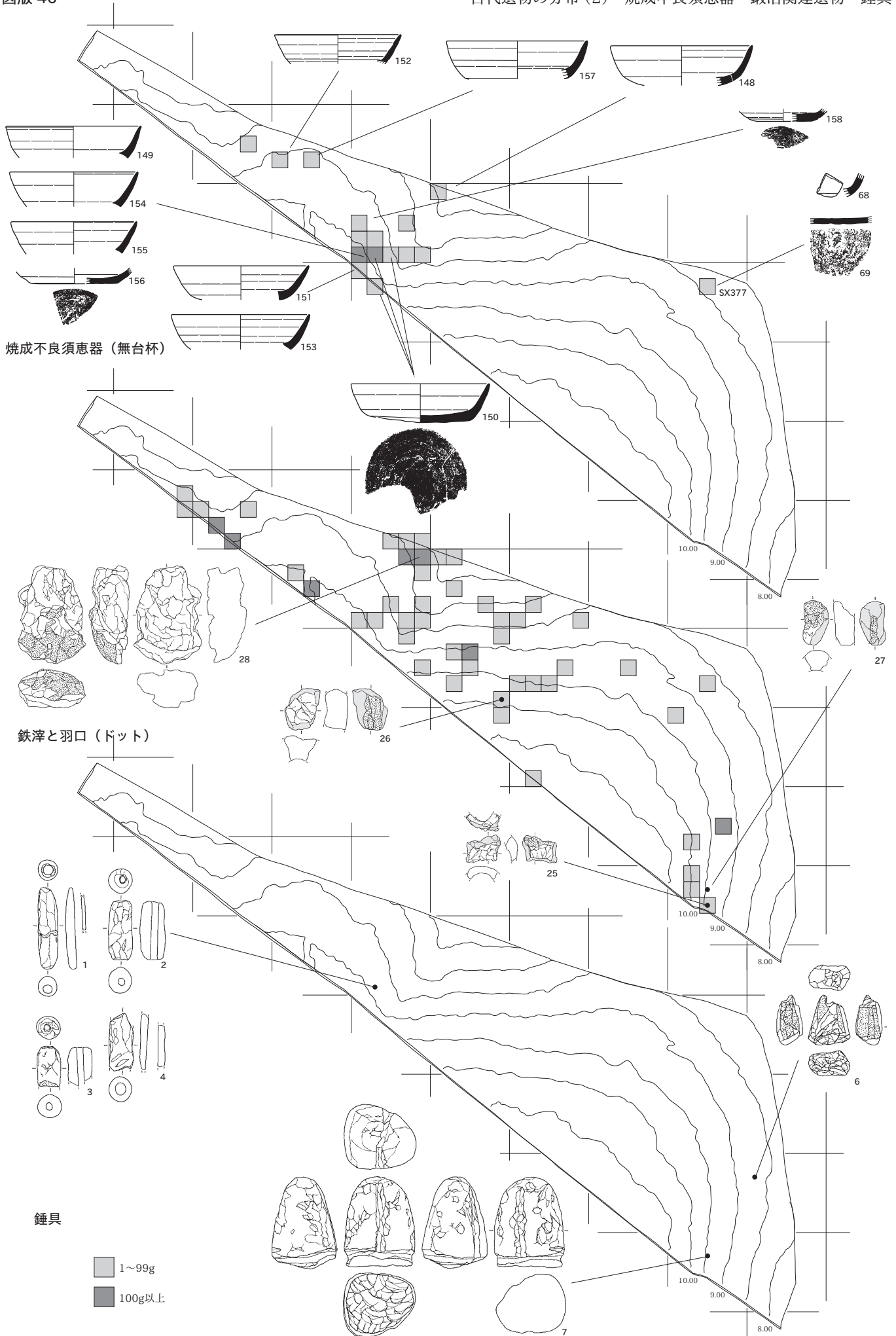
土師器

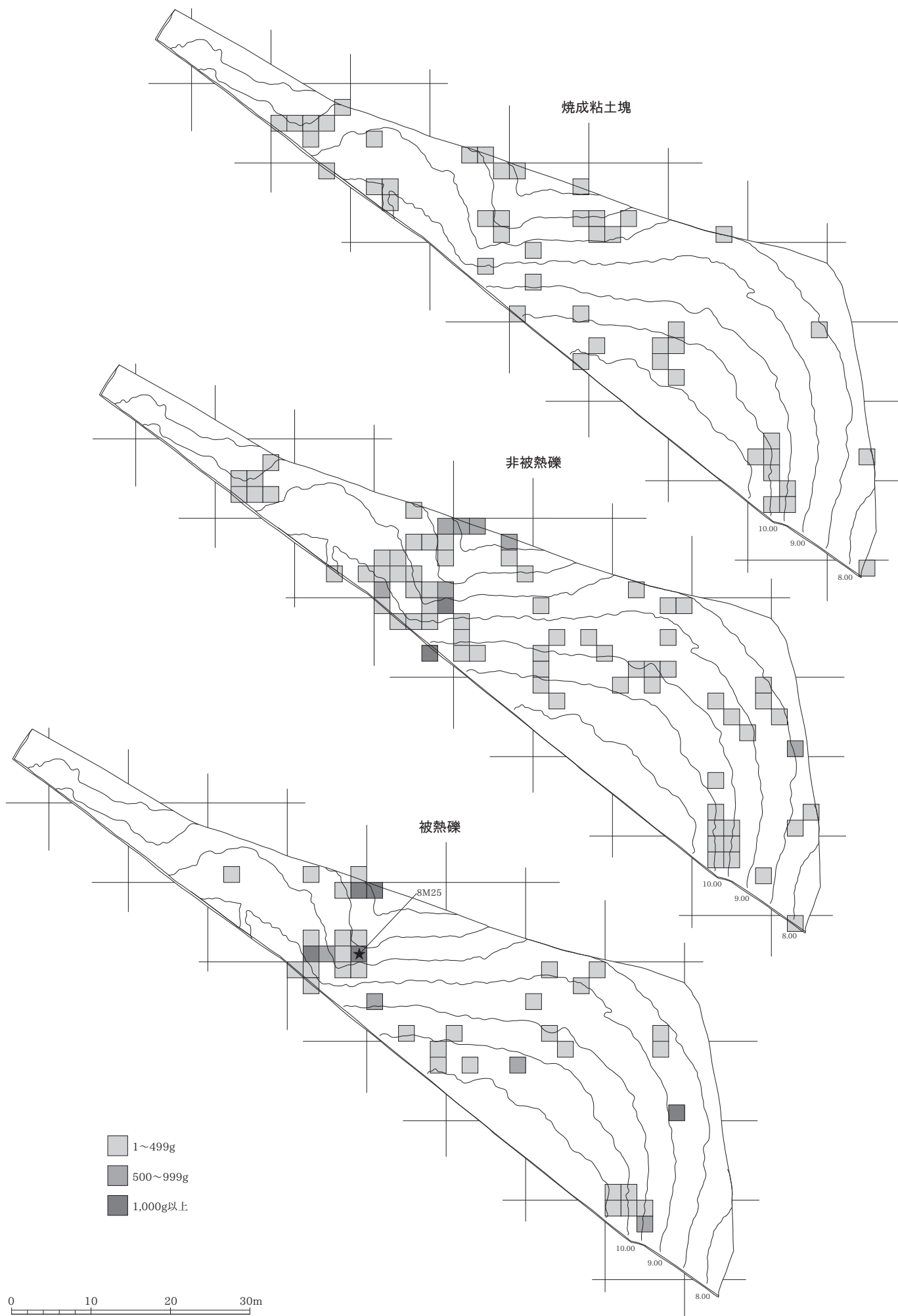
黒色土器

須恵器

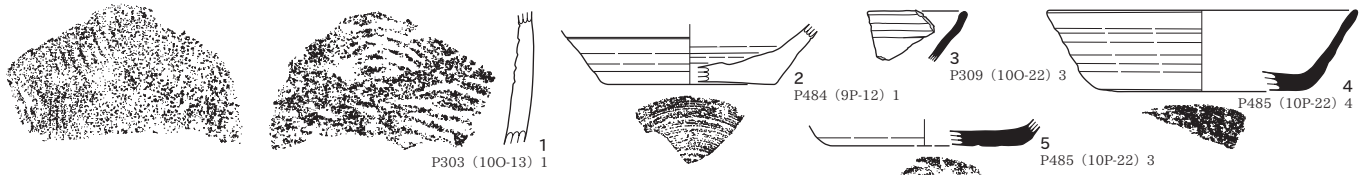
- 1~99g
- 100~499g
- 500g以上



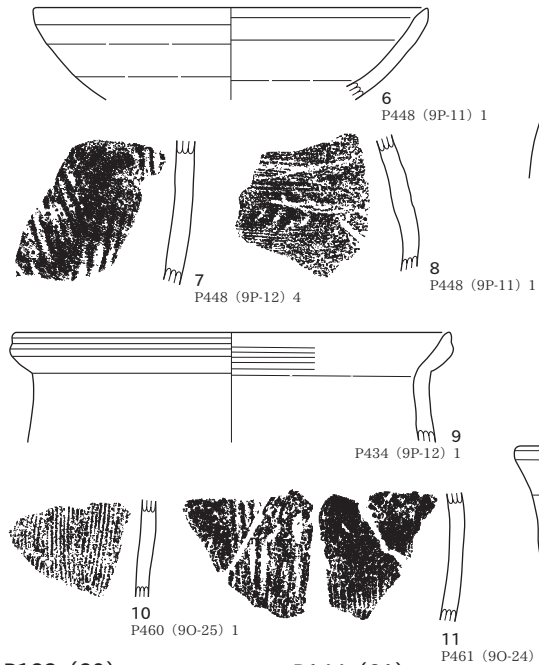




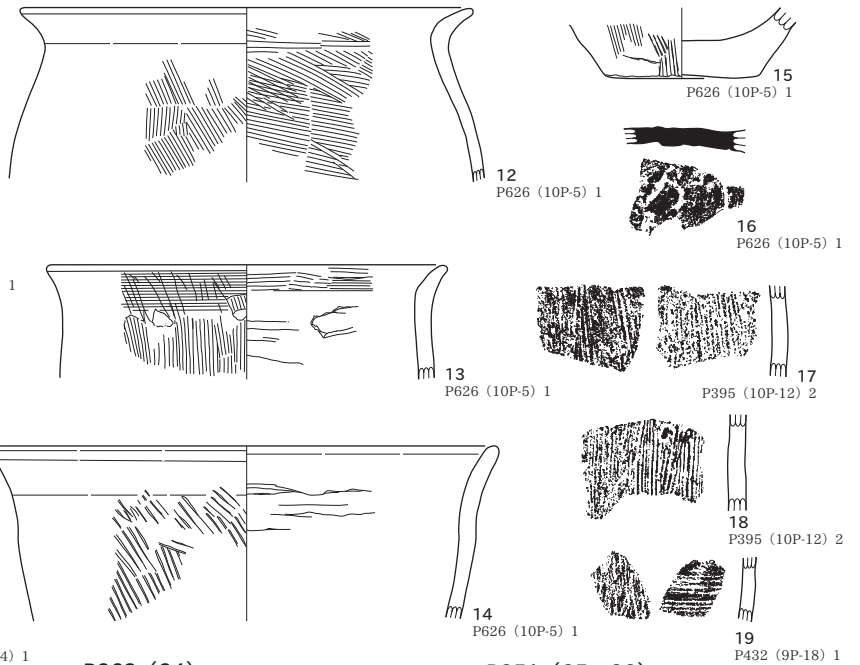
SB516 (1~5)



SB621 (6~11)



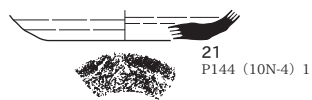
SB622 (12~19)



P123 (20)



P144 (21)



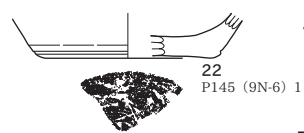
P263 (24)



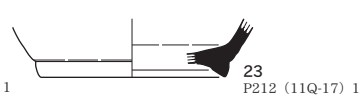
P251 (25・26)



P145 (22)



P212 (23)



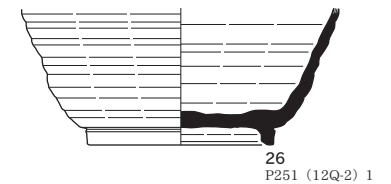
P319 (28)



P320 (29)



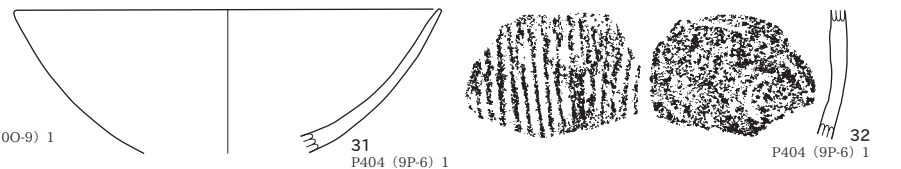
P266 (27)



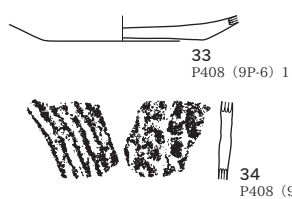
P361 (30)



P404 (31・32)



P408 (33・34)



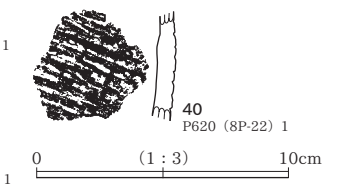
P416 (35~37)



P604 (38・39)



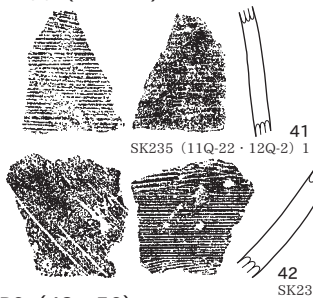
P620 (40)



欠損部 (3・28)

0 (1:3) 10cm

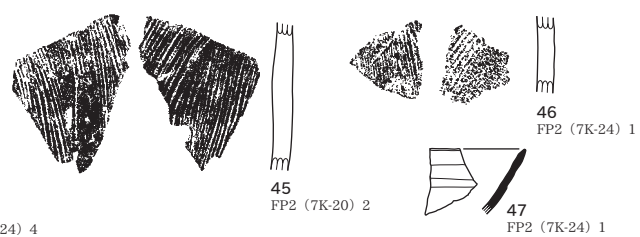
SK235 (41・42)



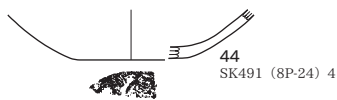
SK238 (43)



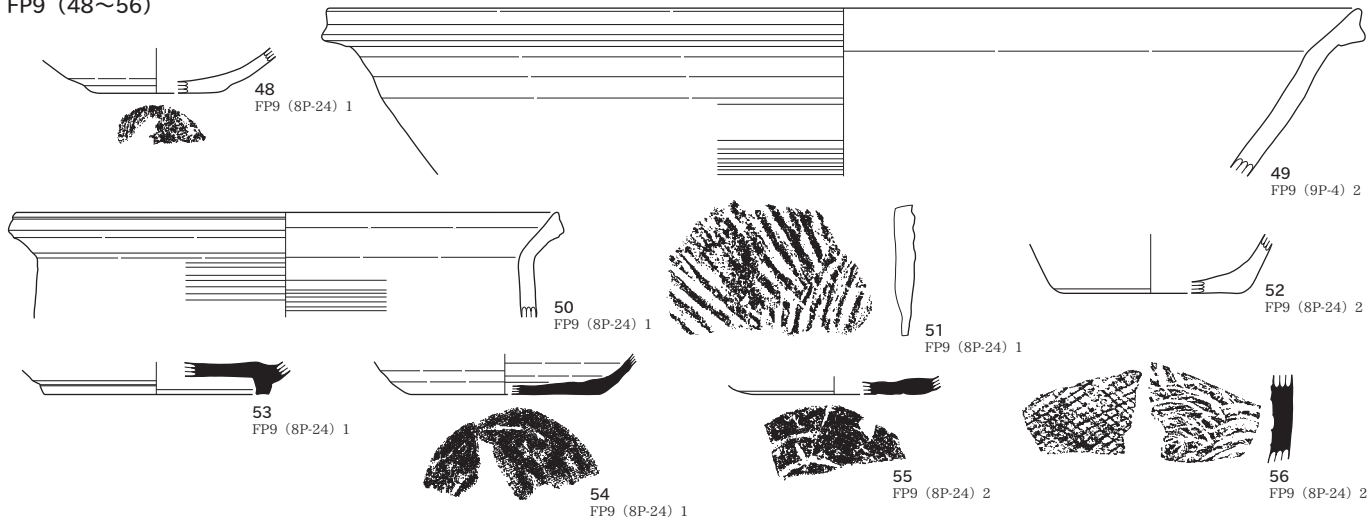
FP2 (45~47)



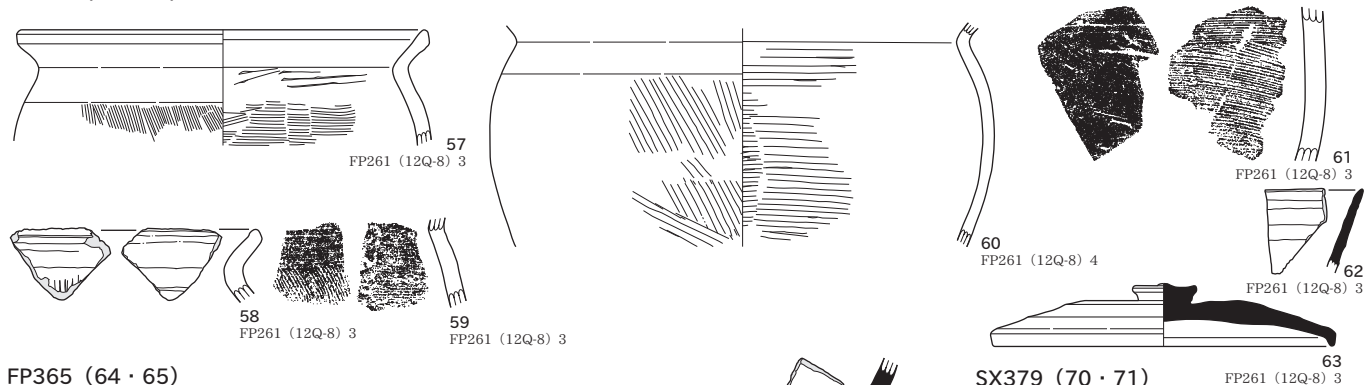
SK491 (44)



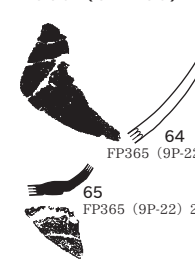
FP9 (48~56)



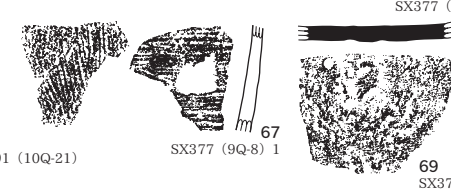
FP261 (57~63)



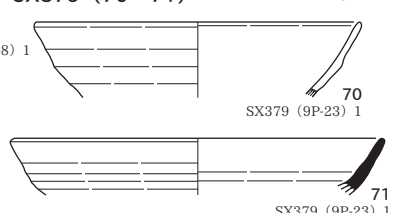
FP365 (64・65)



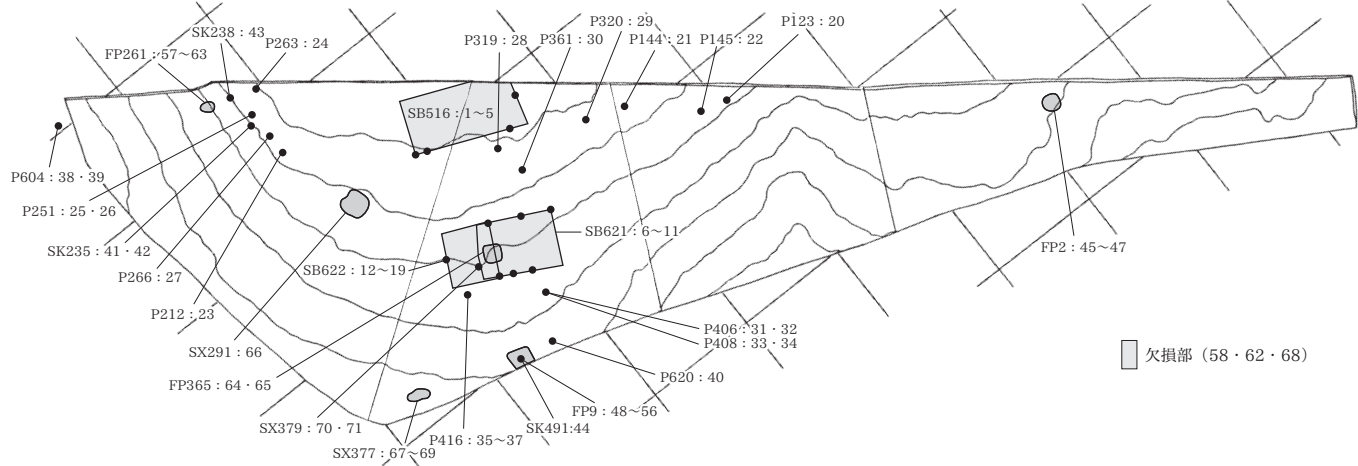
SX377 (67~69)

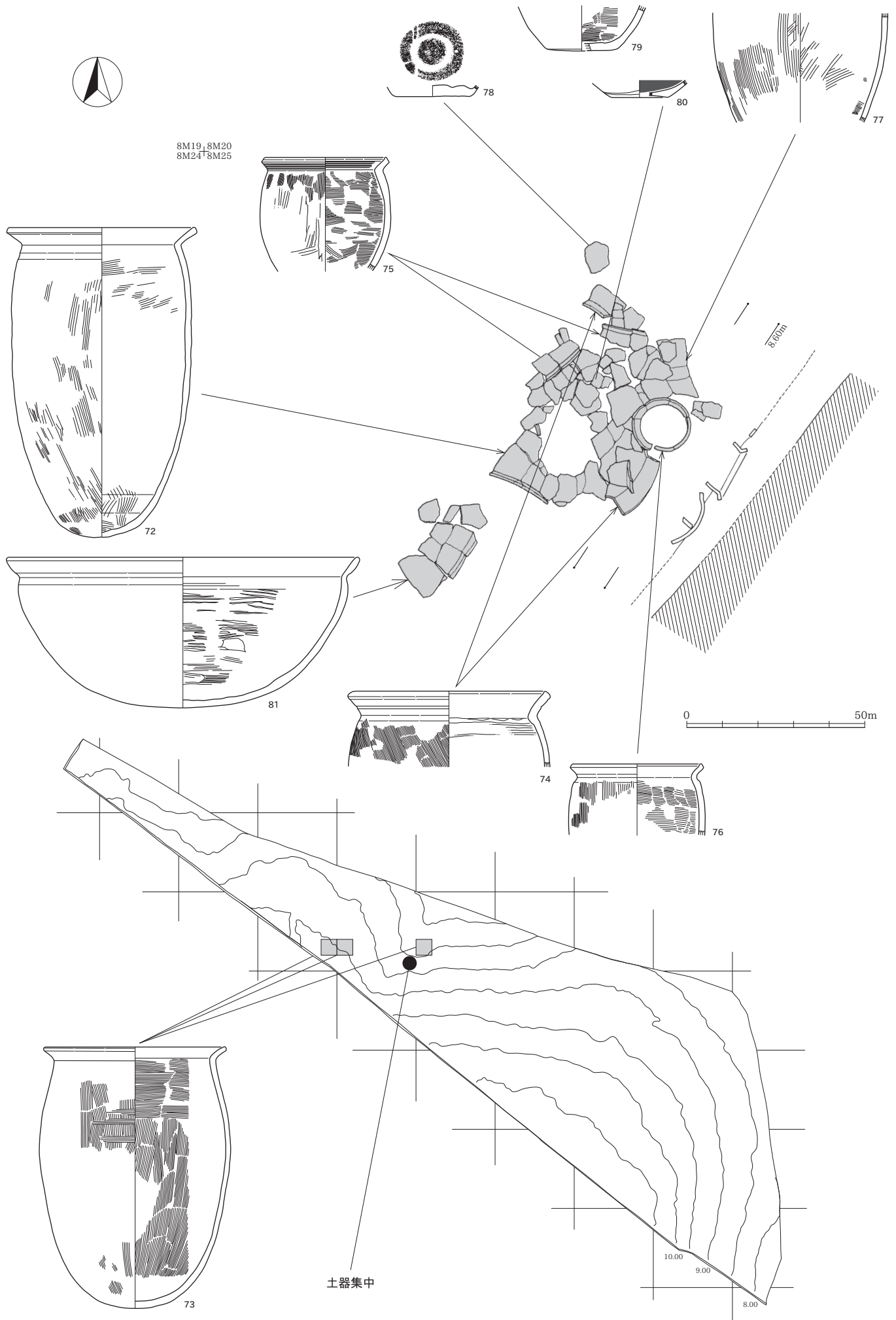


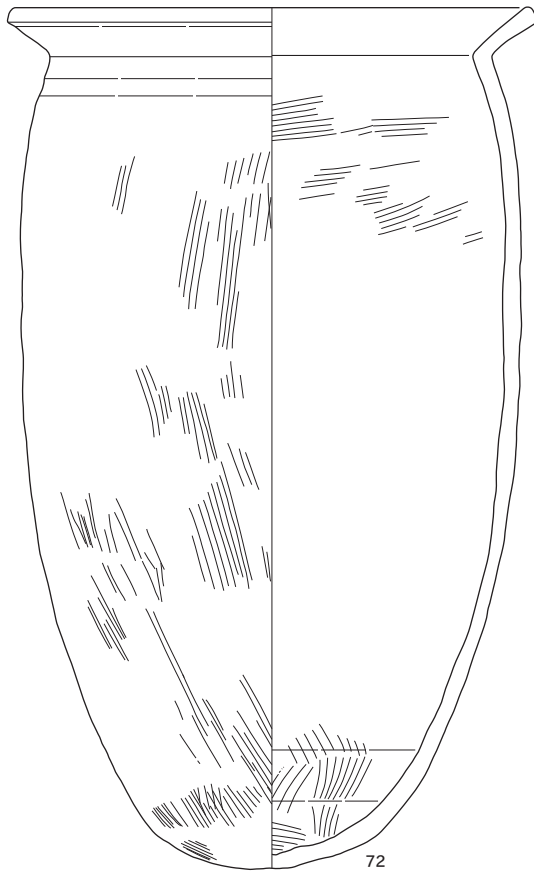
SX379 (70・71)



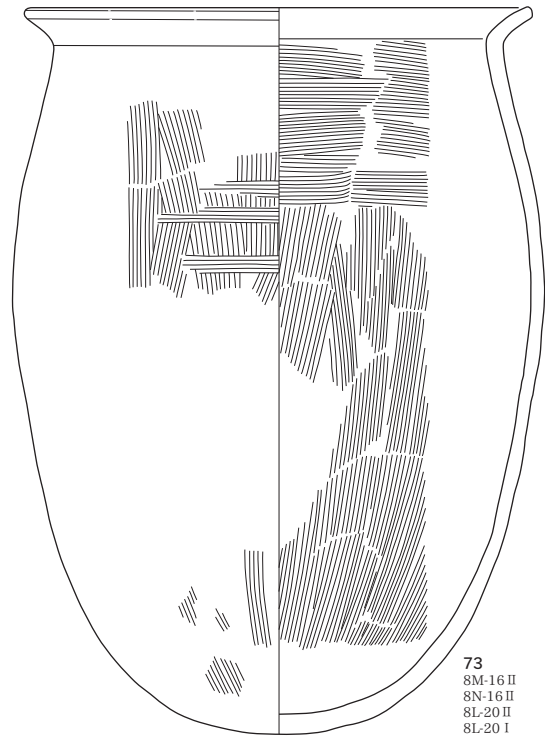
0 (1:3) 10cm



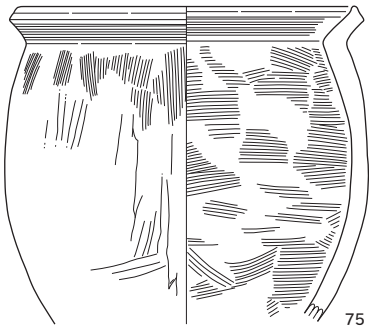




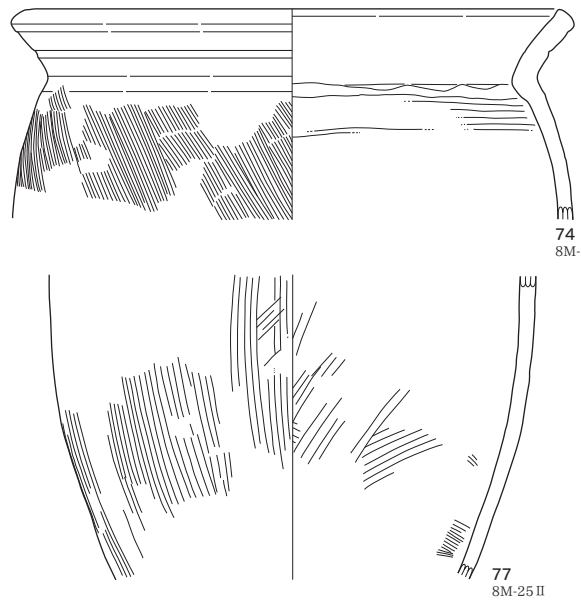
72
8M-25 II



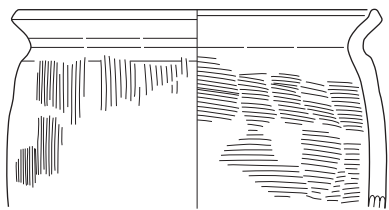
73
8M-16 II
8N-16 II
8L-20 II
8L-20 I



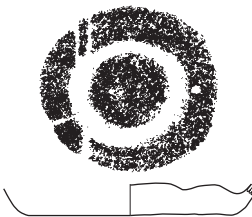
75
8M-25 II



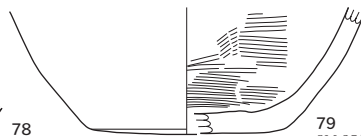
74
8M-25 II



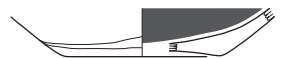
76
8M-25 II



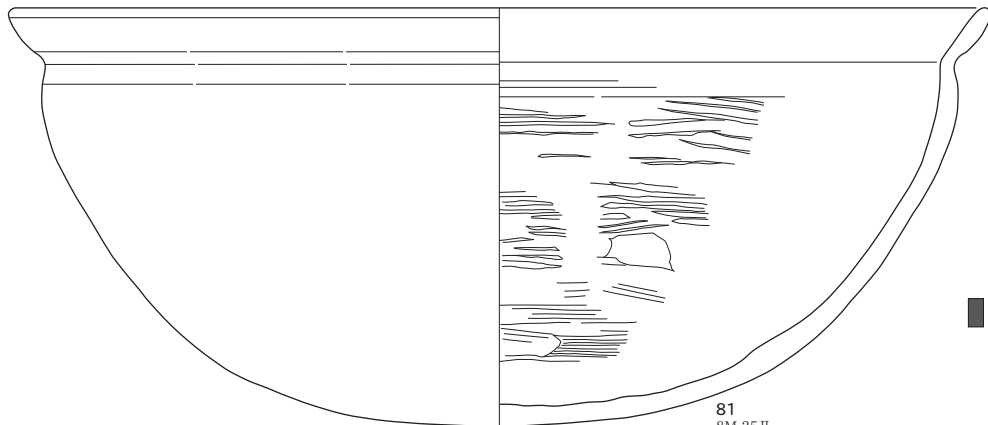
78
8M-25 II



79
8M-25 II

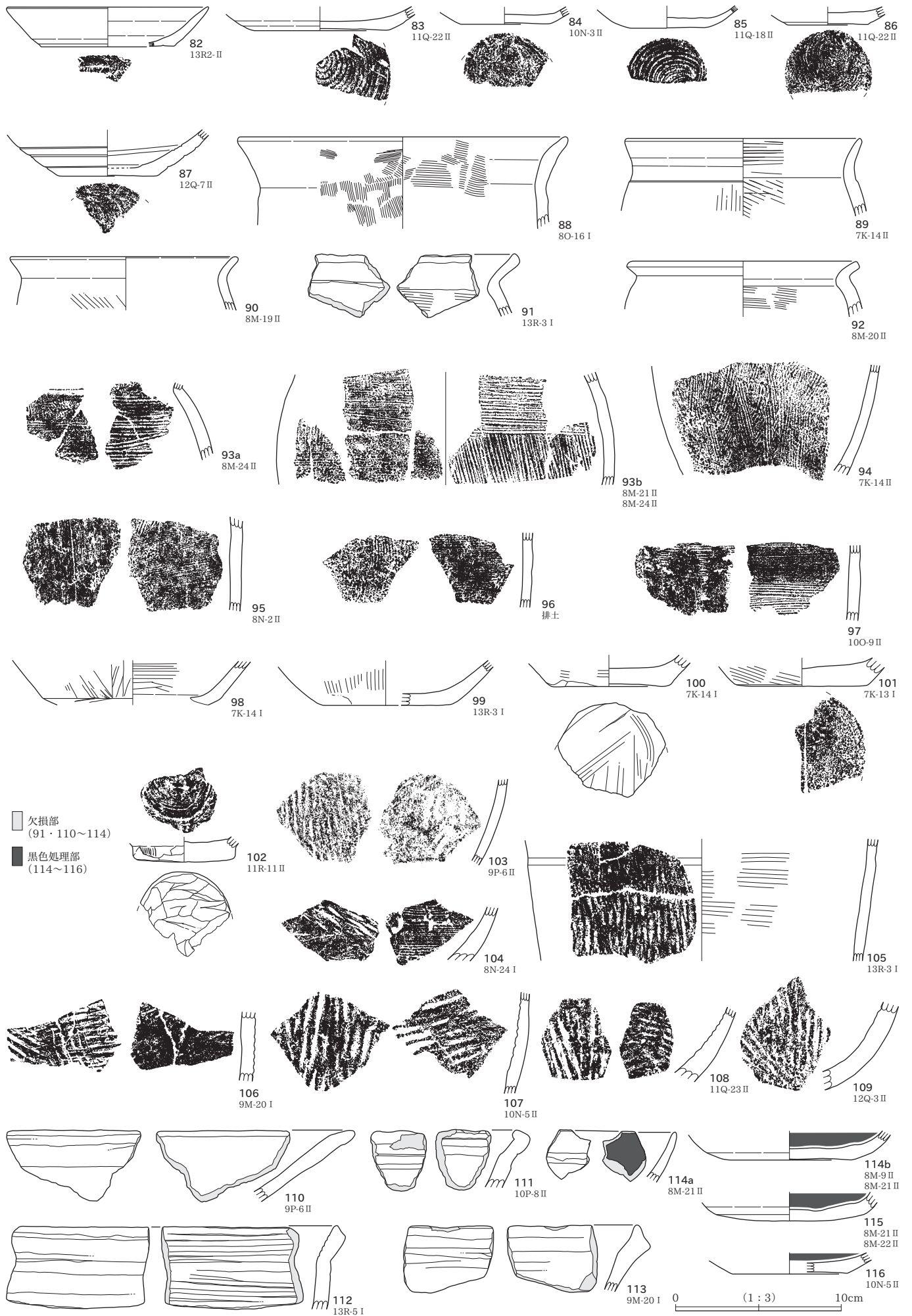


80
8M-25 II



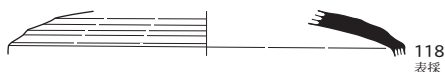
81
8M-25 II

■ 黒色処理部

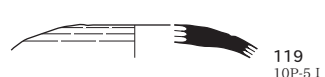




117
9N-12 I
9N-17 II



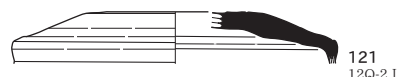
118
表採



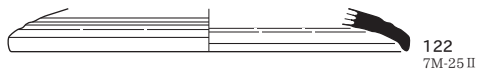
119
10P-5 I



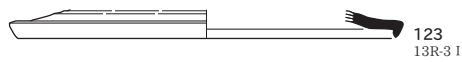
120
8M-25 II



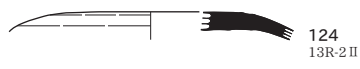
121
12Q-2 I



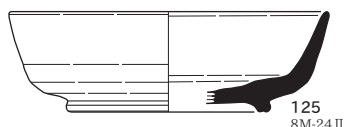
122
7M-25 II



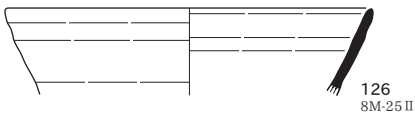
123
13R-3 I



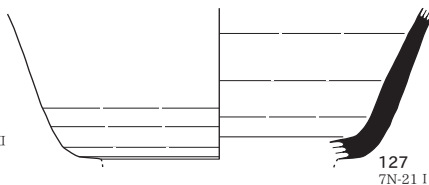
124
13R-2 II



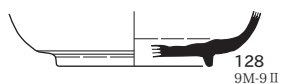
125
8M-24 II



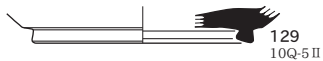
126
8M-25 II



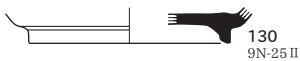
127
7N-21 I



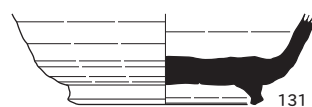
128
9M-9 II



129
10Q-5 II



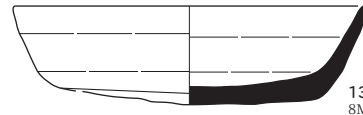
130
9N-25 II
10N-4 I



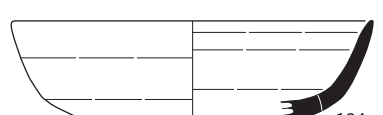
131
排土



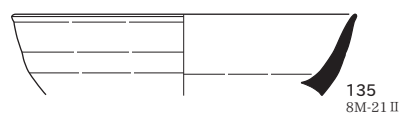
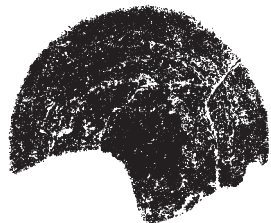
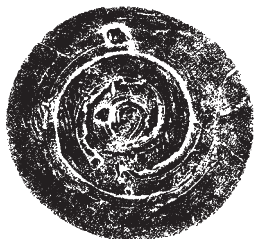
132
8M-25 II



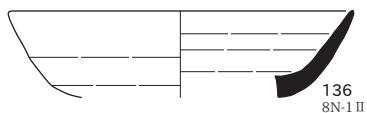
133
8M-22 II
8M-23 II
9M-7 II



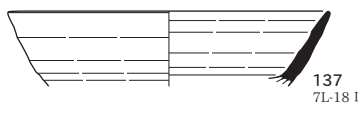
134
8M-21 II
8M-22 II



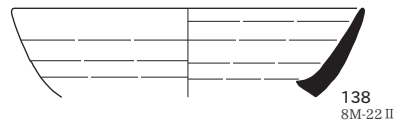
135
8M-21 II



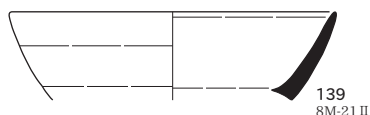
136
8N-1 II



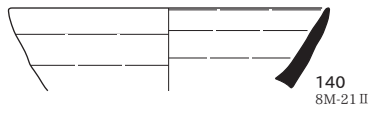
137
7L-18 I



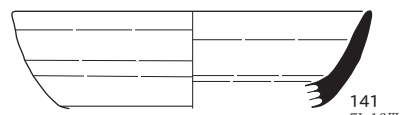
138
8M-22 II



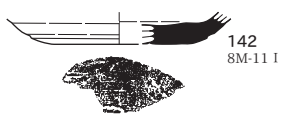
139
8M-21 II



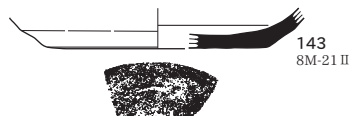
140
8M-21 II



141
7L-16 III



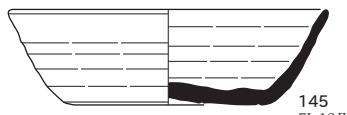
142
8M-11 I



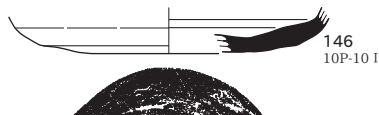
143
8M-21 II



144
12Q-7 I



145
7L-12 II
7L-13 I



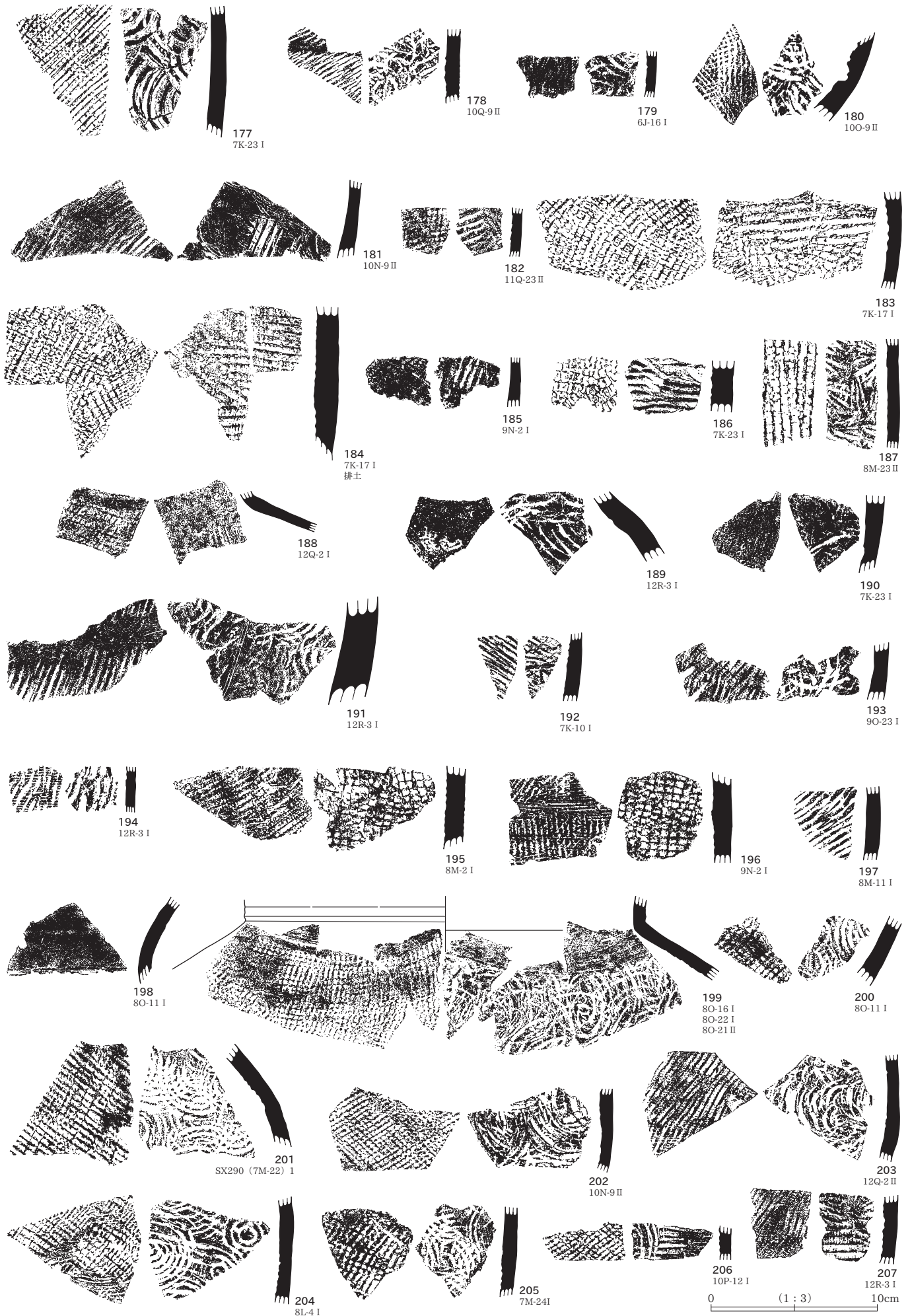
146
10P-10 I



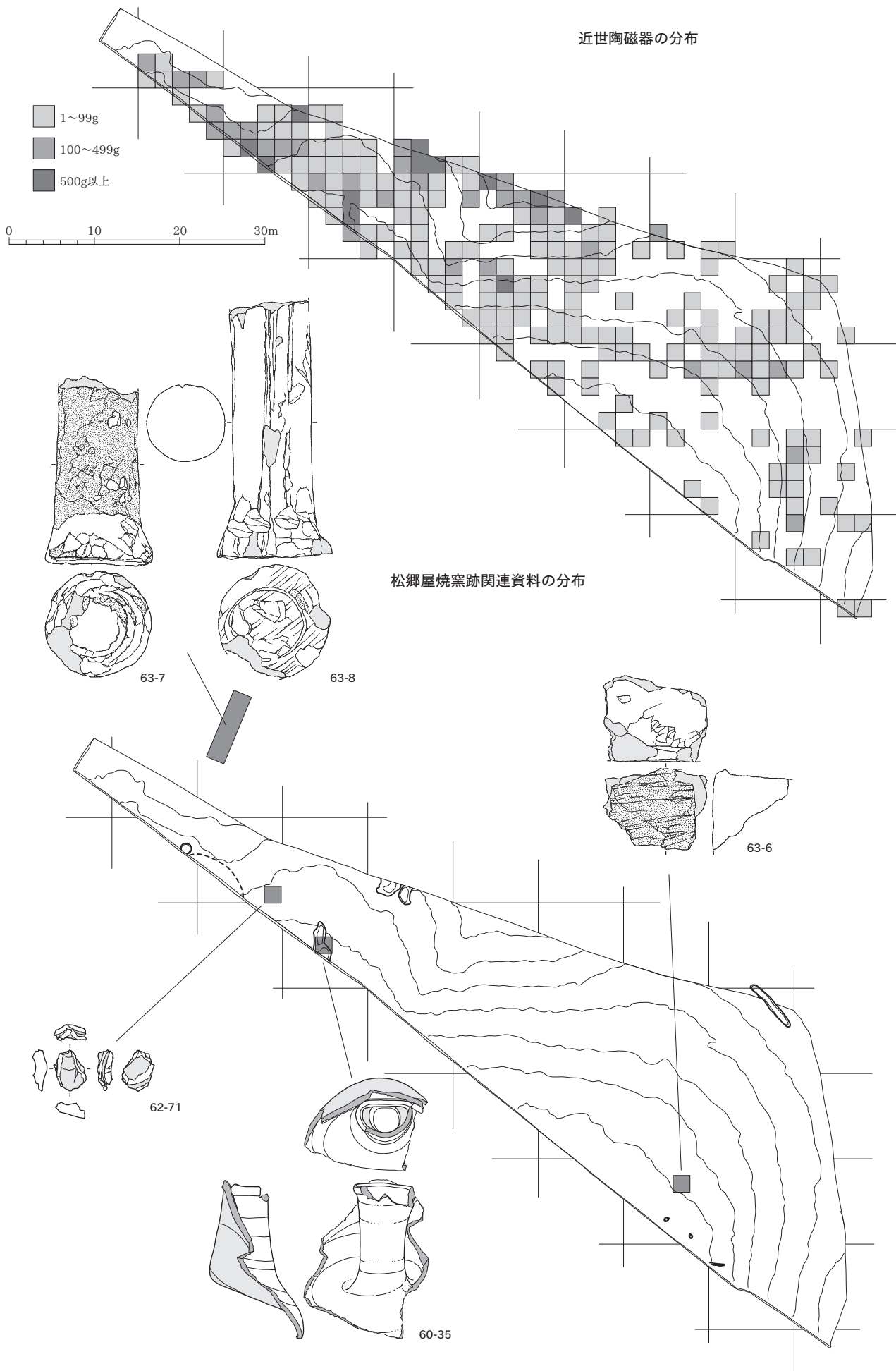
147
8M-5 I

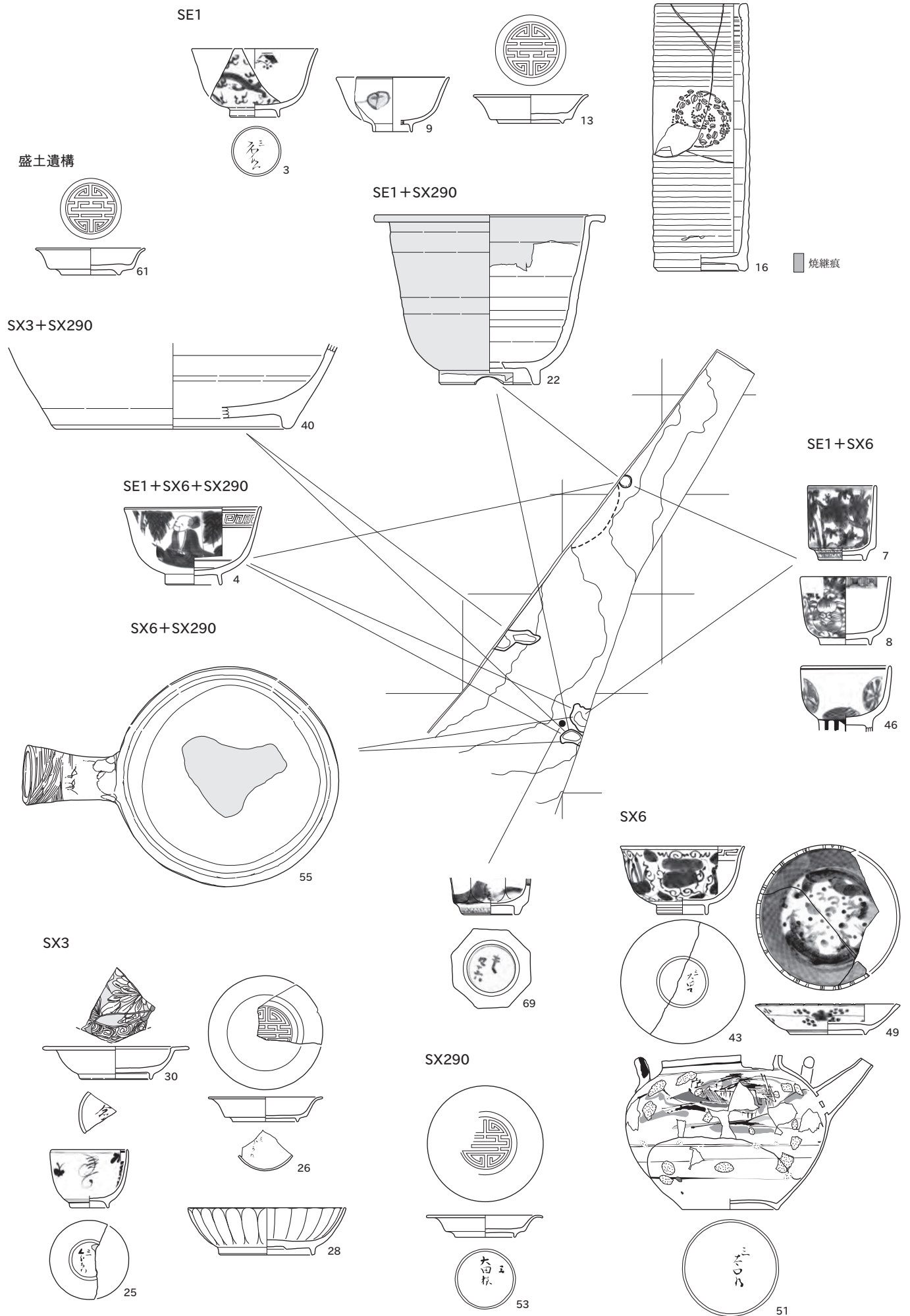


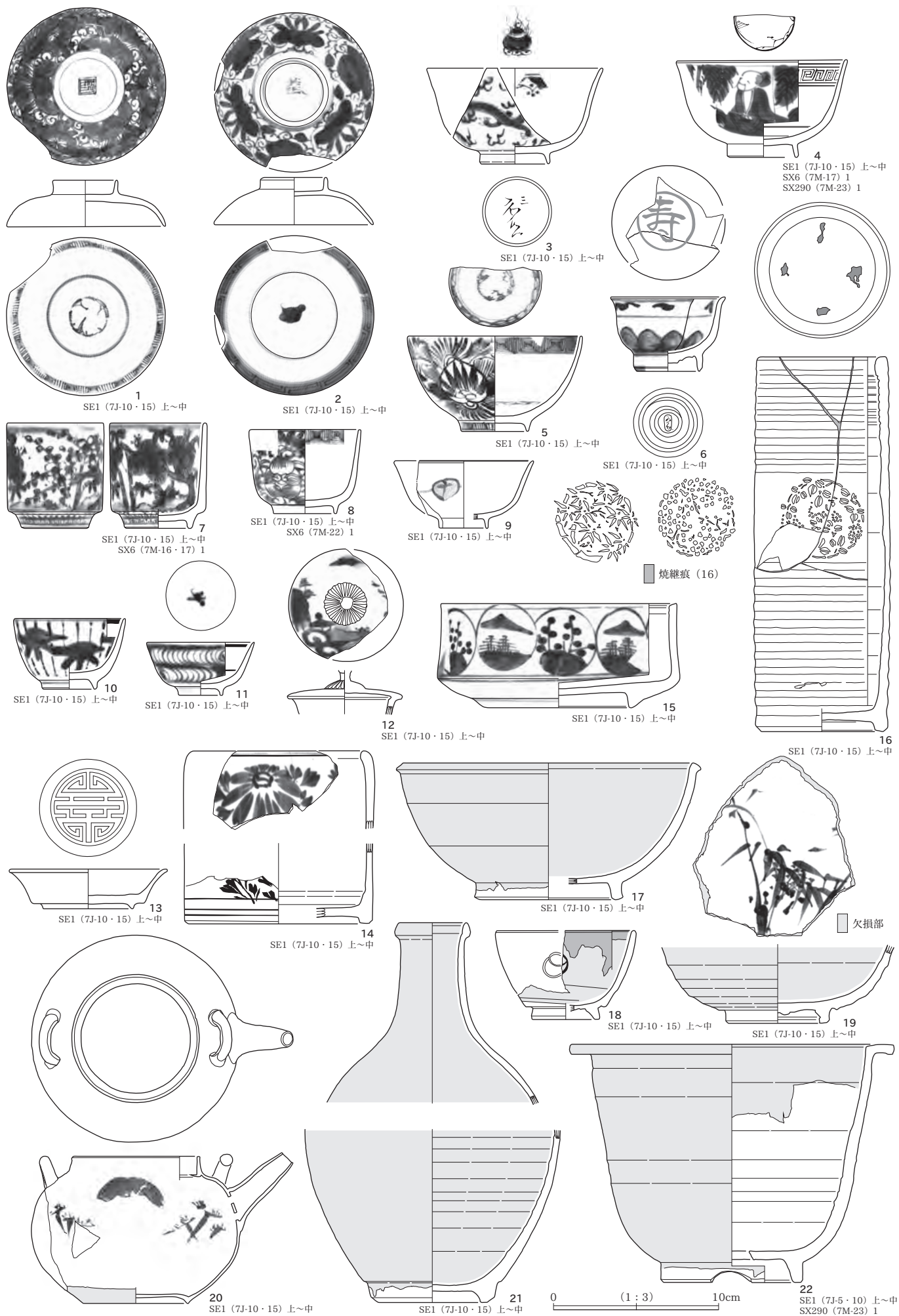


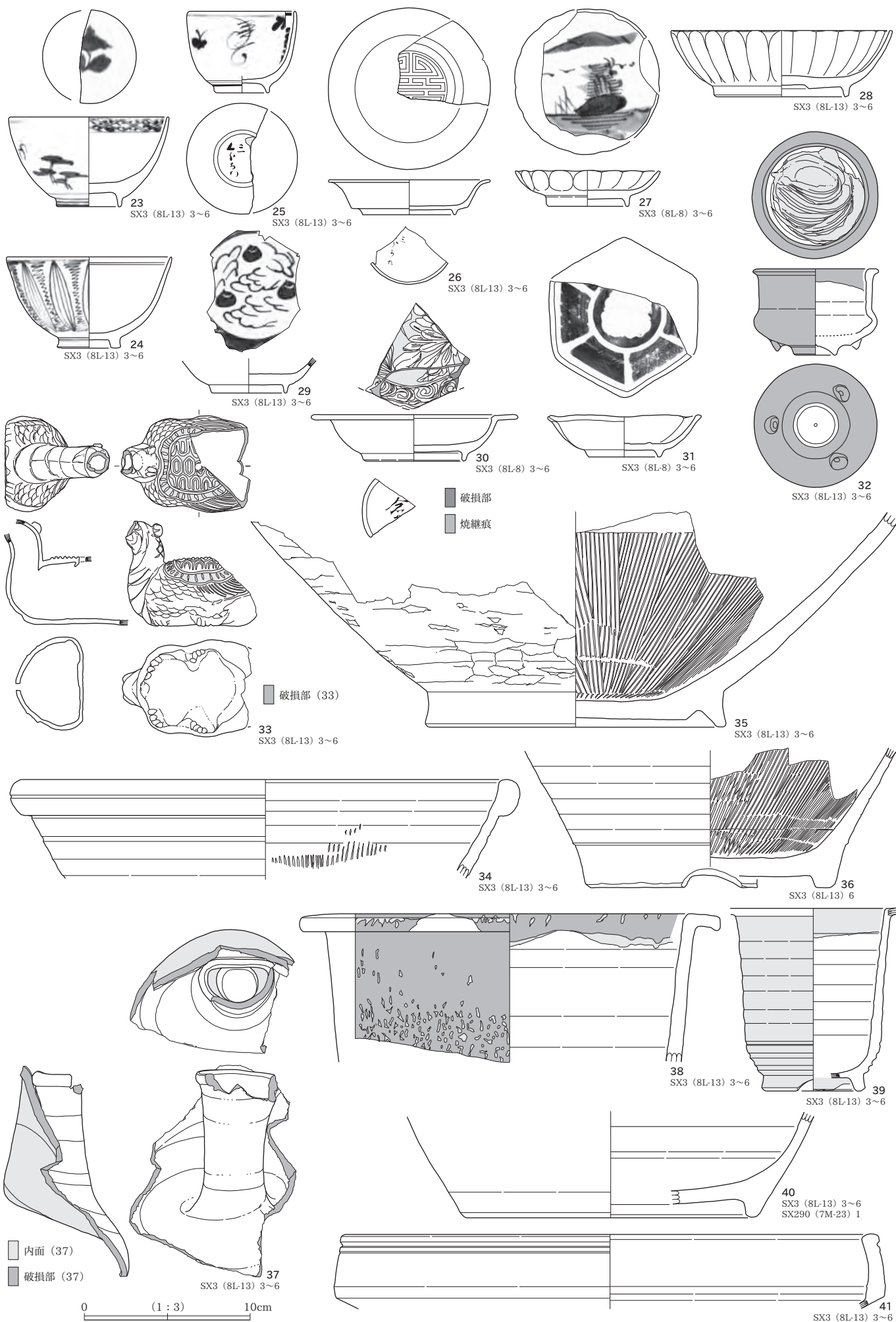


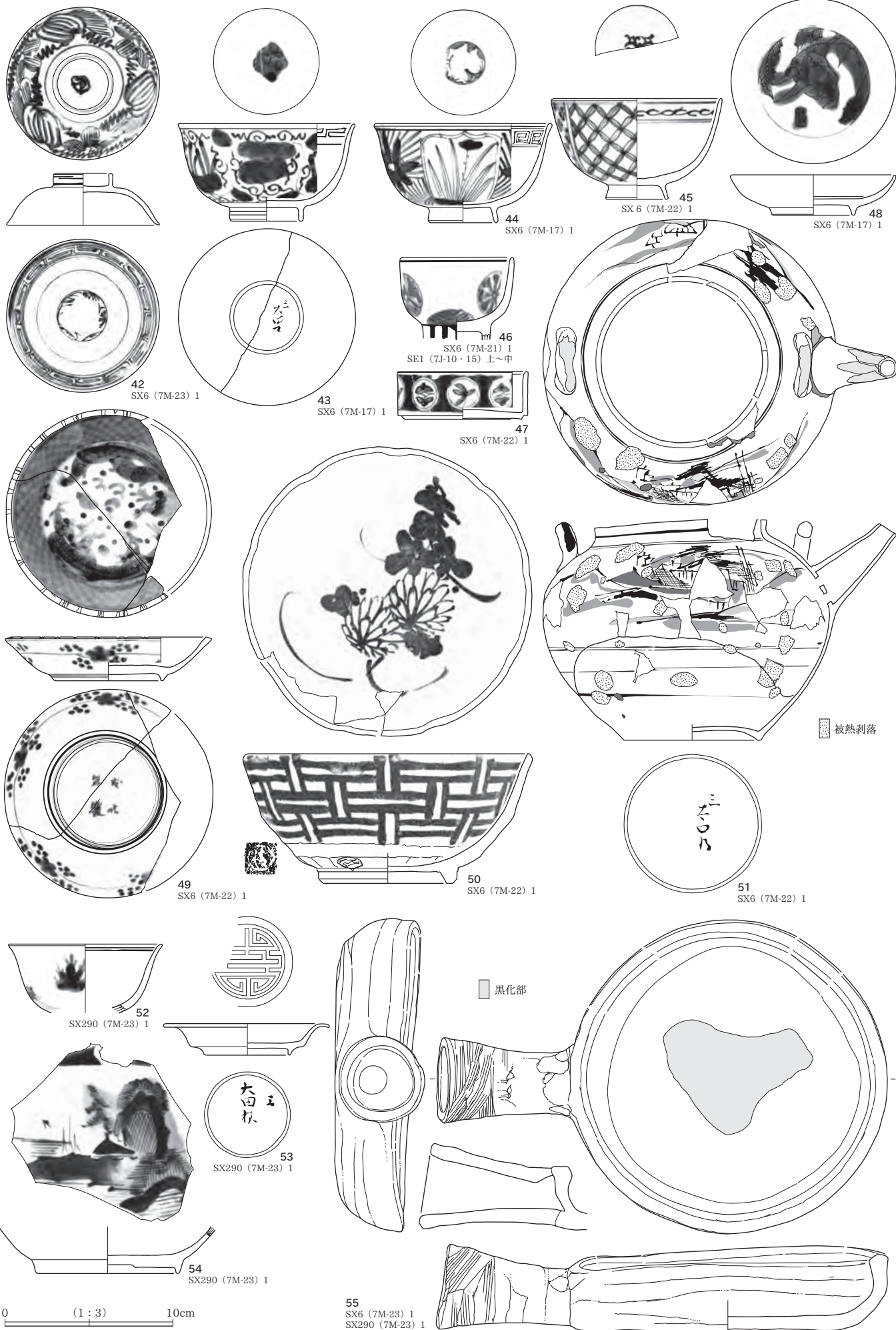


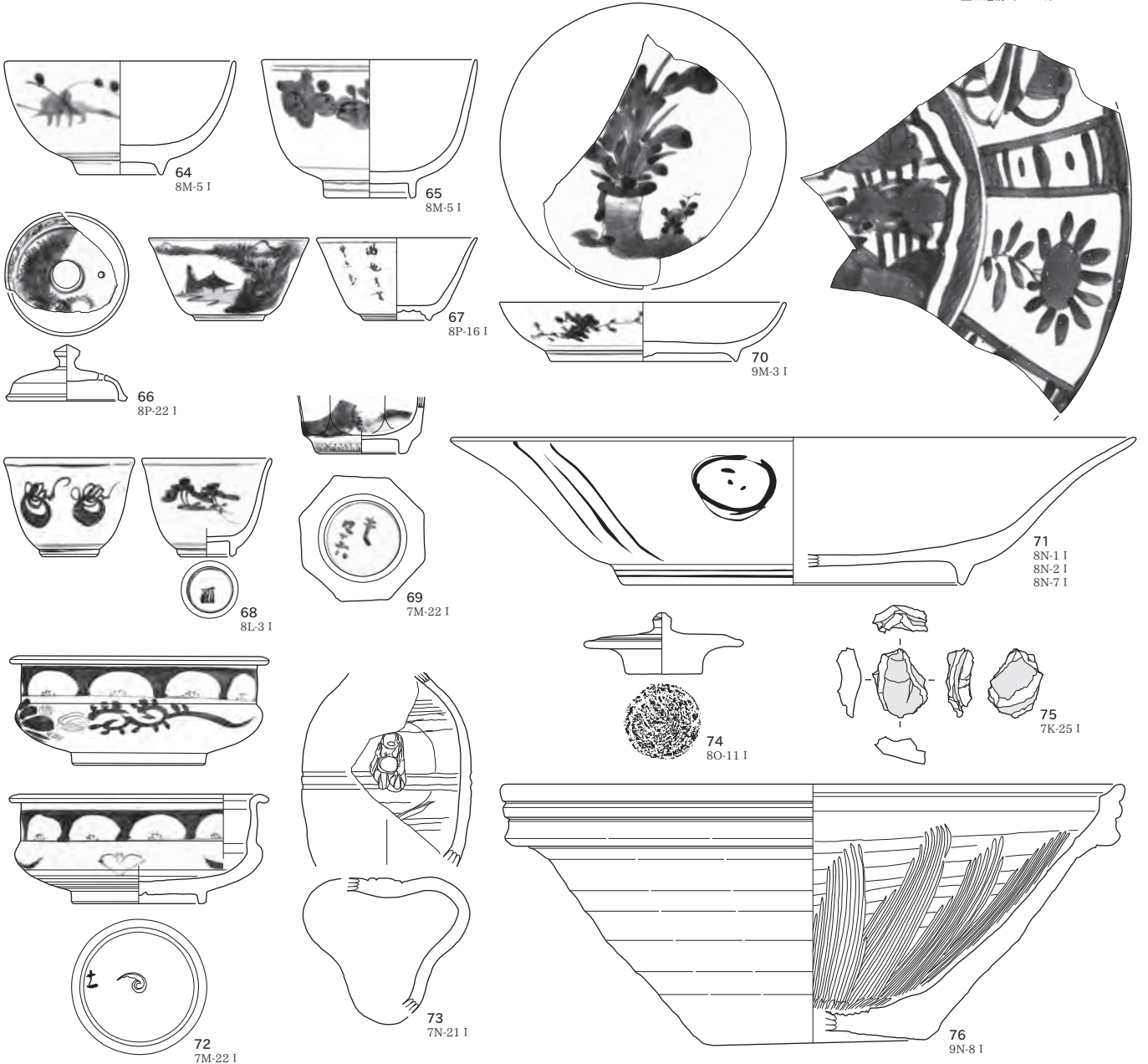
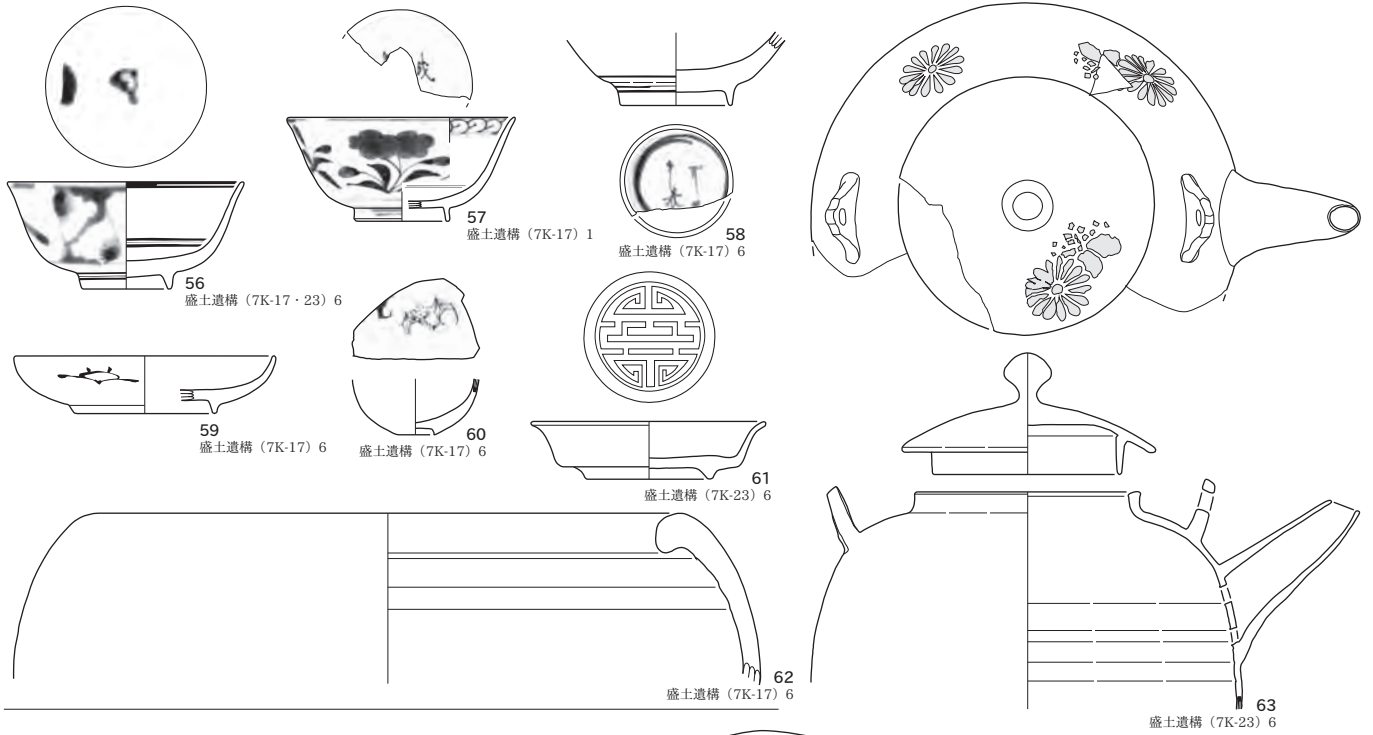


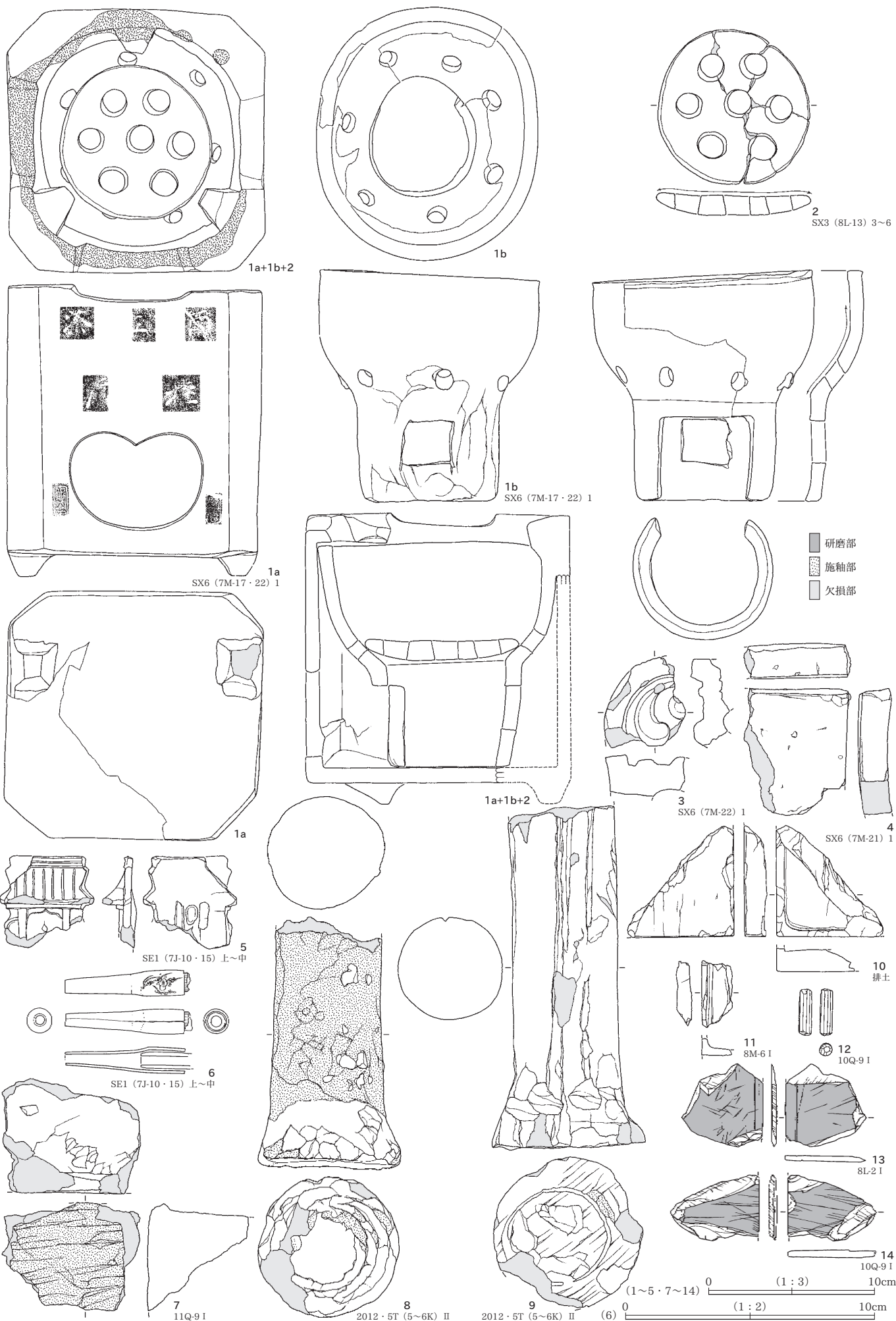


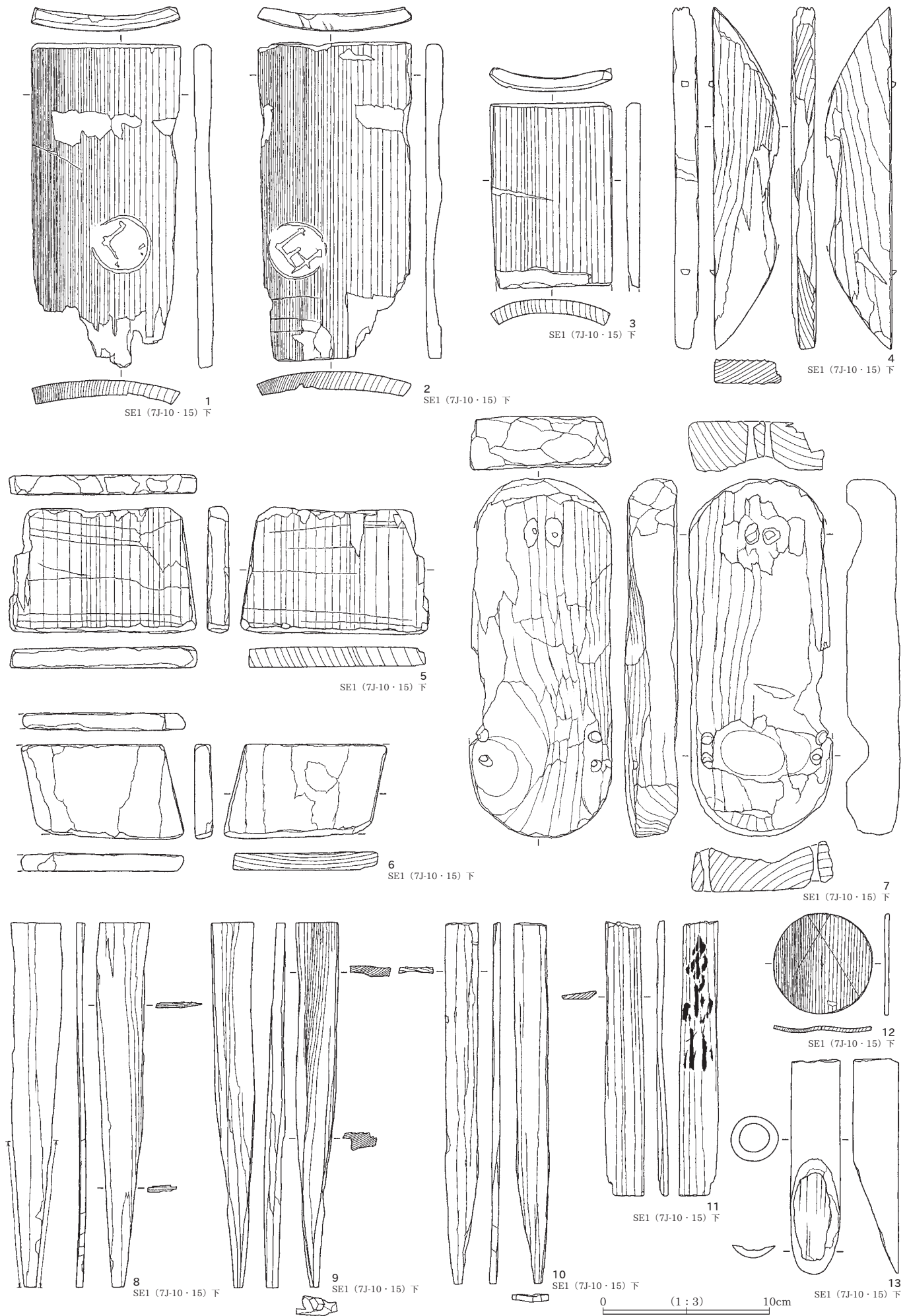














峰岡丘陵全景（南→北）



峰岡上町遺跡全景（北→南）



東上空から見た発掘調査地



北西上空から見た発掘調査地



真上から見た 1 区



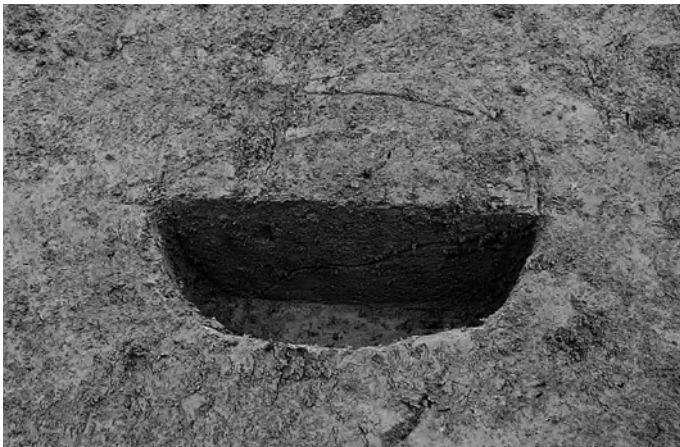
南東から見た 2 区



西から見た 2 区



縄文土器を伴う SK440 断面 (南→北)



縄文土器を伴う P573 断面 (北東→南西)



東部尾根東斜面Ⅱ層内確認遺構群 (南→北)



東部尾根東斜面Ⅱ層内確認遺構 SK262・SK286 断面 (東→西)



Ⅱ層内確認遺構 SX209 ほか断面 (南東→北西)



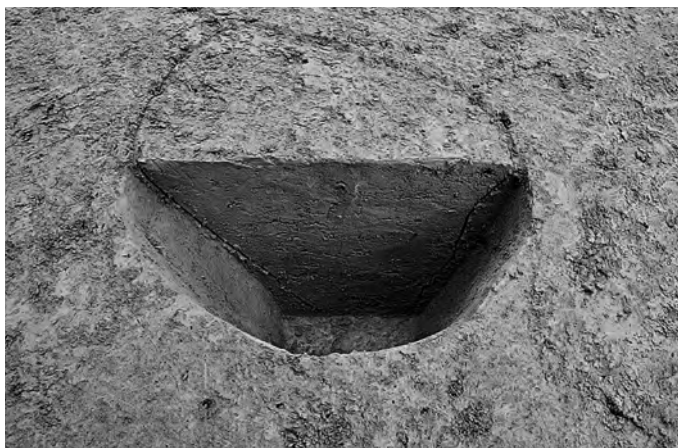
Ⅱ層内確認遺構 SX209 ほか完掘 (南→北)



真上から見た掘立柱建物



SB516 全景 (南東→北西)



P316 断面 (南→北)



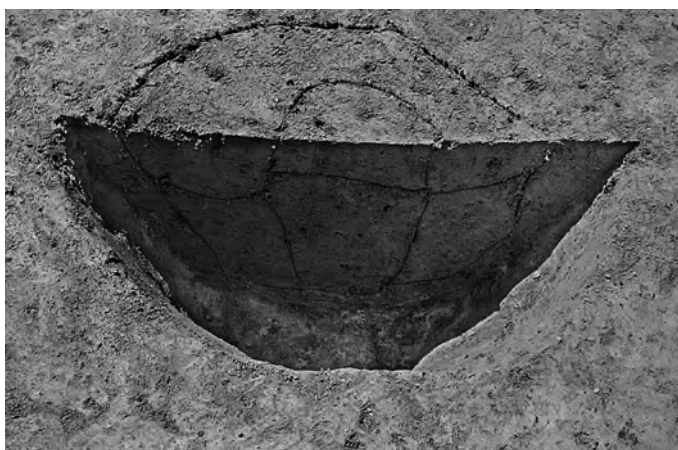
P309 断面 (東→西)



P613 断面 (北東→南西)



P478 断面 (南→北)



P484 断面 (東→西)



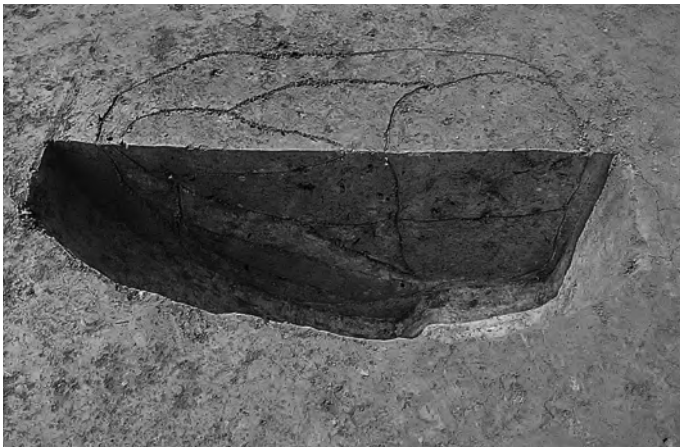
P480・P487 断面 (北→南)



P485 断面 (東→西)



SB621 全景 (北西→南東)



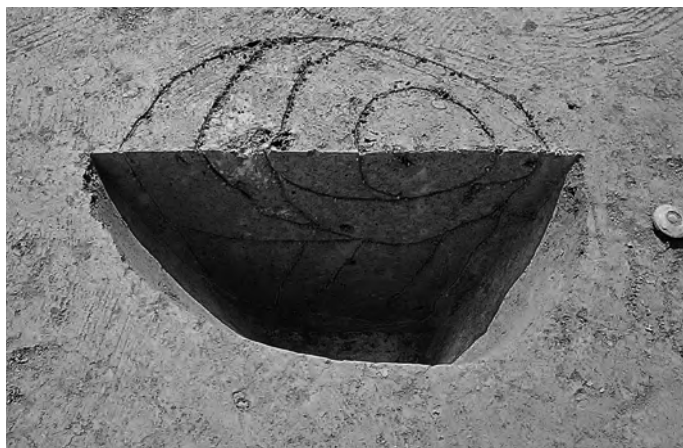
P463 断面 (北→南)



P461 断面 (東→西)



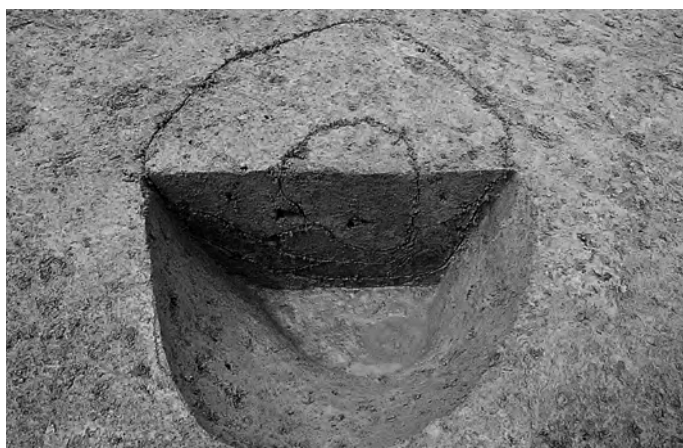
P448 断面 (北東→南西)



P462 断面 (北→南)



P460 断面 (北東→南西)



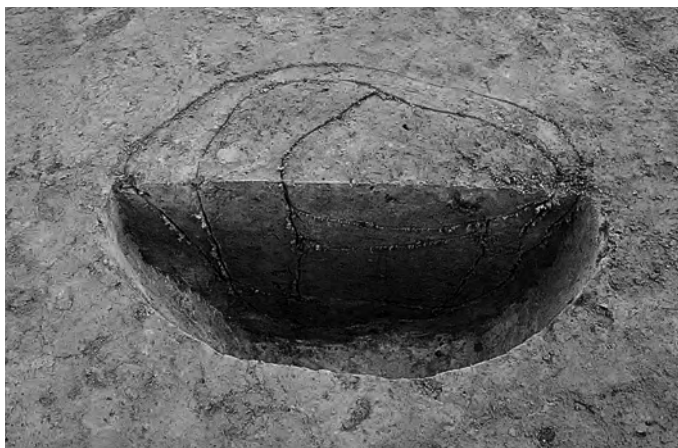
P384 断面 (東→西)



P409 断面 (東→西)



SB622 全景 (南東→北西)



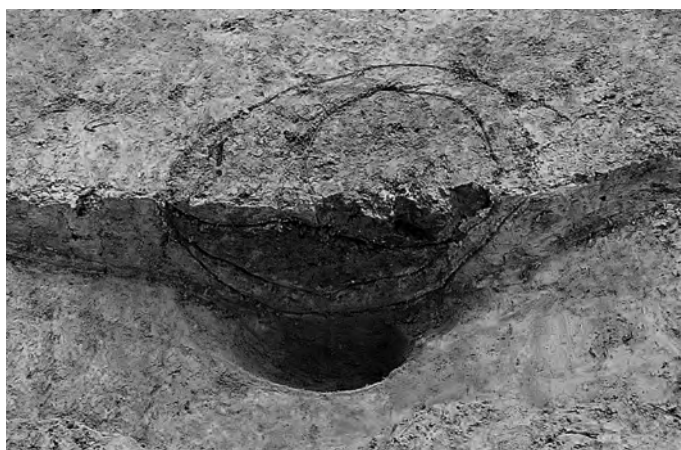
P421 断面 (南→北)



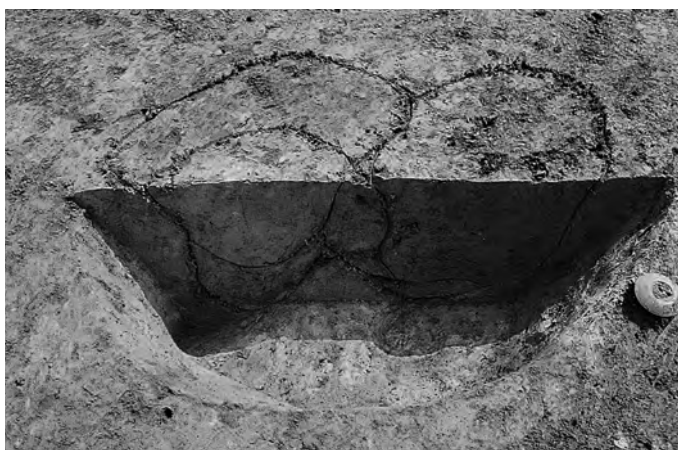
P432 断面 (南→北)



P626 · SX471 断面 (西→東)



P469 断面 (北西→南東)



P390 · P389 断面 (北→南)



P395 · P389 断面 (西→東)



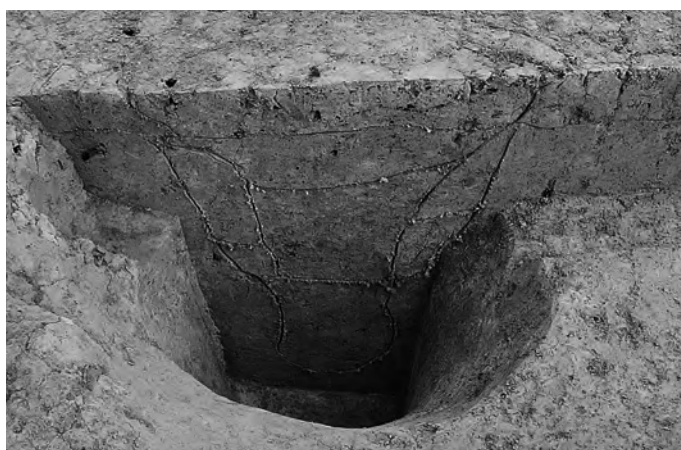
P374 断面 (東→西)



P380 断面 (北東→南西)



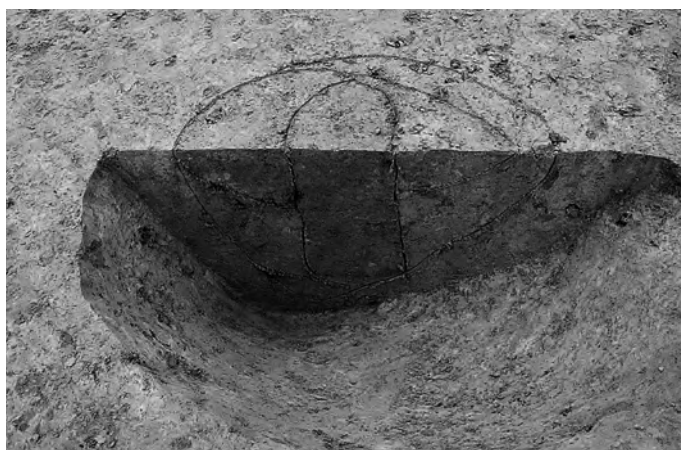
P386 断面 (北→南)



P403 断面 (西→東)



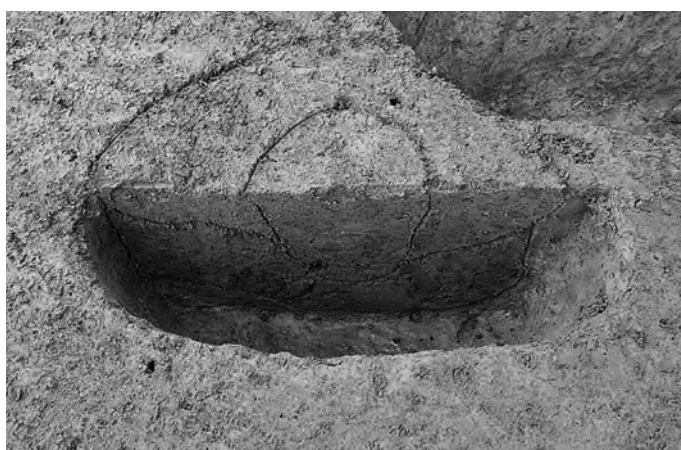
P423 断面 (南西→北東)



P424 (北→南)



P492 (北東→南西)



P502 断面 (北東→南西)



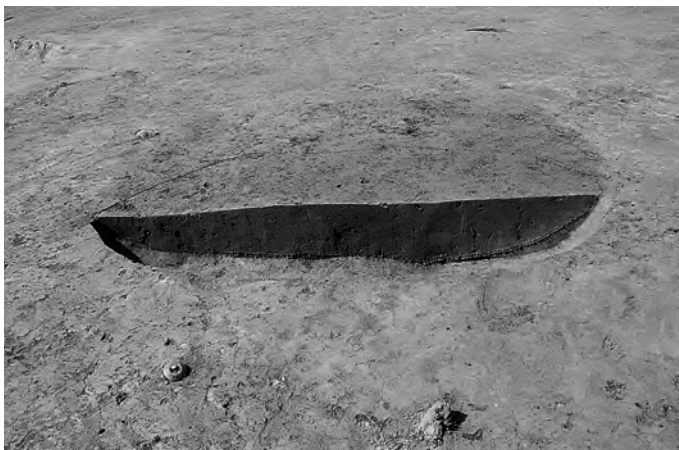
P506 断面 (南→北)



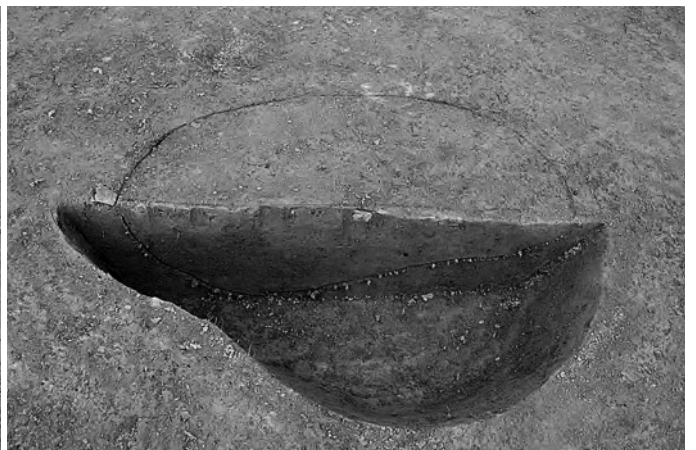
SK412・P420 断面 (北→南)



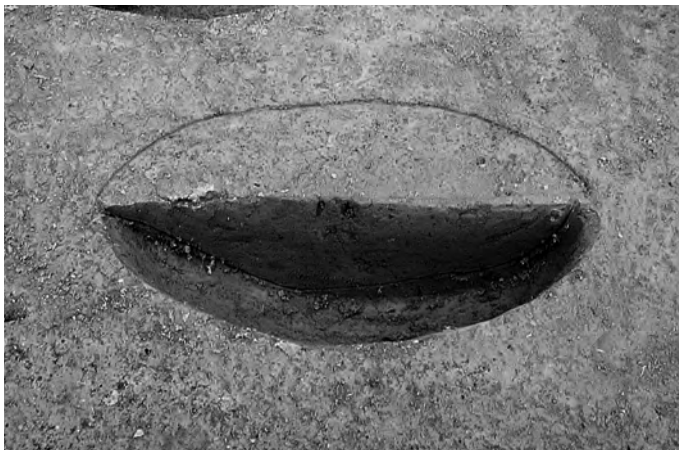
SK491 断面 (西→東)



SK536 断面 (南→北)



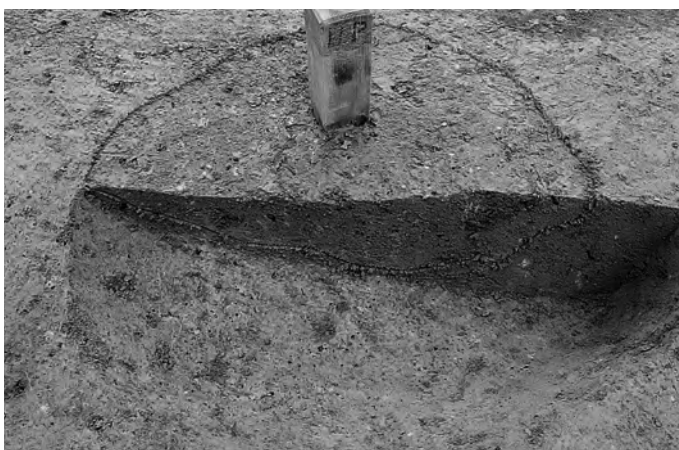
SK553 断面 (南→北)



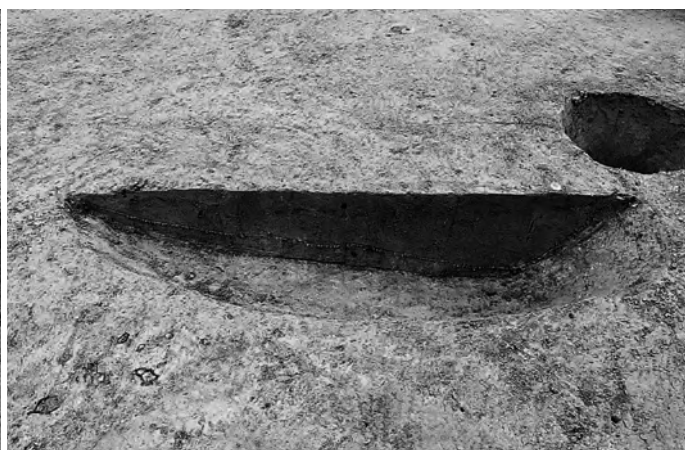
SK560 断面 (南→北)



SK579 断面 (北→南)



SK617 断面 (南西→北東)



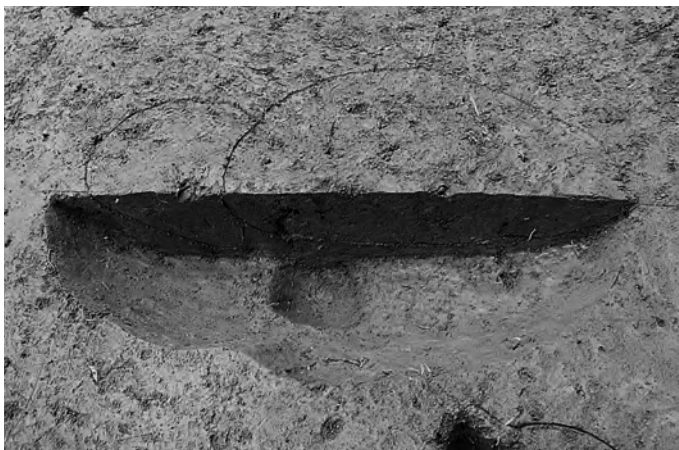
SK619 断面 (南東→北西)



SX291 断面 (東→西)



SX300 断面 (東→西)



SX326 · P329 断面 (北西→南東)



SX334 断面 (南→北)



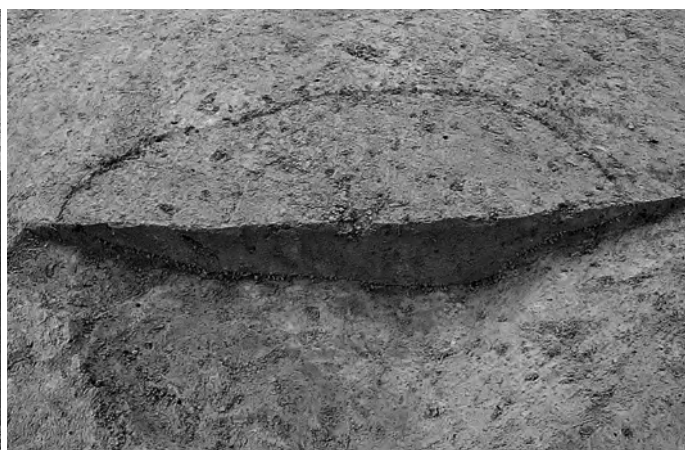
SX459 完掘 (南→北)



SX471 完掘 (東→西)



SX592 断面 (東→西)



SX615 断面 (北東→南西)



西部窪地Ⅱ層の土器集中(北西→北東)



西部緩斜面Ⅱ層の土師器出土状況(北西→南東)



西部窪地Ⅱ層の須恵器出土状況(南東→北西)



東部尾根 P263 の須恵器出土状況(東→西)



西部窪地Ⅱ層の土錘出土状況(北西→南東)





東部尾根の畝状遺構



西部窪地の畝状遺構



SB516 と畝状遺構



西部緩斜面の畝状遺構



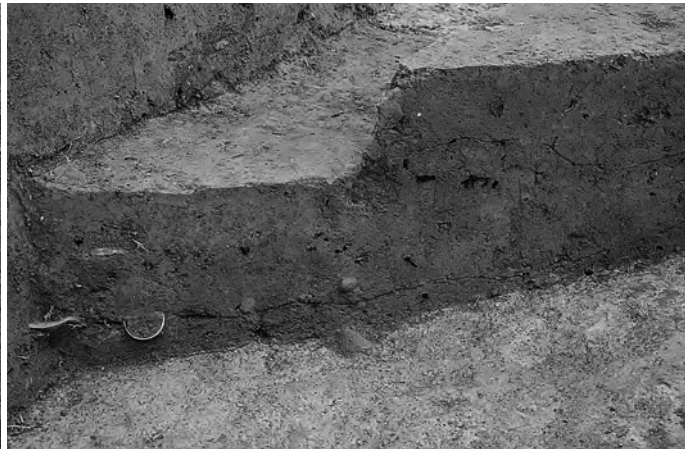
SE1 掘削状況 (南西→北東)



SX3 完掘 (北→南)



SX3 断面 (東→西)



SX3 の層序と遺物 (東→西)



SX6 断面 (北西→南東)



SX6 断面 (北東→南西)



SX290 断面 (南東→北西)



SD507 完掘 (北西→南東)



西部緩斜面（盛土遺構断面）



東部尾根東側斜面



北壁の層序



北壁上部層



東壁の層序



東壁の中部～下部層と壁面出土遺物



FP2 断面 (南西→北東)



FP2 東部断面 (南西→北東)



FP2 焼土分布状況



FP2 東部の焼土ブロック・炭分布状況 (南西→北東)



FP9 確認状況 (北→南)



FP9 硬化面分布状況 (北→南)



FP9 壁面被熱状況 (北→南)



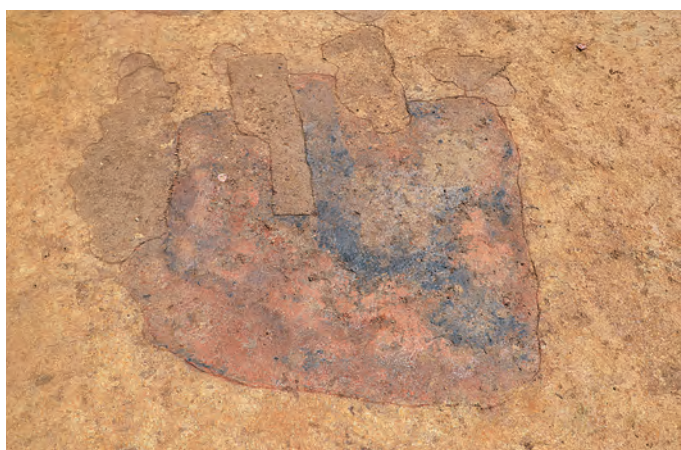
FP9 硬化面断面 (北→南)



FP333 確認状況 (南→北)



FP333 断面 (西→東)



FP365 確認状況 (北西→南東)



FP365 断面 (北西→南東)



FP365 断面 (北東→南西)



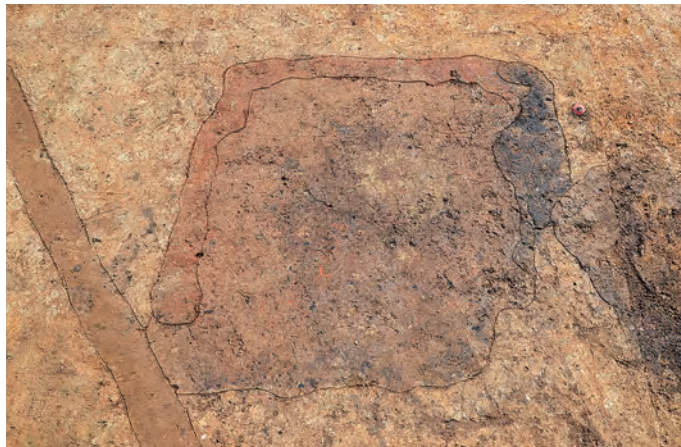
FP365・P469 断面 (北西→南東)



FP365 硬化面上の炭密集状況 (北東→南西)



FP365 壁面被熱状況 (北東→南西)



FP376 確認状況 (北東→南西)



FP376 断面 (北西→南東)



FP376 断面 (北東→南西)



FP376 壁面の被熱と炭の密集状況 (北東→南西)



FP261 断面 (北→南)



FP261 第3層の遺物出土状況 (北→南)



FP261 焼土分布状況 (北→南)



FP261 断面 (東→西)



SX7 断面 (北西→南東)



SK259 断面 (東→西)



SX278 確認状況



SX414 確認状況



SX377 確認状況 (南→北)



SX379・P422 断面 (北西→南東)



P410・P411 断面 (北西→南東)



P434 断面 (西→東)



西部窪地西斜面の畝状遺構（南東→北西）



西部緩斜面の畝状遺構（北→南）



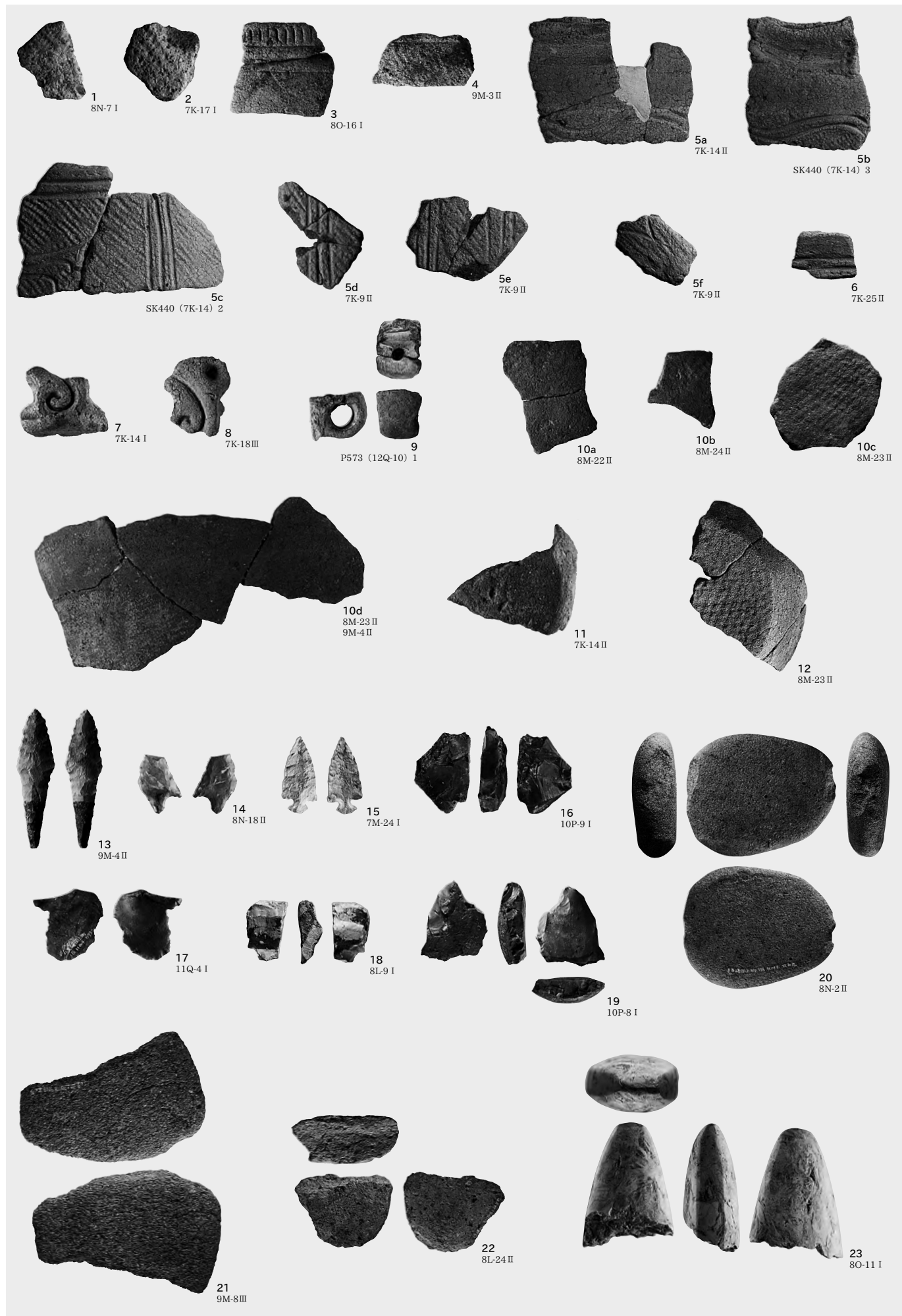
東部尾根東斜面の畝状遺構と現代の畠断面

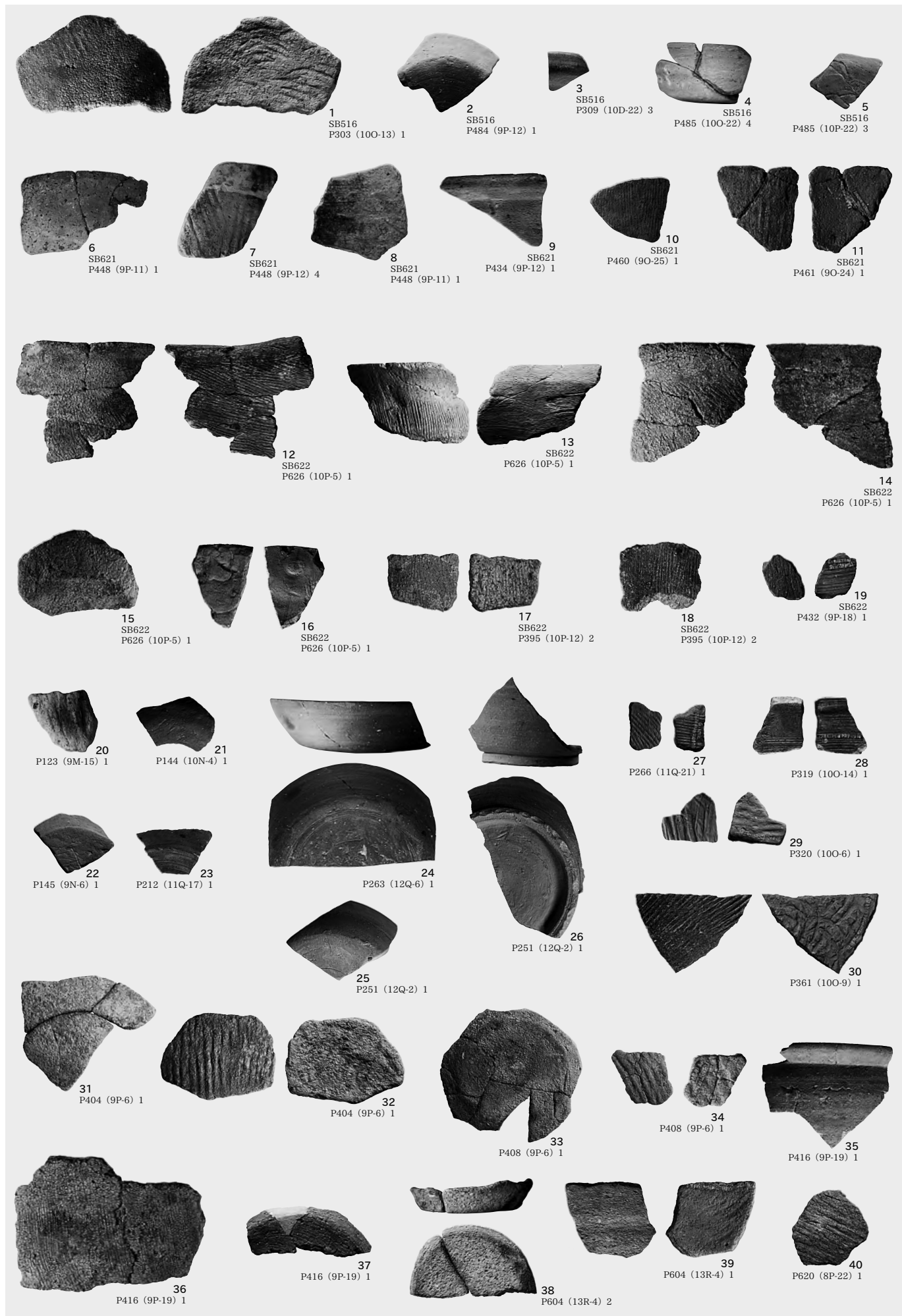


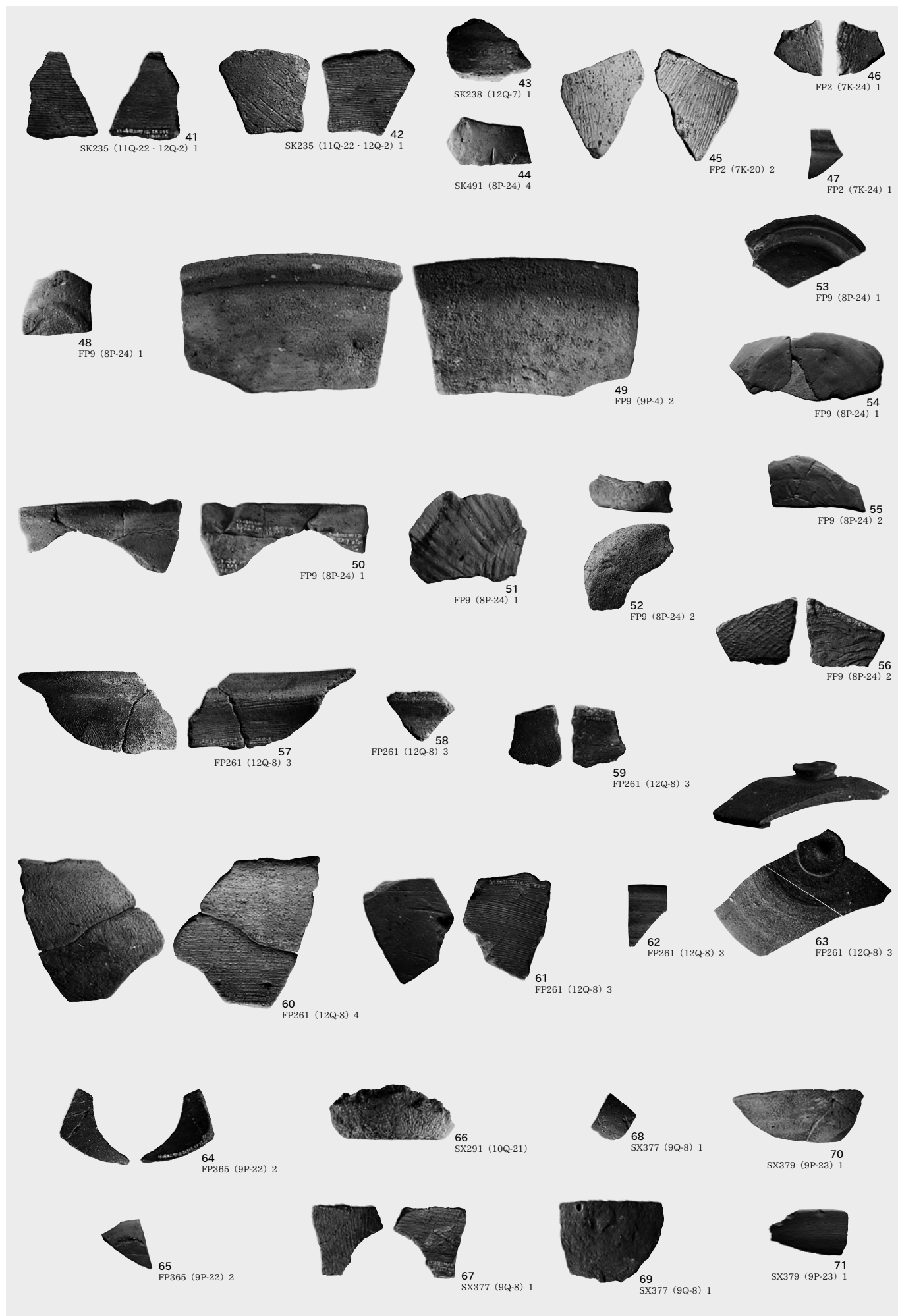
東部尾根東斜面の畝状遺構断面

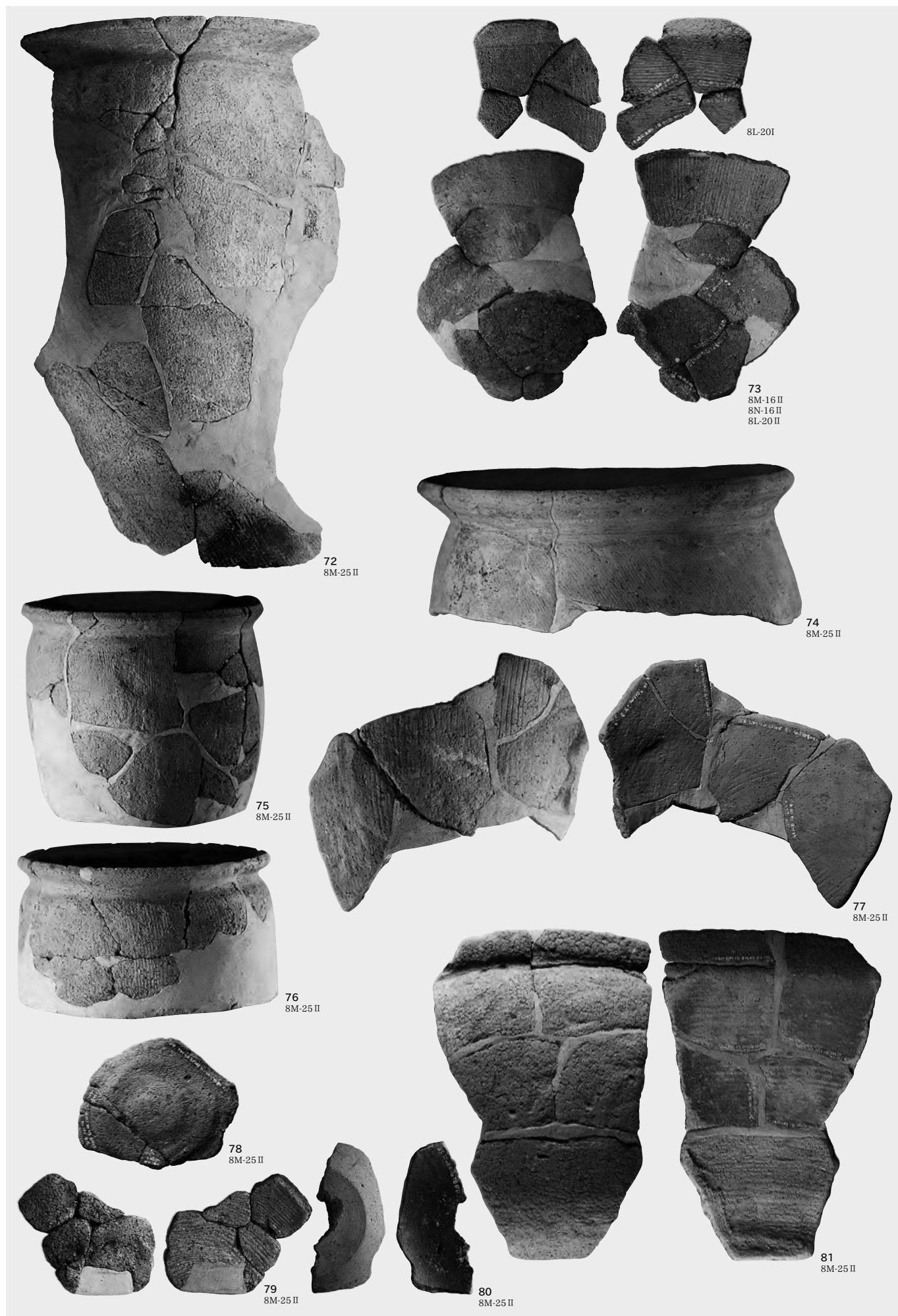


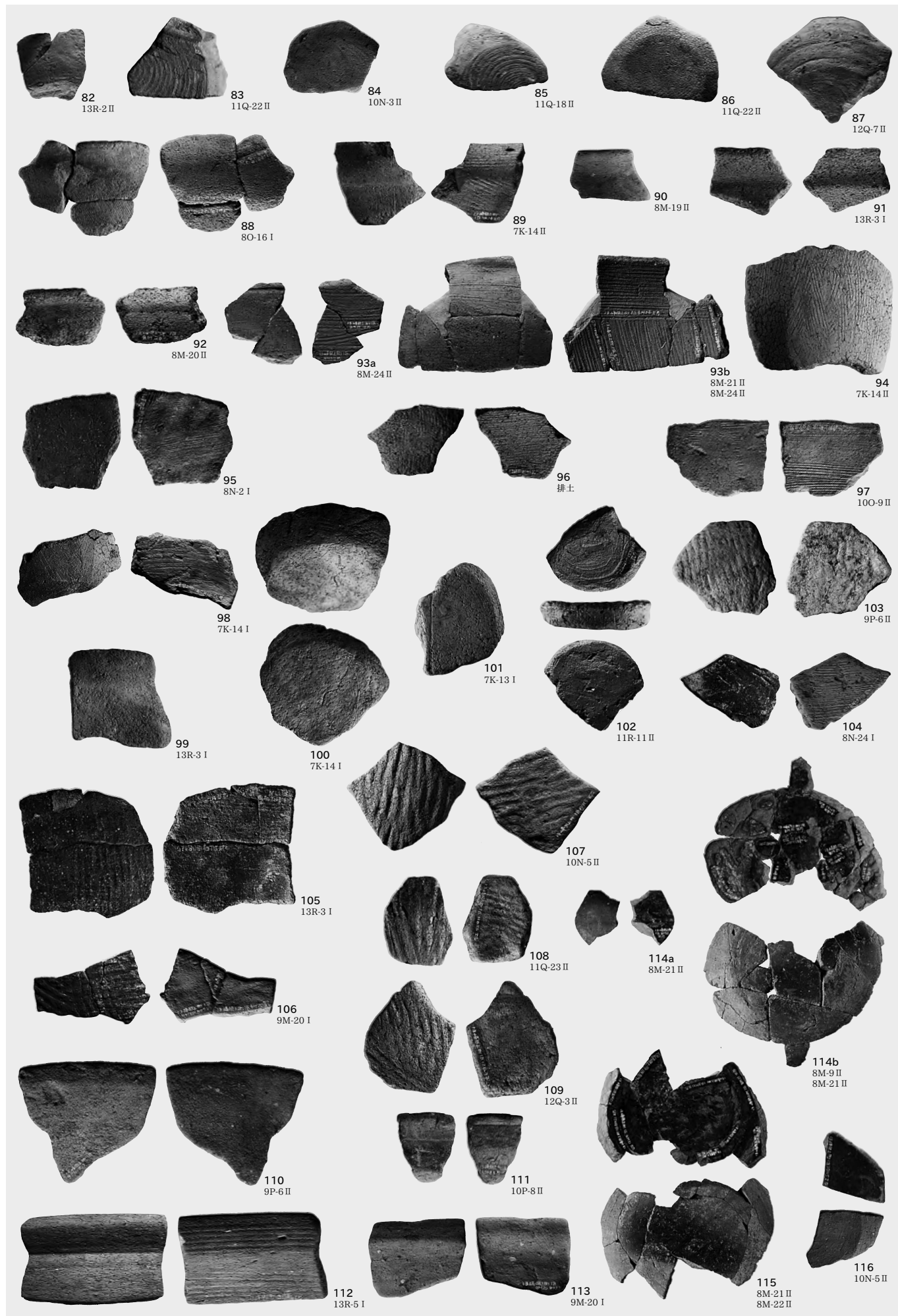
東部尾根平坦面の畝状遺構断面

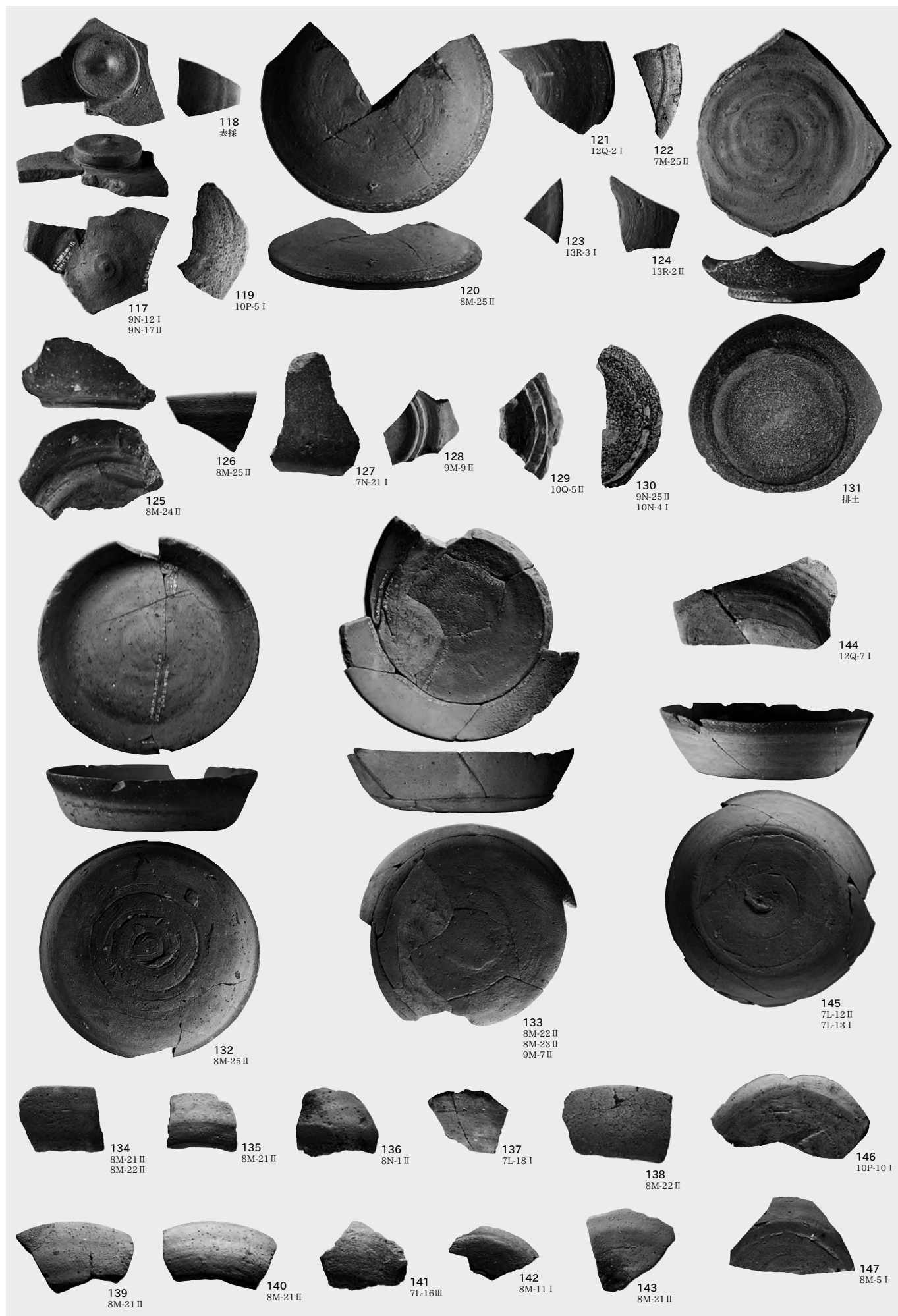


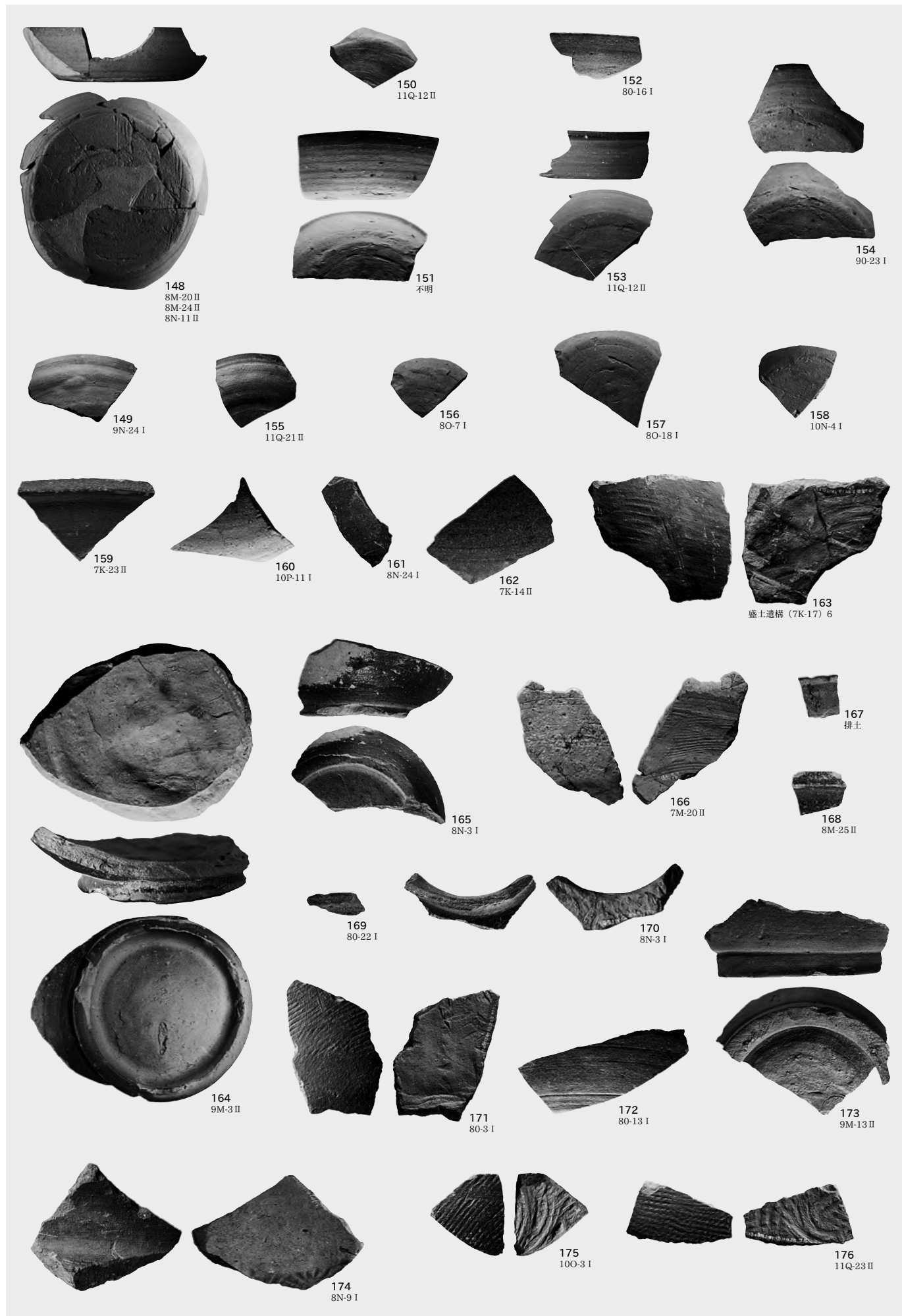


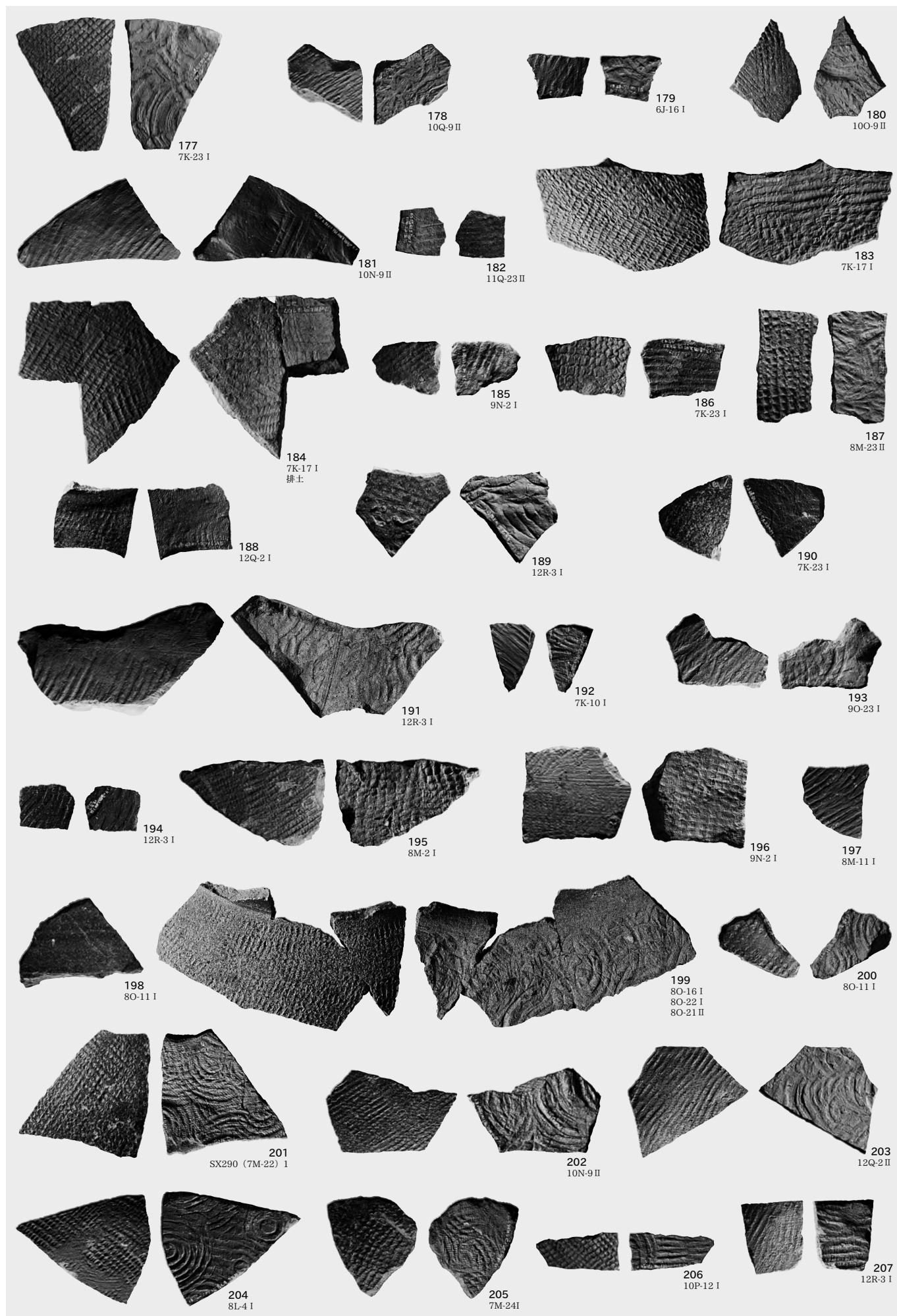


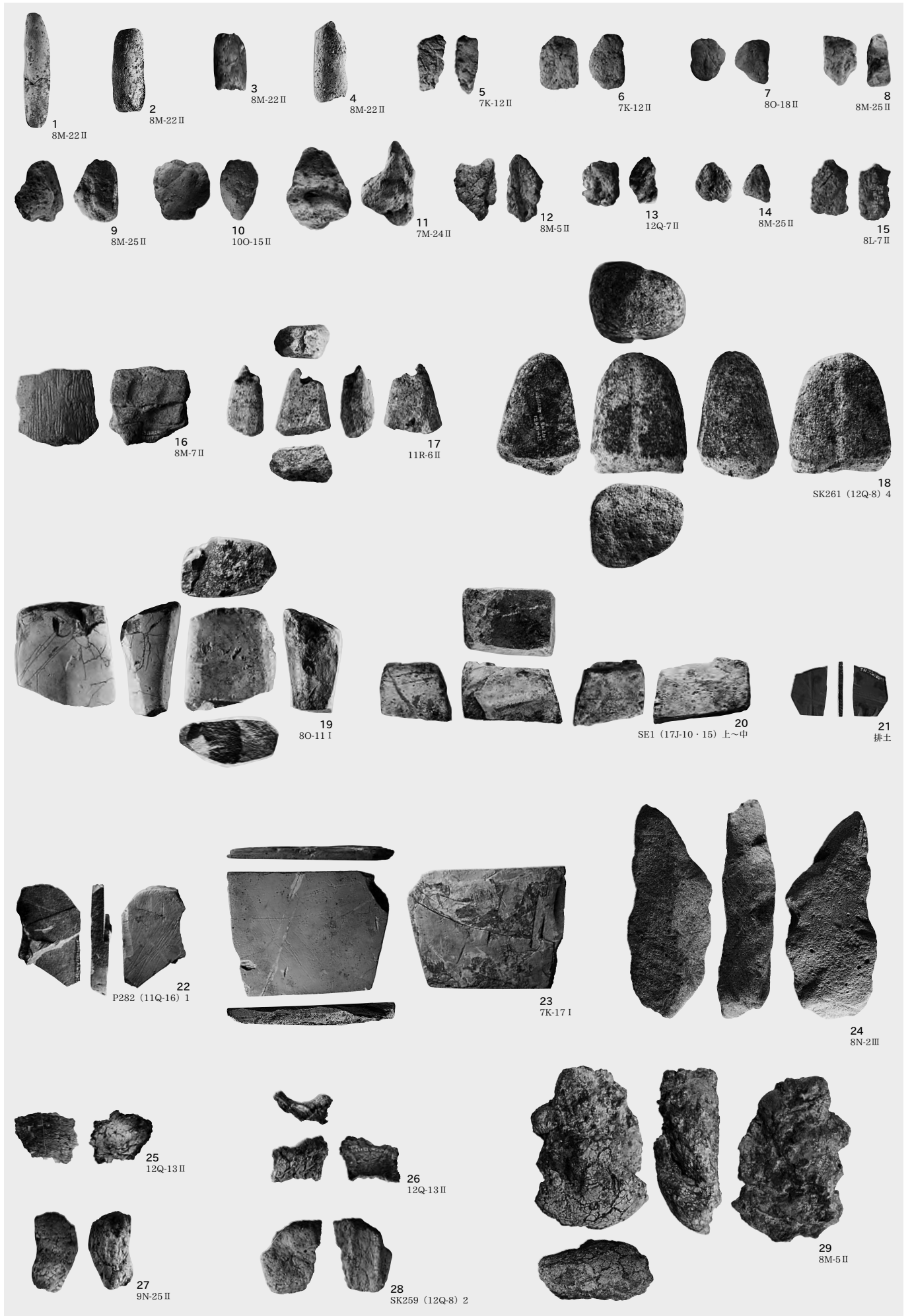


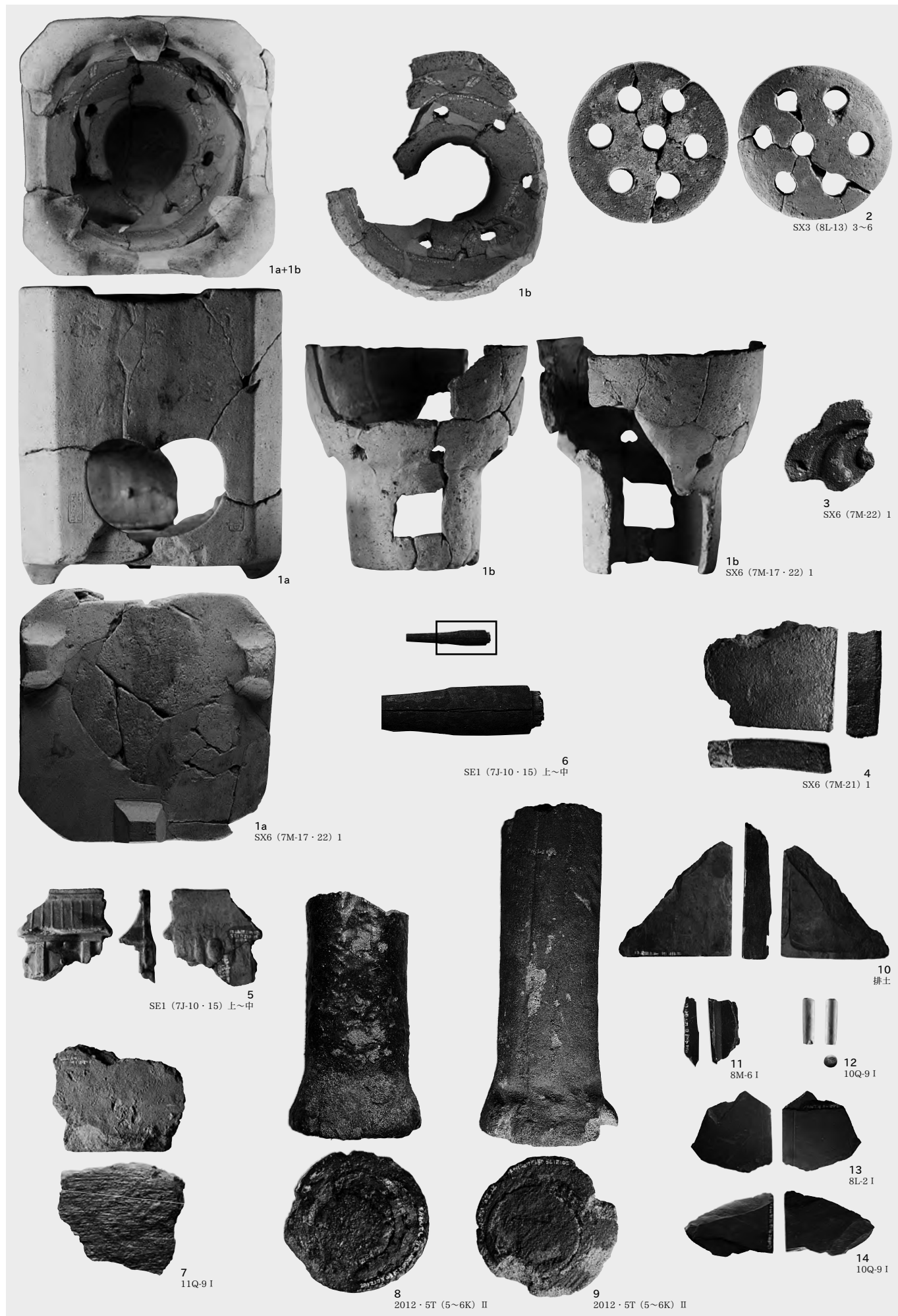


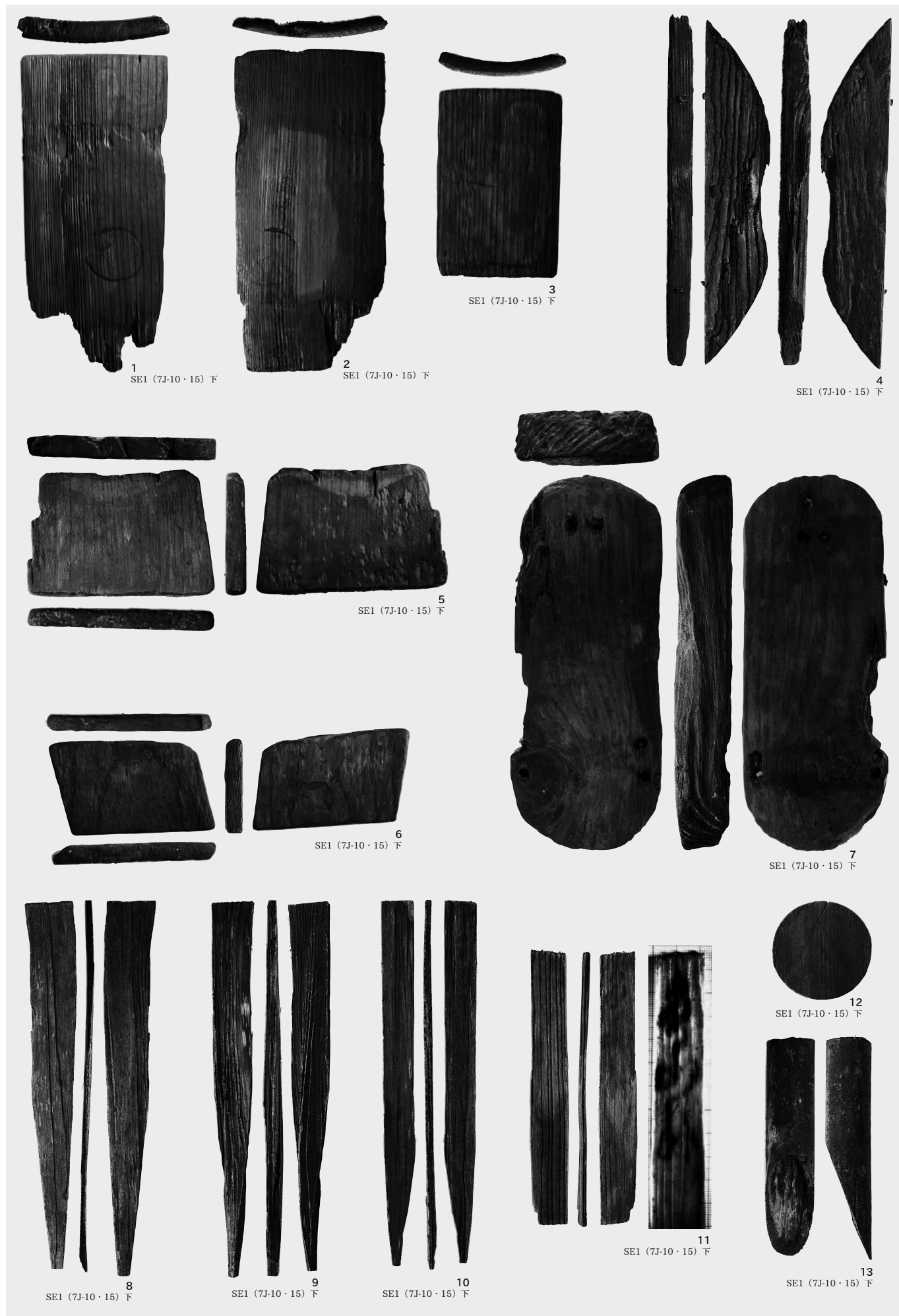


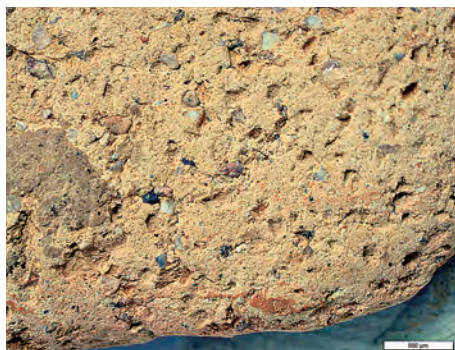












土師器 I a類 (図版 51-72)



土師器 I b類 (図版 52-101)



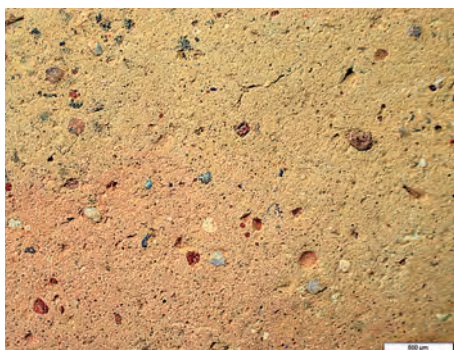
土師器 II a類 (図版 49-48)



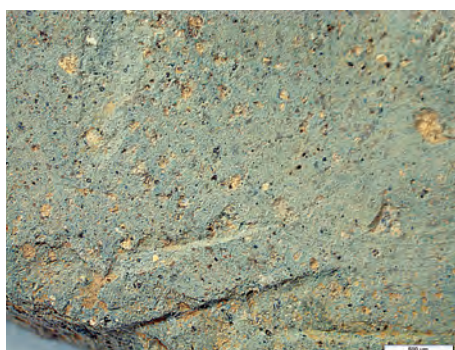
土師器 II b類 (図版 52-88)



須恵器 I a類 (図版 53-132)



須恵器 I a類 (図版 53-140)



須恵器 I b類 (図版 46-16)



須恵器 I b類 (図版 49-56)



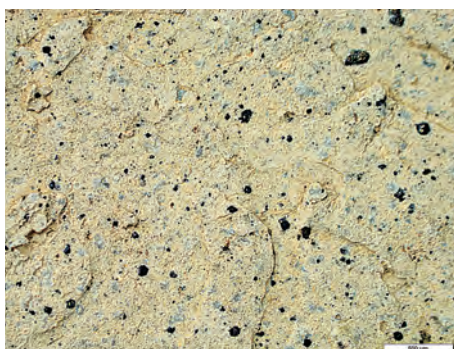
須恵器 II類 (図版 54-164)



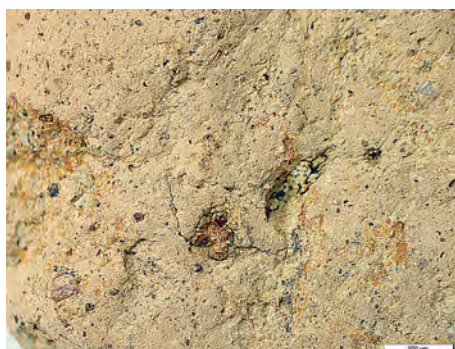
須恵器 III類 (図版 55-195)



須恵器 IV類 (図版 55-193)



須恵器 V類 (図版 55-203)



焼成粘土塊 (図版 56-8)



管状土錘 (図版 56-2)



羽口 (図版 56-28)











55
SX6 (7M-23) 1
SX290 (7M-23) 1



56
盛土遺構 (7K-17・23) 6



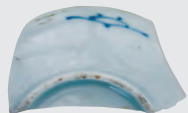
57
盛土遺構 (7K-17) 1



58
盛土遺構 (7K-17) 6



60
盛土遺構 (7K-17) 6



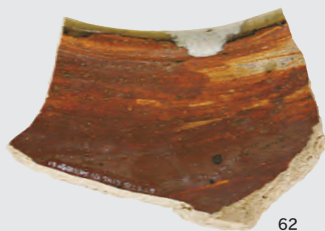
59
盛土遺構 (7K-17) 6



61
盛土遺構 (7K-17) 6



63
盛土遺構 (7K-23) 6



62
盛土遺構 (7K-17) 6



報告書抄録

ふりがな	みねおかかんまちいせき だいさんじちようさ							
書名	峰岡上町遺跡 第3次調査							
副書名	国道460号線改良工事に伴う峰岡上町遺跡第3次発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	前山精明(新潟市文化財センター) 斎藤崇人・高橋 敦・馬場健司・堀内誠示・松元美由紀(パリオ・サーヴェイ株式会社)							
編集機関	新潟市文化スポーツ部 文化財センター							
所在地	〒950-1122 新潟県新潟市西区木場2748番地1 TEL 025-378-0480							
発行年月	2015年12月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
みねおかかんまちいせき 峰岡上町遺跡	にいがたしにしかんく 新潟市西蒲区 みねおかあざかんまち 峰岡字上町 450-1番地ほか	15105	731	37° 45' 29"	138° 50' 42"	20130422～ 20130926	2,175㎡	国道460号線改良 工事に伴う
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
峰岡上町遺跡	集落	近世		井戸・遺物廃棄 坑・盛土遺構		近世陶磁器・窯壁・涼炉・煙 管・桶・無歯下駄・桶・付札		三根山藩上級武士層 の遺物廃棄空間
	集落	古代(8世紀後半～ 9世紀前半)		掘立柱建物・焼 土坑・畠跡		土師器・須恵器・管状土錘・ 有溝石錘未成品・権状錘未成 品・鉄滓・羽口		畠作に基盤を置いた 丘陵上の古代集落
	遺物包含地	弥生時代後期		なし		アメリカ式石鏃		
	集落	縄文時代前期～後期		土坑・ピット		縄文土器・石鏃・礫石錘・磨 石・磨製石斧・石核・剥片		
要約	<p>峰岡上町遺跡は越後平野の西縁に連なる山地帯の北端角田山の東南麓に形成された峰岡丘陵の北部付近に位置する。本次調査は丘陵北端にあたる1区1,734㎡と丘陵下の低地に設けた2区441㎡を対象とした。2区では縄文時代～中世層に覆われた大規模な埋没谷の存在が明らかになった。谷の深さは4m以上に達する。谷底付近に縄文時代中期～後期、斜面高域部に古代の遺物包含層が形成され、縄文時代の谷が8世紀代に沼地に変貌する過程が明らかになった。1区では8世紀後半～9世紀前半を中心とする集落跡を確認した。3棟の掘立柱建物・6基の焼土坑・181箇所の畠跡が主な遺構である。出土土器は口縁部遺存資料で162個体を数え、この時期の旧西蒲原郡域では一般的な組成内容をもつ。生産関連遺物としては、土師器と須恵器の焼成不良品、鉄滓と羽口、有溝石錘と権状錘の未製品が出土した。炭化材はクリを中心とした広葉樹を樹種とする。生業関連遺物には管状土錘がある。以上のような遺構や遺物のあり方は、居住と生産機能を兼ね備えた丘陵上の古代集落としての姿を明示する。1区の西部からは、1840～1860年代を中心に生産された多量の陶磁器類が井戸や遺物廃棄遺構から出土した。この中には所有者の推定が可能な記銘資料が含まれ、調査地に隣接する近世三根山藩上級武士層に関連した廃棄資料とみなされる。</p>							

峰岡上町遺跡 第3次調査

— 国道460号線改良工事に伴う峰岡上町遺跡第3次発掘調査報告書 —

2015年12月24日印刷
2015年12月25日発行

編集 新潟市文化財センター
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1
TEL 025(378)0480

発行 新潟市教育委員会
〒951-8550 新潟市中央区学校町通一番町602番地1
TEL 025(228)1000

印刷・製本 株式会社ハイグラフィック
〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号
TEL 025(233)0321